Jウイング2月号 2002年2月1日発行 第42号 平成13年2月5日 第3種郵便物認可（毎月1回1日発行）第4巻3

豪華付録第2弾! 別冊付録/世界の戦闘機カレンダー2002

JWings

行動派のためのミリタリー・マガジン Jウイング

2002 FEBRUARY No.42 2

今月は久々に航空自衛隊ベースレポート2連発だっ!

すべての機体はここから飛ぶのだ!

飛行開発実験団

空自機の飛行試験のカギを握る飛実団の全貌

①飛行実験群飛行隊②テストパイロット・コース
③飛行実験群航空機技術隊④飛行実験群計測隊⑤整備群
⑥誘導武器開発実験隊⑦電子戦技術隊⑧飛行場勤務隊

首都防空を担うファイターエアベース

百里基地

①第204飛行隊②第305飛行隊③第501飛行隊（偵察航空隊）
④百里救難隊⑤第401基地防空隊

航空自衛隊
小松基地開庁40周年!

1年間のスペシャル・マーキング機、イベント、トピックスをオールカラーで一挙掲載!

Jウイング特別編集
イヤー・ブック2001

ベルギー空軍F-16
スペシャル・マーキング



続報③不朽の自由作戦



PlayStation 2
覚醒するスピード、旋回の重量感、響きあうダイナミズム。
研ぎ澄まされた高性能A・I・による、リアル・フライト・アクション!
SIDEWINDER F
サイドワインダーF
絶賛発売中 "PlayStation 2"専用ソフト
アナログコントローラ(DUALSHOCK 2)対応／アナログコントローラ(DUALSHOCK)非対応
ロジクール社製「FLIGHT FORCE」対応／ホリ社製「フライトスティック」対応
フライト・アクション／標準価格¥6,800(税抜)／SLPS 25076
同時発売 特別限定版「サイドワインダーF+FLIGHT FORCE™同梱パック」
標準価格¥12,800(税抜)／SLPS 25075
REPLAY
■通常版
■特別限定版
※FLIGHT FORCEはサイドワインダーF専用です。
(2001年12月現在)
アスミック・エース エンタテインメント株式会社 デジタルコンテンツ部
〒113-8405 東京都文京区本郷5-24-5 TEL:03-3817-8055 (月～金 10:00～17:00)
Asmik Ace Entertainment Inc.
©2001 Asmik Ace Entertainment Inc.
"PS"および"PlayStation"は株式会社ソニー・コンピュータエンタテインメントの登録商標です。

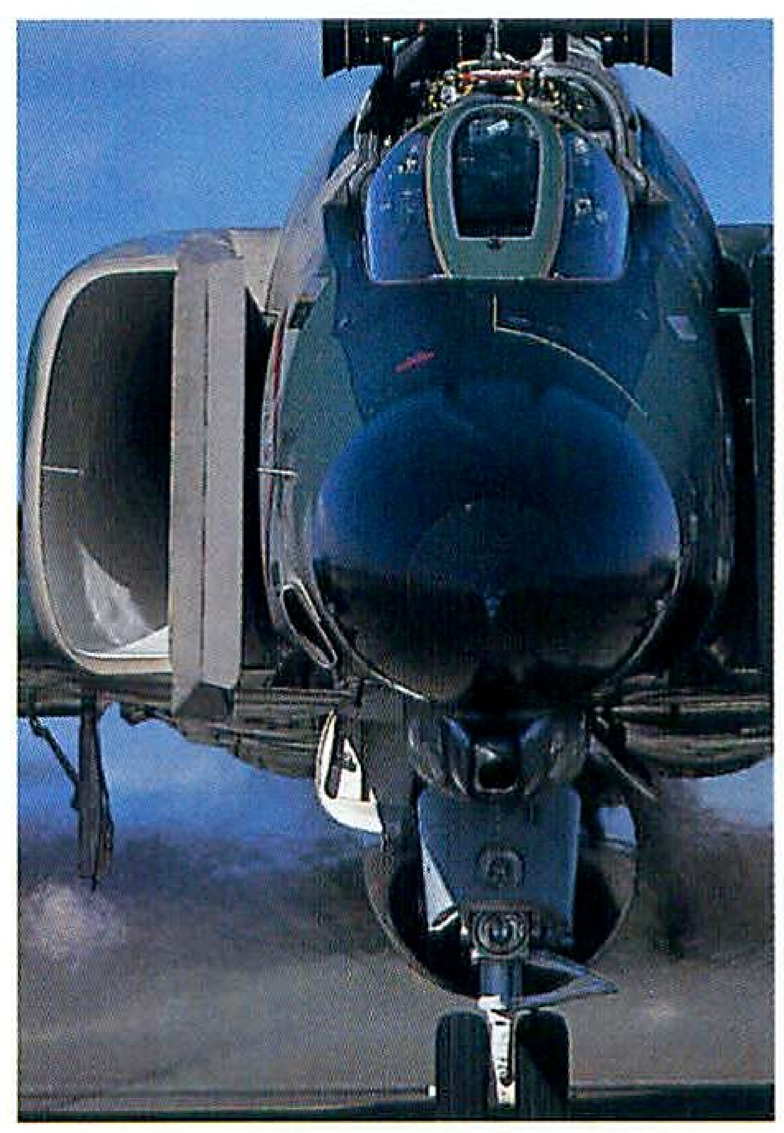
CONTENTS
2
2002
FEBRUARY

JWings
行動派のためのミリタリー・マガジン Jウイング

表紙写真/Antoine Roels
表紙デザイン/COLUMBUS
印刷/凸版印刷
発行所/イカロス出版 東京都新宿区神楽坂3-2神楽坂Kビル
TEL:03-3267-2766(販売)

表紙のことば ベルギー空軍の主力機は多用途戦闘機F-16A/B。導入当初に比べてその数は半減しているものの、寿命近代化計画により改修が進められている。現在F-16が配備されている飛行隊は7つあるが、写真はそのうち、手前から第23飛行隊、第1飛行隊、第350飛行隊それぞれのスペシャル・マーキング機によるフォーメーション・フライトの空撮である。(編集部)



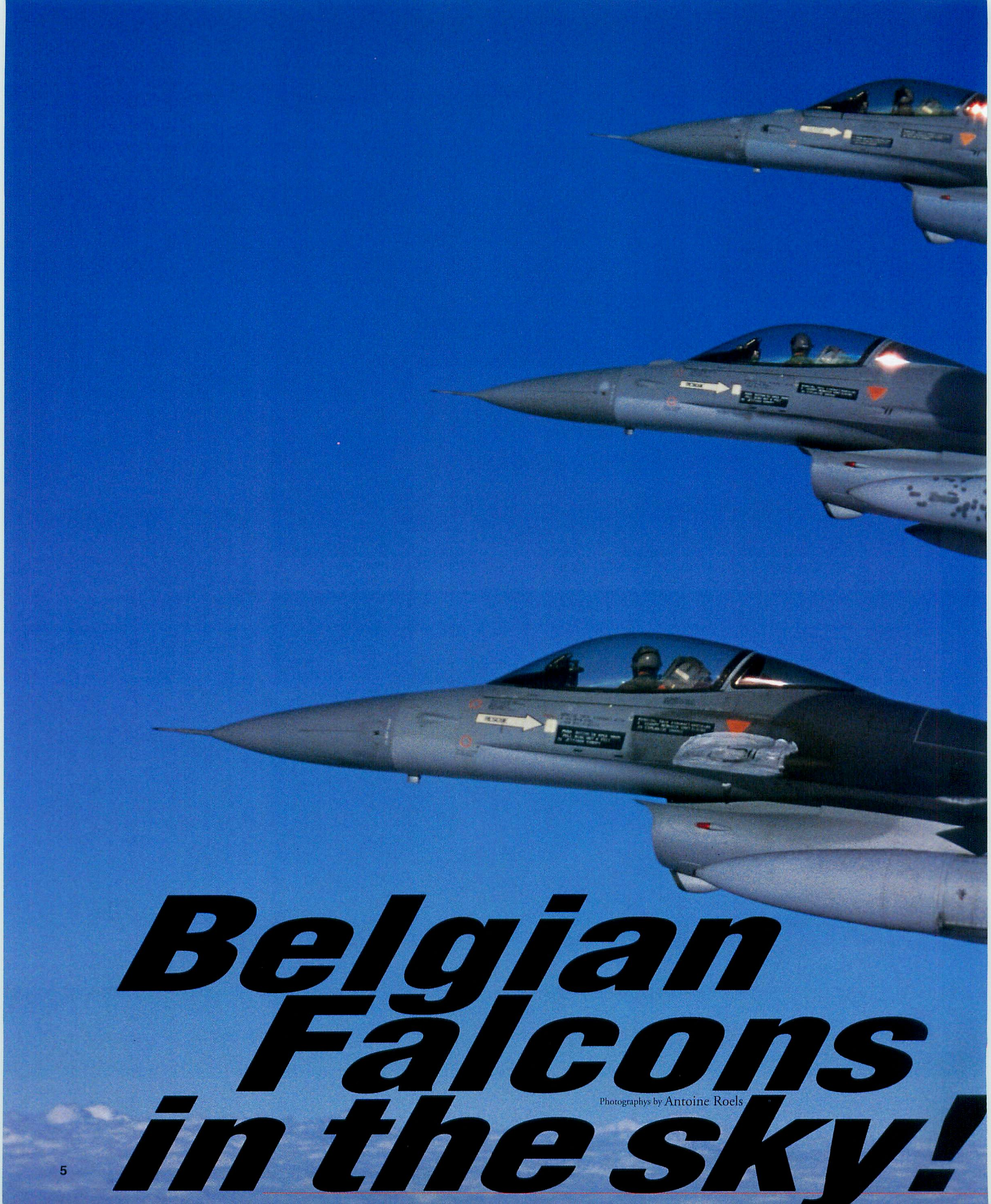





ベルギー空軍に登場した3機のスペシャルマーキング機によるフォーメーションフライト

ベルギー空軍F-16スペシャルマーキング機出現!

このたびベルギー空軍フロレンヌ(Florennes)基地でインターナショナル・エアショーが開かれ、F-16のスペシャルマーキング機が3機登場した。ここではきらびやかな3機のF-16Aとベルギー空軍に初めて配備されたRJ-135の空撮をお届けしよう!



Belgian Falcons in the sky!

Photographys by Antoine Roels

ベルギー空軍の主力であり 唯一の戦闘機F-16

1993年にミラージュ5が退役して以来、ベルギー空軍ではF-16が唯一の多用途戦闘機となった。全部で180機余りが導入されたF-16A／Bも現在では90機余りが運用されるだけになっており、フロレンヌ基地とクライネ・ブローゲル(Kleine Brogel)基地の両基地に配備されている。残りの機体はウィールデ(Weelde)でストアされており、売却される予定である。

フロレンヌ基地の第2航空団には第1、第2、第350飛行隊の3つの飛行隊が、クライネ・ブローゲル基地の第10航空団には第23、第31、第349飛行隊と機種転換訓練飛行隊(OCU)が配備されており、1飛行隊では12機のF-16A／Bを、機種転換訓練飛行隊は18機のF-16A／Bを保有している。

第2、第23、第31飛行隊は主力防衛軍(Main Defence Forces)に所属し、第2飛行隊は通常の防空任務を、第23、第31飛行隊は通常爆撃と核爆弾での攻撃任務を担当する。また、第1、第349、第350飛行隊はNATOの緊急部隊(Reaction Forces)に所属し、第1飛行隊は攻撃と偵察、第349、第350飛行隊は防空任務を担当する。このうち第23飛行隊は2001年末に解隊されることがすでに決定している。

現在、ベルギー空軍のF-16には寿命近代化計画が進められており、改修が終了した機体を装備した飛行隊は1999年から実働に入っている。また、中距離の空対空ミサイルAIM-120B AMRAAMも1999年から、AGM-65マーベリックはすでに配備されている。

また、ベルギー空軍は1996年からベルギー・オランダ・ルクセンブルクの展開航空作戦軍(Deployable Air Task Force)が行うデリバレイト・ガード作戦に参加しており、イタリアのヴィラフランカ基地に4機のF-16を派遣している。



第350飛行隊の60周年を記念して特別塗装を施されたF-16A（FA-71）。今回登場した3機すべてはF-16A（OCU）とよばれる作戦向上能力タイプである



第1飛行隊のスペシャルマーキング機F-16A（FA-47）。この機体、2001年末には普通の塗装であるグレー1色に戻される予定になっている

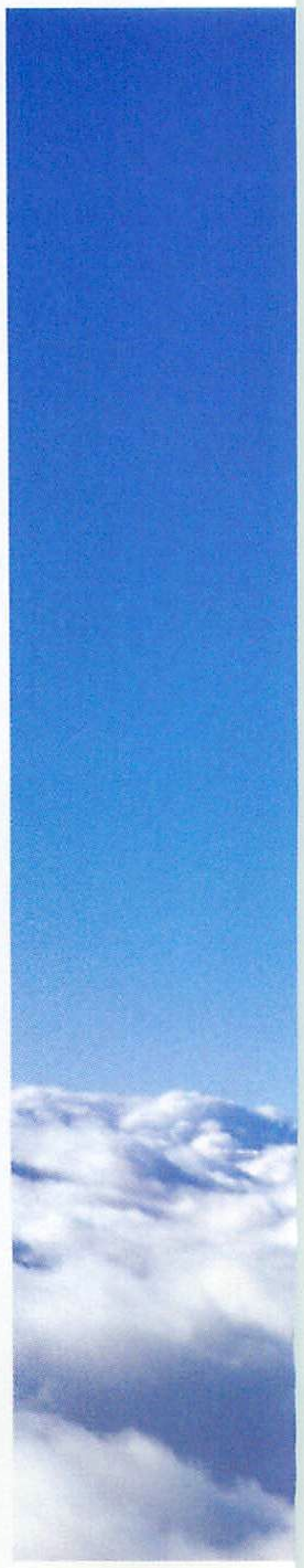


写真は今年6月21日にベルギー空軍に初めて配備されたエンブラエルRJ-135。この機体は現在メルスブレーク基地の第15輸送航空団第21飛行隊に所属している。RJ-135は4機が導入され、さらにRJ-145が2機発注されている









クライネ・ブローゲル(Kleine Brogel)基地の第10航空団に所属する第23飛行隊“デビル”からも飛行隊の創設50周年を記念するスペシャルマーキング機が登場した。ちなみにこの第23飛行隊は2001年末に解隊されることになっている。垂直尾翼左側には50周年を記念する塗装が、右側には再び“デビル”の名を冠した飛行隊がベルギーの空を舞うことを祈念して“I'll be back!”の文字が記入されている



第303、第306飛行隊のF-15J特別塗装機の地上展示。機首のイーグル・ドラゴンヘッドの出来は甲乙つけがたい。当日、残念ながら両機による展示飛行は実現しなかった

これで見納め！ 小松の力作スペシャルマーキング

写真と文＝中井俊治

航空自衛隊小松基地開庁40周年記念行事

2001年は自衛隊の航空機ファンにとっては忘れられない年になった、といっても過言ではないだろう。ブルーインパルスが1年ぶりに復活し、秋からの航空祭シーズンは昨年以上に盛り上がるはずだったが、同時多発テロにより航空祭は軒並み中止となってしまった。そのため、フライトはおろか各地に出現したスペシャルマーキング機を"拝む"機会はなくなってしまったのだった。

そんな中、近年まれに見る秀逸なマーキングを施したF-15が出現した小松基地はファンの注目を集めた。5月の戦競に参加した戦競塗装機に続き、飛行隊の20周年、基地の40周年を記念するマーキング機が登場し、9月16日の航空祭でお披露目されるはずだった。がしかし、9月11日に同時多発テロが発生し、航空祭は中止となってしまった(当初は延期との発表がされた)。そのままF-15の塗装機は元に戻るというウワサも流れたが、実は



3機並んだ特別塗装機の尾翼。それぞれ両飛行隊の性格・個性、またイメージがでている



小松基地基地司令鬼塚空将補の訓辞

11月18日、小松基地において基地開庁40周年記念行事が開催され、記念式典が行われると共に、記念塗装機が展示されたのだった。

行事では記念式典の後、小松基地に所属する各航空機の航過飛行が行なわれ、訓練展示は防災救援活動をシナリオにF-15により被害状況を確認する偵察飛行(デモスクランブル)、小松救難隊のU-125・UH-60Jの被災者救難活動、「人命救助システム」を使用した地上救助活動展示が実施された。中でもUH-60Jはグレー2色迷彩(#553・小松救難隊)とF-2迷彩色のようなブルー2色迷彩(#551・松島救難隊)の2機で救難飛行展示を行ない注目を集めていた。またF-15は第301基地防空隊のVADSを相手に珍しいAGG(対地攻撃ミッション)を行なった

またこの日、第303飛行隊の小松基地40周年記念塗装機(白山)と第306飛行隊20周年記念塗装機による機動飛行を期待したファンが小松基地周辺や空港デッキにたくさん集まっていたが残念ながらフライトはなく、この日を持って記念塗装は落とされた。



会場上空に進入してくるUH-60J(#551:松島救難隊所属)。ブルー2色のカラーリングはF-2の迷彩を連想させる。機体各部よりノーマルカラーが覗いているので、この迷彩機は暫定的なものと思われる。



4機編隊で基地上空を航過するF-15J。この日基地周辺や空港デッキは、大勢の飛行機ファンで賑わった



災害発生。上空より偵察飛行せよというシナリオをもとにデモスクランブルを実施する第306飛行隊のF-15J



UH-60Jの展示飛行は2機とも迷彩機が使用された。うち1機は小松救難隊所属のUH-60J(#553)。グレー2色の迷彩が施してあり、各種マーキングもグレーに変更されている



小松基地上空を防空警戒する第301基地防空隊のVADS。F-15Jを対空目標に模擬射撃を実施した。会場では新型のVADS II も展示された

航空自衛隊小松基地
第6航空団略歴

昭和19年8月	旧海軍舞鶴鎮守府飛行場建設
昭和20年8月	終戦
昭和20年11月	米軍接収。補助レーダー基地
昭和33年2月	小松基地開設
昭和33年3月	小松救難分遣隊編成
昭和37年7月	第6航空団編成完結。第4飛行隊(千歳基地より移駐) 第8飛行隊(松島基地より移駐)配備。いずれもF-86F装備
昭和39年9月	F-104J配備のため滑走路を2700メートルに延長
昭和39年11月	第8飛行隊、岩国基地に移動
昭和40年3月	F-104J装備の第205飛行隊編成
昭和50年6月	第4飛行隊解散
昭和51年10月	F-4EJ装備の第303飛行隊編成
昭和56年6月	第205飛行隊解散 F-4EJ装備の第306飛行隊編成
昭和62年12月	第303飛行隊。F-15に機種改編
平成9年3月	第306飛行隊。F-15に機種改編





迷彩UH-60Jのツーショット

特別塗装機3機。両飛行隊の塗装担当者の意気込みが伝わる素晴らしい仕上がりである。これらの機体が一般に公開されることなく消されてしまうのは本当に残念だ





新鋭空中機動旅団のヘリボーン&アタック!!

写真と文＝鈴崎利治・編集部

陸上自衛隊第12旅団新編旅団演習実施

2001年11月14日から18日にかけて、同年3月27日に空中機動旅団への改編を完了した第12旅団が、群馬県榛東村の相馬原演習場と新潟県妙高村・中郷村の関山演習場において空中機動と射撃を中心とした演習を実施した。

この演習にあたって、第12旅団に所属する第12ヘリコプター隊（OH-6D、UH-60JA、CH-47J／JA）は、木更津の第1ヘリコプター団（CH-47J／JA）および第4対戦車ヘリコプター隊（OH-6D、AH-1S）、立川の東部方面ヘリコプター隊（UH-1H／J）の支援をうけ、各部隊のヘリが相馬原演習場内の相馬原飛行場に集結した。

演習内容は、関山演習場への迅速



UH-60JAのサイドで89mmロケット発射筒や89式小銃を構えて前後左右を警戒する普通科隊員（Photo：鈴崎利治）



5機の傘型隊形で滑走路上空を通過する編隊。3機のCH-47は両サイドをAH-1Sに護衛されている（Photo：編集部）



先頭をきって離陸したOH-6D。機首下部の左右に赤外線ライトを装備し、夜間行動が可能な機体だ（Photo：編集部）



普通科隊員が搭乗したUH-1Hが上昇を開始した。続くAH-1Sもすでにエアボーンしている（Photo：鈴崎利治）



駐機中のヘリコプターには各一名の警戒要員が付いていた。写真手前の73433号機の機首には機付整備員のパーソナルマークが記入されている（Photo：鈴崎利治）

な部隊移動とヘリボーン攻撃による敵部隊の撃破をメインとし、迫撃砲などの実弾射撃訓練も行うものであり、参加人員約2000名、車輌約500両、航空機として大型・中型・小型・対戦車ヘリ、LR-1など約40機（第12旅団保有ヘリ13機）、砲迫36門（155mm榴弾砲FH-70 9門、120mm迫撃砲RT 9門、81mm迫撃砲L-16 18門）という大規模なものであった。

地上部隊も第12旅団麾下のほとんどの部隊から抽出され、相馬原駐屯地から第12旅団司令部、第12偵察隊、第12高射特科中隊、第12通信中隊、高田駐屯地から第2普通科連隊、松本駐屯地から第13普通科連隊、新発田駐屯地から第30普通科連隊、宇都宮駐屯地から第12特科隊、新町駐屯地からは第12後方支援隊、第12対戦車中隊、第12施設中隊などが参加した。なお、相馬原駐屯地の第48普通科連隊は即応予備自衛官により定員を充足するため、平時は定員の約2割の基幹要員しかおらず、今回の演習には参加しなかった。

14日は編成完結式終了後、実戦に即して隊員が周囲を警戒しながらUH-1H／JとUH-60JAに搭乗し、すでに車輌を搭載したCH-47J／JAなどと共に一斉離陸を行った。同時に演習場から離陸したAH-1S 2機とCH-47、5機を後に従えて編隊を組み、飛行場上空を低空で通過する姿は壮観で、まさに空中機動旅団に生まれ変わった第12旅団を象徴するシーンだった。



TOW対戦車ミサイルチューブとロケット弾ポッドをスタブウイングに懸吊して離陸するAH-1S（Photo：鈴崎利治）



UH-1Jの前で警戒態勢にはいる普通科隊員。このまま警戒を続けながら一人ずつ駆け足で搭乗する（Photo：鈴崎利治）



ウインドシールドを前に倒し、戦場での夜間走行のためライト類をシールしてCH-47JAのキャビンにチェーンで固定された高機動車。自走で搭載、卸下ができるため迅速な展開が可能だ（Photo：編集部）



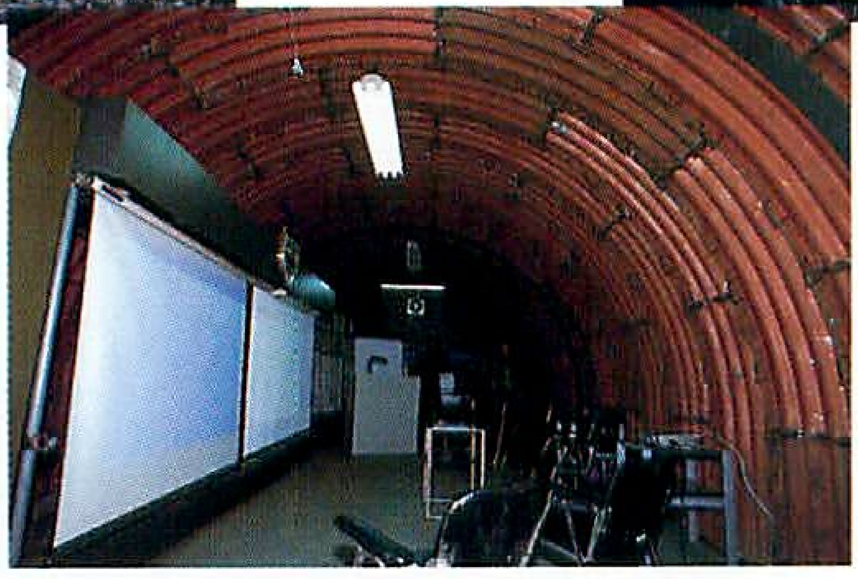
第12旅団司令部指揮所は掘り下げた半地下形式で構築され、効果的なカムフラージュと相まって、発見されにくく、砲弾や爆弾の被害を最小限に抑える工夫がなされている（Photo：鈴崎利治）



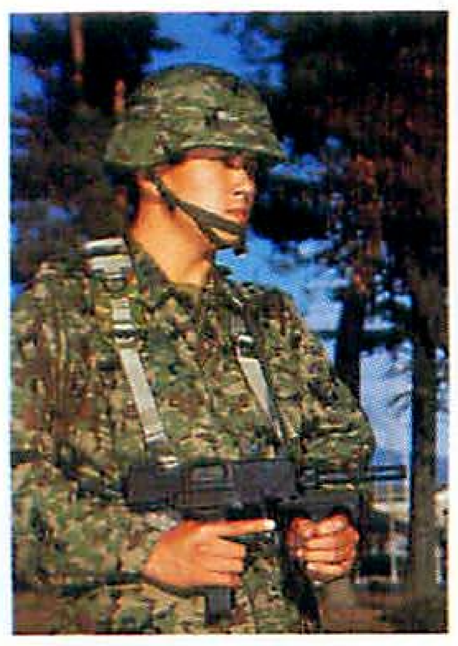
「来るなら来い！」偽装網の天蓋をはり、3重の土嚢で作られた円形陣に12.7mm重機関銃を備え付けて警戒を続ける隊員の鼻息は荒い（Photo：鈴崎利治）



編隊飛行に先立ち、参加各部隊が相馬原飛行場のエプロンに整列し、編成完結式がとりおこなわれた（Photo：鈴崎利治）



強度的にすぐれた半円形断面の指揮所内部には、作戦立案などに使用される大型スクリーンが並び、換気扇も備えられている（Photo：編集部）



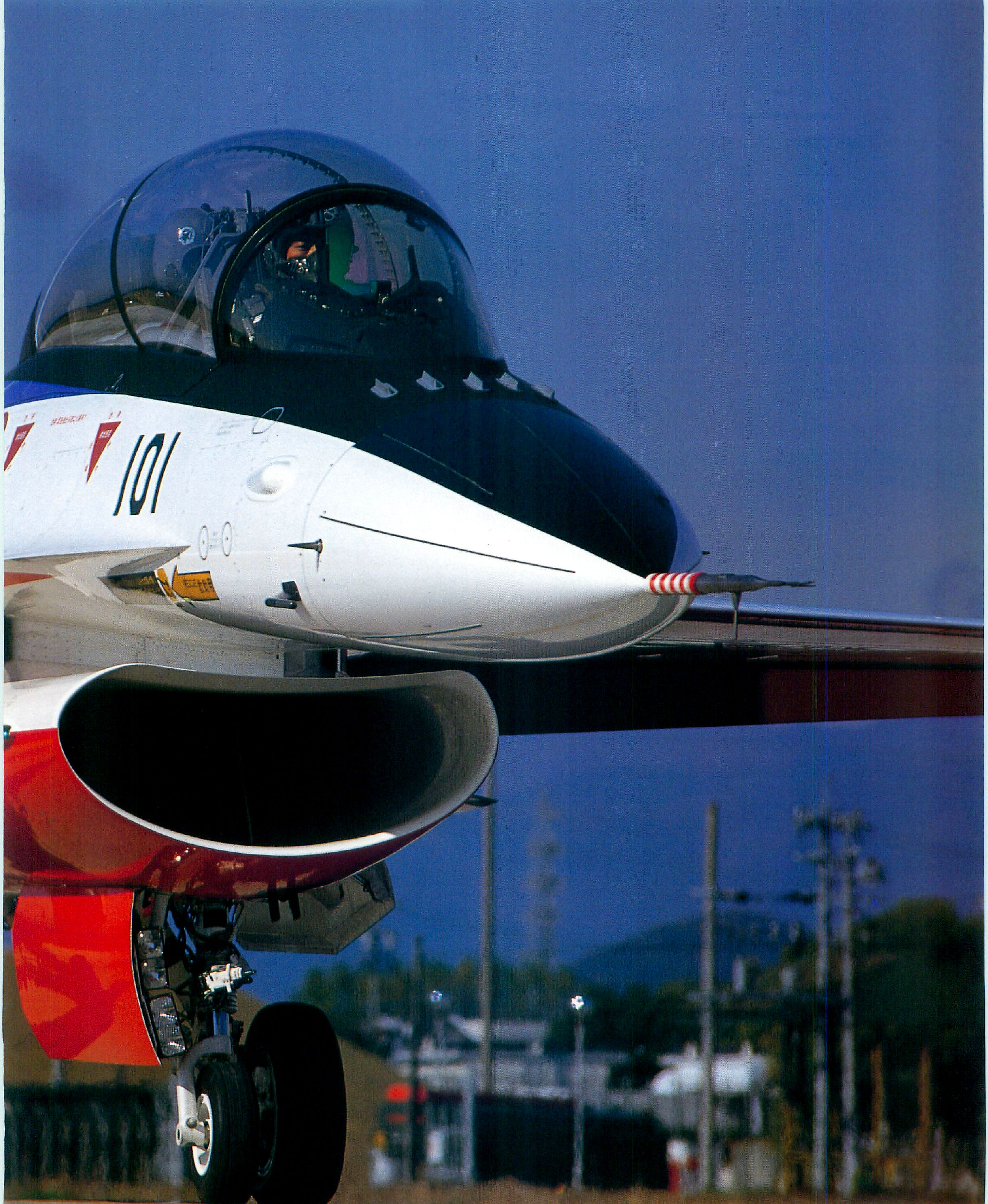
陸上自衛隊の新装備9mm機関拳銃は空挺部隊指揮官などが自衛戦闘に用いる。重量は2.8kg、グリップ部の弾倉は25発入りで、1分間に約1100発の発射速度を誇る（Photo：鈴崎利治）

■演習参加機（相馬原飛行場離陸機）

OH-6D（31196、31265／第12ヘリコプター隊本部付隊、
31270／第4対戦車ヘリコプター隊本部付隊、31288／東部方面ヘリコプター隊本部付隊）
UH-1H（41700、41715／東部方面ヘリコプター隊第1飛行隊）
UH-1J（41841、41875／東部方面ヘリコプター隊第1飛行隊）
AH-1S（73433、73487：C-NITE／第4対戦車ヘリコプター隊第1飛行隊、
73467、73486：C-NITE／第4対戦車ヘリコプター隊第2飛行隊）
UH-60JA（43112、43113、43115／第12ヘリコプター隊第1飛行隊）
CH-47J／JA（52920、52926、52962：CH-47JA／第12ヘリコプター隊第2飛行隊、
52911、52928、52961：CH-47JA：／第1ヘリコプター団第2ヘリコプター隊第2飛行隊）



赤外線吸収効果のあるバラキューダ偽装網におおわれて、相馬原演習場の一角に駐機するOH-6D。ローターと樹木のクリアランスが1m程度の狭い場所に、誘導員の指示だけで正確に着陸する乗員の練度は高い（Photo：鈴崎利治）


101

すべてはここから生まれる

航空自衛隊 飛行開発実験団

AIR DEVELOPMENT & TEST WING(ADTW)

航空機を使用し航空機や装備品の試験を行う「飛実団」。試験とはいうものの、その任務の困難さは、われわれ一般人の想像をはるかに越える。今月は自衛隊の最新航空機、装備品がぎっしり詰まった飛実団特集をお届けしよう！

写真◎伊藤久巳　文◎坪田敦史



航空開発実験集団の下に編制されている飛行開発実験団



航空自衛隊が新しく装備する航空機や武装、およびさまざまな器材は、メーカーからの引き渡しを受けたあと、すぐに実際の部隊で使用されるわけではない。その装備が有効的に使えるものなのかどうか、性能テストをしなければいけないからだ。新規に航空機を開発する場合だけでなく、ライセンス生産や輸入によって導入された航空機に対しても、綿密な試験・評価が行われる。また、既存の航空機を改造して、新しい装備を付け加える場合にも、適合試験が実施されるのだ。

航空自衛隊には、こうした各種の試験（実験）を主任務とする「航空開発実験集団」が設けられている。航空総隊、航空教育集団、航空支援集団などのメジャー・コマンドほど大きな組織ではないが、基幹部隊として、次の4部隊が編制されている。

◎航空開発実験集団司令部（入間基地）

◎飛行開発実験団（岐阜基地）

◎電子開発実験群（入間基地）

◎航空医学実験隊（立川）

その中で、実際に航空機を使用して、各種試験（実験）を担当するのが、「飛行開発実験団」だ。この部隊は、新しい航空機の試験、航空機に搭載する装備品の試験などを一手に引き受けている。本特集では、岐阜基地で活動するこの飛行開発実験団にスポットをあて、そこで何が行われているのかを紹介したい。

なお、地上の警戒管制レーダーの装置など、電子器材の試験を担当しているのが「電子開発実験群」、航空医学、人間工学などについての試験・研究は「航空医学実験隊」が担当している。

8機種、約30機を保有 多岐にわたる飛行開発実験団の任務

航空自衛隊がこれまで導入した航空機は、すべて飛行開発実験団によっ



岐阜基地でしか見られない無塗装のC－1、001号機。C－1FTB（フライト・テスト・ベッド）と呼ばれ、この機体は元XC－1である。各種試験に使われており、飛実団の"顔"のような存在だ



岐阜基地のエプロンに並べられたT－2各機。手前の107号機はF－1戦闘機の開発に使用されたT－2特別仕様機（元FS－T2改）。奥の102号機は、T－2後期型で元XT－2である

て試験・評価が行われてきた。団司令（空将補）、副司令（1佐）以下、「団司令部」「飛行実験群」「整備群」「誘導武器開発実験隊」「電子戦技術隊」「飛行場勤務隊」が編制され、団の総員は約600人だ。

飛行開発実験団は、戦闘機の飛行隊などに比べれば地味な印象のある部隊かもしれないが、新しい装備品をいち早く入手し、試験を実施する部隊であるため、実は航空機ファンの注目度は高い。とくに、C-1FTBやT-2特別仕様機など、岐阜基地でしか見られない特殊な機体は、やはり興味深いものだ。また、試作機として製造された（いわば原型機ともいえる）C-1、T-2、T-4、F-2といった国産機は、現在もここに配備され、飛び続けている。

飛行開発実験団の主要な任務は、次の4つが挙げられる。

1：航空機およびミサイル等の試験・評価
2：試験飛行操縦士および技術幹部を養成するための教育訓練
3：技術研究本部の実施する試験等に対する協力
4：契約本部の依頼する領収のための飛行

飛行開発実験団の現在の保有機はF-15J/DJ、F-4EJ/EJ改、F-2A/B、T-1B、T-2、T-3、T-4、C-1/FTBの合計8機種、約30機だ。「飛実団は航空自衛隊が装備するほとんどの機種が配備されている」と言われることが多いが、輸送機（C-1を除く）の類いや救難部隊で使われている航空機は保有してない。これらの機種は、導入当初、飛行開発実験団によって試験・評価が行われたが、実際に部隊で運用されるようになってからは、継続的に同団で運用する必要性がないためだ。

さて、2001年11月現在、飛行開発実験団は次の3つの試験を実施中だ。

■F-2技術的追認
実用試験が終わったF-2支援戦闘機について、能力を拡大することを目的とした試験。今後も4機のF-2（元試作機XF-2）を使用して、追認試験が続けられる。

■戦闘機搭載用IRST装置の性能確認試験協力
技本によって開発が進められている戦闘機搭載用IRST（赤外線探索・追尾）装置の性能確認試験協力を実施。

■新中距離地対空誘導弾性能確認試験協力
技本によって開発が進められている陸上自衛隊向けの新中距離地対空誘導弾（中SAM）性能確認試験協力を実施。

なお、技本によるUAV（多用途小型無人機）の性能確認試験協力は2000年10月～2001年10月まで行われ、現在は終了している。

飛行開発実験団の略歴は、左上に示すとおりだが、昭和30年12月1日に浜松基地で実験航空隊が創設される以前には、第1操縦学校研究部が同じ役割を担っていた。それから、平成元年の組織改編までは、略称・空実団（APW）と呼ばれていたが、現在は一般的に「飛実団（ADTW／ひじつだん）」の略称がよく使われている。


岐阜飛行場のランウェイ28を離陸する飛行開発実験団のT-1B。この810号機は、もともとT-1Aとして製造された機体をB型に改修したものだ。T-1Bは現在、小牧基地と岐阜基地にしか配備されていない（Photo：A.Tsubota）

岐阜基地の滑走路をタキシングするT-4。離陸する予定だったが、急遽フライトがキャンセルになった。この605号機には、機首に紅白のプローブ（計測用の標準ピトー）が取り付けられている



夕暮れの岐阜基地のエプロンでエンジンランを行うF-2A、501号機。元XF-2、試作1号機である。4機の元XF-2は、今後も飛行開発実験団によって運用される

昭和30年12月	実験航空隊創設（浜松基地）
昭和32年3月	実験航空隊、岐阜基地へ移駐
昭和49年4月	航空実験団（APW）新編
平成元年3月	飛行開発実験団（ADTW）新編

AIR DEVELOPMENT & TEST WING(ADTW)



飛行開発実験団　司令
安宅耕一 空将補
防大15期　大分県出身　昭和22年生まれ

安宅空将補は、TPC14期（S53.5～54.3）を修了したテストパイロットだ。もともとはF-86F、F-104、F-15を乗り継いできたファイター・パイロットでもある。TACネームはDON。総飛行時間は約3700時間。隊員には、「チャレンジ精神」「感謝の気持ちを持て」「人の意見を聞け」と指導している。
防衛庁でFS-Xプロジェクトチームに加わった経験を持つほか、第201飛行隊長、第2航空団飛行群司令、第3輸送航空隊司令などを歴任。平成12年12月、飛行開発実験団司令に着任した。
「飛実団では、運用部隊が常用する領域のみの能力を確認するだけではなく、フライトエンベロープの限界領域を確認するように航空機の持つ能力全体を把握するための各種試験を実施する必要がある。航空機を設計した技術者と、それを扱う各飛行部隊の運用者の間にいて、その橋渡し役を担うのが飛実だ」と語る。なお、飛行開発実験団の副司令には、技術幹部の菅野1佐が着任している。



岐阜基地に帰投してきた飛行開発実験団のF-15J。テストパイロットといえども、試験飛行だけでなく、練成訓練として、ACMなどのミッションを実施することがある

飛行隊の実験飛行操縦士は2～5機種の操縦を担当する

飛行開発実験団の中核となる部隊が「飛行実験群」で、その中で航空機を直接運用するのは「飛行隊」である。飛行隊に所属するのは、ほとんどがテストパイロットだ。「飛行班」「教育班」「総括班」に分かれており、総員は55名。多数の航空機を扱っていることから、飛行班は担当機種別に、それぞれA～Dまで、4小隊に分かれて活動している。

(Aフライト)F-15、T-2、T-1
(Bフライト)F-4、T-4
(Cフライト)F-2
(Dフライト)C-1、T-3



空自機の飛行試験のカギを握る飛行実験群の全貌

Flight Test Group 1

テストパイロットによる精鋭部隊 飛行実験群・飛行隊



出発準備を整えるT-2。通常、フライトは1st,2nd,3rdのように、1日3回組まれている。また、日によっては、ナイトフライトも実施される

また、教育班は、試験飛行操縦士課程(後述)のために設けられているセクションだ。試験飛行操縦士課程は毎年開設され、通常数名が入校し、6名の教官がついている。

フライトは、ほかの航空自衛隊の部隊と同様、1日3ピリオド程度が組まれる。その多くはテストフライト関連のミッションになるが、同時に練成訓練、TPCの教育訓練も行われている。テストフライトおよび訓練のために使用している空域は、日本海小松沖合いのG空域と岐阜北東内陸部のJ空域、そして伊勢湾の南にある太平洋上のK空域だ。

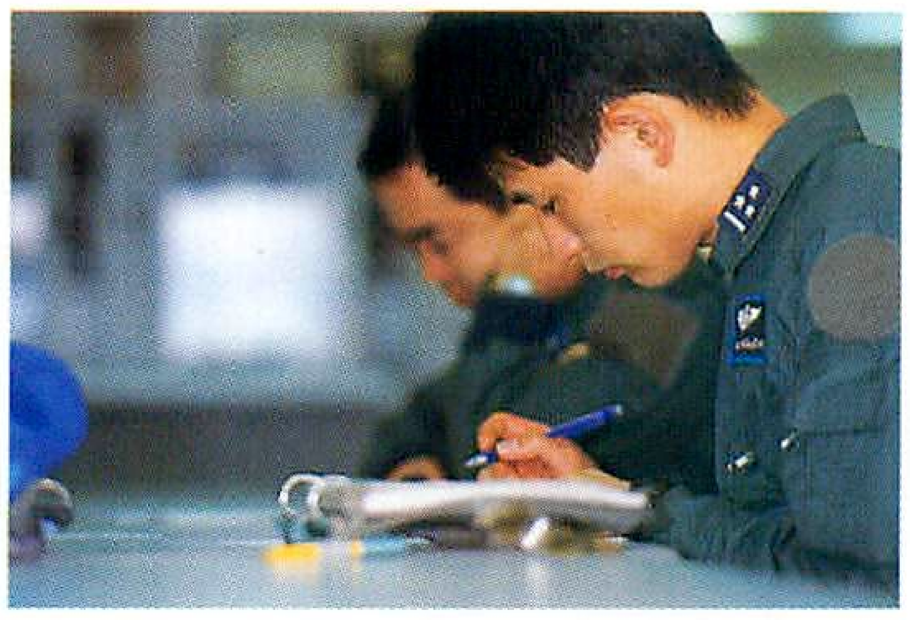
テストパイロットは、試験飛行に必要な幅広い航空機の知識と操縦経験を持ち合わせた、「実験飛行操縦士」



朝7時から開始されたブリーフィング風景。飛行隊のパイロット、ほぼ全員が集合する



飛行前ブリーフィングを行う飛行隊のパイロット。所属するテストパイロットは、飛行経験が豊富な3佐クラスがもっとも多い



ブリーフィング中のテストパイロット

と呼ばれる資格を持つパイロットのことである。通常、1人のテストパイロットは2～5機種の航空機を操縦できる状態で勤務している。

試験飛行とは地上でのスタディを実証する作業

飛行試験（テストフライト）というと、未知の世界を体験するなにやら危険な作業のように思うかもしれないが、現実は決してそういうものではない。地上で十分なシミュレートを行って得られた結果を、実際の飛行によって、それを実証するという作業である。シミュレートとは、飛行理論や航空工学に基づいた机上の計算もそうだし、航空機の部品ごとに性能試験を行った結果の組み合わせであったり、またフライト・シミュレーターを使ったものなど、試験飛行のための準備作業全体（スタディ）と解釈すればいいだろう。とくに今日では、高性能コンピューターの導入に伴ってシミュレーション技術が発達し、細部にわたる広い範囲まで、実際に飛行する前に地上での確認作業ができるようになっている。試験飛行＝冒険飛行というわけではないのだ。ただし、飛行作業に費やす労力や時間という意味では、ある程度リスクが伴う飛行だといえるだろう。新しい航空機や改造したばかりの航空機を初めて飛ばしたとき、事前に考えられていた性能が得られなかったり、予期しないトラブルに遭遇することは、十分あり得るからだ。

あるテストパイロットは、「ここでは試験飛行そのものが実戦なんだ」と言う。実働部隊では、パイロットが航空機を使いこなす訓練をして、要撃戦闘、救難、輸送といった、部隊ごとに与えられた任務をまっとうするために活動しているが、飛行開発実験団の場合は、航空機を完成させて現場に引き渡すのが任務である。試験飛行は限られたスケジュールで厳格に行われているため、失敗は許されない世界だ。実働部隊とは任務の内容がまったく異なるが、この飛行隊にとっては日々の試験飛行が常に〝戦い〟なのである。

なお、飛行実験群・飛行隊は、飛行運用のみを実施する部隊となっている。航空自衛隊の戦闘機部隊などでは、通常、飛行隊の中に「整備小隊」を編成し、パイロットと整備員が一体となって航空機を運用しているが、飛行開発実験団の飛行隊には航空機整備員は配置されていないのだ。機体の管理や列線における整備作業は、すべて「整備群」が受け持っており、飛行隊に「航空機」は存在しない形になっている。



エプロンに並べられた飛行開発実験団所属のF-4とF-15。ここには8機種、約30機の航空機が配備されている（Photo:A.Tsubota）

AIR DEVELOPMENT & TEST WING(ADTW)



飛行実験群 飛行隊 隊長
三輪芳照 2佐
防大25期 奈良県出身
昭和33年生まれ

三輪2佐は、第301飛行隊でF-4パイロットとして活躍、アメリカのTPS（テストパイロットスクール）を卒業した後、平成3年からFS-Xの開発に携わった経験を持つ。操縦経験のある航空機は、40機種。総飛行時間は約3500時間。岐阜基地には通算で10年間勤務しており、飛行班長を経て、平成13年8月から飛行隊長に着任した。TACネームは"JAZZ"。



F-2Bでのフライトを終えた2名のテストパイロット。実用試験を終えて、実戦部隊に配備が始まったF-2だが、飛行開発実験団では技術的追認のためのフライトを継続している



エプロンはそれほど広くないが、毎日、異機種の航空機による列線が形成される



前席がTPC受講生。後席が教官。この日は、T-1BでTPC総合評価のフライトが行われた

Test Pilot Course

次世代を担う日本のテストパイロットを養成

テスト・パイロット・コース(TPC)

全国の飛行部隊から選抜された6名がTPCに入校中

テストパイロットになるためには、飛行実験群・飛行隊に設けられている「テスト・パイロット・コース」(TPC)を修了しなくてはならない。このコースは、正式には「試験飛行操縦士課程」といい、航空機の研究開発作業に備え、各種試験の実施に必要な専門的かつ高度な知識、飛行技術を習得させる教育プログラムである。全国の航空自衛隊パイロットの中から、本人の希望、部隊の推薦などを考慮して選抜されたパイロットが、TPCに入校する。

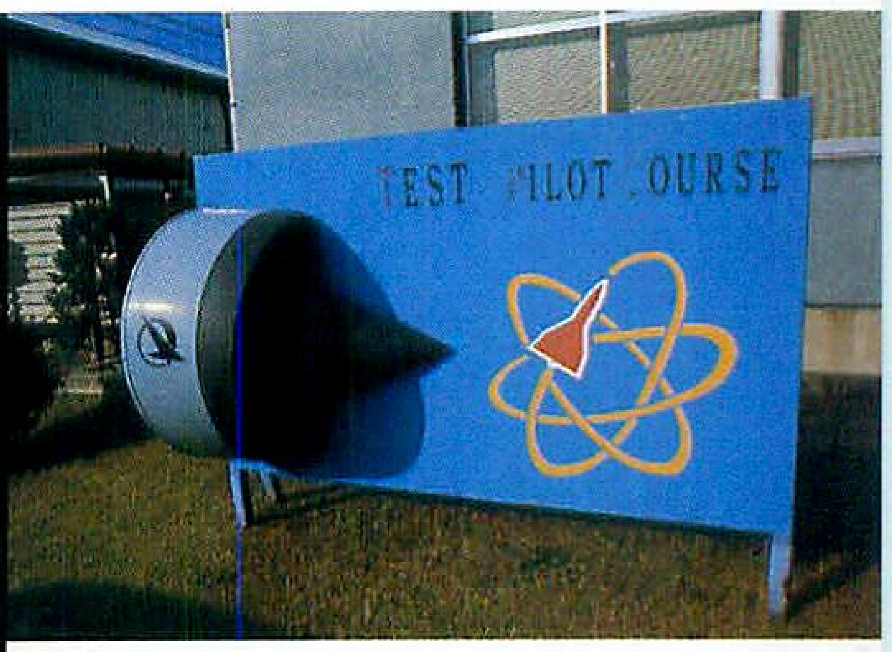
TPCは毎年1コースが開校しており、期間は5月の連休明けから翌年3月までの約10カ月。「教育班」には5名の現役テストパイロットと1名の技術幹部が教官として配置しており、今年度(TPC55期)は6名のパイロットが入校している。

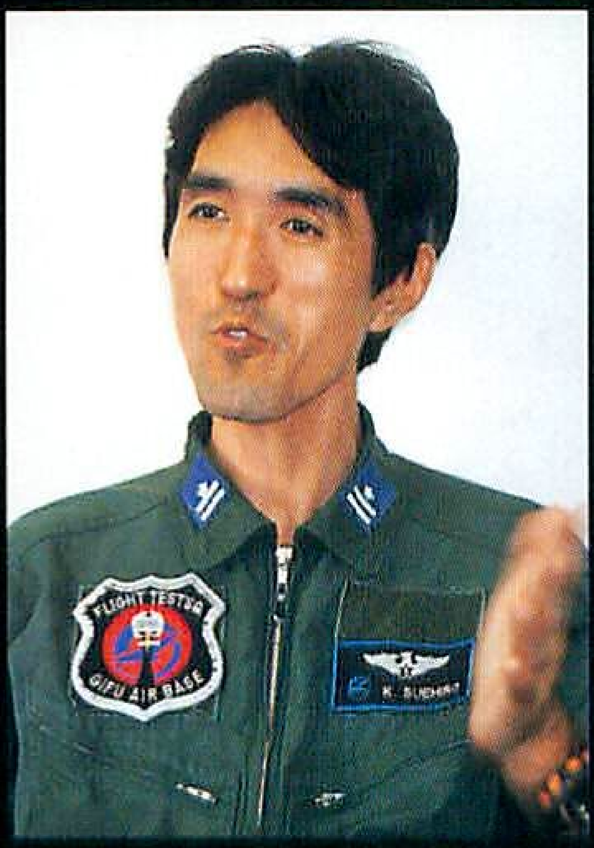
TPCに入校するのは、防大および一般大出身者、航空学生出身者だが、それぞれ飛行経験や総飛行時間共に、ある一定基準をクリアしなければならない。年齢はともに35歳以下が基準となっている。現在入校中の6名の出身内訳は、防大4名、一般大1名、航空学生1名。また、部隊別には、戦闘機部隊出身5名、輸送機部隊出身1名である。

TPCを修了すると、すでに操縦資格を有する機種に関して、実験操縦士の資格が与えられる。そして、引き続き飛行開発実験団に籍を置き、テストパイロットとして、試験飛行の任務に就くことになる。

なお、TPCとは異なるが、全国に配置している各飛行部隊のパイロット向けに、整備飛行操縦士講習も定期的に行われている。この講習は、飛行開発実験団で行われているような本格的なテストフライトではなく、各部隊で整備作業が修了した航空機の状態や性能を確認するために必要な知識と飛行要領を習得するもので、修了すると整備飛行操縦士の資格が与えられる。

TPCの教官たち





飛行隊　教育班長
テストパイロット(教官)TPC 44期
末廣勝己 3佐
防大28期 長崎県出身 昭和36年生まれ

TPC教官の親玉である末廣3佐は、もともとはF-4パイロット。第302飛行隊、第501飛行隊を経て、平成6年にTPCに入校した。総飛行時間は約3800時間。平成13年4月、教育班長に着任。TACネームは"ZOMBI"。担当機種は、F-4、F-2、F-15、T-4、T-2。エンジン始動経験すらないF-2で、初めて飛行試験を実施したときには、地上でのシミュレートを入念に行っていた末廣3佐も、さすがに緊張したという。
「TPCは実験飛行操縦士へのとっかかりに過ぎない。TPC入校中も厳しいが、テストパイロットになってからは、もっと高度な技量が求められる。テストパイロットとし任務に就く限り、継続した勉強と技量の向上が必要である。」



飛行隊 教育班
テストパイロット(教官)TPC 48期
佐々木康雄 3佐
防大33期　岐阜県出身 昭和40年生まれ

平成9年、飛行開発実験団に配属。前任地は第304飛行隊。担当機種は、F-2、F-15、T-4、T-2、T-1。総飛行時間は約2200時間。TACネームは"POCKY"。「飛行試験にはエアスピードなどの制限が定められているため、限られた領域で航空機を飛ばさなければいけない点が難しい。訓練飛行とはまったく異なり、大きな責任感も必要だ。」



飛行隊　教育班
テストパイロット(教官)TPC 50期
佐藤明紀 3佐
防大34期 愛知県出身 昭和42年生まれ

平成10年4月、飛行開発実験団に配属。前任地は第204飛行隊。今年4月からTPC教官を務める。担当機種は、F-15、F-4、T-4、T-2、T-1。総飛行時間は約2000時間。TACネームは"AKI"。「技術研究本部との会議で、技術者に飛行試験の結果を伝えることが最初大変だった。ものを作る難しさを感じる」



飛行隊 教育班
テストパイロット(教官)TPC 47期
太田寛治 3佐
防大31期 愛媛県出身 昭和39年生まれ

平成7年8月、飛行開発実験団に配属。前任地は第204飛行隊。担当機種は、F-2、F-15、F-4、T-2、T-4。総飛行時間は約2700時間。TACネームは"KANCHI"。F-15でミサイルの試験をメインに担当した経験を持つ。



飛行隊 教育班 技術幹部(教官)
舘弘士 1尉
部外87期(防大39期相当)
三重県出身　昭和46年生まれ

航空自衛隊入隊後、航空機技術隊を経て技術幹部に。今年から飛行隊の教育班に配属(技術担当)。TPCのパイロットに航空工学、航空機械制御、数学、物理などを教えている。とくに航空学生や文系出身のパイロットには、入校前の1ヶ月間、マンツーマンで数学、物理などを叩き込むそうだ。教える際には「使える知識を教える」ように心がけている。



TPCの座学風景。この日は、三沢基地の第3飛行隊から講師としてパイロットを招き、FS（支援戦闘機）戦技の講義が行われていた。TPCでは5年ほど前から運用のニーズなど、現地部隊の生の声を聞くため、このような授業を実施している



教官と受講生によるTPCの飛行前ブリーフィング風景

TPCは1年間の厳しい教育課程 現在までに約200人が修了

テストパイロットは時間1秒、高度1フィート、速度1ノット、といった正確さで、機体をコントロールしなければいけない。そのため、飛行方法のレクチャーおよび報告は、きわめて厳格に行われる。パイロット同士が身振り手振りを使って、「こんな感じ」という会話は通用しない。実際、戦闘機部隊などでは、操縦にはセンスも重要だと教えられ、体で覚えこむといった技術の習得方法が平然と行われている。TPC入校生にとって、そうして培ってきた操縦技術は決して無駄ではないが、最初は考え方の違いに戸惑うことも多いという。

航空機に搭乗しての教育（飛行試験理論）は、主にT-4を使用して行われるほか、C-1、F-15、F-4、T-2、T-1、T-3などの搭乗教育も義務付けられている。ただし、ほとんどのフライトに教官または学生が相互に搭乗し、ソロは行われない。TPC入校中は、座学、搭乗教育、そして報告・発表など、次々と与えられた課題をこなしていかなければならず、週末も休めないほどの厳しさだという。

近年は、TPCに入校するメンバーは全員、航空自衛隊のパイロットとなっているが、過去には海上自衛隊、陸上自衛隊のパイロットが入校したことがある。また、自衛隊以外では、航空宇宙技術研究所および日本航空のパイロットが入校した実績もあり、これまでにTPCを修了した人数は、1969年に第1期の教育が始まって以来、約200名。またこれ以外にアメリカ空軍のテストパイロット・スクール（TPS）を卒業した者もいる。もともとTPCが設置されたのは、当時、国産開発が進められていたC-1輸送機とT-2高等練習機、そしてライセンス調達が決まったF-4EJ導入のためであった。

テストパイロットを養成するコースは、航空自衛隊では飛行開発実験団のみにしか設置されていないが、海上自衛隊では厚木基地の第51航空隊に設置され、こちらでは大型機やヘリコプターのテストパイロット教育も行われている。

日本版「ライトスタッフ」 憧れはチャック・イエーガー

テストパイロットを志す者で、チャック・イエーガーの名前を知らない者はいない。チャック・イエーガーは、世界の航空史に名を残したアメリカ空軍のテストパイロットである。1947年、ベルX-1によって初めて音速を超えた男として知られる。世界中の航空機操縦士の中で、テストパイロットの称号を持っているのは、ほんのひと握りである。それだけに、あのチャック・イエーガーと同じ肩書きを与えられることは、パイロットにとって栄誉に輝くことを意味するのだ。

テストパイロットは、戦闘機出身者、輸送機出身者ともに、各部隊に与えられた飛行任務で優秀な実績を残してきた者ばかりである。それに加えて、豊富な操縦経験とともに幅広い航空知識を身に付け、どんな機体でも正確にコントロールできるパイロットと評価されることになるわけだ。

印象的だったのは、現在TPCに入校中のパイロットの一人が「航空自衛隊のテストパイロットから、将来、宇宙飛行士が誕生するといい」と語っていたことだ。それが実現すると、まさに日本版「ライトスタッフ」の世界である。

日本の航空界において、テストパイロットの存在がもっとよく知られるようになり、活躍の場がいっそう広がることを期待したい。

※「ライトスタッフ」は1983年に公開されたアメリカ映画。宇宙飛行士に選抜された7人のテストパイロットの活躍を描いた作品で、チャック・イエーガー役も登場する。

GO!GO! 試験飛行操縦士課程（TPC）55期のパイロット登場



TPC 55期 入校中
矢船明 1尉
航学42期　宮崎県出身
昭和41年生まれ

F-1パイロット。第6飛行隊、第22飛行隊を経てTPCへ。総飛行時間は約2700時間。「今まで航空機の操縦は感覚的にやっていましたが、ここでは空中であったことを具体的に技術幹部に伝えなければなりません。例えば『操縦桿を引くのはこれくらい』でいままで済んでいたものを、ここでは具体的に『何センチ引く』といった言葉にしなければならないわけです。そういった点に難しさを感じます。」TACネームは"RICK"。



TPC 55期 入校中
坂本大助 1尉（学生長）
防大35期　神奈川県出身
昭和43年生まれ

F-4パイロット。第306飛行隊、第8飛行隊を経てTPCへ。総飛行時間は約1400時間。学生長を勤める。「教官には、飛行試験の評価を適確に行うコメントが大切だと教えられています。そのため、フライトでは五感を研ぎ澄ませて搭乗しています。昔、チャック・イェーガーに憧れたこともあり、志望してTPCに来ました。」TACネームは"FEVER"。



TPC 55期 入校中
山路史朗 1尉
防大36期　三重県出身
昭和44年生まれ

F-15パイロット。前任地は第202飛行隊。総飛行時間は約1300時間。「航空機を評価することの難しさを感じています。将来は航空自衛隊から宇宙飛行士が生れるといいですね」TACネームは"RYU"。



TPC 55期 入校中
山浦守 1尉
防大36期　静岡県出身
昭和44年生まれ

F-4パイロット。前任地は第302飛行隊。総飛行時間は約1300時間。ものを作ることが好き、という山浦1尉は、希望してTPCに来た。「飛実団に配備されている航空機は、同じ機種といえども各機仕様が異なっているため（まったくといってよいほど同一の機体がない）、乗り慣れるには時間が掛かりますね。」TACネームは"TOPPO"。



TPC 55期 入校中
遠藤好明 1尉
部外82期（千葉工業大学出身）千葉県出身　昭和44年生まれ

同期の中では唯一、輸送機出身のパイロット。前任地は第402飛行隊で、C-1、U-4の操縦資格を持つ。総飛行時間は約2400時間。遠藤1尉は、試行課程でT-400での操縦教育を受けた一人だ。したがって、T-3、T-1で操縦の基礎を学んだあとは、輸送機以外に縁がなかった。「短時間の勉強だけで、初めてT-2、T-4、F-4、F-15に乗りました。仲間から戦闘機操縦のコツを教えてもらい、経験を補うことができたのが救いですね。」今後開発が進められるC-X（次期輸送機）の飛行試験に携わりたいと考えている。



TPC 55期 入校中 **瀬戸秀之** 1尉
防大36期 北海道出身 昭和44年生まれ

F-15パイロット。前任地は第201飛行隊。総飛行時間は約1400時間。「今まで操縦したことのない航空機を乗りこなすには、相当な勉強が必要です。また、ただ操縦するだけでなく、試験方法なども学ばなければいけません。」TACネームは"BELL"。

Flight Test Group 2

飛行実験群・航空機技術隊

試験飛行のプログラムを作成する技術集団

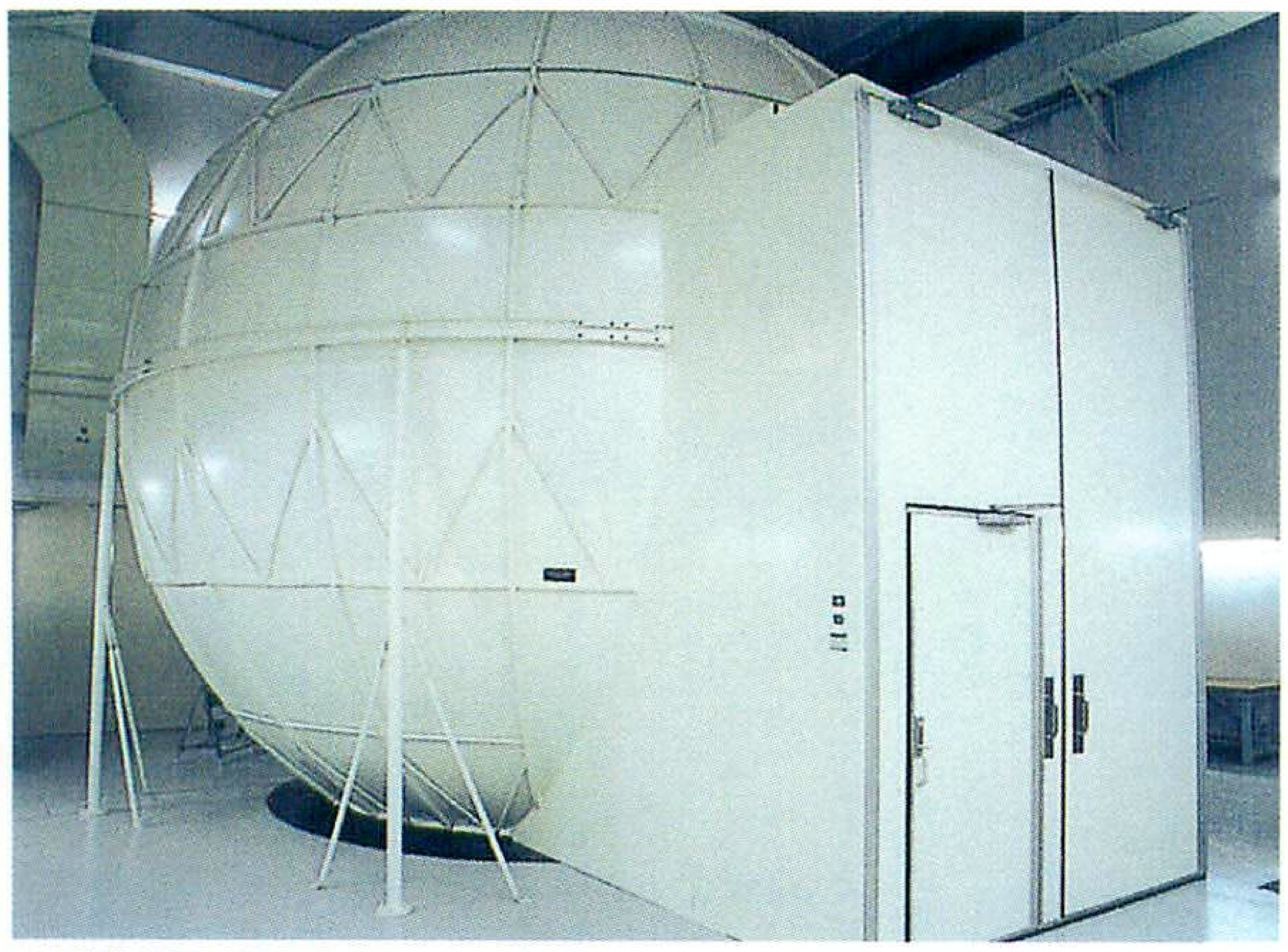
戦闘機能力評価システム（ACES）を運用する航空機技術隊

飛行試験には、さまざまな種類がある。ひとくちに航空機の性能テストといっても、空力特性、エンジン、アビオニクス、ウエポンなど、多岐にわたる試験項目を一つ一つ実施していかなければならない。すべてに対して課題があるわけで、それをどうやってこなしていくかを考えるところから、飛行試験は始まる。

航空機技術隊では、どんな項目の試験で、どのようなデータをとり、それをどのようにやるのかといった飛行試験方案（飛行試験細部実験要領）を作成している。いわば、テストフライトのプランニングを行うセクションだ。技術幹部中心で編成され、総員40名。「総括班」「航空機班」「電子班」「器材班」「技術教育班」に分かれて活動している。機体は「航空機班」、アビオニクスは「電子班」、アビオニクスとミサイル以外の装備品（爆弾、ロケット弾、機関砲、標的、無人機など）は、「器材班」の担当だ。また、航空機技術隊には技術幹部課程（TOC）が設置され、研究開発に携わる技術幹部に必要な知識や技能を修得させるコースを設けている。これは「技術教育班」が担当している。今年度は、アメリカ空軍マテリアル・コマンド（資材軍団）から技術幹部が1名、交換幹部として2年程度の期間で来ているとのことだ。

もちろん、飛行試験方案の細部作成は、技術幹部とパイロットが協力して行うほか、メーカー（会社技術員）のアドバイスを受けることもある。実際のテストフライトでは、その試験飛行方案に沿って飛び、飛行後は、フライトデータの解析、報告書の作成といった作業も行われる。

航空機技術隊では、平成7年度から戦闘機能力評価システム（ACES）の運用を行っている（試験運用は平成6年度から）。ACESは、戦闘機が作戦を行う上での飛行環境、脅威をシミュレートし、総合的な戦闘環境下における戦闘機のシミュレーションを行うシステムだ。ドーム型のフライト・シミュレーターには、現在F・2のコクピットが模擬され、戦闘機の試験評価の事前検討、将来戦闘機に要求される性能等の検討、現有戦闘機の技術改善の検討、戦闘機の運用に関する技術資料の収集といった役割を担っている。


戦闘機能力評価システムのドーム型シミュレーター外観。
ACES＝Aircraft Capability Evaluation System（Photo：JASDF）


飛行実験群　航空機技術隊　隊長
門田和也 2佐
早稲田大学大学院卒、幹部候補生学校一般76期（防大28期相当）
東京都出身　昭和37年生まれ

技術幹部の門田2佐は、機械工学（流体工学）が専門。航空機整備幹部として築城基地で整備隊の小隊長を務めたのち、航空幕僚監部での勤務経験や指揮幕僚課程でフランス留学も経験している。また、T-4アクロ仕様機の開発にも携わった。技術研究本部を経て、平成13年3月、航空機技術隊長に着任。


ACES評価操縦席からの視界映像（Photo：JASDF）


F-2のコクピットを模擬したACESの戦闘シミュレーション。操縦訓練のためのフライト・シミュレーターとは異なり、さまざまな戦闘環境を作りだして、戦闘機の評価を行うシステムだ（Photo：JASDF）


さまざまな環境を設定するためのACES管制室（Photo：JASDF）

技術幹部課程の実習風景。試験・評価に関する知識を修得する（Photo：JASDF）



Flight Test Group 3

テストフライトを地上で支援する

飛行実験群・計測隊

AIR DEVELOPMENT & TEST WING(ADTW)



飛行試験センターの管制室。ここでテストフライトの状況がリアルタイムで把握できる。飛行データは、電波を利用したテレメーターで送られてくる

飛行試験管制システム(FTCS)によってリアルタイムで計測を実施

計測隊は、飛行試験を行う航空機および地上に設置された計測器材の運用、整備を行う部隊だ。同時に計測データの処理も行っている。総勢約40名の部隊で、隊長、主任研究官以下、次の4つのセクションに分かれて活動している。

「総括班」—庶務、人事、教育訓練などを担当

「飛行計測班」—飛行試験等の計測業務(電子計測、赤外線計測)、試験用航空機の計測装備および飛行計測装置等の整備保管などを担当

「試験情報処理班」—FTCS(オンライン系、オフライン系)の運用、試験等の情報処理作業の実施及び解析業務情報処理装置の整備保管などを担当

「光学計測班」—試験等の光学計測の実施および解析業務、写真・ビデオ撮影および処理、光学計測用器材の整備保管などを担当

計測隊では、試験情報処理班が「飛行試験管制システム(FTCS)」の運用、整備を行っている。これは飛行試験の効率的かつ安全な実施のため、航空機のフライト状況をリアルタイムでモニターするための施設だ。平成5年度後半から試験的運用を行い、平成6年度から正式に運用を開始した比較的新しい地上の支援施設である。

FTCSでは、G空域、K空域での飛行試験において、テレメーター装置を使って細かい飛行データをリアルタイムで収集、処理することができる。管制室は2つ設けられ、同時に2つの飛行試験をモニターすることが可能だ。G空域での飛行試験は、航空自衛隊の輪島分屯基地に設けられたアンテナでテレメーター電波を受信し、地上回線で岐阜基地まで送られる。また、K空域での飛行試験では、岐阜基地内に設置されたアンテナで直接受信することが可能なシステムになっている。テストフライトは通常90分で(G空域までの進出、帰投に片道20分かかる)、計測隊の仕事は、試験飛行ごとにアサインされたデータを収集することだ。

飛行開発実験団に所属するすべての航空機が、FTCSに対応したテレメーター装置を搭載しているわけではないが、計測装置は機体側にも搭載され、飛行後、記録をロードする作業も計測隊によって行われている。

通常、飛行試験の際には、FTCSに計測隊の隊員のほか、その試験に携わる技術幹部、パイロットなど1フライトにつき最低12～13名が詰めて、テストフライトをモニターしている。その際、試験統制官は技術幹部が担当、試験副統制官はテストパイロットが担当することになっている。XF－2の技術試験、実用試験では、この施設を使って1000ソーティ以上のフライトを支援し、データを収集したという。



FTCSは、G空域、K空域での飛行試験をモニターできるシステムだ。FTCS＝Flight Test Control System(飛行試験管制システム)



飛行試験の際は、試験統制官(テストパイロット)、試験副統制官(技術幹部)がここで状況を見守り、必要に応じて指示を出す



飛行実験群　計測隊　隊長

東井勇治 2佐

防大25期　兵庫県出身

昭和34年生まれ

東井2佐は、電子関係を専門とする技術幹部。学歴は防衛大学校理工学研究科卒業、大阪大学で工学博士(電子工学)を取得している。警戒管制レーダーFPS-3の開発に携わった経験を持ち、電子戦技術隊運用班長などを経て、平成12年3月、計測隊長に着任。

航空機ばかりじゃない!
整備、装備品、レーダー担当の精鋭部隊

Maintenance Group

飛実団が装備する8機種の計画整備、列線整備を一手に引き受ける

整備群

整備群は、飛実団の中でも、総員約350名がいる大きな部隊で、群司令、整備主任以下、次の4隊で編成されている。

「整備隊」―航空機の整備全般を担当

「装備隊」―レーダー、ラジオ、アーマメントなどの搭載電子機器等の整備を担当

「修理隊」―エンジン、計器、油圧、電機などの整備を担当

「整備技術隊」―実用試験中の航空機、装備品に関する整備を担当。現在はF-2を専門に扱っている。

整備群の隊員は、1人あたり3機種以上の整備作業ができるように訓練しており、経験の多い整備員は6～7機種の整備能力を持っているという。また、航空自衛隊のほかの航空団に編制されている整備補給群とは趣きが異なり、飛実団の整備群では、整備隊が支援整備等のほか、部隊整備（フライト支援の整備）も担当しているのだ。そのため、各機体に割り当てられた機付長も、整備隊の隊員である。

群司令によれば、整備群が列線整備を担当している理由は、戦闘機部隊のように、ほかの基地への機動展開がほとんどなく、試験飛行という任務の性格によって、迅速性よりも、フライトごとに多岐に渡る整備作業が求められるからだという。そのため、整備群の指揮下で、すべての整備作業を実施したほうが、効率的なのだそうだ。

整備隊は、機種ごとに担当を分けて3分隊で活動している。

〔1分隊〕F-15、T-4
〔2分隊〕F-4、T-2、T-1
〔3分隊〕C-1、T-3
（※F-2は整備技術隊が担当）

航空機整備作業を担うトップたち



整備群　整備隊　隊長
吉川伸二 3佐
部外72期　昭和34年生まれ
平成12年3月着任



整備群
整備統制班　整備主任
竹原睦也 2佐
部外71期　昭和31年生まれ
平成13年3月着任



整備群 司令
谷野淳一 1佐
防大21期 静岡県出身
昭和29年生まれ

第3航空団（小牧）、第1補給処（木更津）、第8航空団（築城）、補給本部、空幕、第13飛行教育団（芦屋）などでの勤務を経て、平成12年12月、整備群司令に着任。特技は航空機整備。整備作業を行う上で、実際に航空機を動かす飛行隊のパイロットたちとのコミュニケーションが重要だという。



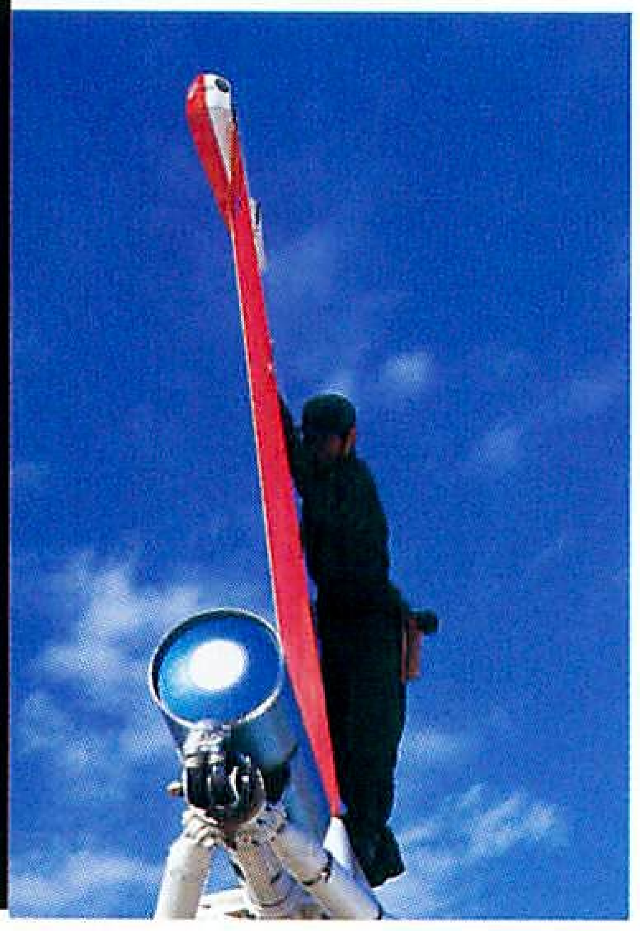
整備群　修理隊　隊長
森直之 3佐
防大28期　昭和37年生まれ
平成13年3月着任



整備群　装備隊　隊長
佐竹英一 3佐
部内74期、昭和28年生まれ
平成13年10月着任



整備群　整備技術隊　隊長
大森彰 3佐
部外77期　昭和38年生まれ
平成12年3月着任



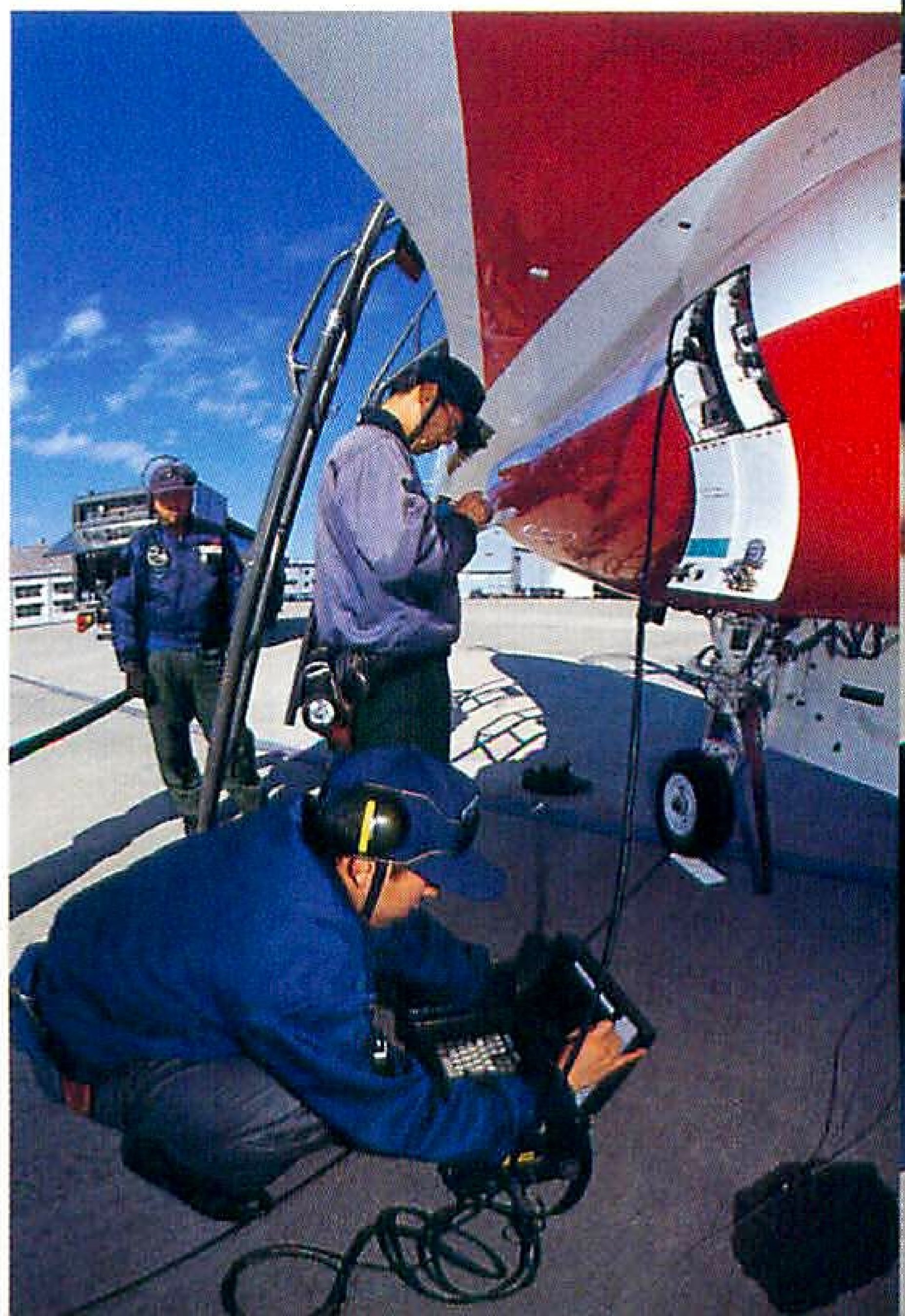
F-2B、101号機の垂直尾翼と整備員



早朝、格納庫からエプロンに引き出したばかりのF-2Bをメンテナンスする隊員。この日、2回のフライトを実施する予定の機体だったが、2回目のフライトはキャンセルとなった



F-2が装備するF110エンジンノズルに入って作業を実施する整備員



F-2の整備作業は、整備技術隊によって行われている



整備群・整備隊に所属する隊員は、エプロンでの列線整備作業も実施する。もちろん、航空機の誘導も行う

Maintenance Group

ミサイルのプロフェッショナル集団

誘導武器開発実験隊

モニタリング試験に備えてAAM-3空対空ミサイルの弾体を整備する隊員。誘導武器開発実験隊では、弾薬整備を実施するため、自前の整備班を有している



「誘導武器」とは、すなわちミサイルのことである。誘導武器開発実験隊は、ミサイルの研究・開発を専門に担当する部隊だ。航空機搭載用の空対空ミサイル(AAM)と空対艦ミサイル(ASM)に加え、地対空ミサイル(SAM)も扱っている。一昔前は「飛しょう体実験隊」の名称で活動していたが、平成元年に行われた航空自衛隊の組織改編によって、「誘導武器開発実験隊」に改められた。

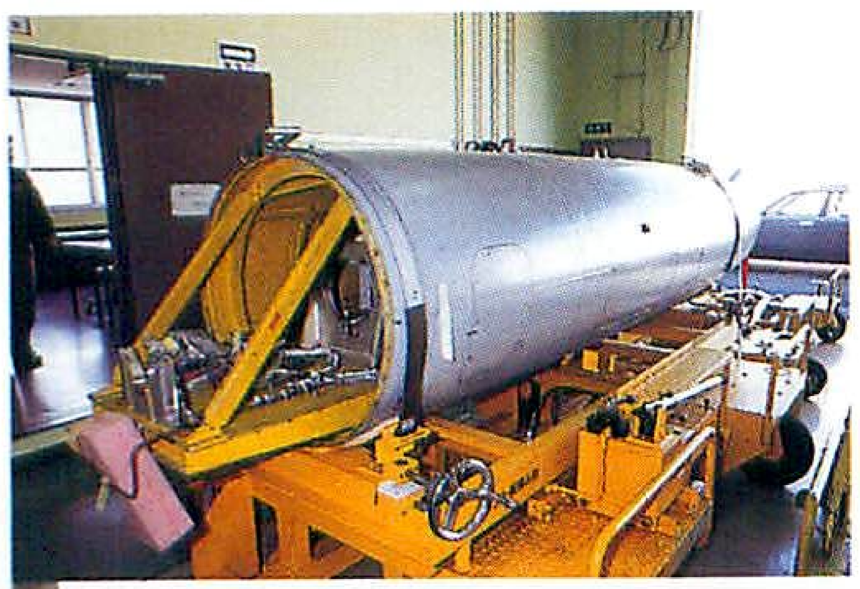
人員約30名の小規模部隊だが、「総括班」「試験班1班(AAM、ASMを担当)」「試験班2班(SAMを担当)」「整備班」を編成しており、メンバーは技術幹部が主体だ。特殊な分野であるため、飛行実験群には組み入れられず、飛行開発実験団の直轄部隊となっている。

ミサイルの研究・開発は、休止することなく続けていく必要がある。現在は、AAM-3の後継となるミサイルXAAM-5の開発が進められているところだ。航空自衛隊の戦闘機が搭載する短射程の空対空ミサイルは、旧型のAIM-9Lから新型のAAM-3に、まだ置き換えられている最中なのだが、もう新しいミサイルの開発に取りかかっているわけである。誘導武器開発実験隊では、現時点で防衛庁の技術研究本部(TRDI)が行っているAAM-5技術試験の支援を担当している。同隊による本格的な実用試験は、平成15年度から開始される予定だ。

そのほか最近の大きな活動としては、今年3月に硫黄島で、中射程空対空ミサイルAMRAAM(AIM-120B)の試験を行った。これは航空自衛隊のF-15と整合が取れるかどうかを確認する、母機適合性のテストであった。AMRAAM(読み:アムラーム)は、研究目的でアメリカから輸入したミサイルである。

ミサイルは高度な技術で作られているため、プロフェッショナルの養成にとても時間が掛かるという。技術者は、航空工学、電子工学、光学など、すべての知識を習得しなければいけない。とくにミサイルの誘導装置は、ハイテクノロジーの結集ともいえる部分で、研究・開発に多大な労力を必要とするのだ。

これまで日本は戦闘機用のミサイルとして、ASM-1、ASM-2、AAM-3、AAM-4を独自開発した実績があり、世界のミサイルと比べて引けをとらない能力を持っていると言われる。誘導武器開発実験隊によって、今後も高性能ミサイルの研究・開発が継続される。



増槽を改造して作られたカメラポッド。ミサイルの発射試験で使われる



カメラポッドの内部に搭載されているカメラ器材



誘導武器開発実験隊が管理する施設で、弾薬などの装備品が貯蔵されている



整備員の肩にはXAAM-4の試験時に作られたワッペンが付けられていた



誘導武器開発実験隊　隊長
工学博士
炑田雅彦 1佐
防大19期　愛知県出身
昭和26年生まれ

技術幹部の炑田(あきた)1佐は防大卒業後、航空機整備を3年半経験したのち、東京工業大学に5年在籍して博士号を修得。専門は電子工学。AAM-3、-4、-5の開発に携わった経験を持つ。平成12年12月、誘導武器開発実験隊長に着任。

AIR DEVELOPMENT & TEST WING(ADTW)

飛行開発実験団に配備されている航空機カタログ

F-2
F-2A/B
(XF-2A/B)







F-15 F-15J F-15DJ





EWE Squadron

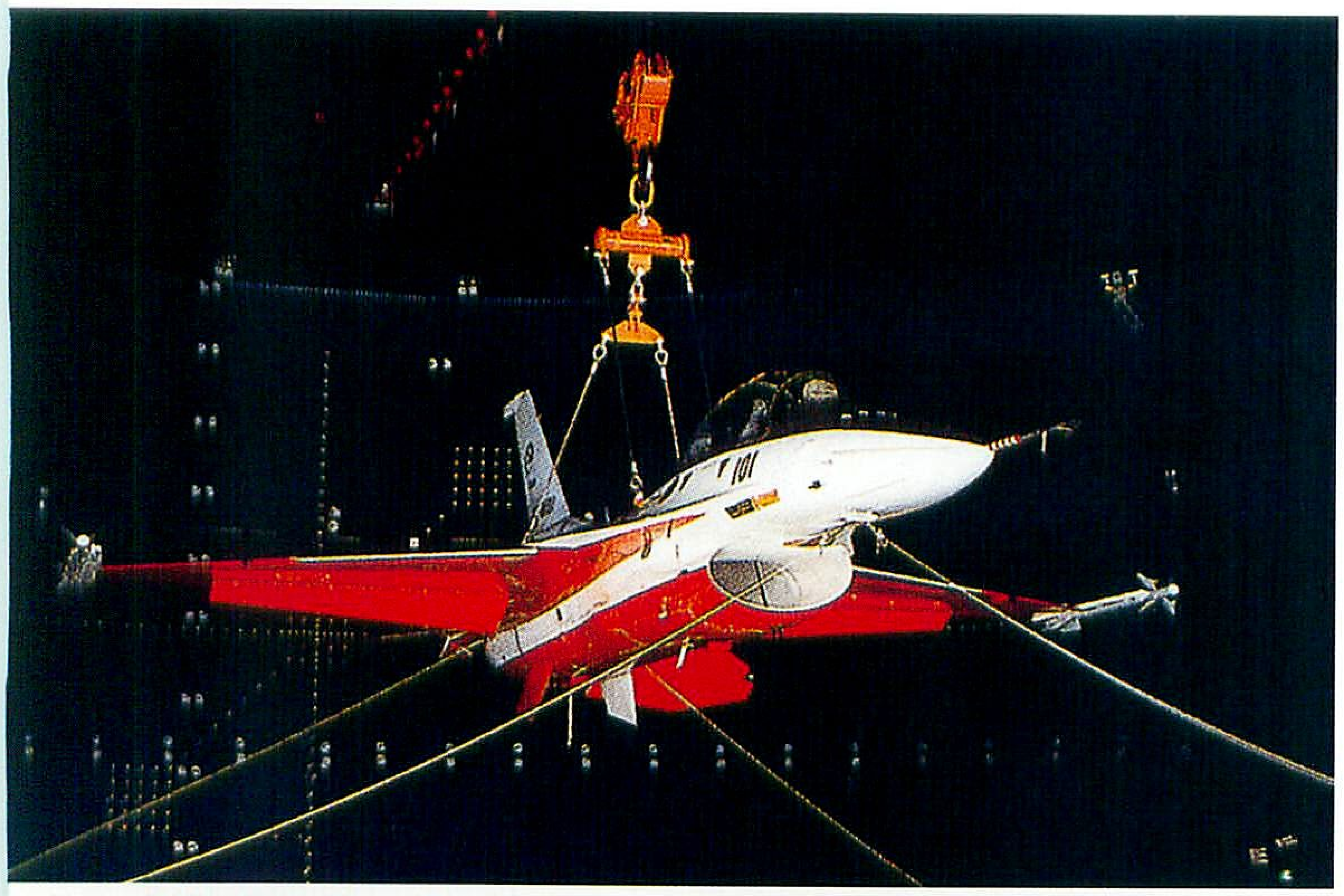
電子戦能力 評価システムを運用する
電子戦技術隊

電子戦能力は、現代の戦闘機に欠かせないものだ。電子戦には2つの要素があり、1つは相手の戦闘能力を電子妨害によって低下させるECM（電子対抗手段）、もう1つは相手のECMから自機の戦闘能力を守るECCM（対電子対抗手段）である。どちらの能力も、相手より優れていなければならない。現代のエレクトロニクス技術は、飛躍的に進歩しているため、戦闘機の電子戦器材にも極めて高度な技術が使われている。

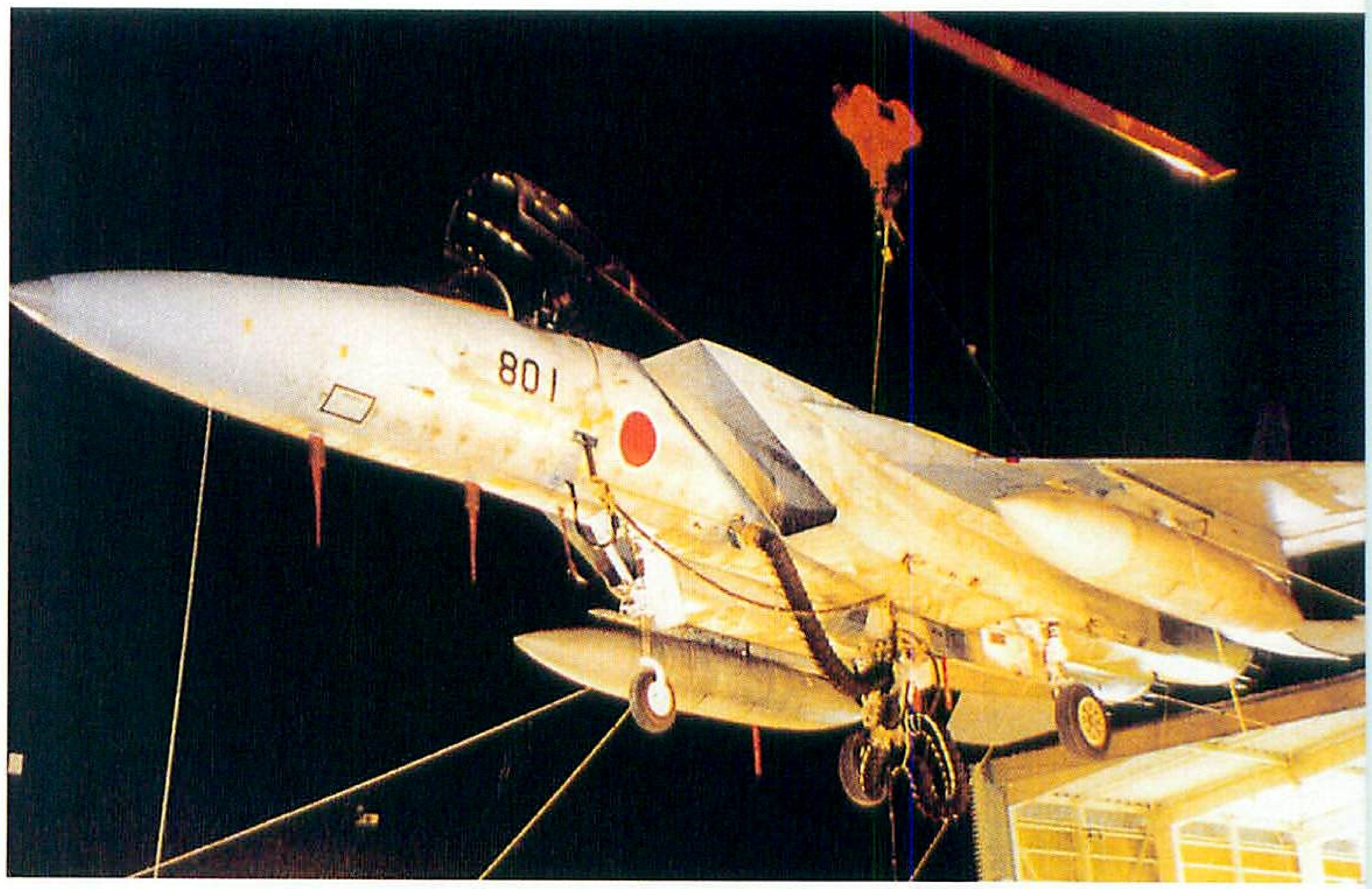
戦闘機が搭載する電子戦関連の器材としては、レーダー、レーダー警戒装置、電子妨害装置などがある。電子戦技術隊は、これらの装置の開発や能力評価を担当する部隊だ。「総括班」「運用班」「研究班」「整備班」で編成され、総員17名。飛行開発実験団の直轄部隊となっている。

同隊では、電子戦環境をシミュレートして機器の能力をテストする、電子戦能力評価システム（EWES）の運用を行っている。EWESは、格納庫1つが巨大な電波暗室になっており、F・15やF・2などの実機を天井から吊り下げて、実際に強度の電波を放出して電子戦環境を作り出すことが可能だ。昭和61年度で予算化され、平成2年度から運用を始めたシステムだ。電波暗室には、常に実機が入っているわけではないが、最近は主にF・2の電子戦に関わるデータ収集を行っているという。

*ECM＝Electronic Countermeasures
*ECCM＝Electronic Counter-Countermeasures
*EWES＝Electronic Warfare Evaluation System



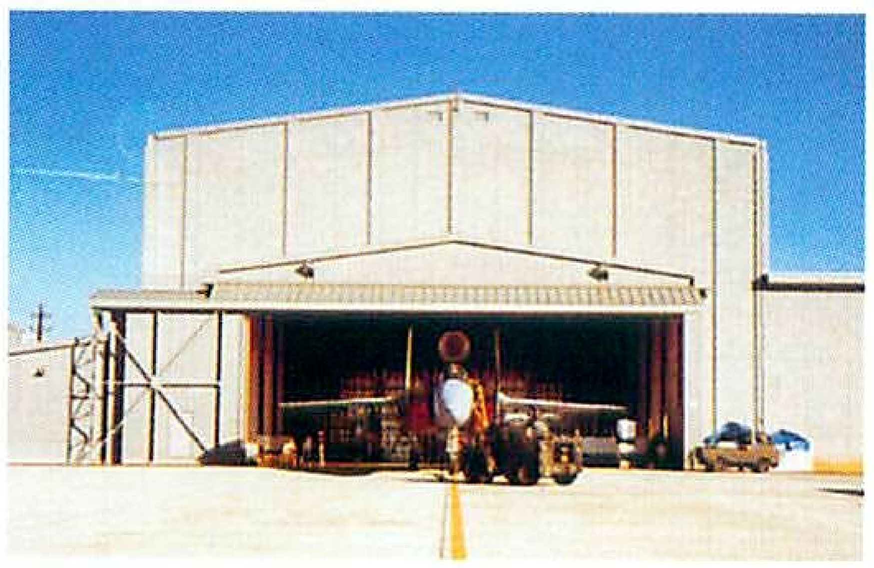
評価対象航空機として電波暗室に懸吊されたF-2支援戦闘機（Photo：JASDF）



電波暗室に懸吊されたF-15戦闘機。電波暗室は、内部全面がウレタン系の電波吸収体で覆われ、壁面にはアンテナが設けられている（Photo：JASDF）



電子戦の能力を評価するため、電波暗室に収容されるF-2支援戦闘機（Photo：JASDF）



戦闘機1機を収容できる大きさの格納庫が、そのまま電波暗室となっている（Photo：JASDF）



電子戦技術隊　隊長
寶田昌明 2佐
防大23期　富山県出身
昭和31年生まれ

電子開発実験群、空幕、技術研究本部、航空開発実験集団司令部などでの勤務を経て、平成10年12月、電子戦技術隊長に着任。技術幹部。

飛行開発実験団に配備されている航空機カタログ

T-2特別仕様機





T-2CCV（用途廃止されており、格納庫にてモスボール状態。飛実団の所属機ではない）



T-2



T-2



F-4EJ（改）　※F-4EJも運用

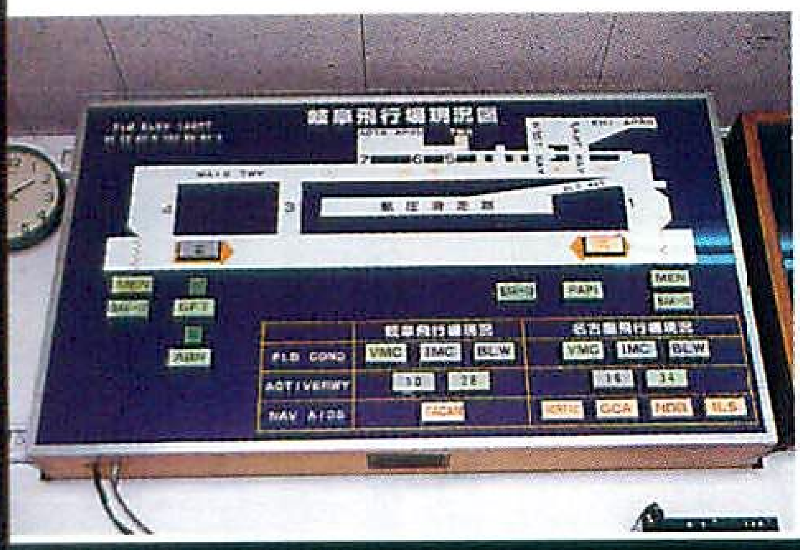
Airfield Service Squadron

航空機の運航支援を行う

飛行場勤務隊

飛行場勤務隊は、飛行場の運用と航空機の運航支援を行う部隊だ。管制塔のある建物の1階にはベースオペレーションと呼ばれる施設があり、ここで飛行する航空機のフライトプランの受理や運航に関わる情報の収集、伝達を行っている。「総括班」「飛行管理班」「外来機支援班」が編成され、パイロット（隊長）、飛行管理員など総員約15名が勤務に就いている。仕事の内容は、ほかの基地（航空団）に配置している飛行場勤務隊と同様で、ここでは岐阜飛行場の管理・運用を担当している。

なお、岐阜飛行場は現在ある航空自衛隊の基地の中ではもっとも古い飛行場で、長い歴史を持っている。大正6年に陸軍の飛行場として開設されたのが始まりで、第2次大戦後はアメリカ軍に接収されたが、昭和33年に日本に全面返還、以後、航空自衛隊・実験部隊のベースとして使われ続けている。



岐阜飛行場は隣接する川崎重工や岐阜県警などの航空機も使用している。上空は名古屋空港の空域と重なっているため、情報掲示版では岐阜と名古屋の両方の状況が分かるようになっている（Photo：A.Tsubota）



管制塔のある建物の1階に岐阜基地のベース・オペレーションが設けられている



飛行場勤務隊の隊員は、航空機のフライトプランや運航関係の情報を扱う仕事をしている（Photo：A.Tsubota）



フライトプランの内容を端末に入力する隊員（Photo：A.Tsubota）



飛行場勤務隊　隊長
本道誠 3佐
航空学生23期
福井県出身
昭和23年生まれ

本道3佐は、1970年からC-46、YS-11、C-1などの操縦を経験してきたベテランの輸送機パイロット。総飛行時間は11500時間。内訳は、C-46で約2900時間、YS-11で約3200時間、C-1で約4600時間。

AIR DEVELOPMENT & TEST WING(ADTW)

現在、飛行開発実験団に所属する航空機リスト
（2001年11月現在）

C-1FTB（28-1001：旧XC-1）
C-1（28-1002：旧XC-1）
F-2A（63-8501：旧XF-2A）
F-2A（63-8502：旧XF-2A）
F-2B（63-8101：旧XF-2B）
F-2B（63-8102：旧XF-2B）
F-4EJ（17-8301）
F-4EJ（47-8336）
F-4EJ改（57-8357）
F-4EJ（77-8393）
F-4EJ改（77-8395）
F-4EJ（87-8409）
F-4EJ改（07-8431）
F-15J（02-8801）
F-15J（02-8914）
F-15J（52-8953）
F-15DJ（82-8066）
F-15DJ（92-8067）
T-1B（05-5810）
T-2前期型（19-5101：旧XT-2）
T-2後期型（29-5102：旧XT-2）
T-2後期型（29-5104：旧XT-2）
T-2特別仕様（59-5106：旧FS-T2改）
T-2特別仕様（59-5107：旧FS-T2改）
T-3（91-5520）
T-3（01-5526）
T-4（56-5601：旧XT-4）
T-4（66-5602：旧XT-4）
T-4（66-5603：旧XT-4）
T-4（66-5604：旧XT-4）
T-4（86-5605）
T-4（86-5606）
T-4（06-5638）
※このリストは編集部が独自にまとめたものです（協力：加藤幸治）



T-4



T-1B



T-3



C-1(FTB) ※C-1もある

飛実団ではこんな試験をやってきた

ここまで特集を読み進めてきた読者のみなさんには、飛実団でいかにシビアでたくさんの試験が行われているかがおわかりいただけであろう。ここでは、過去に飛実団で行われたほんの一部の主な試験についてお届けしよう。

写真提供（特記以外）◎航空自衛隊

飛行開発実験団の主要な任務は、航空機及びミサイル等の試験評価、飛行操縦士及び技術幹部を養成するための教育訓練、技術研究本部の実施する試験等に対する協力、契約本部の依頼する領収飛行のための飛行、の4つであり、試験や評価の対象となる機材や機器の範囲も航空機、誘導武器、電子機器、支援装置にわたるため、創設以来、実に多種多様な試験が行われてきた。

ここでは今日まで飛実団で行われた数々の試験評価等の中で、主な試験についてご紹介する。このコーナーで並んでいる機体、装備品は現在は航空自衛隊で活躍している、もしくは活躍していたものばかりである。すべての機体、装備品も部隊配備前にはかならず飛実団で試験が行われていたためである。

なお、飛行開発実験団は昭和30（1960）年12月に浜松基地で実験航空隊として創設され、その後昭和32（1962）年3月に現在の岐阜基地に移駐、昭和49年4月には航空実験団が新編され、平成元（1989）年3月に飛行開発実験団となったため、実験航空隊、航空実験団隷下で行われた試験も含まれていることをあらかじめお断りしておく。

AIR DEVELOPMENT & TEST WING(ADTW)



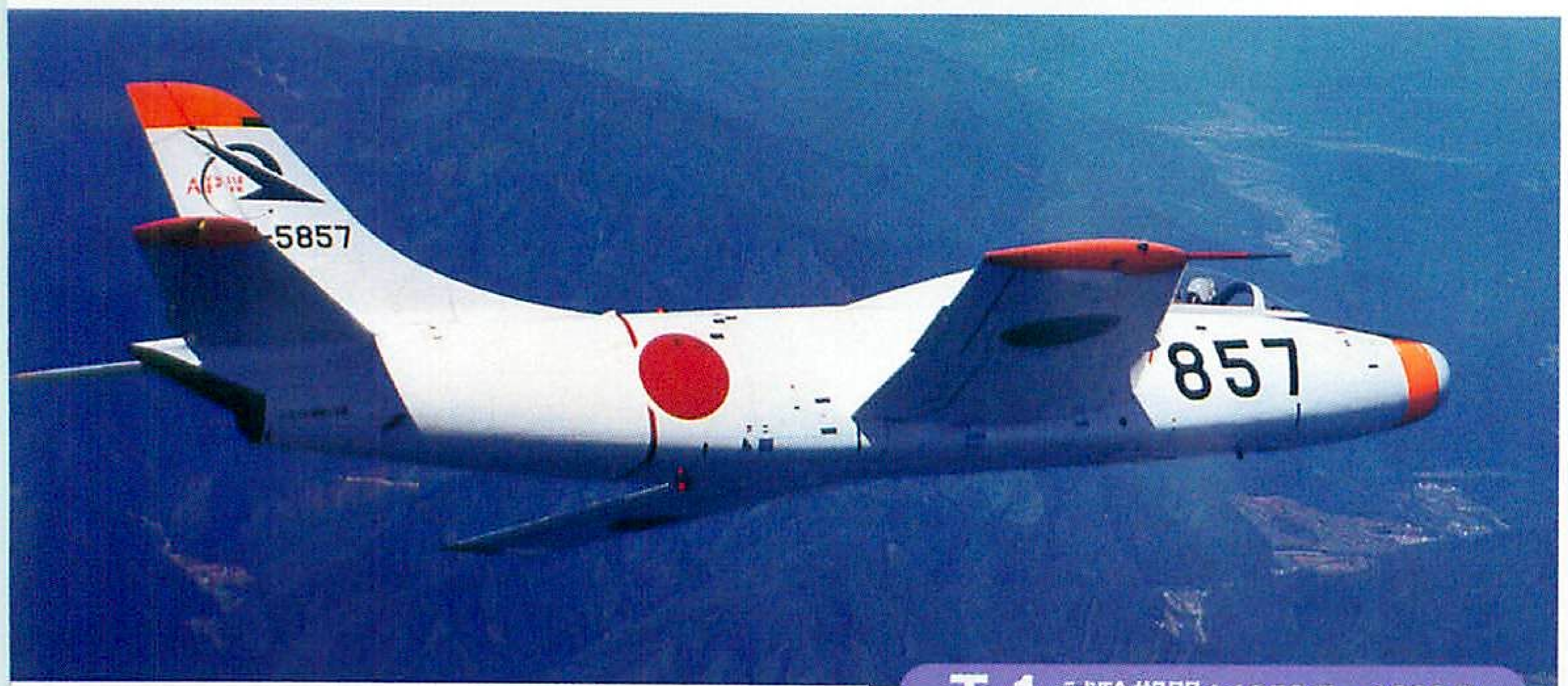
T-33A 試験期間：1956.9

アメリカの無償軍事援助協定により1955年1月より装備がはじまり、1956年3月からは川崎重工で国産された機体が配備された。2000年6月に全機が退役した。



XC-1 試験期間：1971.2〜1973.3

日本航空機製造で開発され、1970年に初飛行した現用輸送機。1978年までに31機が生産、納入された。自衛隊に納入後、実験航空隊（当時）でいくつかの不都合箇所の改善が行われている。



T-1 試験期間：1959.5〜1960.3

わが国初の国産ジェット機。A型は1962年までに46機が生産され、国産のエンジンを搭載したB型は22機が生産された。現在ではA型は全機が退役、B型も残りわずかとなっている。



XT-3 試験期間：1978.4〜1978.7

初級練習機T-34メンターを基本にして富士重工が開発したレシプロエンジンを搭載した初等練習機。航空自衛隊には50機が納入された。



YS-11 試験期間：1968.8〜1968.11

わが国で開発された旅客機。航空自衛隊では1965年から13機を導入し、旅客型、貨物型、電子訓練隊、飛行点検隊等の各タイプがあった。

F-104J 試験期間：1963.12〜1966.12

航空自衛隊最初の主力戦闘機F-86Fの後継機として導入、1962年には初の飛行隊が編成された。最後の飛行隊1986年に解散、1987年からは無人標的機UF-104Jとして少数機が運用された。



F-4EJ 試験期間：1971.10〜1972.6

世界で5000機以上が生産されたベストセラー機を日本仕様（EJ型）として導入された戦闘機。最初の2機はアメリカで生産され1971年7月23日に小牧飛行場に到着している。現在では搭載機器を近代化したEJ改型が配備されている。



F-15J 試験期間：1981.3〜1981.12

F-104の後継主力戦闘機として導入された戦闘機。1980年から導入が開始され、単座型・複座型あわせて203機が配備された。



CH-47J 試験期間：1986.12〜1987.3

航空自衛隊の端末空輸用ヘリコプターとして導入され、1986年に初号機を取得、実験航空団（当時）で運用試験が行われた。現在まで16機が納入されている。



T-2CCV 試験期間：1984.5〜1986.3

T-2の3号機を改造して作られたCCV（運動性向上技術）機。胴体下面とインテーク脇にカナードが設けられている。現在では岐阜基地内にモスボール状態で保管されている。



C-130H 試験期間：1984.3〜1984.7

C-46の後継機として一時はその導入が検討されたが見送られ、C-1の補用機として導入された戦術輸送機。世界各国で採用されているベストセラー輸送機である。1984年に初号機がアメリカ空軍のパイロットによりフェリーされた。



E-2C 試験期間：1983.1〜1983.9

1976年に発生したソビエト空軍のMiG-25による函館空港強行着陸により導入された、空中早期警戒機。1977年に導入が決定され、1979年に発注、1983年に納入された。1994年までに13機が導入された。





U-125 試験期間：1992.12～1993.3

U-125は飛行点検隊で使用されている航空保安無線施設の点検機。1番機が実験航空団でテストに供された。



T-400 試験期間：1994.2～1994.5

輸送機、救難機等の多発機のパイロット養成に使用される基本操縦練習機。機体は三菱重工が開発したMU-300をベースとしたもので、航空自衛隊の練習機としては初の並列座席の練習機であり、クルーコーディネーションの教育に適している。



XT-2 試験期間：1971.12～1974.3

わが国で開発された初の超音速機。1971年7月20日に初飛行に成功。岐阜の実験航空隊（当時）では1～4号機を使い、各種試験を行った。

指揮連絡機として活躍したB-65の後継機として導入された多用途支援機。ビジネスジェット機として活躍するガルフストリームⅣと同型機で5機が導入されている。

U-4 試験期間：1997.2～1997.4



U-125Aは捜索救難機MU-2の後継機として導入された、BAE125-800に所用の改修を施した捜索救難機。

U-125A 試験期間：1995.3～1995.6





XASM-1 試験期間：1979.8～1980.3

わが国で開発した空対艦ミサイル。1973年度から技術研究本部において開発に着手し、約7年を経て完成した。制式名は80式空対艦誘導弾。

1988年から技術開発を開始し、1993年に制式制定された空対艦誘導弾。陸上自衛隊で仕様している88式地対艦誘導弾をベースにしている。

XASM-2 試験期間：1992.6～1992.12





XGCS-1 試験期間：1988.10～1990.3

空自が保有する750lb、500lb爆弾の弾頭に装着する誘導爆弾用誘導装置。誘導方式は赤外線誘導方式で、昼夜間の運用が可能。

エンジン、機体とも国産の中等練習機。1981年から開発に着手し、1985年7月に初飛行した。実験航空団（当時）では1～4号機を使用し、技術・運用試験を行った。現在、航空自衛隊では同機により基本操縦課程を行っている。

XT-4 試験期間：1985.12～1988.3





XF-2 試験期間：1996.3～2000.6

支援戦闘機F-1の後継機としてF-16をベースに日米で共同開発された支援戦闘機。1988年から開発に着手し、1993年10月に初飛行した。2001年3月には三沢基地に初のF-2飛行隊である第3飛行隊が編成されている。（写真：坪田敦史）

1999年に制式採用された、中距離空対空ミサイルAIM-7の後継ミサイル。アクティブ方式のミサイルで制式名称は99式空対空誘導弾。

XAAM-4 試験期間：1998.4～1999.3



短射程空対空ミサイルAIM-9Lの後継ミサイルとして1986年から技術開発を実施、1987年から技術研究本部で、1989年から航空開発実験集団で実用試験が行われ、1990年に制式制定された。制式名は90式空対空誘導弾。

XAAM-3 試験期間：1989.8～1990.2



ペトリオット 試験期間：1989.5～1990.2

地対空誘導弾ナイキの後継ミサイルとして1985年から整備に着手したミサイル。その性能は湾岸戦争の際にも実証されており、平成7年からは能力を向上したタイプが配備されている。



救難ヘリV-107の後継機として導入された、シコルスキーHH-60Aの航空自衛隊向けの改造型。1987年に採用され、1991年2月に初号機が納入されており、航空救難団の主力として活躍している。

UH-60J 試験期間：1991.2～1991.7



旅客機であるB767をベースとした空中早期警戒管制機。実用試験に続き、1999年からは1年間かけて運用試験を行い、2000年3月から部隊での正式運用が始まった。

E-767 試験期間：1998.3～1999.3



首都防空を担うファイターエアベース

航空自衛隊 百里基地

AIR BASE HYAKURI



夕闇迫る中、夜間訓練を前に静かに発進を待つ第501飛行隊のRF-4E。水銀灯に照らされ、ミステリアスな表情を見せる

写真と文／黒澤英介

首都圏からもっとも近い場所に位置し、首都防空をその任務とする航空自衛隊百里基地。

茨城県東茨城郡小川町にあるこの基地には、第7航空団の第204飛行隊と305飛行隊にF-15J／DJが配備されているほか、航空自衛隊唯一の偵察航空隊や、百里救難隊、第401基地防空隊、百里管制隊、第12移動警戒隊、中部航空施設隊第3作業隊、百里気象隊、百里地方警務隊が所属している。

日本の中枢部に一番近い戦闘航空団基地であるため、航空観閲式や航空訓練展示、防衛庁長官就任時の視察・観閲、内外VIP等の視察などにも対応する多忙な基地として知られている。

延べ42万8000平方メートルの敷地面積を持ち、2700mの滑走路1本を有する百里基地は、基地内に民間所有の土地が点在するため誘導路が『く』の字に曲がっている珍しい基地でもある。

今月は、この百里基地のすべての部隊を一挙に紹介しよう！



朝日に照らされる第206飛行隊（現第305飛行隊）時代のF-104J。この他ゲートにはF-86FやF-86Dも展示されている



飛行訓練を終えて、ランウェイ21に大型エアブレーキを開きランディングする第204飛行隊のF-15J


洋上での救出訓練を終えてランプインする2機のUH-60J。正面ガラスの汚れが訓練の激しさを物語る



飛行訓練を終えて、ランプインする第305飛行隊のF-15J。この後、グランドクルーによって機体がチェックされる

そして戦競優勝の常連、第305飛行隊



飛行訓練に向けてタキシングする機体全てを見送るグランドクルー。訓練の成功を祈るような表情が印象的だ



整備補給群装備隊武器小隊による兵装搭載訓練。F-15Jの胴体4箇所にAIM-7F「スパロー」を搭載する



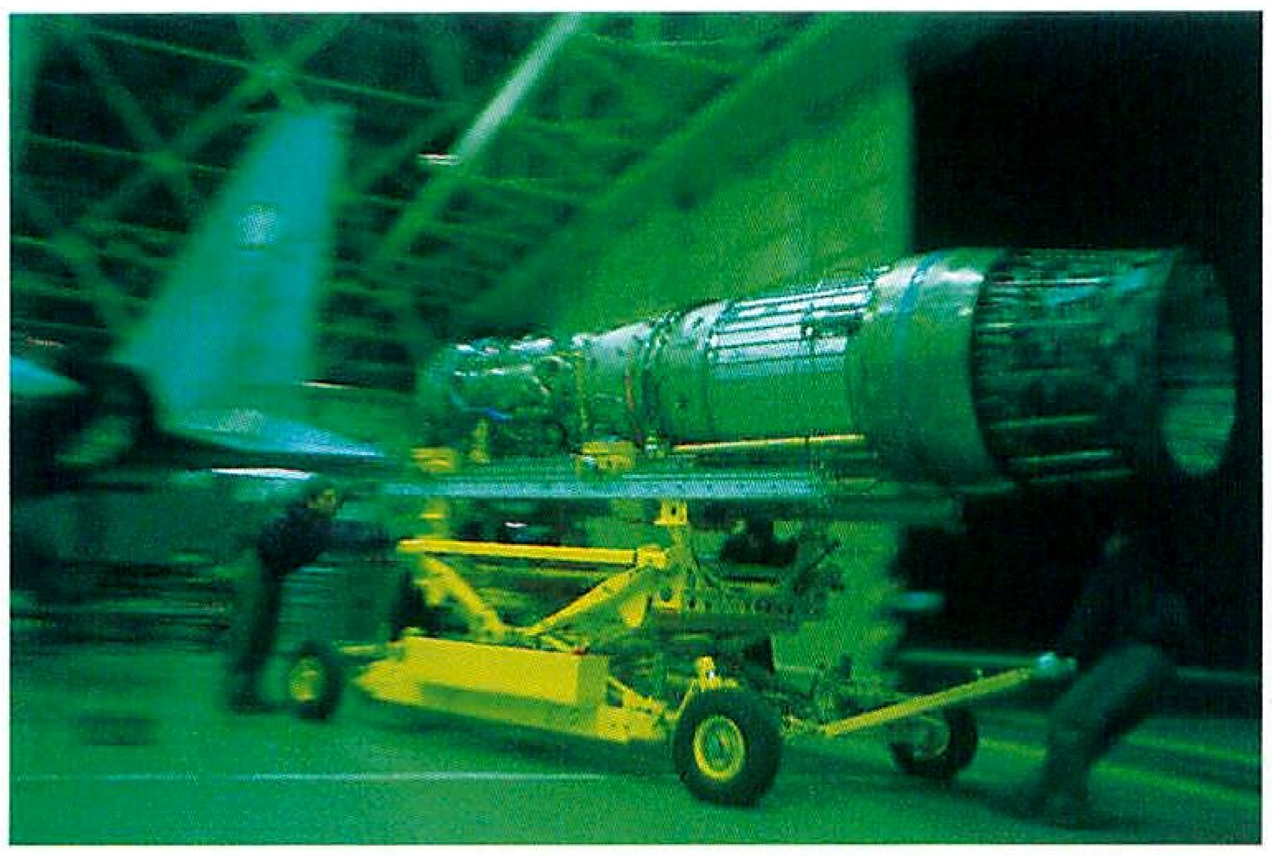
グランドクルーの誘導により機体がタキシングを開始する。グランドクルーの支えを受けて、パイロットたちは大空に挑戦し続ける



機体チェックオールクリアー、サムアップサインを送る第305飛行隊パイロット。この後ランウェイに向けてタキシングが開始される



整備格納庫内では各部点検や修理等が行われる。彼らの鋭い目が光る



整備のため、機体からプラット＆ホイットニー社製のF-100エンジンが取り外される。作業は実に迅速だ



第305飛行隊隊舎内では飛行訓練に向けてブリーフィングが開始される。この日の内容はAGTS（空中射撃標的装置）を使用してのバルカン砲射撃訓練

第305飛行隊は、もともとはF-104部隊として編成されていた第206飛行隊（1965〜1978年）が母体となっている飛行隊だ。第206飛行隊は1978年12月に解散、翌1979年12月にF-4EJ部隊として第305飛行隊の歴史がスタートした。

F-15を装備した第305飛行隊となったのは14年後の1993年からだが、F-4からF-15への機種改編にあたっては、人材育成や機材の充実に1年以上をかけて取り組んでおり、この間、F-4EJとF-15Jの2機種を運用していた。航空自衛隊7番目のF-15飛行隊として正式にスタートを切ったのは1993年8月からで、翌年からはすでにイーグル飛行隊として活躍していた第204飛行隊とともにアラート任務を開始している。

第305飛行隊はF-4EJ部隊時代から、戦技競技会における強豪部隊のひとつで、F-4EJ時代には3度の優勝を収めており、F-4での最後の参加となった1992年の戦競でも見事優勝し、有終の美を飾っている。第305飛行隊の戦競参加機には「宮本武蔵」をモチーフにした文字やイラストなどを描いた特別塗装機が登場するが、初めて「武蔵」が描かれたのはこのファントム最後の92年の戦競時からである。

F-15Jでの戦競参加は、機種改編で1年間、戦競を休んだ後の1994年の大会からで、この時もファントム時代から縁起がいいとされた「武蔵」の特別塗装機で登場、F-15では初参加でありながら、対戦闘機戦闘F-15部門で優勝したという実績をもつ。

第305飛行隊は、F-15部隊となってからもすでに3度、戦競での優勝を飾っているが、一番記憶に新しいのはやはり2001年、第20

初の海外訓練派遣飛行隊、

夕闇迫る中、夜間訓練のに向けてエンジンスタートする第305飛行隊F-15J。夜間訓練は定期的に行われる



3飛行隊との同点優勝を成し遂げたことだろう。このときも機種に描かれた「武蔵」の文字とロービジながら大きく尾翼に描かれた二刀流の剣が注目を集めた。

また、1999年6月、航空自衛隊としては初めて、戦闘機部隊の海外訓練派遣が実施されたが、第305飛行隊はそのトップバッターとして日米共同訓練「コープノース・グアム'99」に警戒航空隊のE-2Cとともに参加、3機のDJ型を含む6機のF-15を派遣している（ちなみにこの年は戦競に参加していない）。

部隊マークは梅の花で、これは百里基地がある茨城県の名所・水戸の偕楽園（見事な梅の花で有名）にちなんだものだが、冒頭でふれた同隊の母体となった第206飛行隊時代から続いている伝統あるマークだ。現在、第305飛行隊は飛行隊長の武藤茂樹2佐のもと、任務励行に務めている。

イーグル飛行隊、第204飛行隊





飛行訓練を終えてランウェイ21にランディングする第204飛行隊のF-15J。第204と第305飛行隊、百里基地ではこの2個のF-15J飛行隊が首都圏をガードしている



ェイ21からアフターバーナーオン状態で離陸する。鷲のマークが第204飛行隊、梅ークが第305飛行隊



ラストチャンスでの機体チェックを終え、サインを送るパイロットとグランドクルー。いつ見ても息の合った作業ぶりだ

第204飛行隊は、1964年、宮崎県新田原基地で第202飛行隊に次ぐF-104飛行隊として誕生した飛行隊だ。創設された翌年1月から以来約20年にわたり、実働戦闘機部隊であるとともにF-104パイロット養成を行う部隊として活動することになる。F-104操縦転換教育を受け持ち、

そして時代はF-104からF-15へと、主力機の新旧交代が行われ、第204飛行隊もマルヨン飛行隊からイーグル飛行隊へと生まれ変わることになる。1984年3月、まず百里基地にF-15準備班が編成され、続いて新田原の第202飛行隊のマルヨンパイロットもその多くがF-15パイロットへの機種転換課程を受け、翌1985年3月2日、第204飛行隊は新生F-15部隊として誕生し、ホームベースを新田原基地から百里基地へと替えることになる(同時に、百里基地のF-4部隊・第301飛行隊は新田原基地へ移動し、現在に至っている)。1993年には、同じ百里基地所在のF-4飛行隊であった第305飛行隊のF-15への機種改編に伴い、同飛行隊は単独アラート任務に就いている。

航空自衛隊で40年の歴史をもつ戦技競技会において、第204飛行隊は新田原基地でのF-104時代に3回優勝しており、F-15飛行隊となった後も88年と89年、連続優勝を遂げている。例年、戦競時に話題になる機体の特別塗装では、第204飛行隊の参加機には1990年から「ワルキューレ」と呼ばれる女神のノーズアートがファンの人気を集めてきた。ここ数年、この独特な特別塗装が戦競機から消えていたのだが、2001年の戦競では復活し、ファンを喜ばせた。ちなみにこのノーズアートは飛行隊整備小隊の整備員の手によるものだ。

現在、第204飛行隊は黒羽伸(2佐)飛行隊長のもと、第305飛行隊とともに対領空侵犯措置(アラート待機)も行う最前線の戦闘機部隊として活躍している。

鋭い目とくちばしをもつ鷲の顔が印象的な現在の部隊マークは、F-15部隊として百里基地に移動したことをきっかけに数種類の原案の中から選ばれたもので、F-15のニックネーム『イーグル』をモチーフに、「イーグルの中のイーグルを目指す」という意味を込めたものだそうだ。



アラートハンガーには2機のF-15Jが待機する。地上待機は24時間にわたり、パイロット、グランドクルーがつく



機体にはバルカン砲、2発のAIM-9サイドワインダーを搭載、あっという間に離陸態勢に入っていく



アラート発進は時間との勝負。機体に飛び乗りエンジンスタート、迅速にチェックを行い、2機のF-15Jが5分以内にエアボーンする

また、元F-15パイロットであり、現在はピッツスペシャルのアクロバット飛行で有名な「エアロック・チーム」のパイロット、ロック岩崎氏が所属していた飛行隊も、この第204飛行隊であることを付け加えておこう。

アラート待機は24時間体制

各戦闘機基地では24時間の対領空侵犯措置（アラート待機）が行われており、ここ百里基地でも第204、第305飛行隊が交互に待機し、その任務にあたっている。一度スクランブルがかかれば2機のF-15ペアによって5分以内に離陸して目標空域へと飛び立つ。百里基地第7航空団と小松基地の第6航空団は、中部航空方面隊としてともに日本中部のアラートを担当している。1988年までは中部方面隊担当空域だけで年間200回以上のスクランブルがあったが、冷戦終了後は、1989年が170回、1991年が112回、2000年には年間29回と年々減少している。

スクランブル!!
5分以内に発進だ!



アラートハンガーにスクランブル発進のアラームが鳴り響き、待機室からクルーたちが機体へと全力疾走してくる



37年の伝統を誇るイーグル・オブ・

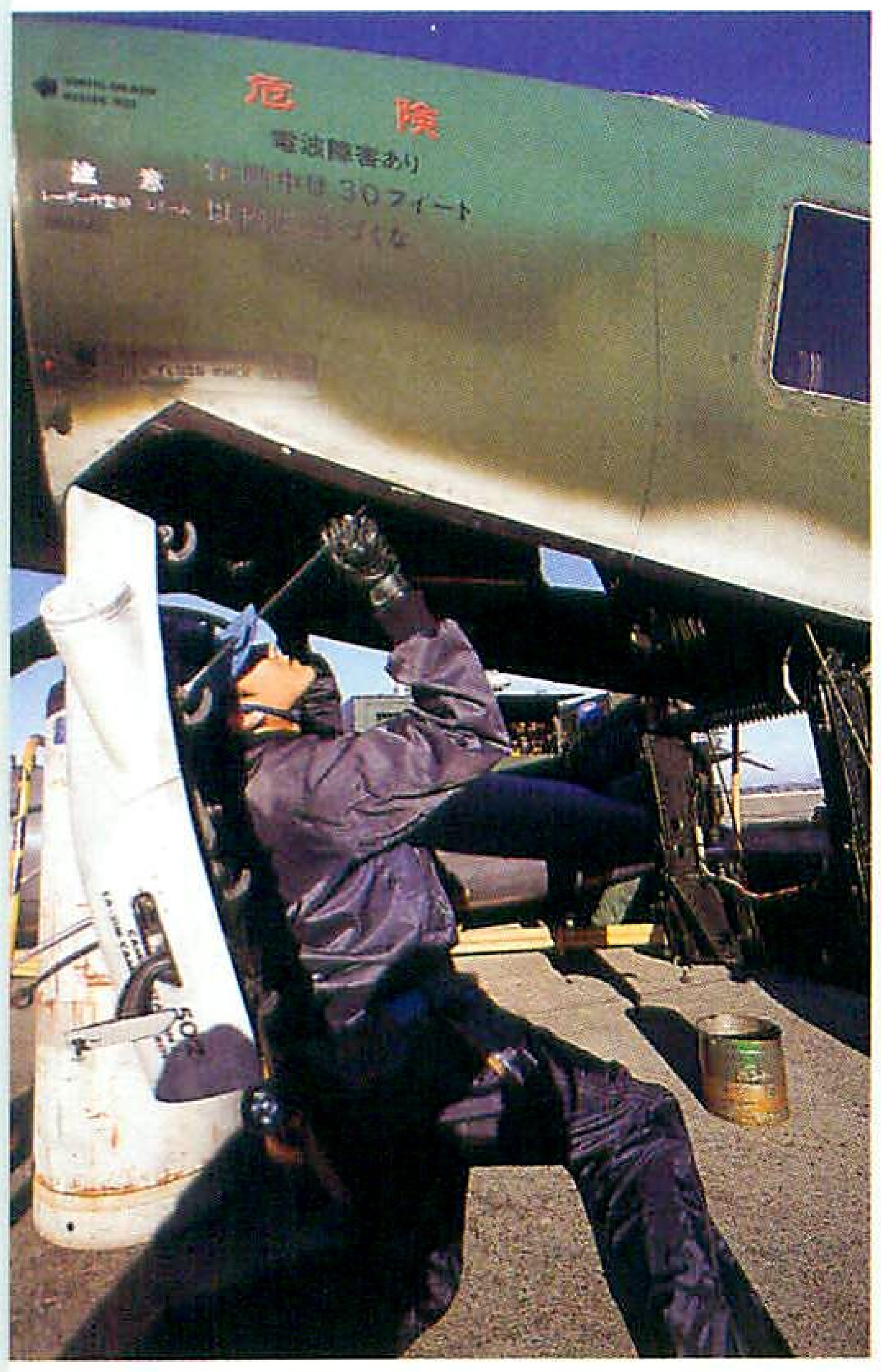
飛行訓練に向けタキシングを開始するRF-4E。基本的に偵察航空隊のミッションは1または2機での運用がメインになる





偵察航空隊・第501飛行隊

偵察訓練を終えてランウェイ21にランディングするRF-4EJ。胴体にはTAC(Tactical/戦術)ポッドが搭載される



RF-4Eのカメラ部をチェックするグランドクルー。機首のカメラ窓は6箇所にある



グランドクルーの合図とともにエンジンスタートするRF-4EJ。カメラしか搭載していないE型に比べ、EJ型は余剰となったF-4EJをそのまま偵察航空隊に配備したため、自衛のための兵装がそのまま残されている

撮影されたフィルムをチェックする映像判読小隊員。偵察航空隊には「偵察情報処理隊」という部隊が編成されている



第501飛行隊は航空自衛隊唯一の偵察航空隊に所属する飛行隊だ。同隊の歴史は1961年に松島基地で編成され、翌62年に入間基地へと移動したところから始まる。当時の使用機種はF-86Fに偵察用のカメラを3基搭載したRF-86型機だった。

しかし同機の老朽化に伴い後継機種としてRF-4Eが選ばれ、1975年までに14機が導入され、同時に第501飛行隊はホームベースを入間基地から百里基地へと移動し、現在に至っている。

RF-4Eは、一見すると戦闘機そのものだが武器は一切搭載しておらず、搭載されているのは偵察機材のみだ。偵察用カメラだけでも、前方偵察用、下向きの広範囲を低高度、高々度から撮影するパノラミック、そして側方から遠くを撮影出来る長距離側方用の4基が搭載可能で、さらにAN/AAD-5(赤外線ラインスキャナー)を装備し、RF-86時代には考えられないほどの性能を備えた機体になっている。

90年以降はF-4EJの偵察機改造型、RF-4EJの導入が始まり、搭載装備の近代化も進められている。RF-4EJは胴体下に3種類の偵察ポッド(TAC・戦術偵察、LOROP・長距離斜め写真偵察、TACER・戦術電子偵察)のひとつを装備している。本来600ガロンの燃料タンクが装備されるところにこれらのポッドが付くので、E型に比べて航続距離は短いが、バルカン砲やミサイル運用能力をもっているので、自衛の面ではE型を上回っていると言えよう。

偵察航空隊は第204、305飛行隊のように第7航空団隷下にはなく、航空総隊(司令部・府中基地)直轄の部隊だ。活動範囲も首都圏に限定されることなく全国に及ぶ。現在、第501飛行隊は、佐藤良二(2佐)隊長のもと、戦術偵察を中心に活動しているが、その他にも地震などによる被害状況の調査、火山噴火の調査等にも大きく貢献、近年の主だった実績には、阪神・淡路大震災、雲仙・普賢岳の土石流災害などが記憶に新しい。また、他省庁、自治体などからの要請に基づく航空写真撮影も実施している。

部隊マークにはおなじみのウッドペッカーが使用されているが、実際のものとは髪型が違っているそうだ。



EJ型に搭載されるLOROP(Long-range oblique photography/長距離斜め写真偵察ポッド)。他には2つの偵察ポッドが用意されている



映像処理隊員によって、撮影されたモノクロフィルムが現像される



偵察航空隊の主要装備品のひとつであるモノクロ航空フィルム自動現像機。作業は実に迅速だ

偵察を主任務とする国内唯一の





百里救難隊のUH-60Jがエンジンスタートする。最新鋭の救難ヘリだ





救難隊は事故航空機からの搭乗員救出や災害派遣における民生協力を主任務としている

百里で活躍するその他の部隊

百里基地といえば戦闘機部隊と偵察航空隊が有名だが、その他に活躍する部隊もちょっと紹介したい。

百里救難隊は、航空支援集団隷下の航空救難団（司令部・入間基地）に所属する部隊で、第7航空団とは独立した別組織だ。事故機からの搭乗員救出、災害派遣における民生協力を主任務としており、救難ヘリコプターUH-60Jが3機と捜索機U-125A



UH-60Jとペアを組みミッションを行うU-125A。救難ヘリより先に離陸し、その高速性能を生かして遭難者の捜索をすばやく行う



ランウェイ21から離陸するU-125A。本来ビジネスジェットとして開発されたBAe125-800をベースに救難機仕様に改修されたもの。百里救難隊には2機が配備されている



携SAM(91式携帯式地対空誘導弾)の発射訓練を行う。重量はわずか17kg



射撃統制装置車両のフェイズド・アレイ・レーダーを準備する基地防空隊員



基地内にてピックアップ訓練を行う。百里救難隊には3機のUH-60Jが配備される



短SAM(81式短距離地対空誘導弾)の準備訓練を行うWAF(女性自衛官)



VADSの訓練弾。射撃速度は3000発/分（高速）と1000発/分（低速）の2段階になっている



管理隊警備小隊では、警備犬による逮捕術なども訓練する。この警備犬にも階級があるという



VIP来基時の栄誉礼など、セレモニーや行事で活躍するのがこの儀仗隊。儀仗隊を構成する隊員は、各部署から選ばれた人たちだ



百里管制隊によって、航空機が安全にそして迅速に運用される



第401基地防空隊によってVADS(M167A1バルカン砲防空システム)の発射訓練を行う。空砲射撃訓練といえども凄い迫力だ

救難隊と基地防空隊

が2機、配備されている。

一方、第401基地防空隊は、その名の通り基地を守る部隊である。防空作戦における要撃戦闘機やペトリオット・ミサイル網をかいくぐって進入する敵航空機から、基地の戦力、機能を守るのが主任務だ。装備は短SAM、携SAM・VADSの3種で構成され、ここに列記した順序は、実際のミッションにおいて目標に対する対処順でもある。

その他百里基地の航空管制を担当する百里管制隊も航空支援集団隷下の航空保安管制群（本部・入間基地）に所属する部隊で第7航空団とは別の組織である。

＊百里基地については、バンダイビジュアルから発売中のビデオ＆DVD「NEW AIR BASE SERIES・AIR BASE HYAKURI 航空自衛隊百里基地」でも詳しく紹介されているぞ！（問い合わせTEL/03-5828-7582）


三沢基地航空祭でのF-2とブルーインパルス。快晴に恵まれ、まさに絵に描いたような美しいシーンを楽しめる1日となった（写真／鈴崎利治）

機体と部隊のニュースとイベントを総まとめ!!

イヤー・ブック2001

YEARBOOK2001

20世紀最後だの21世紀最初だの、なんだかんだ大騒ぎしてはじまった2001年。
米同時多発テロ以降、自衛隊イベントはことごとく中止され、後半はちょっと肩すかしを食らったような年でもあった。
しかし、走馬燈のごとくこの1年の出来事を思い出してみると…なかなかどうして、ミリタリー・ファンにとっては「目の離せない」出来事がいっぱいあったのだ。今月はそうした印象深いイベント・イン・2001の総集編をスペシャル・ページでお届けしよう。

2月9日 ブルーインパルス訓練再開➡8月26日 展示飛行再開

2000年7月4日の事故以来7ヶ月間、活動を停止していたブルーインパルス。ファンたちが早期の飛行再開を祈りつつ明けた2001年だった。年が明けて1ヶ月が過ぎた2月9日、ついにブルーインパルスは飛行訓練を開始した。この日は基地上空を一周して着陸するにとどまったが、その後、3月12日にワンタイムアクロを開始、4月に入ってフィールドアクロ訓練に入り、順調に飛行訓練を重ね、8月26日のホームベース・松島基地航空祭では記念すべき再デビューを果たした。


8月26日の松島基地航空祭で飛行展示再開を果たしたブルーインパルス。あいにくの天気で、午前はランナップのみ、午後は展示飛行の一部を披露して着陸となったが、大勢のファンがブルー復活を喜んだ（写真／鈴崎利治）


9月9日、三沢基地航空祭でも展示飛行を披露。この日はドピーカンの空の下、4機編隊によるアクロのフルショーを行った。その後、9月11日に米国同時多発テロが起こり、航空祭がのきなみ中止、ブルーの展示飛行は地元矢本町で実施された国体でのフライバイのみとなった（写真／鈴崎利治）

2001年の2大ニュースといったらなんたってコレだっ!

支援戦闘機・F-2の「第3飛行隊」デビュー!



F-2が配備された第3飛行隊は掩体(シェルター)運用のため、エプロン地区でF-2を見る機会は少ない(写真／伊藤久巳)

3月27日 F-2第3飛行隊編成完結式

航空自衛隊の支援戦闘機F-1の後継機として、設計開始から12年の歳月をかけて開発、2000年10月にその1号機が三沢基地に配備されたF-2。2001年3月まで『臨時F-2飛行隊』として定数が配備されるのを待っていた第3飛行隊だが、3月21日、18機目のF-2が配備され、同27日、ついにF-1飛行隊からF-2飛行隊へと生まれ変わるべく編成完結式が行われた。三沢のF-1部隊はこの時点で23年の歴史を閉じ、新支援戦闘機F-1の最初の部隊でもある新生「第3飛行隊」が誕生した。第3飛行隊には、その後も順次、F-2の新造機が納入されている。



3月27日の第3飛行隊編成完結式。写真は第3航空団飛行群司令阿部英彦1佐と第3飛行隊隊長伊藤哲2佐、そして隊員たち(写真／伊藤久巳)



三沢の航空祭では、3機のF-2がフライバイ(写真／鈴崎利治)



部隊マークはF-1時代からの鎧兜の武人が、ロービジで描かれている(写真／伊藤久巳)

ブルーインパルス復活!



2001年のブルーインパルスでもっとも印象的だった出来事、それは2月9日の"飛行再開"。晴れ上がった空の下、朝9時40分に1番機が飛び立ち、飛行訓練が再開された。基地周辺にはニュースを聞きつけて多くのブルーファンが集まり、T-4ブルーの久しぶりの白いスモークに歓声があがった(写真／伊藤久巳)



(Photo：村松壮一)

「超」が付くド派手なバートルが登場！

2月

2001年早々、われわれのドギモを抜いたのが、隊の創設30周年を祝うべく登場した浜松救難隊のV-107バートル(54-4836)だった。全身を青で固めたその姿はスペシャルマーキング機版の「ベストドレッサー賞」受賞間違いなしといったところだ。この機体、3月22日に行われた浜松基地での式典に参加し、翌23日に小牧基地にフェリーされ退役した模様である。

今年もたくさん出たぞっ！

自衛隊のスペシャルマーキング機2001!

SPECIAL MARKING

ふだん目にする航空機の機体は、はっきりいって何か物足りない。見慣れているせいであろうか、それとも地味な色だからであろうか。ゆえにときたま出現する特別塗装機、いわゆるスペシャルマーキング機はわれわれに強烈なインパクトを与える。ここでは2001年に登場した、豪華絢爛(!?)な自衛隊のスペシャルマーキング機(戦競塗装機を含む)をズラッとご紹介しちゃおう！


(Photo：航空自衛隊)

第22飛行隊解散

3月27日

3月27日、松島基地の第22飛行隊が解散、24年の歴史に幕を閉じた。閉隊を記念し、スコードロンカラーの赤を基調にしたスペシャルマーキング機が登場。主翼上面、垂直尾翼、水平尾翼には所属する第4航空団の「4」から4枚の羽根が、インテーク横には「22SQ FINAL」の文字が書き込まれている。

(Photo：坪田敦史)


第3飛行隊のF-1引退

3月14日



(Photo：編集部)



(Photo：編集部)



(Photo：編集部)



(Photo：鈴崎利治)

F-2を運用する最初の飛行隊となった三沢基地の第3飛行隊では、3月14日にF-1のラストフライトが行われた。部隊は23年間に渡ったF-1の運用を記念し、スペシャルマーキング機を登場させた。なお、この機体はF-2が配備された後も保存されており、9月に行われた三沢基地の航空祭でも展示された。写真上はその際に撮影したもの。

YEARBOOK 2001

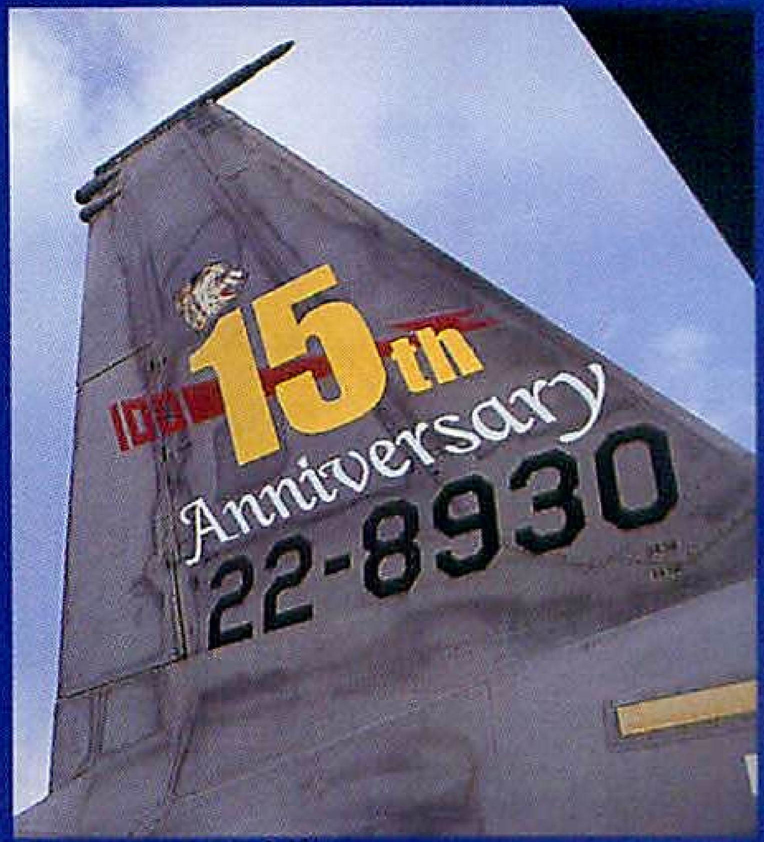
第201飛行隊創隊15周年

3月21日

北海道千歳基地の第201飛行隊が2001年に創隊15周年を迎えた。もともとF-104の部隊として活動をはじめた第201飛行隊はマルヨンの引退に伴い一度は部隊を解散したが、現在使用しているF-15が配備されることになり1986年に再び編成され、この日を迎えた。これを記念しスペシャルマーキング機が登場。垂直尾翼とインテイク左横には15周年を記念するマーキングが入った。

(Photo：編集部)





(Photo：編集部)



(Photo：編集部)

第22航空群14周年記念マーキング

5月13日

海上自衛隊大村航空基地の第22航空群が今年で創設14周年を迎えた。5月13日に行われた開隊44周年記念行事では第22航空群に所属する第122航空隊のSH-60J（8208号機）のソノブイカバーに飛行隊のマークが記念に描かれた。7月には同じマークと「14th ANNIVERSARY」の文字が同隊の8024号機に入っているのが確認された。

(Photo：樋口覚)





(Photo：鈴崎利治)

P-3Cにかわいいマーキング

5月26、27日

海上自衛隊下総航空基地でおこなわれた「下総スカイフェスタ」では全国のP-3C部隊が集結、訪れた人々を喜ばせた。中でも地元、第203教育航空隊のP-3Cの機首左側にはイルカの絵と海上自衛隊のホームページアドレスが記入され注目を集めた。

(Photo：数馬康裕)



シャークマウス・コブラだよ

4月15日

毎年4月に行われる陸上自衛隊航空学校霞ヶ浦分校の航空祭に、今年もシャークマウス付きのAH-1Sが登場した。今年はテイルブームに雷光も入ったバージョンであった。

静浜にも出現した「特別塗装機T-3」

6月10日



(Photo：鈴崎利治)



(Photo：鈴崎利治)



(Photo：鈴崎利治)

T-3の特別塗装は防府の「特許」と思われたが、今年の静浜基地航空祭では2機のハデハデT-3が登場しデモフライトを行った。登場したうちの1機(91-5519)はアメ車も顔負けのファイヤーパターンを全身にまとい、もう1機(01-5529)は機体左側に「SHIZUHAMA AIR FESTIVAL」の文字とかわいいヒヨコを、機体右側には「芙蓉」の文字を描き入れた。



6月30日

第306飛行隊創設20周年記念特別塗装機出現

航空自衛隊小松基地のゴールデン・イーグルこと第306飛行隊は2001年に飛行隊創設20周年を迎えた。これを記念し、戦競塗装機に手を加えた特別塗装機が出現。機首にはイーグルヘッド、主翼上面にはファントムのシルエットをかたどった塗装が施され、9月の航空祭で一般公開される予定であったが、ご存知の通り航空祭は中止となり、11月18日の基地創設40周年記念行事を最後に塗装は落とされた。

(Photo：中井俊治)

T-1Bの“退役記念”特別塗装機

7月

今年3月、芦屋基地での運用が終了したT-1も現在では小牧基地の第5術科学校で運用するのみとなってしまい、B型のみが飛行している。順次、飛行時間の切れた機体が退役しているT-1Bの中で、7月に退役した864号機には垂直尾翼と機首に特別塗装が描き込まれた。この機体、7月13日には浜松基地にフェリーされ退役となり、IRANの部品取りに供された。

(Photo：後藤丈志)



(Photo：山本晋介)



毎夏の風物詩「防府のスペシャルマーキングT-3」だぜっ！

7月22日

ここ10年、防府基地の航空祭名物といったらT-3のスペシャルマーキング機であり、この存在が防府航空祭の名を知らしめているといっても過言ではない。そして2001年の航空祭でも1機のハデハデT-3が登場した。今年は1機のみだったが、防府で教育されている学生を離島に見立てた丁寧なマーキングは評判が高かった。

小松基地40周年記念塗装機2連発！

9月

今年の戦競を第203飛行隊とともに制した小松基地の第303飛行隊。その強さと共に目を引いたのが「フランカー塗装」とも呼ばれた戦競用の特別塗装であった。それをベースにさらに手を加え、本来ならば9月に行われるはずであった航空祭に合わせて基地の創設40周年を祝う塗装をお披露目するはずだったが、同時多発テロの関係で航空祭は中止。いわば"幻"の特別塗装となったのがこのイーグルとT-4である。11月18日に行われた記念行事（非公開）ではかろうじて地上展示されたが、デモフライトはなし。行事後、塗装は落とされ元に戻ってしまった。


（Photo：伊藤久巳）


（Photo：中井俊治）

YEARBOOK 2001 SPECIAL MARKING

アグレッサーにもニューフェイスが続々と登場！

アグレッサーこと飛行教導隊には今年AMRAAM改修機が4機配備された。配備されたのは#083号機、#090号機、#091号機、#092号機で、#083号機は6月21日に配備されたことが確認されており、#091号機は11月26日（写真左）、#092号機（写真右）は11月29日に初飛行している。


（Photo：茨木正美）


（Photo：茨木正美）


（Photo：高野勝博）

優勝チームその①

第305飛行隊





第203飛行隊との同点で優勝を勝ち取った、百里基地の第305飛行隊。機首両側に「武蔵」の文字と垂直尾翼に宮本武蔵の二刀流から2本の刀が大きく描かれた。

SPECIAL MARKING senkyou

（Photo：中井俊治）

2001戦競＆スペシャルマーキング

「基地創設●周年」「部隊●周年」といったスペシャルマーキング機はそう出てこないが、ほぼ毎年現れるのが戦技競技会に参加するスペシャルマーキング機である。部隊の名誉をかけて戦うこの競技に臨むにあたり、部隊では趣向を凝らしたマーキングを施し、勝敗の行方とともに、われわれの目をくぎ付けにする。ここでは今年の戦競に登場した各部隊の代表的な機体を紹介しよう！





フランカー・イーグル、第303飛行隊

今年の戦競で1番注目を集めたのが地元・第303飛行隊のF-15であった。全身を包む、インド空軍のSu-30MKIばりの迷彩塗装は近年まれにみる戦競塗装といえよう。ちなみに戦競後、832号機は機首にドラゴンヘッドの塗装を追加し基地創設40周年記念塗装機となった。また、同時に登場した同飛行隊のT-4特別塗装機の垂直尾翼にも同様の塗装が施された。





電光走る尾翼で参上 第306飛行隊



地元の第306飛行隊は電光が走る垂直尾翼を施した機体で参加。部隊では全部で4機の特別塗装機（916、926、940、962号機）を準備したが、962号機はマイナートラブルのため戦競には不参加だった。962号機はその後の飛行隊20周年記念塗装機となり、さらに派手な塗装を身にまとうことになった。











ワルキューレ復活 第204飛行隊

戦競の特別塗装の歴史を紐解くときに、かならずその名が出てくるのが第204飛行隊の「ワルキューレ」（女神）のノーズアートである。2001年の戦競ではこのワルキューレが3年ぶりに復活、ファンを喜ばせた。参加した3機にはそれぞれ青、赤、緑色の機首左側にシリアスバージョン、右側にはそのデフォルメしたバージョンが描かれた。









前回優勝、FZといったら 第304飛行隊





一昨年に開催された戦競の優勝チーム、第304飛行隊も今回は惜しくも優勝を逃した。この部隊も第201飛行隊と同様、モノトーンのマーキングを描き入れた。垂直尾翼にはグレイのフィンバンドとホームベースである築城基地の空港コードRJFZから取ったFZの文字をシャドー付き記入し、米空軍のF-15風となった。



YEARBOOK 2001

ヒグマのイーグル 第201飛行隊

第203飛行隊の僚友、第201飛行隊は地味めにマーキングを描き入れた機体で参加した。左インテイクのカラーマークと、垂直尾翼と機首には201をかたどったマーキングが入ったちょっと地味目な塗装だった。

優勝チームその②





第203飛行隊

今年のFI部門、F-15カテゴリーは第203飛行隊、第306飛行隊の同点優勝で幕を閉じた。千歳基地の第203飛行隊は昨年、特別塗装を施して参加するとのウワサがあったが今年は参加部隊の中で唯一ノーマル塗装で参加した。そのノーマルさがかえって凄みを感じさせた。



F-4カテゴリー優勝 第302飛行隊

3年ぶりの優勝となった沖縄の第302飛行隊。ファントムによく似合うシャークティースを機首に、インテイクベーンにはアグレッサーを意味するドクロを葬るイラストを描き入れた。また、尾翼にはおなじみ「爆闘」の文字と、ニューバージョン「一番星」も登場した。



こちらもシャークマウスのファントムだ! 第301飛行隊



第302飛行隊との一騎打ちで惜しくも優勝を逃した第301飛行隊もシャークマウスの機体を参加させた。インテイクベーンにはビクトリーの「V」と部隊マークのカエルをもじったマーキングが、隊長機にはプラス白い星が2つ記入された。



フィーバー！総まとめ 2001

COMPLETE FEVER! 2001

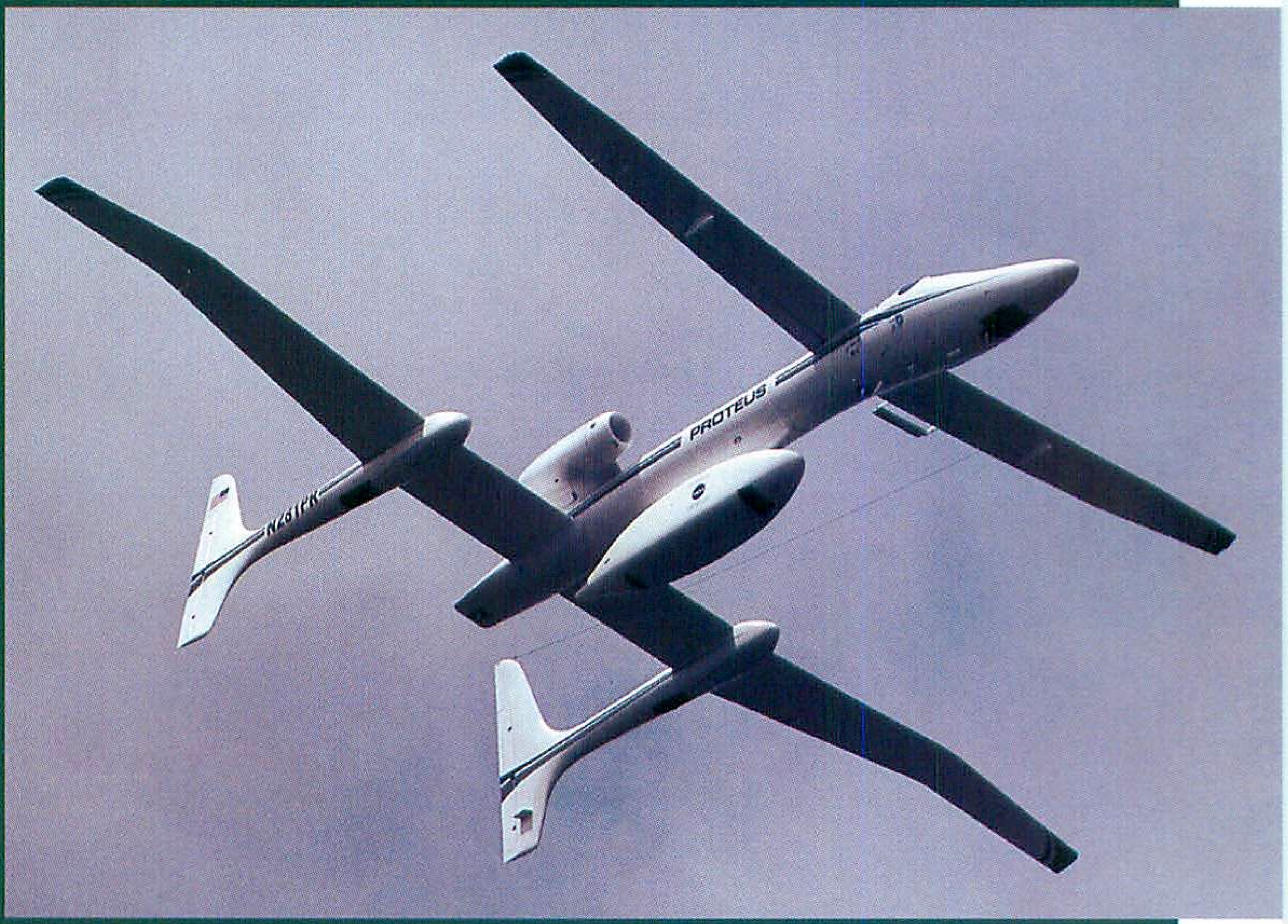
2001年に日本の飛行場に飛来した珍機を一挙掲載

構成／坪田敦史

2001年は、やけに気象観測絡みのフライトが多く、海外からプロテウス、DC-8、EC-130Q、UV-18A、キングエア、キャンベラといった機体が飛来した。いっぽう、海外からのVIP機の飛来は、それほど多くなかった。2000年とは違って、サミットなどの国際イベントがなかったこともあるし、10月に予定されていたアメリカ大統領の来日もキャンセルになってしまった。

編集部にはFEVER宛ての投稿写真が毎日届く。それら多数の投稿写真の中で、編集部のスタッフが「おおー！」っと驚きの喚声を上げる写真が、月に1〜5枚くらいあるのではないだろうか。あらゆる航空機の写真に埋もれながら作業を進めている編集部のメンバーですら、「すっげー！」と驚くような写真だ。FEVERベスト10として、ここで掲載するのは、まさにそんな機体の写真である。「こんな航空機が飛来するよ」という事前情報があれば心の準備も整うが、読者から突然、予想もしない航空機の写真が編集部に届くと、やはりビックリしてしまうものなのだ。

なお、このページでは、1年間の各号フィーバーに掲載した写真とは、できる限り別のカットを使用した。



2001フィーバー BEST 10 第1位

なんとも言えぬ異様なデザインの飛行機、プロテウスがやってきた

《2001年6月号FEVERで掲載》

世の中にこんな飛行機が存在していたこと自体、ほとんどの人は知らなかっただろう。そういう意味では地味とも言えるが、ひと目見たときのインパクトといったら、これ以上の機体はない。まさに怪鳥である。この1年、珍しい航空機はこのほかにもたくさん飛来したが、プロテウスをベスト1に選んだ理由は、①世界に1機しかない飛行機であること、②今後日本に来日する可能性がきわめて低いこと、③異様な形状の飛行機であること、④嘉手納、那覇、横田の3ヶ所で見られ撮影の条件が良かったこと、などがあげられる。3月6日嘉手納基地に飛来、3月12日那覇基地にダイバートで飛来、3月16日横田基地に飛来、3月18日離日した。2001年6月号29ページにも関連記事を掲載。

（写真は3月10日嘉手納基地、細渕達也 撮影／Scaled Composites, LLC PROTEUS N281PR）



2001フィーバー BEST 10 第2位

在韓米陸軍のMH-47E特殊戦ヘリコプター、沖縄で不時着

《2002年1月号FEVERで掲載》

9月11日に発生した同時多発テロ以後、毎日、アメリカ軍の対アフガニスタン作戦の情報収集をしていたが、そんな中、予期せぬニュースが飛び込んできた。沖縄でMH-47E特殊作戦ヘリコプターが不時着したというのだ。米軍特殊部隊の活動に注目が集まっていた矢先のことである。MH-47Eは日本の基地には配備されていない機種だし、在韓米陸軍のヘリコプターが沖縄に展開して訓練を実施することは、過去ほとんど例がないため、第一報が入ったときには「まさか・・・」という感じだった。不時着の翌日には、琉球新報のウェブサイトに機体の写真が掲載され、間違いなく米陸軍のMH-47Eであることを確認した。MH-47Eが日本で見られたのは、今回が初めてだ。事前情報なしに、突然日本に姿を現した飛来機としては、この1年でもっとも驚いた機体だと言ってよい。

（写真は10月12日沖縄県国頭村、金城清敏 撮影／USArmy MH-47E 160SOAR 92-0472）



2001フィーバー BEST 10 第3位

成田空港に降り立った元イギリス軍のキャンベラB.6

《2001年12月号FEVERで掲載》

イギリスが作った独特な航空機が日本で見られるチャンスは、滅多にあるものではないだろう。機齢50年近くになる古めかしい元軍用ジェット機が、成田空港に飛来した。イングリッシュ・エレクトリック・キャンベラB.6である。高高度科学データ収集機として、太平洋地域の気象観測ミッションの最中、日本に立ち寄ったものだ。アメリカ民間籍ではあるが、イギリス軍をリタイヤして間もない機体で、マーキングもほとんど当時のまま。優れた高高度飛行性能を生かして飛び続けている。まさに、大物飛来機であった。

（写真は9月16日成田空港、海谷久利 撮影／Air Platform's Inc. Canberra B.6 N40UP）

2001フィーバー
BEST 10
第4位

オーストラリア空軍のC-130J-30が空自基地に飛来

《2001年5月号FEVERで掲載》

オーストラリア空軍機の飛来は、横田基地や羽田空港などで多く実績があるが、航空自衛隊基地に親善訪問の目的でやってきたのは、珍しい出来事だった。しかも、ハーキュリーズの最新型であり、胴体の長いC-130J-30の、堂々初飛来となった。2月5日グアムから入間基地に到着、2月8日小牧基地へ移動し、2月9日離日した。2001年4月号15ページにも関連記事を掲載。

（写真は2月5日入間基地、坪田敦史 撮影／RAAF C-130J-30 86WG/37sqn A97-467）





2001フィーバー
BEST 10
第5位

レーダーハリアーが日本初展開

《2001年10月号FEVERで掲載》

機首にレーダーを搭載した新型のハリアー、AV-8B Plus（通称レーダーハリアー）が日本に初めて展開することになった。AV-8B Plus は1992年に初飛行して以来、徐々にVMA部隊に配備が進められてきたが、やっと日本でも見られるようになったわけだ。待ち遠しかった。部隊はHMM-265(Rein)を構成するVMA-311の分遣隊(6機)で、WL51～54がAV-8B Plus、WL-55,56がAV-8B(NA)となっている。岩国基地に到着したのは2001年7月15日のことで、11月下旬現在も展開中。

（写真は7月20日岩国基地、島隆 撮影／USMC AV-8B Plus VMA-311 WL-51 b/n.165417?）



2001フィーバー
BEST 10
第6位

派手なカラーリングの気象観測機EC-130Q

《2001年7月号FEVERで掲載》

3月下旬から5月上旬までの間、岩国基地に展開して気象観測ミッションを行った航空機がいた。ホワイトと濃いブルーのカラーリングをまとった、国立大気研究所(NCAR)のEC-130Qである。こんな綺麗なハーキュリーズ見たことがない。偶然スケジュールが重なっただけと思われるが、5月5日に行われた岩国基地フレンドシップ・デーにも展示されて、ちょっとした話題になった。なお、同時に岩国基地に展開してミッションを実施していたUV-18Aも珍機ではあるが、ド派手なハーキュリーズほどインパクトは強くなかったので、ベスト10からは外れてしまった。

（写真は4月2日岩国基地、梶山隆一 撮影／NCAR EC-130Q N130AR）



2001フィーバー
BEST 10
第7位

ロービジ塗装のSH-60Kが登場

《2001年12月号FEVERで掲載》

2000年末頃から名古屋空港で目撃され始めたSH-60K(SH-60J改)の1号機は、赤／白の塗装だった。試験機ということで、それはビックリするほどのことではなかったが、2001年9月25日に初飛行した2号機は、従来のSH-60Jのカラーリングとは異なる薄いグレーのロービジ塗装になっていたのだ。これは、驚きである。この塗装が制式採用になれば、ホワイトを基調とした海上自衛隊機のイメージが変わることになりそうだ。

（写真は9月25日名古屋空港、太田潔 撮影／MITSUBISHI SH-60K 8402）

2001フィーバー
BEST 10
第8位

珍しいスウェーデン空軍VIP機の飛来

《2001年7月号FEVERで掲載》

軍用機としてはパッとしない機体かもしれないが、VIP機ファンにとっては、今年日本に飛来したVIP機の中で珍しさ1～2位を争うほどの機体がコレ。スウェーデン空軍のガルフストリームIV-SP(Tp102A)だ。これまでスウェーデンのVIPは、たいていスカンジナビア航空(SAS)の定期便などを利用して来日していたため、空軍機の飛来は意外であった。機体のカラーリングはガルフストリーム社の面影を残した民間ライクな塗装であるが、スウェーデン空軍のタイトルや国籍マークがしっかり記入されているので、軍用機だということはすぐに分かる。スウェーデン環境相の乗機として、4月9日羽田空港に飛来した。

（写真は4月10日羽田空港、海谷久利 撮影／Swedish AF Tp102A F16M 102004/024）





2001フィーバー BEST 10 第9位

偵察仕様のF/A-18Dがお目見え

《2001年11月号FEVERで掲載》

機首に偵察システムを搭載したホーネットが初めて日本に飛来した。米海兵隊のVMFA(AW)-224所属F/A-18D(ATARS)である。7月下旬から嘉手納基地に姿を見せ、その後、普天間基地に展開。岩国基地や厚木基地などにも飛来した。11月上旬、VMFA(AW)-224はアフガニスタン方面に展開しているという情報もある。ATARSは、これからは一部のF/A-18Dでは標準仕様となるが、このようなホーネットの存在を知らなかった人も多く、もの珍しかったのではないだろうか。

(写真は8月24日嘉手納基地、久場悟 撮影/USMC F/A-18D(ATARS) VMFA(AW)-224 WK-09 b/n.164729)

2001フィーバー BEST 10 第10位

アンゴラの政府専用機、ナナマルが来た

《2001年4月号FEVERで掲載》

ベスト10に入れておきたい機体の選定は、実に迷うところだ。ベスト9まで選んだあと、残った数枚の候補の中から選ばれたのは、羽田空港に飛来したアンゴラ政府のボーイング707の写真である。ナナマルというクラシカルな飛行機は、密かな人気がある。また、アンゴラからのVIPなど滅多に来ることがないだけに、2001年の珍飛来機として記憶しておくことは重要だ。

(写真は1月29日羽田空港、橋本裕明 撮影/REPUBLCA DE ANGOLA B.707-3J6B D2-TPR)





2001年・正体不明の怪しい飛行機で賞

《2001年9月号FEVERで掲載／撮影 久場悟》

アメリカ軍の真っ白いボーイング757

2001年6月14日、嘉手納基地に飛来したアメリカ軍の国籍マークを付けた真っ白いボーイング757。この機体についての情報は、その後も調べを進めているが、まだはっきりしたことは分かっていない。最近は、対アフガニスタン作戦の絡みで中央アジア方面にフライトを行っていることが確認されている。米空軍EC-137の後継機という説がもっとも有力だが、それを裏付ける証拠はない。ただ白いだけと言われればそれまでかもしれないが、やっぱりこの機体、怪しいのだ。

YEARBOOK 2001

2001年・ユニークなショットで賞

《2001年4月号FEVERで掲載／撮影 丸山大介》

地上から撮影した巡航中の空中給油シーン

2001年1月4日、福岡上空を巡航飛行するアメリカ空軍のKC-10A空中給油機とF-16戦闘機、6機を地上から撮影した。なんと！空中給油を行っている(タンキング)シーンだ。4月号の記事中では在韓米軍機の可能性が高いと書いたが、その後の調べで、三沢基地(35FW)のF-16が中東に展開するために移動中だったもようだ。丸山さんによると、偶然目撃して、すぐに撮影したとのこと。KC-10AとF-16のシルエットがはっきり分かる画像で撮影できた点がすごい。



タイムリーに掲載できなかった2001年の珍しいVIP機

珍しい航空機が日本のどこかの空港に飛来しても、必ず読者からの投稿があるわけではない。投稿がなかった珍しい機体も、いくつか確認されている。
ここでは、タイムリーにFEVER！に掲載できなかったVIP機3機の写真を集めることができたので、記録として掲載しておこうと思う。



マレーシア空軍のグローバルエクスプレス

〔新潟空港〕

2001年6月2日、新潟空港に飛来したマレーシア空軍のBD700-1A10グローバルエクスプレス(M48-01)。マレーシア空軍がVIP機として新しく導入した機体で、所属部隊はスバン基地(旧クアラルンプール国際空港)の第2飛行隊。99年11月頃にデリバリーされたばかりの新造機だ。マレーシアの王室関係者がサッカーのコンフェデレーションズカップの観戦に訪れたもの。
Royal Malaysian AF BD700-1A10 2sqn. M48-01
(写真：五十嵐栄二)



アイルランド軍航空隊のガルフストリームⅣ

〔成田空港〕

2001年3月10日、成田空港に飛来したアイルランド軍航空隊のガルフストリームⅣ(251)。所属部隊は第1支援航空団の輸送・訓練飛行隊。アイルランド副首相の非公式来日に関連してのVIPオペレーションだったらしい。
Irish Air Corps GulfstreamIV Transport&Training Sqn. 251
(写真：竹内裕一)



夜間にひっそり飛来したベネズエラ空軍の737

〔関西空港〕

2001年6月1日夜、関西空港に駐機するベネズエラ空軍のボーイング737-2N1 Advanced(FAV0001)。1976年製造の737-200で、以後ずっとベネズエラ空軍で使われているベテラン機だ。ベネズエラ空軍ではVIP機として使用しており、東南アジアを訪問していた大統領の乗機だったようで、給油のため関西に立ち寄った。所属部隊は第4輸送航空団第41飛行隊。機体の製造番号は21167。
Venezuelan AF(FAV) B.737-2N1(A) GAT4/Esc41 0001(写真：エックス)

2001年に日本の飛行場に飛来した海外の軍用機・政府専用機・VIP機

(1月～10月)

*飛来地に示した日付は、原則として到着した日を記したが、到着日が不明な機体については滞在が確認された日を記してある。
*掲載号の「JW01/04」は2001年4月号の意味。

機種	国	レジ(シリアルナンバー)	飛来地	掲載号
B.707-3J6B	アンゴラ政府	D2-TPR	羽田空港(1/28)	JW01/04
KC-137	ブラジル空軍	2404	名古屋空港(1/11)	JW01/04
B.777-2AN(ER)	サウジオジェール社	VP-BRH	羽田空港(2/5)	JW01/05
A310-304	モンゴル航空	F-OHPT	羽田空港(2/13)往路	JW01/05
B.727-281	モンゴル航空	JU-1037	名古屋空港(2/18)復路	掲載なし
Falcon900	ユーゴスラビア政府	YU-BNA	羽田空港(2/5)	JW01/05
A310-222	ベルギー空軍	CA-02	羽田空港(2/22)	JW01/05
GulfstreamIV	アイルランド軍航空隊	251	成田空港(3/10)	掲載なし(このページ参照)
A319-133CJ	イタリア空軍	MM62174	羽田空港(3/10)	掲載なし
C-130J-30	オーストラリア空軍	A97-467	入間基地(2/5)、小牧基地(2/8)	JW01/05
GulfstreamIV	マレーシア政府	9M-ABC	名古屋空港(4/7)	掲載なし
Tp102A	スウェーデン空軍	102004	羽田空港(4/10)	JW01/07
CH-124A	カナダ国防軍	12428	名古屋空港(4/18)、横須賀港、厚木基地	JW01/07
B.727-2N6(A)	ナイジェリア政府	5N-FGN	羽田空港(5/21)	JW01/08
Tu-154M	タジキスタン航空	EY-85651	羽田空港(5/17)	JW01/08
A320-232	カタール・エーミリ・フライト	A7-AAG	青森空港(5/13)	JW01/09
GulfstreamV	クウェート政府	9K-AJE	青森空港(5/14)	JW01/09
B.737-2N1(A)	ベネズエラ空軍	FAV0001	関西空港(6/1)	掲載なし(このページ参照)
BD700-1A10	マレーシア空軍	M48-01	新潟空港(6/2)	掲載なし(このページ参照)
B.757-225	メキシコ空軍	TP-01	羽田空港(6/5)	JW01/09
Falcon900	南アフリカ空軍	ZS-NAN	羽田空港(10/1)	JW01/12
A330-341	ガルーダ・インドネシア航空	PK-GPG	羽田空港(9/29)	JW01/12
AS565MA	フランス海軍	466	東京港(10/16)	JW02/01
A340-211	カタールエイミリフライト	A7-HHK	羽田空港(10/23)、関西空港(10/21)	掲載なし

2001年、こんな出来事もあった!

YEARBOOK 2001

しめくくりは 陸海空ミリタリー年表と新旧交代イベントだ!

近年、中期防(中期防衛力整備計画＝5年ごとに、防衛力整備の内容を見直し、経費の総額を定めるもの)にしたがい、部隊や機材の合理化、再構築が進められている自衛隊では、2001年も陸海空自衛隊で機材の新旧交代や部隊の再編成が行われた。鮮やかな特別塗装機で締めくくられる新旧交代劇や部隊行事は特集前半でご紹介したが、ここではそれ以外にも着々と進められていた2001年の行事やイベントをご紹介しておきたい。

空自パイロット3000人の育ての親 T-1A練習機が退役

2月1日

戦後初めての国産ジェット練習機として生まれ、1960年9月以来過去40年にわたり航空自衛隊パイロットの練習機として活躍してきたT-1Aが、福岡県芦屋基地第13飛行教育団でラストフライトを迎え、退役した。T-1Aは空自パイロット初級操縦課程の中で、レシプロ機からジェット機へとステップアップする際に初めて乗るジェット練習機として、機種に関係なく過去3000人のパイロットが経験した機体だった。40年の歴史を閉じたT-1Aの退役により、今後、ジェット練習機としてはT-4に一本化されることになる。



2月1日、芦屋基地で退役のラストフライトをしたのは812、816号機。通常通りの訓練飛行を終え、大勢の隊員が見守る中、それぞれタッチアンドゴーを行い、有終の美を飾った(写真/小栗義幸)

海上自衛隊に新P-3部隊誕生! 第91航空隊

3月5日

3月5日、それまで海上自衛隊岩国航空基地に配備されていたP-3C部隊、第8航空隊が解隊されたのに伴い、新しく第91航空隊が誕生した。第91航空隊は、艦艇の行う対空射撃訓練や電子戦訓練の支援を担当。これまで第81航空隊が行っていた電子戦データ収集を分離させて担当する形で運用を開始した。保有機はU-36A、UP-3D、LC-90など3機種。新航空隊誕生に伴い、「鷲」をモチーフにした新しい部隊マークも制定された。



VC-91パッチ。「鷲」は、強さの象徴を表し、「ミサイルと鷲」は艦艇部隊の脅威とそれを援護する部隊をイメージ、「赤い目」はU-36Aのシーカを、「稲妻」は電子戦の電子を、「帯」はチャフを表している。

海上自衛隊、最後の「救難型S-61」退役

3月6日

海上自衛隊の救難型ヘリコプターとして1963年から13機が配備されていたS-61Aは、近年、UH-60Jへの世代交代が進んでいたが、3月6日、最後の1機となっていた硫黄島航空基地隊のS-61A(52号機)が厚木航空基地に帰還、翌7日に同基地から最終フライトを行い、そのまま引退となった。今後、硫黄島航空基地隊では3機のUH-60Jがその任務を受け継いで活躍する。

最終フライトの後、すぐに解体されてしまった、赤とグレーのボディのS-61A。かつて日本中の空で活躍していたこの機体を、もう見ることはない(写真/柿谷哲也)



空自空中給油・輸送機はボーイング767T/Tに決定か!?

12月

航空自衛隊の「空中における航空機に対する給油機能および国際協力活動にも利用できる輸送機能を有する航空機」こと空中給油・輸送機の選定では、伊藤忠商事提案のボーイング767T/Tと丸紅提案のA310MRTTとの一騎打ち状態だが、最終的な機種決定は12月中旬とのことで、残念ながら12月13日現在、お伝えすることはできない。しかし、すでに空自で運用しているE－767AWACS(早期警戒管制機)との共通項目の高い767T/T選定が有力視されている。決定後は2005年度までに4機の整備が予定されている。



伊藤忠商事提案のボーイング767T/TとAWACSランデブー・フライトの想像図。勝敗はいかに!?(イラスト/ボーイング)

次期艦載哨戒ヘリコプターSH-60Kデビュー

8月8日

海上自衛隊の次期艦載哨戒ヘリコプター、SH-60J改ことSH-60Kの試作第1号機が、8月8日、名古屋の三菱重工小牧南工場でロールアウトした。SH-60Kは、現在、全国の海上自衛隊で約80機が活躍している艦載ヘリコプターSH-60Jをベースに、対潜戦、対水上戦闘能力、警戒監視能力、多用途性、安全性などすべての向上を目標に開発された哨戒ヘリで、今後、小牧飛行場をベースに各種運用試験を実施した後、2002年7月に自衛隊へ納入される予定だ。



現在のSH-60Jとの外見上の違いは、各種機器の搭載で延長されたノーズ、キャビンの拡大、メインローターの形状変更など。魚雷やミサイル搭載可能など、自衛能力も付加されている(写真/中井俊治)

陸上自衛隊初の空中機動旅団、「第12旅団」誕生!

3月27日

1996～2000年度の前「中期防」に基づいて、陸上自衛隊では、第12師団が「旅団」化されることになり、3月27日、群馬県にある相馬原駐屯地で新生第12旅団の編成完結式と、新編される第48普通科連隊への隊旗授与式が行われた。第12旅団では従来の定員7000名から約4000名とコンパクトになり、重装備を減らしてヘリコプターを増やした「空中機動性を高めた旅団」となった。現中期防(2001～2005)中期防でも、北海道の第5師団と四国の第2混成団がそれぞれ旅団化されることになる。

第12ヘリコプター隊は、OH-6Dの本部付隊、UH-60JAの第1飛行隊、CH-47Jの第2飛行隊で構成されている。写真は本部付隊所属のOH-6D(写真/編集部)



2001年陸海空自衛隊ミリタリー年表

1月

6日～/陸海空自衛隊「飛行始め」開始

6日/ 防衛庁調達本部閉鎖

2月

1日/ 戦後初の国産ジェット練習機T-1A退役。福岡県芦屋基地第13飛行教育団にてラストフライト

2日/ 海上自衛隊、韓国海軍と関東南方海域にて親善訓練

5日/ 陸自の「インド国際緊急援助物資隊」、空自の「インド国際緊急援助空輸隊」インドに向け出発

5日～/海上自衛隊と米海軍、周防灘で掃海特別訓練を実施。～17日

9日/ ブルーインパルス、約7カ月ぶりに飛行訓練再開。

14日/ ロシア空軍機Tu-22Mバックファイアなど4機が北海道礼文島北方の領海上空で領空侵犯

14日/ 千葉県市原市の館山自動車道姉崎袖ケ浦インターチェンジ付近で陸自第4対戦車ヘリ隊所属のAH-1SとOH-6Dが空中接触、乗員2名が死亡

14日/ 海自の護衛艦「あまぎり」、インドで行われた国際観艦式に参加、親善訓練を実施

17日/ 陸自、国連平和維持活動(PKO)第11次隊隊員全員が中東・ゴラン高原入り

23日/ 川崎重工、OP-3C初号機を海上自衛隊に納入、海自岩国航空基地第51航空隊に配備

23日～/海自、平成12年度外洋練習航海を実施。～3月29日

3月

1日/ 自衛隊の船舶検査法施行

1日/ 防衛庁技術研究本部が「次期固定翼哨戒機および次期輸送機開発準備室」を発足

5日/ 海自、岩国航空基地の第8航空隊解隊

5日/ 海自、岩国航空基地に新しいP-3Cの航空隊「第91航空隊」発足

6日/ 海自最後の救難型S-61が退役

10日/ 陸自明野駐屯地航空学校教育支援飛行隊創立24周年記念行事

12日/ ブルーインパルス、アクロフライト訓練を開始

14日/ 空自第3飛行隊のF-1ラストフライト

16日/ 空自秋田救難隊にMU-2の後継機としてU-125が配備、記念式典実施

17日/ 空自第22飛行隊解隊記念行事

21日/ 空自第201飛行隊創隊15周年記念行事

21日/ 海自、海上保安庁の合同捜索訓練を静岡県沖の遠州灘で実施

24日/ 海自舞鶴飛行場運用開始

27日/ 陸自相馬原駐屯地で陸自初の空中機動旅団、第12旅団の編成完結式実施、相馬原飛行場運用開始

27日/ 空自第3飛行隊F-2編成完結式

27日/ 空自第22飛行隊解隊

27日/ 陸自明野駐屯地に陸自初の航空実験隊が発足

27日/ 空自統幕議長に竹河内捷次空将、航空幕僚長に遠竹郁夫空将が就任

27日/ 海上幕僚長に石川亨海将が就任

27日/ 自衛隊に初の女性将官誕生(総括診療幹事に就任した佐伯光海将補)

4月

11日/北海道礼文島西方と青森県久六島西方の日本海上空でロシア軍機が2度にわたり領空侵犯

16日/ 空自第2航空団、無事故飛行時間10万時間を達成

23日～/空自と在日米軍による日米共同訓練を沖縄本島の訓練空域で実施。～27日

26日/ 小泉内閣発足に伴い、第64代防衛庁長官に中谷元氏が就任

5月

16日/ 海自の護衛艦部隊などが平成13年度米国派遣訓練に参加。

16・17日/福岡県八女郡星野村で山林火災が発生、陸自第4師団、空自西部航空方面隊が消火活動のため出動

19日/ 滋賀県蒲生郡で山林火災が発生、陸自第3戦車大隊のヘリが消火活動のため出動

21日～/航空自衛隊、平成13年度戦技競技会実施 ～29日

6月

1日/ 海自の潜水艦「なだしお」が退役

3日/ 陸自、第6師団が宮城県王城時原演習場にて東北方面隊総合戦闘射撃訓練を実施、一般公開

11日～/空自の第2航空団と警戒航空隊がグアムで日米共同訓練「コープノース2001」に参加。～22日

11日～/ 海自の掃海母艦「ぶんご」が、15カ国の海軍が参加する「第1回西太平洋掃海訓練」に参加。～22日

25日/ 北海道島松射爆撃場上空で訓練中の第302飛行隊のF-4EJ改が20mm機関砲の訓練弾を誤射

27日/ 海自、航空施設隊を廃止し、八戸航空基地に機動施設隊を新編。

30日/ 空自小松基地第6航空団第306飛行隊が創立20周年行事を実施

7月

6日/ 防衛庁の「市ヶ谷台ツアー」見学者が5万人を達成

16日/ 空自、米空軍主催の演習「コープサンダー」に参加。～27日

17・18日/東京との総合防災指揮所訓練(CPX)「ビッグレスキュー東京2001-首都を救え-」に陸海空自衛隊が参加

26日/ 海自、平成10年度計画で建造されていた4600トン型護衛艦「たかなみ」の命名・進水式を実施

23日/ 海自、対潜水艦訓練の習熟のため、九州南方海域で、米海軍と共同での対潜特別訓練(ASWEX)を実施

31日～/空自の第6航空団・第7航空団・中部航空警戒管制団が米海軍第5空母航空団と共同訓練を実施。～8月10日

8月

8日/ 三菱重工が小牧南工場で、哨戒ヘリコプター(艦載型)SH-60J改(SH-60K)・試作1号機のロールアウト式典を実施

20日/ 海自の潜水艦救難艦「ちはや」、ハワイで沈没した実習船「えひめ丸」の船内捜索のためハワイ・オアフ島到着

25日/ 大地震を想定し、国会議事堂前で陸自のAS332L、UH-1の離着陸訓練実施。内閣官房、警察庁、防衛庁などが約30人参加

26日/ 空自、松島基地航空祭でブルーインパルスが4機でアクロフライトを再開

26日/ 海自、第71航空隊US-1A、第6航空隊P-3Cが行方不明だった漁船「繁栄丸」の乗組員を救助

27日/ 防衛庁、陸上自衛隊の新しい戦闘ヘリコプターとしてボーイングAH-64D選定を発表

31日/ 空自飛行開発実験団のF-2の機体パネル、安全ピンが洋上に落下

31日・9月1日/陸自、平成13年度富士総合火力演習を実施、一般公開。2日間で約6万人が見学

9月

1日/ 陸海空自衛隊、東京都の「平成13年度総合防災訓練・ビッグレスキュー」に参加

7日/ 陸上自衛隊白河布引山演習場で第6師団特科連隊の155mm榴弾砲が着弾地点を6km越える誤射

11日/ 米同時多発テロ発生

12日/ 北海道占冠村の土砂崩れで第2師団第2飛行隊のOH-6、UH-1が救援活動

13日/ 空自の平成13年度高射部隊年次射撃を米ニューメキシコ州で実施

13日/ 台風15号の影響で給水不可能になった沖縄県渡名喜島へ、陸自第1混成団第101飛行隊が人員、器材輸送を実施

20日/ 三菱重工長崎造船所で平成10年度計画4600トン型護衛艦「おおなみ」の命名・進水式実施

29日/ 小泉首相が陸自ヘリAS332Lで三宅島を視察

10月

1日/ 米海軍空母キティホーク、「不朽の自由作戦」に呼応し横須賀を出航

4日/ 三菱重工神戸造船所で平成10年度計画2700トン型潜水艦「なるしお」の命名・進水式実施

6日/ アフガン難民への人道的な国際援助活動のため、空自小牧基地のC-130H 6機が出発

19日/ 海自のUH-60J、硫黄島の噴火口偵察を実施。空自のU-4、海上気象庁支援のため人員輸送を実施

20日/ 海自、関東南方海域で親善訪問中のフランス海軍艦艇と親善訓練を実施

31日/ 日立造船株式会社神奈川工場で平成11年度計画の掃海艇「いずしま」の命名・進水式実施

11月

9日/ 情報収集のため護衛艦「くらま」「きりさめ」補給艦「はまな」などがインド洋に至る海域への派遣のため出港

14日～/海自、砕氷艦「しらせ」による第43次南極地域観測協力を実施、東京出発。～4月13日。

12日～/陸自、北海道大演習場、真駒内駐屯地、東千歳駐屯地で平成13年度米海兵隊との実働訓練を実施。～26日

19日～/海自、日向灘で米海軍と掃海特別訓練を実施。～30日。

25日/ 対テロ対策特措法に基づき、初の海外派遣部隊として護衛艦「さわぎり」掃海母艦「うらが」補給艦「とわだ」が出港

26日/ 次期固定翼哨戒機(PX)と次期輸送機(CX)の技術開発担当企業、主担当が川崎重工に

12月

2日/ 対テロ対策特措法に基づき、海自艦艇、インド洋で米海軍艦艇への補給を開始

3日～/空自、日米共同訓練を実施。空自の第6航空団と中部航空警戒管制団、米海軍第5空母航空団(CVW-5)。～7日

3日/ 対テロ対策特措法に基づき、空自、小牧基地第1輸送航空隊が米軍協力支援活動としてC-130の物品等輸送を開始

徹底追跡 パート3

不朽の自由作戦

オペレーション・エンデューリング・フリーダム

構成・文／坪田敦史

All Photos : U.S. Military Offical Image

12月2日、アフガニスタン、カンダハル近郊の展開地で整備を受ける米海兵隊のCH-53Eスーパースタリオン。カリフォルニア州キャンプ・ペンドルトンを本拠地とする第15海兵遠征部隊に所属する



米海兵隊投入！ カンダハルにキャンプ・ライノ設置

作戦もついに終盤戦か？



南西アジアの洋上を航行するUSSセオドア・ルーズベルト(CVN 71)。CVW-1に所属する各機のほか、CH-46Eシーナイト、2機の姿が見える。12月6日配信の写真



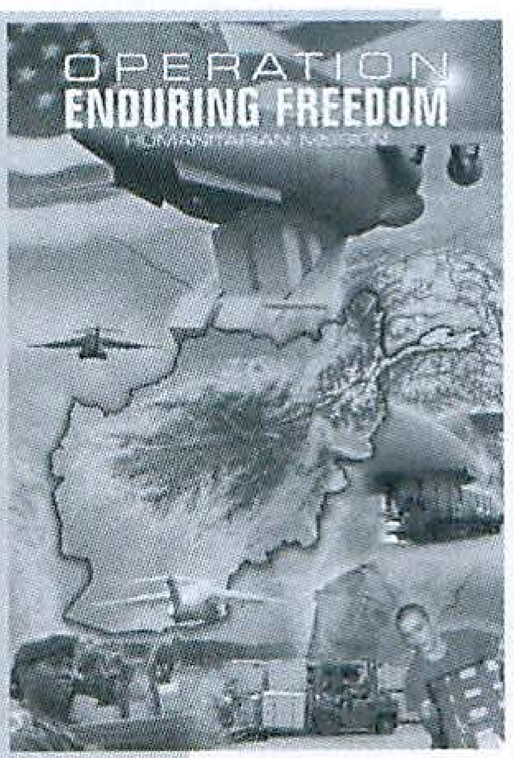
人道支援物資を搭載したC-17A 輸送機とそれをエスコートする航空機に対する空中給油ミッションを実施するため、出発準備を進める米空軍のKC-135空中給油機。コクピットでプリフライト・チェックを行う機長と女性の副操縦士



アメリカ本土のホワイトマン空軍基地からノンストップでアフガニスタン空爆を行い、その後、ディエゴガルシア島に着陸した米空軍・第509爆撃航空団のB-2Aスピリット。作戦開始初期に投入された機体だと思われるが、この写真が公開されたのは最近

人道支援物資を搭載する米空軍C-17Aグローブマスター III 輸送機の機内。作戦初期は高空からの投下ミッションとなったため、ロードマスターは酸素マスクを装着した。難民の多い、北アフガニスタン、南西アフガニスタンなど広範囲で物資投下が行われた。





米軍が作成したアフガニスタンにおける人道支援ミッションを宣伝するポスター



第15海兵遠征部隊の大隊上陸チーム1/1（第1海兵遠征連隊第1大隊）のB中隊第2小隊の兵士。着陸したVMGR-352のKC-130R（b/n.160016）から海軍のヘリコプター2機に給油作業お行うため、地上で給油ホースの準備を行っているシーン

タリバンとテロ組織アルカイダの掃討作戦「オペレーション・エンデューリング・フリーダム」は、11月から12月にかけて、大きな進展が見られた。北部同盟と反タリバン勢力による"タリバン潰し"が予想以上に成果が上がり、米軍も次々に攻撃範囲を広げていった。

北部同盟と反タリバン勢力は、11月12日にヘラートを制圧、11月13日に首都カブールを制圧。この時点でタリバン政権は崩壊したといえる。米英軍は、ラマダンに入ってからも作戦を急ピッチで続行した。そして11月25日、カンダハル近郊に米海兵隊を投入し、カンダハルの南60マイルの飛行場を完全に制圧。アフガニスタン国内に大規模な前進基地の建設に成功した。基地の名称は「キャンプ・ライノ」。

12月7日、タリバンがカンダハルを明け渡し、タリバン組織は事実上、崩壊した。その後、米軍の作戦は、オサマ・ビンラディンが潜んでいると思われる洞くつ地帯、東部ジャララバード近郊トラボラ地区へ集中している。アフガニスタン国内に展開する米軍部隊は総勢1500～2000人規模と思われる。

なお、被災民救援のため11月25日横須賀を出港した海上自衛隊の掃海母艦「うらが」は、12月12日、パキスタン南部のカラチに入港した。その後2～3日間で物資を下ろし、31日に帰国する予定だ。また、12月12日、在日米海軍司令部は、アフガニスタン攻撃に参加している空母キティホークが12月10日ころ作戦海域を離れ、25日までに横須賀に戻る予定であると発表した。バトルグループの駆逐艦カーチスウィルバーとフリゲート・ゲアリーも戻る。これは、同空母が特殊部隊の洋上展開基地としての機能を果たし終えたことに加えて、空母ジョンC.ステニスが作戦海域に入ったためだろう。今月は、米軍が公表した写真を中心にリポートしよう。（12月13日まとめ）



RQ-1Aプレデター無人機のオペレーションは、"不朽の自由"作戦開始後、52日目に4600ソーティ以上を達成した。写真は米空軍・第57航空団第11偵察飛行隊のRQ-1A（97-3034）。翼下に「U.S.ARMY」の文字が記入された空対地ミサイル、AGM-114ヘルファイアを搭載している。



11月9日、出撃前のプリフライト・チェックを行う米空軍・第57航空団第11偵察飛行隊（ネバダ州インディアン・スプリングス）のRQ-1Aプレデター無人機（96-3022）。撮影場所は不明



USSペリリューから発艦するHMM-163（Rein）のAH-1Wスーパーコブラ（YP-41、44）



11月29日のC-17Aのフライトで、アフガニスタン難民に対する人道支援ミッションによって、200万個の物品(HDR)を投下した。写真はドイツのラムシュタイン空軍基地で、投下物資を見せるC-17Aのロードマスター。バックのC-17A(96-0001)は第437空輸航空団の所属。HDR=Humanitarian Dairy Rations



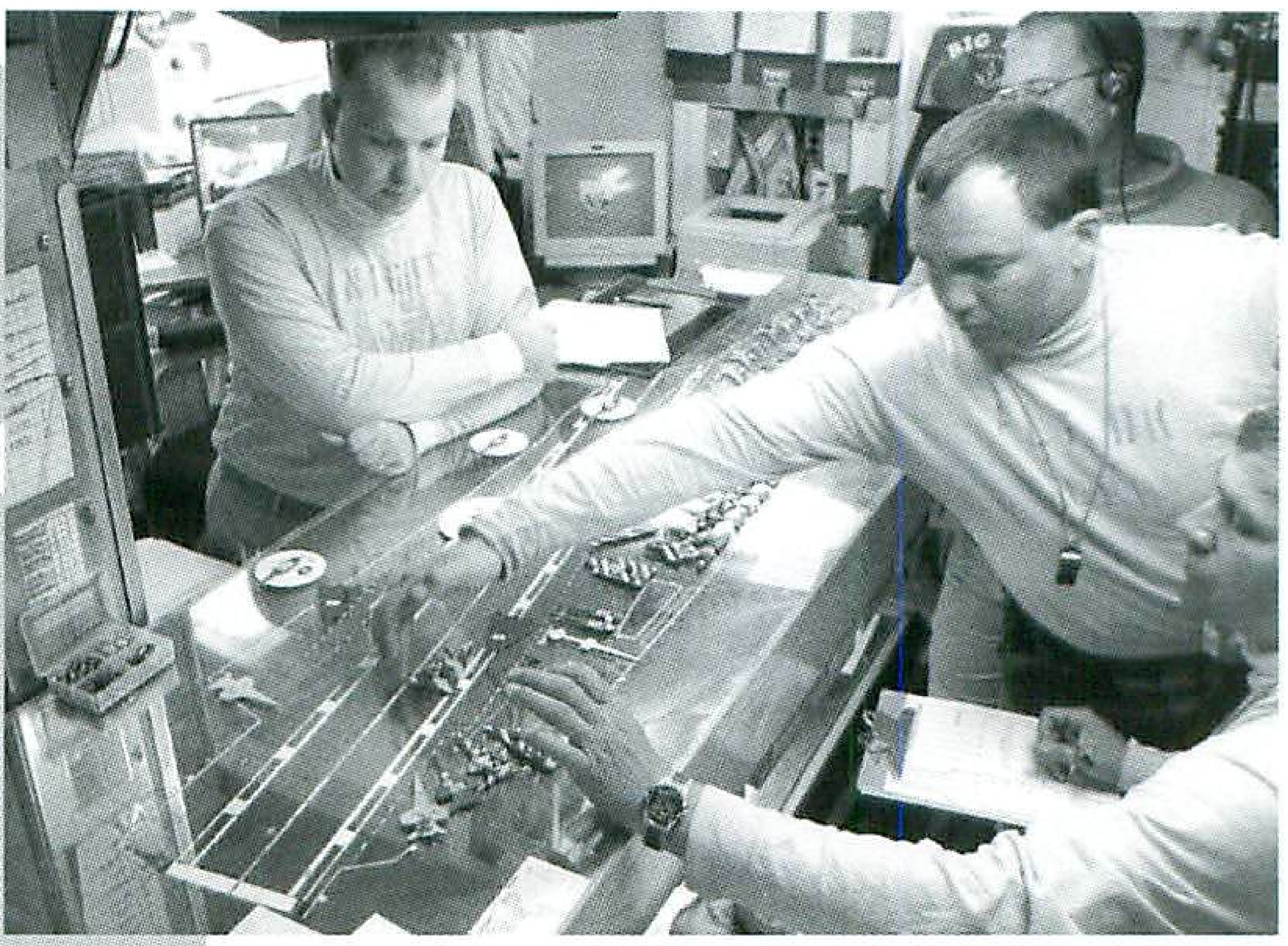
空母セオドア・ルーズベルト(CVN 71)の戦闘指揮所(CDC)で"不朽の自由"作戦を支援するクルー。12月3日配信の写真



HMM-163(Rein)のCH-53E(YP-22)で展開地点に到着した第15海兵遠征部隊・第1海兵師団の兵士。場所は不明



空母カールビンソンを発艦するVFA-22(NH-314)のF/A-18Cホーネット。主翼下に1000ポンド誘導爆弾が搭載されている。11月17日配信の写真



空母セオドア・ルーズベルト艦上でデッキオペレーションを管理するフライトデッキ・コントローラー。11月14日配信の写真



10月13日、強襲揚陸艦ペリリューの艦上で米海兵隊のAH-1WにLAU-61ロケット弾ポッドを搭載するメンテナンスクルー。19連装のポッドには実弾がぎっしり詰まっている



空母カールビンソン艦上でオペレーションを行う電子戦クルー。11月13日配信の写真



南アフガニスタンに展開した米海兵隊・第15海兵遠征部隊。カリフォルニア州キャンプ・ペンドルトンを本拠地とする部隊だ。11月25日、アフガニスタン国内に前線基地を設けた



空母セオドア・ルーズベルト艦上で、通常爆弾を搭載するVMFA-251のF/A-18Cホーネット。海兵隊のVMFA-251は、CVW-1に編入されている。11月12日配信の写真



11月3日、アラビア海を航海中の強襲揚陸艦ペリリューを発艦する米海兵隊・第15海兵遠征部隊のAV-8BハリアーⅡ攻撃機(VMA-223)。主翼下に4発の500ポンド爆弾を搭載している



アフガニスタン南部に設けた米海兵隊のキャンプ・ライノ。基地建設に必要な作業車両のほか、CH-53EスーパースタリオンとAH-1Wスーパーコブラが展開している。12月2日配信の写真



F/A-18とS-3でフライトデッキを埋め尽くした空母セオドア・ルーズベルト。11月14日配信の写真



洋上を航行するルーズベルト空母機動部隊(CVBG)。写真右は空母ルーズベルト(CVN 71)、中央は高速戦闘支援艦サクラメント(AOE 1)、左は巡洋艦ベラ・ガルフ(CG 72)



11月25日、第15海兵遠征部隊の大隊上陸チーム1/1のC中隊の兵士が南アフガニスタンの基地に陣地を築き、アメリカの旗を最初に立てるシーン。撮影場所は明らかにされておらず、ここがキャンプ・ライノかどうかは確認できない。このときから、"Operation Swift Freedom"が始まったとしている



強襲揚陸艦バターンから作戦の拠点に展開した米海兵隊・第26海兵遠征部隊。米空軍のC-17Aによって必要な物資が輸送された。12月2日配信の写真

12月2日、空母キティホークを発艦するVFA-192のF/A-18ホーネット戦闘攻撃機(NF-302)。横須賀を母港とするキティホークは、12月10日頃、作戦海域を離れ、帰路についた



アフガニスタンでのミッションを追え、ドイツのラムシュタイン空軍基地に帰投中の C-17A。操縦士の前にヘッドアップディスプレイが付き、スティック式の操縦桿を備えたコクピット。前方にはもう1機の C-17Aが見える

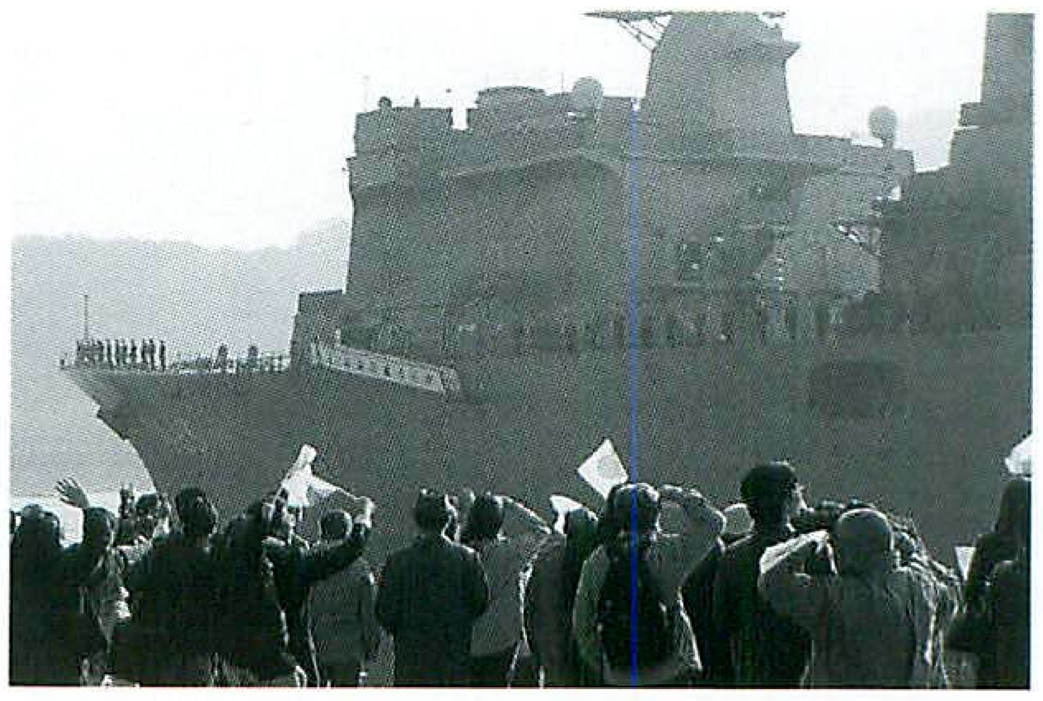




インド洋上で、第28遠征航空団のB-1Bに空中給油を行う米空軍KC-10Aのブームオペレーター



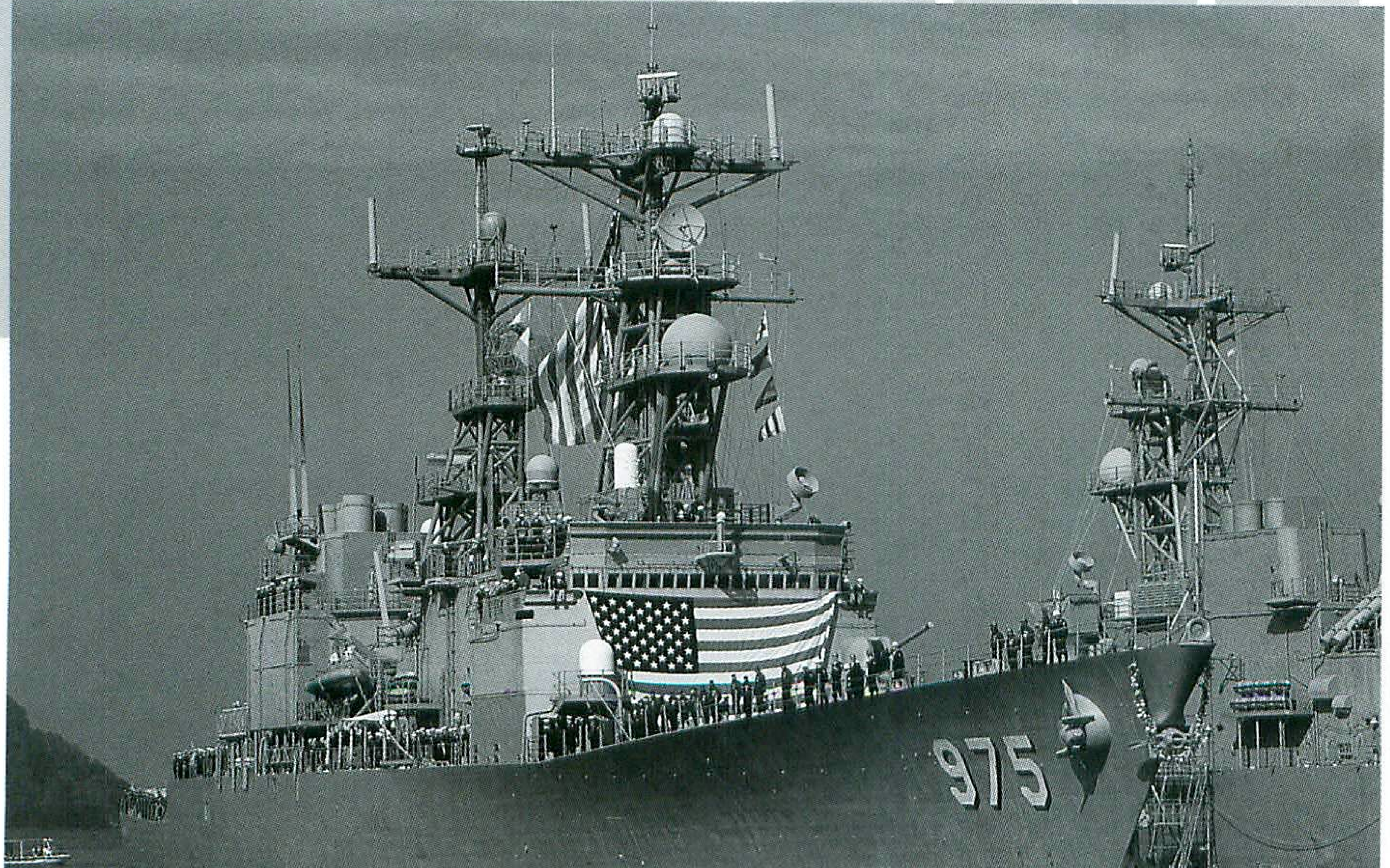
空母キティホークを発進するVFA-195のF/A-18Cホーネット(NF-407)。主翼下に2000ポンドの誘導爆弾が搭載されている。11月21日配信の写真



11月25日、横須賀港を出港した海上自衛隊の掃海母艦「うらが」(写真:柿谷哲也)



11月4日、タリバーンの目標に投下する爆弾にメッセージを書く兵士。USSペリリューのハリアーⅡに搭載された爆弾。この機体は翌朝出撃した



11月21日、西太平洋/インド洋に5ヶ月派遣されていたUSSオブライエンが横須賀に戻ってきた(写真:柿谷哲也)

強襲揚陸艦で発進作業を進める米海兵隊のCH-46Eシーナイト。機首に全機アイマークを記している。USSペリリューのHMM-163(Rein)に所属する機体



対アフガニスタン軍事行動に参加するアメリカ海軍艦艇

(2001年11月20日現在)

◎ルーズベルト空母機動部隊(CVBG)

空母USS Theodore Roosevelt(CVN 71)
潜水艦USS Hartford(SSN 768)
潜水艦USS Springfield(SSN 761)
巡洋艦USS Leyte Gulf (CG 55)
巡洋艦USS Vella Gulf(CG 72)
駆逐艦USS Ramage(DDG 61)
駆逐艦USS Ross(DDG 71)
駆逐艦USS Peterson(DD 969)
駆逐艦USS Hayler(DDG 997)
フリゲイトUSS Elrod (FFG 55)
強襲揚陸艦USS Bataan(LHD 5)
ドック型揚陸艦USS Shreveport(LPD 12)
ドック型揚陸艦USS Whidbey Island(LSD 41)
高速戦闘支援艦USS Detroit(AOE 4)

◎カールビンソン空母機動部隊(CVBG)

空母USS Carl Vinson(CVN 70)
潜水艦USS Key West(SSN 722)
潜水艦USS Olympia(SSN 717)
巡洋艦USS Antietam(CG 54)
巡洋艦USS Princeton(CG 59)
駆逐艦USS O'Kane(DDG 77)
フリゲイトUSS Ingraham(FFG 61)
強襲揚陸艦USS Peleliu(LHA 5)
ドック型揚陸艦USS Comstock(LSD 45)
ドック型揚陸艦USS Dubuque(LPD 8)
高速戦闘支援艦USS Sacramento(AOE 1)

◎エンタープライズ空母機動部隊(CVBG) 11月10日ノーフォークに帰還

空母USS Enterprise(CVN 65)
潜水艦USS Providence(SSN 719)
潜水艦USS Jacksonville(SSN 699)
巡洋艦USS Philippine Sea(CG 58)
巡洋艦USS Gettysburg(CG 64)
駆逐艦USS McFaul(DDG 74)
駆逐艦USS Gonzalez(DDG 66)
駆逐艦USS Stout(DDG 55)
駆逐艦USS Thorn(DD 988)
駆逐艦USS Nicholson(DD 982)
フリゲイトUSS Nicholas(FFG 47)
高速戦闘支援艦USS Arctic(AOE 8)
給油艦John Erickson(T AO 194)

◎ジョンC・ステニス空母機動部隊(CVBG) 11月12日サンディエゴ出港

(カールビンソンBGと交代予定)
空母USS John C. Stennis(CVN 74)
潜水艦USS Jefferson City(SSN 759)
潜水艦USS Salt Lake City(SSN 716)
巡洋艦USS Lake Champlain (CG 57)
巡洋艦USS Port Royal(CG 73)
駆逐艦USS Decatur(DDG 73)
駆逐艦USS Elliot(DD 967)
駆逐艦USS Kinkaid(DD 965)
フリゲイトUSS Jarrett(FFG 33)
フリゲイトUSS Ford(FFG 54)
高速戦闘支援艦USS Bridge(AOE 10)
カナダ国防軍フリゲート HMCS Vancouver

◎キティホーク空母機動部隊(CVBG)

空母USS Kitty Hawk(CV 63)
駆逐艦USS Curtis Wilbur(DDG 54)
駆逐艦USS O'Brien(DD 975)
フリゲイトUSS Gary(FFG 51)



10月23日、USSペリリュー艦上で第15海兵遠征部隊(15th Marine Expeditionary Unit/Special Operation Capable)の兵士がフライトデッキで地上作戦のリハーサルを実施中。この部隊は翌日、パキスタンの空港に移動した



カールビンソン機動部隊を編成する米海軍巡洋艦USSプリンストン(CG 59)。物資をスリングしながら近くを飛行するのは高速戦闘支援艦USSサクラメントに搭載されているHC-11"Gunbearers"Det.9のCH-46Dシーナイト(VR-65 b/n.153406)。共にアラビア海で"不朽の自由"作戦に参加している



夜間、米空軍のC-17A輸送機が作戦地に展開。おそらく兵士は、警備の特殊部隊か海兵隊員だろう

今回から全10回でお届けする『軍用機撮影 超・基礎講座　カメラを使いこなそうぜ!』は、本誌でもおなじみの小栗義幸カメラマンが、機材の選び方からカメラに搭載されている機能について、また航空機を撮影するためにはどんな機能をどのように使ったらよいかを懇切丁寧にお届けする。第1回目はカメラの買い方についてだ!

うぜ!

文／小栗義幸

航空機写真を始めたばかりという読者の皆さんは、伊藤カメラマンの基礎講座で写真の腕前を上げたのではないだろうか。しかしそんな卒業生にも、これから「始めよう」、「始めたんだけどまだまだ写真がわからない」という新入生読者の方のためにも、今月から10回にわたって、写真の基礎の基礎、カメラシステムのことを航空写真を中心に解説していこう。どんな小さな疑問にも出来るだけお答えしていくので、ご質問、ご要望をどしどし寄せて欲しい。
今回は機材についてふれてみよう。航空機写真を始めるためには必ずカメラが必要だ。しかしカメラといっても、数え切れない種類がある。どんなカメラ、どんなレンズを購入したらいいだろうか。これからカメラを購入する方、じっくり読んで検討してほしい。

最初に買ったカメラが、運命を決める。

写真を始めるためにはカメラを買わなければ始まらない。まずカメラを買って、写真を勉強しようと思うが、そこでちょっと待って欲しい。カメラを買った時に、すでにあなたの〝その後の写真人生〟が決まってしまっているのだ。

写真を始める前で、まだカメラのことはわからないのは当たり前だ。高校や大学の受験のように「最初の決断がこんなに大切だったなんて」と後悔しないためにも、初めてのカメラはしっかり選ぼう。

カメラを選ぶということは、カメラシステムすべてを決定するということ。つまりカメラのアクセサリー(飾りではなく、カメラをシステムアップしていく様々なパーツのこと)、そしてレンズ、フラッシュといった撮影に欠かせない周辺機材すべてが、カメラと共に決まってしまう。もっと具体的に言えば、あなたがキヤノンのカメラを買ったとすると、ニコンのレンズは使えないし、ペンタックスのフラッシュも使えない、もちろんミノルタのモータードライブも使えないことになる。他社の製品は使えなくなってしまうのは当然だが、たとえ同じメーカーの製品でも、カメラの種類によって周辺機器が違ってくる。

実は著者もカメラ選びに失敗した苦い経験を持っている。初めて買ったカメラはマニュアル専用機、と言っても当時はオートフォーカスなんていうものはなく、AEが内蔵されていない露出がマニュアル専用というカメラ。確かに写真の勉強には適していたが、腕前が上達するに伴いカメラに不満が出てきた。使うフィルムも高性能になり、レンズの性能にも満足がいかない。しかしこのカメラのメーカーはレンズバリエーションが少ない上、プロユースのカメラや高性能レンズを発売していなかった。そこでやむなく所有していたカメラとレンズを処分して、別のメーカーのカメラを購入することに…。

最初のカメラを決めることは、まさに一大決心。よく考えて失敗のないようにしたい。

航空機写真にはこんなカメラが向いている。

写真にとって最も重要なのはレンズといっても過言ではない。レンズの性能は画質に直接関係してくるからだ。とりわけ航空機写真は望遠レンズを多用するため、望遠レンズの性能と、ラインナップがカメラメーカー選びのポイントになる。今は超望遠レンズや高性能レンズが必要なくても、写真が上達するにつれ必ず欲しくなる。レンズの性能の話はまた別の機会にするとして、機材のラインナップの豊富さを見ただけでも、メーカーが絞り込めたのではないだろうか。

本題のカメラだが、高性能カメラは内蔵されているコンピュータの処理能力が高く、AF(オートフォーカス)のスピードと正確さは他を圧倒する。また測光方法も優れAE(自動露光)もかなり信頼できる。ファインダーの見やすさやスイッチの位置といった細かな部分も操作性を考慮した設計になっているし、様々なアクセサリーが用意されているので、どんな撮影状況にも対応できる。カメラは日々進歩しているので乱暴にいってしまえば、より新しいカメラ、より上級なカメラが優れているのは当たり前だ。

実はカメラとレンズの組み合わせによっても、性能が変わってしまう。もちろんカメラの違いが画質の違いとはならないが、レンズのキャパシティーがカメラの性能を引き出せなかったり、カメラの処理能力がレンズの機能を限定したりと複雑に絡み合う。そのためカメラメーカーは自社以外(レンズだけを販売しているメーカー)のレンズの使用を薦めていないのだ。

高性能カメラと普及カメラを比べるとその差は歴然としており、誰でも簡単に使えるカメラと、プロが極限の状況で使うカメラが同じはずがない。普及カメラでは満足な写真が撮れないし、だからといって初めから高性能カメラを買っても宝の持ち腐れとなる——。ということでどのメーカーからも中間のクラスのカメラを数種類出している。中級カメラでも十分な撮影が出来るので、まずはここから始めてみてはどうだろうか。もちろんより上級クラスの方が高性能だが、そこは予算に応じて妥協するしかない。

カメラ選びのポイント

ではカメラの性能差はどこから来るのだろうか。一昔前のカメラといえば、露出もピントもマニュアルが当たり前だった。だからプロユースのカメラといっても、操作性が優れていたり、丈夫だったりするだけで、大きな性能差は見られなかった。そのため普及カメラと差別化を図るために、少しばかりアクセサリーが多かったぐらいだ。

しかし現在のカメラは露出やピントまでもが自動化され、誰でも簡単に、しかもプロ顔負けの写真が撮れる。もちろん航空機写真も同じことが当てはまり、いい機材を持っていれば誰でもすばらしい写真が撮れてしまう。その訳はカメラに内蔵されたコンピュータに秘密がある。長年積み上げてきた

軍用機撮影 超基礎講座

第1回　機材選び

賢いカメラの購入方法

カメラを使いこなそ

プロカメラマンのノウハウが、内蔵のコンピュータにプログラムされ、ほとんどの場合(完璧ではない)すばらしい結果を出してくれる。露出に関してはカメラによって癖や欠点もあるものの普及カメラでもかなり正確だし、単体の露出計もあるので100%カメラに頼る必要はない。それよりも動きの早い航空機を確実に捉えるには、正確なピント合わせが必要だ。戦闘機のように小型でしかも高速で飛行する被写体にピントを合わせるためには、より処理速度の速いコンピュータが必要となる。パソコン同様新しいもの、そして上級機種ほど処理速度が速いのは当然で、またピントを合わせるポイント、つまり測距点の数が多い方が構図を考えると有利になる。オートフォーカスの性能が航空機写真の最も重要視するところだが、比較的スピードの遅い大型機や、タキシングならば普及機でもほとんど大丈夫だ。しかし初期のオートフォーカスカメラや、普及カメラで戦闘機クラスの撮影をするならば、航空機の動きにピントが追いつかないのでマニュアルフォーカスで撮影した方がいいだろう。またオートフォーカスのスピードはレンズに内蔵されたモーターの種類でも変わるので、古いレンズの場合もマニュアルフォーカスをお勧めする。

その他の細かなスペックに関しては、それほど神経質になる必要はないと思う。操作性は使い慣れればいいし、内蔵のワインダーでも十分連続撮影が出来る。プロを目指すならともかく、航空機写真ではアクセサリーはほとんど使うことはない。また航空祭で展示機を撮影するならば、普及カメラでも問題ない。

新品にこだわるな。中古でもよい。

もしもあなたが予算は気にしないと言うならば、迷わず最新の最高級機を買うことを薦める。しかし限られた予算で少しでもいいカメラが欲しいならば、ひとつの方法として中古カメラを検討して欲しい。

同じ予算で中古なら新品よりもワンランク上のカメラが手に入る。しかし中古は一度誰かが使ったモノ、どんな使い方をしたかわからない。確かな目がなければ失敗する恐れもあるが心配することはない。最近はカメラショップで保証を付けている店がある。もしも買った中古カメラやレンズが故障した場合、修理や交換をしてくれるので安心して購入できる。出来れば中古専門店よりも、中古と新品両方を扱っている方が比較検討が出来るので選択の幅が広がる。「飛行機の写真が撮りたい」とハッキリと店員に相談してみよう。もしかするとその店員も休日にはランウェイエンドに通う航空機ファンで、適切なアドバイスが受けられるかもしれないし(店内に航空機の写真を飾る店を数件知っている)、アドバイスがもらえないような店ならば購入を考え直す必要がある。

最後に、「写真撮ろうよ！」のコーナーでは、撮影データを掲載しているので、上級者がどんなカメラ、レンズを使っているかを参考にするのもいいだろう。

リレー連載コラム

私の☆5☆ツ☆星☆ヒコーキ

だれの心にも、とりわけ大事にしている「こだわりの機体」があるはず。
あなたにとっての格別な1機は何だろう?
ここでは軍用機ファンの大家に、その機体とエピソードを語ってもらおう。

文・写真＝松崎豊一

松崎豊一(まつざき・とよかず)
航空評論家。航空機マニアとして40年のキャリアを誇り、「自分の目で見る」ことをモットーに、各基地に通うこと数1000回、撮影した写真は数万枚というマニアの頂点を極める存在。小誌連載「もっと大戦機」や「神楽坂洋書館」ほか、軍・民問わず航空機専門雑誌への執筆や著書多数、航空機に関してはオールジャンルの知識をもつ。1942年8月11日生まれ、東京出身。

【C-135】

特別に思い入れの深い飛行機というのは数多くあり過ぎておおいに迷うところだが、この際思い切ってボーイングC-135について書いてみようと思う。私がカメラを持って飛行場に行き始めたのは1958年(昭和33年)のことだが、あの当時の仲間の間で最も撮りたい飛行機というのが話題になったことがあって、横田ではB-52、厚木ではU-2といったところに落ち着いたと記憶している。当時はまだ真面目な高校生であったから飛行場に行くといっても月に2、3回がいいところで、これら2機種はよほど運が良くないとお目にかかれなかったし、何よりも片や核兵器搭載戦略爆撃機、もう一方は正体不明のスパイ機(CIAが運用していたことなど知る由もなかったが)ということで、国会やマスコミでも取り上げられるほどの話題機だったから、駆け出しのマニア達の間で人気になるのも当り前のことといえた。

私も当然この2機をキャッチするのに必死だったが、1959年12月にようやく両方をどうにかカメラに収めることに成功した。そして同じ頃、誰のものだったかはっきりしないが、KC-135Aの写真を見せられて感動したのだった。確か夕方に近い横田のRW36エンドのタキシングを撮ったものだったと記憶しているのだが、無塗装ジュラルミンの胴体に太陽が反射して実に魅力的なショットだったのである。ミーハーマニアだった(今でもそうだが)私はすぐさま次のターゲットはKC-135Aと内心決めてしまったのだ。

ところがKC-135Aと私の相性は最悪で、最初のショットをモノにするまでになんと3年以上を要することになった。その間KCより先に羽田で同類のVC-137A(これはVIP機なので来るのを事前に知ることができた)にお眼にかかり、横田では1962年春頃から輸送機型のC-135Bの飛来が始まったため行く度に見ることができるようになった。

1960年代初めC-135系はパリパリの新鋭機であり、定期便のように飛んでいたC-135Bはともかくとして、KC-135Aの飛来数は現在のR型より少ない位で、もちろんバリエーションも通常のKCとVIP用のKC位しかない時代であった。しかし1964年春、2種の電子戦改造型C-135が横田に飛来したあたりから状況は変わり始めたのである。この時の変形C-135は、前部胴体両側面に大きなバルジを装備した電子偵察テスト機NKC-135A(55-3132)と、大型のブレードアンテナを胴体上部に15本も取り付けたJKC-135A(55-3121)で、その異様なスタイルは我々マニアを夢中にさせたのであった。


電子偵察機器のテストベッドとして使用されていたNKC-135A(55-3132)。55-3121とペアでスピードライトと呼ばれるテストプログラムを実施していたとされる。1964年4月15日撮影

もちろんそれまでにも空軍のRB-50やRB-47、57系などの電子偵察機も注目の的ではあったが、KC-135ほどの大型ジェット機に大改造を施した例は無く、海外からのニュースにも登場したことの無い変形機がいきなり2機も姿を見せたのは異例の出来事だった。

これら2機は数日の滞在の後横田から去ったが、それから間もなく(多分64年夏頃から)ノーズレドームがピノキオのように伸び、胴体側面に細長いレドームを持つKC-135A-II(後のRC-135D)が飛来し、こちらはそれ以後月2、3回の割合で姿を見せるようになった。こうなると、普通のKC-135Aより変形のC-135系が俄然面白くなるのは自然の成り行きで、その後もRC-135C/M、EC-135J/P、NKC-135A(前記のものとは別)など、C-135の派生型というと目の色を変えて追いまわすようになった。

こうしたC-135改造型全ての制式名が判明したのはずっと後のことで(一部の機体については比較的早くから判明していたが)、更にその任務や改造目的についてある程度のことが分かるようになったのはC-135に関する良質な洋書が出回るようになった10年前位からである。60、70年代に夢中で撮っていた頃はほとんど正体不明のまま追いかけていた訳で、その謎めいた点が我々を惹きつける大きな要因の一つでもあったのだ。

C-135系のバリエーションはその後も増え続けており、昔ほど回数は多くはないものの、今日も各種のモデルが飛来している。そしてRCやNKCなどの大改造型だけでなく、KC、VC系も部隊の変遷やアンテナ、装備の変更など細かい変化を見ているとキリがないほどだが、いったんこだわり始めるとこれらを見逃したくないのがマニア心理というもの。

かくしてC-135系の飛来というと今も目の色を変えて追いかけ回すことになるのだ。

ところでこうした病気は私と同じくらいのオジンマニアだけがかかるのかと思っていたのだが、どうもそうではなくて横田をメインに活動している若いマニアにもけっこう感染しているようで、戦闘機より面白い、などと言っているを耳にすることも多く、まことに喜ばしい限りといえよう。

もっと大戦機！

機種別編
第29回

メッサーシュミット Bf110

文・松崎豊一
イラスト・田村紀雄
写真・特記以外『丸』編集部

ゲーリング元帥のお気に入り
各国で期待された双発重戦思想

１９３０年代、航空機は全金属製セミモノコック構造、単葉片持ち翼形式が主流となり、エンジンも大出力化が進められたことにより爆撃機、戦闘機とも飛躍的な性能向上を達成した。このため第一次大戦のような散発的な爆撃ではなく、大規模で組織的な戦略爆撃作戦が可能となり、これが将来の戦いの勝敗を決めると考えられるようになった。

ここで各国の用兵者が一様に考えたのが、爆撃隊に随伴して敵地に侵入し、敵側の反撃を封じる強力な戦闘機の必要性であった。こうした任務をこなすには、当時の単発戦闘機では足が短く、武装も充分には積めなかったため、双発戦闘機が各国で開発されることになった。これらは長距離護衛戦闘機とか戦略戦闘機などと国によって呼び名は異なっていたが、単発戦を上回る高速と長い航続距離、強大な火力をめざしたという点で共通していた。また乗員は単座のものと多座のもの両方があったが、多座機は旋回銃を装備して単座戦闘機に対抗することと、長距離航法を容易にするという狙いがあった。

着々と再軍備を整えつつあったドイツもこうした双発重戦が重要と考えた国の一つで、ＲＬＭ（航空省）は１９３４年、各航空機会社に設計案提出を求めた。要求されたのは爆撃隊に先行して敵戦闘機を撃破する侵攻戦闘機だが、副次的に爆撃隊の近接掩護、敵爆撃機迎撃、対地攻撃が可能というマルチロールファイターであり、「カンプ・ツェアシュテーラー」（戦闘駆逐機）と命名された。万事に派手好きだったナチス・ナンバー2で空軍総帥



翼下に巨大な900リッター落下増槽を2つ装着して飛ぶBf110D-3（3U＋LT）。シチリア島に展開していたJG26（第26駆逐航空団）が北アフリカへ向かう姿を捉えたものであろう。尾部の先には洋上作戦用の救命ボートが付いている

第二次大戦前各国で流行した双発重戦闘機の代表格、Bf110。栄光と挫折に彩られたカンプ・ツェアシュテーラーの生涯は、その祖国の運命と同じく大いに波乱に富んだものであった。

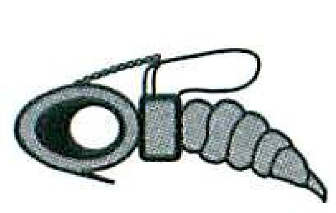
2/ZG1（第1駆逐航空団第2飛行隊）所属のBf110G-2（S9＋AP）。1943年、イタリア。機首にはBf110の塗装の中でも一際有名な「ヴェスペ（スズメバチ）」が描かれている。

第1駆逐航空団はフランス侵攻作戦が終わった後（1940年）に一度解散し、42年の初めに2代目が再結成された航空団。

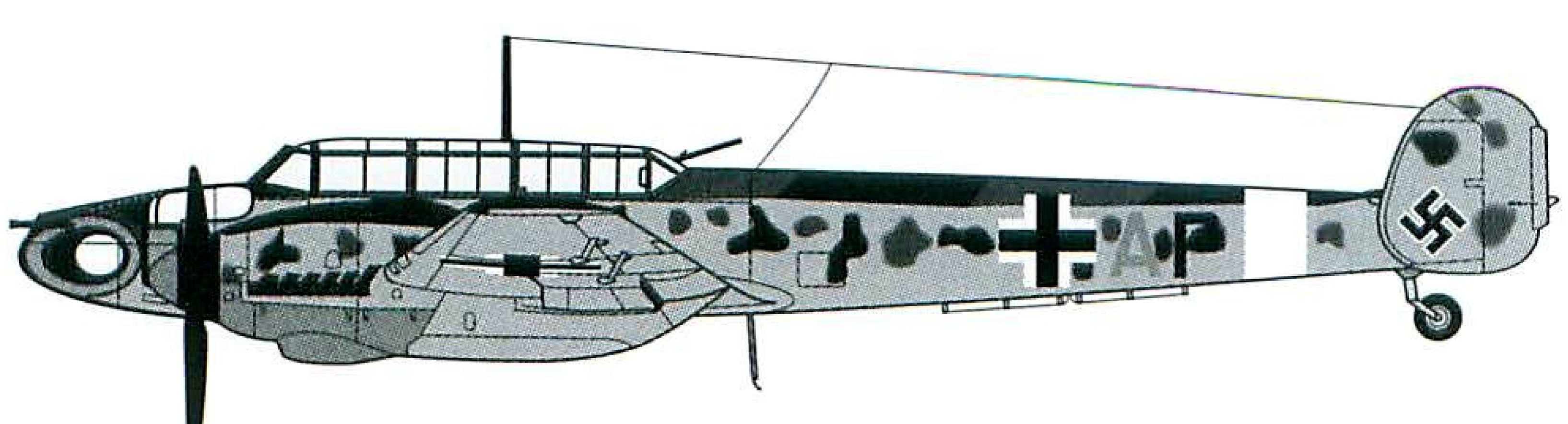
塗装パターンは機体下面はRLM76（ライトブルー）、上面はRLM75（グレイバイオレット）、RLM74（グレイグリーン）。カウリング下部とスピナーはRLM04（黄色）、尾部の帯は白、機体番号のSPと9は黒、Aは黄色。プロペラは黒。機体側面にはRLM75とRLM74でまだら迷彩が描かれている。

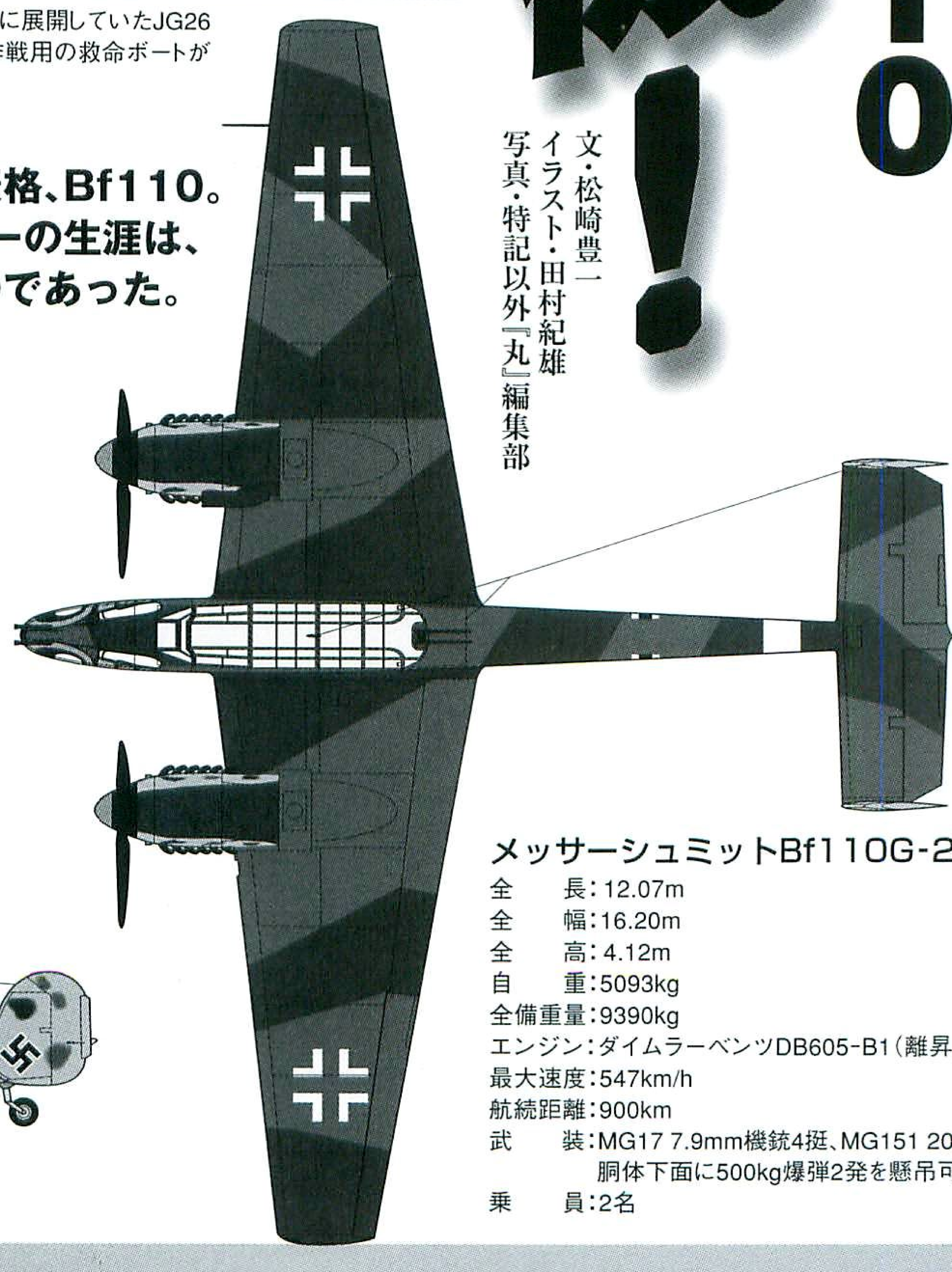
スズメバチのマークは全体が黄色、羽は白、羽の付け根部分の縁取りは赤、目が左から赤、黒、白に塗り分けられていた。

なお、ドイツ機のコードレターは、前半2文字（この機体ではS9）が航空団の識別用になり、3番目の文字（同A）は飛行隊内における機体固有識別文字、4番目の文字（同P）が飛行隊識別用となっている。



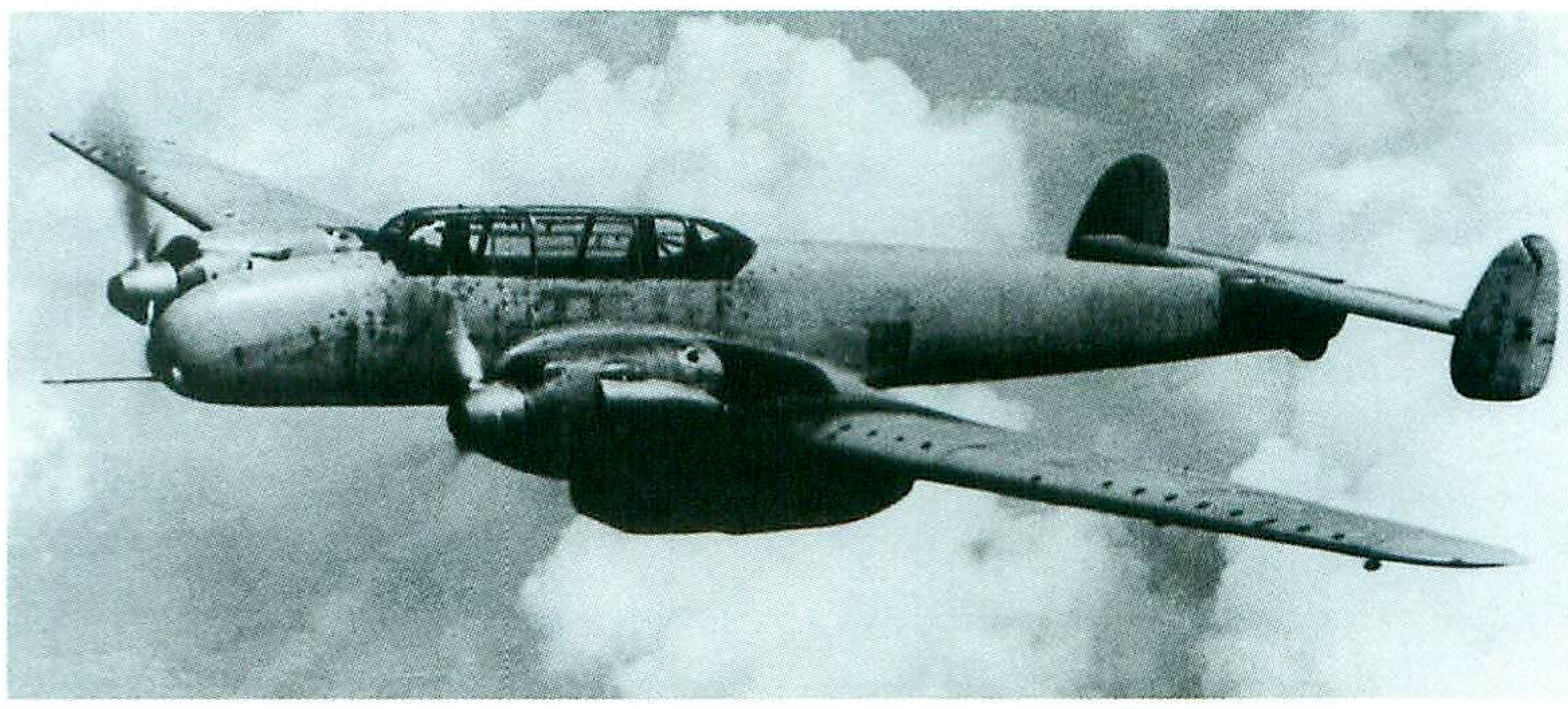
※左は、エンジン部に隠れて見えない機首の「スズメバチ」マーク





メッサーシュミットBf110G-2

全　長：12.07m
全　幅：16.20m
全　高：4.12m
自　重：5093kg
全備重量：9390kg
エンジン：ダイムラーベンツDB605-B1（離昇出力1475hp）
最大速度：547km/h
航続距離：900km
武　装：MG17 7.9mm機銃4挺、MG151 20mm機関砲2門、胴体下面に500kg爆弾2発を懸吊可能
乗　員：2名



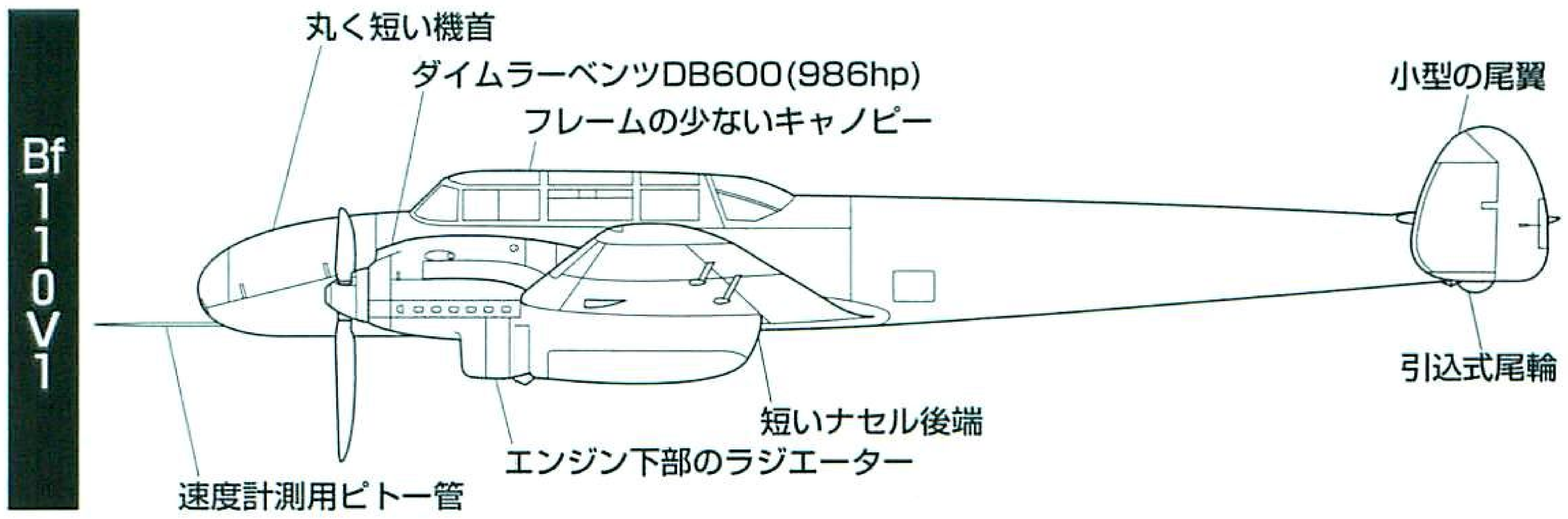
初飛行後、テストを受けるため飛行するBf110V1（原型1号機）。風防と機首の形状、ピトー管の位置など、後の量産機とはかなり異なっている機体

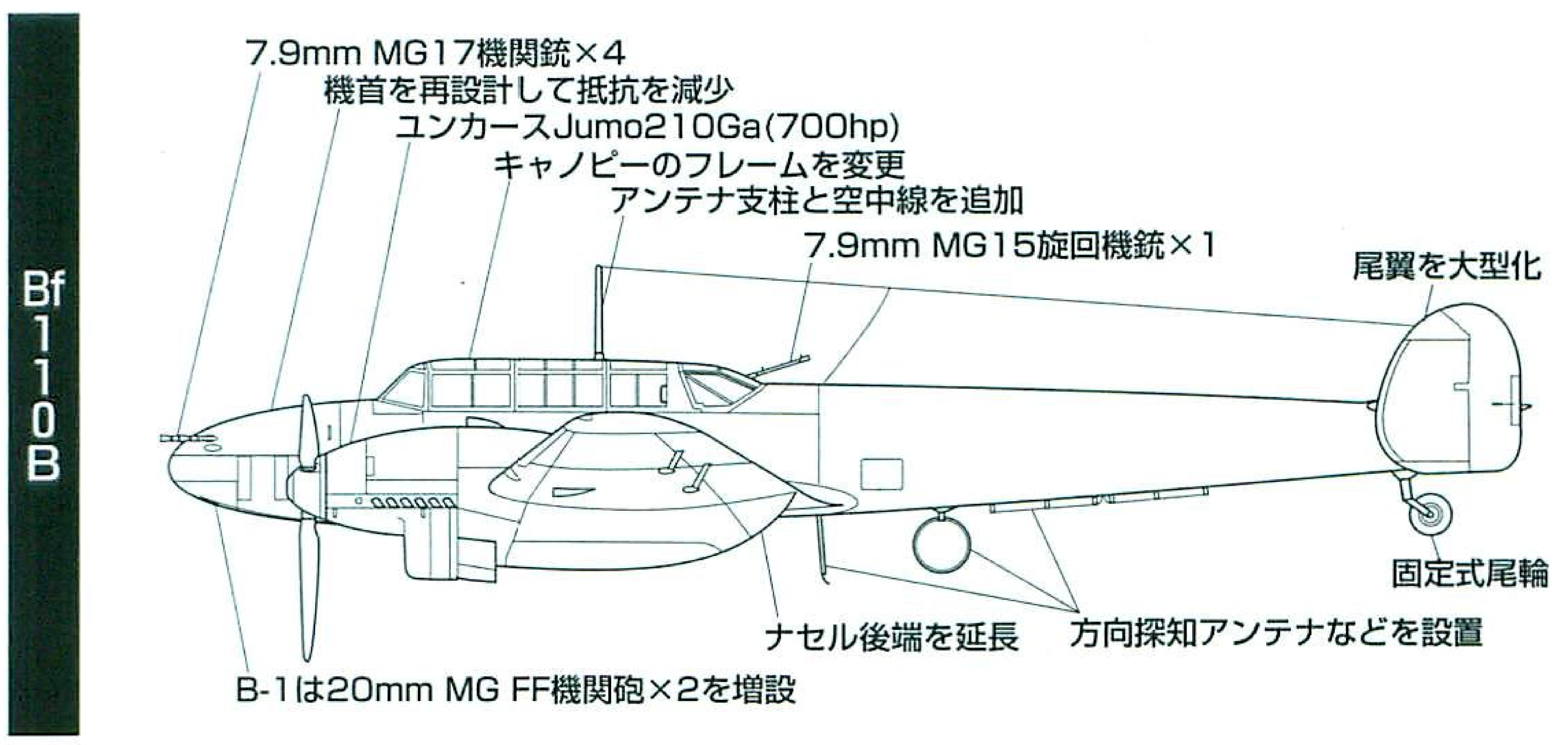
でもあったヘルマン・ゲーリングはこうした構想とネーミングが大いに気に入り、双発重戦計画は彼の後押しのもとに進められていった。

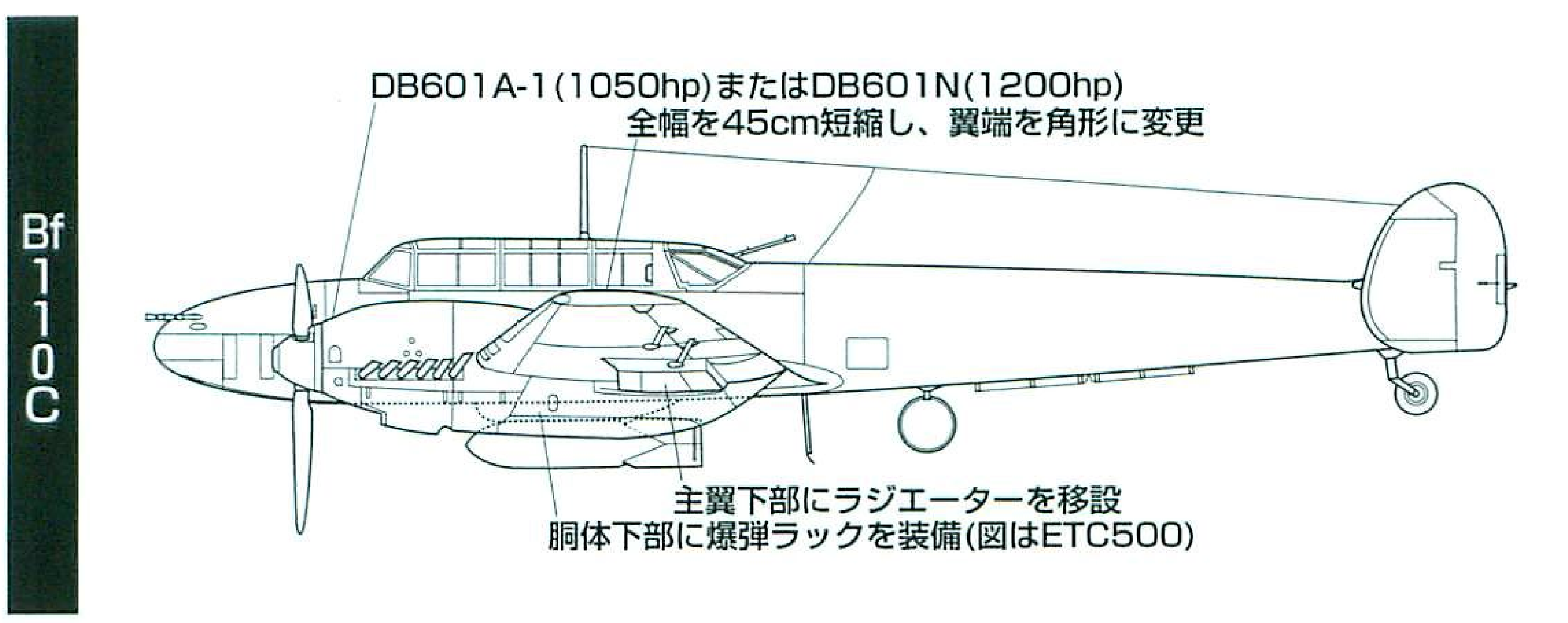
競作はフォッケウルフ、ヘンシェル、BFW（バイエリッシェ航空機会社、38年にメッサーシュミット社となる）の間で行われたが、Fw57とHe124が要求に忠実に従った重武装機だったのに対し、BFWのBf110はメッサーシュミットらしい高速指向のデザインで、前縁スラットを持つ直線的な主翼や細い胴体など当時いくらか先行して開発されていたBf109と似通った簡易でコンパクトな設計であった。

原型1号機Bf110V1は、ダイムラーベンツDB600（離昇出力986hp）を搭載し、36年5月12日にルドルフ・オピッツの操縦により初飛行に成功した。本機は操縦性にいくらか問題があったものの、最大速度508km／hを記録し、前年初飛行したBf109（最大速度480km／h）より優速であることを示した。ちなみに、1936年といえば日本では固定脚の96式艦上戦闘機（同450km／h）が制式採用された年にあたる。

2、3号機Bf110V2、V3も同年中に進空し、2号機は翌年1月レヒリンの空軍テストセンターに送られ空軍パイロットによるテストフライトが開始された。同じ頃ライバル2機もテストされていたが、いずれも旋回銃塔を装備する重武装機だったため性能はBf110にはるかに及ばなかった。







初期生産型と実戦参加
電撃戦で圧倒的なデビューを果たしたBf110

ダイムラー・ベンツにおけるDB600の生産がなかなか軌道に乗らなかったためRLMは37年にBFWに対しユンカースJumo210B（601hp）を搭載した実用試験機Bf110A-0×4機を発注した。本機は機首に7.9mm MG17機銃×4、同じく7.9mm MG15旋回機銃×1挺を装備していたが、そのための重量増加とひどい馬力不足のため最大速度は430km／hに低下してしまった。その後間もなくDB600は戦闘機搭載には不適と判定されたため、生産型にはより進歩したDB601が採用されることになった。

しかしそのDB601の生産も遅延したことから最初の生産型となるBシリーズもJumo210Ga（700hp）付きで作られ、先行量産型B-0の2機のうち1号機は1938年4月19日に初飛行を行った。続くBf110B-1は機首に20mmMG FF×2挺が増設された武装強化型、B-2は武装に換えてカメラを搭載した偵察型、B-3は練習機型として作られ、Bシリーズ各型合わせて45機生産された。B型は39年初めに1（Z）／LG1（第1訓練航空団第1飛行隊〈駆逐〉）、1／ZG1（第1駆逐航空団第1飛行隊）などに少数ずつ配備され、練習機として使用された。

BFWではDB601が供給されるまでにBf110のデザインに対しいっそうの洗練を加えることとし、エンジンナセル下部に大きく開口していたラジエーターに換えてBf109と同様の主翼下面半埋め込み式ラジエーターを採用した。また高速化を狙ってスパンが45cm切り詰められ、翼端は丸型から角型に変更された。

38年末、DB601A-1（1050hp）の供給が可能となり、満を持していたアウグスブルグのメッサーシュミット工場では同エンジンを搭載したBf110Cの生産が直ちに開始された。先行量産型Bf110C-0の10機が39年1月初めに引き渡され、同月末には生産型C-1のデリバリーがスタートした。C型はエンジンの強化と空力的洗練のおかげで最大速度540km／h（高度6000m）、航続距離1100km（外翼内タンク追加により1400km）という高性能機となった。

Bf110C-1の量産は急ピッチで進められ、対ポーランド戦が開始された9月1日までに159機がルフトバッフェの手に渡った。ただしそれらのうち開戦時作戦可能だったC型は68機で、これに27機のB型が加わり、計95機が電撃戦に投入された。そしてC-1は開戦後も毎月約30機のペースで勢力を増やしていったのである。

対ポーランド戦初日、He111のエスコートとして出撃したBf110は、迎撃してきたPZL P.11（パラソル翼、固定脚）と初の空戦を行い、5機を撃墜して損失無しという見事なデビューを飾った。同日中に起きた2度目の空戦では2機撃墜に対して3機を失ったが、9月3日の3度目の空戦では1機を失ったものの5機を撃墜し、再び圧倒的な優位を示したので

あった。やがてポーランド空軍の反撃は激滅したためBf110の主任務は対地攻撃へと変更された。

Bf110Cシリーズは、C-1に続いて無線機改善(FuGⅢaUからFuG10へ)と航法士兼銃手席を改良したC-2、改良型MG FFを搭載したC-3、乗員用の装甲を追加したC-4、胴体下面にETC250爆弾ラックを装備し強化型エンジンDB601N(離昇1200hp)を搭載したJabo(戦闘爆撃機)タイプC-4/B、固定武装をMG17×4に減らし、機首にカメラを搭載した偵察型C-5、C-5のエンジンをDB601Nに換装したC-5/N、MG FF×2に換えてラインメタルMK101 30mm砲1門を搭載したC-6、ETC500爆弾ラックを装備して500kg爆弾×2を搭載可能とし、エンジンをDB601Nに強化したC-7が生産された。


Bf110はC型から本格的に実戦配備された。その先行量産型Bf110C-0を斜め前から捉えたショット。B型と異なって翼端の形が角型になり、主翼下部にラジエーターが装備されたことがよく分かる

バトル・オブ・ブリテンでの蹉跌(さてつ)

「駆逐機」は軽快な単発戦闘機に太刀打ちできず、血祭りに上げられる

1940年4月9日、ドイツはノルウェー侵攻を開始し、Bf110はノルウェー空軍のグラディエーター複葉戦闘機を駐留していた英空軍とノルウェー空軍のグラディエーター複葉戦闘機をまたたく間に壊滅させた。ただしノルウェー作戦では航続距離不足が明らかとなり、胴体下面に密着させる1200リッター増槽が大至急開発されることになった。その外見からダッケルバオフ(ダックスフントの腹)と呼ばれたこの増槽はベニヤ・羽布・ゴムで作られ、会敵時や空になった時には投棄可能であった。しかし性能低下が激しかった上に、初期には気化ガスによる爆発事故も発生するなど散々だった。

Bf110C-3にダッケルバオフを装着したBf110D-0でテストされた後、生産型Bf110D-1/R1が作られたが、不評だったことから外翼下面に900リッター落下増槽を搭載可能としたBf110D-1/R2の生産に切り替えられた。

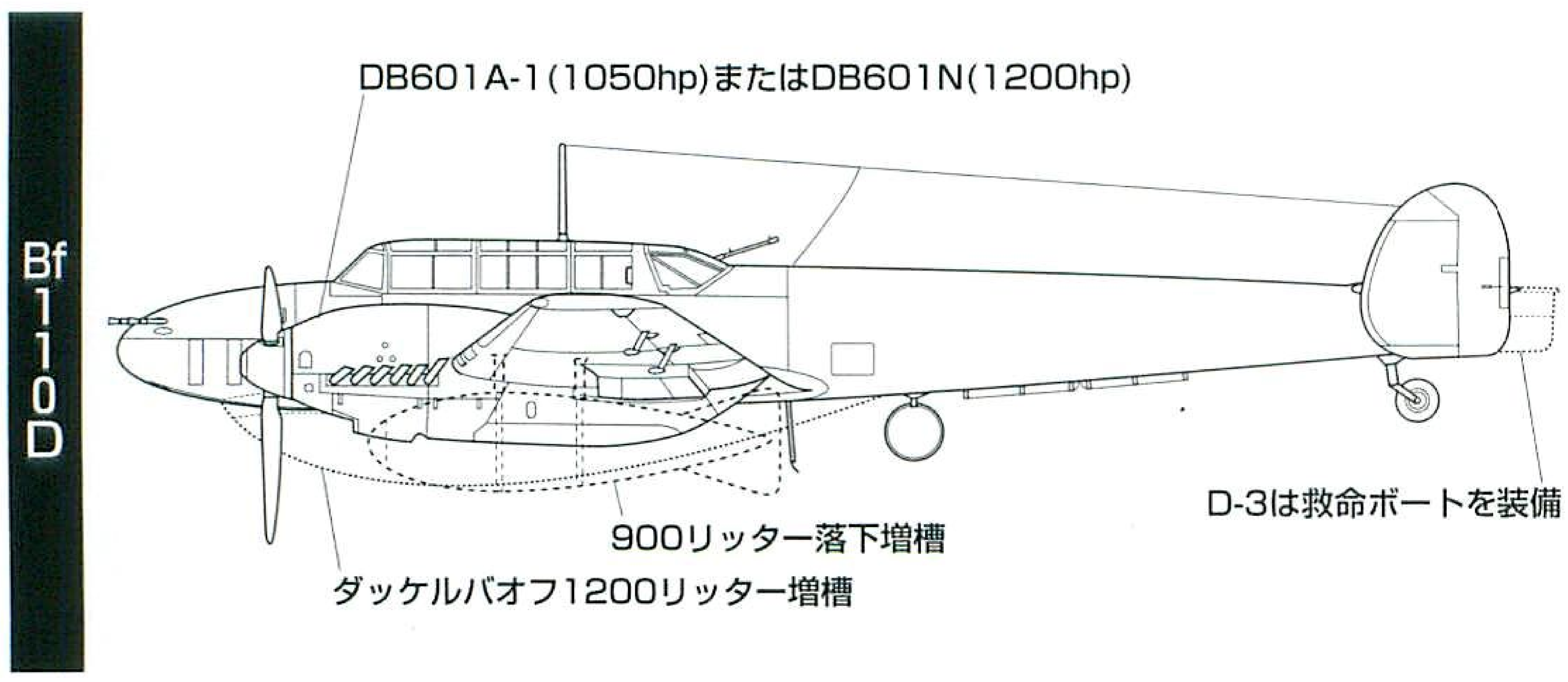
5月10日ドイツはついにオランダ、ベルギー、フランス攻撃を開始したが、この時の航空兵力(第2、第3航空艦隊)には24機のBf110Cが含まれていた。仏空軍の単発戦闘機にいくらか苦戦した(5月中の損失機は82機に上った)ものの、まだこのあたりまでのBf110は高い戦闘能力を発揮し、期待通りの活躍ぶりを見せたといってよい。

しかし40年8月に開始された対英国攻撃、アドラーアングリフ(鷲の攻撃、英側にとってのバトル・オブ・ブリテン)で意外なもろさを露呈することになる。作戦開始時ルフトバッフェは289機のBf110C、Dを擁し、Bf109より足の長い同機を爆撃機隊護衛(ボマーエスコート)の主力と位置付けていた。

8月15日、デンマークはアールボルグ基地駐留の2、3/JG76(第76駆逐航空団第2、第3飛行隊)のBf110D、21機がノルウェー、スタバンゲリを発進したHe111編隊を護衛してイギリス東北部に侵入した。迎撃したスピットファイアとの間に空中戦が展開されたが、Bf110Dはダッケルバオフ切り離し装置の不調などもあって編隊長機を含む7機が撃墜され、爆撃機の護衛どころか僚機の後方を守りつつ輪を作る防御法・ラフベリーサークルによって自らの身を守るのが精一杯であった。

それまで相手にした旧式機とは異なり、RAF(英空軍)のスピットファイアとハリケーンは、まともに格闘戦に入ったらBf110にはほとんど勝ち目が無いほどの強敵だったのである。Bf110は強力な固定武装を持ってはいたが、スピードはほぼ同等、加速性、機動性では大きく劣っていたため空中戦で優位に立つことは困難であり、後方を守るはずだった旋回銃は格闘戦ではほとんど無力であった。

結局8月末までにBf110の損害は120機という多数に上り、遂にはゲーリングによりBf110にBf109の護衛を付けるという決定まで行われた。戦闘機が戦闘機に護衛されるようでは何のためのボマーエスコートだか分からないわけで、ツェアシュテーラー構想はここに挫折した。



適材適所を証明する駆逐機

多くのバリエーションが誕生

バトル・オブ・ブリテンで惨敗したBf110だったが、対地攻撃と対爆撃機迎撃にはそれ以前から高い能力を発揮していた。同機にとっての最初の英軍機との遭遇戦が行われたのは39年12月18日のことで、この日ヴィルヘルムスハーフェンを襲った24機のヴィッカース・ウェリントンを迎撃した1/ZG76(第76駆逐航空団第1中隊)のBf110C-1は、このうちの9機を撃墜した。

翌40年5月15日夜には99機の英爆撃機(ウェリントン、ハンプデン、ホイットレー混成部隊)がルール地方工業地帯に対し初の夜間戦略爆撃を行った。これに対しルフトバッフェ(独空軍)は6月22日、Bf110を主力装備とする最初の夜戦部隊NJG1(第1夜間戦闘航空団)を編成し、7月17日にはその上部組織としてNJD(夜戦師団)を発足させ、師団長にヨーゼフ・カムフーバー少将を任命した。そしてその3日後の戦闘では、後に夜戦エースとして有名になる1/NJG1(第1夜戦航空団第1飛行隊)のヴェルナー・シュトライプ中尉が初の夜間撃墜(ホィットレー1機)を記録した。

この頃の夜戦隊に配備されていたのはエンジンの消焔ダンパー、アンチグレアシールドなどを装備していることをのぞけば通常のBf110C、Dと変わらない機体で、索敵ももっぱら目視に頼っている状況であった。

カムフーバーはNJG2を新編するなど夜戦隊の拡充と、サーチライト、警戒/管制レーダー網の建設にも懸命の努力をはらったが、この頃はドイツが地中海、ソ連へと戦線を拡大していた時期であり、夜戦型Bf110の配備は遅々として進まない状況にあった。

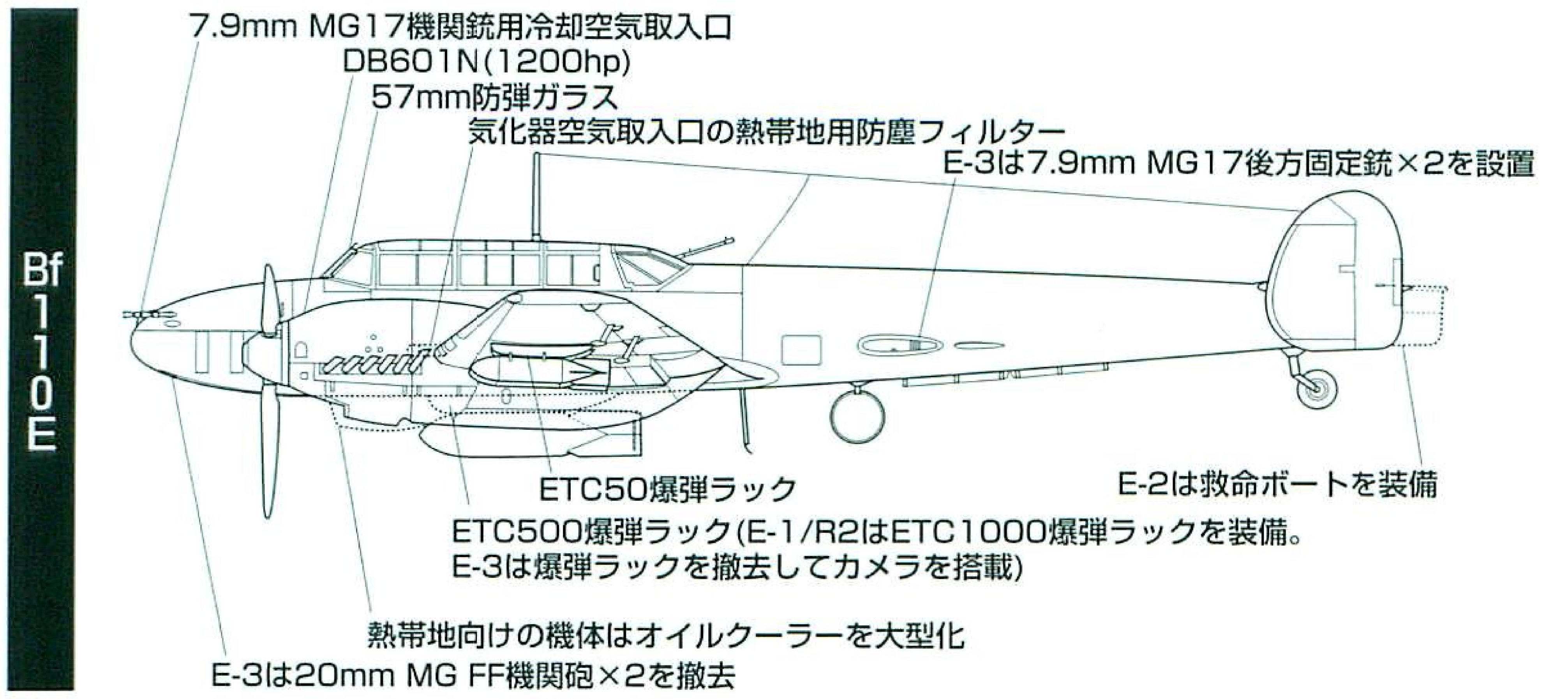
41年には長距離JaboタイプBf110D-2とD-3の生産が開始され、春以降部隊配備されてギリシャ、ユーゴ、北アフリカ戦線へと派遣されていった。D-2はD-1/R2をベースとして胴体下の500kg爆弾×2、主翼に300リッター増槽を搭載できるようにしたモデル、またD-3はテール部分を延長して救命ボートを搭載した長距離洋上作戦機である。

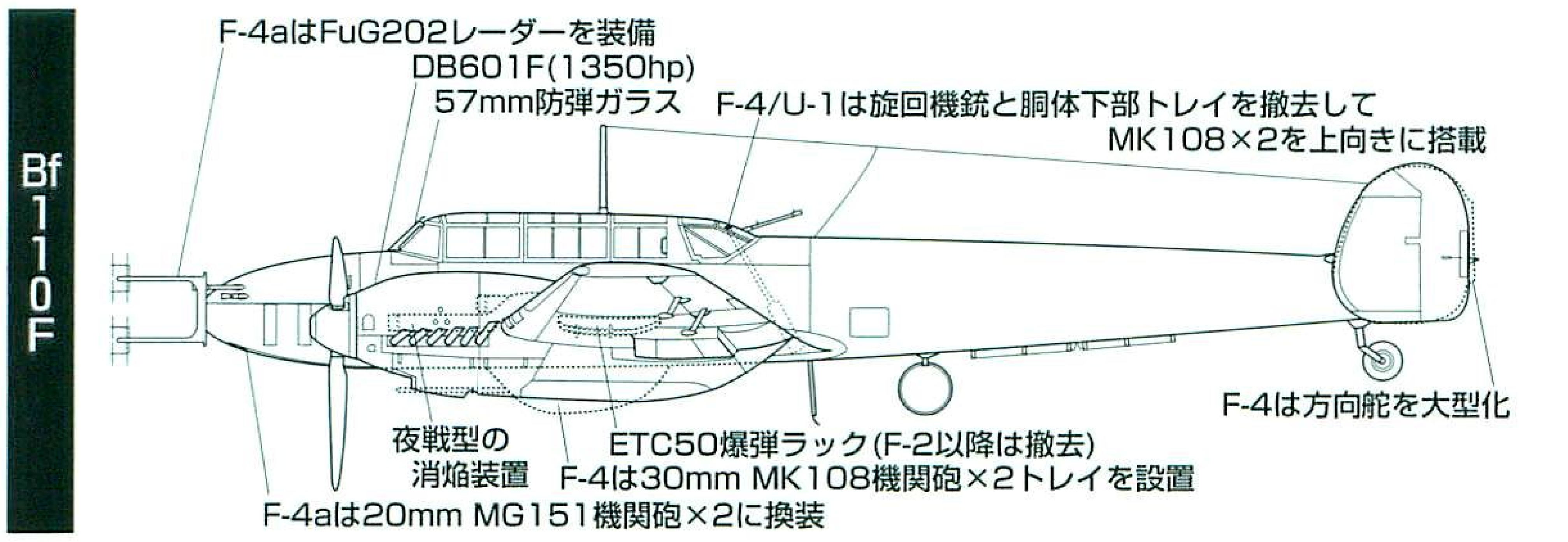
更に同じ年の6月頃からは外翼下面にETC50爆弾ラックを追加した戦闘爆撃機型Bf110Eの生産

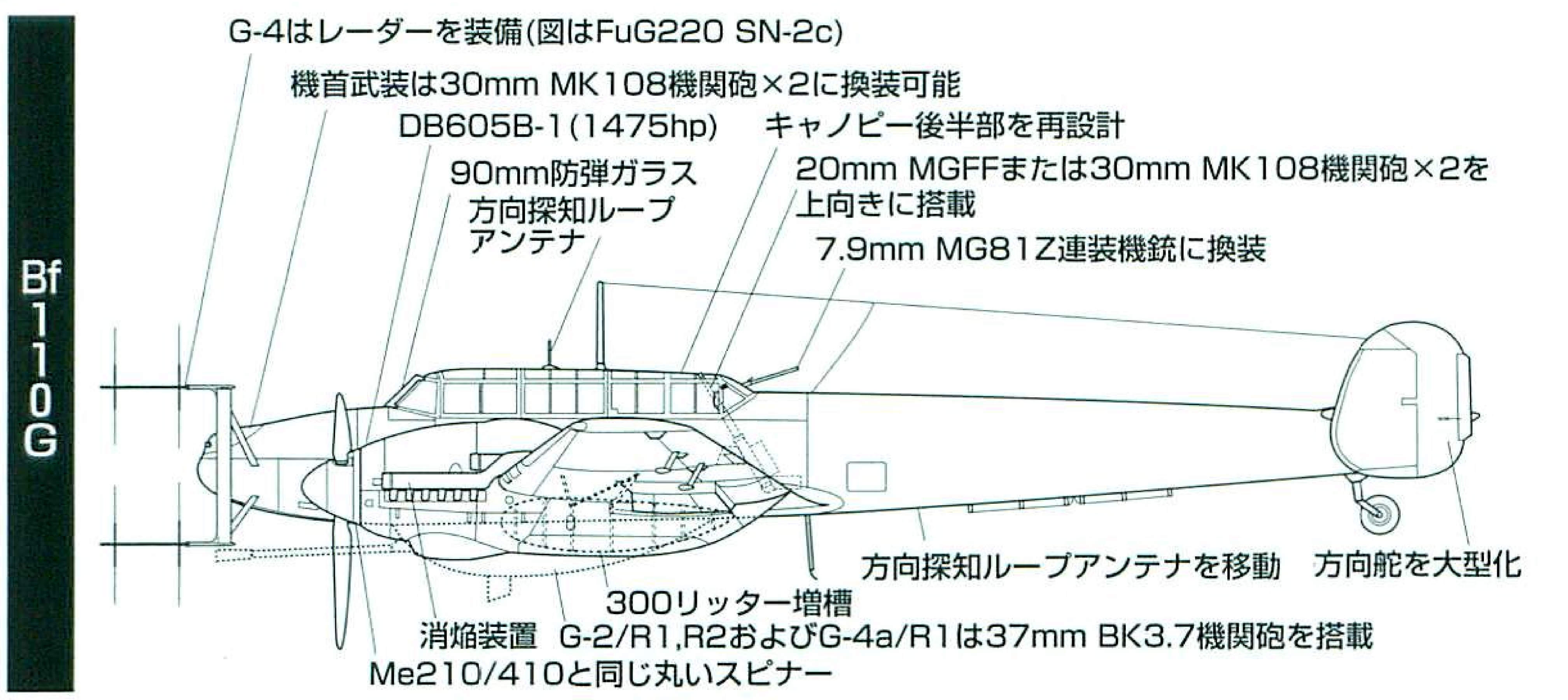
がスタートした。先行量産型E-0と量産型E-1の初期型はDB601Aを搭載していたが、間もなくDB601Nに切り替えられた。サブタイプとしてはシュパンナー・アンラーゲと呼ばれた赤外線索敵装置を装備した夜戦型E-1／U1、3人目のクルー（管制官）席を設けたE-1／U2、胴体下のETC1000ラックを装備して1000kg爆弾×2を搭載可能としたE-1／R2があった。

42年になるとE-1／R2の尾部に救命ボートを追加した戦闘爆撃機Bf110E-2、MG FFと胴体の爆弾ラックを取り除き、カメラと後方固定銃（MG17×2）を搭載した写真偵察機E-3の生産が始まり、少し遅れてDB601F（1350hp）を装備したFシリーズの生産が並行して開始された。F-0はE-1のエンジン換装型、F-1はその装甲強化型、F-2はETCラックを取り除いた長距離戦闘機、F-3は写真偵察型である。

空軍の当初の計画ではBf110の量産は41年10月に終了し、後継機Me210生産に移行するはずだったが、Me210がとんでもない失敗作となったためBf110にいっそうの改良を加えて量産を続けなければならなかったのである。なお本機に限らずドイツ機はバリエーションが非常に多いのが特徴だが、主要なモデルチェンジの他に、キットによる現地改修はR記号、工場改修はU記号で表記されている。







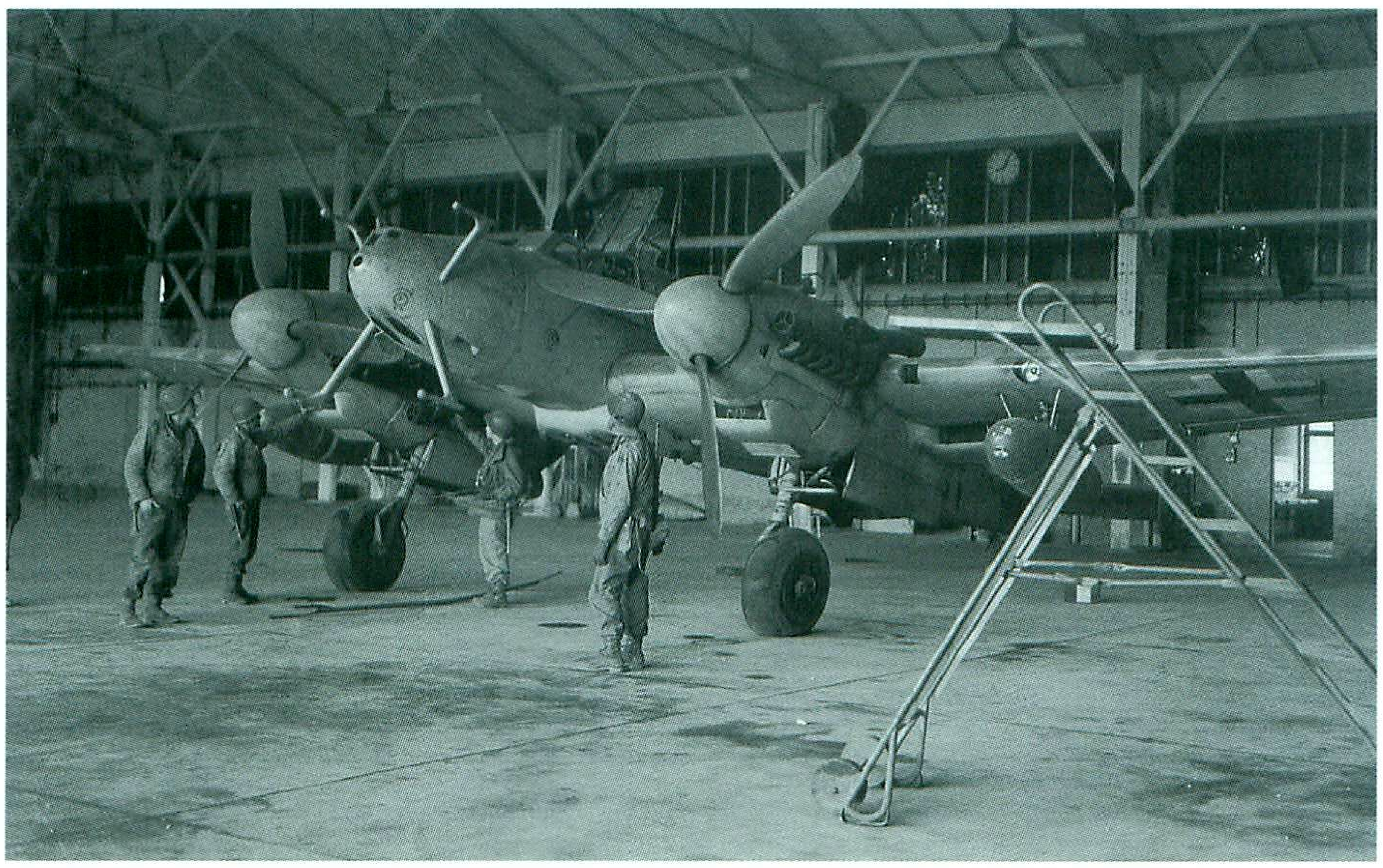
夜空を駆ける双発の騎士

レーダー、重武装を活かして4発重爆迎撃に活躍

42年に入るとRAFボマーコマンドの夜間空襲が激しさをエスカレートさせてきたため、夜戦隊の強化にようやく本腰が入れられることになり、武装を強化した本格的な夜戦タイプBf110F-4、及びGシリーズの量産が開始されるとともに、機上レーダーやロケット弾などの新兵器開発も急速に進められた。

Bf110F-4は、F-2の胴体下面にMK108 30mm機関砲×2を収容したトレイを追加装備し、方向舵の大型化などの改良を加えたモデルで、42年9月には待望の機上迎撃レーダー、テレフンケンFuG202リヒテンシュタインBCを搭載してBf110F-4aとなった。このF-4aは機首下面のMG FF×2を同じ20mmながら弾道特性の良いMG151×2に換装する改良も受けたが、レーダーアンテナによる抵抗の増大、重量増加などのため最大速度は高度6000mで510km/hに低下し、航続距離も840kmと不十分なものとなった。

なお1943年夏以降、F-4の多くの機体がMK108のトレイと旋回銃を外し、代わりに胴体後部にMK108×2を斜め上向きに搭載する、いわゆるシュレーゲ・ムジーク（ジャズミュージックという意味）を追加装備したF-4／U1に改造された。この方式は日本の斜め銃と発想を同じくするもので、サーチライトに照らし出された防御の比較的弱い



1945年3月21日、フリッツラー基地を占領した米軍が鹵獲し、撮影した9/NJG1（第1夜間戦闘航空団第9飛行隊）のBf110G-4/R3（G9＋ST）。FuG220 SN-2dレーダーのアンテナやMK108 30mm機関砲などの装備は撤去されているものの、300リッター入り増槽、大型消焔ダンパー、爆弾ラック、丸みがついた大型スピナーなど、最前線に配備されていたBf110Gの詳細な姿が鮮明に写っている

爆撃機の腹に潜り込んで射撃するという、夜戦にとってはかなり効果的な攻撃法であった。

Bf110の性能向上計画の一環として41年夏にはDB605B-1（離昇1475hp）に換装したBf110G-0が作られ、MGFFをMG151に換えたG-1を経て、迎撃機、戦闘爆撃機の両用途に使用できるG-2が量産に入り、42年5月以降部隊配備が進められた。

Bf110G-2は大型方向舵の採用、脚構造の強化、後部旋回機銃の連装化（MG81Z）、エンジン吸／排気系統の改良などが行われた他、胴体下面にはETC500爆弾架×2、またはMG151×2収容のトレイの装備が可能となった。なおGシリーズの外見上の特徴は、エンジン換装にともなってプロペラスピナーがMe210／410と同様の丸みを持ったものに換えられた事だ。

G-2型のサブタイプとしては、胴体下面に大火力のBK3・7 37㎜砲を搭載したG-2／R1、R1に酸化窒素使用出力増加装置GM-1を搭載したG-2／R2、機首のMG17×4に換えてMK108×2を搭載したG-2／R3、BK3・7とMK108×2を搭載したG-2／R-4、R4にGM-1を加えたG-2／R5が作られた。

G-2量産開始後間もなく、写真偵察型G-3、夜戦型G-4の生産も並行して始められたが、42年夏から配備が始められたG-4各型がBf110のなかで最も大きな活躍を見せることになる。G-4の武装はF-4と同じだが、レーダー搭載を当初から予定していたこと、英空軍のジャミングに対抗するため無線機とIFF（敵味方識別装置）を換装し、ブラインドアプローチ受信機を搭載、大型消焔ダンパーを装備するなど夜戦としての装備を充実させたことが特徴だった。

Bf110G-4のサブタイプとしてはシュレーゲ・ムジーク装備型のG-4／U1、アンテナが小型化されたFuG212リヒテンシュタインC-1レーダーを搭載したG-4／U5、同レーダーに加えて英国爆撃機の後方警戒レーダー・モニカの電波を探知するためのFuG221aローゼンダール・ハルベを搭載したG-4／U6、レーダーは同じながら大型の4ポール型アンテナを装備し、GM-1パワーブースターを追加したG-4／U7、長距離型のG-4／U8が作られた。1943年秋になるとU7仕様が標準となったためG-4aと改称され、このG-4aに対し、G-2と同様のR1（37㎜砲装備）、R2（GM-1装備）、R3（MK108×2）改修機が作られた。

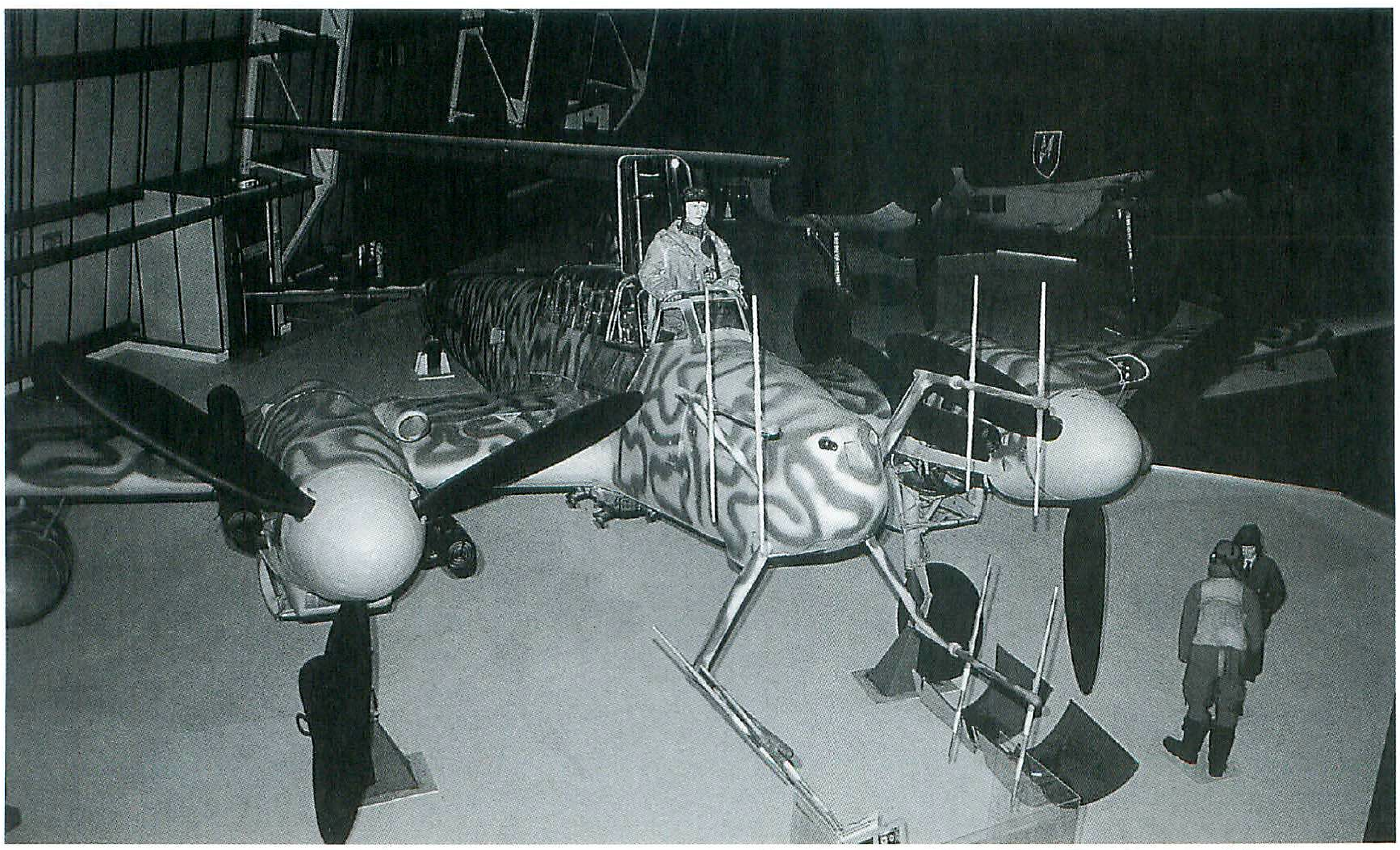
更にG-4のサブタイプとしては、RAFのウインドウ作戦（チャフ撒布、43年7月24日使用開始）に対抗するためFuG212に加えて長波長レーダーFuG220リヒテンシュタインSN-2を搭載したG-4b、最短探知距離が改善されたFuG220bの導入にともなってFuG212を取り外したG-4c、低抵抗型アンテナ装備FuG220bを搭載したG-4dが生産され、その各型に対しR1、R2、R3仕様改修機が作られた他、R2とR3を合わせたR6仕様、R3仕様の長距離型R7、R3のMK108をMG151に換装したR4仕様改修機が作られた。そして1945年3月、最後のBf110G-4／R3がラインオフして本機の生産は終止符をうったのである。なおG型と並行してDB605E装備のBf110Hシリーズの生産も計画されたが戦況の悪化により実現することなく終わった。

夜戦型駆逐機と共に戦ったエースたち
多くの「重爆殺し」を生み出したBf110

Bf110の総生産数は6050機とも5873機とも言われているが、1943年が1509機（半数以上が夜戦型F-4とG-4）、44年が1518機（大部分G-4）となっており、いかに夜戦としての本機が重用されたかが分かろうというものだ。

夜戦型Bf110を最も使いこなしたパイロットを一人挙げるならば、121機を撃墜しドイツ夜戦隊の至宝といわれた、第4夜間戦闘航空団司令・シュナウファー少佐になるだろう。彼はBf110G-4を縦横無尽に操って「サン・トロン（所属基地の名前）の幽霊」と呼ばれたが、特に45年2月21日から22日にかけての夜には、合計9機のランカスターを撃墜するという離れ業を演じている。その他、レント大佐（113機）、シュトライプ大佐（68機）、モイラー大尉（65機）、シェーネルト少佐（65機）、ドレヴェス少佐（49機）などのエース達がいずれもBf110を愛機として大部分の戦果を挙げたこと（しかもその多くはハリファックス、ランカスターなどの4発重爆）は、本機が優秀な夜戦だったことの何よりの証左だといえるだろう。

カンプ・ツェアシュテーラーとして多大の期待をかけられたその誕生から、電撃戦における短い栄光の時、そしてバトル・オブ・ブリテンにおける挫折、戦闘爆撃機・迎撃機としての再起と夜間戦闘機としての最後の輝きの日々まで、Bf110は用兵側の思惑と戦局に翻弄されながらも、最も長期間にわたって戦い続けた双発重戦となったのである。



ヘンドンのRAFミュージアム、バトル・オブ・ブリテンホールに展示されている、元3/NJG3（第3夜間戦闘航空団第3飛行隊）所属のBf110G-4a。機首のFuG220 SN-2cレーダーやMK108 30mm機関砲に迫力がある。この角度から見ると、さすがに同じスタッフが設計した機体だけあって、名機Bf109と胴体などのスタイルが似通っている（写真・松崎豊一）



アメリカ

Photo：K.IKEGAMI

新しいホーク一族を見た！

10月5日、アメリカ・ロサンゼルス北部のハンセンダム湖でウォータードロップのデモンストレーションを行うLACFD（Los Angels County Fire Department）のS-70Aファイヤーホーク（Fire hawk／N160LA／製造番号702453）。同消防が2機導入したうちの1機でこの日、アメリカのメディアに記者公開した。S-70Aは胴体下に1000ガロン（約3785.3リットル）の水を搭載できるウォータータンクを設けたため脚が長くなっており、13人の消防士が搭乗できる。



スイス

Text and Photos：Eric BANNWARTH

サウジアラビアのレアな機体を発見！

スイスのバーゼル空港にオーバーホールのため飛来した、サウジアラビア国防省に所属する医療輸送航空機（Saudi Medical evacuation／Division of Saudi Ministery of Defense & Aviation）。写真右がリアジェット35A（HZ-MS1）、写真左がガルフストリームⅢ（HZ-MS3）。同省にはこの他にガルフストリームⅣ（HZ-MS4）とガルフストリームⅤ（HZ-MS5）、C-130H-30（HZ-MS08）、L-100-30（HZ-MS06/HZ-MS09）、VC-130H（HZ-MS019/HZ-MS02/HZ-MS07）も所属しており、これらはリヤド空港をベースにしている。





オランダ

Photo：Phodocu／Van Rijn

オランダがエンデューリング・フリーダムに参加

11月9日、オランダ政府は自国の空・海軍をアメリカ軍の『エンデューリング・フリーダム』に参加することを決定し、艦船や航空機による補給を行うことになった。参加人員は1200～1400名で、空軍からはF-16AMが6機、KDC-10が1機、C-130H-30が1機参加。海軍からはP-3Cが4機、フリゲートが3隻（SH-14リンクスを搭載）、潜水艦1隻などが参加することになった。今回は直接の攻撃に参加しないが、6機のF-16AMはアフガニスタン近郊の基地に展開し、中高度からの写真偵察を行うことになる予定である。



第334飛行隊からは空中給油機のKDC-10とC-130H-30が1機ずつ参加。また、今回派遣されることになった、フォルケル基地の第311飛行隊のF-16AMは偵察ポッドを装着し、中高度から写真偵察を行う

SEND US! your amazing photos of the military aircraft taken at any place, to Monthly Magazine Jwings,IKAROS PUBLICATION,LTD. kagurazaka K-bldg,3-2 Kagurazaka ,Shinjyuku-ku,TOKYO,JAPAN 162-8616

このページでは海外で撮影された新しい軍用機やめずらしい軍用機の写真をご紹介します。特別塗装機や変わった塗装の軍用機など大歓迎なので、みなさまからの投稿をお待ちしております。『Jウイング編集部』までお送りください。

Photos and Text：Eric Katerberg、Phodocu／Van Rijn



今回、ノルウェー空軍は第331、第334飛行隊の両飛行隊から計4機のF-16AM／BMを参加させた。写真は主翼にサイドワインダーとAMRAAM、胴体下にALQ-131ECMポッドを装着し、レーワルデン基地を離陸するF-16AM（Photo：Eric Katerberg）



フィンランド空軍のF/A-18Cを国外の演習で見ることはめずらしい（Photo：Phodocu／Van Rijn）



フリージアン・フラッグ初参加となったフィンランド空軍からは第21飛行隊のF/A-18Cが計6機参加。1日4ソーティのフライトをこなした（Photo：Eric Katerberg）



ドイツからはJG71（第71戦闘航空団）から4機のF-4Fが参加し、1日2ソーティのフライトを行った（Photo：Eric Katerberg）



ノルウェー空軍からはF-16のほかに第717飛行隊からファルコン20ECM-5も参加し、いままで米海軍のEA-6Bが演習で実施していたECM訓練を担当した（Photo：Phodocu／Van Rijn）

オランダ



フリージアン・フラッグ2001のホストユニットとなったオランダ空軍レーワルデン基地の第323飛行隊。同基地には第303、第322、第323の3つのF-16飛行隊が配備されている。なかでも第323飛行隊は戦術訓練・評価および標準化飛行隊（TACTESS:Tactical Air Combat Training and Standard-ization Squadron）となっており、兵器訓練教官の養成などを行っている（Photo：Eric Katerberg）

NATO各国が集合する演習
『フリージアン・フラッグ2001』が開催される

10月15～26日、オランダ北部のレーワルデン（Leeuwarden）空軍基地でヨーロッパ各国の空軍機が参加する「フリージアン・フラッグ」が行われた。フリージアンとはオランダ北部のことをフリースランドと呼んだことからきており、演習の前身である「DIATIT（Diana Tactical Instructor Training）」は1992年から始まっている。翌年に行われた演習はAWACSが参加したため、名称が「DIAWCS」に変更され、1997年にAWACSが不参加となるまで「DIAWCS」の名で演習が行われた。1997年と1998年にAWACSが不参加となると、再び「DIATIT」の名称に復活したが、参加国が増えたため「Frisian Flag（フリージアン・フラッグ）」となった。

この演習はNATO間の相互協力を目的としたもので、今回はドイツ、フランス、ノルウェー、フィンランド、オランダの各国が参加、NATOからもE-3A AWACSが参加した。例年はアメリカ軍が参加しているが、今年は「エンデューリング・フリーダム」のため不参加となった。演習期間中はAWACSがドイツ国内から展開した以外は、すべての航空機がレーワルデン基地をベースにミッションを実施。オランダの北の空域を使用し、アメリカで行われるレッドフラッグ演習のようにブルーフォースと敵役のレッドフォースに分かれて演習は進められた。

次回のフリージアン・フラッグは2002年の10月に開催される予定になっており、より一層のリアリティを増すため、ブルーフォースと敵役のレッドフォースを別々の基地に分けるつもりであるという。



フリージアン・フラッグのロゴ（Photo：Eric Katerberg）



フランス空軍からはEC2／04（第4戦闘航空団第2戦闘飛行隊）のミラージュ2000Nが2機参加した。ヨーロッパにおけるNATO演習の常連であるフランス空軍だが、ミラージュ2000Dが参加することが多く、ミラージュ2000Nが参加することはめずらしい（Photo：Eric Katerberg）

大空を自在に飛び回るヘリの魅力を満載！

パソコンのフライトシミュレータで高い評価を得ているアクアシステムがプレイステーションでヘリコプター操縦ゲームを発売。ヘリ特有の機動力溢れるフライトが家庭用ゲーム機で存分に楽しめるぞ！



登場する機体は5種類。用途に応じて使い分けよう

フライトシミュレータの多くはPC用、より正確にはWindows用としてリリースされている。家庭用ゲーム機に比べて表現力に優れているし、コントロール用デバイスの融通がきくところもPCが好まれる理由のひとつだ。しかし、それが逆に堅めの作品につながり、誰もが気軽に楽しめるソフトが減ってきていることも否定はできない。どのソフトも、分厚いマニュアルは当たり前。計器類も複雑で、初心者には離陸すらままならないものもある。それはそれでよいとしても、もっとカンタンに楽しめる作品を望んでいる人も多いのではないだろうか。

そこで今回は、誰もが気軽にヘリコプターの操縦を体験できる、アクアシステムのプレイステーション用ソフト『JetCopter X』を紹介しよう。フライトシミュレータというよりミッションクリア型のアクションゲームに近い内容だが、操縦感覚はなかなかリアル。ヘリコプターならではの機動性が存分に楽しめる、とても気持ちのいい作品だ。

6種類のミッションに挑戦!!

ではさっそく始めてみよう。『JetCopter X』のゲームモードは、各マップを自由に飛び回ることができる〝FREE FLIGHT〟モード、操縦方法を課題ごとに学ぶことができる〝PRACTICE〟モード、与えられたミッションに挑む〝MISSION〟モードの3種類だ。まず最初に〝PRACTICE〟モードで離着陸やホバリング、飛行の基礎をみっちり学び、それから〝MISSION〟モードに入るというのが基本になるだろう。〝FREE FLIGHT〟モードはオマケ的な位置づけだが、ある程度上手に飛べるようになると、思う存分空の散歩が楽しめるこのモードが、実は一番楽しいかもしれない。



まずは“PRACTICE”モードで離着陸の練習から

〝PRACTICE〟モードはとてもよくできていて、「離陸せよ」「着陸せよ」といった簡単な課題を順にクリアしていくことによって、操縦方法が自然に身に付くようになっている。課題を繰り返すうちに計器類の見方もわかってくるので、ほとんどマニュアルを見る必要がないほどだ。

〝MISSION〟モードでは、指定されたルートを正確に飛行する〝観光フライト〟、複数の場所に農薬を散布する〝農薬散布〟、空中に浮かぶメダルに体当たりしていく〝宝探し〟、貨物コンテナをフックに引っ掛けて運ぶ〝貨物運搬〟、燃え盛る建物に消化剤を噴霧する〝火災消火〟、遭難した人や溺れかけた人を引き上げる〝人命救助〟の6種類。いずれも制限時間が定められていて、すばやく行わなければならない。ゲーム性重視のデザインだが、いずれもヘリコプターならではの機動性が求められるものばかりで、なかなかよくできている。



『JetCopter X』
発売：株式会社アクアシステム
http://www.aquasystem.co.jp/japanese2.html
価格：4980円十税
対応環境：プレイステーション
周辺対応機器：デュアルショック
メモリーカード：1ブロック使用



“FREE FLIGHT”“PRACTICE”“MISSION”の3つのモードで楽しむ

操作は簡単だが、操縦は難しい

操作方法はとても単純だ。基本的には、左右のアナログスティックのみ。左側のアナログスティックでコレクティブとラダー、右側のアナログスティックでサイクリックのコントロールを行う。ようするに、左手で高度と速度を調整し、右手で向きを決定するというわけだ。こんな具合にとても直感的で、ただ飛ぶだけなら、すぐにでもマスターできるに違いない。

しかし、思ったとおりに機体を操縦できるようになるには、かなりの練習が必要だ。狙った地点に正確に着陸するにはコレクティブの微妙なコントロールが必要だし、ラダーとサイクリックの使い分けも難しい。ホバリングしたまま向きを変えたり、高度を維持したまま数メートル横滑りする動き（消火活動に欠かせない）ができるようになるには、しばらく時間が掛かると思う。逆にいえば、練習すればするほどどんどん操縦テクニックが上達していくゲームなので、自らの成長を体感できるところが『JetCopter X』の魅力のひとつといってもいいだろう。

冬休み拡大版だッ！

ゲームやろうぜ！ 司令官はキミだっ！
Cyber（サイバー） Warlord（ウォーロード） File01
文／駒沢丈治



操縦に慣れたら、"MISSION"モードに挑戦してみよう



基本的な操縦は、左右のアナログスティックで行う

タイプの異なる5種類の機体を乗りこなせ

さまざまなミッションに対応するため、このゲームには5種類のヘリが登場する。自家用や訓練になどに使われている小型のロビンソンR-22、観光や航空写真の撮影などにも使われる汎用機アエロスパシアルAS350、中型で機動性に優れた川崎/MBB BK117、タンデムローター採用の大型機・川崎/ボーイングKV-107バートル、世界初の実用軽ヘリコプターの川崎/ベル47GAなど。ミッションによっては選べる場合もあるし、"FREE FLIGHT"モードなら好きな機体を使って飛ぶことも可能。操作方法は同じだが、巡航速度や機動性に大きな差があるので、機体の違いによる操縦感の変化をパイロットの立場で感じ取ることができるに違いない。

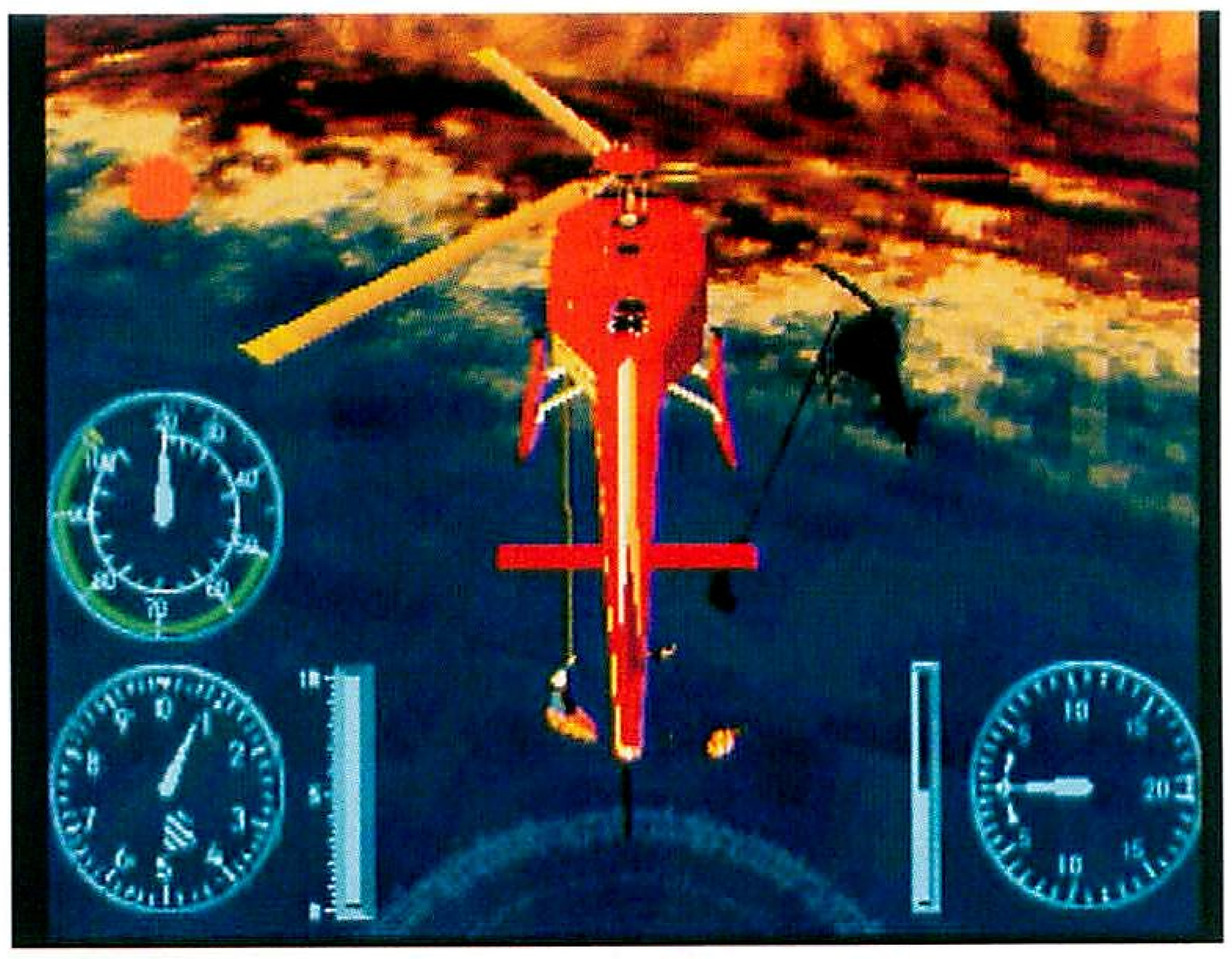
また、飛行中の視点を選べるのも、『JetCopter X』ならではの特長だ。臨場感第一で楽しみたいのなら、自機のコクピットから眺める、"COCKPIT VIEW"モードが一番。"宝探し"や、"農薬散布"モードなら、自機を真後ろから眺める"BACK VIEW"モードが楽だ。同じ場所にホバリングして留まらなければならない"火災消火"や"人命救助"は、ターゲットを真上から確認できる"TARGET VIEW"や、第三者の目で操縦する"RADIO CONTROL VIEW"がいいだろう。飛行中はいつでも自由に視点を切り替えることができるので、シーンに応じて使い分けたり、あえてひとつの視点でミッションクリアを目指すといったプレイも楽しめる。

休日の午後に空の散歩を楽しむ

正直なところ、PC系のフライトシミュレータを見慣れた筆者の目には、『JetCopter X』の画面は稚拙に感じられた。なんといっても解像度が低いし、プレイステーションの性能ではモデリングにも限界がある。この手のゲームが家庭用ゲーム機でプレイできる点は高く評価するが、「できればPS2用として作ってもらいたかった」と思うことしきりだ。贅沢な注文かもしれないが、本気でそう思う。

しかし、最新のビデオカードや1GHzクラスのCPUを搭載したパソコンを用意することなく、CD-ROMをポンとセットするだけで楽しめてしまう魅力は大きい。左右のアナログスティックを使った操作も快適で、気持ちよく大空を飛び回ることができた。各機体の特徴もわかりやすくシミュレートされていて、フライトシミュレータ…とくにヘリ系の作品で定評のあるアクアシステムの実力を感じる。用意されているミッションに挑むのも楽しいが、フリーフライトでただ飛び回るだけでも、十分この作品の「爽快感」や「開放感」を満喫できるのではないだろうか。

冒頭にも書いたように、『JetCopter X』はフライトシミュレータではなくアクションゲームに近い作品だが、だからこそ誰もが気軽に楽しめる「やさしさ」がある。休日の午後、コタツに陣取って空の散歩を楽しむにはもってこいの1本だ。



"人命救助"ミッション。川で溺れかけた人をできるだけ早く救う

こちらは"火災消火"ミッション。火災現場の上に留まりながら消火剤を撒く





視点を機体の外側に置き、ラジコン感覚でヘリを飛ばすこともできる

ゲームやろうぜ！ 司令官はキミだっ！

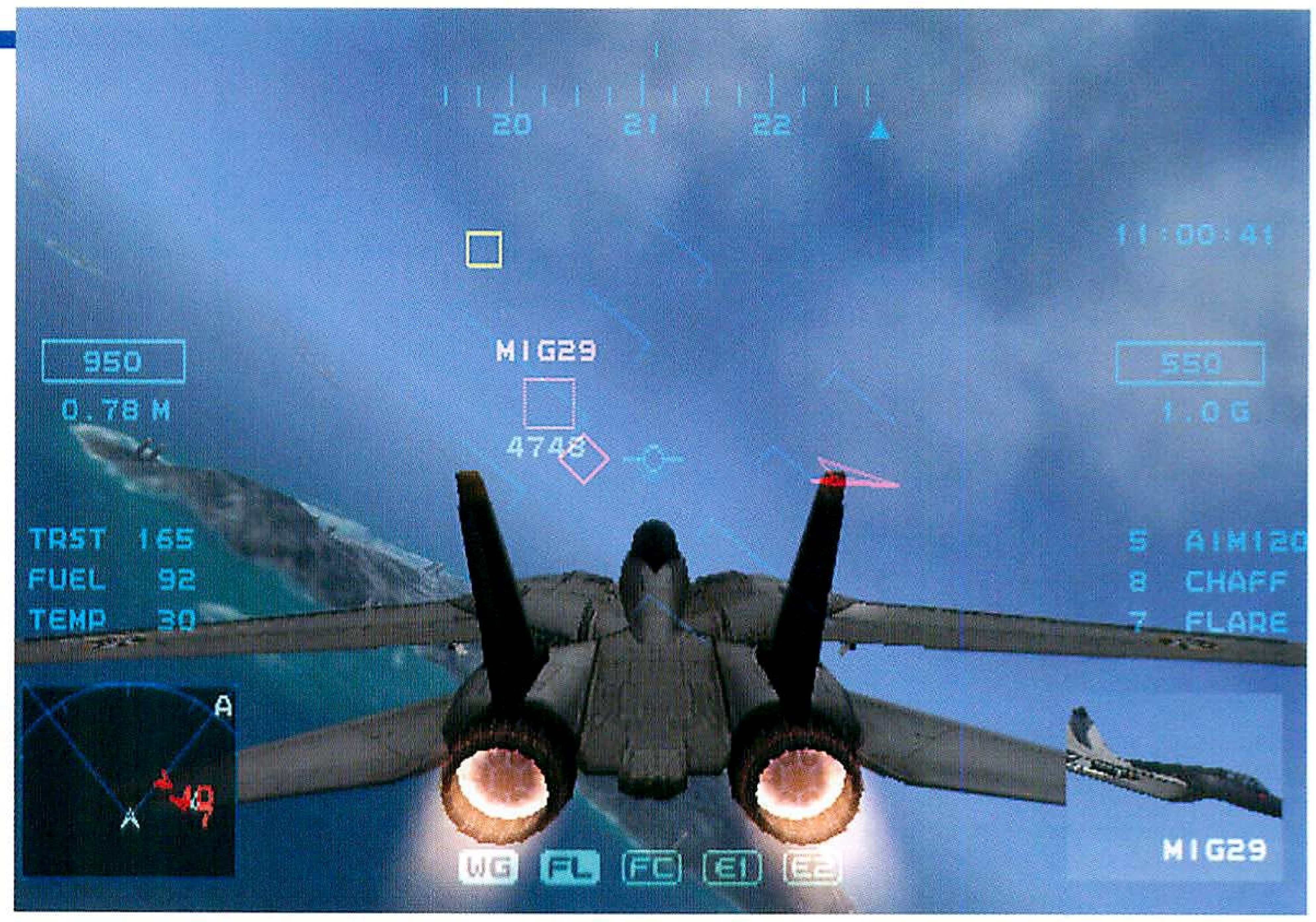
Cyber Warlord（サイバーウォーロード） File02

文／駒沢丈治

冬休み拡大版だッ!

地球の未来を賭け、精鋭「サイドワインダー」が出撃する!!

根強い支持を誇るサイドワインダーシリーズの最新作が、よりパワーアップして帰ってきた。PS2の性能を最大限に引き出した圧倒的なリアリズムと迫力を体感しよう！



フライトアクションのおもしろさは、臨場感で決まる。航空機に乗っているという実感、自分が操縦しているという実感をどこまで感じられるかによって、作品の魅力が決まるといっていいだろう。そのためには映像の美しさ、スピード感、そしてキビキビとした操作感が必須なのだが、これらすべてを満たした作品となるとまだまだ少ないのが実情だ。

しかし、今回アスミック・エースが発売したPS2用フライトアクション『SIDEWINDER F』なら、存分に楽しんでいただけるに違いない。最新鋭戦闘機の操縦を、そして息詰まるような戦闘シーンを心ゆくまで味わいたいあなたにおススメの1本だ!!



コックピット内部の映像も細かく描かれている

ストーリー仕立てでミッションを楽しむ

『SIDEWINDER F』の舞台となるのは、近未来の地球。急激に進んだ温暖化とオゾン層の破壊によって、世界は危機的な状態にある。海面は上昇し、沿岸部分にある多くの都市が水没してしまった。各国は食料と資源の奪い合いで険悪な状態となり、世界各地で紛争が起こっている。その紛争に油を注ぐ形で武器の輸出を行っているテロ国家に対して、国連は「武力による最終解決」を決定。プレイヤーは、新たに組織された国家的軍隊「Frontier Nations（FN）」のパイロットとしてこの戦いに参加する……という設定だ。

与えられたミッションを順次クリアしていくキャンペーンモードの他、それぞれのマップでドッグファイトをとことん楽しめるトレーニングモードも用意されている。世界中の様々な場所を転戦し、空母からの発進や狭い峡谷での戦い、対艦攻撃や要塞の攻略、巨大ヘリの撃墜などバリエーションに富んだ戦いができるところが楽しい。



1機撃墜。もう1機にも照準が合った

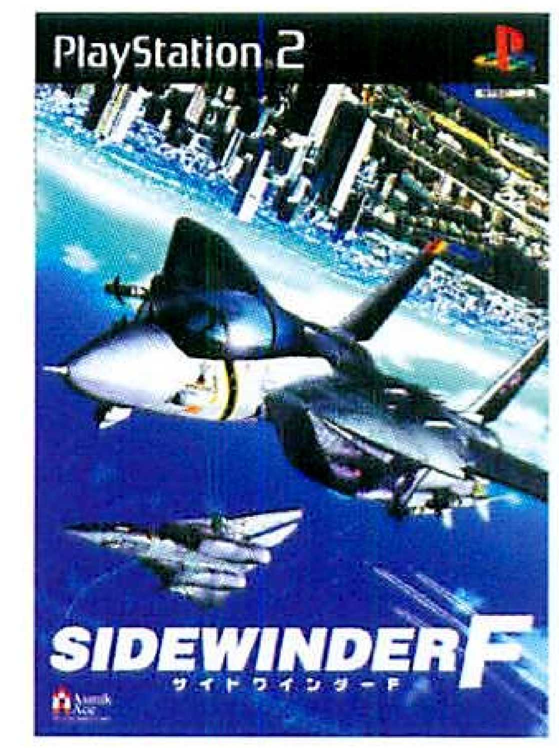
主要戦闘機が次々に登場

ストーリーは架空の設定だが、戦闘機はF-14D、F-16C、F/A-18E、F-15E、F-22、EF2000、JAS39グリペン、MiG-29、Su-27など、現実に存在する機体がそのまま登場する。ただしこれらは最初からすべてが選べるわけではなく、ミッションをクリアすることによって少しずつ選択肢が広がっていく仕組み。戦闘機のパラメータはSPEED（最高速度）、MOBILITY（機動性）、RANGE（航続距離）、FCS Lv.（火気管制システム）、STEALTH Lv.（ステルス性能）の5つ。数値はかなりシビアにレーティングされていて、選んだ機体によって使用感や操作感はかなり違う。また離陸前にはペイロードに積む武装も選べるようになっているので、ミッションの内容（対地・対艦攻撃か空中戦か）や戦う相手によって最適な組み合わせを見極めなければならない。

戦闘は随伴する僚機とともに行い、その数や強さを変更することも可能。僚機の数を増やしたりレベルを変えることによって、ゲーム全体の難しさを調整できるようになっている。この手のアクションゲームが苦手な人も、また得意な人も、自分にとって程よい難易度で楽しめるというわけで、これはとてもいいアイデアだと思う。

迫力の戦闘シーン!!

なんだかちょっと、コワくなるほどよくできたゲームだ。まず度肝を抜かれたのが、登場する機体のモデリングだ。全体にくすんだ色使いで、ズシリと重量を感じさせるデザイン。軽く汚れているところが、〝兵器〟としてのス



『SIDEWINDER F』
発売：アスミック・エース エンタテインメント
http://www.asmik-ace.co.jp/game/index.html
対応環境：プレイステーション2
価格：6800円＋税
（FLIGHT FORCE同梱パック：12800円＋税）
周辺対応機器：デュアルショック2、FLIGHT FORCE、フライトスティック
メモリーカード：81KB以上必要



驚くほどリアルな質感。このクオリティで迫真の空中戦が楽しめる



戦場はミッションによって変わる。地形に合った戦い方を考えよう



夜間の戦闘爆撃ミッション。接近してAGMで攻撃だ

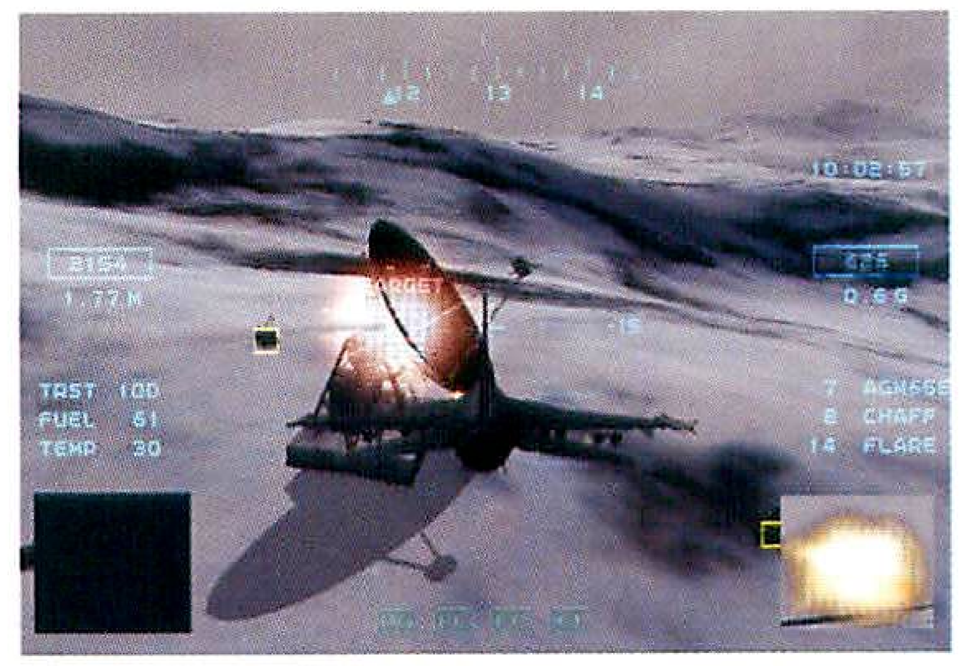
ゴミを漂わせている。派手な色使いやわざとらしい演出がなく、淡々と、まるで実写フィルムのような映像でプレイすることができる。実際、飛行中の1シーンだけを切り取って見せたら、実写と見分けがつかない人が多いかもしれない。

肝心の戦闘シーンの迫力もすばらしい。白煙をなびかせながら飛ぶミサイルの描写や、様々な情報が見やすく表示されたヘッドアップディスプレー。コクピット視点や機体後方など、4種類の中から好きな視点を選んで戦うことができるところもいい。撃ったミサイルの視点で表示される「カメラ・アイ」の映像も、単に迫力があるだけでなく、ターゲットの破壊成功の確認にも役立つ。

侮れない敵機の攻撃

文章ではなかなか伝えにくいのだが、機体の反応のよさ……というか、コントローラで与えた指示が即座に反映されるキビキビとした動作も、このゲームをプレイして感じた魅力のひとつだ。この手のフライトアクションの中には、映像はすばらしいのだが機体のコントロールが鈍く、妙なラグを感じるものも多い。しかし『SIDEWINDER F』にはそうしたモタつきがなく、スムーズに機体を操ることができた。戦闘機を自由に操れること、思うままのマニューバを描けることが、なんとも心地よい。

AIがコントロールする僚機や敵機の行動も、リアルに再現されている。プレイヤーが対地攻撃に専念している間は僚機が対空戦を受け持ってくれるし、敵機の動きにも見えない連携のようなものを感じた。目の前の1機を追いかけていると死角から突然ミサイルを食らうこともある。なめてかかると痛い目にあうだろう。



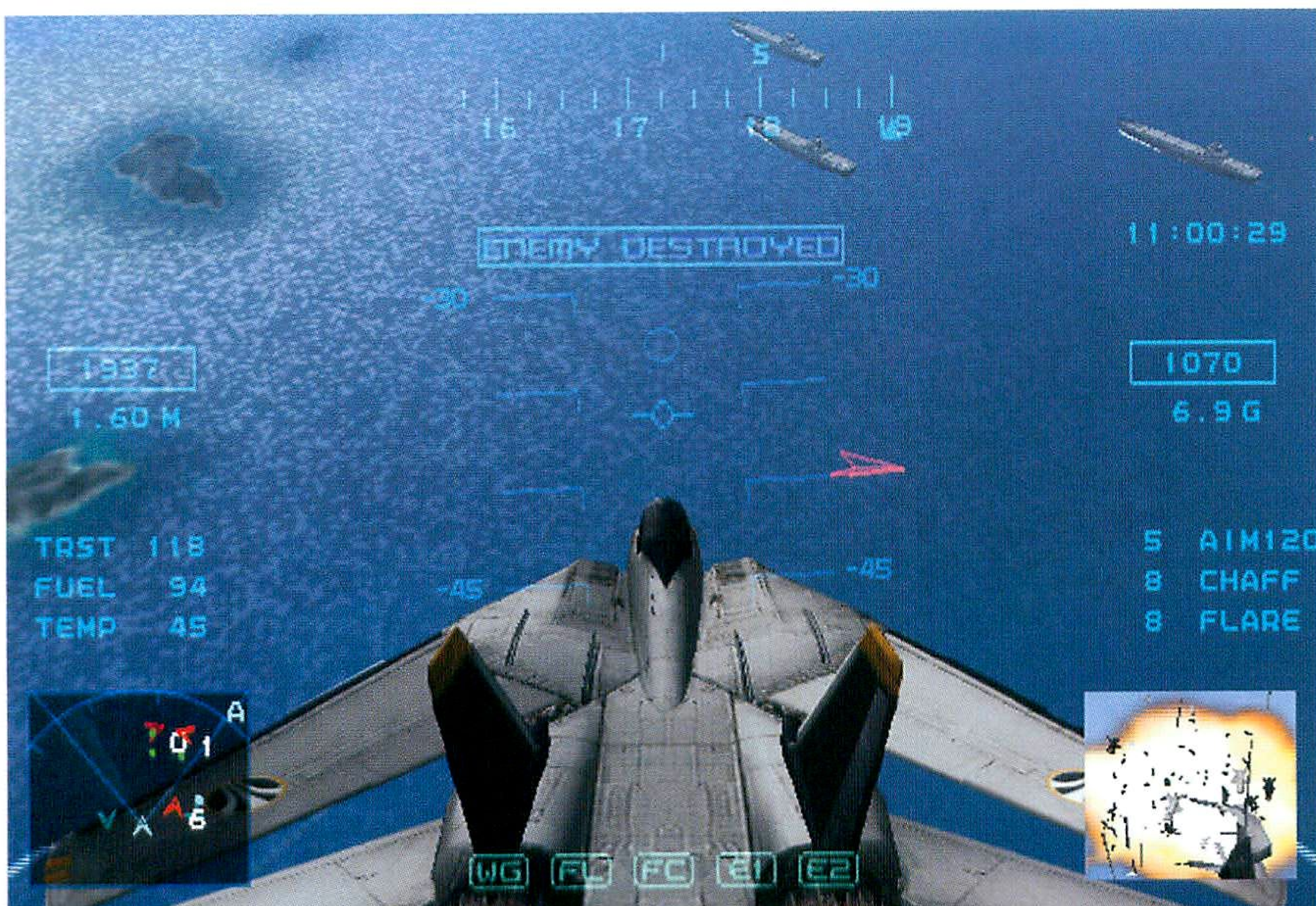
敵の警戒システムを至近距離で捕らえた。確実に叩き潰せ!!

『FLIGHT FORCE』で感じた臨場感

ところで今回は、ロジクールのPS2用ジョイスティックコントローラ『FLIGHT FORCE』を試すことができたのだが、これがまた実にキモチいい操作感だった。ほどよいサイズと扱いやすい重量。ツイストハンドル部分の握り具合もなかなかいい。『SIDEWINDER F』に完全対応なのですべての機能を使うことができるし、機体の"重さ"や振動を再現するフォースフィードバック機能も臨場感を感じさせてくれた。

実際に戦ってみて便利に感じたのが、ツイストハンドルの根元部分についているスロットルコントロールだった。左手ですばやく、しかも感覚的に速度を調整することができるので、爆撃ミッションが格段にやりやすい。またツイストハンドルをひねると簡単にヨーイングできるので、照準合わせも楽だ。

もちろん『SIDEWINDER F』はPS2付属のコントローラでも十分に楽しむことができるが、やはりフォースフィードバック機能付きのジョイスティックコントローラのほうが機体を扱いやすいし、なにより臨場感に勝る。機会があれば、ぜひ一度試していただきたい。



画面右下に表示される「カメラ・アイ」で敵機の撃墜を確認


ミッションブリーフィング画面で目的を確認しよう



戦闘シーンはあとからリプレイモードで観ることもできる



ミッションが進むにつれて、徐々にシナリオの全貌が明らかになる

撮ろうよ！写真

読者の作品投稿ページ

◎選んだ人／伊藤久巳



ENTRY No.334 松野真司（埼玉県毛呂山町）

ニコンF4-S、AFニッコール180mm F2.8、×1.6テレコン、1／250、シャッター優先、フジクロームプロビア100F（RDPⅢ）、2001年10月3日、百里基地

●年に一度ぐらいしか見ることのない、訓練によるBAK-12（編集部註：地上のアレスティングギア）のヒット。それもRF-4Eです。F-15と違って火花は出ていませんが…

〈選者のひとこと〉

アレスティングフックを引きずる様を見事に捉えた。角度が最高。
バックの建物が機体に隠れたらもっとよかった。



ENTRY No.333 森嶋猛（三重県鈴鹿市）

キヤノンEOS3、EF100～400mm F4.5-5.6 I IS、1／500、シャッター優先、フジクロームトレビ400、2001年6月11日、松島基地

●4機でのフィールドアクロを繰り広げるブルーです。早く6機での演技が見たいです。

〈選者のひとこと〉

逆光気味ながらキャノピーが光って印象的な仕上がりになった。
パイロットたちの懸命なトレーニングの様子が垣間見られて気持ちいい。



ENTRY No.336 森脇隼都（神奈川県相模原市）

ニコンFE10、ニッコールAF70～300mm F4.5-5.6、シャッター優先、1／60、フジプロビアF（RDPⅢ）2001年8月31日、東富士演習場

●ぬかるんだ地面を泥水をあげながら射撃位置にむかう90式戦車です。

〈選者のひとこと〉

1／60での流し撮りが見事に決まった。本物の草で迷彩を施した
90式戦車が泥水をはね上げる姿に気後れせずによくぞシャッターが切れたと思う。



ENTRY No.335 佐藤恭一（北海道札幌市）

キヤノンEOS3、EF100～400mm F4.5-5.6 I IS、1／500、f5.6、フジプロビア（RDP II）、2001年8月23日、松島基地

●松島基地航空祭直前のブルーインパルス。
青空でスモークがとってもきれいでした。

〈選者のひとこと〉

ブルーインパルスを撮れる喜びが画面にあふれている。
もっと絞って空の濃さを落としてもいいと思う。



ENTRY No.337 鈴木賢治（北海道札幌市）

ペンタックスMZ50、シグマ170～500mm、1／350、シャッター優先、コニカセンチュリア200、2001年11月15日、千歳基地

●夕陽の中、アプローチするF-15Jです。自分の中では納得する1枚です。

〈選者のひとこと〉

今にも雲に隠れる寸前の太陽を、よくぞ見逃さずにアプローチするF-15Jと重ねた。
劇的な一枚として大きく伸ばして自慢できる作品だと思う。



ENTRY No.339 大山浩明（茨城県玉里村）

キヤノンEOS55、EF75～300mm F4.5-5.6 USM、1／500、シャッター優先、コニカXJ400、2001年8月31日、東富士演習場

●雨上がりの不整地。悪路で姿勢をくずさず、バイク上からしっかりと目標を捕捉する偵察隊員です。

〈選者のひとこと〉

悪路をものともせずに小銃を構える隊員も隊員だが、こんな小さくて速い被写体をよくぞファインダーで捉えて、さらにここでシャッターが切れた。



ENTRY No.338 久保田雄三（静岡県浜松市）

キヤノンEOS Kiss III、EF75～300mm、プログラムオート、フジベルビア(RVP)、2001年9月20日、浜松基地

●夕陽を浴びてタキシングをする第601飛行隊のE-767です。機体に光が反射してきれいでした。

〈選者のひとこと〉

夕日の角度が絶妙で、E-767の胴体がギラリと光ったのが勝因。特徴あるレーダードームや大きなエンジンがしっかりとシルエットに浮かんでいる。

読者が選ぶベストショット



“12月号ベストショット”は
エントリーNo.328小林則夫 さんです！
おめでとうございます。

みんなからの投票を待ってます！

「写真撮ろうよ」に採用された写真には、1枚1枚エントリーNo.をつけて、毎号、読者のみなさんによる人気投票を実施しています。

今月、あなたが一番いいと思うショットを選んで、そのエントリーNo.を本誌とじ込みの『読者アンケートはがき』の所定の欄に記入してください。結果は、次々号のこのページで発表します（今月号の発表は2002年4月号）。今月は誰が1等賞になるのか？ カギを握るのはあなたの1票です!!

さらに！ 半年ごとに獲得票数を集計し、最も票数の多い作品を改めて発表。ここで見事1位になった方には、賞金（1万円）を贈呈します。

どしどし応募して、どしどし選んでくださいね!!

応募要綱 このコーナーは、読者の皆さんが撮影した写真を掲載するページです。対象は軍用機のほか、兵器、艦船、戦車、軍人など、軍用機や軍にまつわるものなら何でもOK。機体のアップはもちろん、情景写真や芸術系の写真なども歓迎します。撮影の時期、場所、イベントはタイムリーなものがベターです。

❶写真1枚1枚に次のデータを添付してください ◎郵便番号、住所、氏名（ふりがな）、電話番号 ◎撮影場所、撮影年月日 ◎撮影データ（使用したカメラ、レンズ、絞り、シャッター速度、フィルム） ◎撮影した航空機などのデータ（写っている航空機の所属部隊など、知っている限りの情報を明記してください） ◎撮影者のコメント（撮影した印象、撮影にまつわるエピソード、感じたことなど）❷ペンネームでの投稿は受け付けません。❸投稿はプリントでもスライドでもOKです。プリントサイズも問いません。採否を問わず返却できません。❹危険区域で撮影したものや制限を越えた場所、条件で撮影した作品は採用できません。❺締め切りは特に設けません。随時募集します。

宛先／問い合わせ先 〒162-8616 神楽坂Kビル イカロス出版 月刊Jウイング編集部「写真撮ろうよ」係 TEL:03-3267-2734 FAX:03-3266-0639

※このコーナーに応募された作品でも、非常に話題性があったり、タイムリーな場合には、“FEVER!”欄に掲載させていただく時があります。



ENTRY No.340 廣谷孝文（東京都羽村市）

キヤノンEOS1V、EF100～400mm F4.5-5.6 I IS、×1.4テレコン、1／200、シャッター優先、フジプロビアF(RDP III)、2001年7月1日、横田基地

●夕暮れが始まる頃、帰投のため離陸するF-14。アフターバーナーがキレイです。

〈選者のひとこと〉

斜光の中をテイクオフしていくF-14のアフターバーナーが印象的だ。昼間の写真なのにアフターバーナーをきちんと写し込むのはけっこう難しいもの。



ENTRY No.341 大熊誠（佐賀県中原町）

キヤノンAE-1、300mm F4、1／500、フジスペリア400、2001年10月21日、玖珠駐屯地

●小雨の中で行われた駐屯地祭。模擬戦で展開する74式戦車です。

〈選者のひとこと〉

74式戦車がこちらに向かってくる迫力。巻き上げた泥。雨に濡れて凄みを増した車体もまたいい。

パッチの帝王

THE EMPEROR OF SQUADRON PATCHES

Vol.42 イーグルドライバーパッチ

Text:A.Rausu



201TFS EAGLE PLUS DRIVER
元来は戦競用としてデザインされた。白目があるのに注目!



201SQ EAGLE DRIVER
エンジン強化の「イーグルプラス」配備と戦競用をMIXしたらしい



201SQ FIGHTING BEARS
イーグルドライバーパッチのパロディは多いが、これもその1枚



202SQ MIDNIGHT EAGLE '99
硫黄島に展開し、夜間演習を行なった記念パッチ。南十字星に注目



203TFS' 01 TAC MEET WINNER
01戦競優勝記念として製作されたものだが、オフィシャルではない



204SQ EAGLE DRIVER
この配色以外にも2パターンのカラーがあり、好みのものを選択している



303TFS 1999 TAC AIR MEET IN KOMATSU
99戦競出場選手用として製作。前年の98戦競千歳と同デザイン



304TFS '99 Tac Meet Winner
99戦競優勝記念で製作。飛行隊によって表現が違うので注目したいポイントだ



305SQ '01 Tac Meet Winner
01戦競優勝パッチ。203SQと優勝を分かち合った



EAGLE DRIVER
デザインが逆版のパターン。右肩に付けたとき、イーグルが正面を向く



AGGRESSORS
飛行教導隊用のパッチだが、販売用でオフィシャルではない。飛行機もスホーイ?



EAGLE INSTRUCTOR
23SQの教官用パッチ。独特な字体が目新しい

F-15を自由自在に操るパイロット。彼らは自分たちのことを「イーグルドライバー」と呼ぶ。そして彼らのみが着用を許されているパッチが「イーグルドライバーパッチ」なのである。

パッチ自体は、米空軍が制定したもの。航空自衛隊ではF-15導入と共に、このパッチも『輸入』してきたというわけだ。この例は先代のF-4でも見ることができ、ファントムII飛行時間パッチがそれである。

またいずれの場合も、登場初期は米軍のものと大差ないデザインで、ちょっと「バタ臭い」鷲(イーグル)が表現されていた。その後、すぐにデザインをリファイン。現在に通ずるものへと変更され、大きさも直径85㎜に統一されている。

米軍タイプに比べ、より精悍な顔つきとなったイーグルドライバーパッチは、当初こそ米軍オリジナルの配色パターンしかなかったが、千歳の第201飛行隊がロービジで全くのオリジナルを製作。これ以降、空自イーグルドライバーパッチは、どんどん華やかになってゆくのである。

さて第201飛行隊のオリジナルパッチはというと、米軍とも空自ともかけ離れたデザインで、登場当時はビックリさせられたものである。つい最近まで同デザインを使用していたが、ごくノーマルのイーグルとしたデザインや、ノーマルに近いデザインとしたパッチも登場している。

イーグルドライバーパッチの取り付け方は、左肩に装着するのが基本。また、右肩に取り付けると、イーグルが後ろを向いてしまうため、一時期逆パターンのパッチが製作されたこともあったが、オリジナリティを尊び今では消滅している。

なお飛行隊によっては数種類の配色パターンがあり、パイロットの好みで色を選んで取り付けていることもある。

2002年こそ航空祭が復活し、そこでさまざまな装着方法を観察できることを祈ろう。

イーグルドライバーパッチ ミニ情報

これらのパッチの入手は、やはり航空祭に限る。と言いたいところだが、テロ戦争の行方により2002年の開催も不安定。その他の手段は皆無に等しい。コレクターにとっては、残念で仕方が無い。

が、空自パッチの老舗、青森県三沢市にある(有)サンブラザー刺繍では、数に限りがあるがホームページ上でパッチの販売を行なっている。数量限定のため、発売即品切れとなるケースも多いが、こまめにチェックして最新情報をゲットしよう。

今後の予定として、F-86やF-104時代の製品をリバイバル販売する計画もあるとか。オールドファンなら見逃せないゾ!

(有)サンブラザー刺繍公式ホームページ←
http://www.sun-brother.com/

＊これらのパッチはすべて、関係者の方にお借りしたものや各地の航空祭などで購入したものです。飛行隊では販売していませんので、問い合わせのTELをしないように!



FEVER! フィーバー!

全国飛来機投稿情報ページ

写真解説 坪田敦史

*記事は撮影者の投稿情報をもとに書いたものであり、編集部が内容の事実関係を確認できていないものがあります。あらかじめご承知おきください。お気づきの点がありましたら、編集部まで情報をお寄せください。

松島基地 **UH-60J**（写真／佐藤智洋）
JASDF 松島救難隊 18-4551

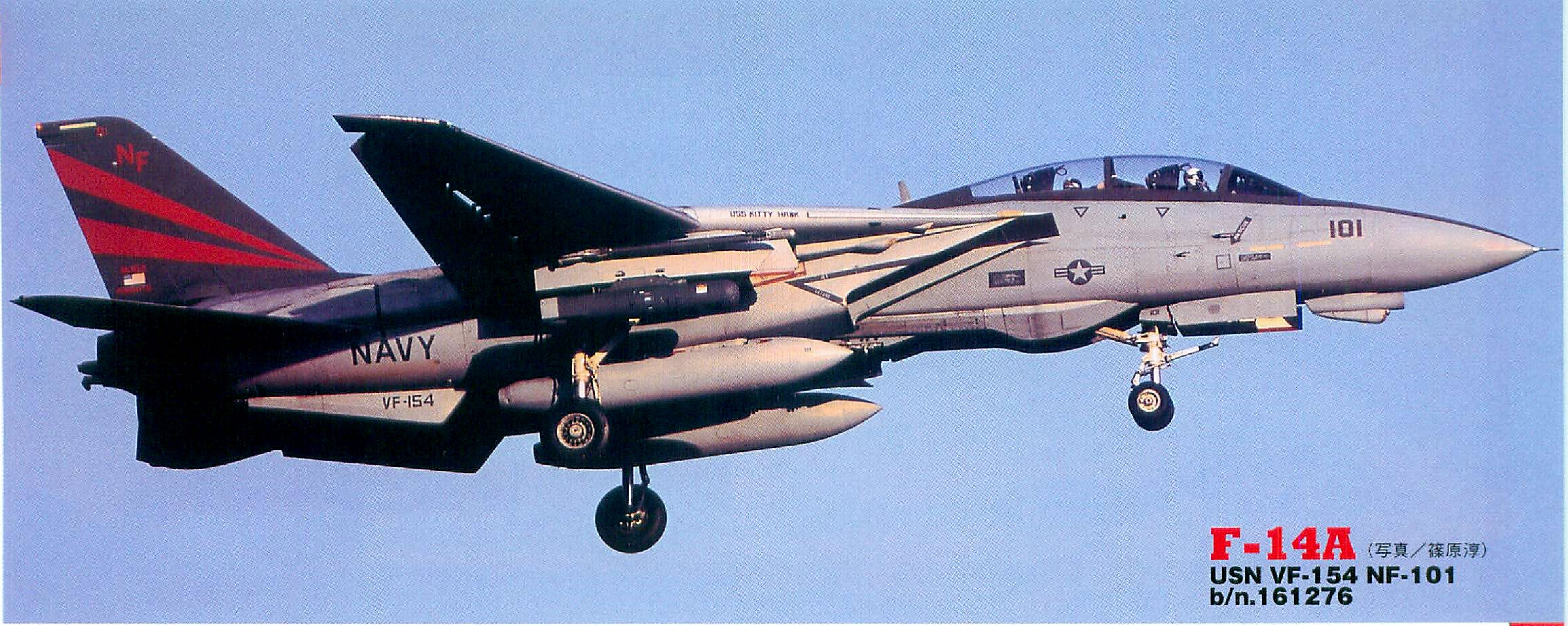
迷彩塗装のUH-60J 2機も出現

2000年の同時期にも迷彩塗装のUH-60Jが登場したが、2001年は2機も出現した。写真上は11月14日13時頃、松島基地で撮影された松島救難隊のUH-60J。F-2ライクなダークブルー2色の洋上迷彩が施された。ただし、日の丸の大きさは同じで、増槽までは塗っていない。写真下は11月15日15時頃、小松基地で撮影された小松救難隊のUH-60J。こちらは陸自ライクというべきだろうか、グレー迷彩である。日の丸を小さくし、増槽も同色に塗っている。2機とも、日米共同救難訓練「コープエンジェル」に参加するために塗装されたが、結局訓練は中止になってしまった。写真右は11月15日、小松救難隊の通常塗装のUH-60J（#564）とともに、小松基地にUH-60J、3機編隊で着陸するシーン。フォトミッションを実施していたらしい。



小松基地 **UH-60J**
JASDF 小松救難隊 18-4553（写真右と下／後藤文志）





F-14A（写真／篠原淳）
USN VF-154 NF-101
b/n.161276

厚木基地

塗装が変更されたVF-154のF-14A

写真上は11月16日15時20分頃、厚木基地のランウェイ19に着陸するアメリカ海軍VF-154のF-14Aトムキャット。隊長指定機のNF-101に新しく塗られたカラーマーキング機だ。垂直尾翼は表裏ともにブラックに近いつや消しのダークグレーで、斜めの帯は赤、ラダーの下部分にはこれまでの「BKR」の文字ではなく、BLACK KNIGHTSの文字と星条旗が記入されている。ところで、司令指定機のNF-100（b/n.161621）は2000年12月号の80ページで、テイルが黒一色になった状態を掲載したが、11月下旬の時点で機体全面ノーマークになってしまった。写真下はそのNF-100で、11月7日嘉手納基地で撮影。おそらく機体が交換されるものと思われるが、このNF-101がNF-100になるわけではないようだ。写真右は11月16日12時10分、厚木基地のランウェイ01に着陸するF-14A、NF-105。塗装パターンはNF-101と同様で、配色はグレー。同様のマーキングはNF-104でも確認されており、今後、この塗装が標準になるものと思われる。マニアの間でも、「かっこいい」と評判だ。

F-14A（写真／橋本裕明）
USN VF-154 NF-105
b/n.161271



F-14A
USN VF-154 NF-100
b/n.161621
（写真／久場悟）



厚木基地

厚木にストライクイーグル初飛来

F-15E（写真／東條広之）
USAF 3WG/90FS
90-0225



11月25日11時すぎ、厚木基地のランウェイ01を離陸するアメリカ空軍のF-15Eストライクイーグル。第3航空団第90戦闘飛行隊（アラスカ州エルメンドルフ基地）の所属機で、11月21日、4機で飛来した。厚木には初飛来である。在韓米軍基地に一時的に派遣されている機体が、クロスカントリーのためやってきたのだろう。これも、横田基地が滑走路工事で降りられないおかげだ。コールサインは"Shark 01 Flight"で、離陸後、嘉手納基地に向かった。胴体下前部に2個搭載しているのはLANTIRNポッドで、後部に2個搭載しているはバゲージポッドである。なお、一部の民放TVで、F-15E飛来のニュースが報道されたため、週末ということもあり、離陸を撮影しようと、多くマニアが厚木に集結していた。離陸したF-15E 4機のシリアルナンバーは、90-0247, 90-0250, 90-0253, 90-0255。



F/A-18C
USN VFA-27 NF-201
①



②
F/A-18C USN VFA-195 NF-400 b/n.164968

嘉手納基地 CVW-5所属機の爆装、嘉手納での演習シーン

（写真4点／久場悟）

10月27日～11月16日まで、嘉手納基地でCVW-5による大規模な演習が行われ、数々の兵装を搭載した機体を見ることができた。写真①はVFA-27のF/A-18C（NF-201）で、パイロンにラックを介して訓練用の模擬爆弾（通称ナスビ）が複数取り付けられている。写真②はVFA-195のF/A-18C（NF-400）で、左右主翼下パイロンに1発ずつ1000ポンドのMk.83爆弾を搭載。写真③はVFA-195のF/A-18C（NF-402）で、AGM-65マーベリック空対地ミサイルを搭載。写真④はVS-21のS-3B（NF-701）で、パイロンにはトリプルエジェクターラックを介して500ポンドのMk.82爆弾を搭載している。なお、VAW-115とVAQ-136は、最後の1週間だけの参加だったようで、前半は部隊個別、後半はCVW-5全体のストライク・パッケージの演習となった模様。展開したCVW-5所属機のモデックスは次のとおりだ。F-14A（NF-100,101,105,111,112,113）、F/A-18C（NF-201,205,210,211,215）、F/A-18C（NF-300,303,307,312,313）、F/A-18C（NF-400,401,402,403,406）、EA-6B（NF-500,504）、E-2C（NF-602,603）、S-3B（NF-701,702,704,705）



③
F/A-18C
USN VFA-195 NF-402



④
S-3B
USN VS-21 NF-701

嘉手納基地 VMFA-232の謎の行動

F/A-18C
（写真／久場悟）
VSMC VMFA-232 WT-01 b/n.163714



11月13日、嘉手納基地で撮影されたVMFA-232"Red Devils"のF/A-18Cホーネット。隊長指定機のWT-01だが、カラーマーキングはまったくなし。機首には、やや濃いグレーで、ワンポイントのデビルマークが入っている。この日、WT-06,10,12とともに4機で飛来した。VMFA-232は、2001年9月14日に岩国基地に到着したことが確認されており、9月末に日本を離れたVMFA（AW）-242との交代部隊と考えられたが、なぜか、すぐ9月18～22日頃に中東方面に移動してしまった。具体的にどこに派遣され、なんのミッションをやっていたのかは定かでないが、対イラク向けの"オペレーション・サザン・ウォッチ"などの作戦を支援していたという説がある。同時多発テロ事件以後、ペルシャ湾で活動していた空母が北アラビア海に移動し、対アフガニスタン向けの作戦へと移行したことから、対イラク作戦を陸上配備の戦闘機部隊がサウジアラビアなどに展開して支援する必要があったものと思われるからだ。そのような実戦に関わっていたことを考慮すると、派手なカラーマーキングが落とされてしまったことも理解できるのではないだろうか。



C-135K USAF 15ABW/65AS 59-1518



KC-135E
USAF 15ABW/65AS 57-2589

厚木基地 空軍のVIP機C-135、厚木に飛来

（写真2点／橋本裕明）

横田基地の滑走路工事のため、厚木にアメリカ空軍のVIP輸送機2機が飛来した。11月19日に横田基地で行われた第5空軍司令官（兼在日米軍司令官）交代式に関連しての要人輸送ミッションだった。写真左は11月19日11時50分、離陸のため厚木基地をタキシングする第15基地航空団第65空輸飛行隊（ハワイ州ヒッカム空軍基地）のC-135K。デニスC.ブレア太平洋軍司令官（海軍大将）の乗機だ。タキシーウェイC-Westからランウェイをバックタキシーして、ランウェイ01の離陸ポジションに着いた。飛来したのは17日17時4分で、コールサインは"SPAR 58"。離陸後、嘉手納基地に向かった。

写真右は11月17日15時49分、厚木基地のランウェイ19に着陸する、同じ部隊のKC-135E。こちらは、新しく第5空軍司令官に着任するために日本に到着した、トーマスC.ワスコー中将の乗機である。この機体の離陸は19日11時7分で、その後オーサン基地に向かった。コールサインは"SPAR 59"。2機ともマーキングは同じだが（いわゆるSAMカラー）、KC-135Eのほうは、しっかりと空中給油のフライングブームが付いている。

嘉手納基地 C-40A、日本初飛来達成！

C-40A USAF VR-59 b/n.165830（写真／久場悟）

11月5日、夕暮れの嘉手納基地に飛来したアメリカ海軍VR-59"Lonestar Express"のC-40Aクリッパー。日本初飛来だ。この機体（165830）のニックネームは"Spirit of New York City"である。C-40Aは、ボーイング737-700Cをアメリカ海軍がC-9Bスカイトレイン IIの後継機として導入した機種。VR-59（テイルコード:RY／ホームベース:テキサス州NASフォートワースJRB）がC-40A最初の飛行隊となり、先に定数4機の配備が完了したばかり。なお、次にC-40Aの配備部隊となるのはVR-58（テイルコード:JV）となっている。C-40Aの航続距離はC-9よりも長い3800ノーチカルマイルとなっているため、米本土から極東への飛行ルートも、ある程度変更が可能だろう。



小牧基地 小牧にUC-90が飛来

UC-90 JMSDF 202ATS（写真／高橋祐弥）

11月13日、航空自衛隊の小牧基地に飛来した、海上自衛隊・第202教育航空隊のUC-90。11時頃着陸し、13時15分頃離陸した。給油などの目的での飛来だと思われるが、小牧にはあまり飛来実績がない機体なので珍しい。UC-90は国土地理院が発行する地理データを収集するための機体で、観測や写真撮影を任務とする航空機だ。便宜上、同じシリーズの機種、TC-90を一元的に運用する第202教育航空隊に配備され、海上自衛隊が運航を担当している。UC-90は、この1機しか存在しないため、希少価値は高いだろう。ブルーの綺麗なカラーリングの機体なので、少し大きく掲載しておく。なお、バックには名古屋空港に建設された、新しい管制塔が見える。



AAM戦技集合訓練、続報

小松基地



（写真／島隆）**F-15DJ** JASDF AGR 32-8083



F-15DJ JASDF 306SQ 22-8056（写真／加藤幸治）

先月号の85ページで既報済みだが、小松基地でAAM戦技集合訓練が10月22日から始まり、11月まで行われていた。写真左は10月30日14時10分頃、小松基地のランウェイ06を離陸する飛行教導隊のF-15DJ、083号機。センタータンクに隠れて見えにくいが、Sta.4とSta.7にAIM-120Bアムラームが1発ずつ（計2発）搭載されている。このときのフライトでは、着陸時にSta.7のアムラームは付いていなかったため、1発の実射が行われたもようだ。写真右は10月30日14時10分頃、同じく小松を離陸する第306飛行隊のF-15DJ、056号機。Sta.2にJ/AQM-1ターゲットドローンを搭載している。F-15DJ、083号機のアムラーム実射標的として使われた。この日は2回のアムラーム実射が行われ、1回目は第303飛行隊のF-15DJ、059号機にJ/AQM-1を搭載、アグレッサーのF-15DJ、090号機がアムラーム搭載機だった。写真のペアは、この日2回目のものである。なお、小松に展開していた飛行教導隊のF-15DJ、083号機と090号機は、11月下旬、新田原基地に戻っている。

飛行教導隊のニューフェイス

新田原基地

（写真3点／茨木正美）

飛行教導隊に、また新しい機体が入った。F-15DJ、091号機と092号機である。ともにAMRAAM（発達型中射程空対空ミサイル）の運用を可能にした改修機だ。写真は3点とも11月28日に新田原基地で撮影されたもの。11月下旬にIRAN（定期整備）を出て、飛行教導隊に配備されたあと（#091は11月5日配備、#092は11月14日配備）、塗装作業が行われた。写真中と右の091号機は、071号機「まだら」とほぼ同じ塗り分けで、配色はブラックとダークグリーン。写真下の092号機のほうはブルーの塗装で、塗り分けは、これまでの065号機「くろ」068号機「みどり」073号機「ちゃいろ」や、新しい090号機によく似ている。





F-15DJ JASDF AGR 82-8091

F-15DJ JASDF AGR 82-8092





F/A-18D
USMC VMFA(AW)-224
WK-01 b/n.164696

写真左は11月18日13時21分頃、厚木基地のランウェイ01に着陸するアメリカ海兵隊VMFA(AW)-224"Bengals"のF/A-18Dホーネット。それほど派手ではないが、色付きの隊長機(WT-01)だ。クロスカントリーのフライトだったようで、写真下は一緒に飛来した僚機のBM-08。この日、14時38分頃、配備先の岩国基地に帰投した。VMFA(AW)-224のF/A-18Dは、偵察仕様のATARS機を2001年11月号で掲載したが、ノーマル仕様の機体はまだ掲載していなかった。なお、F/A-18D(ATARS)はBM-05,07,09,10の4機で、ノーマルのF/A-18D　はBM-00,01,02,04,06,08,11を確認している。

ベンガルの隊長機が厚木に飛来

厚木基地

(写真2点／橋本裕明)



F/A-18D
USMC VMFA(AW)-224 WK-08
b/n.164726

大分空港

44-444といえば、タイ空軍エアバス

A310-324
(写真／秋田賀仁)

Royal Thai Air Force　HS-TYQ/44-444

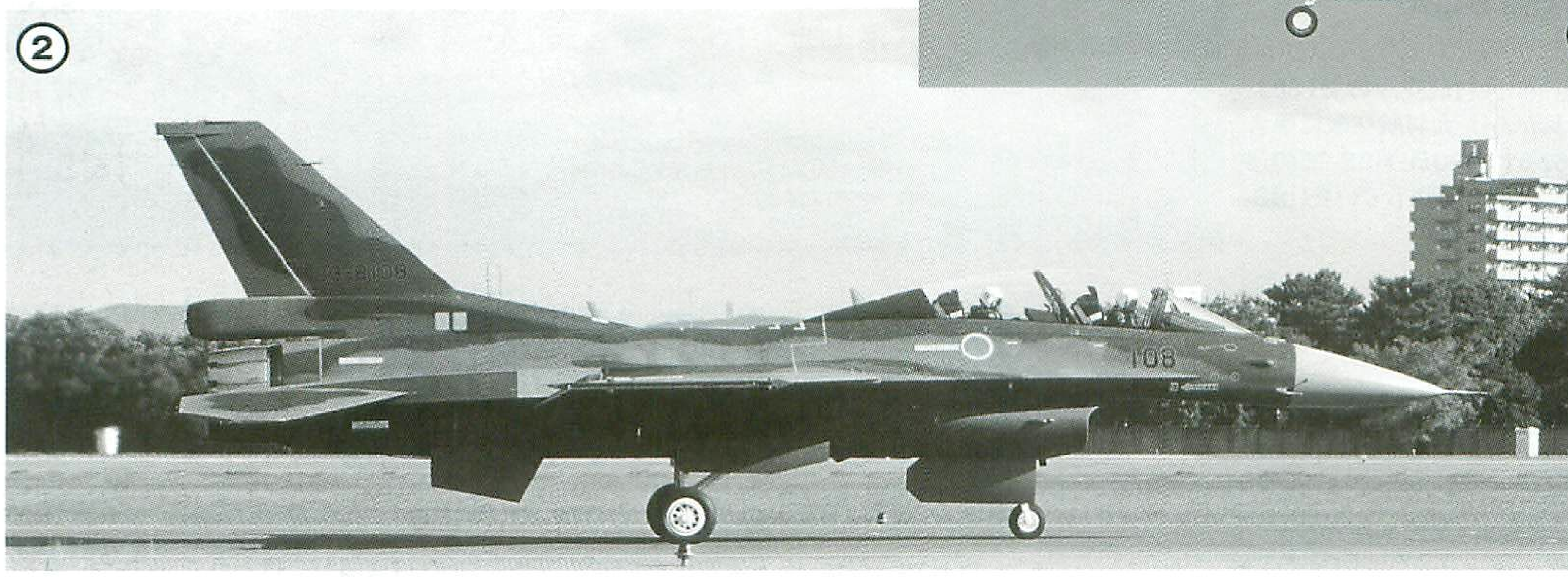
11月20日23時頃撮影された、大分空港に駐機するタイ空軍ロイヤルフライトのエアバスA310-324。タイのタクシン・シナワット首相特別機だ。この日、18時20分頃到着した。18日15時10分頃、羽田空港にも飛来しており、21日大分から離日した。コールサインは"Thai Air Force 444"だった。タイ空軍のA310はこの1機だけで、軍のシリアルナンバーは「44-444」とユニークなものだ。ただし、TS-TYQという民間登録記号も付けている。タイトルはポートサイドがタイ語、スターボードサイドが英語になっている。ロイヤルフライトはバンコク・ドンムアン空港をベースにしている。なお、この機体は前回、97年8月29日、横田基地への飛来実績がある。





F-2B
MITSUBISHI 13-8107
（写真／森亮介）

F-2B
MITSUBISHI 23-8108
（写真／虫鹿昭夫）



名古屋空港

新造の複座型F-2、3機

2001年も暮れに近づいた頃、平成13年度納入予定のF-2B新造機のテストフライトが名古屋空港で、相次いで行われるようになった。写真①は11月19日16時5分頃、三菱重工によるテストフライトを終えて着陸するF-2B、107号機。写真②は11月15日9時頃、名古屋空港をタキシングするF-2B、108号機。写真③は11月21日、同じく名古屋空港をタキシングするF-2B、109号機。9時6分頃離陸したが、アビオニクスのトラブルがあったようで、離陸直後の9時13分、すぐ着陸してしまった。シリアルナンバーからも分かるとおり、108号機と109号機は、2002年の引き渡しになる。なお、三沢基地・第3飛行隊向けのF-2としては108号機で最後となり、109号機は松島基地に配備される可能性が高い。



F-2B
MITSUBISHI 23-8109
（写真／棚橋泰之）

滑走路半分しか使えなくても飛ぶ

11月14日、横田基地のランウェイ18から離陸するアメリカ空軍のC-130Hハーキュリーズ。ハワイ州兵航空隊（第154空輸航空団第204空輸飛行隊）の所属機で、滑走路の改修工事が続けられている横田基地と極東各基地間の輸送任務を実施するため、11月中旬、何度か飛来していた。なお、横田基地の滑走路工事は、2002年2月11日まではランウェイ18の末端から5500フィートが閉鎖され、滑走路長は4320フィートとなる。また、2月12～20日の間は全面クローズ。2月21日～7月31日まではランウェイ36の末端から5500フィートが閉鎖され、滑走路長は同じく4320フィートとなる。



横田基地

C-130H（写真／秋葉清隆）
USAF 154WG/204AS 89-1055



嘉手納基地

ステニス搭載機が飛来

C-2A（写真／久場悟）
USN VRC-30det.4 NG-33 b/n.162149

11月28日、嘉手納基地のランウェイ05Rを離陸するアメリカ海軍VRC-30det.4のC-2Aグレイハウンド。太平洋を横断してインド洋に向かう途中の空母ジョンC.ステニス搭載機で、この日NG-33,36の2機が前日27日に飛来した（離陸は2機とも28日）。母艦は11月12日サンディエゴを出港し、11月30日香港に寄港したことが確認されている。

壱岐空港

離島での急患輸送をSH-60Jで実施

SH-60J JMSDF 大村航空隊 8280

（写真／K.IKEGAMI）



急患輸送のために、壱岐空港に飛来した海上自衛隊・大村航空隊のSH-60J。11月1日14時半頃撮影。九州西北部には多数の離島があり、大村航空隊は患者輸送の任務を多く受け持っている。大村航空隊は、去る11月30日、HSS-2Bの運用をすべて終え、SH-60Jへの機種変更を完了した。最後まで残っていたHSS-2B、8161号機は、その後小松島航空隊に配置替えとなった。



東京港

停泊中の巡視船に海保のヘリ降りる

AS332L1 JCQ JA6686 （写真／陸自の雨蛙）

11月13日午後、海上保安庁の救難訓練が東京港・晴海埠頭で行われた。客船「飛鳥」を想定被災船として訓練が実施され、海上保安庁のスーパーピューマ「うみたか（MH686）」が船尾甲板への人員、機材吊り下げなどを行った。写真はミッションを終え、海上保安庁の巡視船「いず」（PL31）に降りたときのショット。港に停泊している船にヘリコプターが降りるシーンは、普段、間近であまり見られるものではないだろう。この「うみたか」は、横浜を母港とする巡視船「しきしま」に搭載されている機体だ。

三沢基地

LYの新塗装フルマーキングP-3C飛来

P-3C USN VP-92 b/n.163294 （写真／大川亮）



11月8日16時10分頃、三沢基地のランウェイ28に着陸するアメリカ海軍VP-92のP-3CアップデートIII。VP-92は大西洋艦隊の飛行隊だが、この時期、極東でミッションを実施していたようで、10月30日には厚木基地への飛来も確認されている。言わずと知れたP-3Cの新塗装機で、尾翼のマーキングもしっかり入っている。

浜松基地

T-4,E-767 （写真2点／水島隆司）

浜松基地でデモフライトがあった





11月10日、浜松基地で招待者のみ入場可能な開庁記念祭が行われた。デモフライトも13時半頃から行われ、参加したのはT-4、10機とE-767、1機、そして救難隊のMU-2、1機とV-107、2機だった。ただし、フライト内容は全機ワンパスのみ。写真左はT-4、9機編隊のローパス。写真上はE-767のローパス。天候が悪かったのが残念。写真はすべて広報館からの撮影。



F-15
JASDF 23SQ



F-4EJ改
JASDF 301SQ



F-15
JASDF AGR

（写真3点／茨木正美）

新田原基地

新田原基地では戦闘機のデモフライト

右ページの浜松基地と同様、12月1日に新田原基地でも招待者向けの記念行事が行われた。第301飛行隊、第23飛行隊、飛行教導隊、そして新田原救難隊がそれぞれフライバイ（&救難展示）を行った。写真3点は、それぞれのフライバイの様子で、すべて基地外からの撮影。

たくさんの投稿＆情報ありがとうございました。誌面の都合で掲載できなかったみなさん、ごめんなさい！

井上芳則、吉井祐生、斉藤和典、山隈智之、世古口幸敏、加藤幸治、安田和弘、高橋祐弥、甘利崇晧、諸野脇晴宏、久場悟、後藤文志、吉良行基、森亮介、太田潤、橋本裕明、加古裕之、和田拓、篠原淳、渡邊雅彦、山田誠、秋田賀仁、岡村敏行、田津原良則、岡田茂、山川幸夫、東條広之、池上謙二、虫鹿昭夫、上出健人、梅村廣、一ノ瀬浩司、大川亮、林宏祐、秋葉清隆、水島隆司、佐々木健司、萩野慎治、棚橋泰之、田中誠一、島隆、佐藤智洋、柳和彦、工藤勝信、陸自の雨蛙（敬称略・順不同）

フィーバー！への写真投稿のお願い

掲載させていただいた写真にはそれぞれ薄謝を進呈させていただきます。

このコーナーでは、日本全国の飛行場で撮影された軍用機の飛来機写真を紹介します。掲載される写真のポイントは、次のようなものです。

Ⅰ．珍しい機種・機体、珍しいマーキング、珍しい装備などを施した軍用機

Ⅱ．機体は珍しくなくても、民間空港など、ふだん、軍用機が見られないところで撮影されたもの

Ⅲ．VIP（要人輸送）の航空機は、軍用機、旅客機を問わず掲載（エアラインでも可）

Ⅳ．このコーナーで採用される写真として相応しいのは、機体全体のマーキングや兵器などが搭載されていることがはっきりと分かるカットです。そのため、機体全体をフルフレームで、ほぼ真横から収めるのが基本です。ただし、そのような条件での撮影が不可能だったものについては、その限りではありません。そのほかに、各部のマーキングなどのクローズアップ写真を添付して頂いても構いません。

●「フィーバー」の投稿に際してお願いしたいこと

①投稿に際しては、写真1枚1枚につき、次のデータを添付して下さい。添付されていないものは、採用できかねます。

(1) 郵便番号／住所／氏名（ふりがな）／電話番号
(2) 撮影場所
(3) 撮影年月日・時刻（「15時頃」というような、だいたいの時刻も忘れずに）
(4) 撮影した機体のデータ（機体の所属部隊、飛来理由、コールサイン、その機体の何が珍しいか、など、知っている限りの情報を明記して下さるようお願いします。また、機体を見て感じたこと、自分なりに推測することなどもありましたら、お願いします）

②できるだけ本名での投稿をお願いします。もしペンネームを希望される場合、写真1枚ずつはっきりと明記してください。

③投稿写真は、プリント、またはスライド（ポジ）でお願いします。掲載の可否を問わず、返却をしません。ただし、スライド（ポジ）に限り、返却希望の方にお返しします。その場合、必ず自分の住所、氏名を明記して切手を貼った返信用封筒を同封して下さい。

⑤投稿は随時募集していますが、基本的に月末までに到着したものの中から選定して、翌月発売号に掲載します。

投稿、お待ちしています！

艦船の話題は姉妹誌・Jシップス「海フィーバー！」へ！

Jシップスには本誌のこのコーナー同様、読者投稿欄「海フィーバー」があります！艦艇の写真投稿は「Jシップス」編集部まで、どしどしお寄せください（投稿要領は、Jシップスvol.6の144ページをご参照ください）。もちろん、Jウイングでも引き続き、艦艇関係の情報、写真を受け付けます。どちらもよろしくっ！

情報ボード

■10月29日、航空自衛隊・三沢ヘリコプター空輸隊のCH-47J、471号機が老朽化のため用途廃止となった。（情報／編集部）

■11月12日から行われた日米共同訓練「コープノース01-2」のため、那覇基地に航空自衛隊・第304飛行隊のF-15が展開した。（情報まとめ／編集部）

■F-2B、101号機は機体の改修・整備を行うため（IRANではない）、11月19日小牧の三菱重工にドック入りした。（情報まとめ／編集部）

■11月20日14時半頃、福岡空港にアメリカ海軍VR-55のC-130T（b/n.165161）が飛来した。コールサインは"NALO 349"。離陸は16時40分頃で、グアムに向かった。（情報／萩野慎治）

■先月号88ページで書いた情報の補足。飛行教導隊のF-15DJ、072号機「なかあお」の識別塗装が落とされたが、これはIRANに入るためではなく、第23飛行隊への配置替えのためだったようだ。（情報まとめ／編集部）

投稿に関するご注意

※プリントした写真を投稿する場合、余裕のある大きめの封筒に入れて投函してください。サービス判サイズの写真を長形4号の封筒に入れると、取りだす際に写真が傷む可能性があります。

※1つの封筒で、『FEVER』（本コーナー）と『写真撮ろうよ』のコーナーの同時投稿は避けて下さい。お手数ですが、投稿は、コーナー別にお願いします。また、編集部に写真を投稿する際、どのコーナーへ投稿するのか、封筒に明記して下さい。

※FUJIのポジフィルムで撮影し、プリントでお送り下さる方へ。「ダイレクトプリント」よりも「スーパーデジタルプリント」のほうが、仕上りがよく、カラーページにおける掲載に適しています。ぜひ「スーパーデジタルプリント」をオーダーしてみて下さい。

※投稿写真には、写真1枚1枚につき撮影データを添付してください（『写真投稿のお願い』を参照）。データがないものは採用できないことがあります。なお、誌面の都合上、投稿写真の掲載ができなかった場合、添付の情報だけを『情報ボード』に掲載させていただくことがあります。

※「フィーバー」および「写真撮ろうよ」に投稿いただいた方の写真は、原則として掲載、未掲載にかかわらず編集部に保管し、今後、『Jウイング』誌上で採用させていただく場合があります。その際は、写真クレジット（名前）を入れ、掲載誌を送ることで謝礼にかえさせていただきますのでご了承ください。

熱血！航空祭レポート

陸上自衛隊　海田（かいたいち）市駐屯地
第13旅団創立3周年記念行事

レポート＝長浜誠司、藤岡正知、尾家正朗、永山憲

13旅団、大奮闘で観客を魅了！

11月4日(日)、広島県海田町の海田市駐屯地で第13旅団創立3周年記念行事が行われた。観閲行進の後は第13飛行隊の観閲飛行、空自のT-3とC-1の祝賀飛行、OH-6Dのデモフライトと次々に航空機が登場した。

訓練展示は一般的な模擬戦闘だったが、戦車やヘリが多く登場し、空陸一体の攻撃は迫力あるものとなった。第13飛行隊のUH-1Hはレンジャー降下に加え、最終段階には通常の駐屯地祭では珍しくヘリボーンを行った。



訓練展示において敵陣に突入する第13戦車中隊の74式戦車（写真・藤岡正知）



UH-1Hから降下したレンジャー。背嚢に折りたたみ銃床の89式小銃とフル装備（写真・長浜誠司）



敵陣地に突入した74式戦車とヘリボーンを行うUH-1H。空陸一体の攻撃だ（写真・長浜誠司）



第13特科隊の各中隊の155mm榴弾砲には中隊マークが。第1中隊のものは火を吐く龍だろうか？（写真・尾家正朗）



飛来した403飛行隊のC-1輸送機（写真・藤岡正知）



化学防護車および除染車3型のデモ展示。生物兵器の関心もあってか入場者も興味深く見物していた（写真・永山憲）



装備品展示において見学者でいっぱいの74式戦車。テロにゆれる世の中を感じさせない光景だ（写真・藤岡正知）



ヘリボーンを行う第13飛行隊のUH-1H（写真・藤岡正知）

陸上自衛隊　日本原(にほんばら)駐屯地　創設36周年記念行事

レポート＝井上芳則

装備品展示
74式戦車(日本原駐屯地・第13戦車中隊)
60式装甲車(日本原駐屯地・第13戦車中隊)
78式戦車回収車(日本原駐屯地・第13戦車中隊)
93式近距離地対空誘導弾(日本原駐屯地・第13高射特科中隊)
81式短距離地対空誘導弾(日本原駐屯地・第13高射特科中隊)
155mm榴弾砲(日本原駐屯地・第13特科隊)
87式対戦車誘導弾(出雲駐屯地・第13対戦車中隊)
87式偵察警戒車(出雲駐屯地・第13偵察隊)
地対空誘導弾改良ホーク(青野原駐屯地・第8高射特科群)
73式(新)小型トラック(米子駐屯地・第8普通科連隊)
高機動車(山口駐屯地・第17普通科連隊)
OH-6D
UH-1H
AH-1S

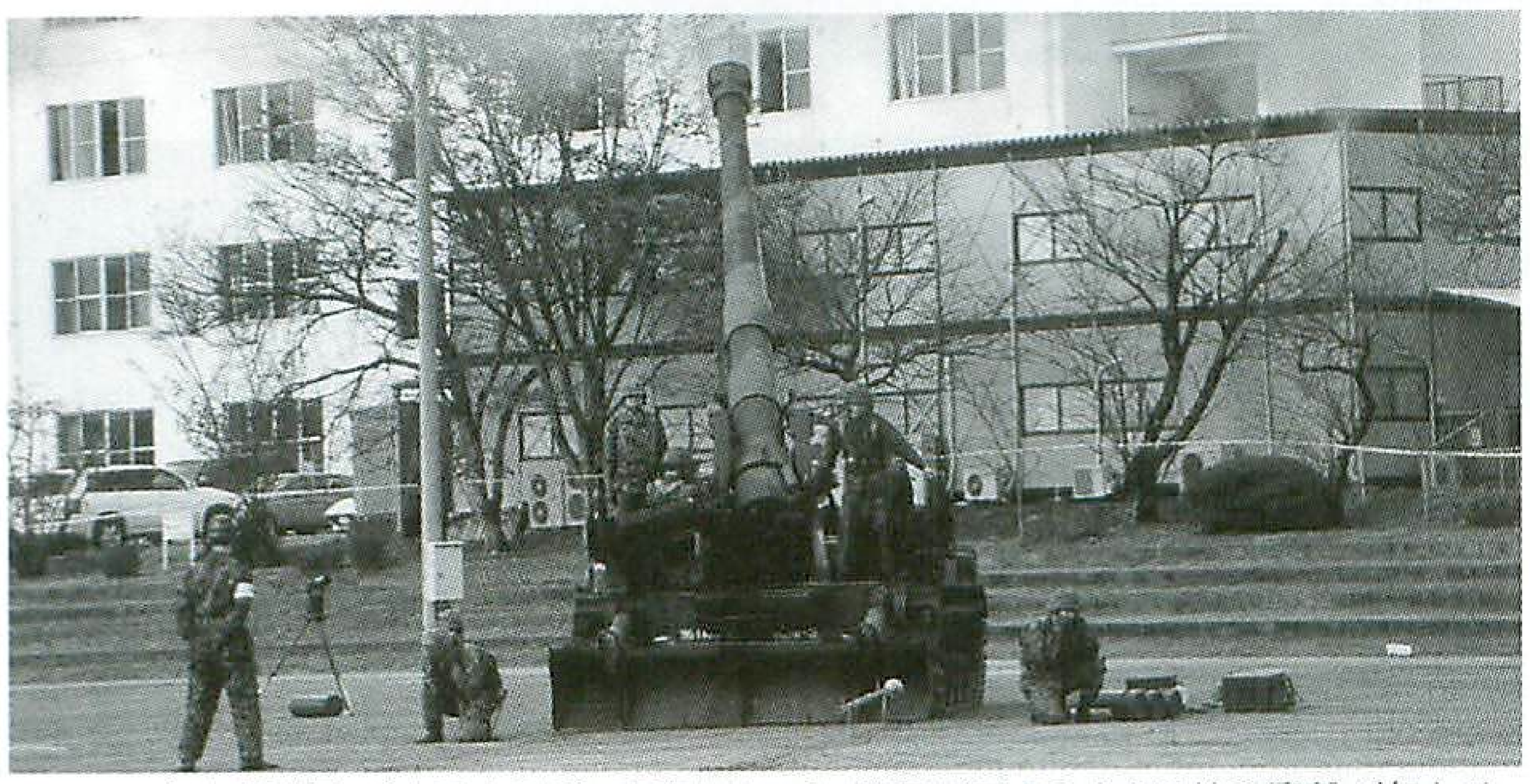
イベントレポート


第13戦車中隊の74式戦車。「3本の矢を握っている手」という図式の部隊マークが雨で見えにくいのが残念だ

9月30日(日)、岡山県奈義町の日本原駐屯地で、創設36周年記念行事が雨天の中行われた。観閲行進の後、模擬戦が実施され同駐屯地所在の第13戦車中隊の74式戦車を中心に、60式装甲車、93式近距離地対空誘導弾などが参加し訓練展示を見せていた。ただ、悪天候のため観客数は例年より少なかった。

陸上自衛隊　湯布院(ゆふいん)駐屯地　開庁45周年記念行事

レポート＝伊藤博志、長浜誠司、尾家正朗


203mm自走榴弾砲が空砲を射撃。空砲とはいえ、隊員が耳をふさぐほどの衝撃が伝わる(写真・長浜誠司)

11月18日(日)、第3特科群、第344施設中隊などが所在する大分県大分郡湯布院駐屯地において開庁記念行事が行われた。催事としては記念式典、観閲行進、訓練展示、音楽演奏などが行われた。

訓練展示には、特科群の主要装備であるM110A2(203mm自走榴弾砲)とMLRSが各2両ずつと82式指揮通信車などが参加。自走化された特科部隊の陣地進入～射撃準備～射撃～陣地変換といった戦闘時における一連の動きを展示している。このうち、M110A2は空砲射撃を実施。空砲とはいえ、陸自最大口径火砲の片鱗を垣間見るに十分な迫力であった。

装備品展示には第4師団隷下部隊を中心に西部方面隷下部隊の各種装備が参加している。なお、航空機は西部方面航空隊隷下のOH-6D、UH-1J、AH-1S各1機が観閲飛行に参加したほか、OH-6Dが訓練展示、残りの2機は地上展示にそれぞれ参加していた。

展示装備品
203mm自走榴弾砲M110A2(第112特科大隊)
多連装ロケットシステムMLRS(第132特科大隊)
85式地上レーダー装置JTPS-P11(第302観測中隊)
対迫レーダー装置JMPQ-P13(第302観測中隊)
高機動車(第41普通科連隊)
120mm迫撃砲RT(第41普通科連隊)
74式戦車(第4戦車大隊)
155mm榴弾砲FH70(第4特科連隊)
81式短距離地対空誘導弾(第4高射特科大隊)
科学防護車(第4師団化学防護隊)
地対空誘導弾改良ホーク(第314高射中隊)
AH-1S(第3対戦車ヘリコプター隊・73438)
UH-1J(西部方面ヘリコプター隊・41808)

イベントレポート


MLRSは自走発射機ばかり目立つが、実は複数の車両などから構成されるシステムの名称である。手前の高機動車は後部に射撃装置を搭載している。ナンバーが通常の高機動車と異なるのに注意(写真・長浜誠司)


観閲行進を行う第302観測中隊の76式対空レーダー装置、JMPQ-P7。方面特科部隊所在駐屯地らしい車種といえる(写真・伊藤博志)


射撃準備作業中の第112特科大隊の203mm自走榴弾砲M110A2。模擬弾頭を装填作業中のシーン。右側には空包装薬を持った隊員が待機している(写真・伊藤博志)


火砲の進入に先立ち、観測員が対迫レーダーP-13を設置する。P-13は師団特科部隊にも配備され、比較的目にする装備だが、設置状況の展示はあまり目にしない(写真・長浜誠司)

第3対戦車ヘリコプター隊のAH-1Sを先頭に観閲飛行を行う飛行部隊(写真・伊藤博志)



全国山火事対策シンポジウム inあんなか21

レポート＝小野昌男


バケットに水を汲む第12ヘリコプター隊のCH-47J(52926)

11月15日(木)16日(金)にかけ、秋晴れの群馬県安中市において全国山火事対策シンポジウム、および林野火災消火訓練が行われた。16日には群馬、栃木、長野、山梨各県の防災ヘリと陸上自衛隊第12ヘリコプター隊のCH-47Jによる空中消火訓練が行われた。

第12ヘリ隊のCH-47Jは大型バケットを使用して九十九川から給水し、会場のメインスタンド前で空中消火展示飛行を行っていた。

レポート＝長浜誠司、尾家正朗

陸上自衛隊　小郡(おごおり)駐屯地 創設48周年、第5施設団創隊40周年記念行事



新たに編成された第304坑道施設隊が保有する坑道掘削装置。まだ10両程度しか生産されていないレアな装備（写真・長浜誠司）

第3対戦車ヘリ隊のAH-1S（73455）。機首にはヤキマ練習場で2000年に行われた射撃演習（CALFEX2000）のステッカーが貼ってある（写真・尾家正朗）



11月11日（日）、福岡県小郡市にある小郡駐屯地で、駐屯地創設48周年、第5施設団創隊40周年記念行事が行われた。

小郡駐屯地は九州の施設化部隊の中核である第5施設団が駐屯するため、各種の施設科装備を見ることができる。近年、陸自が西方重視に方針転換したためか、第5施設団にも新装備が登場し、観閲行進や装備品展示で披露された。

また今回、生活隊舎の落成式も同時に行われ、その内部が一般に公開された。



第5施設団隷下部隊の行進。トラック荷台のロール状のものは、新装備の装輪車走行用マット。軟弱な地面にこれを敷いて装輪車の通行を確保するもののようだ（写真・長浜誠司）

陸上自衛隊 三軒屋駐屯地 創立46周年 記念行事

レポート＝藤岡正知



展示されるホークミサイル。操作盤で一般客も発射台を動かすことができた

11月11日（日）、岡山県の陸上自衛隊三軒屋駐屯地において創立記念行事が行われた。今回は晴天に恵まれたものの訓練展示が行われない少々さびしいものとなったが、74式戦車と高機動車による体験試乗や装備品展示などには観客が集まり、楽しいひと時を過ごしていた。

飛来した第13飛行隊のUH-1H（41729）



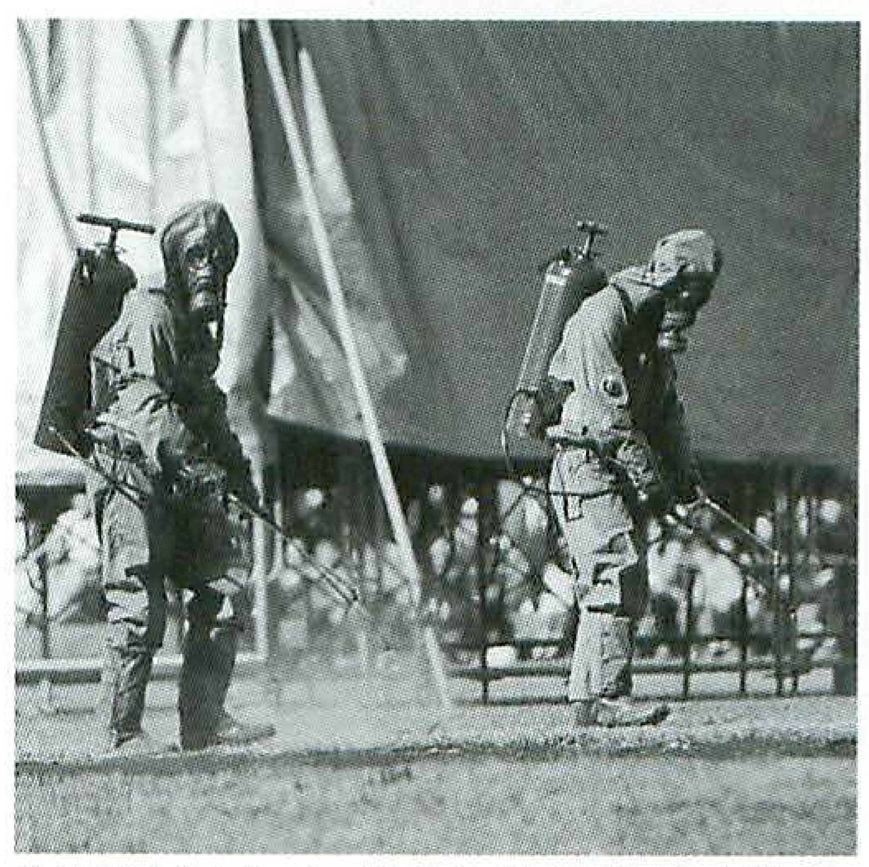
陸上自衛隊　勝田駐屯地 開設50周年記念行事

レポート＝大山浩明、益子嘉透

11月4日（日）、茨城県ひたちなか市にある陸上自衛隊勝田駐屯地において、開設50周年記念行事が行われた。

当駐屯地には施設学校があり、普段あまり見られない各種器材が見られ、観閲行進では武器学校のある土浦駐屯地から74式戦車、75式155㎜自走榴弾砲、89式装甲戦闘車なども参加した。

訓練展示では、大地震発生という想定下で訓練が行われ、架橋展示、ヘリを使っての救出、リペリング、また東海村の原子力施設を意識してか、防護服を着用しての除染作業の展示もあった。



防護服を使用しての除染作業（写真・大山浩明）



訓練展示には参加しなかったAH-1Sも地上展示には参加した（写真・益子嘉透）

陸上自衛隊　今津駐屯地　創立49周年記念行事

レポート＝中井俊治、長浜誠司

3連休の最終日となった11月25日(日)、中部方面隊の第3・10戦車大隊と第3特科連隊第5大隊が所在する滋賀県高島郡の今津駐屯地において創立49周年記念行事が行なわれた。記念式典のあと、機甲部隊が中心の今津駐屯地らしく各種車両による観閲行進を実施した。

模擬戦闘訓練ではOH-6DやAH-1Sが上空支援で参加、観覧席から比較的近い位置で行なわれるFH70や74式戦車の空砲射撃は凄い迫力で観客も盛り上がっていた。

本館庁舎前では中部方面音楽隊の演奏や各種装備品の展示、模擬店もひらかれ「ミリタリーグッズ」や「たこ焼き」「若狭のかに」を買い求める人々で賑わっていた。また74式戦車などは完全に子供たちの「ジャングルジム」と化していた。



上空から偵察支援を行なう八尾駐屯地第3飛行隊のOH-6D。機首につけられたFLIR(赤外線暗視装置)が確認できる。地上展示のとき野戦整備さながらの手動ポンプで給油する陸自航空らしい珍しいシーンも見ることができた(写真・中井俊治)



模擬戦闘訓練中の第3戦車大隊の74式戦車。観客から近いところで空砲射撃をするのですごい迫力。敵勢力役の戦車は観客のあいだから進出してくる(写真・中井俊治)



最近では珍しい60式自走106ミリ無反動砲。普通科の火力支援車両として対戦車部隊に配備されている。装備品展示では74式戦車・FH-70・82式指揮通信車とともに子供達のジャングルジムと化していた(写真・中井俊治)



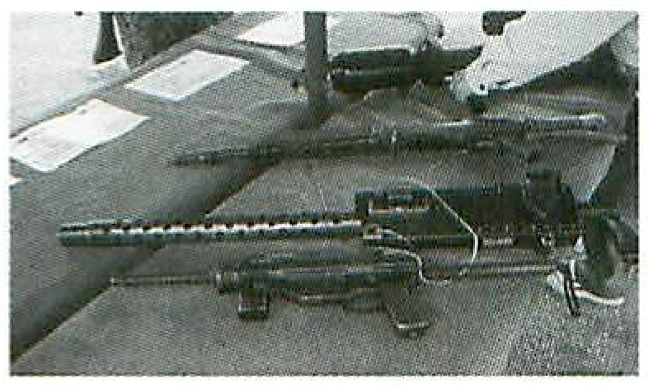
訓練展示の模擬戦には第3・第10戦車大隊の74式戦車などが会場いっぱいに展開した。戦車と観客の距離が近く、空砲射撃の衝撃は観客席にダイレクトに伝わる。写真右奥には第3戦車大隊所属の78式雪上車が写っている(写真・長浜誠司)



枯草を舞い上げながら地上展示のため着陸する明野駐屯地第5対戦車ヘリ隊のAH-1S。独特の薄い正面形が魅力的なヘリコプター(写真・中井俊治)



式典後会場に着陸するAH-1S(第5対戦車ヘリ隊・73408)。記念行事には他にOH-6D(第3飛行隊・31300)も参加(写真・長浜誠司)



装備展示では米軍供与のM3短機関銃とM1919A4機関銃が展示された。いずれも第2次大戦時の火器である。M1919A4機関銃は60式装甲車の車載機関銃だが、目にする機会は非常に少ない(写真・長浜誠司)



観閲行進中の第10戦車大隊の74式戦車。VIPがいるため緊張した雰囲気の戦車クルーだが家族を見つけると表情が緩む(写真・中井俊治)

2001年12月～2002年1月の自衛隊イベント情報

2002年、イベント初めは第1空挺団の初降下訓練だ！

2002年1月13日(日)11:00～12:00

陸上自衛隊　習志野駐屯地　初降下訓練(千葉県船橋市)

内　　容　CH-47、UH-1などを使用してのヘリ戦技
交通機関　JR総武線津田沼駅下車、北口から自衛隊前経由のバスに乗車
問い合わせ　習志野駐屯地第1空挺団広報班　☎047-466-2141

U-4からゴム製シール落下

11月13日、航空幕僚監部は航空自衛隊入間基地第2輸送航空隊所属の、U-4多用途支援機からゴム製シールが落下したことを発表した。

同機は訓練のため千歳飛行場を同日13時7分に離陸し、函館、新潟、松本を経由、14時35分に名古屋空港に着陸した。同空港での点検で右エンジン後方側面箇所からゴム製シールの一部が紛失していることに気付いたという。

同シールの材質はゴムで、大きさは22cm×5cm、厚さ2mm、重さは約45g。地上に被害を及ぼすものではなく、また飛行に影響を与えるものでもないという。

空自、今後のF-4射撃訓練について報告

2001年6月25日に北海道島松射撃場で発生したF-4EJ改戦闘機の20mm機関砲誤射事件を踏まえ、防衛庁は15日、今後の自衛隊戦闘機の空対地射爆撃訓練のあり方について検討結果をまとめた報告を公表した。

この報告は、同事故が機関砲の誤射で民間施設に損害を与えるという極めて憂慮すべきものであったことから、自衛隊機の空対地射爆撃訓練の必要性と現状を確認し、改善の方向性を示したもの。

報告内においては、国内の陸自演習場や米軍射爆撃場、国外の演習場のいずれも適当な代替演習地とはならず、引き続き島松と三沢の訓練区域を使用して安全管理を十分にして訓練することが現時点では適当であるとした。

特に島松射撃場に関しては、射爆撃訓練パターンを市街地から遠ざけることに努める、標的位置を島松射撃場西側に移動させる、所要の安全地域を確保する、実機による検証飛行を実施し、西側山地上空での飛行が安全に行えることを確認する、演習場内の陸自弾着地域との調整を図る──などの方向で安全管理を具体化し、地元の理解を得られるように射撃場の使用要領を変更していくことが提言された。

また、より実戦的な射爆撃訓練に関して、国外の射爆撃場における演習実施についてさらなる調査・検討を行うことが強調された。

C-X、P-Xの開発主担当、川重に決定

防衛庁は11月26日、航空自衛隊の次期輸送機(C-X)と海上自衛隊の次期固定翼哨戒機(P-X)開発の主担当企業に川崎重工業を選定したとともに、協力企業に三菱重工業、富士重工業、日本飛行機を選定したと発表した。

開発総額は約3400億円で、試作機の初飛行は2006、07年ごろを予定している。実際の配備は11、12年ごろを目指し、最終的にはC-X約40機、P-X約80機が生産される計画である。

部位などの担当は、川崎重工が前胴、水平尾翼、最終組み立ておよび飛行試験を、三菱重工が中胴(C-X翼胴フェアリングを含む)と後胴を、富士重工が主翼と垂直尾翼、日本飛行機がP-X翼胴フェアリングとなった。

今回の選定は技術開発についてのみであり、量産時の体制については量産が決定された後に競争性と公正性を確保しつつ改めて決定するという。

また同日、C-XとP-Xの主翼など、主要部分を民間旅客機と共同開発するという計画に対して防衛庁首脳は前向きな意向を示し、「国と民間双方にとってコストダウンというプラス効果がある」と述べた。この計画が実現すれば戦後日本が初めて開発したYS-11以来、約40年ぶりの国産旅客機が官民共同で開発されることとなる。

空自、三沢での射爆撃訓練再開

前出の航空自衛隊のF-4EJ改の20mm機関砲訓練弾誤射事故以来、空自では青森県三沢市の三沢対地訓練地域での射爆撃訓練を中止してきた。それに対して航空幕僚監部は11月16日、今後の空対地射爆撃訓練のあり方についての検討がまとまったことを受け、三沢対地射爆撃場で19日以降、事故後中止している空対地射爆撃訓練を再開すると発表した。

島松射撃場での同訓練については、定例会見で遠竹郁夫航空幕僚長が、地元理解が不十分だと説明し、再開見通しへの言及を避けた。



札幌雪まつり、陸自の支援が縮小

11月20日、陸上自衛隊と2002年2月に開催予定の「第53回さっぽろ雪まつり」実行委員会(札幌市など)は陸自が制作する雪像を一体削減するなど、協力体制を縮小する協定に調印した。これにともない、陸自が実施していた雪輸送の一部は実行委の担当となる。

陸自は今年4月、部隊編成の縮小計画などを理由に、雪まつり支援の縮小を同市などに打診していた。また、次回以降の運営協力についても、業務分担の見直しを続ける覚書を交わした。

旧海軍千歳基地の地図発見

北海道の航空自衛隊第2航空団で、1946年に米軍が測量した旧海軍千歳航空基地の地図が見つかり、11月20日に公開された。「軍事機密だった戦前、戦中の基地の様子を知ることができる貴重な資料ではないか」(2空団広報室)としている。

縦70センチ横1メートルの紙65枚に書き分けられた縦横各5メートルほどの地図は、10月に図面保管庫を整理中に偶然発見された。現在の空自千歳基地と陸自東千歳駐屯地に当たる地域に4本の滑走路などが1000分の1縮尺で表記されており、米軍の爆撃に対処するため、駐機場を分散していた様子なども分かる。

このニュースに関しては、Jウイングでも来月号で詳しくお知らせする予定です。

入間基地で火災、けが人などはなし

11月21日午後18時10分ごろ、航空自衛隊入間基地の第1高射群整備補給隊の車両整備倉庫から火災が発生し、木造平屋建て倉庫2棟計約1350平方メートルを全焼した。この火災による人員への被害はなかった。

同基地などで出火原因を調べているが、倉庫には自動車整備用の油脂や隊員の制服などの衣類、事務用品などがあった。同倉庫では通常午後5時まで車両整備などの作業を行っており、出火当時は事務所に数人の隊員が残っていたという。倉庫は基地の西側にあり、弾薬倉庫から約2キロの位置にあった。

この火災で、西武池袋線が武蔵藤沢～稲荷山公園間で、午後6時半過ぎから午後7時ごろまで上下線の運転を見合わせた。

また、全焼した第1高射群の整備倉庫の中に、放射性物質を含む電子部品が保管されていたことも判明。航空幕僚監部によると、この部品は、ペトリオット用の電子部品(マイクロ・ウェーブ・デバイス・アッシィ)1個で、含有放射性物質はトリチウム(三重水素)。密閉型の金庫に収められていた。

火災後放射線測定器で検査したが、周辺に異常はなく飛散はしていなかった模様。当部品は回収、保管され、文部科学省の担当者が22日午後現場検証を行った。

自衛艦3隻、難民支援物資輸送などのため出航

防衛庁はテロ対策特別法に基づき、米軍への支援活動を行うための補給艦と護衛艦、それに難民支援の物資を輸送するための掃海母艦の3隻を11月25日にそれぞれの基地から出港させた。

インド洋上などで米軍の艦艇などに物資や燃料輸送や補給を行うため、





広島県呉基地の補給艦「とわだ」（8100トン）と、長崎県佐世保基地の護衛艦「さわぎり」（3550トン）が派遣された。またアフガニスタンからの難民を支援するため、毛布などの生活関連物資を日本からパキスタンに輸送する、掃海母艦「うらが」（5650トン）が神奈川県横須賀基地から派遣された。これら3隻の艦艇は11月25日にそれぞれの基地から出港、途中で合流したあとインド洋に向かった。

防衛庁は、難民支援生活関連物資の輸送はパキスタンのカラチ港までにとどめ、パキスタン国内での輸送は国連難民高等弁務官事務所にゆだねるとしている。

那覇基地のU-125、ANK機とニアミスか

11月26日、那覇発石垣行きのエアーニッポン（ANK）435便ボーイング737の機長が那覇空港近くで双発ジェット機と異常接近（ニアミス）した、と国土交通省に報告。翌27日には、相手機が航空自衛隊那覇基地所属のU-125A救難捜索機であることが判明した。

空自那覇基地は、ニアミスしたとされる時間と場所にU-125Aが飛行していたことは確認しているが、ANK機の発見と同時に回避行動をとっており、異常接近したとはとらえていないとしている。同基地によると、ANK435便の機長がニアミスしたという26日午後2時28分ごろ、ANK機と同じ空域を同じ高度で、U-125Aが有視界飛行していた。同機は洋上訓練から那覇空港に戻る途中にANK機を発見し、回避行動をとったという。

政専機、カナダへ運航訓練

航空自衛隊は11月27日から12月1日まで、政府専用機（B-747）の国外運航訓練を実施した。訓練の目的先はドーバル国際空港（モントリオール）、ウィニペグ国際空港、カルガリー国際空港の3空港だった。

中空隊とCVW-5が共同訓練

12月3日から7日にかけ小松沖空域で、航空自衛隊と在日米海軍が戦術技量と共同対処能力の向上を目的とした共同訓練を実施した。

参加したのは航空自衛隊中部航空方面隊と米海軍第5空母航空団で、両者の共同訓練は平成4年度、平成5年度と今年7月に行っており、今回で4回目となる。

実施部隊と機材としては、中部航空方面隊第6航空団と中部航空警戒管制団からF-15J が5機、第5空母航空団からF／A-18が5機参加した。

えひめ丸捜索支援の海自救難艦が帰国

ハワイ沖で米潜水艦「グリーンビル」に衝突され沈没した愛媛県立宇和島水産高校の漁業実習船「えひめ丸」の船内捜索を支援した、海上自衛隊の潜水艦救難艦「ちはや」は現地時間12月4日午前9時（日本時間5日午前4時）、ハワイ入りから約3カ月半ぶりに米海軍パールハーバー基地を出港、呉基地に帰還した。

空中給油機選定はB767が有力

政府は12月5日、空中給油機1機分の購入費、約275億円のうち初年度経費約1000万円を2002年度予算案に計上する方向で最終調整に入った。

安全保障会議を14日に開き、ボーイング767、エアバスA310の2候補の内から予算計上の前提となる機種を決定するが、空自にはボーイング767をベースにしたE-767空中警戒管制機（AWACS）の導入実績があり、運用面で習熟している点を考慮しボーイング767が有力と見られている。

政府は2000年、中期防衛力整備計画（2001～05年度）で空中給油機4機の導入を決定していた。2年度に予算計上された場合、実際の配備は6年度ごろになる。

中谷元・防衛庁長官は「国防任務の遂行、諸外国への支援、邦人救出などを考えると必要だ。2年度予算で認められるよう関係者の理解と了解を得ることに全力を尽くす」と購入経費計上に意欲をみせている。

PKO法改正案成立、自衛隊の活動範囲広がる

参院外交防衛委員会は12月6日午後、停戦監視、地雷除去など軍事色の強い活動を行う国連平和維持軍（PKF）本体業務への自衛隊の参加凍結を解除する国連平和維持活動（PKO）協力法改正案を、自民、公明、保守の与党3党と民主党の賛成で可決した。同法は翌日7日の参院本会議で成立した。

改正案で参加凍結が解除されるのは、（1）停戦、武装解除の監視　（2）緩衝地帯の駐留、巡回　（3）武器搬入、搬出の検査　（4）放棄された武器の収集、処分など6項目。従来は建設、輸送、被災民支援などに限られていた自衛隊の活動範囲は大幅に広がる。特に停戦後のアフガニスタン復興で期待されている地雷除去について、中谷防衛庁長官は専門の地雷処理部隊派遣以外の何らかの協力を検討する考えを示した。

また、懸念であった武器使用要件も緩和され、（1）他国要員や国際機関職員ら「自己の管理下に入った者」を防護対象に追加（2）武器等防護のための使用も認める、としている。

キャンプ・ザマで陸自が在日米軍警備訓練

陸上自衛隊は12月6日から9日間の日程で、テロなど緊急時に在日米軍基地を警備する「警護出動」の実地訓練を、神奈川県の在日米陸軍キャンプ・ザマと相模総合補給廠の2基地で実施した。

キャンプ・ザマは在日米陸軍司令部が置かれ、物資の補給など後方支援業務を統括している。相模総合補給廠は在日米陸軍最大規模の補給基地となっている。

訓練には陸自座間分屯地の第4施設群の部隊を中心に、約180人と両基地の米兵が参加。通信事情や警戒車両のルート、基地内の監視活動などを確認し、陸自と米軍の指揮系統を調整した。

指揮通信車両のほか、生物化学兵器によるテロも想定して化学除染車なども出動。隊員は小銃、短銃は携行したものの射撃訓練は行われなかった。詳細な訓練内容は公表されなかったが、自衛隊法改正で創設された警護出動のモデルにされると見られる。

国内航空・産業NEWS

MH2000墜落はローターの強度不足

2000年11月27日、三重県鈴鹿市で三菱重工のヘリコプター「MH2000」が試験飛行中に墜落し、6人が死傷した事故で、国土交通省の航空・鉄道事故調査委員会は7日、機体尾部にあるローターブレードの部品の一部に疲労が生じて破断したとみられると発表した。しかし、尾部ローターの破壊だけでは必ずしも大きな事故につながるとは限らないため、同委員会ではさらに調査を継続する。

MH2000は初の純国産ヘリとして99年、当時の運輸省航空局の型式証明を取得。ローターは繊維やプラスチックの複合材で構成されており、航空局の安全性審査では7000時間までの飛行に耐えられると認定されていた。しかし、同機は事故当時、775時間しか飛行しておらず、調査委はローターの強度が不足していたとみている。破断した部品は10枚のブレードの付け根にある複合素材ストラップで、一部に疲労が発生して破断。抜け

「はまな」が米艦艇に洋上給油

海上自衛隊幕僚監部は12月3日、テロ対策特別措置法に基づいてインド洋に派遣されている補給艦「はまな」が米海軍補給艦に、日本時間の2日昼、艦艇用軽油を洋上補給したと発表、また海幕は4日、米艦船に洋上給油活動をおこなっている「はまな」の写真を公開した。

写真は2日に「はまな」に随伴する護衛艦「きりさめ」の哨戒ヘリコプターが撮影。艦名は不明であるが米空母部隊の補給艦系艦艇であるサクラメント級高速戦闘支援艦（1万9200トン）と並走しながら、燃料用ホースで艦船用軽油の注入作業を数時間かけて行った。



（写真：防衛庁）

「はまな」はタンカーと同様の船体構造をもっており、1分間に平均11キロリットルの給油が可能。同艦は3日昼にも、同じ海域で別の戦闘支援艦に対して給油を行っており、日米双方は当面、最大1万5000トン近く貯蔵できる「はまな」の艦船用軽油を戦闘支援艦に振り分ける方法を取ると見られる。

空自、グアムへ初の米兵輸送

（写真：航空自衛隊）



防衛庁航空幕僚監部は12月4日、テロ対策特別措置法に基づく米軍支援のため、航空自衛隊のC-130輸送機1機で、在日米軍基地から米グアム島方面へ米兵の輸送活動業務を開始したと発表した。

愛知県の小牧基地所属の同機1機にこの日、在日米軍基地の兵士が搭乗し、物資も積載された。米兵の所属や人数、携行武装などは明らかにされていない。

たブレードが尾部ローターを破壊したとみられる。

同社は事故後、FRPの改良型ローターを開発、同省に設計変更を申請しており、近く試験飛行が行われるが、同省では、以後かなり厳しい条件で安全性を審査するとしている。

YS-11以来30年ぶりの国産旅客機開発を推進

経済産業省は平成14年度概算要求で「小型民間輸送機開発調査(YSX)」プロジェクトに1億5200万円の予算を要求している。当プロジェクトは70席~120席の中型民間輸送機の開発構想を推進し、2010年代の実用化を目指している。

防衛庁が中期防衛力整備計画で進めている次期輸送機と次期哨戒機の同時開発に合わせ、その成果を民間機に転用する予定。

日本中心の航空機開発を当面の目標としている国内航空機産業としては、中型機市場参入に向けて当機を参入の契機としていきたい考えだ。

川崎、BK117C-2を公開

11月22日、川崎重工は最新型ヘリBK117-C2を東京ヘリポートで報道関係者に公開、デモフライトを行った。

BK-117ヘリは1983年に川重とユーロコプター・ドイツ社が共同開発し、国内で約130機、全世界で約430機が納入されたベストセラー機で、高い技術力と信頼性に定評がある。

今回のC-2型機はC-1型で好評だった後部クラムシェルドア(観音開きドア)、無間接型ローターシステムを継続して採用。燃料タンク容量を170リットル増やし航続距離は550kmから700kmに延長され、新型メインローター・ブレードを採用、騒音と振動が低減。また機体の大型化によりキャビンスペースを約30%拡大、シート幅は460mmになり居住性は大幅に上昇した。全備重量も3550kgとなり、200kg増加。さらに新設計の操縦室による視界の向上、多機能統合計器システムを採用して操縦負担を低減している。機体価格は3億9000万円。

BK-117ヘリはドクターヘリとして双発機の中では40%のシェアを占めており、今回発表されたC-2型も患者の搬送に適しているヘリであり、今後の活躍が期待される。

次世代超音速旅客機の小型実験機が完成

航空宇宙技術研究所(航技研)が次世代超音速旅客機(SST)のモデルとして研究開発している「小型超音速実験機(ロケット実験機)」2機がこのほど完成し、11月30日、主契約企業の三菱重工業名古屋航空宇宙システム製作所小牧南工場で航技研に引き渡された。

同実験機は全長11・5m、幅4・72m、重量2トンの将来のSSTを縮小した形のモデルで、機体の各部分には600個の計測用センサーが装備されている。予定されている飛行実験ではロケットモーターを接続して高度1万~1万8000メートルまで打ち上げ、滑空飛行実験を行って空力性能や機体表面圧力などの技術データを取得する。SSTと同高度を飛行できるため普通の地上風洞実験では得られない各種データが得られる。

当実験機の研究開発では逆問題解決設計法、超音速層流主翼形状の開発など、すでに9分野にわたる新技術を取得しており、航技研では「次期輸送機C-X、次期哨戒機P-Xの開発などにも研究成果をいかせる」と述べている。

海保、マニラ沖で武装海上保安官の海賊制圧訓練

海上保安庁は11月23日から海賊対策として、名古屋海上保安部所属巡視船「みずほ」を東南アジア周辺海域に派遣した。沿岸国からの海賊情報の収集、フィリピンコーストガードとの連携訓練や日本船舶との海賊対策訓練などを行った。

フィリピンコーストガードとの連携訓練では、マニラ沖合において日本船籍貨物船が海賊に襲撃されたとの想定で、両機関の巡視船およびヘリコプター、武装した海上保安官による人命救助、連携追跡、連携制圧、連携突入訓練を実施。

日本船舶との訓練では、マニラ西方約450kmの公海上において、大型タンカーが海賊に襲撃されたという設定で、「みずほ」およびヘリコプターによるタンカーの捜索発見後、ヘリから武装した海上保安官が突入、海賊を制圧逮捕、タンカーの安全を確保するという内容で訓練を行った。

米軍 NEWS

ボーイングがEA-18をデモ

ボーイングは3基のALQ-99ジャミング・ポッドと2個の燃料タンクを装備するF/A-18スーパーホーネット戦闘機を使ったEA-18空中エレクトロニック攻撃コンセプト機の初デモンストレーション飛行を行った。EA-18は米海軍の現用EA-6Bプラウラー機の代替機として検討されている。

米空軍が767タンカー導入へ

米空軍は10年間のリース契約でボーイング767空中給油機100機を導入する計画である。これによって米空軍は40年以上の老朽機が主力となっているKC-135ストラトタンカー空中給油機フリートの念願の近代化に踏み切れるとしている。

米空軍の2002会計年度予算には767タンカー・プログラム着手のための財源はないが、議会や特にボーイングの地元ワシントン州出身の議員らによる支援に期待を寄せている。

計画は、ボーイング767-200ER(航続距離延長型)の軍用タイプを民間のリース方式で導入しようというもので、もしこの計画が2002会計年度にスタートできれば米空軍は1機あたり年間2000万ドルを支払い、別にサポート・コストとして1機当たり年間200万ドルを支払う。スケジュールでは2006年にまず6機を受領、2007年度から2010年度にかけて毎年20機ずつを受領し、2011年に最後の5機を受け取るというもの。ボーイング767が導入されれば米空軍はナショナル・ガード(州空軍)と予備空軍のKC-135のリタイアが可能となり、409機のKC-135Rを予備役に回すことができる。

767タンカーは去る7月にイタリアが767タンカーの後継機として競合相手のエアバスとの比較検討の末に選定、また英空軍も導入に関心を寄せている。

米陸軍がコマンチの重攻撃型要求

米陸軍はボーイング/シコルスキーRAH-66コマンチ武装偵察/軽攻撃ヘリコプターのヘビー・アタック型の開発を計画している。これはAH-64AおよびD型のリプレース用で、2005年から2030年にかけて装備されるもの。ヘビー・アタック型コマンチは機外燃料タンク/武装マネジメント・システム(EFAMS)を装備し、機体の両サイドにエクスターナル・ステーション(パイロン)が取り付けられる。

米空軍がAWACSレーダー近代化

米空軍はボーイング社に7010万ドルで9機のAWACS空中早期警戒管制機のレーダーを近代化する契約を与えた。これはAWACSレーダー・システム・インプルーブメント・プログラムに基づくもので2005年までにAWACSのレーダーを強化するもの。ボーイングとノースロップ・グラマンに加え、テレフォニックス社が950万ドルで敵味方識別装置をアップグレードする。

米空軍がプレデターBの評価開始

米空軍は2001年初めに発注したジェネラル・アトミックス・エアロノーティカル・システムズ社の新型無人機(UAV)プレデターBの原型機2機をこのほど受領、その評価試験を開始した。

テストの目的は、このターボプロップ無人機が要求通りの性能を満たしているかどうか、将来無人戦闘攻撃機として使用できる武装ペイロード・ポテンシャルがあるかどうか、現在のRQ-1プレデターが使用している地上支援器材がそのまま使用できるかどうか、などを確認するためのもの。

プレデターBは当初ターボファン・エンジンを装備する計画だったが、運用上の便利さと滞空時間をさらに長くするためターボプロップ・エンジン装備に変更された。飛行高度は4万5000フィート、速度は220ノット、24時間の滞空能力をもち、機内に750ポンド、機外に3000ポンドのペイロードを装備できる。

米空軍がT-38練習機を近代化

米空軍は4530万ドルの契約でノースロップ・グラマンT-38タロン練習機の近代化用に79セットのアビオニクス・アップグレード・キットを供給した。

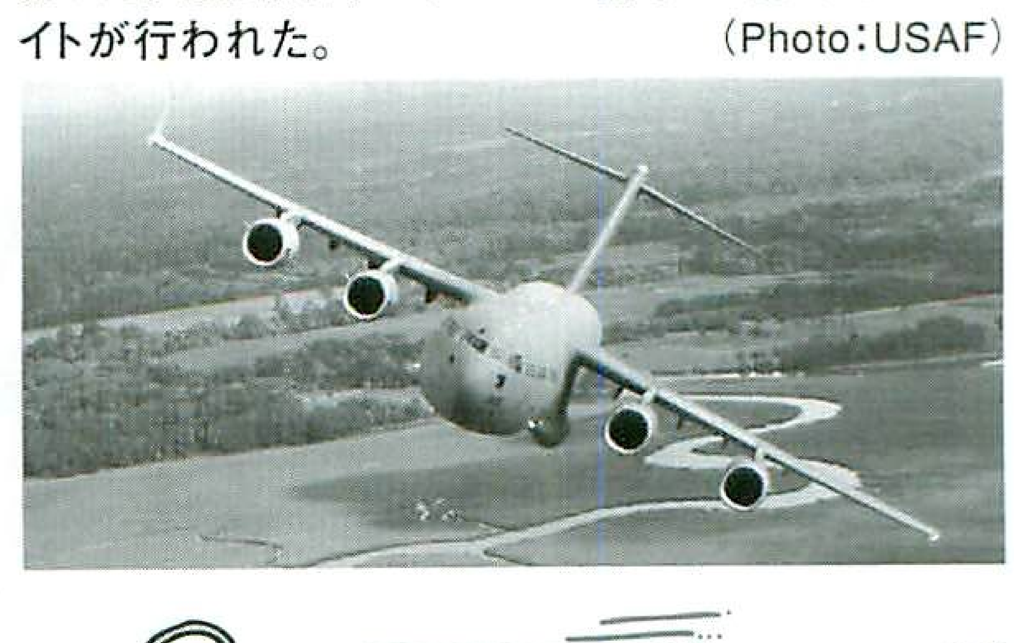
12機目のE-8C納入

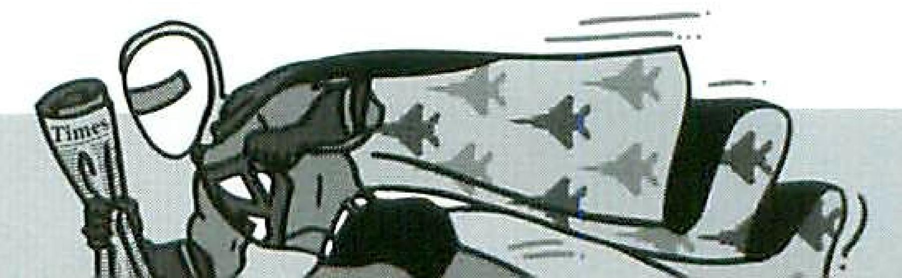
ノースロップ・グラマンはこのほど12機目のE-8Cジョイントスター監視ターゲット攻撃レーダー機を米空軍に

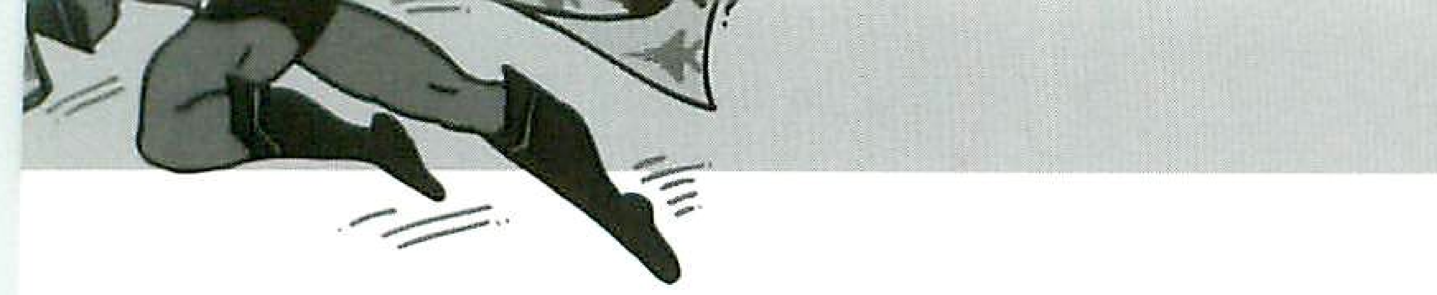
C-17が13の世界記録を樹立

11月27日、米空軍のC-17AグローブマスターⅢが高度とペイロードの世界記録を新たに13個樹立した。これによりC-17が持つ世界記録は全部で33となった。

記録に挑戦したC-17にはエドワーズ空軍基地の第418試験飛行隊のクルーが搭乗し、計3回のフライトが行われた。 (Photo：USAF)







海外軍用機NEWS

納入した。これはブロック20コンフィギュレーションの一号機である。

米空軍にC-130J-30の初号機が納入される

12月2日、ロッキード・マーチンは米空軍にC-130J-30の初号機を納入した。同タイプはC-130Jの胴体延長型で、この機体はロードアイランド州コンセットステート空港の第143航空団に配備された。同団には今年中に3機のC-130J-30の配備が予定されている。

米空軍に79機目のC-17を納入

12月4日、ボーイングは米空軍に対して通算79機目のC-17グローブマスターⅢをカリフォルニア州ロングビーチで引渡した。この機体はマッコード空軍基地に配備される予定。これでC-17は米空軍に79機、英空軍に4機が配備され、合計の飛行時間は米空軍では30万時間、英空軍でも配備して半年で1250時間を超えた。

米海兵隊に今年7機目のKC-130Jを納入

12月3日、ロッキード・マーチンはアメリカ海兵隊向けに今年7機目で、今年の納入予定の最終機となるKC-130Jを納入した。今年納入された機体はMCASチェリーポイントやNASパタクセントリバーに配備された。現在、海兵隊では8機のKC-130Jが配備されており、3機が注文されている。海兵隊の計画では最終的に79機のKC-130Jを装備する予定。

韓国のT-50生産着手は近い?

韓国のT-50ゴールデンイーグル超音速練習機/軽攻撃機の生産着手はもはや時間の問題となっている。

F-16の80%モデルかと見紛うばかりのF-16によく似たデザインのT-50は韓国航空機工業(KAI)がロッキードマーチン社の協力を得て開発した超音速機で、2010年まで同社の主要生産品となるものとみられ、2004年に生産が中止される予定のF-16に代わって、2005年から同社の中心製品となる。

T-50計画は1997年に開始され、20億ドルかけてこのほど予定より3ヶ月早く開発が完了したばかり。現在生産原型3号機の組み立てが行われており、初号機を使用した地上テストも始まっている。2002年中頃には初飛行が予定されており、現在までのところわずか6機の試験/評価用機体が発注されているのみだが、韓国空軍は100機の配備を期待している。KAIとロッキード・マーチンは、向こう30年間にこのクラスの高等練習機は、世界中に約3300機の需要があるとしており、将来は輸出も期待できるとしている。

台湾がRT2000発射機購入へ

台湾は陸軍用として60基のレイ・ティン2000(RT2000またはサンダー2000)多砲身ロケット発射機(MBRL)を購入する計画。台湾陸軍は最大150基のシステム導入を希望しているものと見られている。RT2000台湾およびペングー島の沿岸防衛用に配備されているクン・フェン6型(ワーカー・ビー6)117㎜MBRLにかわって装備されるもので、CSIST(チュンシャ科学技術庁)のミサイル&ロケット研究部が開発している。

RT2000は米国オシコシ・トラック社のM977シリーズ8X8ヘビー・エクスパンデッド・モビリティ戦術トラックに搭載され、117㎜Mk15(1ポッドあたり20発)180㎜Mk30(1ポッドあたり9発)、あるいは230㎜Mk45(1ポッドあたり6発)の3種類の固体燃料ロケットを発射することができる。

T-6AテキサンⅡを使った訓練がはじまる



11月20日、学校を卒業して1ヵ月後の学生に対する、T-6テキサンⅡを使った飛行訓練が米空軍ムーディー空軍基地で始まった。飛行隊は第3訓練飛行隊(3FTS)で、2001年4月に編成された。最初のクラスは15人の生徒がおり、うち2人は海軍からきているパイロットである。彼らは6ヶ月間でコースを終了する予定で、将来的には部隊で1年に250人のパイロットを訓練する予定である。

飛行前のフライトオペレーションを行う教官のスティーブ・ランバート少佐(左)とスチューデントパイロットのアンディ・グレイ中尉(Photo:USAF)

インドがT90S戦車を国産

インド国防省のジョージ・フェルナンデス長官が明らかにしたところによれば、インドが購入を計画している310台のロシア製T90S戦車のうち、最初の80台分の組立てキットが来月インドに到着する。これによってインドは2002年からT90S戦車の国内組立てを開始する。

インドは2001年初め、6億ドルないし7億ドルでT90S戦車の購入を契約しており、インドでの本格的ライセンス生産は2006年からアバディにあるHVF(重車両工場)で開始される。

インド陸軍によれば、T90S戦車はパキスタンが4年前から配備しているウクライナ製T80UD戦車に対抗できるものでT72Mk1戦車にかわって配備される。重量56・5トンのT90S戦車は125㎜砲弾またはレーザー誘導ミサイルを毎分8発撃つことができる。

イランがMi-171ヘリ購入

ロシアのロソボロネクスポルト(兵器輸出公団)はイランに最大30機のミルMi-171(Sh)軍用輸送ヘリコプター(NATO名Mi-17ヒップ)を売却する契約を結んだ。ロソボロネクスポルトによれば、ウクライナのウラン・ウデ航空機工場(UUAZ)がその生産を行う。

イランは同国海軍用として1998年に発注しているUUAZ製Mi-171捜索救難ヘリコプターをすでに5機受領しており、今年中に1999年に発注した残り21機を受領する計画。

イスラエルが米国でアロウ2組立

米国務省の対外関係委員会はイスラエルが2億ドルで米国にアロウ2弾道ミサイル防衛システムの生産ライン設置を認めたことを明らかにした。アロウ2はイスラエル航空機工業(IAI)が主契約会社となっている対ミサイル・ミサイルで、IAIはロッキード・マーチン社およびレイセオン社との間でアロウ2の共同生産と共同マーケティングについて協議を行っているが、第3番目の協力パートナーの候補としてボーイング社も名乗りを上げている。

台湾がAV-8Bハリアー購入へ

台湾はボーイングAV-8BハリアーV/STOL機を購入したい意向である。実現すれば最初の機体が引き渡されるのは早くても2005年となる見込み。

米国防省と台湾国防省は兵器取引について考証を行っており、去る4月に米国防省は最大12機のロッキード・マーチンP-3オライオン哨戒機売却を含む兵器取引について交渉を続けている。

米海軍筋によれば、米国防省は1月にも台湾へチームを派遣し、航空機調達のリクワイアメントの洗い直しを計画しているもよう。

エジプトがAH-64Dを35機契約

このたび、エジプトはボーイングAH-64Dヘリコプターを35機導入することを決定した。2003年から配備が始まる予定。



(Photo:Boeing)

ハンガリーがグリペン導入へ

スウェーデンのビヨン・フォン・シドウ国防相とハンガリーのジャノス・サボロ国防相は11月23日、ストックホルムで会談し、ハンガリーがグリペン・インターナショナル社から少なくとも14機のグリペン戦闘機を購入する意向を確認する覚書に調印した。

英国BAEシステムズ社とスウェーデンのサーブ社による合弁会社グリペン・インターナショナル社は来月(2002年1月)には向こう10年間にわたるオフセット取引が合意に達することを期待している。決着すると、ハンガリーにグリペンの1号機が引き渡されるのは2004年末、2005年にはグリペンがハンガリー空軍で実戦配備につくことになる。

これが実現すると、ハンガリーはグリペン戦闘機にとって2番目のカスト

マーとなる。すでに南アフリカ空軍が28機のグリペンを装備したい意向を表明しており、チェコ政府も36機のグリペンをオフセット導入したい意向である。

チリが新型ヘリ部隊を創設へ

地元の報道によれば、チリ国防軍の陸海空3部門が新型ヘリコプター部隊を求めている。

まずチリ陸軍は、旧式ヘリコプター20機を売却して部隊の近代化を実現させるプログラムをスタートさせている。売却するヘリコプターの内訳は13機の280Xシャーク練習ヘリ、3機のSA330Fピューマ、SA315ラマ(機数は未公表)観測ヘリで、新しく購入するのは、向こう5年以内に引き渡される10ないし16機の輸送/侵攻ヘリコプターで、その候補機種にはベル412EP(新製機または中古機)、ユーロコプターAS532クーガー、ミルMi-17ヒップ、シコルスキーUH-60ブラックホークの4機種。チリの軍事関係でロシア製の兵器が技術評価段階で合格水準に達したのはこのMi-17が初めてのケース。

チリ空軍にもヘリコプター近代化計画があり、現在8機を保有しているベルUH-1Hをシコルスキ－UH-60ブラックホークに代替する計画である。

一方、チリ海軍航空隊も現用のベル206ジェットレンジャー6機のリプレースと、1994年に契約した4機のパンサー導入計画をキャンセルして、別に捜索救難ヘリコプターを導入したい意向である。

韓国が攻撃ヘリ計画を見直し

韓国陸軍は、かねて計画していたAH-X攻撃ヘリコプター調達計画を見直し、新しい多目的ヘリコプターを導入するもよう。

新しい計画はKMHプロジェクトとよばれ、未公表の海外コントラクターと共同で新しいヘリコプター500機を生産しようというもの。これは現在保有している約175機のMD500戦闘/観測ヘリコプターと20機のUH-1H多用途ヘリコプターの代替用である。

韓国は2001年初めにAH-Xリプレースメント計画として最大36機のベルAH-1Zスーパーコブラまたはボーイング AH-64Dアパッチ・ロングボウを16ないし24億ドルで導入すると発表していた。

アラブ首長国連邦の空軍強化計画

アラブ首長国連邦は11月9日、多国籍企業グループとの間に、ユーロコプターSA330ピューマ多用途ヘリコプター導入を含む総額1250万ドルの契約を締結した。これは新しく設立されたユーロコプター・ルーマニアから購入する25機のヘリコプターのほか、米国キュービック・ディフェンス・システムズ社、ロックウェル・コリンズ社、ターボメカ社などとの契約である。

このほか注目されるのは、アラブ首長国連邦が将来、3機までのボーイング767空中給油機を導入したい考えをもっていることで、これはF-16ブロック60やミラージュ2000-9多目的戦闘機を支援するためのもの。

マレーシアがC-130を近代化

ロッキード・マーチン社はマレーシア空軍のC-130H輸送機2機を空中給油機に改造する作業を開始した。同社はエンジニアリング・サービスと近代化キット、それに改造のサポート・サービスを提供することになっている。

空中給油装置は自装式ロールオン/ロールオフタイプで、英国フライト・リフュエリング社から購入、改造工事は2002年半ばから2003年にかけて行われる。

ロッキード・マーチン社はこのほか、マレーシア空軍の2機のC-130Hの胴体を延長してC-130H-30仕様に改造、貨物搭載能力を33%アップする計画も請け負っている。両プロジェクトの総額は未公表である。

仏がマレーシアに潜水艦を売却か

フランスは12億ユーロ(約1080 0万ドル)でマレーシアに潜水艦を売却することになったが、これはマレーシア航空のフランス乗り入れ便数増問題との絡みで、なお不透明部分が残されている。

フランスの軍艦建造業者であるDCNーはすでにフランスが2隻のスコーペン級潜水艦を売却、さらにアゴスタ70級ディーゼル・エレクトリック潜水艦を近代化する契約に調印しているが、これはマレーシア航空がフランスとマレーシア間の運航便数を現在の週3便から7便に増やす問題が絡んで、実行が遅れている。マレーシア側は、これらをパッケージとして一括解決したいと望んでいる。

ベルギーとオランダが掃海艇近代化

ベルギーとオランダは共同で16隻のトリパータイト級掃海艇(それぞれオランダが10隻、ベルギーが6隻を保有)を、新しいコマンド&コントロール・システム、新型の掃海ソナー、機雷識別/処理システムなどで近代化する計画を2004年から2009年にかけて実施する。事業はSTNアトラス・エレクトロニック社が、ターレス・アンダーウォーター・システムズ社をパートナーに主契約者となって推進するが、2億4500万ドルにのぼる契約は今年末までに締結される見通し。

チェコ空軍はL-159が嫌い?

チェコ空軍は11月14日、L-159軽攻撃/練習機が去る10月23日と25日に2件の事故を起こしたことで飛行停止にしている。チェコ国防相のジェロスラブ・ツルディク長官は、「L-159は機能不全で信頼するに値しない航空機となっているばかりか、運用者にとって敵よりも危険な飛行機となっている」と語った。

事故は訓練飛行中にグラスコックピットが故障したため、パイロットは僚機の在来型バックアップ・システムによる援助によって着陸することができた。

チェコ空軍はアエロ・ボドチョディ社に発注している72機のL-159のうちすでに24機を受領しているが、残り48機のうち36機は海外に売却処分されることになるもよう。

イスラエルが米でパイソン4を生産

イスラエル国防省は、米国でのパイソン4短距離赤外線誘導空対空ミサイルの生産を許可した。これでイスラエルのラファエル兵器開発庁はパイソン4を米国の民間パートナー、ロッキード・マーチン社に技術を提供することになった。すでにロッキード・マーチンとラファエルは1998年に、共同の精密誘導システムUS(PGSUS)にパイソン4を追加することで合意に達している。フロリダ州オーランドにあるロッキード・マーチン社のPGSUS工場ではすでにラファエルのAGM-142ポパイ中距離空対地ミサイルを生産している。

マレーシアがARV飛行テスト終了

マレーシア国防省が約35回のフライトを実施していた有人/無人ARVの飛行試験計画がこのほど終了した。この計画では3機のイーグル150B複座型機がクアラルンプールのコンポジット・テクノロジー・リサーチ・マレーシアによって850万ドルでARV用に改造され、アビオニクス器材および地上コントロール・ステーションはBAEシステムズ・コントロールズ社が供給する。

スウェーデンにC-130タンカー

ロッキード・マーチン社はスウェーデン空軍との間にC-130Eハーキュリーズ輸送機1機をタンカーに改造する契約を結んだ。金額は明らかにされていない。空中給油システムは英国フライト・リフュエリング社が、またデュアル・ウォール式の機内搭載68 14リッター燃料タンクはエアロ・ユニオン社がそれぞれ供給する。改造されたC-130E空中給油機は2003年からスウェーデン空軍に就役する。

デンマークにチャレンジャー3号機

カナダのボンバルディエ・エアロスペース社は11月22日、デンマーク空軍に3機目のチャレンジャー601特殊任務機を引き渡した。この特殊型チャレンジャー双発ジェット・ビジネス機は、通信、長距離哨戒、海上捜索、長距離VIP輸送任務などに使用される。



Photo Report FROM RUSSIA

世界の3大航空トレードショーのひとつであるドバイエアショーが11月に行われ、ロシアからはテストパイロッツのSu-27UBが2機参加しデモフライトを繰り広げた
(Photo:ITAR-TASS)



海外エアショーの達人

第8回

持ち込み荷物にご用心の巻

文と写真＝山 康博

今回はテロの影響で大きく変わってしまった、旅客機に乗るときの荷物の取り扱いについて、あらためて説明しましょう。また、開催されるはずだったリノ・エアショーについても解説します。

米国テロ事件の影響
無念、多くのエアショーが中止に…

9月11日に発生した米国テロ事件の影響は社会的・経済的にも大きく、特に航空会社は大幅な旅客減により経営が行き詰まるところも出てきた。また空港や軍基地の警備が強化された結果、写真撮影そのものに支障が生じているという話も聞く。今年のエアショー・シーズンはすでに終了してしまったが、来年のエアショーがどうなるかは今後の推移を見ないとわからない。純粋に民間のエアショーであれば問題は少ないと思われるが、軍の基地のオープンハウスは作戦行動が終了しない限り行なわれないのではないだろうか。今月開催される予定のICAS総会の結果次第であるが、最悪のばあいには来年のエアショーの計画が決まらない恐れも十分ある。

エアショーが再開されたとしても、日本からの旅行者にとって最も影響が大きいのは航空機に乗るときの保安検査が格段に厳しくなったことである。今までは機内持込手荷物が2個でも大目に見てもらえたが、現在ではファーストクラスの乗客でも1個しか持ち込めなくなり、カメラバッグやフィルムを機内に持ち込む人には影響が大きい。特に未使用のフィルム輸送は頭痛の種になりそうだ。チェックイン荷物に入れると爆発物検知目的の散乱X線検査機を通されるため、かなりの確率でフィルムに縞模様が入るという報告がある。今回の事件の影響でこの新型検査機の導入が増えそうなので、フィルムは基本的には機内持ち込み手荷物として検査を受けるしかない。こちらは今のところフィルムに影響のない低線量での検査が行なわれているようだ。

筆者が9月にフランクフルトで検査を受けた時はもう目視検査は駄目で必ずX線検査が必要とされたが、幸いにも未現像フィルムへの影響はなかった。

カメラバッグに入れた工具はご法度
手荷物検査は極めて過敏になっている

カメラやレンズは貴重品なのにチェックインすると付加的な保険を掛けない限り、損傷を受けたり、紛失したりした場合にも非常に低い補償しか受けられないので、機内持込手荷物として持ち込むしかない。カメラバッグにはドライバーやアーミーナイフなどの工具が入っていることも多いが、最近は検査が厳しく、これらのものはすべて没収されてしまうので注意が必要だ。何しろ機内では食事用のフォークとナイフも凶器となるのを警戒して金属製ではなくプラスティック製を使用しているというほど徹底しているのだ。

検査ゲートで無用なトラブルを起こさないためにも、事前によく荷物を整理して疑いを招きやすい道具類はチェックイン荷物に入れておこう。

また電池を使用するカメラやパソコンなどは必ず検査員の目前でスイッチを入れて操作することを求められるので、こちらも要注意である。

達人が薦める このエアショーに行ってみよう！

第8回 リノ・エアレース

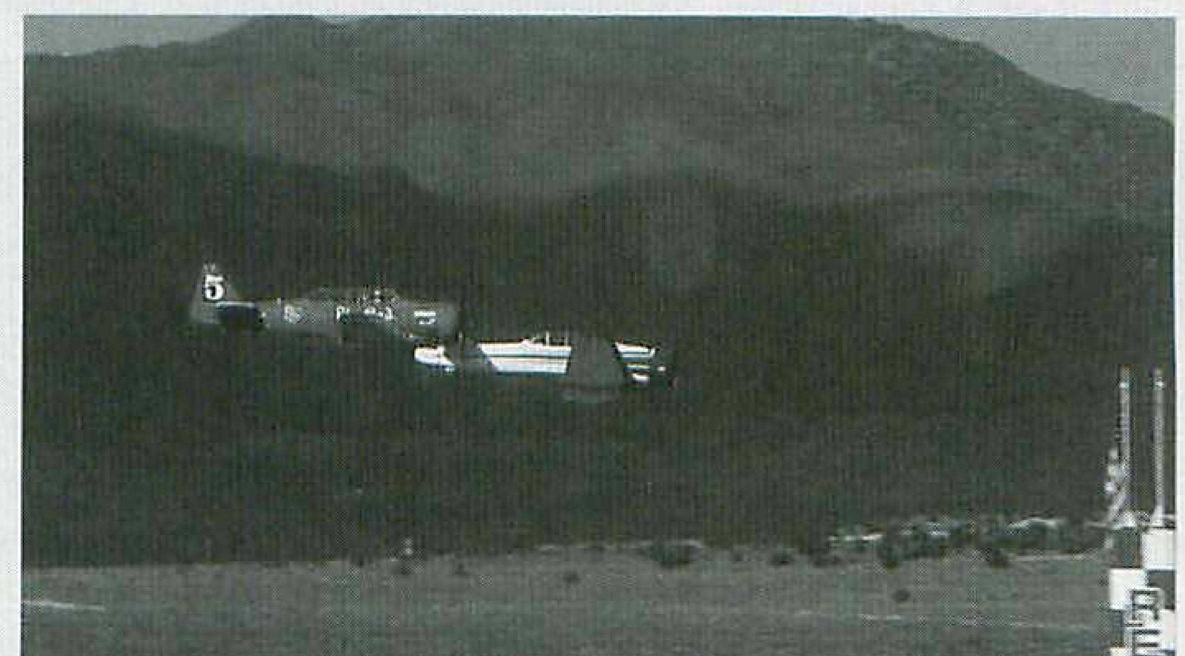
毎年9月半ばにネバダ州リノの約20km北にあるステッド空港で開催されるリノ・ナショナル・チャンピオンシップ・エアレースは、航空マニアなら一度は行ってみたいイベントである。単なるエアレースだけでなく、その前後に色々なデモフライトが組まれていてエアショーとしても十分楽しめる。今年の第38回レースは9月10日から16日まで開催予定であったが、11日に発生した同時多発テロによって全米での有視界飛行が禁止されたことによりレースが成立しなくなった。ギリギリまで航空当局と交渉が行なわれたが例外は認められず、結局今回のレースは中止とすることが14日の金曜日に決定された。

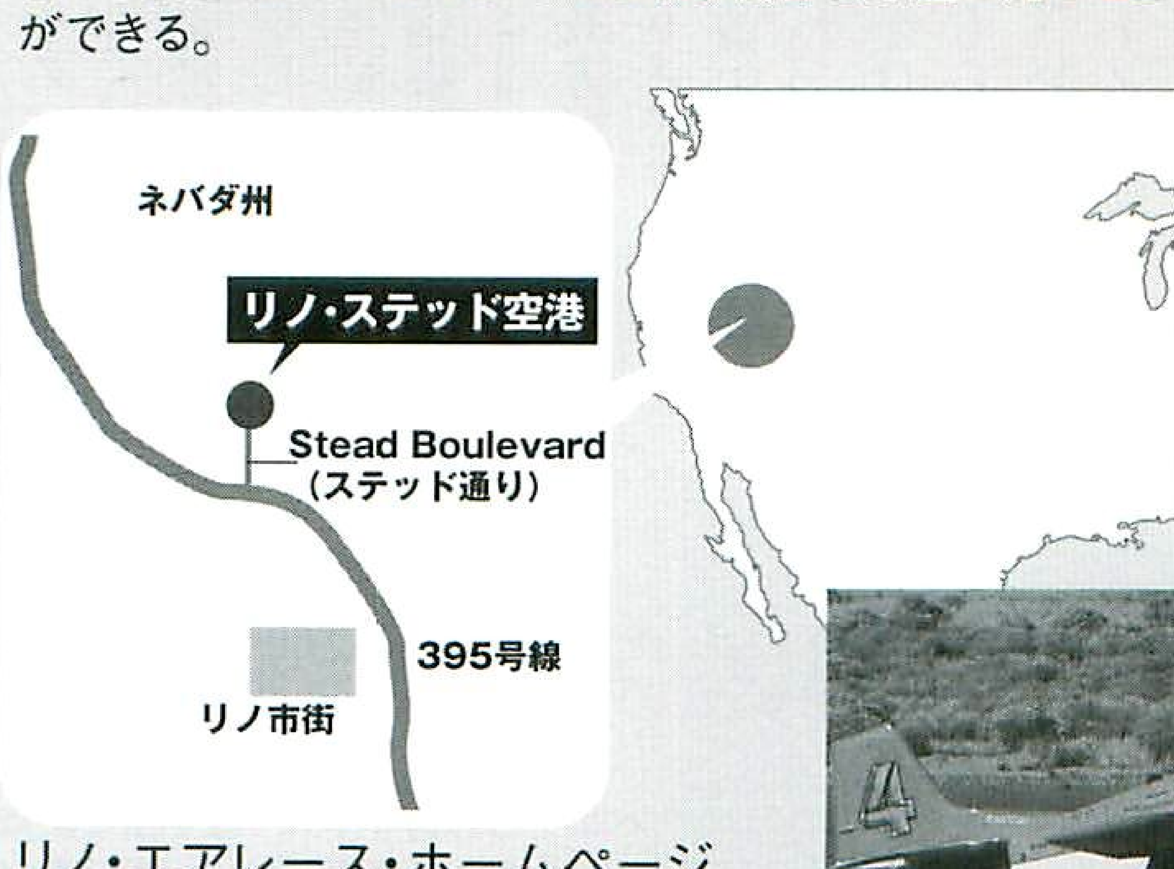
このレースの魅力はオーバルコースで競い合うカーレースのNASCARやCARTと同じで、ひと目で勝負の結果がわかることであろう。パイロンの周りを何機もが周回するこのような飛行機レースは昔よく開催されていたが、現在ではこのレースが唯一のものである。グランドスタンドが組まれているので座って観戦することが出来るし、前に邪魔な脚立が並ぶこともない。また毎日好天に恵まれ、雨の心配をする必要がないのもイベントとしてはプラス評価であろう。カーレースと一緒でピットパスを購入すれば、エンジンオイルの香りを嗅ぎながらモンスターのような機体を身近に見ることができる。



リノ・エアレースの会場正門入り口


観客席から見た会場の風景。舞台装置としては最高である


パイロンの周りを周回するレーサー達



リノ・エアレース・ホームページ
http://airrace.org


現在3連勝中で今年も優勝候補だった#4 ダゴレッドはムスタング改造のレーサー

加藤健二郎の



イザというとき、自衛隊はどう戦うのか?
それがこの連載のテーマだ。演習・訓練取材を通して、
軍事ジャーナリスト加藤健二郎氏が実感した
陸上自衛隊装備と隊員たちの「実力」をレポート。
今月は、戦車による射撃訓練と機甲化部隊&他部隊との
連携についてお届けしよう!

第7回

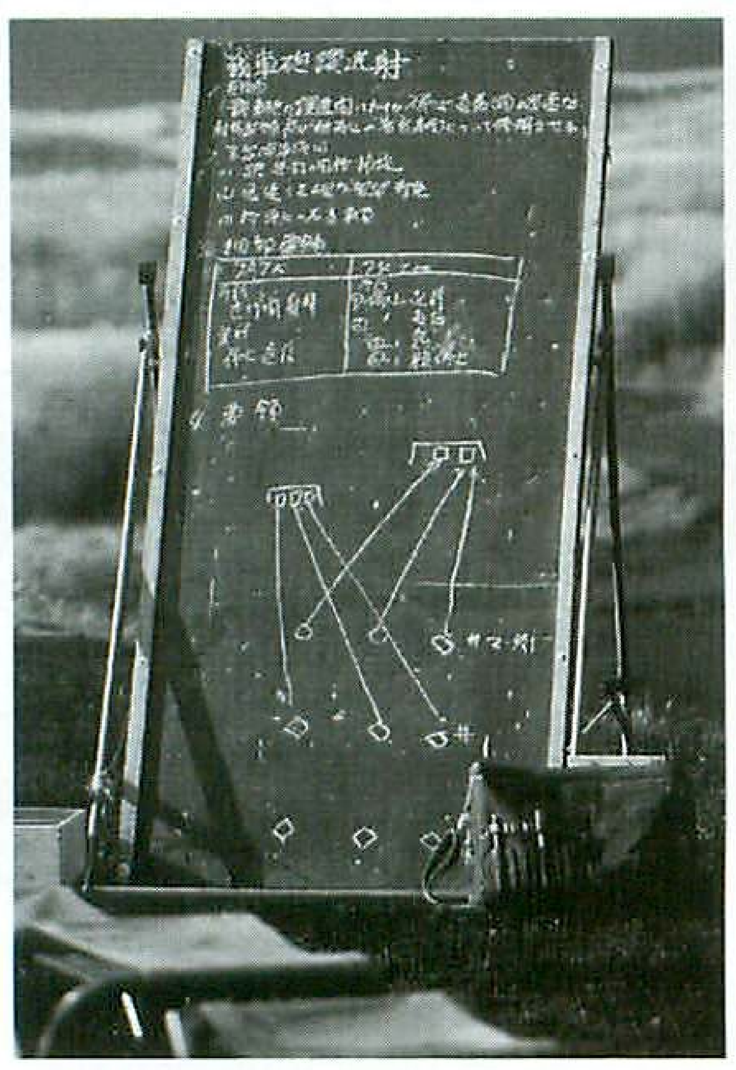
戦車の大群で敵陣を蹂躙せよ!

戦車の射撃訓練と普通科部隊との連携訓練

戦車の射撃訓練


74式戦車に、105ミリ徹甲榴弾を積み込む


射撃する74式戦車。戦車の発砲炎は一瞬だが非常に目立つ


徹甲榴弾射撃訓練要領が示されている。躍進間の目標捕捉、迅速で正確な照準などについて書かれている


射撃する74式戦車。発砲炎が消えた後には砂煙が舞い上がり、やはり、戦車は射撃したと同時に敵に発見されるのは避けられない。だから、2発外したら自分がやられる番になってしまうのだ

1500メートル先の標的を狙え!

「2発続けて外したら自分がやられると思え!」と教官から檄が飛ばされた。

ここは静岡県の東富士演習場、機甲科教導団による徹甲榴弾射撃訓練のワンシーンである。まず74式戦車による射撃から始まった。スタート位置から急加速して下り斜面を前進し、時速30キロ以上まで上げる。そして急ブレーキにより停止してから2秒以内に1発目を射撃しなければならない。1発目が外れたらすかさず2発目だ。これも2秒以内の射撃である。戦車戦において、この2発を外したら、自分の戦車が撃破される番だという。

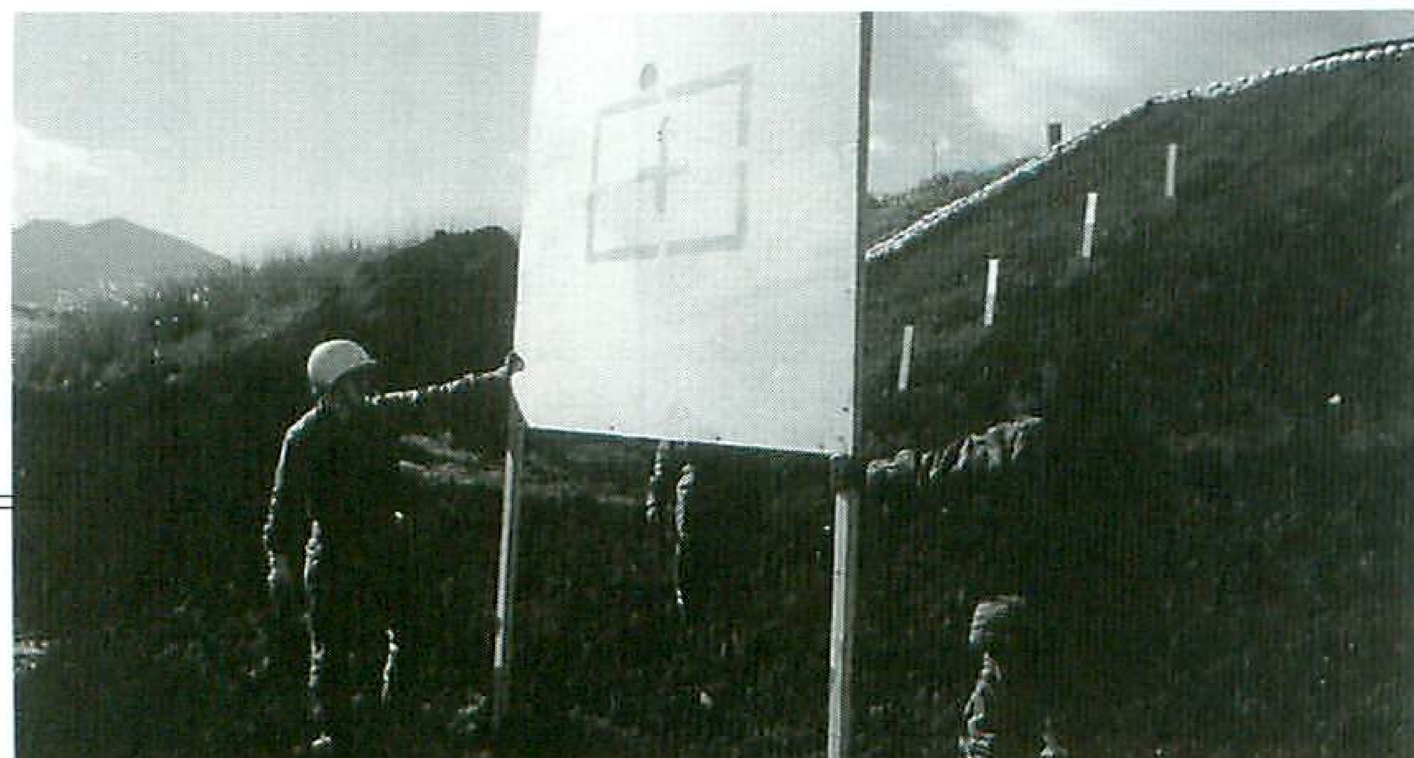
一つ目の標的を仕留めたら再び急加速で時速30キロ以上に上げ、急停止して射撃である。急停止した戦車は、車体が前のめりになり、その反動で1~2度揺れてから安定する。安定するまでに1秒以上の時間がかかるので、2秒で射撃というのは、車体が安定してから1秒未満で照準して射撃しなければならないことになる。

主砲で狙う標的の大きさは、戦車の砲塔正面の大きさということで、1.5メートル×50センチほどの横長の長方形で、標的までの距離は1500メートルである。

午前中の射撃訓練が終わった後で、命中弾を受けた標的を見せてもらった。標的はベニヤ板で、そこに命中ゾーンを示す長方形が描かれている。見事に命中していた。命中した穴は、綺麗な円形の穴になっていて、ベニヤ板に割れ目が入ったりはしていない。この綺麗な穴から、戦車砲弾の貫通力が想像できる。

このベニヤの標的は、目視による照準で射撃するための標的だが、赤外線センサーによって熱源を探知して射撃する訓練のときには、熱源標的が使用される。

午後からは、90式戦車による射撃が開始された。今回は、74式戦車の乗員を経験している者を初めて90式戦車に乗せてみての訓練である。教官は「90式戦車は、攻撃・防御・機動力から




105ミリ徹甲榴弾が2発命中しているが、1発は長方形のマークから外れている

ベニア板の的を105ミリ徹甲榴弾が貫通した後。綺麗な円形になっている

ハイテク機器まで多くの面で74式より優れているのですが、最も凄いと感じるのは、初めて乗った隊員でも、そこそこは動かせる点です。74式戦車を経験している隊員なら、4〜5回も走らせれば、もう問題なく90式戦車を扱えます」という。ただ、61式戦車を経験しているベテラン戦車隊員に言わせれば「74式も、射撃安定を作動させてしまえば命中しますよ」とのことである。

環境データ＋経験＝命中！

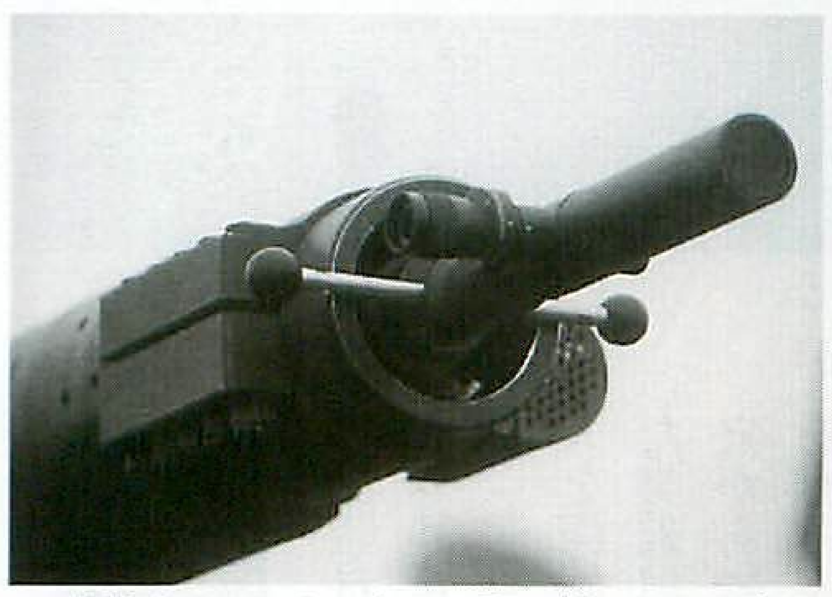
射撃を開始していない90式の砲口を見てみると、スコープのようなものが装着されていた。これは砲口照合装置といい、砲身の歪みを精密に測定する器具である。砲身は、気温や湿度などの外気環境、射撃の状況によっても歪みが出る。ミラーとレンズで構成された砲口照合装置によって、これらを精密に測定してから射撃に臨むのである。

また、砲塔上面には環境センサーが立ち、これは主に風向風力を測定して、照準のためのデータとしている。しかし環境センサーでは戦車周辺のデータしか得られないため、1500メートル先の風向などが違っていた場合は、砲手の経験に頼ることになる。90式戦車の主砲は、ライフル砲ではなく滑腔砲のため、横風の影響を受けやすいので、砲手の経験値で命中させるのは難しいともいわれている。正確な環境データが74式戦車の場合以上に求められるということである。

ライフル砲とは、砲身内部に刻まれた旋条によって弾丸に回転を与えて直進性を持たせるタイプの砲身である。一方、滑腔砲は、弾丸を回転させない有翼弾なので、どうしても横風に影響を受けやすくなるが、滑腔砲弾は貫通力が高い。

弾丸の貫通力は、弾速が速いこと、弾丸の形状が細長くて重いこと、材質が堅いことなどが求められる。ライフル砲では、細長くて重い弾丸を安定して飛ばせないこと、より高速で弾丸を発射するためには、ライフル砲の砲身寿命は非常に短くなってしまうことなどの理由から滑腔砲が生まれたのである。

90式戦車の120ミリ滑腔砲から発射する徹甲弾はAPFSDS（徹甲翼安定離脱サボ）弾という、弾丸の先端に飛び出している針状の部分だけが徹甲弾として飛んでゆくのである。大口径の砲身から小口径の徹甲弾（弾頭の針のような部分）を飛ばす方式をアクセロレーターといい、より高速の弾速を得られて貫通力が増している。滑腔砲は敵戦車を一撃で撃破するための貫通力を重要視した砲であり、90式戦車の徹甲弾の弾速は秒速1650メートルになる。ライフル砲の弾丸の初速は秒速1000メートル前後だ。


90式戦車の120ミリ砲口に取り付けられた砲口照合装置


90式戦車もやはり、発砲炎は大きくて目立つ


90式戦車用の120ミリ対戦車榴弾


徹甲弾の標的が置かれてる四角い穴を90式戦車の砲塔上から見る


90式戦車に120ミリ徹甲弾を積み込む。1発の重さは約19キログラムだ


射撃する90式戦車

戦車の射撃は2発以内で命中させろ！

90式戦車による徹甲弾射撃訓練は、北富士演習場で行なわれていた。徹甲弾は高速でしかも弾が爆発しないので跳弾の危険が大きいため、標的は、コンクリートで造られた穴の奥にセットしてある。射撃訓練をする者は、標的を外しても、このコンクリートの穴の中には撃ち込まなければならない。

徹甲弾射撃の場合も、2発以内で命中弾を与えなければならない。教官からは「砲手は、1発目の弾の弾着箇所を絶対に見失うな。1発目が外れたら、2発目をどっちへ修正するかを瞬時に判断しろ」との指示が飛ぶ。しっかりと見ていれば、命中箇所から一瞬火が出るのが見えるらしい。この徹甲弾射撃は、前述の東富士演習場における徹甲榴弾射撃のように、走ってきて停止して2秒以内に射撃というものではない。やや高台になった定位置から一発ずつに時間をかけて射撃する基本的な訓練であった。

話は変わるが、自衛隊の戦車の射撃を何度か取材していて疑問に感じるのは、砲塔を横向きにしての射撃を見たことがないことである。他のカメラマンが撮影した訓練写真や、自衛隊が発表している資料でも、戦車の射撃シーンの写真は、車体が射撃正面方向を向いているものばかりである。どこかでは横向き射撃の訓練もやっているのかもしれないが、その頻度は低く、自衛隊のほとんどの戦車隊員は横向き射撃をやったことがないのではないだろうか？　横向き射撃が戦車の性能上で問題があるのでなければよいのだが。

小隊長になるためのBOC（幹部初級課程）訓練

戦車戦というと、戦車同士の撃ち合いのイメージが強いが、戦車部隊だけで戦闘が行われるケースは非常に稀である。戦車、歩兵、砲兵など異なる部隊とのチームワークこそが勝敗のカギであり、幹部（将校）の重要な役割は、そこにあるのだ。

防衛大学校か一般大学を卒業し幹部自衛官となって、各地に赴任したばかりの新任3尉は、富士学校でBOC（幹部初級課程）訓練を受けなければならない。今回ここで紹介するBOC訓練は、これから小隊長になるための教育で、普通科（歩兵）、機甲科（戦車）、特科（砲兵）、施設科（工兵）による戦闘協力における部隊間調整と小隊の指揮方法が教育目的になっている。

まず模型を使った砂盤演習や現場視察から始めて、機能別演習、総合演習へと進む。機能別演習では、地雷原の突破や敵主陣地の制圧など、要所の戦闘だけを抽出して訓練するもので、総合演習では、それらを全て連続して行なうことになる。

1994年7月14日、朝の5時半くらいから、普通科隊員の前進が始まった。攻撃開始までに普通科部隊が正面の丘を制圧することになっている。6時までには、丘を越えて敵の敷設した地雷原の近くまで前進する。これらは、敵に発見されないようにこっそりと移動する隠密行動である。

6時近くなると、戦車のエンジン音が響き渡り始めた。しかしなかなか姿は見えない。起伏のある地形の中では、できる限り低いところを移動し、茂みなどに隠れるのだが、戦車のエンジン音だけは消しようがない。

しばらくして、特科による支援砲撃が始まった。この砲撃は実際に撃つわけではなく、着弾地点でスモークを焚いて示し、その間に施設科が地雷原を爆破処理をするのである。爆破処理器材を担いで敵の前面に広がる地雷原に突入して敵の銃砲火にやられないだろうか？　という疑問はあると思うが、施設科による地雷原突破の取材ルポは別の機会のこの連載の中で紹介したい。

BOC訓練は、地雷処理作業そのものの訓練ではなく、小隊長が部隊を動かし、他の部隊と連携する訓練なので、30分間の支援砲撃の間に地雷は処理されたという設定になっている。教官は「攻撃行動そのものの訓練なら、地雷原突破は深夜に、見通しの悪い地形のところを選んでやります。しかし今回は、新任小隊長が各小隊や中隊と連携しながら部隊を動かす訓練が目的なので、白昼に平原でやっているのです」という。



74式戦車が、砲塔を横向きにして走行しているが、右奥のように射撃をする戦車は、砲塔を横向きにすることがない

複雑な地形では機動力が落ちる戦車部隊

施設科は、奥行き約100メートルの地雷原に4つの突破口を作り、ここから同時に4個の戦車部隊が突入を開始する。地雷原を誘爆処理した突破口は、地雷の爆発によって、大穴があいているため、戦車は、その穴を登り下りしながら前進しなければならない。この訓練では、これらの大穴は、パワーショベルで掘削して作っていた。

穴は深いものでは2メートル近くもあるため、戦車の車体は下を向いたり上を向いたりと激しく動き、とても敵陣に照準を合わせていられる状況ではない。特に、下り坂になるときは、砲身の仰角を一番上向きにして、砲身が地面に触れないようにしなければならない。当然ながら、高速で突破することなどはできない。

敵側は、じっくりと腰を据えて狙い撃ちできる場面である。複雑な地形のところでは、いかに戦車が扱いづらいかということがよくわかるシーンだ。

74式戦車2両が通過したすぐ後から普通科の徒歩部隊10名が続き、さらに74式戦車2両に普通科10名が続くかたちで突入した。地雷原に作られた突破口は、幅が4メートルほどしかないので、戦車の後ろに普通科隊員が続く隊型になっていたが、地雷原を抜けるとすぐに、普通科隊員は左右に展開して戦車を援護する。樹林帯が迫っていて視界が開けてないため、至近距離から対戦車ロケットなどで反撃されることを警戒しなければならないのだ。

叩き上げの3尉が受ける小隊長訓練 〝SLC訓練〟はより実戦的な内容で行われる

翌年の7月には、SLC訓練を取材した。これは、内容的にはBOC訓練と同じなのだが、小隊長教育を受ける学生が、大学卒の3尉ではなく、2等陸士、陸曹と下から叩き上げで上がってきた3尉だという違いがある。つまりSLCの小隊長のほうが陸上自衛隊員としてのキャリアは圧倒的に長いベテランなのである。

訓練の進行は、地雷原の突破から始まる点で想定も非常に似ていたが、戦車を用いた突破方法はBOC訓練のときとは違っていた。BOC訓練では、戦車2両、普通科10名、戦車2両、普通科10名という順序で突入してきたが、SLC訓練では、戦車4両がまとまって突進してきた。教官は「戦車は、間隔をあけずに団子状になって突っ込め！　1両ずつ間隔をあけていると1両ずつ携帯式対戦車ロケットにやられるぞ」と指導していた。

1998年に東北地方の第9師団の戦車隊を取材したときにも、戦車4両は団子状態になって突進していた。叩き上げ小隊長のためのSLC訓練のほうが、BOCよりも動きが実戦的になっているのだろうか。

話をBOC訓練に戻そう。地雷原を突破したら、その先は、両側を樹林帯に囲まれた一本道の前進になる。遠くへの見通しが利かないため、普通科に前を歩かせて、戦車は敵の反撃の際には支援射撃をできる位置から睨みを効かせつつ続いてくる。戦車の前を行く普通科隊員たちは、62式機関銃を持った者が道路際で機関銃を構えて支援射撃の態勢を取り、その支援の下で、他の普通科隊員たちが前進をしてゆく。前方に敵

BOC



普通科の徒歩部隊が戦車の前を進み、後ろから戦車が援護射撃の態勢をつくる



BOC訓練で、立体の作戦地図を元に砂盤演習を行なう新任3尉たち

が現れたら、すかさず62式機関銃が火を吹くという態勢である。

普通科部隊が前方警戒の位置に就いて、普通科小隊長からの合図が出たら戦車はゆっくりと前進する。部隊は、4つの突破口から前進しているので、4つの部隊との連絡を保ちながらの前進である。1個部隊だけが突出して前に出てしまってもよくないし、遅れている部隊があるかもしれない。こういう点の調整が、BOC訓練の主眼だ。

普通科の援護なしでは前進できない戦車部隊

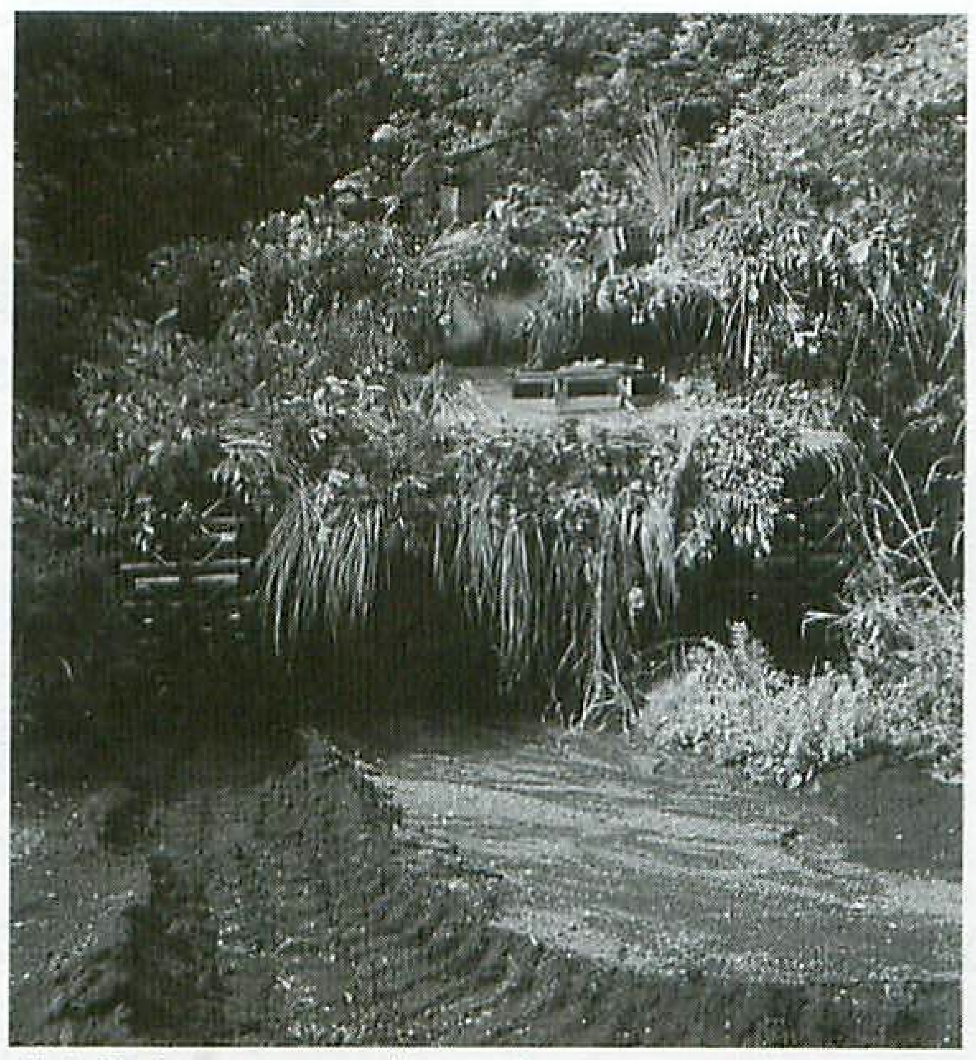
しばらくすると、普通科部隊の前進が停止し、74式戦車3両が普通科部隊よりも前に出てしまった。教官から普通科小隊長に対して教育指導が入ったため、訓練の進行を一時中断しているのだという。戦車隊のほうはそのことを知らずに前進してしまったのだ。そういった状況はともかくとして、戦車3両が普通科の援護なしで先頭に出てしまっているのはまずい。気づいて戦車は停止したのだが、戦車隊員が車外に出てきて周辺警戒をするわけでもなかった。

最前線でこんな状況を作ってしまったら、「どうぞ戦車を餌食にしてください」と言っているようなものである。戦車は、厚い装甲で覆われていて視界が狭いため、携帯式対戦車ロケットを担いで至近距離からこっそり近寄ってくる敵兵には弱いのである。そのために、戦車の周辺を警戒援護する普通科部隊が必要になってくるのだ。

ここで戦車搭乗員による周辺警戒について見てみる。まず、運転手と無線手は各自の持ち場から離れられないという。74式戦車の乗員は4名なので、1名が砲塔上の12・7㎜機関銃を構え、もう1人が車外に出て、付近の警戒をすることになる。しかし、乗員が3名の90式戦車では、車外を警戒できる者が1名しかいないことになる。74式戦車のベテラン搭乗員にいわせれば「戦車1両を3名で守るのは無理です。必ず死角ができます」と言い切る。

教官からの指導が終わって部隊の前進が再開され、しばらくすると「対空警戒！」の命令が入った。74式戦車は、バックで90度ターンをして近くの茂みの中に隠れた。陸上自衛隊の演習を見ていつも感心するのは、草木などを使ったカムフラージュが非常に念入りで巧いことである。戦車も、カムフラージュは徹底していて、砲身にまでしっかりと草が巻き付けられている。

このカムフラージュで茂みの中に入ってしまったら、上空から目視ではかなり発見しづらいであろう。しかし、戦車が茂みに入ったところにキャタピラの轍がクッキリと残っていた。せっかく、戦車が茂みの中に溶け込んでいても、轍を消しておかなければ「頭隠して尻隠さず」の状態である。


対空警戒ということで茂みの中に隠れた74式戦車。草葉による偽装は完璧といえる出来なのだが、キャタピラの跡が残ったままである


地雷を爆発処理した後の大穴のあいた通路を進む90式戦車。砲口を敵陣に合わせておくことはできない


地雷を爆発処理した後の大穴のあいた通路を進む74式戦車。穴の底に下りてゆくときには、砲身が地面に触れないように注意しなければならない。敵に照準ができず、敵からは狙い撃ちされやすい危険な状況だ


SLC訓練では、74式戦車は間隔を空けず、団子状になって突撃してきた

近代戦車戦闘では〝地の利〟という言葉は必要ない！

1991年の湾岸戦争では、アメリカ軍とイラク軍の戦車部隊が砲撃戦を演じている。しかし、この砂漠の戦車戦よりも、1994年4月にボスニアの山岳地帯で行われた国連デンマーク軍レオパルト1A3DK戦車がセルビア軍ロケットランチャー部隊を撃破した例のほうが、自衛隊が日本国内で想定する戦闘に近い。

そこで、この戦闘に参加したデンマーク軍の戦車小隊長へのインタビューを抜粋してみる。近代的なハイテク戦車による戦闘の実態を知る上で参考になるであろう。

「深夜に、国連の監視所がセルビア軍の砲撃を受けたので、戦車7両が救援に向かいました。すると、300メートルほど離れた山の中からセルビア軍は戦車隊にロケットランチャーを発射してきました。前を走っていた5両はそのまま前進し、後ろの2両が左右に展開してから敵の射撃位置を観測しました。そしてすぐに反撃を開始。10数分間で72発の105ミリ砲弾を叩き込むと、セルビア軍の射撃は沈黙しました」

結果は、セルビア兵の戦死が9名でデンマーク軍の損害はゼロというものだった。土地勘は圧倒的にセルビア軍が有利だったにもかかわらず、ハイテク武装のレオパルトが完全勝利したのである。これについて小隊長は「戦闘が始まってしまうと、土地勘のなさは、暗視装置や観測システムが優れているということで克服できます。例えば、一度、照準した目標は、コンピューターで記憶されるので、戦車の位置や姿勢を変えても、その目標に命中弾を与え続けられます」という。

土地勘が大切なのは、部隊の移動や補給など、戦闘が始まる前の段階である。レオパルト戦車を扱っている上で最も気を遣うのはエンジンのパワーコントロールだという。「登り坂ばかりが続いたり、凹凸の激しい地形を走り続けたりすると、エンジンがオーバーヒートしてしまうのです。オーバーヒートは、水温計のチェックなどで予防できるのですが、戦闘状態に入ると、予想以上にエンジンに負担のかかる動きをしてしまい、搭乗員もそれを見落としがちなのです」とのことだ。

戦闘を開始してしまえば地形や土地勘はあまり関係ないというのは、陸上自衛隊にとっては痛い言葉ではないだろうか。というのは、陸上自衛隊の演習の多くは「地の利を活かすこと」を重視しているからである。

また、歩兵の持つ携帯式対戦車兵器の進歩によって、戦車の大群で敵陣を蹂躙するという戦術も過去のものになりつつある。ボスニアやチェチェンでも、戦車を突撃させる戦術が成功したという例は聞いたことがない。陸上自衛隊は、BOCやSLC訓練で採用されていた戦車の運用方法を、近代戦、そして将来戦に適用できるものに変えてゆかなければならないであろう。

【著者紹介】
加藤健二郎
（かとう・けんじろう）



1961年生まれ。1985～1988年、建設技術者として東亜建設工業勤務。以後、海外へ飛び出す。中米、アフリカ、中東、旧ユーゴ、チェチェンなど、戦場突入回数74回、戦闘遭遇は25回。1994年より「実戦との比較」という視点で自衛隊取材を開始、1997年より防衛庁のオピニオンリーダーとなる。著書に『戦場へのパスポート』『35ミリ最前線を行く』。共著に『戦友が死体となる瞬間』『図説・検証・自衛隊のハイテク戦』などがある。

連載 世界の博物館 お宝発見ツアー

文／AKI

File-42

今月のお宝

サーブJ-32ランセン

カリフォルニア州モハビ…砂漠に眠る2機のランセン

ロサンゼルスの東部。30年程前にあのトライスターがロールアウトしたロッキードのパームデール工場（今はもう当時の面影はほとんどないが…）の近くを通り、米軍の新鋭機をテストしてきたエドワーズ空軍基地を過ぎるとモハビという小さな街に至る。このあたり一帯は砂漠地帯。背の低いブッシュが生えた乾いた土地が広がる、どこか荒廃した光景が続く。そんな光景の中にモハビはある。もっともモハビといってもこの街はほんとうに小さい。それまで何もなかった道のわきにちょっと看板が増えて、ガソリンスタンドが見えてきたらそこがモハビだ。はじめてモハビを訪れたとき、この街に泊まることにしたのだが、当然のことながら立派なホテルなどない。あったのはアメリカでよく見かける安モーテルだけ。そのモーテルも鍵がなんと、昔日本のトイレにあったような内側からただ引っ掛けるだけの鍵。物騒なアメリカでもなんとものどかな街だと呆れてしまった。

フリーウェイを右折して１００メートルほど走ると、あのモハビの飛行場が広がる。

9月11日の同時多発テロの影響で米国では古い旅客機を中心に最終的には２０００機が引退を強いられ、モハビ、マラナ、キングマン、ラスベガスといった砂漠のストア・エリア等に並ぶだろうと言われている。２０００機と言えば、あのアリゾナ州のＡＭＡＲＣ（航空機整備及び再生センター）でモスボールされている機体の数にも匹敵する。

ずらりと翼を並べる旅客機…そんな光景がもう20年以上続いているモハビでは旅客機だけでなく軍用機を見ることもできる。現在、英国のＢＡＥシステムズ傘下に入った、かつてのフライト・システムズではＦ-４ファントムがまだ頑張っている。チェコやポーランドから入ってきたＭiＧ-21、元南アフリカ空軍で使っていたＦ-86など、既に10年近くここに置かれたままの機体も少なくない。

そして、モハビでスクラップ置き場と呼ばれている一角には、なんとスウェーデン製のサーブＪ-32ランセンが2機ストアされている。モハビにはきれいにレストアされたホーカー・ハンター等のクラシック・ジェットファイターをときどき目にすることがあるが、2機のサーブＪ-32ランセンは、レストア目的で導入されたものではなく、研究用に使われた機体なのだ。ちなみにモハビでは複数の研究用の機体が運用されている…胴体にＨＯＮＤＡと書かれたロッキードＴ-33は、地元のエンジニアによれば日本の本田技研工業がジェット・エンジンの研究用に使っていた機体だった（今でも使っているだろうか？）。

今回、ご紹介するのは博物館の機体ではない。今もカリフォルニアの砂漠にストアされたままとなっているスウェーデンが生んだ全天候戦闘機サーブＪ-32ランセンのである。





現在、モハビ空港に翼を並べる2機のサーブJ-32ランセン

サーブJ-32ランセンA-32A

- ●全長：14.9m　●全幅：13.0m　●全高：4.65m　●最大速度：時速1125km
- ●巡航速度：時速850km　●実用上昇限度：1万5000m　●航続距離：1850km
- ●武装：RB04空対艦ミサイル×2、500kg爆弾×2または250kg爆弾×4、120kg爆弾×12、50kg爆弾×12、20mm機関砲×4、18cm空対地ロケット×12または14.5cm空対地ロケット×24

ではないけど…

世界の航空博物館ファイル No.42

モハビ空港

博物館ではないので特に連絡先はない。モハビ空港に行きランプツアーを申し込むのがサーブJ-32ランセンを見ることができる唯一の方法だが、現状、ランプツアーは中止。しばらくの間、状況がよくなるのを待とう。



伝説のモハビ…今も数多くの航空機が翼を並べる

まず、最初におことわりしておきたいのだが、今回ご紹介したモハビは博物館ではない。しかし、既に1970年代からモハビは伝説の地となっていた。第一の理由は昨年とうとうスクラップとなったトランスワールド航空のコンベア880型機20機以上がずらっと並んでいたことで有名だったこと。その中には海軍で使われた機体も含まれていた。現在は、9月の同時多発テロで引退を余儀なくされた多くの航空機も加わり、モハビはすでに満杯状態に近い。

その一方でランプにはかつてのフライト・システムズの民間登録の軍用機が並ぶ。現在の主力機はマクドネルダグラスF-4ファントム。1980年代にはF-100スーパーセイバーやF-86F、T-33などが並んでいた。また、ここ数年は旧ソ連のMiG-21（チェコ空軍、ポーランド空軍などから放出されたもの）、MiG-17や、英国製を中心としたクラシック・ジェット（ハンターやミーティア等）なんかも見かけることが多かった。

実は同時多発テロが起きるまでは、モハビではランプ・ツアーがあった。ランプ・ツアーといっても定期的に行われているものではなく、管制塔の下にある管理局にいって写真撮影をお願いすればOKだった。20ドル払えばバンで、空港内を自由に回ってくれる。かつては、危険だからといって入ることが難しかった滑走路をわたった先にあるスクラップ置き場にも入ることができた。そして、このスクラップ置き場の一角、トライスターやジャンボ、コンベア880などに囲まれるようにして、今回ご紹介したサーブJ-32ランセン2機が置かれたままになっている。状態はそれほど悪くないが、ここに置かれた機体の多くは厳しい運命をたどっている。スウェーデンが生み出した初の本格的な全天候戦闘機サーブJ-32ランセン。できれば、フライアブルな状態でどこかの博物館できちんと管理してくれるといいのだが・・・。

ちなみに同時多発テロ以降、モハビのランプ・ツアーは中止されている。外周からの写真撮影はある程度可能と言われるが、米国での空港等での写真撮影の環境は非常に厳しい。今度、またモハビに行くのなら、暖かくなるまでちょっと待ったほうがいいかもしれない。



民間レジを付けたカナデアセイバーMk5とF-4Dファントム II が飛んでいるのもモハービならではの光景（Photo:TAM）



エプロンにはMiG-15UTIのような珍しい機体がさりげなく駐機している。バックはボーンヤードにならぶ旅客機の群（Photo:TAM）

スウェーデンの戦闘機としてはオーソドックスなランセン

サーブJ-32ランセンは、デルタ翼やダブルデルタ翼の「ドラケン」、「ビゲン」や「空飛ぶビア樽」の異名をとったサーブJ-29といった個性的な戦闘機に比べると極めてオーソドックスなスタイルの戦闘機と言えそうだ。一見するとロッキードT-33に似てないこともないが、後退角をもった主翼や直接的な垂直尾翼は明らかにT-33とは異なる。

そんなサーブJ-32ランセンにつながる研究は戦後すぐの1946年にすでにはじまっていた。このときスウェーデンでは全翼機などいくつかのユニークな機体の研究が行われていたが、最終的に1952年11月、サーブJ-32ランセンのプロトタイプ機が初飛行に成功した。実はサーブJ-32ランセンはスウェーデンが独自に空力設計を行い、全機システムを開発した最初の戦闘機だったのだ。それだけにいろいろと苦労もあった。とりわけ苦労したのが機体後部の設計で、最後まで機体後部をどう設計するかに悩んだ。悩みに悩み、ついには水槽の中に機体尾部を入れてその回りの流れを解析するという方法がとられた。結果、最終的な形状を決定したのだが、風洞を使うよりも当時はこのほうが細かな流れの解析ができたのだろうか？ 確かに液体にアルミ粉などのトレーサーを混ぜてストロボ撮影すると結構簡単に可視化ができたという。航空機周囲の流れ解析でもこの方法は有効なのだろうか、このあたりはとても興味引かれる話だ。もちろん、今ではコンピュータを使ってずっと高度な解析ができるわけだが、こうした先人の知恵を尽くした研究にはやっぱり魅力を感じてしまう。

そんなサーブJ-32ランセンは1955年から1960年かけて449機が生産された。最初に生産されたのが1955年12月から1957年6月にかけて287機が生産されたA-32Aシリーズ。同型機は1960年にスウェーデン空軍に引き渡されている。次に開発されたのが偵察型のS-32C。こちらは機関砲の代わりに偵察用カメラとPS431／Aレーダを搭載したものだ。さらにサーブJ-32ランセンは全天候性型のJ-32Bへと発展していった。このJ-32Bは120機が生産されたが、何機かは標的曳航機や電子戦の練習機へと改造されている。そして、これらの機体の一部は現在も運用されているのだ。

ところで、サーブJ-32ランセンのうち3機は、1960年代はじめにスウェーデンで民間登録されているのだが、さらに1980年代半ばには数機が米国に輸出されている。1984年4月～8月にかけて米国に持ち込まれた2機のサーブJ-32ランセンは、カリフォルニア州アナハイムにある軍用機のレストアを専門に行っているMilitary Aircraft Restoration社が購入したもの。機体はシリアルナンバーからいずれも初期のA-32Aのようだ。2機のサーブJ-32ランセン（N4767R及びN5468X）は、その後、カリフォルニア州のモハビにあるルータンのハンガーのわきに置かれていた。この一角はここ数年、旧ソ連製のMiG機がしばしば置かれているところで、この6月にも元チェコ空軍のMiG-21が置かれていた。

さて、Military Aircraft Restoration社が購入したサーブJ-32ランセンのうち1機はマッハ2フライト・テクノロジー社（Mach Two Flight Technology）が研究用に使用したため、機首等に改造が加えられ、塗装もあの濃い緑色のカラーリングからグレーの1色に塗り替えられている（こうなると、ますますT-33に見えてきたりして…）。このマッハ2フライト・テクノロジー社という会社の詳細はどうもよく分からないのだが（すみません、詳細ご存知の方、教えてください）。

いずれにしろ、この2機のサーブJ-32ランセンは、現在は研究機としての役目も終わり、モハビ空港の一角に放置されている。

飛行機プラモ審査隊

隊長：伊藤明（真）

バージョン換え

ハセガワ 1/48 定価3000円

AH-64D アパッチロングボウ





ハセガワから、7月発売予定だった1／48のAH-64Dアパッチロングボウがリリースされた。ヘリコプターの中ではダントツ人気のアパッチは各メーカーからキットが発売されているが、いずれも実機が完成した直後に製品化したキットで、一長一短があって決定版が待ち望まれていた。そしてついに今回、主ローターマスト頂部にロングボウ・レーダーを搭載した、最新型のAH-64Dアパッチロングボウがハセガワから登場したワケなのだ。

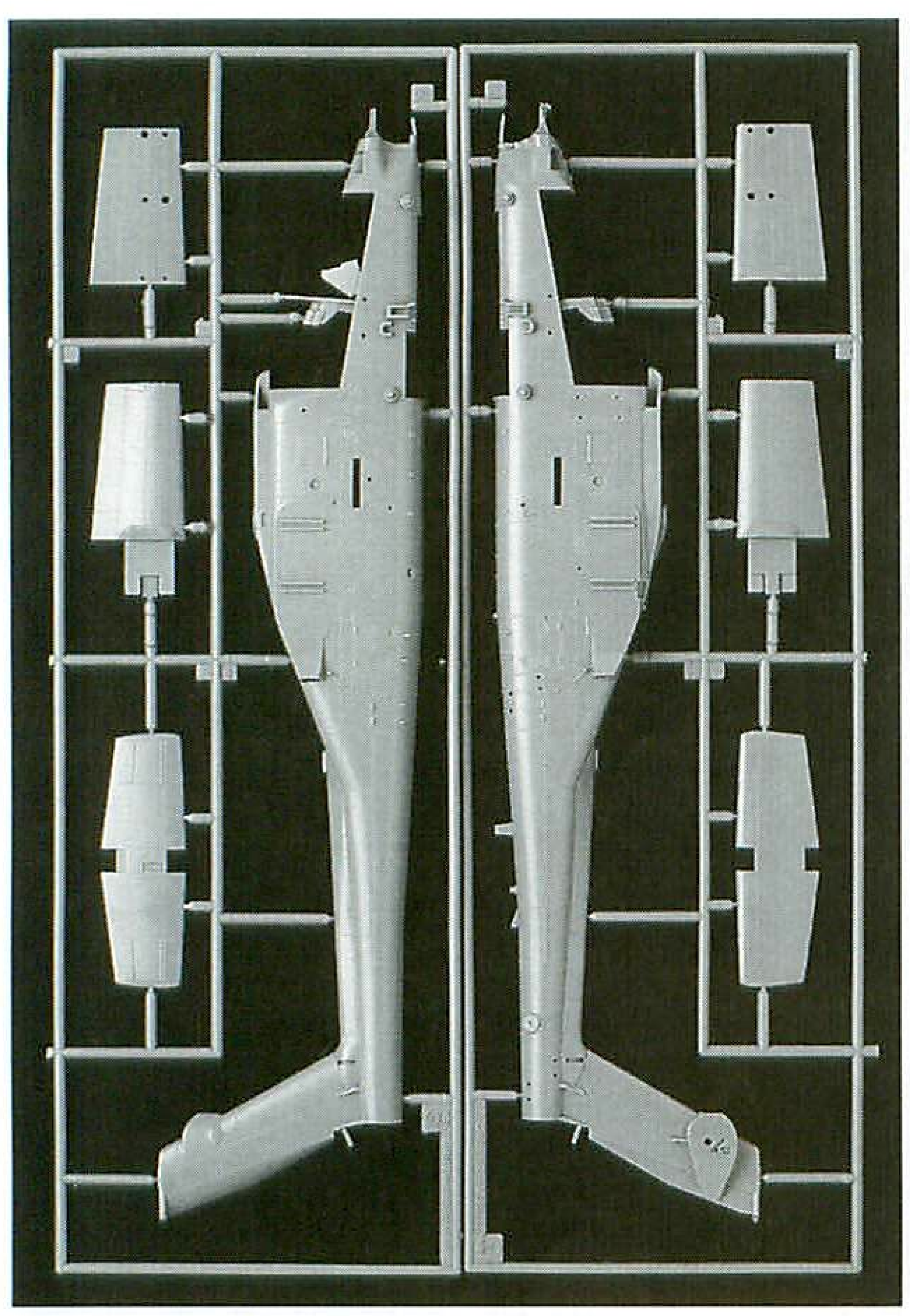
実機解説

ベトナム戦争ではジャングルの中に潜むベトコンを攻撃するため攻撃ヘリコプターの研究が進み、UH-34、UH-1、CH-47などのヘリコプターに機銃やロケット弾ポッドなどを搭載し実戦でテストが行なわれた。結果、UH-1の胴体を再設計した本格的な攻撃ヘリコプターとして誕生したのがAH-1Gコブラであるのはご存知の通り。海兵隊では発達型のAH-1Jが採用され、早々にベトナムに送られて実戦に投入された。

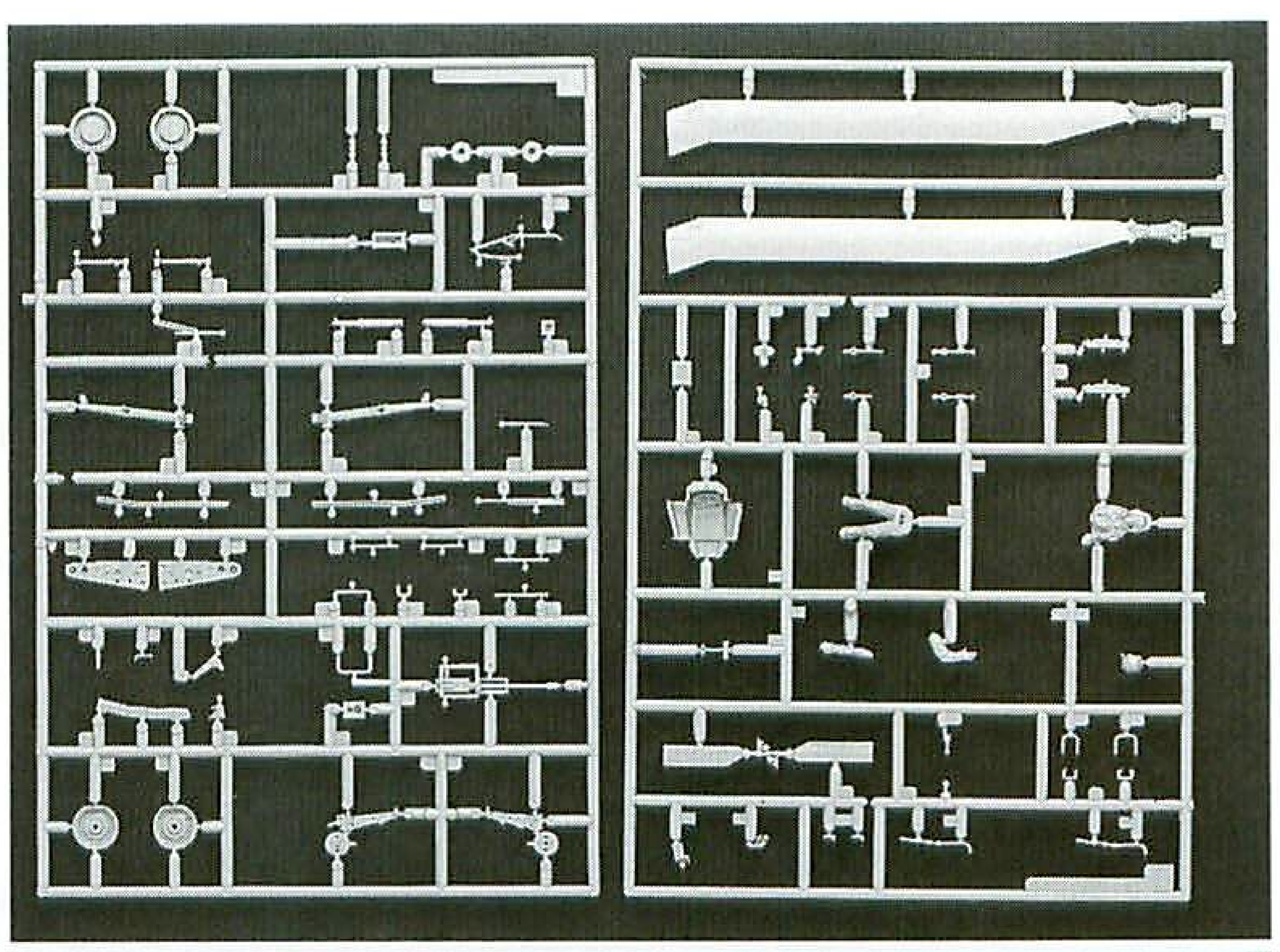
1972年からはAH-1より大型で、全天候能力がある次期攻撃ヘリコプターの開発が始まり、YAH-63AとYAH-64Aの2機種で評価試験が行われ、その結果1976年12月にYAH-64Aの採用が決定した。AH-64は赤外線暗視装置、昼間用テレビカメラ、レーザー側距儀兼目標指定装置、レーザー追跡装置などを装備しているほか、AGM-114ヘルファイア、70㎜ロケット弾、M230チェーンガンなどのウエポンを搭載できる本格的な攻撃ヘリコプター。AH-64Aのほかにロングボウ・レーダーを搭載したAH-64Dが生産されており、D型はアパッチロングボウと呼ばれている。

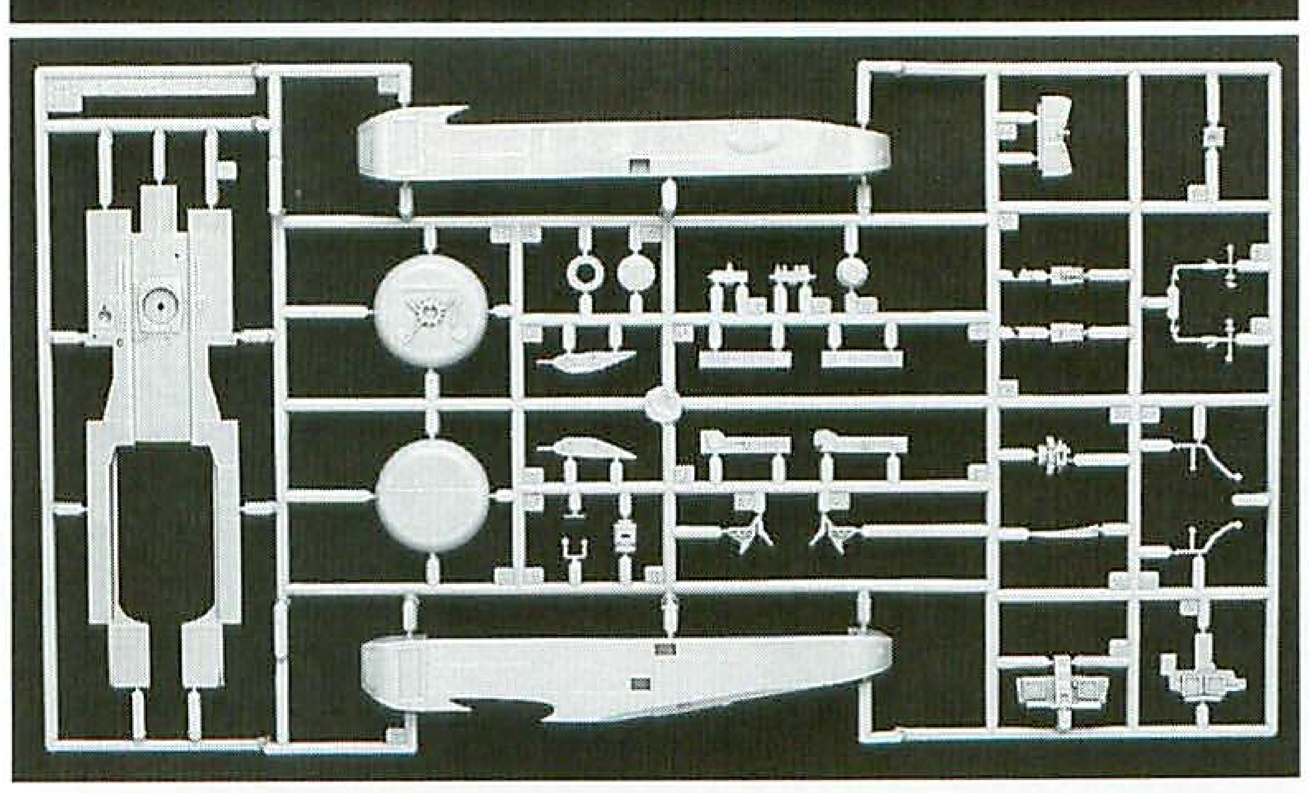
AH-64Dアパッチロングボウはアメリカ陸軍のほか、クウェート、イスラエル、オランダ、イギリスなどで使用されており、日本の陸上自衛隊でも採用が決定したのは記憶に新しい

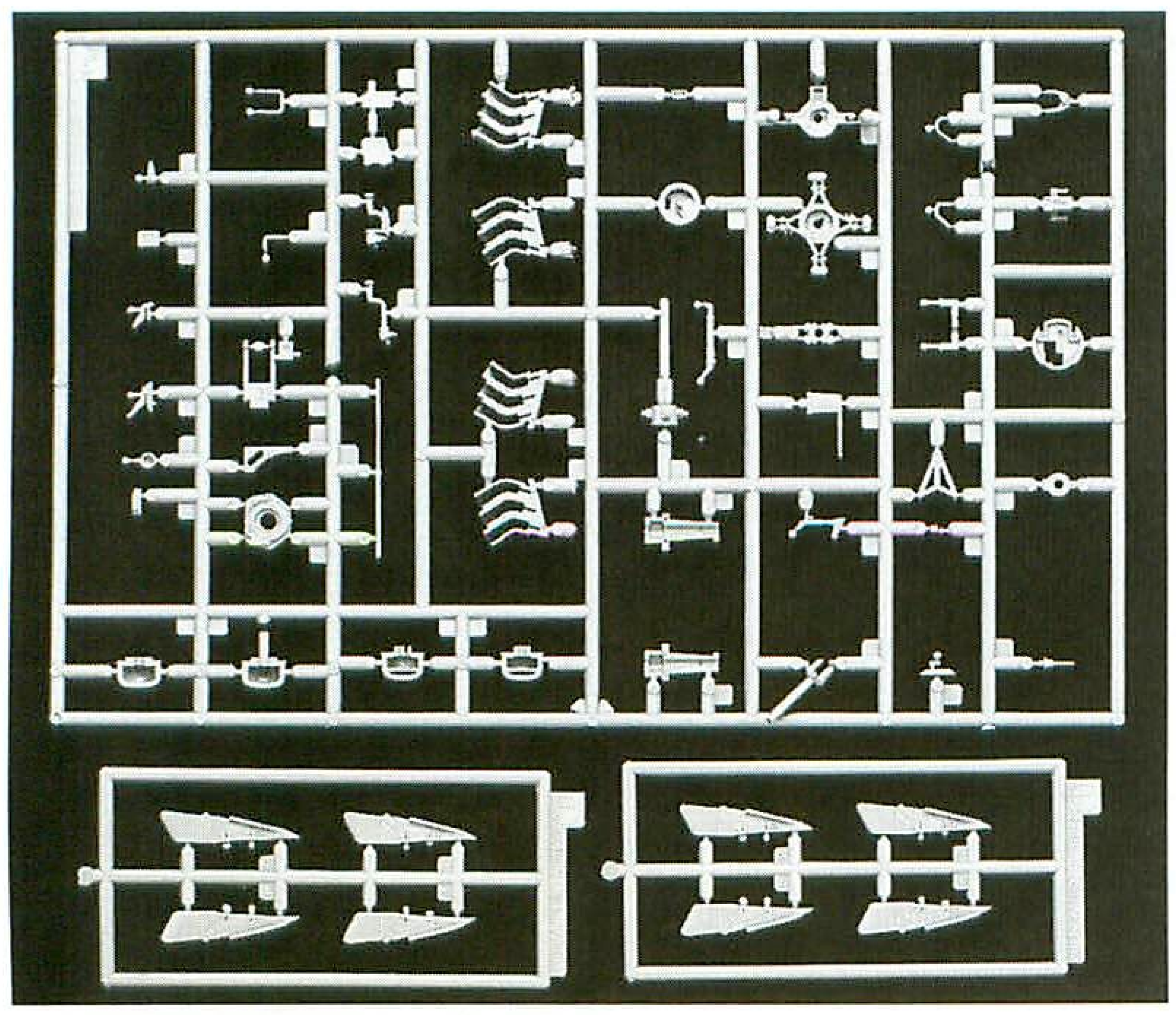
濃密モールドで魅せる戦車を喰らう猛禽

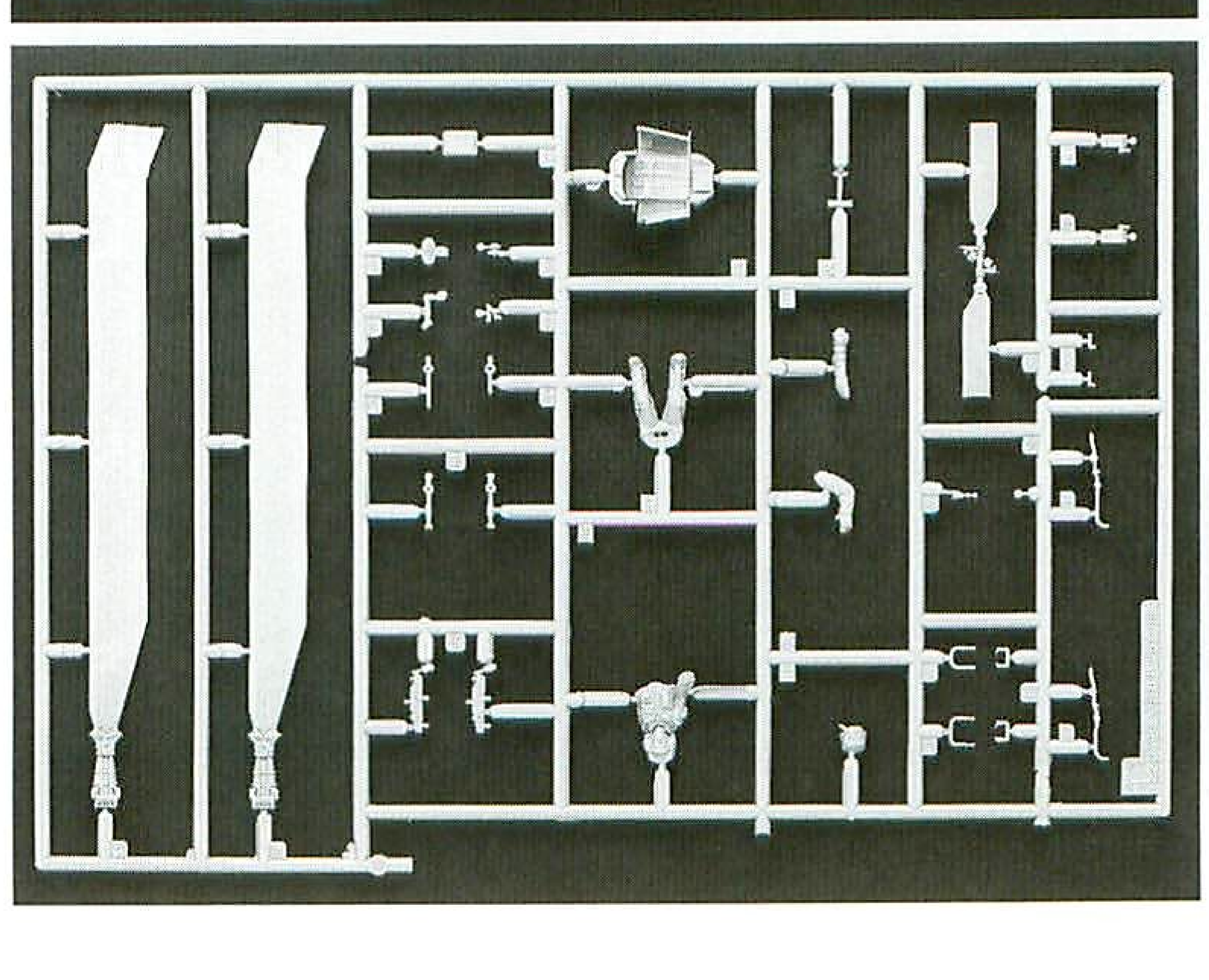


露骨なリベットがモールドされたパーツ。いかにキズ付けずに製作するかがコツ









ついに戦闘ヘリファン待望のAH-64Dアパッチがハセガワから発売された。さすがに待っただけの甲斐があったと言わせるモノに仕上がっている。バージョン換えキットにも英国機の雄、ランカスターがモーター4発装備で控えているぞ！それでは、審査開始〜〜ッ！

ところだ。

キット解説

発売予定から約3か月遅れで登場したハセガワのAH-64Dアパッチロングボウ。繊細な凸リベットやシャープなスジ彫りが、露骨といってもいいほどの独特の細部を再現している。総数296点というパーツ数は1／48のヘリのモデルとしてはやや多いほうだが、アパッチのキットの中では決定版間違いなしという期待通りの仕上がりとなった。

コクピットはコンソールパネルや計器版などにメリハリのあるモールドが施されている。シートベルトまでモールドされた独特の座席など、今まで発売されているアパッチのキットの中でも最高の出来で、計器盤にある大画面の多目的表示装置(MPD)やスイッチ類などを細かく塗り分けるだけで十分だ。

次にコクピット内部の塗装だが、最近の軍用ヘリのコクピットは内部やシートなどを含めてすべて黒一色。おまけにアパッチの外部塗装はほとんど黒に近いオリーブドラブだ。これだとまったくコントラストが付かなくなりちょっと面白みにかけるため、材質の違いなどを表現するため白や茶などを混ぜてメリハリを付けてみよう。キットにはパイロットも付属。良く出来ておりアクセントになるので乗せてみるのもいい。

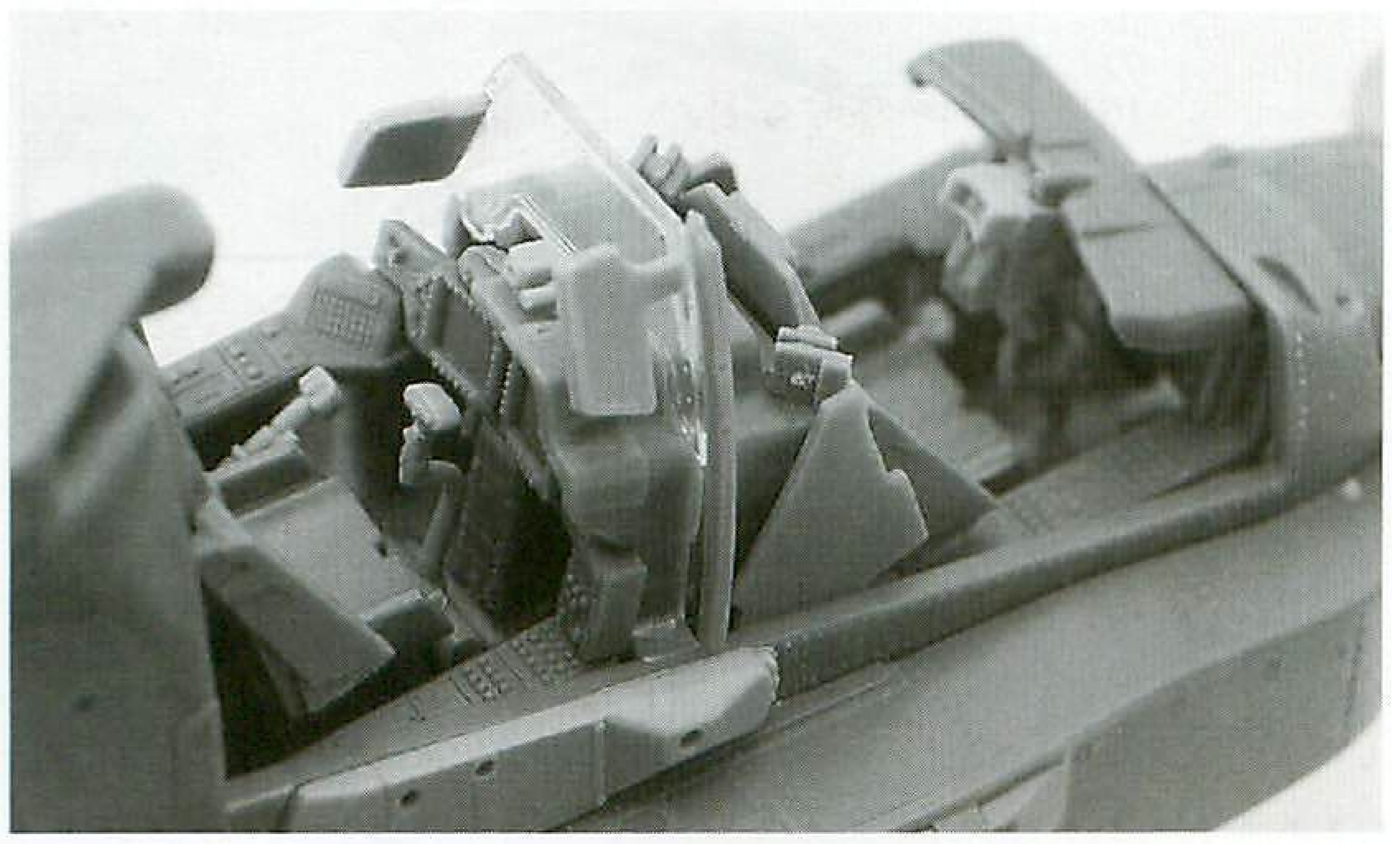
コクピットや脚、30㎜チェーンガン、メインローターの基部などに取り付ける細かいパーツの一部に取り付け位置や方向が分かりにくい部分があるので、説明書や実機写真などを良く見て組もう。

胴体に張り出した電子機器室は左右と下面に3分割されているが、一部合いが悪い部分があるため慎重に仮組みを行ない、できる限り修正箇所を少なくして、繊細な凸リベットを消さないようにしたい。エンジンカウリングも同様で、赤外線制御機構が付くエンジン排気口は上下分割されており、ここも分割ラインが目立つ。

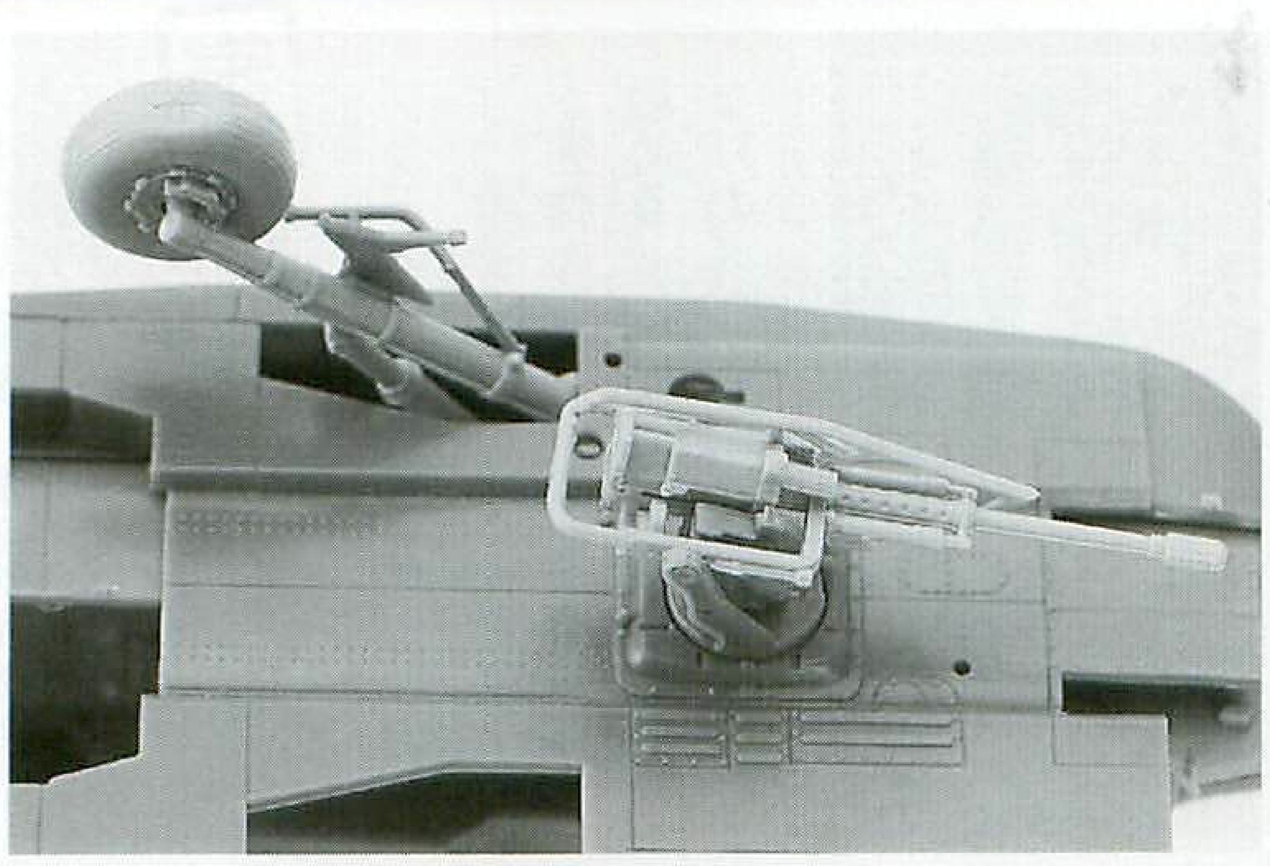
可動する機首の目標補足／指示照準器は問題ないが、クリアーパーツの接着は曇りにくいタイプの接着剤などを用いて慎重に行う。

複雑に分割されているロングボウレーダーとメインローターは、特別に手を加える必要がないほど詳細に再現されている。ただし細かいパーツが多いので組み立ては慎重に。ローター基部周辺もほとんど黒だが塗装で金属感を出したいところだ。

ウエポンは2・75インチロケット弾ポッド、AGM-114ヘルファイア対戦車ミサイルが付属している。このほかアパッチロングボウは、FIM-92スティンガー空対空ミサイルや長距離フェリー用の増加タンクなども搭載可能だ。今後AH-64Aアパッチのバージョン展開が予定されているほか、陸上自衛隊が導入すれば当然デカール換えキットの展開も予想される。

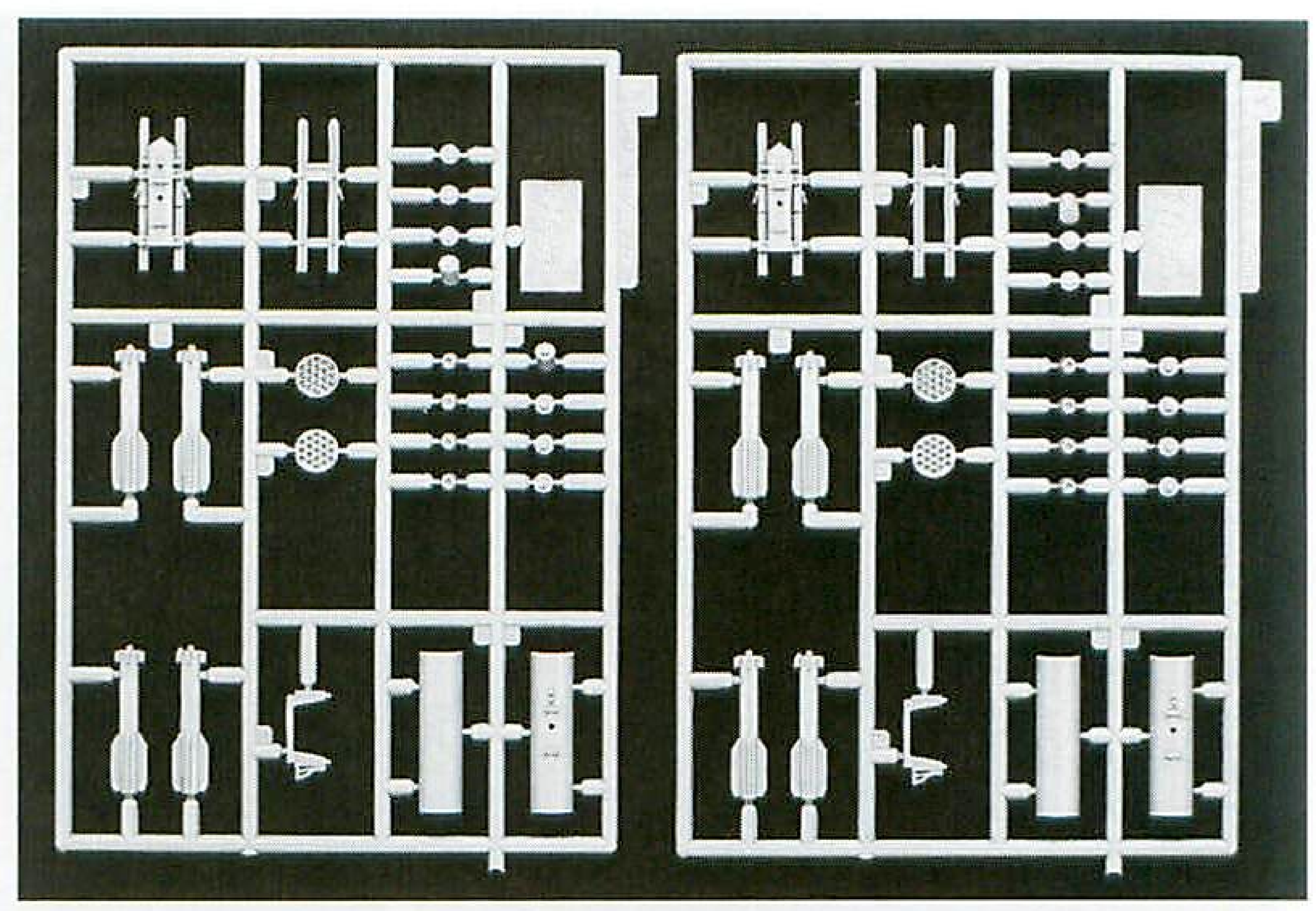


飛行機プラモ審査隊

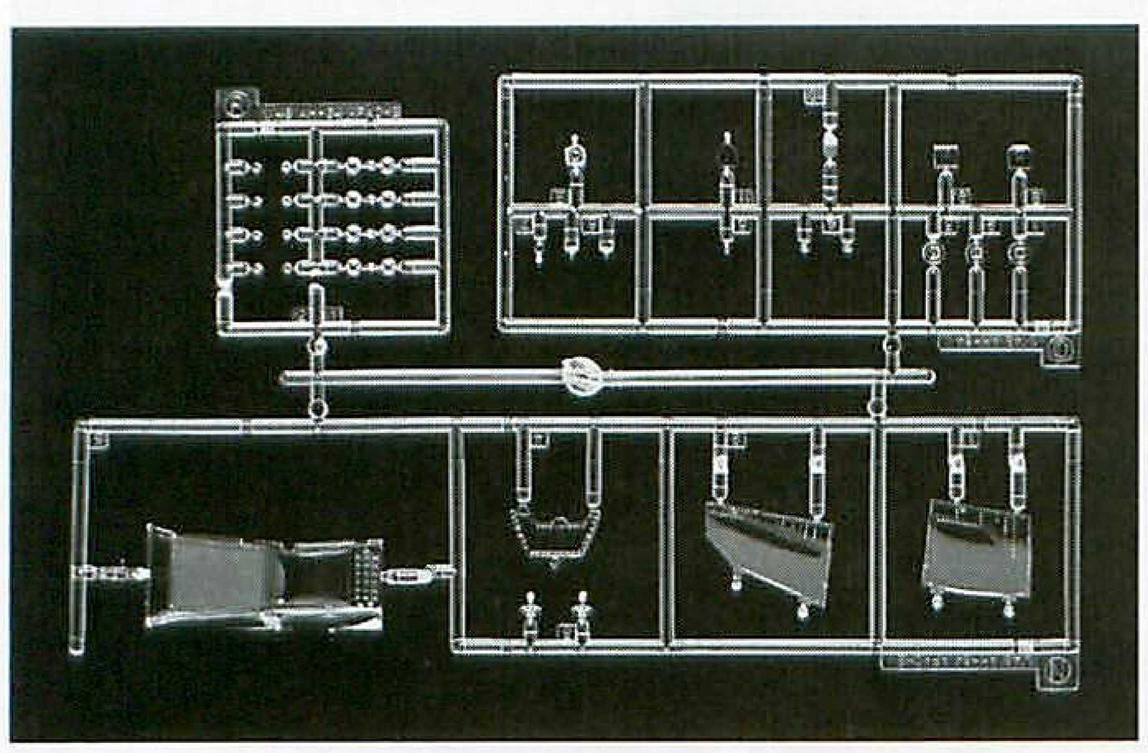


審査結果

アパッチの不気味なフォルムと相まって、これでもかと言わんばかりのモールドが悶絶モノの好キットだ。陸自バージョンが出るのはいつかな～?

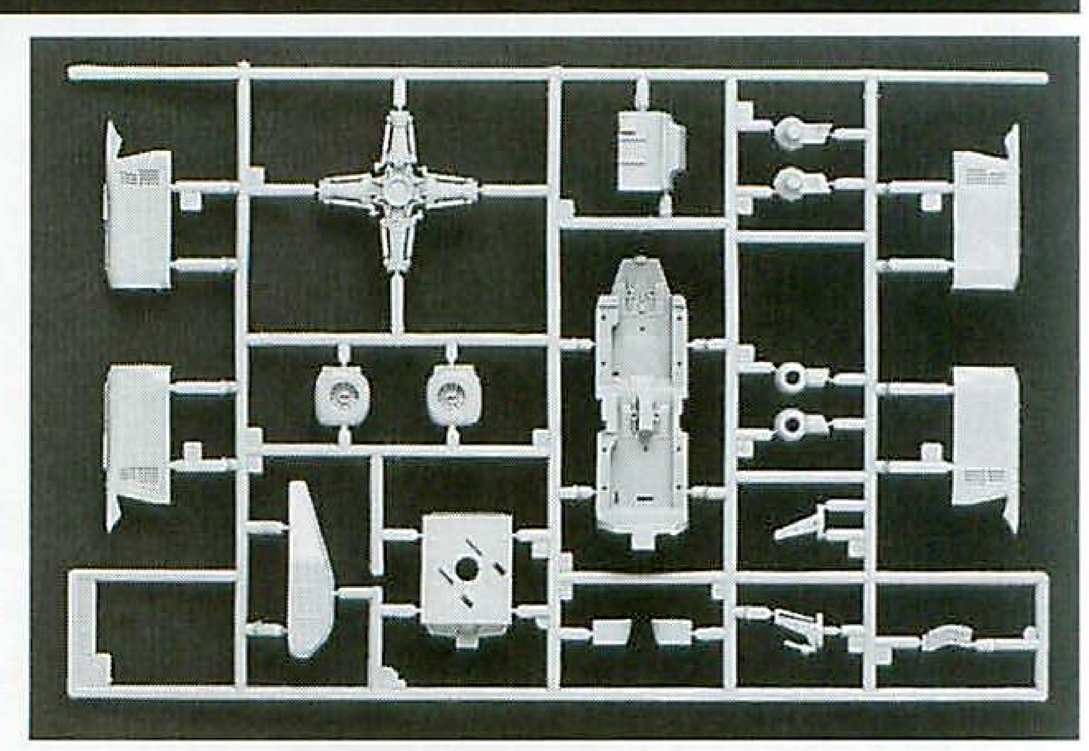


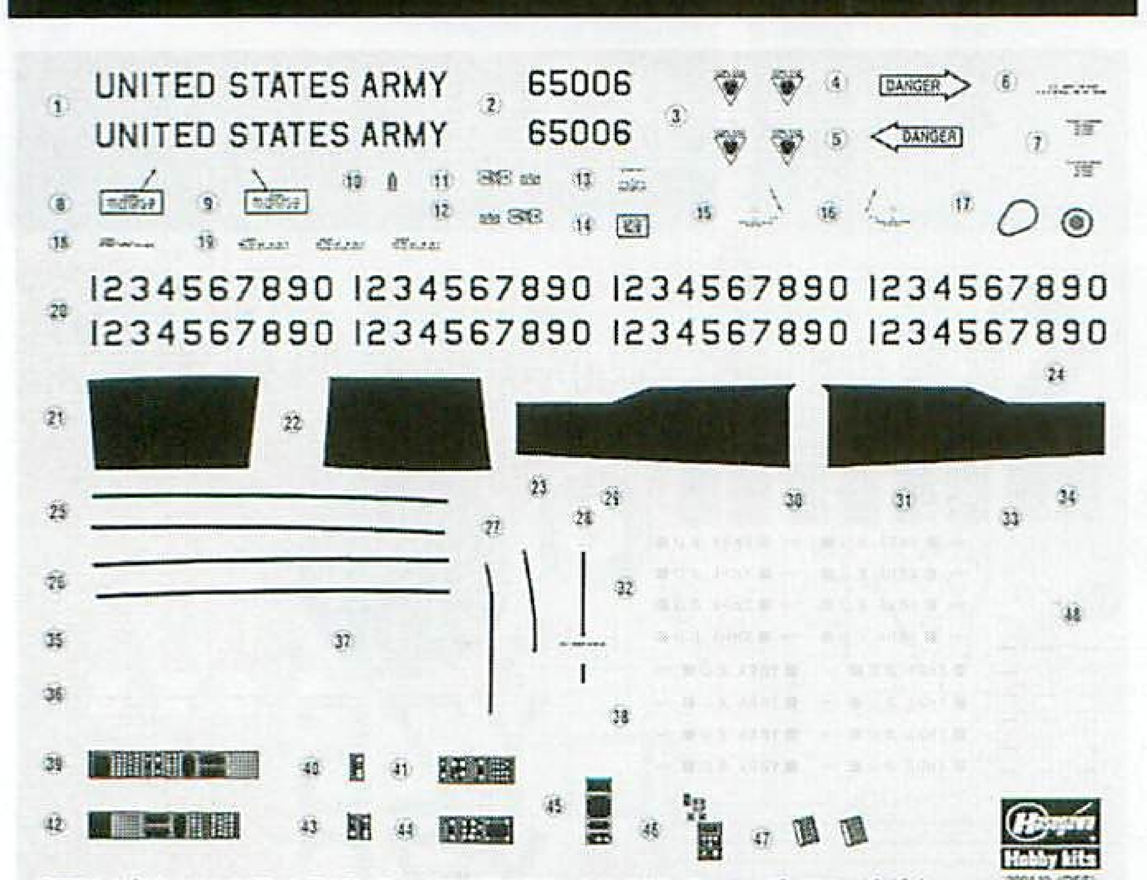
PARTS





メインローターは詳細に再現されているので手を加える必要はなし





デカールは1機分がセットされている。地味ですね



タミヤ 1/48
定価8000円

バージョン換え

ランカスター BIスペシャル グランドスラムボマー



長い間休止製品だったタミヤのランカスターが、久しぶりに再販された。といっても単なる再販ではなく第2次世界大戦中に作られた世界最大の爆弾〝グランドスラム〟搭載機へのバージョン換え。おまけにモーターを内蔵したプロペラアクションシリーズとあっては蛇の目ファンにはたまらない。

実機解説

ランカスターは前作の双発爆撃機マンチェスターから発達したイギリス空軍初の4発戦略爆撃機で、合計56個飛行隊が編成されヨーロッパ大陸で主に夜間爆撃などに活躍した。出撃回数は15万6000ソーティー、投下した爆弾は6万8860トンといわれている。

ランカスターは大きな搭載量を活用してダム攻撃専用の爆弾を搭載した「ダムバスター」、ドイツ戦艦ティルピッツの撃沈やトンネルの破壊などに活躍した6トン爆弾搭載機など、多くの派生型が生産されており、本作の10トン爆弾〝グランドスラム〟を搭載したランカスターBIスペシャルボマーもそのうちの1機。この爆弾は高度約1万3000mから投下され、地中深く潜り込んだ後に爆発して地震を起こす特殊爆弾で、ドイツ軍に対して合計41発が投下され大きな戦果をあげたといわれている。

キット解説

キット自体は古いためパネルラインなどのモールドなどは凸仕上げだが、そのほかは現在のレベルと比べても全く見劣りしない。一部の爆弾倉のパーツを変更して全長8メートルの10トン爆弾が搭載できるようになっており、エンジンナセル中にプロペラ回転用の小型モーターを内蔵しており、大型爆弾がスイッチとなっている。また、自重で変形した主脚タイヤやパイロット、整備員のフィギュア、また通常のキャノピーのほかに、塗装済みキャノピーなどが新たに追加されているのが特徴だ。

キットを組み立てる前に、気になるパネルラインは出来るだけ掘り直しておきたい。最近のキットはスジ掘りが当たり前になっているため、パネルラインを掘り直すことはほとんどなくなったが、この機体のパネルラインは直線がほとんどなので初心者の方は練習のためにも是非トライしてほしいね。

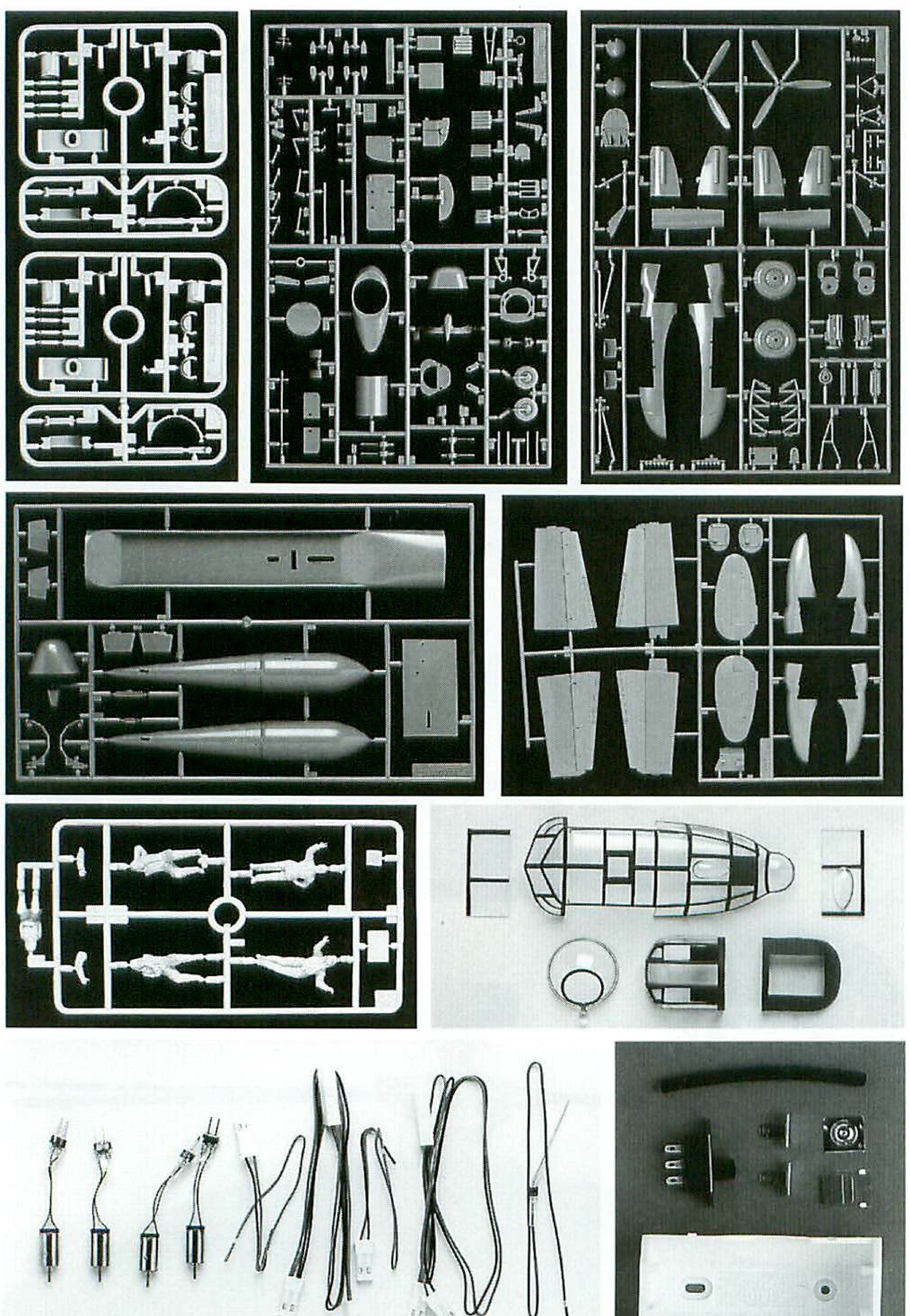
胴体内部はコクピットと爆撃手席、銃座しか再現されていないが、風防を付けてしまうとほとんど内部が見えなくなってしまうので、丁寧に塗り分けるだけで十分。

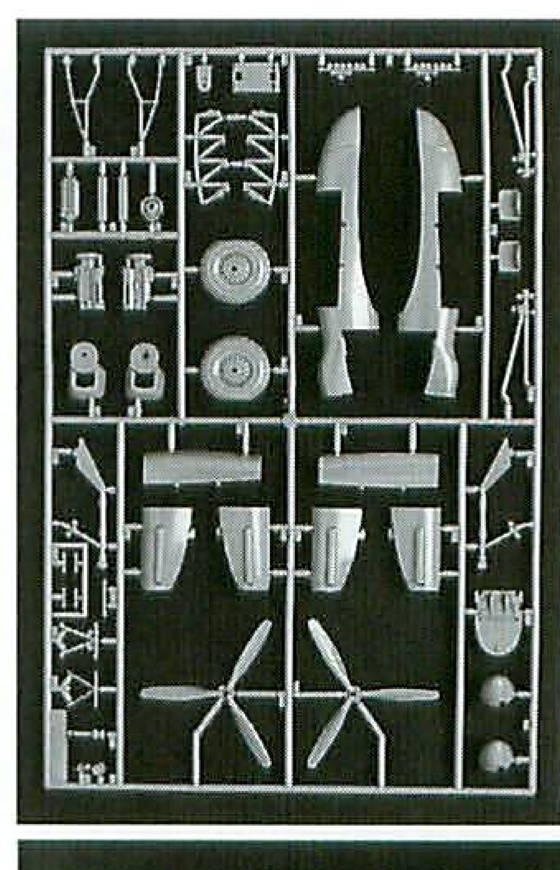
プロペラを回転させるための面倒な配線はほとんど出来上がっているためモーターとコード、スイッチをつなぐだけでOK。いままでタミヤから単発機のプロペラが回転できるキットが発売されているが、4発の大型爆撃機のプロペラが同時に回転するのはさすがに壮観だ。基本がシッカリしているキットなので、細部に凝るのも良し、塗装に凝るのも良しで十分楽しめるキットだ。

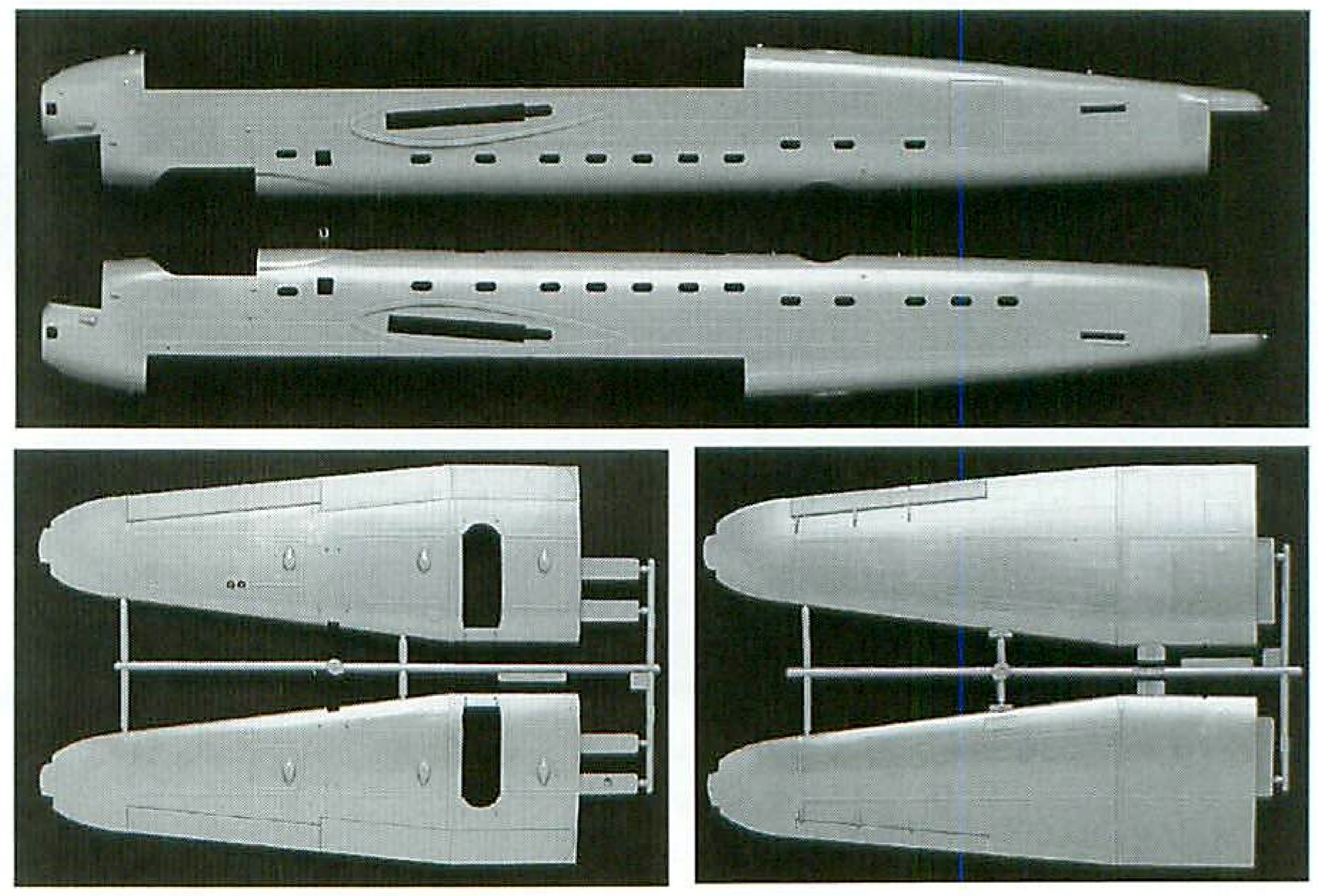
審査結果

プラモの存在意義を見たかのような楽しいキット。もともとが秀作キットなので安心して組める。とにかくデカいのでかなりのスペースが必要だが…

10トン爆弾ブチかませ！

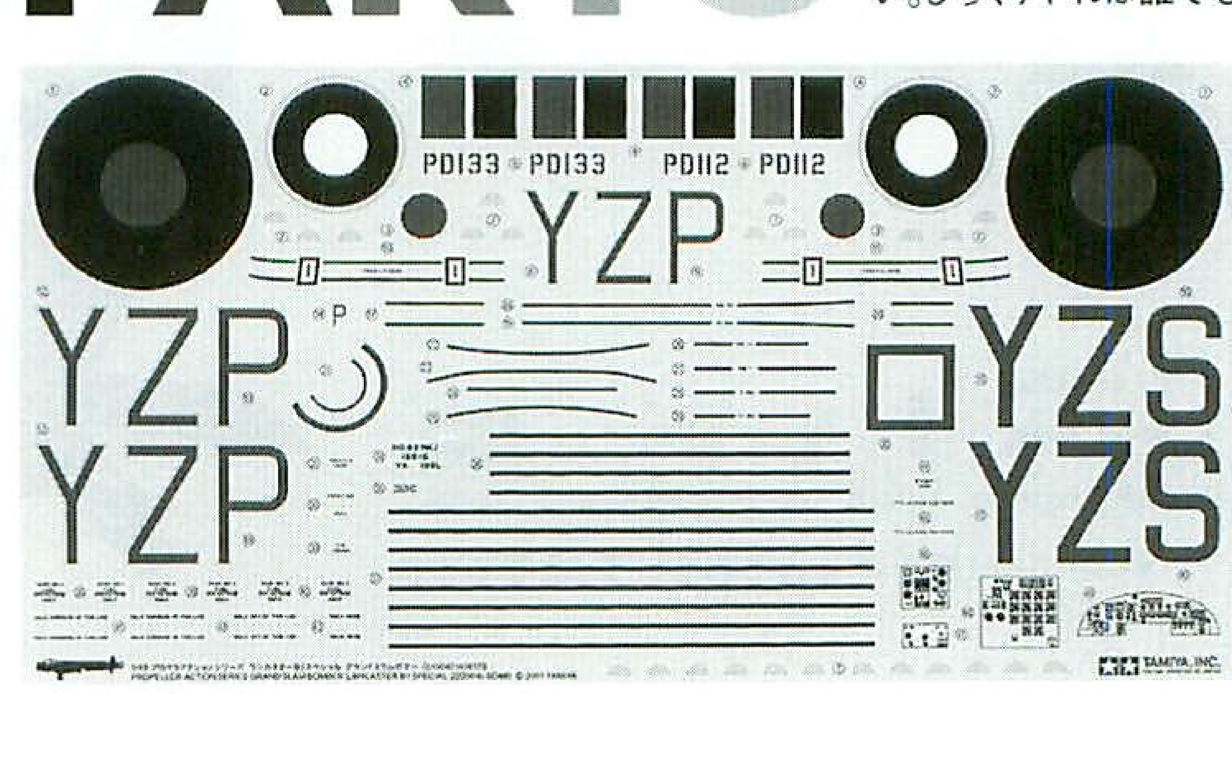






PARTS

全幅0.65メートル（65センチね）にも達する超大型キットだが、難解なところはない。じっくりやれば誰でも作れる好キットだ



飛行機プラモ審査隊

バージョン換え

ハセガワ 1/48
定価2400円

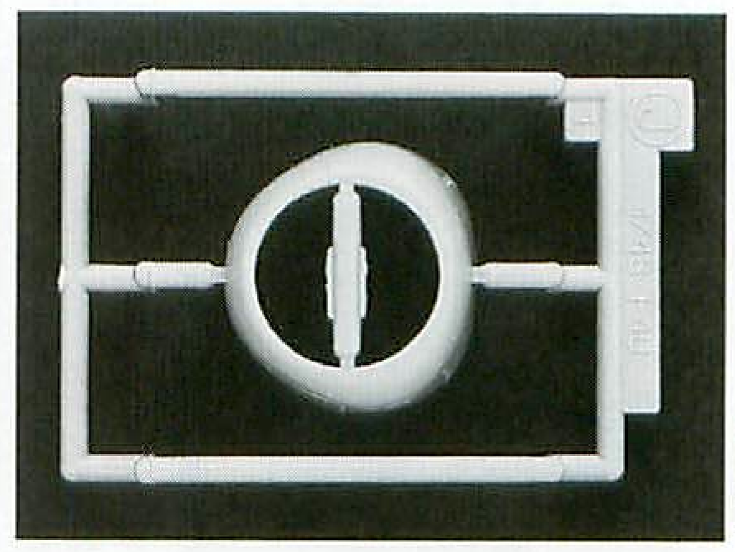
AU-1 コルセア



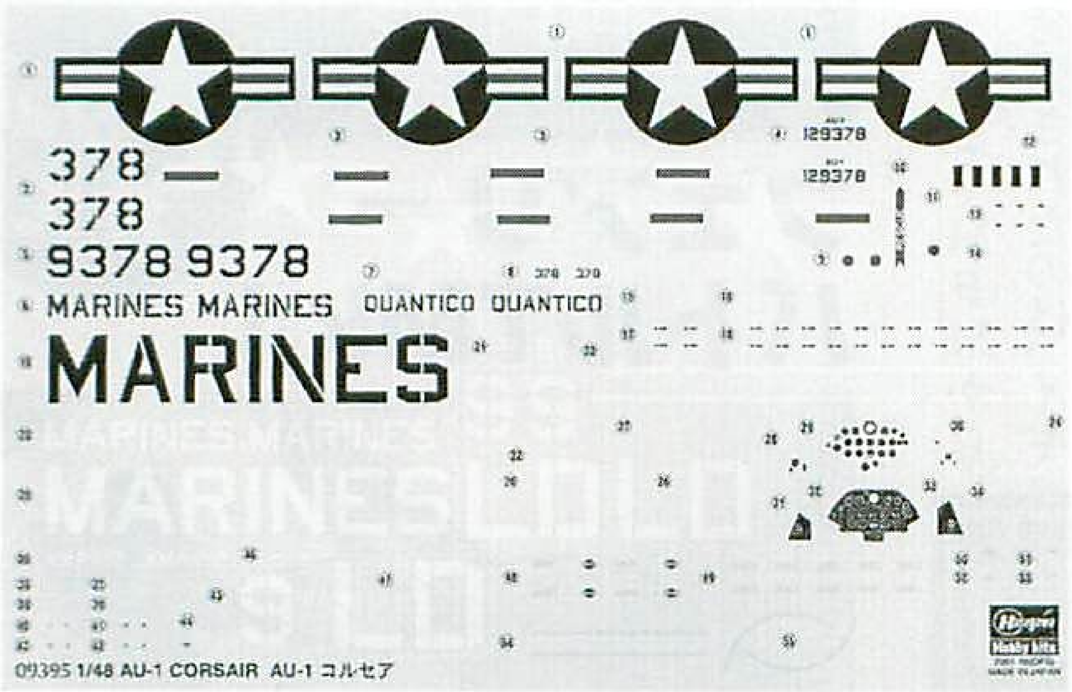
最大2800馬力の化け物エンジンを積んだAU-1。ヒジョ〜に細長い機首を再現したカウリングが新金型だ

スピットファイアと同様新金型となった1／48のコルセア・シリーズに、第2次世界大戦後、アメリカ海兵隊用の地上攻撃機として開発されたAU-1コルセアが加わった。

大戦後はほとんどの軍用機の生産は中止されたが、P-51ムスタングと同様にコルセアは生産が続けられた。この機体は当初F4U-6と呼ばれていたが、三軍統一名称によりAU-1と改称し、朝鮮戦争では主に近接支援や夜間戦闘機として活躍している。



キットはF4U-5NにAU-1用のカウリングが新金型が加わったのみだが、デカールはシーブルーの第212飛行隊とライトガルグレーの第12航空機技術飛行隊の2機分がセットされている。これは海軍機の塗装が従来のシーブルーから、上面ライトガルグレー・下面インシグニアホワイトの新塗装に変わった（1955年2月16日）後も同機が使用されたため。



再販

ファインモールド 1/72
定価2000円

十八試陸上偵察機 試製景雲



エンジンを胴体内部に2発も積むというムチャをすると、こういう独特な形になるわけで…。大方の予想通りエンジン冷却が上手くいかず失敗作に終わった

ハインケルHe119偵察爆撃機をヒントに、エンジンを2基串型につなぎ4mのシャフトでプロペラを回すという異色の発想で開発されたのが陸上偵察機・景雲。終戦直前の昭和20年5月27日に初飛行したものの、その複雑な構造ゆえにトラブルが続出して結局採用されなかった幻の機体だ。

このキットは以前から発売されていたが、今回はリニューアルされ価格をやや押さえられて再販された。終戦直前に開発された機体だけに資料は少なかったと思われるが、独特のスタイルを再現しており、パーツ数も少ないため作りやすいキット。ほとんど実機の写真が残っていないので特に細部にこだわる必要はないが、キットと同時に冷却器のメッシュやシートベルト、リアカーなどがセットされた試製景雲専用のエッチングパーツ（定価1300円）が発売されている。

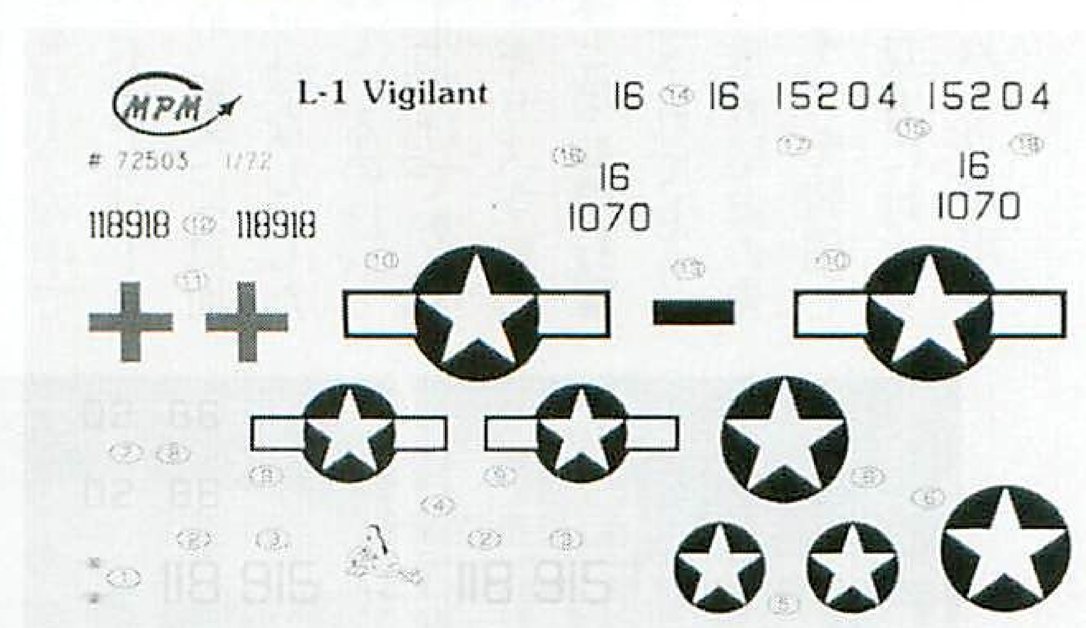


新製品

MPM 1/72 定価2200円

L-1ビジラント

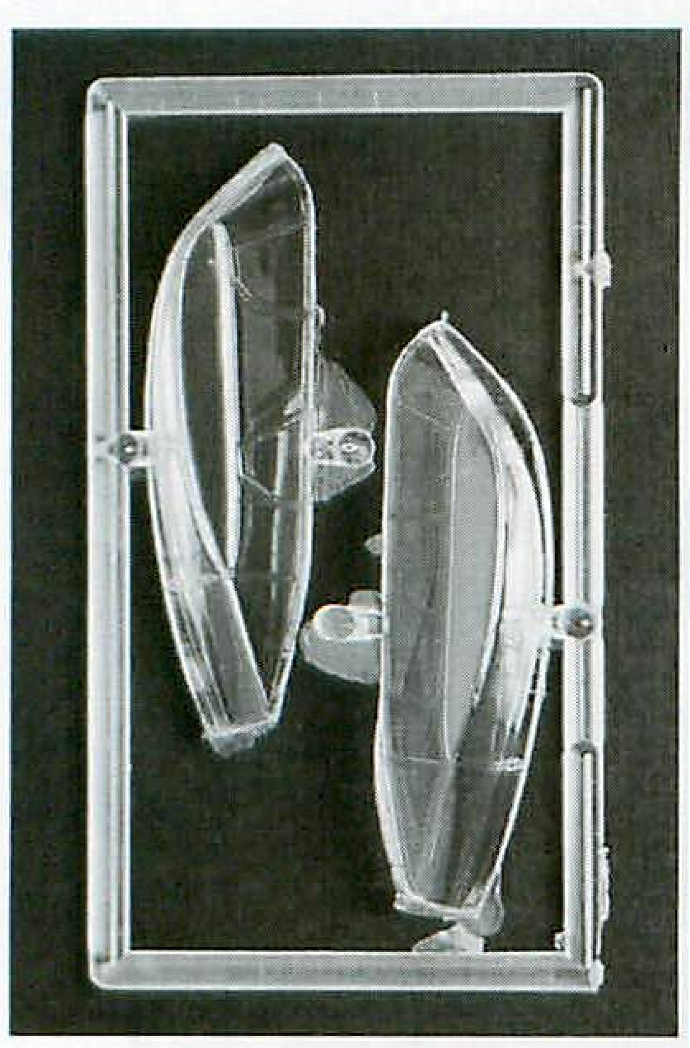


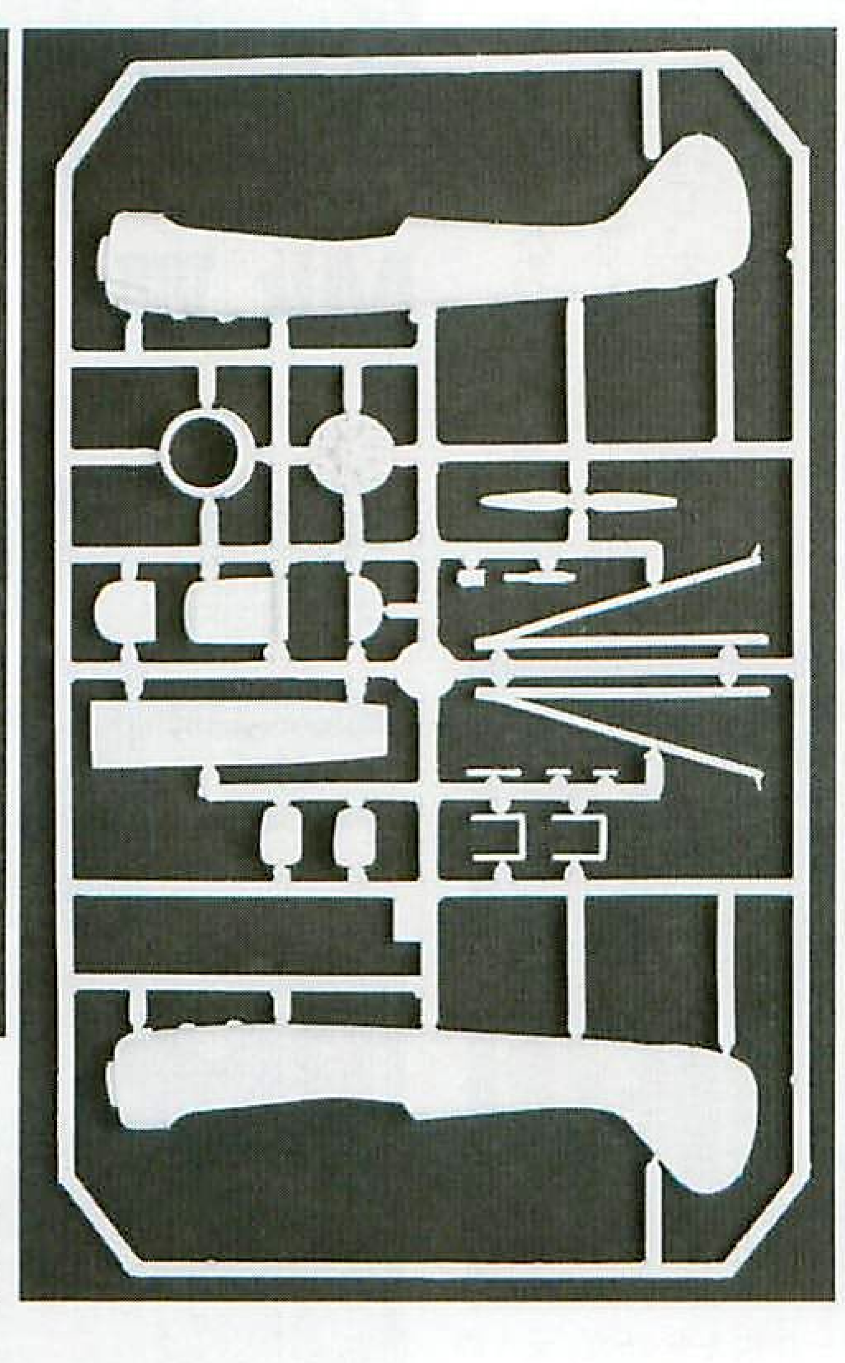


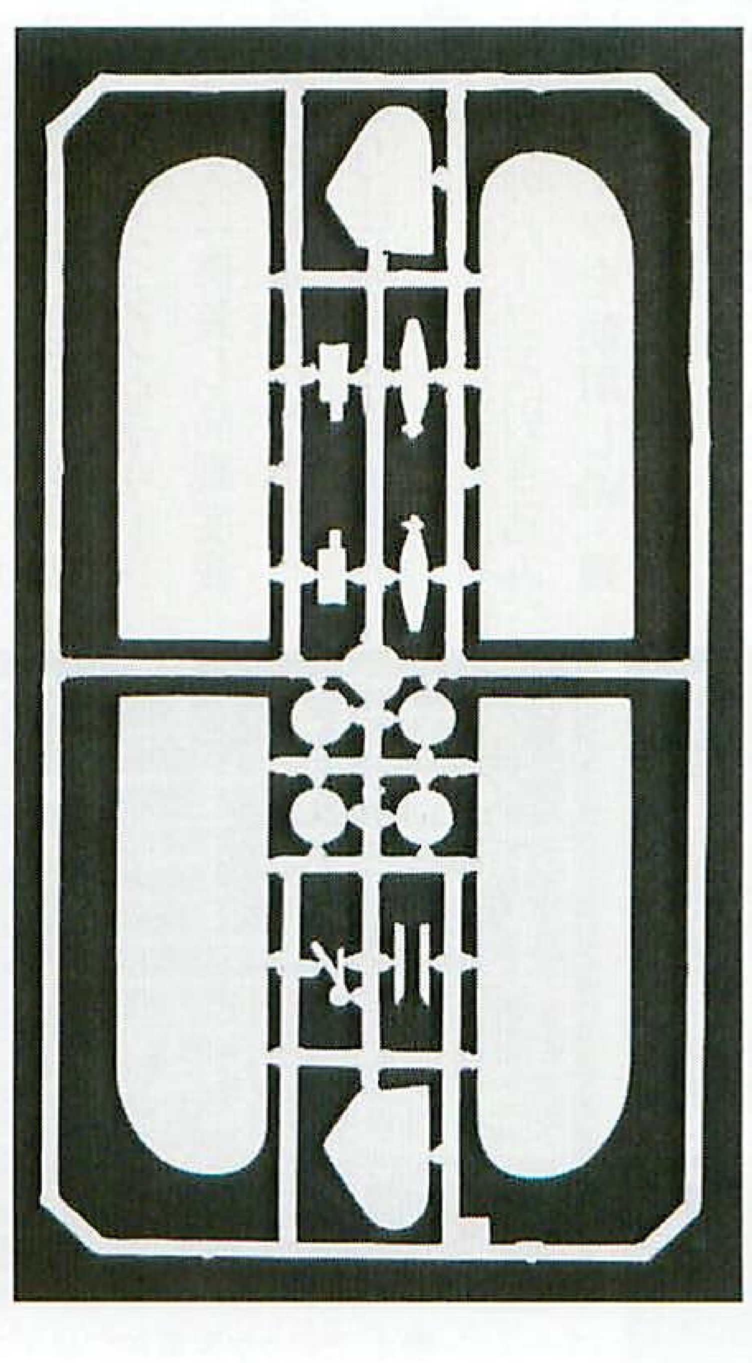
こんな超マイナー機を良くモデル化したものだ。そう簡単にはキット化されない（もう二度とされなかったりして…）だろうから、お宝キットマニアは買っておくのが吉

民間軽飛行機メーカーとして知られるスチンソンが、1930年代後半に開発した連絡機O-49。しかし1942年の統一名称により「O」が示す観測機の名称は廃止され、連絡機「L」と呼ばれることになった。したがって本機はL-1と改称されている。

キットは簡易インジェクションなので、普段作り慣れているインジェクションと比べるとパーツにシャープさがなく、モールドも甘い。しかし製作費が安くできるためこうしたマイナーな機体が製品化できるともいえる。このキットはパーツ数は少ないがやや合いが悪い部分があるため、細かい部分にこだわらずに完成させるのがコツ。2分割されている風防と主翼の接着には十分注意するとともに、取り付け角度にも注意しないと全体のバランスが崩れてしまう。





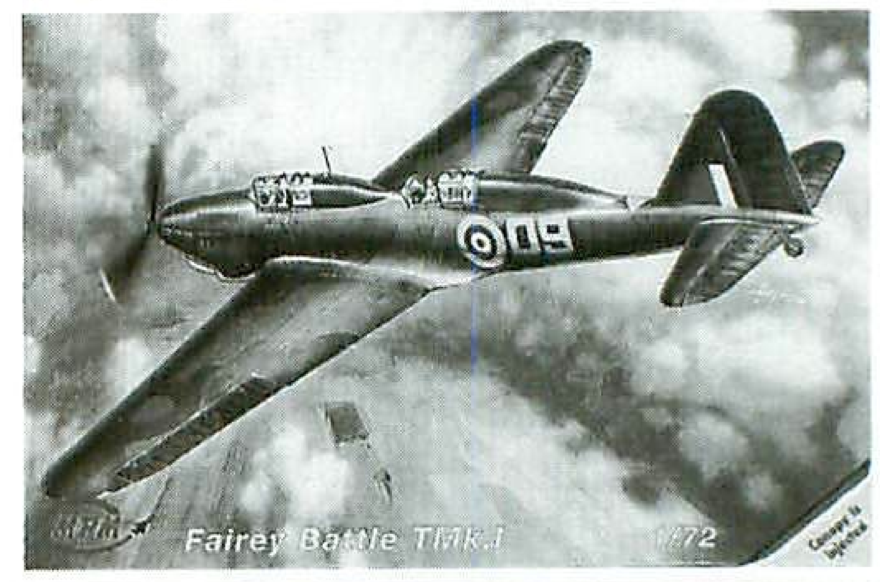


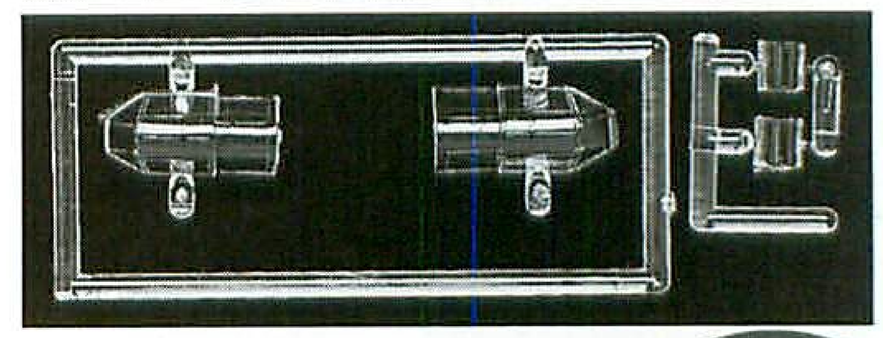


MPM 1/72
定価2200円

バージョン換え

フェアリーバトルTMk.I

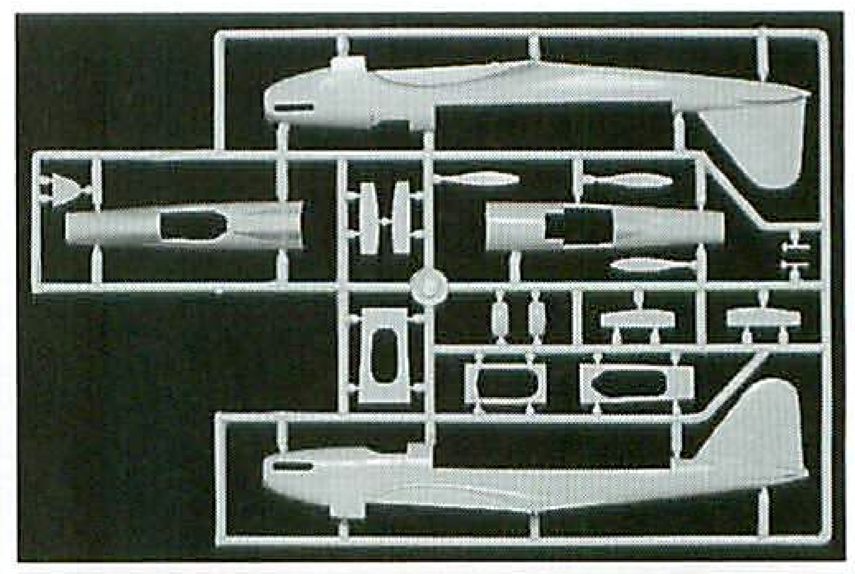


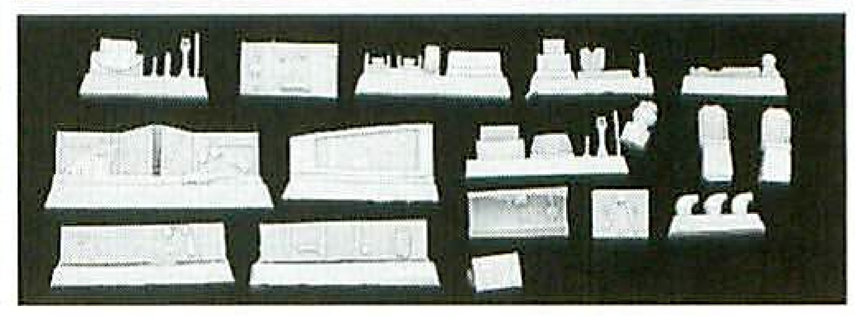


同じくMPMから発売されたのは、イギリス空軍初の低翼単葉引き込み脚の軽爆撃機バトルMk・Iをベースに、胴体を再設計して独立したキャノピーをもつ複座型の練習機型のバトルTMk・I。外観だけを見ると爆撃機型のバトルとはまったく違う機体に見えるユニークなスタイルだ。

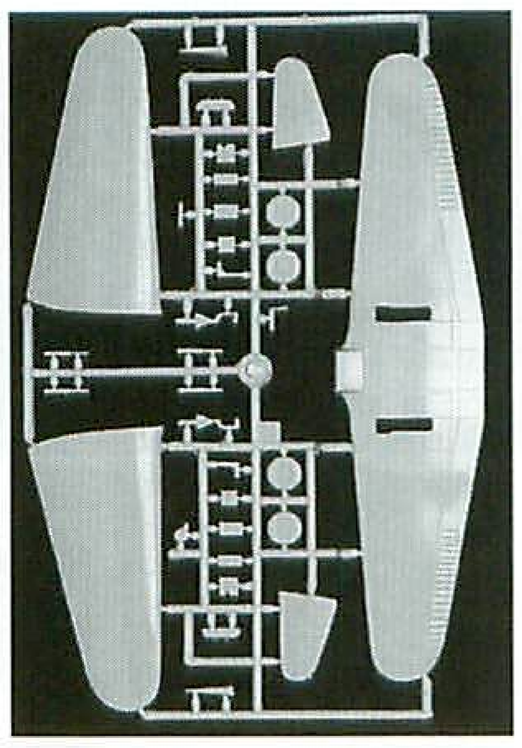
このキットも簡易インジェクションキットだが、L-1ビジラントと異なりコクピットなどはレジンパーツで再現する豪華版(?・)だが、キャノピーを付けると内部がまったく見えなくなってしまうのは残念。

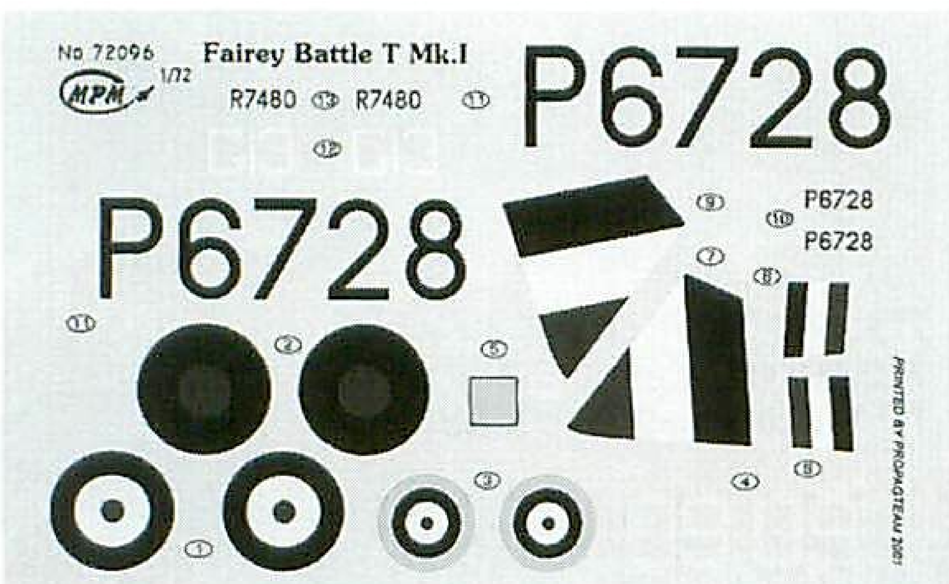
胴体後部席は別パーツになっており、やや合いが悪いので修正が必要となる。脚収納庫の内側は細かく分割されていて、取り付け位置が不明確なので、上下の翼を合わせるときに十分仮り組みを行なうこと。MPMから爆撃機型も発売されているので作り比べるのも面白い。





まるでとってつけたような後席が特徴的な練習機型バトル。コクピットや機体内部内を再現するレジンパーツのデキはいい



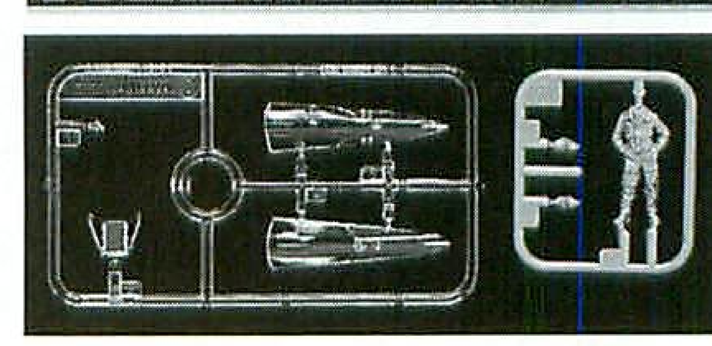


タミヤ 1/48
定価2000円

デカール換え

フォッケウルフFw190D-9 JV44



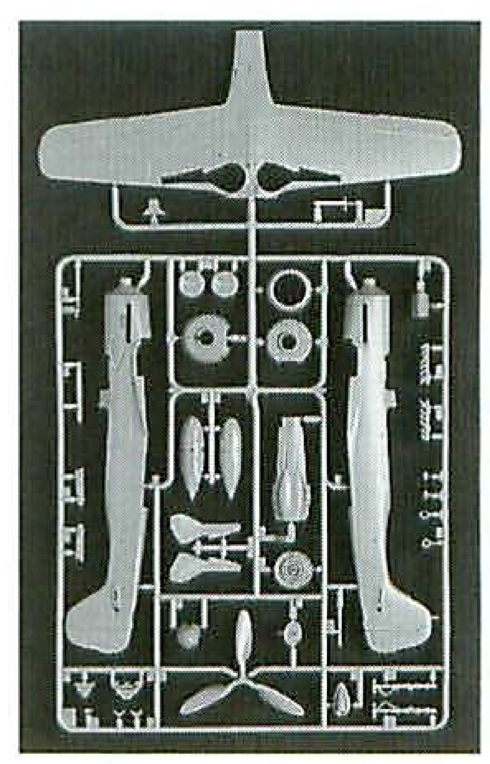


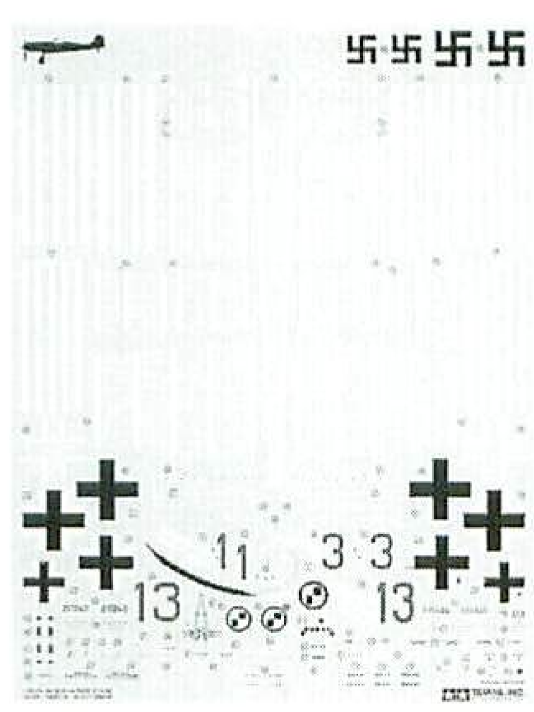
タミヤの1/48傑作機シリーズから発売されているフォッケウルフFw190D-9のデカール換え。着陸時が弱点だったジェット戦闘機、Me262の上空護衛専門に編成された第44戦闘団(JV44)所属機が再現できる。

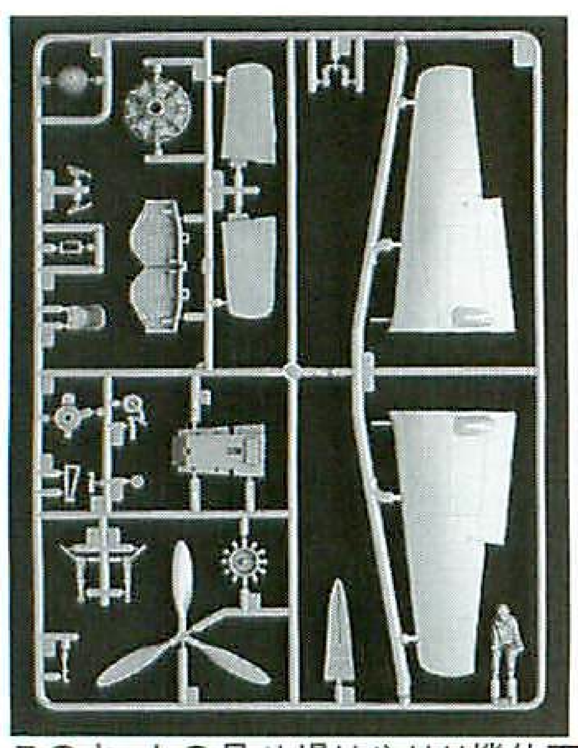
キットは数多く発売されているフォッケウルフFw190の中でもトップクラスの仕上がりで、ストレートに組んでもまったく問題ないキット。

第44戦闘団(JV44)の特徴はなんと言っても胴体と翼の下面を識別のために全面赤に塗り、白いストライプを施した派手な塗装。キットでは3機分のデカールが用意されているほか、塗装が面倒な白のストライプも用意されている。

また、コクピットに座るパイロットのほかに立ちポーズのパイロットが追加されている。こちらの頭部は別パーツで、士官用制帽と略帽が選択できる。







このキットの見せ場はやはり機体下面にある。ばっちり紅白ストライプ塗装をキメよう



ハセガワ 1/48
定価2200円

バージョン換え

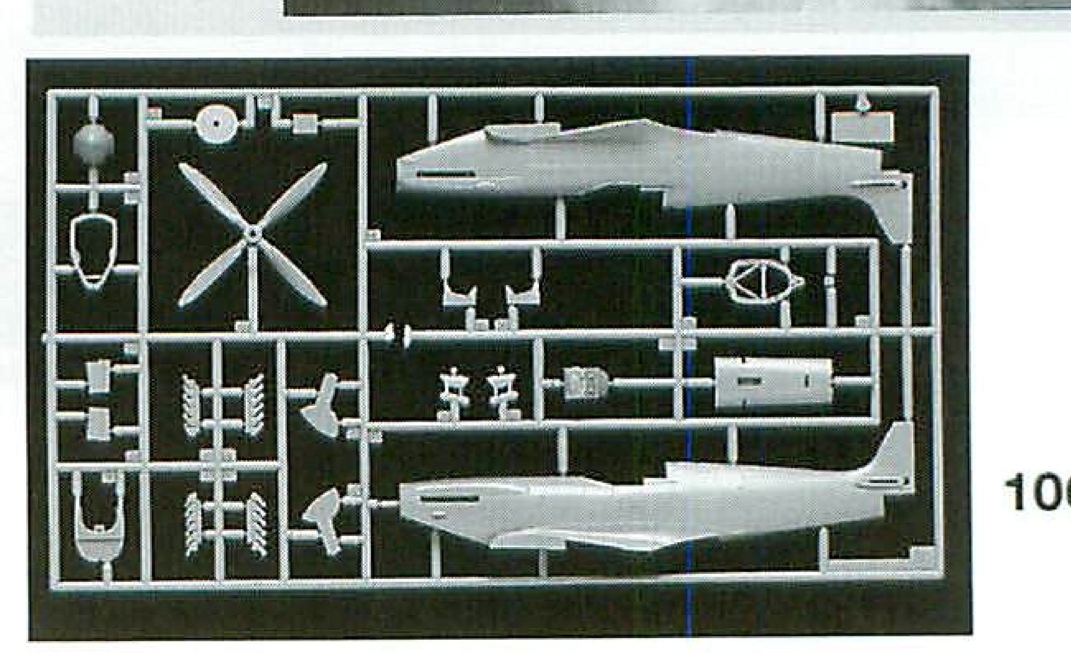
スピットファイアMk.Ⅷ

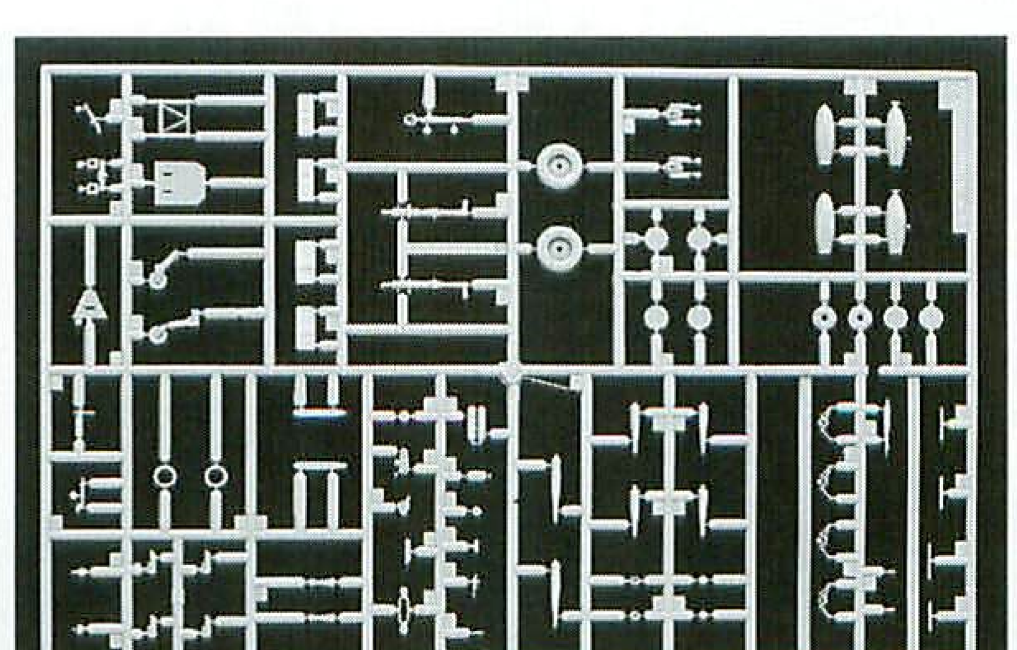


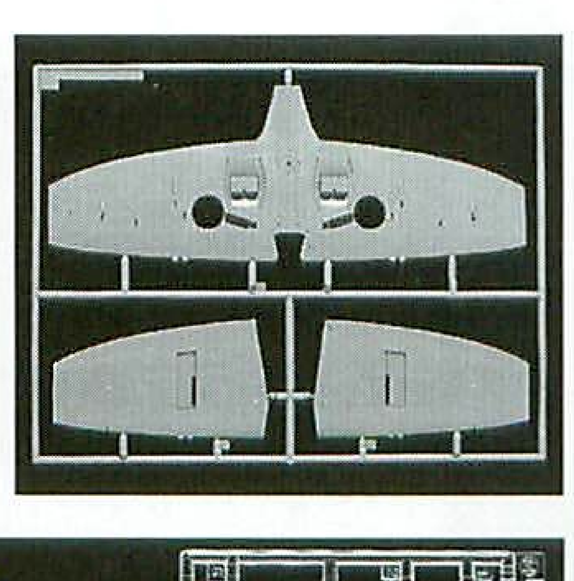
新金型となって登場したハセガワのスピットファイアMk・Ⅸcに続いて、スピットファイアMk・Ⅷがバージョン換えで発売された。このMk・Ⅷは熱帯地域での戦闘に投入された機体で、Mk・Vのエンジンをマリーン60シリーズに換装し高高度戦闘機として開発されたMk・Ⅵ、Mk・Ⅶの与圧装置を撤去したモデル。

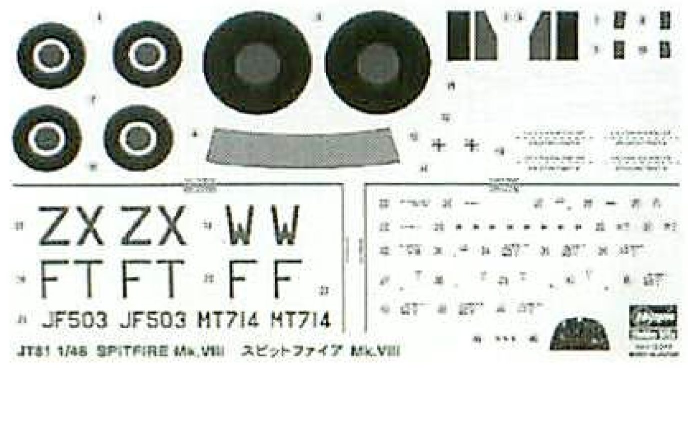
切断翼のパーツと引き込み式尾輪パーツを使用しMk・Ⅷ型が再現できるが、実は先に発売されているMk・Ⅸcのキットに含まれているパーツの中で使われなかった不要なパーツを使用するため、新たに追加されているパーツはなし。したがって変更されているのはパッケージとデカールだけである。

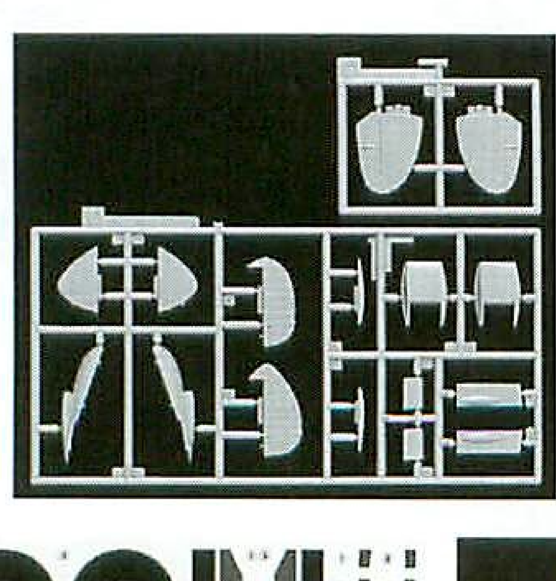
デカールはイギリス空軍の第145飛行隊と第43飛行隊の2機分が用意されており、第43飛行隊機は垂直尾翼の先端がとがったタイプを装備していた。もちろん双方に対応できるよう両方のパーツが用意されている。

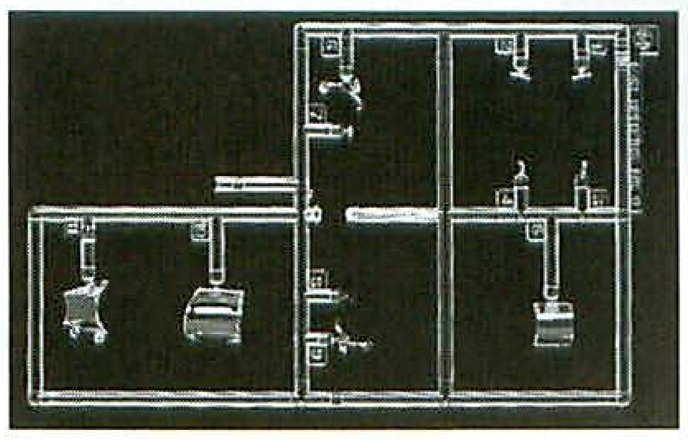












バージョン換え、というか実質的にはデカール換えキットだ。元々のキットは去年の9月号で紹介しているのでそちらを参照してほしい

飛行機プラモ審査隊

新製品
スペシャルホビー 1/72
定価5300円
TR-1A

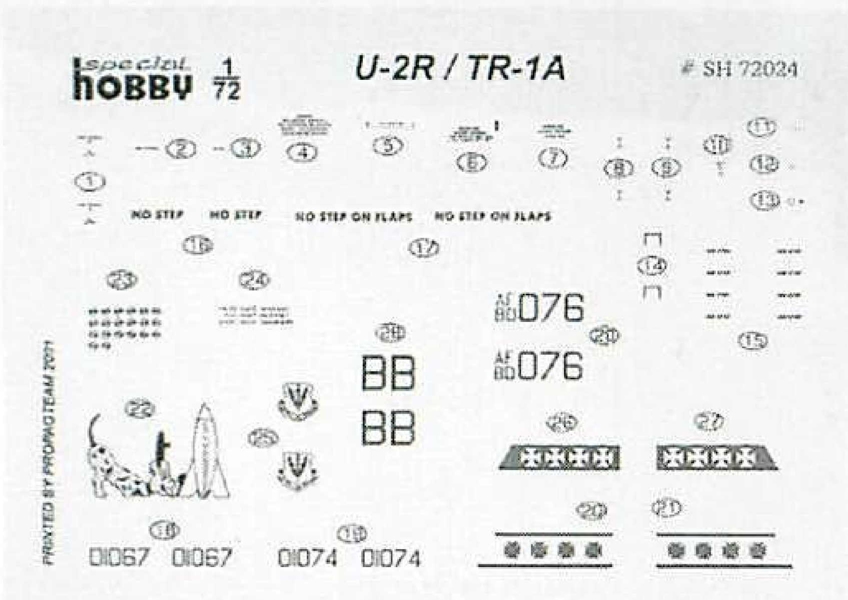


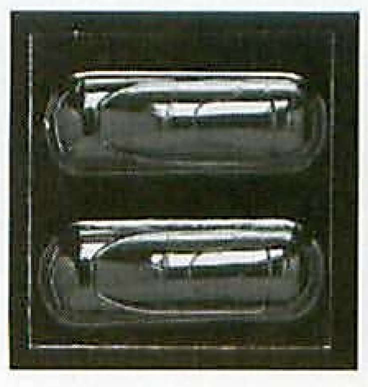
チェコの簡易インジェクションメーカーのスペシャルホビーから、1950年代にロッキード社が開発した高高度スパイ偵察機U-2の派生型で、戦場監視機として生産されたTR-1A(後にU-2Rと改称)が1/72スケールで発売された。

細い胴体とグライダーのような長い翼をもつミステリアスなスタイルで、厚木や横田、嘉手納基地のオープンハウスで展示されたこともある人気の機体だが、キットには恵まれなかった。

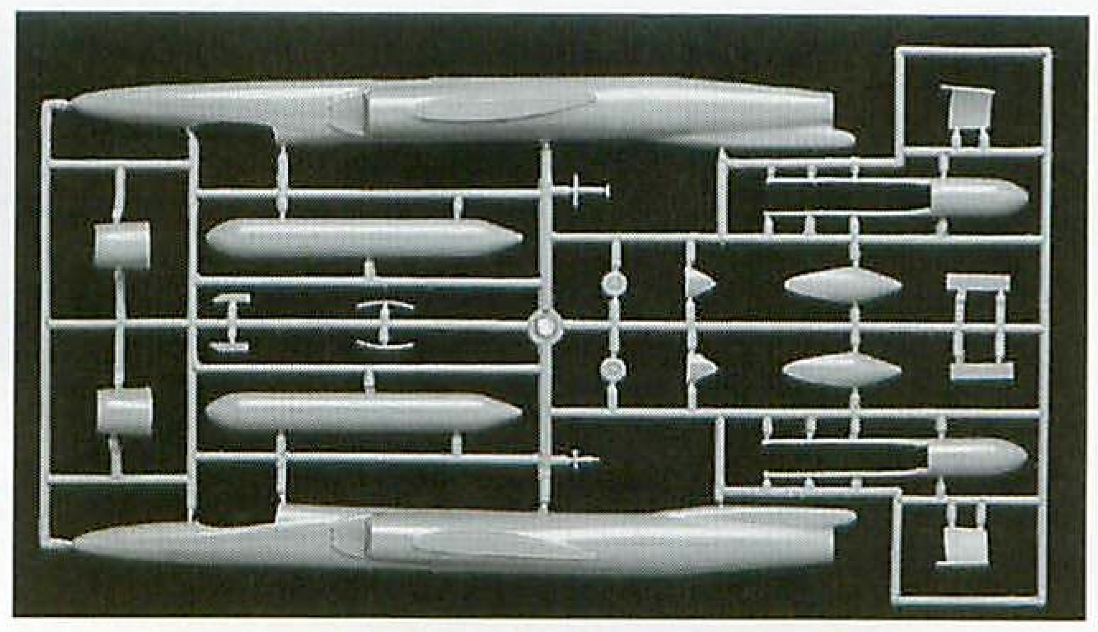
このキットは簡易インジェクションながら、パネルラインなどのモールドはメリハリがある。また、コクピットや小さなアンテナ類などはレジンパーツで、航法灯などはクリアーパーツが用意されているなど、なかなかデキは良い。ただし、胴体と主翼がイモ付けだったり、キャノピーが塩ビ製だったりと製作にはある程度の技量が必要となる。

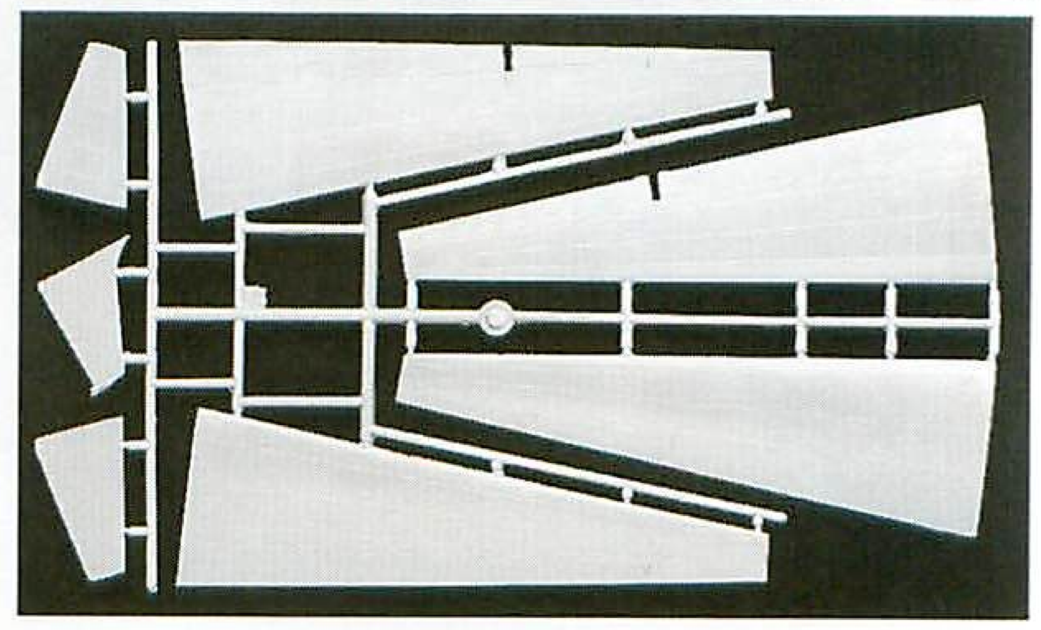






パッと見では簡易インジェクションとは気付かない。U-2系のファンなら買っておくべき!





第11回JMC作品展 Jウイング賞発表

飛行機プラモデルのトップメーカー、ハセガワが毎年開催しているJMC展示会。今年は11月10日、11日の東京を皮切りに名古屋、大阪、岡山で開催され、第1次審査を通過した187名、242点の力作が展示された。また、会場では10月のホビーショーに間に合わなかった1/32スケールのメッサーシュミットBf109G-6のテストショットが展示されたり、模型クラブの作品展やキット、パーツ、デカールなどのジャンクションセールなども行なわれた。

東京の初日はあいにくの雨に祟られたため観客の出足はいまいちだったが、快晴となった日曜日には大勢のモデラーが訪れた。本誌では優秀な作品の中から下記の3名の方に「Jウイング賞」を贈らせていただきます。



児玉英二さん
1/72 F-4EJ改

市場浩さん
1/48 F-104Cスターファイター

清水秀春さん
1/48 TBF-1Cアベンジャー

今月のデカール換えキット

F-16Cファイティングファルコン"ブルーノーズ"
1/48 定価2400円
2000年9月に登場した派手な149FSのスペシャルマーキング機のデカール付き。

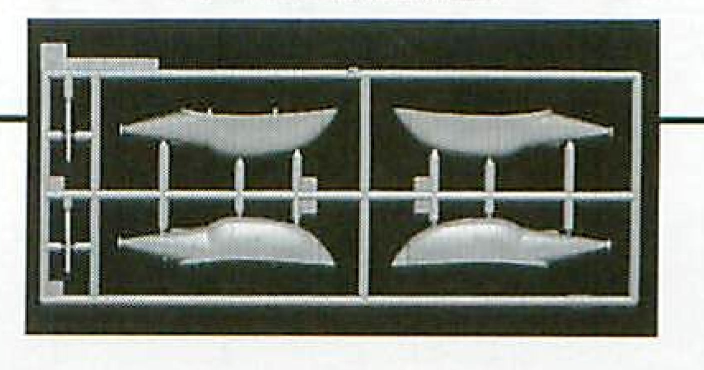
F-15Bイーグル"フライトテストセンター"
1/72 定価2200円
赤と白に塗り分けたテストパイロットスクールのF-15が再現できる。

AH-64Aアパッチ"IDF"
1/72 定価1400円
地味なマーキングだが、胴体後部に「V」と部隊マークの新規デカール。

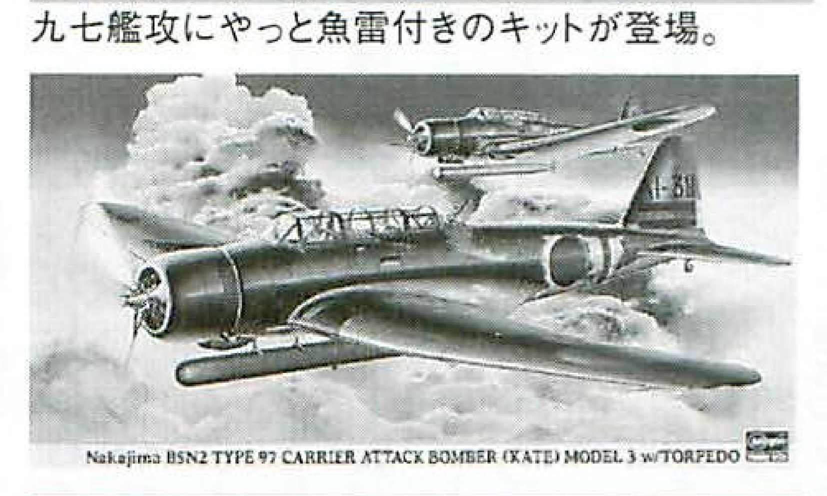
ヘルキャットMk.I"イギリス海軍"
1/72 定価1200円
ノルウエー沖で艦船攻撃に活躍したイギリス海軍第800中隊のデカール付き。

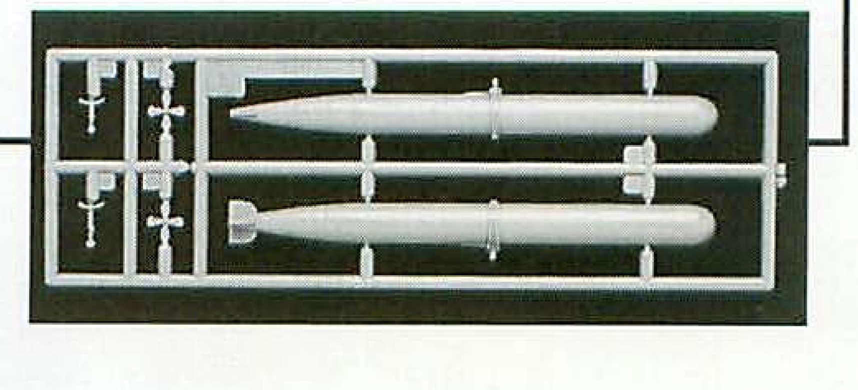
フォッケウルフFw190F-8"タンクバスター"
1/32 定価3400円
Fw190F-8の機体にMK103 30mm機関砲を搭載した対戦車攻撃型が再現できる。





中島B5N2九七式三号艦上攻撃機"魚雷搭載機"
1/48 定価2600円
九七艦攻にやっと魚雷付きのキットが登場。





今回ご紹介するのは根強い人気を誇るF-4。皆さんの中にもたくさんのファンがいるはずだ。コーギーから発売された「サンダウナーズ」の完成品はケレン味たっぷりのモデルだゾ〜。



第18回
ナム戦の勇者・サンダウナーズ

Text by Ryu Yamazaki

製造元 コーギー
輸入元 国際貿易
F-4Nファントム 1/72
のりもの倶楽部価格 6800円＋税

続 ようこそコンプリート王国へ
WELCOME TO COMPLETE MODEL KINGDOM

太陽を沈める亡霊

飛行機にさして興味のない人でも〝ファントム〟という戦闘機の名前くらいは聞いたことがあるだろう。ましてや、熱心な軍用機ファンであ本誌読者のみなさんなら、あらためて実機の解説をする必要もないだろう。そこで今月は前説なしで、サクサクっとコンプリートモデルに話を移して行こうと思う（さらに詳しいことが知りたい人は、本誌01年5月号のファントム特集を読んでほしい）。

F-4ファントムが米海軍で活躍していたのは1960年代〜70年代のこと。時期的に世界的なミリタリーブーム&模型ブームと丁度重なっている。そのためか世界中の模型メーカーから、様々なスケールでプラモデルやコンプリートモデルが作られてきた。その種類の多さは零戦やP-51マスタング、メッサーシュミットBf109の模型にも匹敵するほどで、ジェット戦闘機としては他を大きく引き離してダントツで多い。

そんなミニチュア・ファントムの中でも、独特のキャラクターで他の製品と一線を画しているのが、今回ご紹介する英コーギー社はTHE AVIATION ARCHIVEシリーズの「F-4N Phantom 151000-U.S.NAVY VF-111 Sundowners Squadron.1975」だ。

以前このコーナーでご紹介した「BAeライトニング」や「アブロ・ランカスター」と同じシリーズの製品でスケールは1／72。機体はダイキャスト製、燃料タンクや兵装関係、ディスプレイスタンドなどのオプション品はプラスチック製となる。

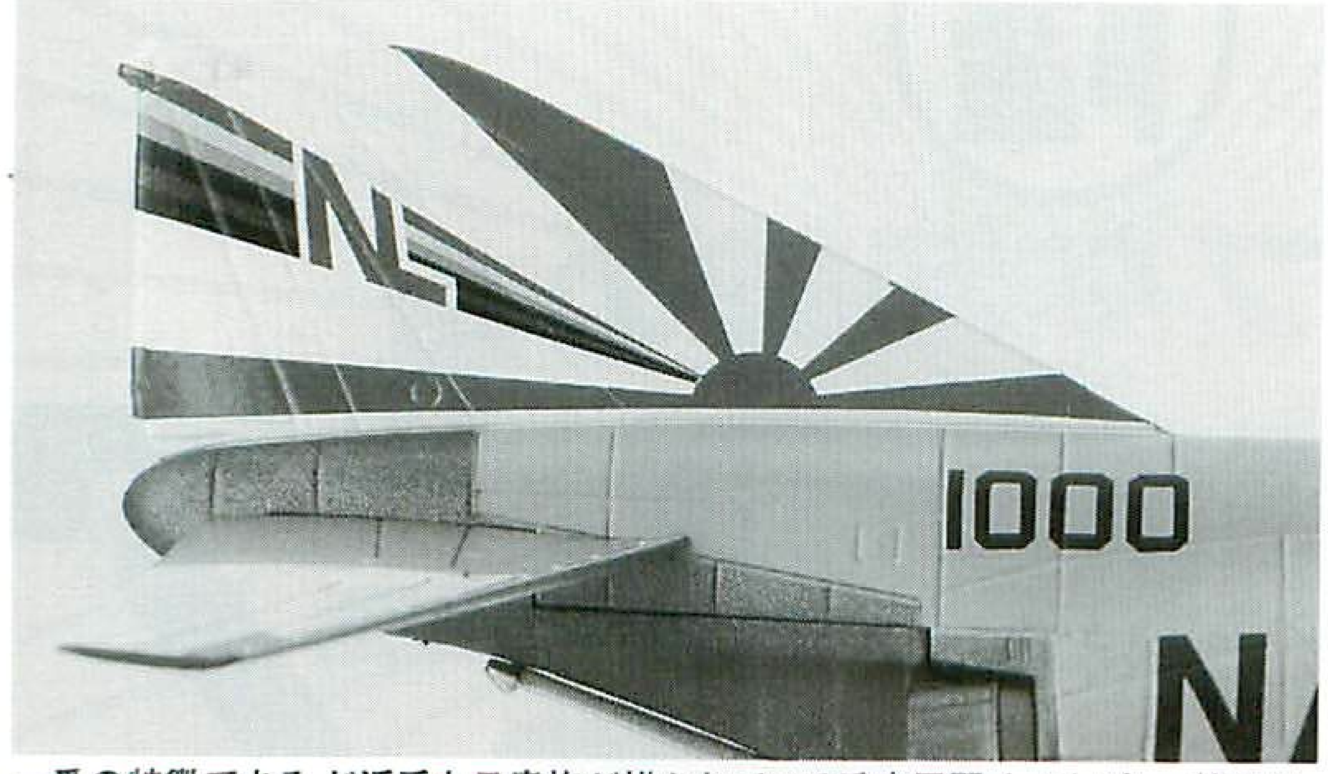
モデル化に当たって選ばれたのは〝VF-111サンダウナーズ〟所属機だ。第2次大戦中に発足したこの飛行隊は、ベトナム戦争では空母



スタンドに立たせて飛行状態をとらせる。ハイビジの楽しさと相まって全体的なフォルムはイイ感じだ

コーラルシー(CV-43)を乗艦として、数度に渡るコンバットクルーズに参加。ベトナムの空を暴れ回ったことで有名な飛行隊である(残念ながら95年に解隊した)。

強敵だった日本を屈服させた証として、旧帝国海軍の旭日旗を垂直尾翼いっぱいに描き、機首部にはシャークマウスを配して自らの強さを表した"サンダウナーズ"のファントム。黒地にドクロを描き込んだ"VF-84ジョリー・ロジャーズ"と並んで、ハイビジ・ファントムの中でも取り分けファンの人気が高い飛行隊だ。



一番の特徴である、ド派手な日章旗が描かれている垂直尾翼。しかしピトー管やラムエアインレットといったセンサー類が付いてないのはマイナス



ファントムの機首ってもっとボテッと垂れているような気がするんだけど…、しかし、シャークマウスやインテイク前の注意書きは細かくて満足のいく出来だ

決して精巧ではないが…

では、製品のディテールにチェックを入れることにしよう。正直に言って、このモデルはタミヤやハセガワに代表される日本製のリアルで高品質なプラモなどを見慣れた人は、ひょっとすると違和感を感じるのではないかと思う。

ちょっと模型にうるさい人なら、コクピット廻りや装備関係のディテールの甘さ(細かいパーツはほとんど付かない)や、パネルラインなどのモールドのたるさを指摘されるだろう。

それに固定武装を持たない海軍型ファントムの重要な空対空装備のひとつである「AIM-7スパロー」もこのモデルでは装備されない。4番&5番パイロンも省略されており、翼下の370ガロンタンクも付かない。"模型映え"と言うことを考えると、これは大きなマイナスポイントになってしまうハズだ。

また、水平尾翼の中央部に実機には存在しないヒンジ風のモールドが付いたり、細部の形状がイギリスFG・1(製品バリエーションに存在)に準じているのも頂けない。エア・インテイクの整流板のモールドが深すぎるのも気になる点だ。

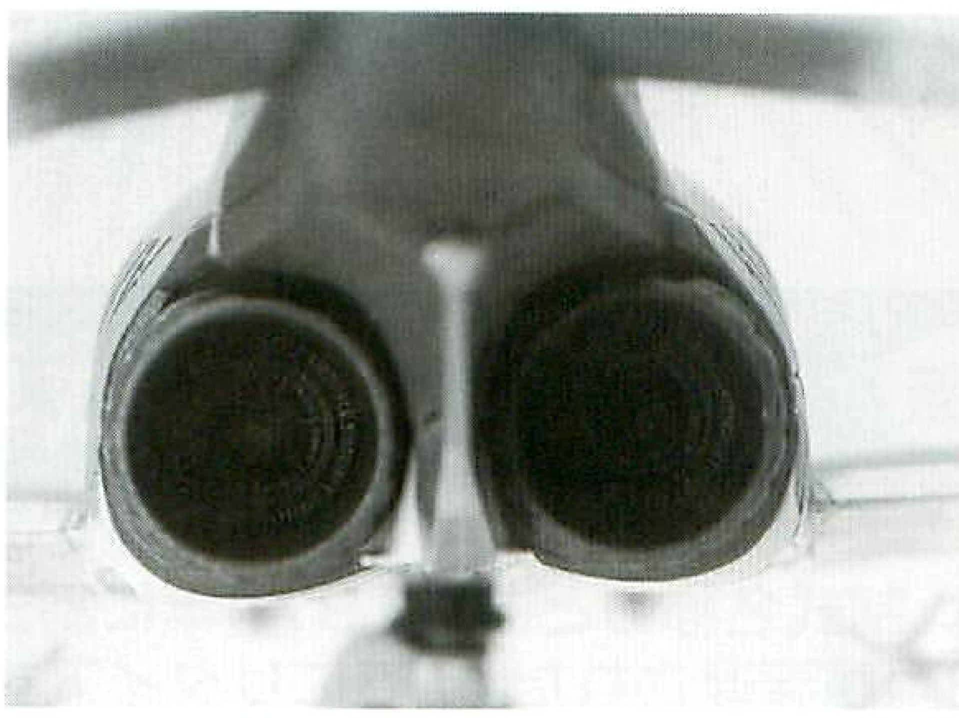
しかし、このモデルにはそうした点を差し引いても、得難い魅力があるのもまた事実だ。プロポーションはファントムらしい伸びやかさと、ダイナミックな力強さを合わせた、実機に漂う独特のカッコ良さを表現することに成功している。

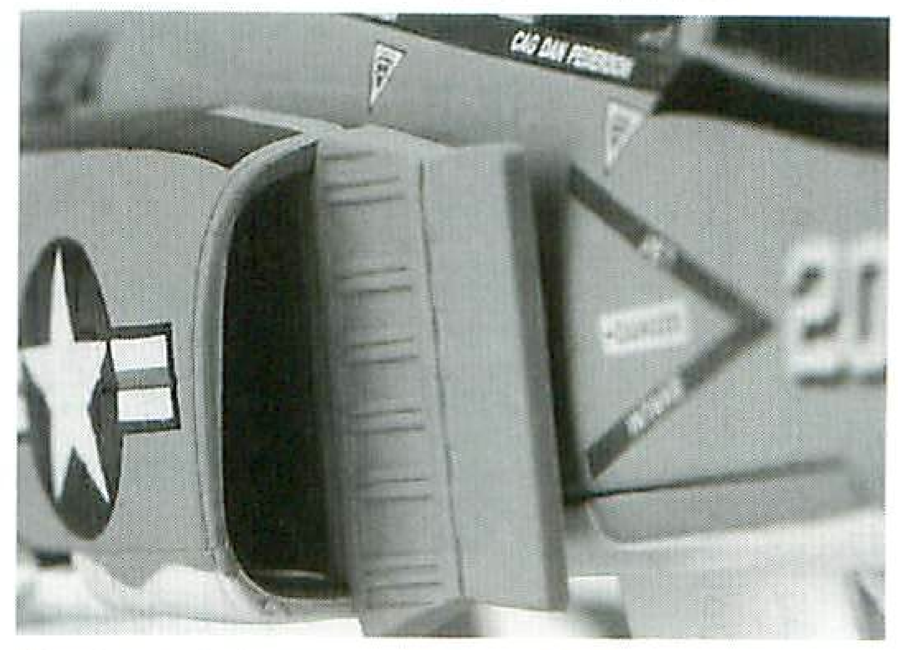
飛行状態と駐機状態を脚部のパーツの差し替えで可能にしたり、キャノピーの開閉を選択できるのも嬉しい。コクピットには同社のお約束でパイロットフィギュアを乗せている。

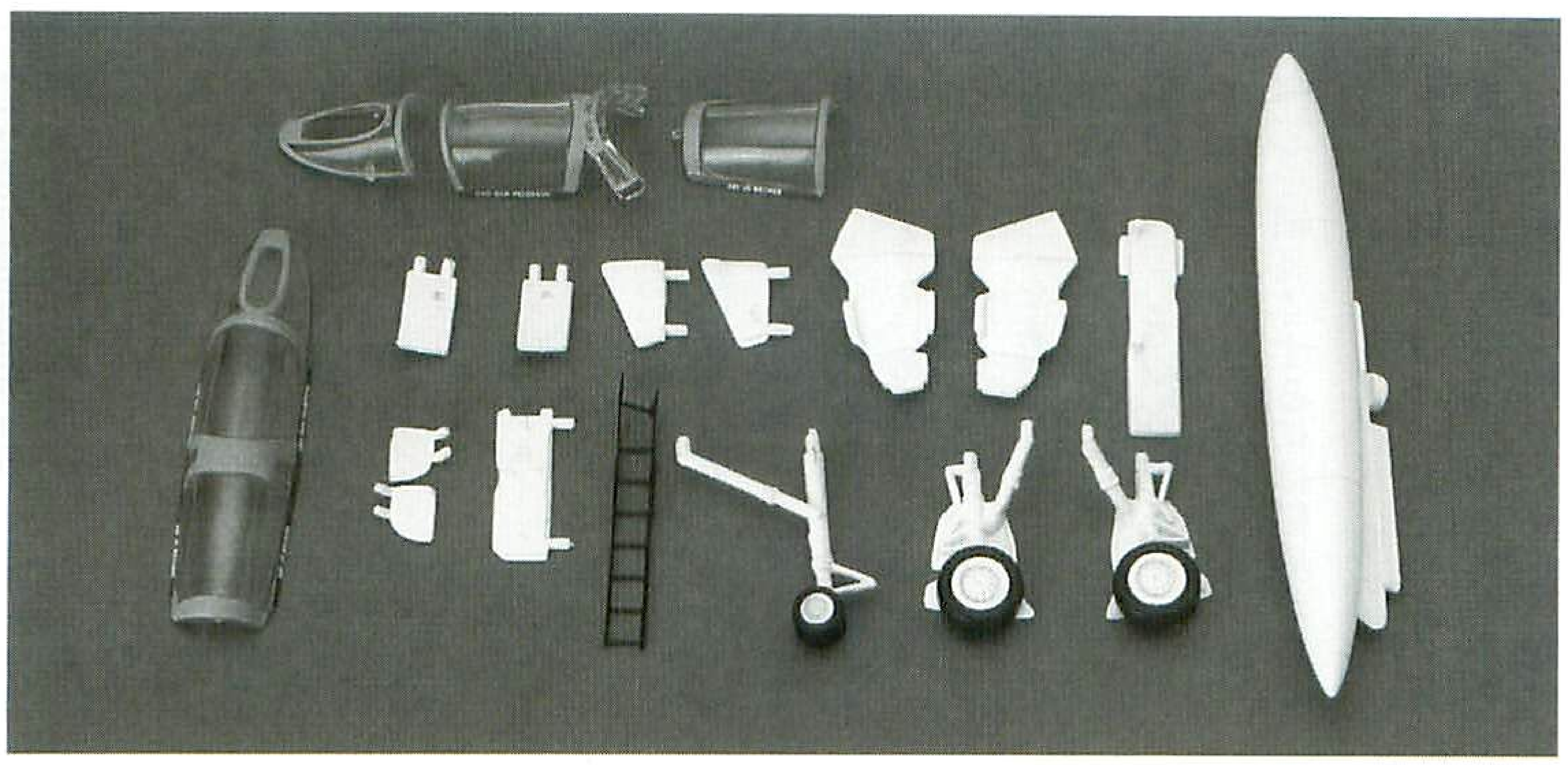
コーギーの製品は良い意味でも悪い意味でも"オモチャ的"なのだろう。たしかに精巧とは言えないレベルの商品もあるものの、ユーザーの遊び心をくすぐる演出が上手いし、その飛行機のキャラクターを独自の感性でしっかりと表現している。製品からパッケージまで、ユーザーフレンドリーな空気で包まれているのも同社の製品の魅力のひとつだ。

コンプリートモデルは精密さだけがすべてではない。こうした個性的なテイストを味わうモデルだってあるのだ!


コクピット内はちょっといただけない。計器盤などはまったく再現されていないぞ


エンジン内部は細かく再現されている


手にとるとすぐわかると思うが、インテークのモールドが大げさ! また、インテークベーンもちょっと厚すぎる


付属パーツ一式。こういう遊び心があるのが嬉しいところ



車輪を取り付け、キャノピーを上げて駐機状態にすることも。ラダーも付いているのでなかなかフンイキがでている

陸

ディープな知識の泉

続 陸自マニア入門

文／田村尚也　イラスト／田村紀雄

第20回　74式戦車

**今回は、74式戦車を見てみよう！
74式戦車は、制式名称のとおり1974年に制式化されて、1989年までに合計で873両が調達された。すでにリタイアする車両が出始めているが、数の上ではいまだに陸自戦車の主力としてガンバッテいるのだ！**

74式戦車は105㎜戦車砲を搭載している！

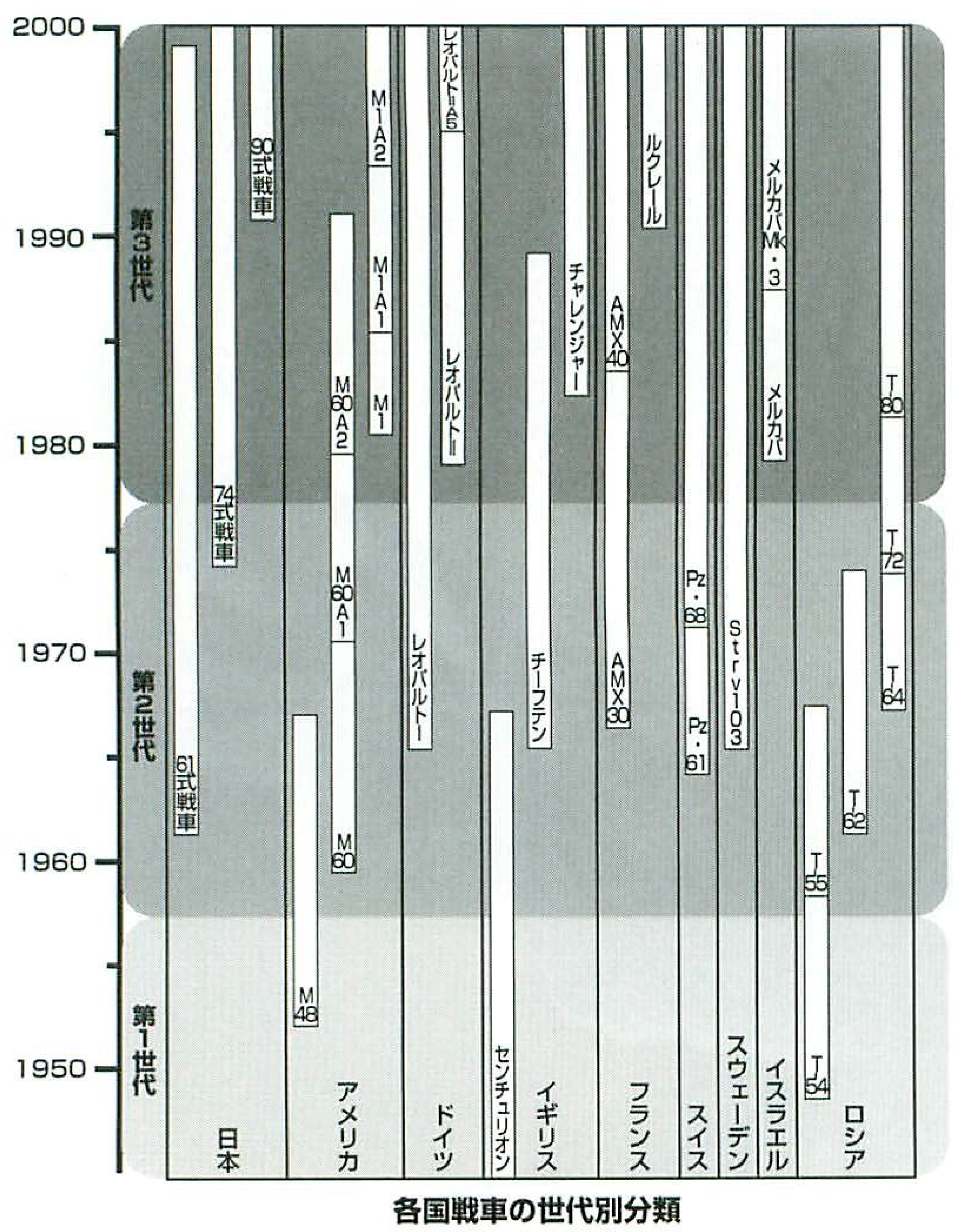
74式戦車は、105㎜戦車砲を搭載している。この砲は、もともとイギリスで開発されたL7と呼ばれる戦車砲で、日本独自の改良を加えたものだ。L7系の戦車砲は、74式戦車の他に、ドイツのレオパルトI、アメリカのM60、スウェーデンのStrv103（通称Sタンク）、スイスのPz61、韓国のK-1など旧東側諸国を除く各国の戦車に搭載され、当時の事実上の標準戦車砲になった。それだけの実力を持った優秀な戦車砲なのだ。

当初、対戦車用の弾丸は、おもに曳光装弾筒付徹甲弾（Armor Piercing Discarding Sabot-Tracer：略してAPDS-T）が使われていた。徹甲弾とは装甲を貫徹するための弾丸のこと。装弾筒とは中心部の硬い弾芯を包みこむ筒で、弾丸が砲口から飛び出すと外れて、あとは空気抵抗の小さな細い弾芯だけが飛んでいくようになっている。曳光とは、弾丸が飛翔するときに光を曳くことで、総火演の夜間演習で赤い光を引いて飛んでいる弾丸は、すべてこの曳光弾だ。

105㎜戦車砲L7から打ち出されるAPDSは、距離1000mで厚さ300㎜の装甲板を貫通することができるとされている。

その後、APDSに代わって貫通力をさらに向上させた曳光装弾筒付翼安定徹甲弾（Armor Piercing Fin Stabilized Discarding Sabot-Tracer：略してAPFSDS-T）が使われるようになった。翼安定というのは、弾芯の後部に付けた翼で弾丸の飛翔を安定させるもので、APDSよりもさらに弾芯を細長くできる。APDSは砲身に刻まれた螺旋状の溝（この溝のことをライフリングという）で発射時にスピンをかけて弾道を安定させるが、APDSの弾芯をあまりに細長くすると味噌スリ運動を起こして弾道が安定しなくなってしまう。APDSの弾芯を細長くするには限界があるのだ。

命中時の速度が一緒で弾芯の重量が同じならば、弾芯の直径を小さくすればするほどエネルギーが集中して貫通力は大きくなるという法則がある。弾芯を細長くできるAPFSDSは、APDSのおよそ1・5倍くらいの威力を持っているといわれている。この数式を当てはめると、74式戦車に搭載される93式105㎜装弾筒付翼安定徹甲弾は、距離1000mで厚さ約450㎜の垂直の装甲板を貫通することができる計算になる。



各国戦車の世代別分類


現在の陸自戦車の主力である74式戦車（Photo：TAM）

＜諸元・性能＞

乗員：4人	全備重量：約38t	全長：約9.41m	全幅：約3.18m	全高：約2.25m（標準姿勢）
登坂能力：tan θ 約60%		旋回性能：超信地	最高速度：53km/h	
エンジン：空冷2サイクル10気筒		ディーゼル機関：720PS/2,200rpm		
武装：105mm戦車砲×1、12.7mm重機関銃M2×1、74式車載7.62mm機関銃×1				

74式戦車は避弾経始（ひだんけいし）が良い！

直線的でゴツゴツと角張った外観の90式戦車と違って、74式戦車は曲線的でスマートな外観を持っている。

90式戦車が角張っているのは、セラミックなどの加工の難しい素材を使った複合装甲を備えていることなどによる。反対に74式戦車が流れるようなラインを持っているのは、装甲を斜めに傾けると実質的な厚さが増え、同時に敵の弾が滑りやすくなって防御力が向上するためだ。こうした優れた形状を持った戦車を「避弾経始が良い」という。複合装甲の実用化されていなかった当時の日本では、避弾経始（＊図1）を良くすることが戦車の防御力を向上させる有力な手段だったのだ。

74式戦車がスマートに見えるもう一つの大きな要因は、車高が低いことだ。戦車を設計するときに車体や砲塔の高さをあまり低くしすぎると、居住性が悪化して乗員の疲労が激しくなったり、砲身を下に向けた時に砲尾が砲塔の天井につかえてしまって下向きの角度（俯角という）を十分に取れなくなったりする。

例えば、ロシア製のT-72戦車の俯角はマイナス3度、同じくロシア製のT-62はマイナス5度、ドイツのレオパルトⅠはマイナス9度、アメリカのM60はマイナス10度となっている。ロシア製の戦車は、敵に見つかりにくくし敵弾に当たりにくくするために、俯角を犠牲にして車高を低くしているのだ。

実は74式戦車の俯角はマイナス6度で、当時ライバルだったロシア製の戦車とあまり変わらない。俯角を犠牲にして車高を低くしているのは、74式戦車もロシア戦車も同じなのだ。しかし、74式戦車には俯角の不足をカバーする姿勢制御装置が備えられている。

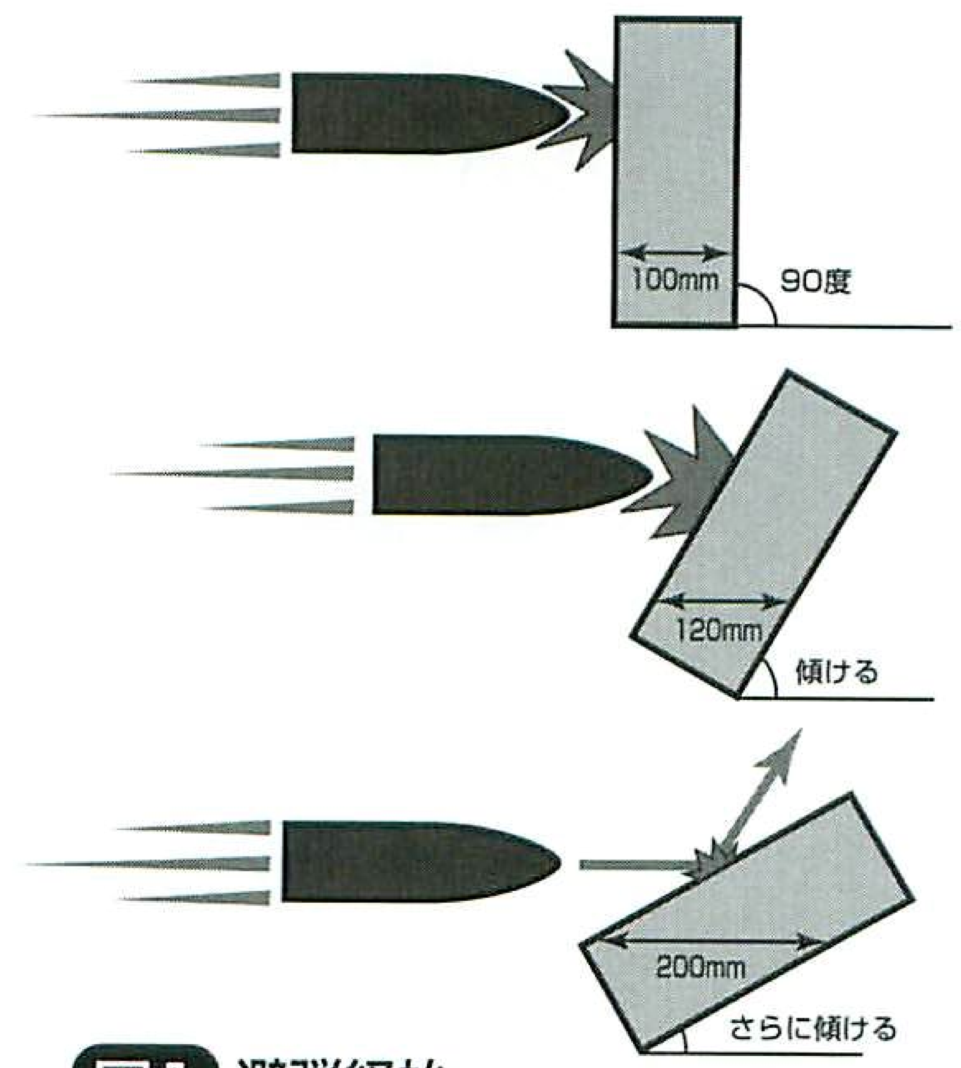


図1 避弾経始

74式戦車は姿勢制御が可能！

74式戦車の最大の特徴といえるのが、姿勢制御装置だ。74式戦車は、ハイドロニューマティック式サスペンション（＊図2）をコントロールして、車体を前後に＋-6度、左右に各9度、それぞれ傾けることができる。また、車高を20㎝上下させることもできる。

これを使って、車体を前傾姿勢にすれば俯角の不足をカバーすることができるのだ。また、車体を左右に傾けることもできるので、傾いた場所でも車体を水平にして面倒な照準修正無しに正確な射撃を行うことができる。こうした姿勢制御機能を持っている戦車は世界でも珍しく、日本以外で実戦配備されている戦車は、無砲塔式を採用しているスウェーデンのStrv103、それに韓国のK-1戦車（ただし前傾のみ）くらいしかない。

左右の姿勢制御は、アナログ式の弾道コンピューターを搭載する74式戦車にはありがたい機能だったが、90式戦車では高度な射撃統制装置（FCS）が搭載され、傾斜地の照準修正が簡単に行えるようになったので左右の姿勢制御の必要性が低くなり、車体を左右に傾ける機能は備えられていない。



車体を右に傾ける74式戦車。90式戦車には姿勢制御装置は備えられていない（Photo：Toshiharu Suzusaki）

74式戦車は戦後第2世代戦車だ！

74式戦車のように105～115㎜クラスの主砲を搭載している戦車を戦後第2世代戦車と呼ぶ。これより1クラス上の120～125㎜を搭載し複合装甲や高度なFCSを持つ新しい戦車は戦後第3世代戦車、90～100㎜クラスの主砲を持つ古い戦車は戦後第1世代戦車という。

第2世代戦車に分類される戦車は、74式戦車、Strv103、Pz61、レオパルトⅠ、M60等が105㎜砲を、T-62が115㎜砲を搭載している。イギリスのチーフテンは例外的に120㎜砲を搭載しているが、複合装甲や高度なFCSは装備していないので第2世代戦車に分類されている。100㎜砲を搭載しているロシアのT-54や90㎜砲を搭載しているアメリカのM48は、戦後第1世代戦車の代表格だ。105㎜砲から120㎜砲に換装されたアメリカのM1エイブラムズや120㎜砲搭載のドイツのレオパルトⅡ、イギリスのチャレンジャー、フランスのルクレールなどは、戦後第3世代戦車に分類される。

陸自の戦車では、90㎜砲搭載の61式戦車は第1世代戦車、120㎜砲搭載の90式戦車は第3世代戦車だ。

第3世代戦車の中でも、さらに改良が加えられて高度な電子装備や高い防御力等を持つM1A2やレオパルトⅡA5などは、3・5世代戦車と呼ばれることもある。東西の冷戦が終わって各国の新型戦車の開発スピードは低下し、革新的な第4世代戦車が登場するまでの「つなぎ」として第3世代戦車に改良を施して使う国が増えてきているのだ。

陸自では現在、90式戦車の後を継ぐ新戦車が開発中だ。新戦車はたぶん第4世代に分類されることになるだろう。

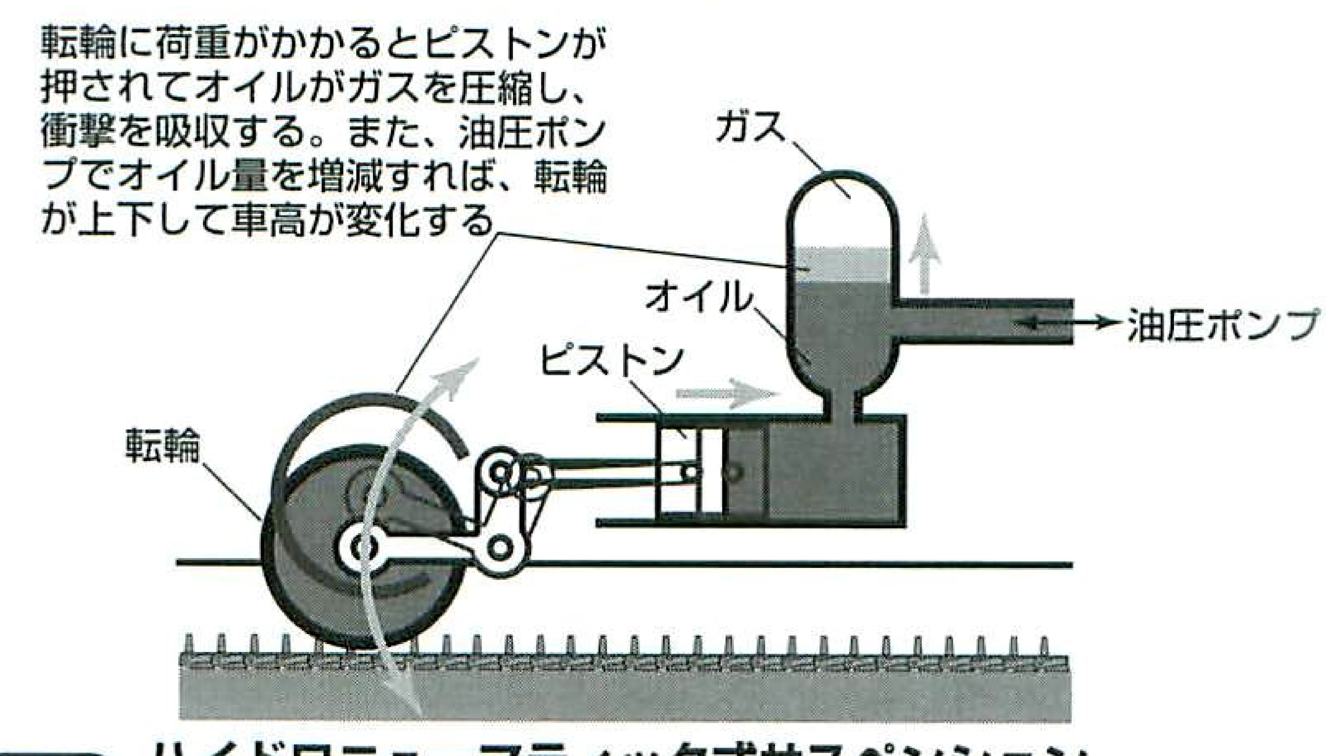


図2 ハイドロニューマティック式サスペンション（油気圧式懸架装置）

知識の雫

・戦後第1世代戦車
90～100mmクラスの主砲を搭載している。
…61式戦車、T-54、M48など

・戦後第2世代戦車
105～115mmクラスの主砲を搭載している。
…74式戦車、T-62、M60、レオパルトⅠなど

・戦後第3世代戦車
120～125mmクラスの主砲を搭載している。複合装甲を持っている。高度なFSCを備えている。
…90式戦車、T-72、M1、レオパルトⅡなど

連載

米軍大好き!

軍装マニア・見聞録

文・写真＝小貝哲夫

空挺部隊の装備 その2

第10話

前回に引き続き空挺部隊の装備を紹介する。今回はレアな補助アイテムも多数お目にかけよう。

アメリカでは、ケーブルテレビの歴史チャンネルで相次いで戦記物が取り上げられ、かなり手の込んだ軍装品が小道具として製造されている。好影響で新しいコレクターも増えているが、既に60年も前の程度の良いオリジナルは激減し、その価格も驚くほどの高騰振りを見せているので、本物志向のコレクターにとってますます厳しい時代に突入している。もし国内のショーで、掘り出し物を見つけたら迷わずゲットすることを薦めたい。反面、ヒストリック・ゲームを楽しむ層には、良質のレプリカが購入できる良い時代になってきている。

さて無駄話はほどほどに、前回に引き続き「空挺部隊の装備 その2」では、更に多くのアイテムを取り上げていこう。



アメリカでも一躍人気アイテムになったマガジンバッグ。トンプソンやグリースガンのマガジンを収納した

MAGAZINE BAG.45
マガジンバッグ

このマガジンバッグは短期間しか製造されなかったので、以前から稀少なアイテムだった上に、映画「プライベートライアン」でトム・ハンクス演じるミラー大尉が格好良くたすき掛けにしていたものだから、一躍超人気アイテムにのし上がってしまった。

トンプソンの30連マガジンが収まる長さで、1942年頃に製造されメーカーは「BO-T」と「HST Co」などが有名。メーカーによりフラップの形状とストラップに多少のバリエーションが見られ、英国製造の物も存在する。（本格的な米軍の参戦に応え英国内でも多くのアメリカ軍装備が製造され、「ブリティッシュメイド」のスタンプが押されている。）もちろん映画で使用されたモノは、リプロダクション物で寸分違わずにできている。



マガジンバッグ裏面。2箇所に取り付けられたウエビングで、たすき掛けで使用した



それらしくスペックナンバー42B15006とプリントされているが？

RIGGER MADE POUCHES
リガーメイドポーチ



M1カービンのマガジンならば4本収納可能。カートリッジベルトに通して使う

このポーチは、多量の弾薬を携帯せねばならない空挺隊員のみが携帯していた。M1ガーランドのクリップやM1カービンのマガジンが入るポーチは、基地のリガー（整備工）によって製造された。したがって同じ素材、同じ糸で作れば、識別することは不可能。もともと基地でコツコツと手作りで作った量しかないのだから、流通しているほとんどの物がレプリカと判断するべきだろう。

映画「プライベートライアン」でもこのポーチを身に付けている空挺隊員がいるが、時代考証や一人一人違う装備や装着方を当時の写真から見事に再現している点が、コレクター泣かせの優れている所だ。



CRICKET
クリケット



ボックス型のクリケット。敵味方を判断するために使われたが、不幸なケースも多かったようだ。穴を開け首からぶら下げたり、銃床にテープで取り付けていた

このアイテムも映画「史上最大の作戦」の中で登場しているので、ご存じの方も多いと思う。闇夜に降下した空挺隊員同士の誤射を防ぐために、師団本部はおもちゃのクリケット（子供の頃駄菓子屋で売っていたバネがたわむと音が出る）を支給した。使い方は敵か味方か不明な場合、クリケットを1回鳴らす。それに対する答えは2回、ところがライフルに弾丸を装填する音が回数も音質も似ていることから、同胞と勘違いして安心して飛び出した空挺隊員が撃たれてしまうエピソードが紹介されていた。

クリケットには幾つかのタイプがあるようで、蝉の形をしているものやBOX型の物などがある。しかし軍が正規に製造した物ではないので、本物かどうかを見極める根拠が無く、コレクター泣かせの一品と言える。

PARA FIRST AID POUCH
パラファーストエイドポーチ

映画「史上最大の作戦」で主人公の1人、ジョン・ウエイン扮する第82空挺部隊ベンジャミン中佐が、M1Cヘルメットの偽装ネットに付けていたのがこのファーストエイドポーチだ。

防水製の布地でできた袋に、包帯と止血帯、それに箱入のモルヒネが入っていた。満足な医療を受けられない空挺隊員や航空兵に支給されたファーストエイドポーチだったが、誤った使い方が蔓延し、大戦後期には回収されたとも言われている。

装着は4本の紐でサスペンダーに縛られたが、ヘルメットの偽装ネットに取り付けられたのは、映画「遠すぎた橋」が描いたマーケットガーデン作戦の記録写真で見られる。

M42ジャンプジャケットを着てゲームをする時は、くれぐれもヘルメットネットに付けないように注意したい。映画用やレプリカが購入できるが、上下に付いている切り口の位置が、微妙にずれているものがより本物に近い。



パラファーストエイドポーチは、4本の紐でサスペンダーやヘルメットネットに縛り付けられて使用された。中身は包帯、止血帯、箱に入ったモルヒネ。幸運にも未使用品を手に入れても、当然ながらモルヒネは取り出されている

LUMINOUS MARKER
ルミナスマーカー

これも敵味方を識別するためのアイテムだ。本隊の降下に先立って闇夜密かに降下し、本隊を誘導するパスファインダー（降着誘導員）という部隊がある。彼らはビーコン（RT-37 PPN2）で電波を発信しC47スカイトレインを降下地点に導いた。

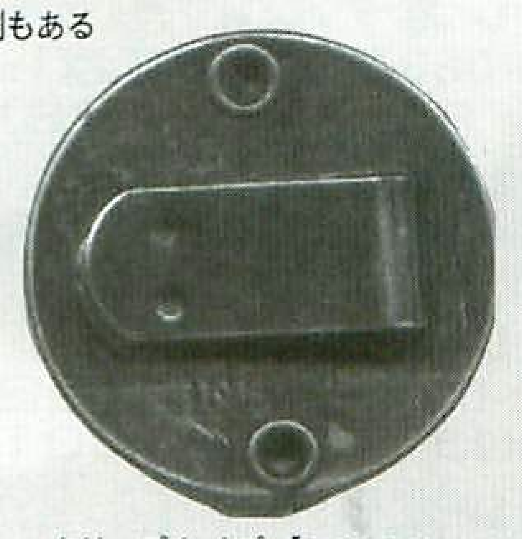
周囲が敵だらけの中に降下する、それも闇夜に降下する。ルミナスマーカーは蛍光物質（中身は不明だが、放射線検知器・ガイガーカウンターで反応するとのウワサも…。それが証拠に、【POISON INSIDE】の表示が裏面にある）をプラスチックと真鍮製のキャップで封じ込め、月明かりでも光り仲間に存在を知らせる。

ルミナスマーカーの詳細は判っていないが、裏面がフラットなタイプとクリップが付いたタイプがあり、後方からの誤射を防ぐためにヘルメットの後面やジャケットの襟後に取り付けていた。前面に付けていれば「私は敵です」と知らせるようなモノだ。


ルミナスマーカー正面。中央部分に蛍光材が入っていて、月夜で光り味方に存在を知らせた



裏面がフラットのタイプは上下の穴に紐を通してヘルメットの後に縛り付けた。襟首に縫いつけていた例もある


クリップタイプ。【POISON INSIDE】とは…。一体どんなものが入っているのか？

IDENTIFICATION SCARF
パラスカーフ

大戦も終盤になってくると、大規模な空挺作戦も減り、一般歩兵部隊と同様の作戦に参加することが多くなり、当然ながら特別扱いの装備もあまり見られなくなる。そんな中で唯一"らしい"アイテムがこのスカーフだ。

蛍光イエローでできたこの不可思議な形をした布は、イギリス軍が使用していた降下物資に付ける識別パネルとも言われている。第17空挺師団が1945年にライン川を越えたバーシテイ作戦で、後方から目立つようにスカーフとして着用した例が見られる。この作戦はイギリス軍のプランダー作戦と連動する形で実施されており、そんな流れでイギリス製の識別パネルをスカーフ代わりに用いたのだろうか。


シルク製の黄色いスカーフ。縁取りは白いコットンでなされている


背面にいる同胞に目立つように着用していた。本来は降下物資に取り付ける識別用パネルと言われているが…

MAP DISPATCH CASE, M1938
マップケース


マップケース本体、パッドが付いたストラップ、プラスチック製のインナースリーブが完全品。メッセージブックやマップが入っていたらラッキーだ


マップケース裏面。2箇所のDリングでショルダーストラップに接続。メーカースタンプは「BOYT 42」とある



マップケースの正面図。大きなフラップは、2個のドットボタンで止められる

マップケースは、3つのコンパートメント、メッセージブック用ポケットとペンホルダーが付いた本体を2個のドットボタンが付いたフラップで止める。中には地図を挟み込むプラスチック製のインナースリーブが入っている。パッド付きのショルダーベルトは、マップケース専用。このベルトが別の物に換えられて販売されている場合があるので、購入する時は注意したい。

第二次大戦のアイテムを収集するコレクターならば、やはりカーキ装備にこだわりたい。1944年頃から装備品がカーキからOD（オリーブドラブ）に変わり始めている。ヨーロッパの地形で目立ってしまう明るいカーキは順次変更されるが、明確にその時期は特定できない。

CAP, MECHANIC'S A-4
A4メカニックキャップ


航空隊の冬用のキャップだが、空挺隊員の着用例は多い


裏側のラベル。「Stock No,535-AC-27811 SPEC8-128」とある

A3メカニックキャップの冬用がA4メカニックキャップで、陸軍航空隊の整備兵が着用していた。航空隊との関わりが多い空挺隊員の中には、交換などで手に入れたA4メカニックキャップを着用している例が多い。通称ジープキャップと呼ばれているM1941ウールキャップに似ているが、つばがないのでヘルメットの下にも装着できる便利さがあった。

海軍にもブルーニットのウオッチキャップがある。同デザインのニットキャップは映画「カッコーの巣の上で」でもジャック・ニコルソンが被っている様に、一般的な冬のキャップとして定着している。

FLASH LIGHT
フラッシュライト

空挺部隊だけが使用していたアイテムではないが、夜間活動する空挺隊員が着用している写真は多く残っている。L型の形状で後部に付いたクリップでカートリッジベルトに装着して使用された。タイプは金属製のボディーのTL-122A、プラスチック製ボディーに変更されたTL-122B、更にスイッチが変更されたTL-122Cがある。

たかが懐中電灯、当たり前の装備の様で市場では意外と見かけないアイテムだが、この形状は現行装備でも変わらずに採用され続けている。60年前に、既に完成したデザインを持っていたと言えるだろう。


左からTL-122A、TL-122B、TL-122C。初期型の122Aが一番希少品だが、コンディションの良いライトは希だ

郵便はがき

恐れ入りますが
50円切手を
お貼り下さい

1 6 2 - 8616

＜受取人＞

神楽坂3-2　神楽坂Kビル

「Jウイング '02-2」
読者アンケート係

フリガナ					
お名前　　☎（　　）					
性別	男　女	年齢　　歳		職業	
ご住所　〒					
e-mail（メールアドレス）					
ご希望の番号をお書き込みください。希望しない場合は空欄のままで結構です。					
●「今月のプレゼント」（P115）　1つだけ記入して下さい。複数の場合、無効になります。			●「写真撮ろうよ・読者が選ぶベストショット」（P74-75）		
希望賞品番号			エントリーNo.		

◆Jウイングに関するご意見ご要望をお書きください。

（　　）

キリトリ線

＜特集・巻頭カラー記事＞

①すべては、ここから生まれる
飛行開発実験団
②首都防空を担うファイターエアベース
百里基地
③1年間の総まとめ!
イヤー・ブック2001
④ベルギー空軍F-16
スペシャル・マーキング
⑤航空自衛隊小松基地開庁40周年!
⑥陸上自衛隊第12旅団 新編旅団演習実施
新鋭空中機動旅団のヘリボーン&アタック!!
⑦不朽の自由作戦／続報
⑧軍用機撮影超基礎講座
もっとカメラを使いこなそうぜ!
⑨リレー連載
これが私の＜五つ星＞ヒコーキ

キリトリ線

★2月号の＜特集・巻頭カラー、新連載記事＞でおもしろかった記事は?
左の表から3つ選んで記事の番号を書いてください。
(　　　　　)　(　　　　　)　(　　　　　)

★2月号の＜特集・巻頭カラー、新連載記事＞でつまらなかった記事は?
左の表から3つ選んで記事の番号を書いてください。
(　　　　　)　(　　　　　)　(　　　　　)

★読者投票アンケートです!

次々号で集計結果を発表しますので、みなさん、よく考えて、詳しく書いて送ってくださいね!

Q1. **あなたの中のナンバーワン軍用機(固定翼)**をひとつ、書いてください(現用機、大戦機問わず)。

軍用機の名前(　　　　　)

ナンバーワンの理由(　　　　　)

Q2. **あなたの中のナンバーワン軍用ヘリ(回転翼)**をひとつ、書いてください。

軍用ヘリの名前(　　　　　)

ナンバーワンの理由(　　　　　)

Q3. **20世紀に生み出された最高傑作軍用機**(好き・キライ問わず、現用機、大戦機問わず)は、ズバリなんだと思いますか?

軍用機の名前(　　　　　)

理由があったら…(　　　　　)

Q4. あなたがいわゆる**マニア活動**として一番力を入れていることは? 下記の中から番号を書いて下さい。(　　　　　)

①基地での写真撮影　②プラモ制作　③パッチ(エンブレム)収集　④完成品モデル
⑤ゲーム(フライトシム)　⑥ミリタリーグッズ収集　⑦航空祭に行く　⑧雑誌、本を読む
⑨インターネットで情報収集(チャット等含む)　⑩絵を描く
⑪その他　(　　　　　)

※ご協力、ありがとうございました

今月のプレゼント

巷はクリスマス&お正月で楽しい季節！
ツボを押さえたプレゼントを大量放出しちゃいます！



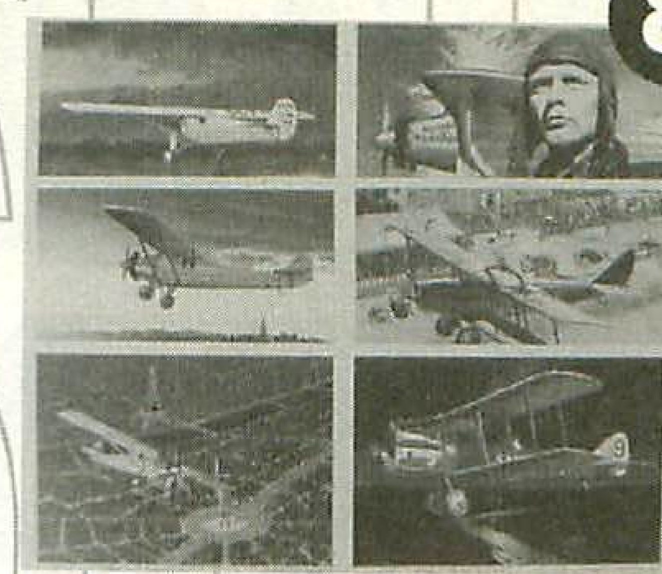
1 オードナンスより
18TFWパッチ 1名様
12月号でもプレゼントした第18戦術戦闘航空団パッチですが、好評にお応えしてもう一度プレゼントだッ…！



2 オードナンスより
18TFWプレート 1名様
これもレアだぞ！　今は亡きカデナの第18戦術戦闘航空団プレートです。



3 オードナンスより
レスキューTシャツ 1名様
オードナンスオリジナルの「レスキューTシャツ」です。デザインがシャープですね。



8
リンドバーグ絵ハガキ 8名様
佐竹政夫画伯が描いた6枚組絵ハガキセット、<チャールズ・A・リンドバーグ/空を飛ぶシリーズ>を8名様に。今回の「航空人列伝」で感動した人はぜひ！



10 アスミック・エース エンタテインメントより
サイドワインダーF 1名様
今回の「ゲームやろうぜ！」でもご紹介した期待の戦闘機ゲーム「サイドワインダーF」を1名様に（プレイステーション2専用です）。



9
自衛隊カレンダー 2名様
日本を代表するミリタリーカメラマンたちが撮った、2002年の自衛隊カレンダー「PRIME STORY」（7枚綴り）を2名様に。

●小松基地グッズ特集！



4
第303飛行隊パッチ 4名様
「不滅のドラゴン」303飛行隊の2001年戦競パッチを4名様にプレゼント！



5
第306飛行隊パッチ 4名様
306飛行隊の「ゴールデンイーグルス」をあしらった尾翼の形のパッチを4名様に。



6
第306飛行隊Tシャツ 1名様
306飛行隊20周年記念のスペシャルマーキングが描かれたTシャツを1名様に。サイズはフリーです。



7
第303飛行隊Tシャツ 3名様
「斬空」の文字がカッコいい、303飛行隊のTシャツを3名様に。サイズはLです。

※小松基地グッズのお問い合わせは、小松航空プラザ内のグッズショップ「クルーズ」
☎0761-23-4811（内線105）まで



11 SEGA-AM2 CRI事業部より
エアロダンシングi 次回作まで待てませ〜ん 1名様
生産終了、お疲れドリキャス！　ということで、フライトアクションゲーム「エアロダンシングi 次回作まで待てませ〜ん」を1名様にプレゼント（ドリームキャスト専用です）。



12 SEGA-AM2 CRI事業部より
エアロダンシングi 攻略本 2名様
ドリームキャストのゲームソフト「エアロダンシングi」の攻略本、「エアロダンシングi 公式コンプリートガイド」を2名様に。



13
築城基地DVDソフト 1名様
第6飛行隊のF-1、第304飛行隊のF-15Jなどの訓練風景が拝めるDVDソフト、「AIR BASE TSUIKI・航空自衛隊築城基地」を1名様に。



14
第一次大戦機セット 1名様
ソッピースキャメル、アルバトロスDVa、フォッカーDRⅠ、ブリストルF2B（いずれも1/72、エアフィックス）の第一次世界大戦の名機プラモをセットでプレゼント！



15
アパッチのプラモ 1名様
鈴崎利治カメラマンが提供してくださいました。今回のプラモ審査隊でもご紹介したハセガワ「AH-64Dアパッチロングボウ（1/48）」のプラモです。







16
米軍主力機セット 1名様
「F-15B イーグル"フライトテストセンター"（1/72）」、「F-16C ファイティングファルコン"ブルーノーズ"（1/48）」、「F/A-18C ホーネット"VFA-27 ロイヤルメイセス"（1/72）」（すべてハセガワ）の米軍主力トリオのプラモをセットにしてプレゼント！



17
97艦攻完成品モデル&フィギア 1名様
祝、真珠湾攻撃60周年！　ということで、日本海軍の名雷撃機「97式1号艦上攻撃機（空母「蒼龍」飛行機隊）」（1/48）の重量感ある完成品モデルを1名様に。おまけに「日本海軍パイロットフィギア」（1/48）も付けてしまうのだ。アリゾナを海の藻屑とするべし！

応募のしかた
読者アンケートはがきに、ご希望の賞品番号と郵便番号、住所、氏名、性別、年齢、職業、電話番号に加え、アンケートの回答をご記入のうえご応募ください。なお当選者の発表は、2002年4月号のこの欄で発表させていただきます。みなさま、ふるってご応募ください！

応募の締め切り
2002年1月20日（当日消印有効）

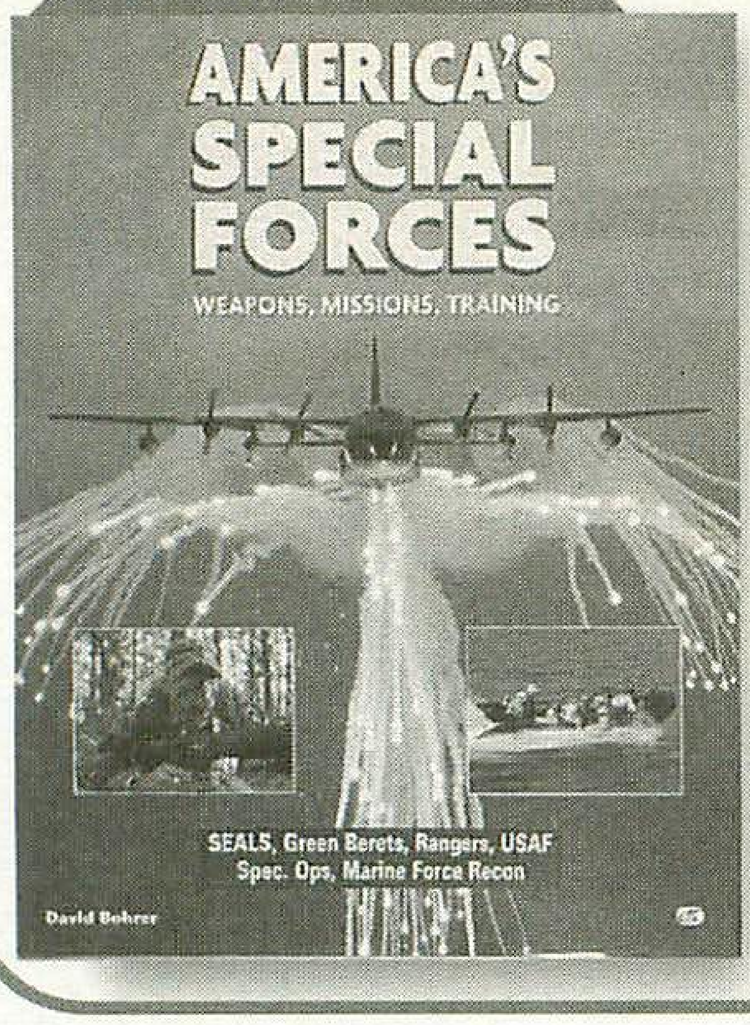
やったぜGET！ 12月号プレゼント当選者発表！
みなさん、たくさんのご応募ありがとうございました。当選された方のお名前は次の通りです。（敬称略）

1：亀田貴　2：金野克明、古川豊和、久保正広　3：松岡尚　4：田中祥雅
5：古波蔵義和　6：橋本宏治　7：黒田洋平　8：園田佳孝
9：小林裕貴、久保田チャールトン、古澤直樹　10：細割重隆
11：富田泰正、新田紘司、田中禎宗　12：杉江悠紀、川崎裕康、宇田川夏
13：藤本博士　14：桑山逸雄　15：松永真


重量軽減のために
無線機まで取り外し
新たに装備されたのは
リンドバーグ考案の
燃料監視装置
（エコノ・メーター）
だけという徹底ぶり
だった
一日は24時間なのに……………
みんな、まさに
36時間労働やって
ますねえ！
君こそ
そんなに働いて
ちゃんと寝てる
のかい？
眠らない
訓練ですよ
ハハハ……
今度の飛行に
備えてね！
2万5000ドルの賞金がかかった
この懸賞飛行の規定により
申し込んだ1927年2月28日より
3ヶ月以内に飛行を実行しなければ
ならなかったのである
1927年4月27日
大西洋横断機は完成した！
機体製作の契約が
交わされた日から59日目
という驚異的な短時間だった！
Spirit of St.Louis
NX211
RYAN
NYP
もう…………
動けない
精も魂も尽き果てた…………
さあ
2ヶ月分
寝てやる
ぞ～～っ
技術者の誇りと魂
そして
これまでライアン社が
培ってきた航空技術の
すべてが
この機体に込められて
いる
ありがとう！
みなさんのスピリッツを
この飛行機と二人で
必ずパリへ届けます！
5月10日
リンドバーグは
「NYP」とともに
サンディエゴを去った


そして
10日後の5月20日
パリを目指して
ルーズベルト飛行場を飛び立ち
歴史的大飛行を成し遂げた
全航程5809キロメートル
飛行時間33時間29分だった！
これにより…………
マホニーは
夢だった世界的企業家としての
名声を一挙に手に入れることができ
ボーラスとホールもまた
歴史をつくった航空エンジニア
として
アメリカ航空界での名誉と地位
を不動のものとした
そして
もう一人……
ニューヨークへ
向かう列車の中で
リンドバーグの
壮挙を知り
誰よりも喜び
誰よりも
深い感激に浸る
男がいた
スピリット
・オブ・
セントルイス
号……
か
一介の
郵便飛行士
だった
リンドバーグを
世界の英雄に
した飛行機だぜ
！
スピリット何
とか………
と言うのは
その飛行機の
愛称だろ
本当の名前は
ライアンNYPと
言うそうだ！
ライアン
……か
そいつも英雄だよ！
きっと
すごい技術者
なんだろうなあ
マホニー、ボーラス、そしてホール……
君たちは友情の証として
この偉大な仕事を見事にやってのけた
ありがとう！
「ライアン」の名前は
あの英雄とともに
永遠に航空史に残ることだろう

今月のイチオシ!



アフガンで活躍するアメリカ特殊作戦部隊の全貌

AMERICA'S SPECIAL FORCES

David Bohrer著　商品番号:218-00157 税込価格:3,812円

アフガン紛争で一躍脚光を浴びたアメリカ軍特殊作戦部隊（SOF）だが、その性格ゆえに詳しい実態についてはほとんど知られていないのが現状だ。特殊作戦部隊とは、正規軍では不可能な作戦、つまり敵戦線内奥へと侵入し、撹乱、破壊、情報収集、人質・捕虜の救出などを主要な任務とする小規模の部隊であり、アメリカの場合、英植民地時代の1756年にレンジャーが組織され、対仏戦を戦ったのがそのルーツとされる。近年SOFの活動が一般にも注目された例はベトナム戦争における米陸軍グリーンベレーの活躍であり、冷戦下東西両陣営ともSOFを密かに育成、強化していたことが知られるようになった。冷戦構造の崩壊後は、世界大戦の危機は薄れたものの宗教、民族間などの軋轢による地域紛争、LIC（低烈度紛争、戦争に至らない紛争）が増大することが予測され、かえってSOFの重要性が高まると考えられた事から、アメリカは1987年にUSSOCOM（米特殊作戦軍団）を発足させて4軍のSOFを統轄・指揮する体制を整えている。

本書は、現在世界中が注目している米軍SOFに密着取材して作られたものであり、その知られざる実態に肉薄したタイムリーな一冊といえる。全体は6章に分かれており、1章:海軍SEAL、2章:陸軍レンジャー部隊、3章:陸軍特殊部隊、4章:空軍特殊作戦航空部隊、5章:海兵隊偵察部隊、そして6章がSOFの将来となっている。1～5章については各隊の概要、ヒストリー、選抜と訓練、組織、装備、ミッションなどが豊富な写真付きで解説される。時には生命の危険さえある過酷な訓練を乗り越え、特殊な装備を使いこなして、不可能とも思える任務を達成するこれらSOF隊員は、まさに現代のスーパーマンといってよく、あれほど精強を誇ったタリバンを1ヶ月足らずで壊滅に近い状態に追い込んだのも充分に納得のいく話である。本書に収録されているのは筆者が直接取材した部隊に限られているため米特殊作戦部隊全てを網羅しているわけではないが、SOFの実態と任務についてこれほどビジュアルに詳しく解説した本は他になく、アフガンでの戦いを理解するためにも貴重な資料満載の1冊といってよい。

米陸軍の航空部隊を知る1冊!

US ARMY AIRCRAFT SINCE 1947

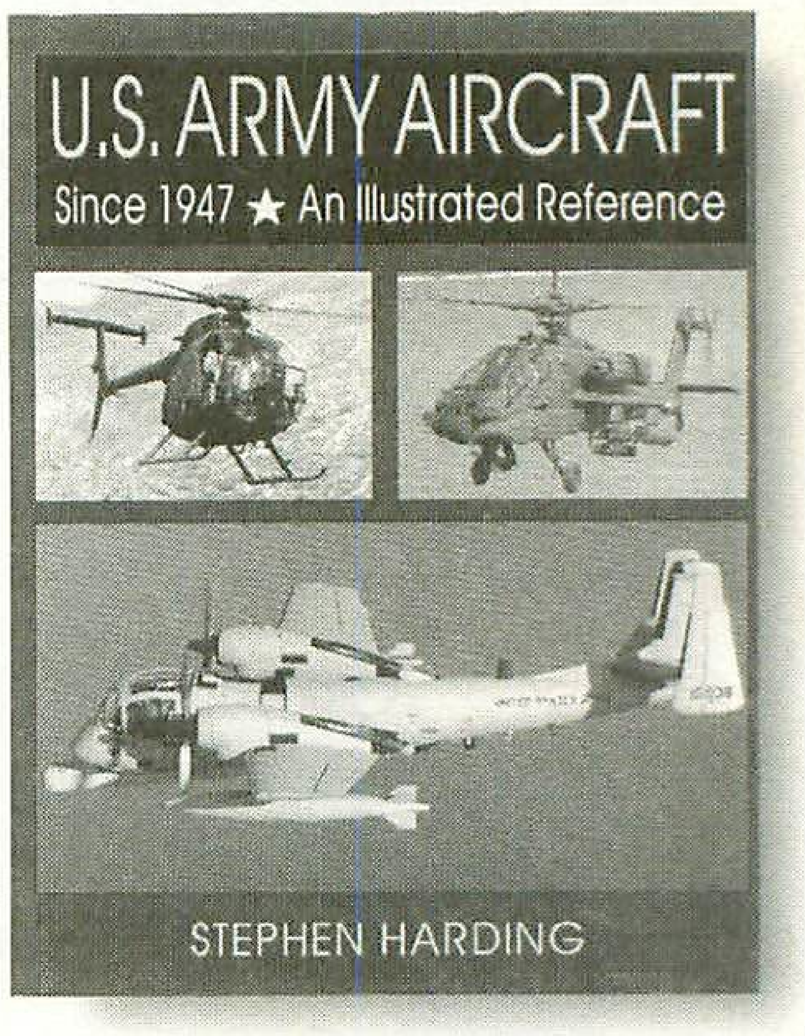
Stephen Harding著　商品番号:211-00188 税込価格:8,600円

大戦後米陸軍が使用した航空機全てを紹介

世に米軍機大好きマニアは多数存在するが、こと陸軍機となると少々縁遠いのが実情である。これは現在日本に小規模な航空部隊しか駐留していないこと、それに本など資料となるものが極端に少ないことが影響していると思われる。しかしお隣の韓国には大部隊が展開している関係で米陸軍の現用機の大部分が配備されており、日本にもそうした機体が時々飛来している事を考えればもっと注目されて良い存在である。

本書は、米陸軍が空軍と分離した1947年以降使用した航空機全てについて解説したもので、資料の少ない分野だけに貴重な1冊といえる。筆者のハーディングは、1990年に同じタイトルの本（A5判変形）を英エアライフ社から出版しているが、本書はその拡大、更新版で、新しい機種が追加されただけでなく、写真が大判となり各種データも充実したことによりまさに陸軍機のバイブルともいえる内容となった。本書のすごいところは、制式採用機や試作機だけでなく、評価テストを行っただけの機体（例えばハリアーの原型XV-6、F-5の原型N-156F、フィアットG-91など）、評価とアグレッサー用として導入したソ連製ヘリ（カモフKa-32、ミルMi-8/14、Mi-24/25など）、チェイサーとして少数使われたF-51やT-28、空軍から移管されたJC-121K、T-37、C-47/54などのマイナー機を全て取り上げていること、及びこれらの機にARMYと表記された珍しい写真を収録していることである。

陸軍が試作させた機体は全て収録されているが、こうした機体のなかには今となってはほとんど知られることのない幻の機体が多数ある。とくに1950、60年代次々に試作されたVTOL機やフライングプラットフォームなどの類は他に良い資料も無いため、本書は米軍用機研究者/マニアにとって貴重な存在といえる。各機については、開発・運用の簡単な解説、テクニカルデータが付けられており、巻末には1947年以降の陸軍機命名システム解説、参考文献リストが付されている。



戦略爆撃機を知る1冊!

ACC BOMBER TRIAD:THE B-52s,B-1s,AND B-2s OF AIR COMBAT COMMAND

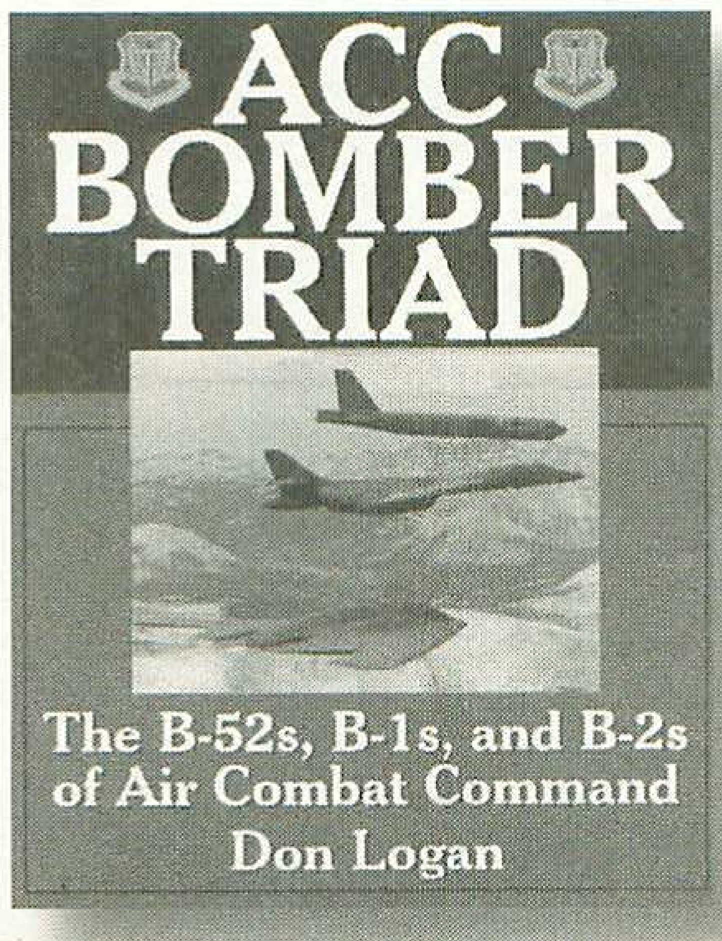
Don Logan著　商品番号:211-01100　税込価格:11,456円

アメリカの戦略爆撃機3羽ガラスのオールカラー全機写真集

アメリカ空軍は今日もB-52H、B-1B、B-2Aという3種の戦略爆撃機を保持し、アフガンでもこれら3機種が重要な働きをしているのはご存知の通りである。本書はシッファーからF-105、KC-135など素晴らしい写真集を出しているドン・ローガンの最新著作で、これらACC戦略爆撃機3機種の全ての機体の写真を集め、運用部隊などについても徹底的な解説を加えた労作である。

B-52の部はSACからACCに移管された時点でG型も残っていたためG、H両型について解説されている。まずB-52G/Hを使用した部隊（航空団、飛行隊）がユニットインシグニアとテールマークの写真付きで基地別に解説され、続いてACC隷下のB-52G全機の所属部隊別リストが多数の写真とともに示される。このリストは、シリアルナンバー、ウェポンコンフィギュレーション（ハープーン/クルーズミサイル対応、統合通常兵器管理システムなど）、退役年月日が記された貴重なもの。次にH型全機のACC発足時（1992年6月1日）の所属部隊名とその後（1998年まで）の移動がリストアップされ、後は86ページにわたってB-52Hの全機写真集となっている。もちろん80年代までに墜落した機の写真は欠落しているが、残る96機については全て1機につき1～3枚の写真が収録され、ノーズアートも多数掲載されている。個々の機体についての解説もかなり詳細に書かれていて、写真収集の努力だけでなく筆者の情報収集能力の高さにも驚かされる。

B-1B、B-2Aの部もほぼ同じ構成だが、B-52Gのように退役したモデルがない分だけボリュームが減っている。またB-1Bの場合も80年代までに失われた機体を除く95機分のカラー写真が収録されているわけだが、B-52Hよりノーズアートを重視した写真のセレクトとなっており、B-2Aの場合（21機）は各機に付けられたニックネーム（スピリット・オブ・州名）にちなんだエンブレムが全て収録されている。巻末には3機種の兵装搭載システムの図解と、最新兵装の解説ページが設けられている。



GOODS & BOOKS

のりもの倶楽部

神楽坂洋書館

総評／松崎豊一

今月はタリバン攻撃で一躍脚光を浴びた、特殊作戦部隊とB-1、B-2、B-52爆撃機の本を入荷しました。タイムリーな本を、コタツに入りみかんでも食べながら読んでみませんか。

スカンクワークスって何？という人に

LOCKHEED SECRET PROJECTS INSIDE THE SKUNK WORKS

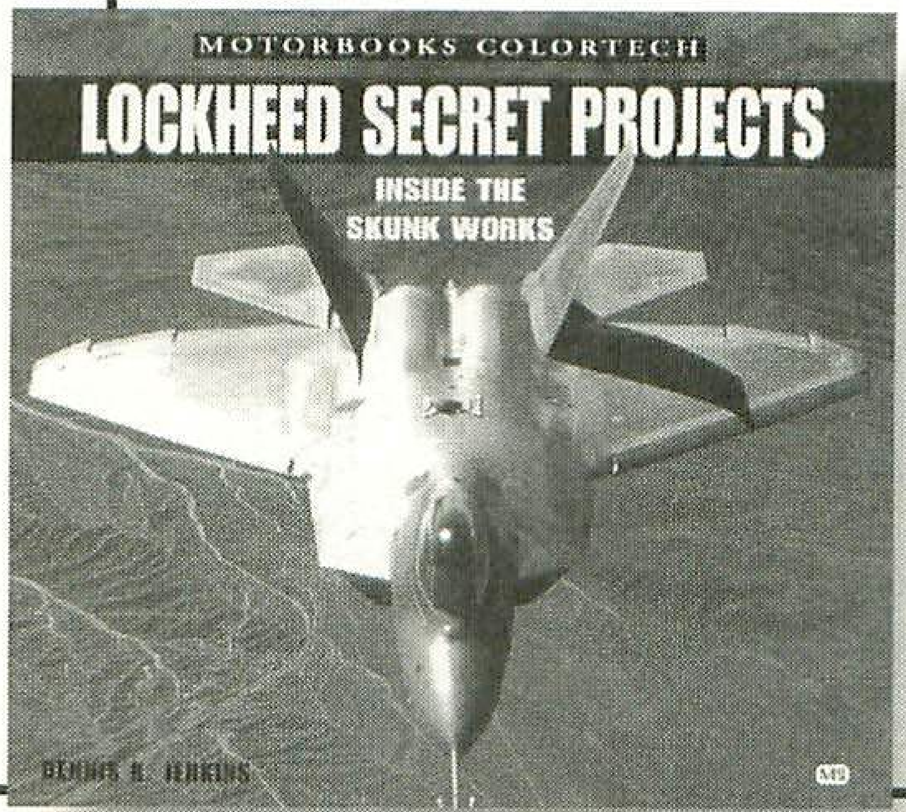
DENNIS B. JENKINS著　商品番号:211-01317　税込価格:3,812円

スカンクワークスの生み出した傑作機、スパイ機の数々

ロッキード・スカンクワークスといえば、もともと大戦中アメリカ初の実用ジェット戦闘機となるXP-80を極秘に開発するために編成された少人数の航空機開発チームであり、ケリー・ジョンソン、ベン・リッチといったカリスマ的デザイナーに率いられて、今日までに数多くの先進的航空機を世に送り出してきた。本書はそのスカンクワークスの設立から、今も不明の部分が残る2大スパイ機（U-2、A-12/SR-71）やステルス機開発などの極秘プロジェクトを経て今日のF-22、JSF製作までに至る足跡、そして最新の活動までを解説したものである。

スカンクワークスについては、前記2人の自伝の他、その歴史と航空機を解説した優れた書がすでに数点出版されているが、本書は最も簡潔に要点だけをまとめたコンパクトな本である事と、最新刊だけに新しく判明した事実が記述されている事や新発掘の写真が幾つか収録されている点が特徴といえる。

全体は6章から構成されており、1章は発足からF-104開発までの初期の活動、2章はCIA主導によりスカンクワークスが開発した2つのスパイ機プロジェクト、U-2とオクスカート計画（A-12）で、もちろんSR-71、D-21無人偵察ドローンについても解説されている。3章は2つのステルス戦闘機F-117、YF-22開発の秘話で、RCS（レーダー反射断面積）減少というコンセプトの起源からハブ・ブルーを経てシニア・トレンド計画（F-117）、そして次期主力戦闘機F-22開発とテスト、4章ではモア・ステルスとしてJSF（先頃F-35として採用決定）とキャンセルされた特異な偵察UAV、ダークスターが記述され、5章ではこれも今年になって予算交付がストップしたRLV（反復使用宇宙往還機）X-33ベンチャースター解説、6章は現在のスカンクワークスの活動といった順で記述されている。解説は要点を押さえた分かりやすいもので、挿入写真も大部分カラーで（少々サイズが小さいのが難点だが）、珍しいものがセレクトされている。



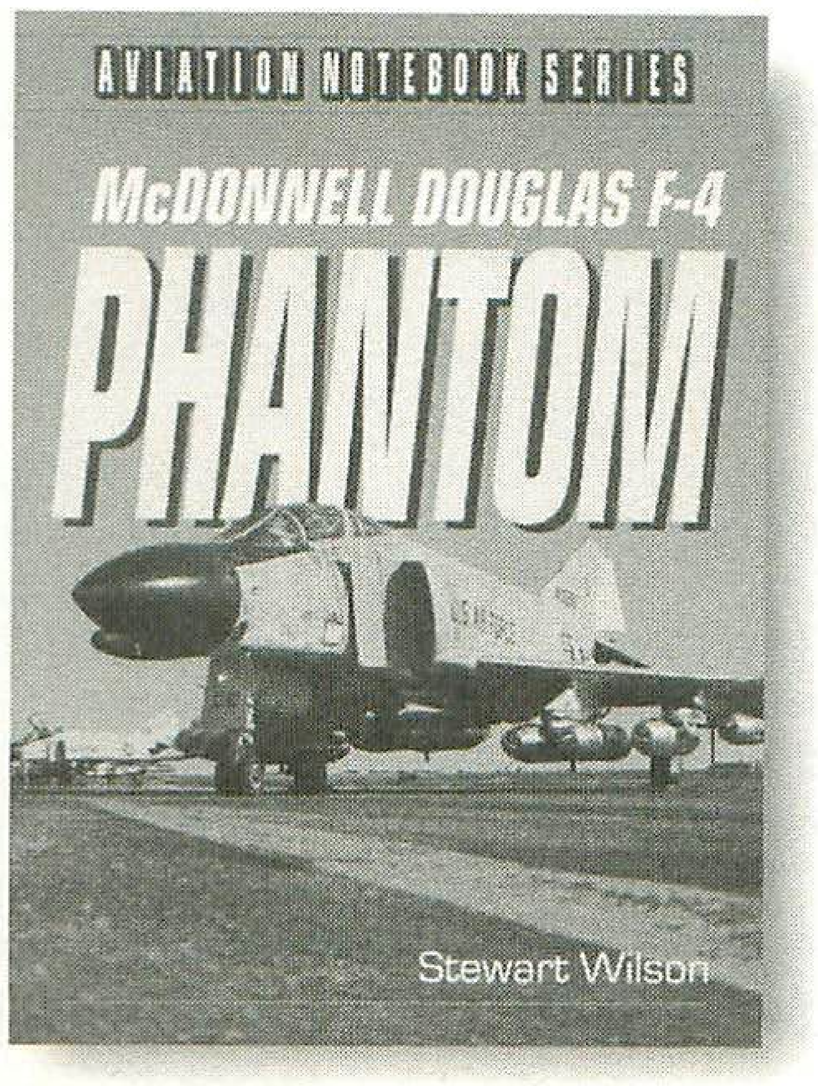
F-4ファントムのお手軽ハンドブック

AVIATION NOTEBOOK SERIES McDONNELL DOUGLAS F-4 PHANTOM

Stewart Wilson著　商品番号:211-01116　税込価格:2,342円

コンパクトにまとめられた大人気F-4ファントムの全史

F-4ファントムIIは、無骨なスタイリングながら今日もマニアの間で高い人気を保ち続けていて、関連書籍も世界各国から年数冊のペースで出版されている。本書はオーストラリアのノートブック出版からアビエーション・ノートブック・シリーズの第1号としてリリースされたもので、マニア向けに作られたハンドブック形式のファントムII全史解説書である。最初に栄光の背景のタイトルで、マクダネル社の概史と生み出された航空機の解説、およびファントムII開発に至る経緯とプロトタイプ初飛行まで、続いて増加試作型F-4Aのテストとその期間中に行われた世界記録への挑戦、海軍向けの最初の量産型F-4B、およびその派生型（RF、QF、F-4G/N他）、空軍向け量産型F-4Cとその派生型（RF-4C、ワイルド・ウィーズル他）といった順で記述され、以降もF-4D/E/Jのメインバージョンごとに1項ずつ解説され、スペイ・ファントムのタイトルでイギリス向けF-4K/Mの項が続く。巻末には、ファントム・アップグレードとしてイスラエルIAIによる改修、ドイツ空軍のICE計画、そしてもちろん日本のF-4EJ改が記述されている他、ファントム・オペレーター・リスト（国別に使用モデル、機数、期間、1999年現在の在籍数）、シリアルナンバー表（外国オペレーターとしては日、英のみリストアップされている）の資料集が掲載されている。挿入写真はほとんどカラーで一部クォリティーのプアなものがあるが、ハンドブックとしては良いものがセレクトされているといってよく、カラー・サイドビューのペインティングも8機分掲載されるというサービスぶりである。本書は、ファントムに関しての必要最小限の記述と資料を詰め込んだコンパクトな書であり、初心者向けの手軽なリファレンスとして好適な1冊といえよう。



マリンコ魂を知る1冊！

THE OUTPOST WAR:U.S.MARINES IN KOREA,VOL.1 1952

Allan R. Millett著　商品番号:218-00196　税込価格:4,767円

アメリカ海兵隊魂に支えられた朝鮮の長く苦しい戦いの記録

朝鮮戦争はアメリカ人自身にとって忘れられた戦いとなりつつあるが、冷戦時代にあってその後のアジア情勢を決定付けた戦いとして、その歴史的な重みはいささかも変わっていないし、アメリカにとっては極東の紛争に過ぎなかったこの戦争がその後の軍事方針に与えた影響の大きさは計り知れないものがある。

朝鮮戦争は当初圧倒的な戦力を持った北鮮軍の前に、韓国軍/連合軍側が壊滅的敗走を余儀なくされたが、やがて米極東航空軍や空母部隊の航空攻撃が北鮮に対するボディブローのように効き始めたことや、インチョン奇襲上陸作戦などがきっかけとなって国連軍の大反撃が成功した。しかし北鮮軍壊滅直前の中国軍大量介入によりふたたび国連軍は押し戻され、やがて38度線近くで戦線は膠着状態となる。こうした目まぐるしい進退を繰り返した地上戦で最も勇敢な戦いぶりを示したのはいうまでもなく米海兵隊で、彼らはファースト・イン/ラスト・アウト（真っ先に進攻し、最後に退く）精神を遺憾なく発揮した。中でも中国軍人海戦術で総崩れとなった連合軍のなかにあって最後まで戦線に留まり、退却する味方の損害を最小限に食い止めたチャンジンホ（長津湖）の戦いは有名である。本書はそうした海兵隊の一員として朝鮮戦争に参加した筆者の体験をつづったもので、過酷な戦いの実相を生々しく伝える好著となっている。

本書に描かれているのは、すでに戦線が膠着状態となり、休戦会談も始められていた1952年の様相だが、この頃は両陣営とも休戦の条件を有利にするため激しい陣取り合戦を繰り返していた時期にあたっており、筆者達海兵隊はアウトポスト（前哨基地）の死守、新たな高台の奪取などに命を削る日々を過ごしていたのである。朝鮮戦争というと、ともすると華やかなミグキラーの話ばかりに目が行きがちだが、悪条件の中で共産軍の浸透から韓国を守り通したこうした地上軍の活動にも注目する必要があろう。なお巻末には海兵隊員の戦死・戦傷統計、高地・アウトポスト名リスト、脚注、参考文献リスト、およびインデックスが付けられている。



VMB-162 MEDIA HUNTERS

今月はロック岩崎氏の回想記や岩井勉中尉の空戦記など、パイロットたちの著書がオススメ。過去の名作も、なんともアツい一作を取り上げているぞッ!

クリムゾンスカイ
朝鮮戦争航空戦
光人社 刊
ジョン・R・ブルーニング 著
手島尚 訳
価格867円+税
文庫版(414p)



紅の空に挑んだ米軍機たち

第二次大戦やベトナムに比べて語られることの少ない、朝鮮戦争の航空戦を記録しているノンフィクション。

MiG-15に太刀打ちできず、地上攻撃に専念したF-80、F-84、F9Fといった直線翼ジェット機たち。太平洋戦争の勇者コルセアやB-29は苦渋を嘗めたが、F-86やスカイレイダーは頭角を表わした。ハード面での戦いの記録だけでなく、パイロットたちの強い義務感や友情の描写も感動的だ。

ミサイルがまだ存在せず、機銃だけで空中戦が行われた朝鮮戦争の参加機には、現用機とはまた違った魅力がある。

SBS特殊部隊員
英海兵隊最強のコマンドー
並木書房 刊
ダン・キャムセル 著
村上和久 訳
価格1900円+税
四六版(262p)

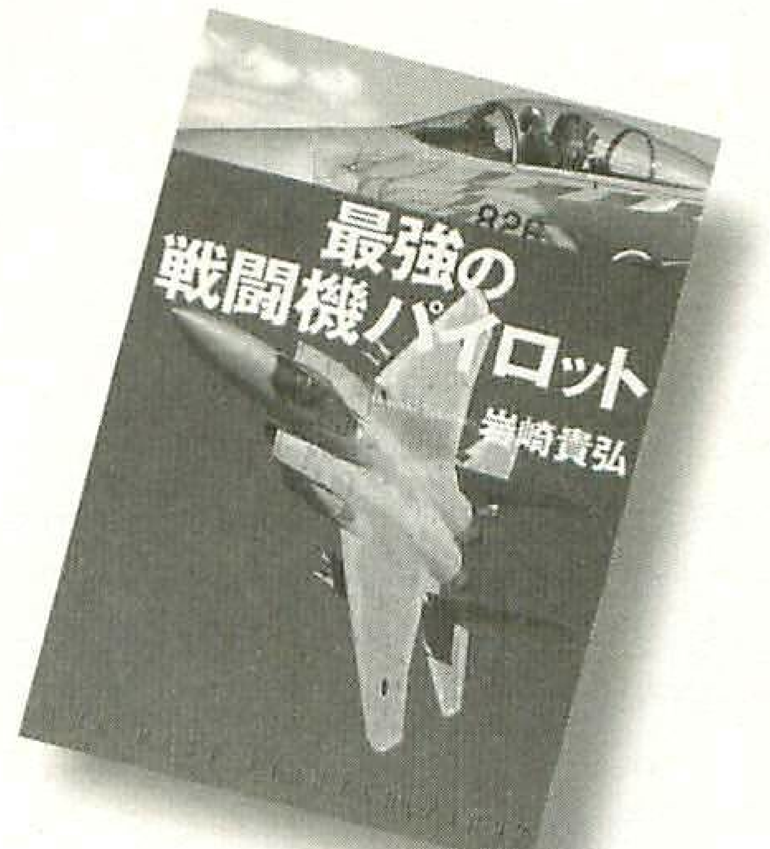


SAS最大のライバル、SBSの活躍

最強の特殊部隊として英陸軍特殊空挺隊SASの名は有名だが、その海兵隊版といえるのが特殊舟艇隊SBS(Special Boat Service)だ。今回ついに日本では初めて、SBSの実態に迫るノンフィクションが刊行された。

海上・海中・陸上と環境を選ばず任務を遂行し、SASに勝るとも劣らない能力を持つSBS隊員たち。彼らが極限の任務に挑む姿が、元SBS曹長である著者によって赤裸々に語られている。巡洋艦の艦底を写真撮影したり、イラク領深く潜入して破壊活動を行うなど、彼らの技術・体力・精神力には敬服の一言。

最強の戦闘機パイロット
講談社 刊
岩崎貴弘 著
価格1900円+税
四六版(334p)



ロック岩崎の原点を読もう

日本随一のアクロパイロット、ロック岩崎氏。空自においても名パイロットだったことは有名で、模擬戦闘ではF-104で米軍のF-15を撃墜したこともあったという。本書では岩崎氏の空戦技術解説から始まって、航空学生時代の思い出、パイロットたちの意外な素顔、岩崎氏の豪快極まりない生活などが綴られている。

常に最強を目指していたという岩崎氏の卓越した戦技や精神力は古武士を連想させるが、かといって堅苦しくはなく、小中学生も十分理解できる内容なのは素晴らしい。ぜひ読んでおきたい今月のイチオシ本だ。

奇想天外ヒコーキ映画
山海堂 刊
渓由葵夫 著
定価1650円+税
四六版(294p)



全部分かったら立派なヒコーキオタク!

航空機が登場する様々な映画を、奇想天外シリーズで有名な著者の豊富な知識と迫力のあるイラストで紹介し、批評、検証を加えていく。ヒコーキや航空機映画にまつわる裏話が満載で、独特の文体が鼻につかない人は楽しく読めるだろう。

しかし、実際は数十億円程度であるMIG-29の価格が、どこでどう間違ったのか「2000万円」と書いてあること、また伊空軍でまだ現役のF-104が「博物館やNASAでしか見られない」と著述してあるなどという、明らかな事実誤認が見られるのはちょっとまずいのでは?

「タリバン戦争」の謎
祥伝社 刊
「タリバン戦争」特別取材班 編
価格1000円+税
A5版(168p)



「タリバン戦争」の真実を知る

収束に近づきつつある対タリバン攻撃だが、テロリストは世界各地に散らばっており、まだまだ予断を許さない状況であるともいえるだろう。本誌でも活躍中の加藤健二郎氏が中心となって、今回の「タリバン戦争」を多角的な角度から解説したのが本書だ。

世界政治、米軍の戦術、テロリズム、自衛隊の派遣問題、日本の外交など様々な切り口から、今回の武力攻撃とそれと取り巻く社会を分析する。コラムや欄外のミニ情報も硬軟取り混ぜて充実しており、気軽に読めて広い知識を得られるお得な一冊だ。

世界の戦車イラストレイテッド 12
Ⅳ号中戦車 1936-1945
大日本絵画 刊
ブライアン・ペレット 著
デイヴィッド・E・スミス、ジム・ローリエ 画
齋木伸生 訳
定価1300円+税
B5変形版(48p)



機甲部隊の中核・Ⅳ号戦車

ドイツ戦車というと有名なのは、やはりⅤ号パンターやⅥ号ティーガーだろう。しかしドイツ機甲部隊の中核を担い、常に最前線に立ち続けたのはベテランのⅣ号戦車だった。

本書では、対戦車能力を持っていなかったⅣ号戦車が、度重なる改修を受けながらソ連の大戦車軍隊に立ち向かっていく姿を、開発史、戦歴、戦術、車体構造、各型のイラストとほぼすべての角度から著述している。ポーランド侵攻から本土防衛まで第二次大戦を戦い抜いた、機甲部隊の本当の主役・Ⅳ号戦車を深く知ることができる戦車マニア必携の書だ。

世界の戦闘機エース 16
第二次大戦のドイツ夜間戦闘機エース
大日本絵画 刊
ジェリー・スカッツ 著
渡辺洋二 訳
定価1800円+税
B5変形版(100p)



第三帝国の夜戦たち

第二次大戦後半、ドイツの夜空を蹂躙した英国の重爆撃機隊。それに対して駆逐機Bf110、夜戦型Ju88、新鋭He219などの夜間戦闘機隊は連夜出撃、本土防空に奮戦した。

本書ではドイツ上空の夜間戦闘史を中心に、熾烈を極めた電子戦やシュレーゲムジークなどの新兵器、そして多くの「重爆殺し」たちが得意とした戦法を解説している。

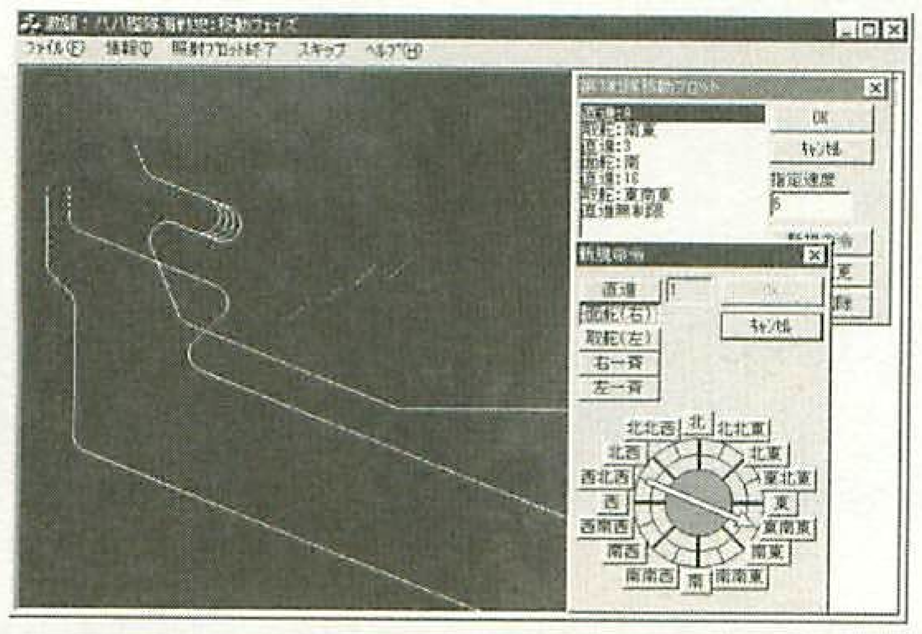
日本機にも共通していえることだが、滅び行く帝国を生き長らえさせるため夜空に飛び立っていった夜戦は、破滅的敗北を迎えた枢軸軍を象徴しているような不思議な魅力を放っている。

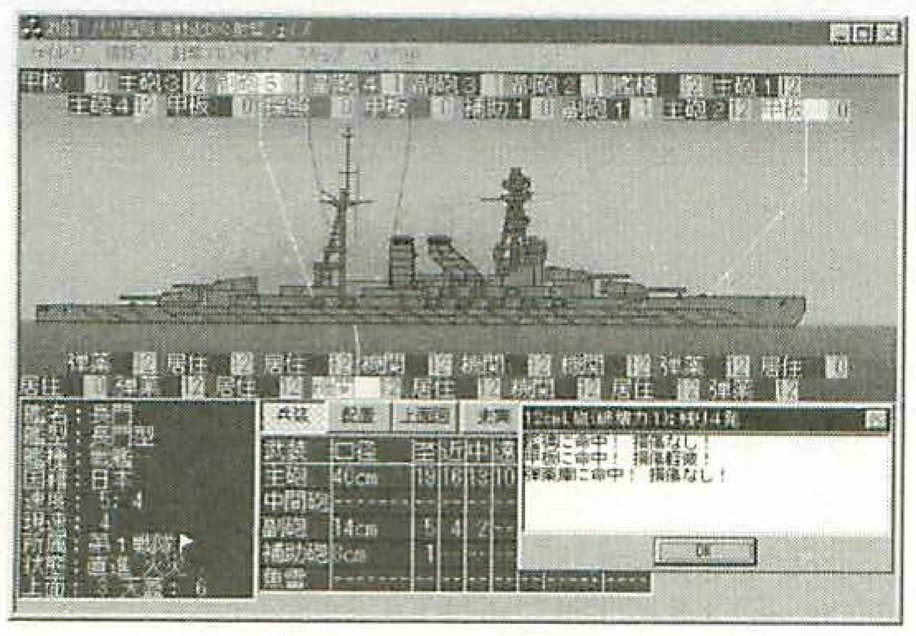
GAME

激闘！八八艦隊海戦史ＤＸ（ジュトランド海戦付）

ジェネラル・サポート 発売　12月28日発売予定
価格9800円（税別）
Windows95/98/Me/2000　対応







海を制するものが世界を制する

『激闘！ソロモン海戦史DX』の続編。ワシントン軍縮会議が決裂し、日本海軍の八八艦隊が完成していたら?という前提の下、連合艦隊が夢見た日米艦隊決戦などをシミュレートするゲームだ。

艦船の兵装や構造は、主砲、副砲に加え補助砲や砲塔配置位置まで再現し、艦船マニア納得の出来。天候、波高、弾丸の落下角など前作にはなかった要素も加わり、さらにリアル度がアップしている。史実では無念にも航空機に沈められた艦船たちを、夢の艦隊決戦で大暴れさせよう。

コマンチ4

マイクロマウス 発売
価格8800円＋税
Windows98/Me/XP 対応









次世代攻撃ヘリ、コマンチ出撃！

世界中で大ヒットしているヘリアクション「コマンチ」シリーズの4作目。最新鋭のステルス偵察攻撃ヘリ・コマンチを駆って20以上の多彩なミッションに挑もう。

グラフィックはより美しく滑らかになり、水面に映る機体や一本一本生えている木などはゲームとは思えないほどのリアルさだ。操作も簡単で、手軽にエキサイティングなヘリの機動と戦闘を体感することができる。

ヘリの真髄「サーチ＆デストロイ」を実感できる、攻撃ヘリファンはぜひプレイしておきたい快作だ。

過去の名作紹介　VMB-162 戦果ファイル

超音速攻撃ヘリ エアーウルフ



出演 ジャン・マイケル・ビンセント、アーネスト・ボーグナイン

CIAの攻撃ヘリは化け物か?!

CIAが20年の歳月と10億ドルの費用を投入して完成させたハイテクヘリコプター「エアーウルフ」の活躍を描いたテレビシリーズ作品。80年代中期に日本でもオンエアされ好評を博した。オープニングに流れるBGMが非常に印象的な佳作となっている。

エアーウルフは2基のターボシャフトエンジンを備え、ブースター発動時には最高速度が音速を軽く超える。また、14種類もの火器と緊急回避用のチャフ、フレアーを装備している。

各エピソードは、エアーウルフがその圧倒的な性能をもって敵を駆逐するという展開がほとんどだが、「いかにしてエアーウルフに乗り込むか?」と点には、毎回様々な工夫が凝らされている。

キャストは、ベトナム帰りのテストパイロット、主人公ホーク役にB級映画でおなじみジャン・マイケル・ビンセント。頼れる相棒ドミニク役には名優アーネスト・ボーグナインが扮し、しっかりと脇を固める。ちなみにベースとなったヘリはベル222だ。

現在、英語圏ではDVDが発売されているが、日本国内ではDVD、ビデオなどは発売されていない。一刻も早い日本語版DVD化が待たれるところだ。

MAGAZINE & BOOK

空母零（ゼロ）戦隊

文藝春秋 刊
岩井勉 著
価格514円＋税
文庫版（382p）



叩き上げ零戦エースの戦い

太平洋戦争で零戦の搭乗員として各地を転戦、総数15機の敵機を撃墜したエース・岩井勉中尉。彼が記した空戦記が新版になって発売された。

零戦のデビュー戦で活躍し、空母「瑞鳳」の艦戦隊として南方を駆け、ラバウル、フィリッピンでは基地航空隊とともに戦い、内地の基地で終戦を迎えた岩井中尉。彼のパイロットとしての青春が、類まれな記憶力、表現力によって傑作戦記に昇華している。

開戦劈頭の圧勝と、戦友を次々に喪っていく大戦後半の対比に胸が詰まる。またF6F、P-38等との手に汗握る空戦の描写も秀逸だ。

飛行機プラモカタログ 2002

イカロス出版 刊
価格2000円＋税
A4版（154p）



プラモ審査隊の兄貴分

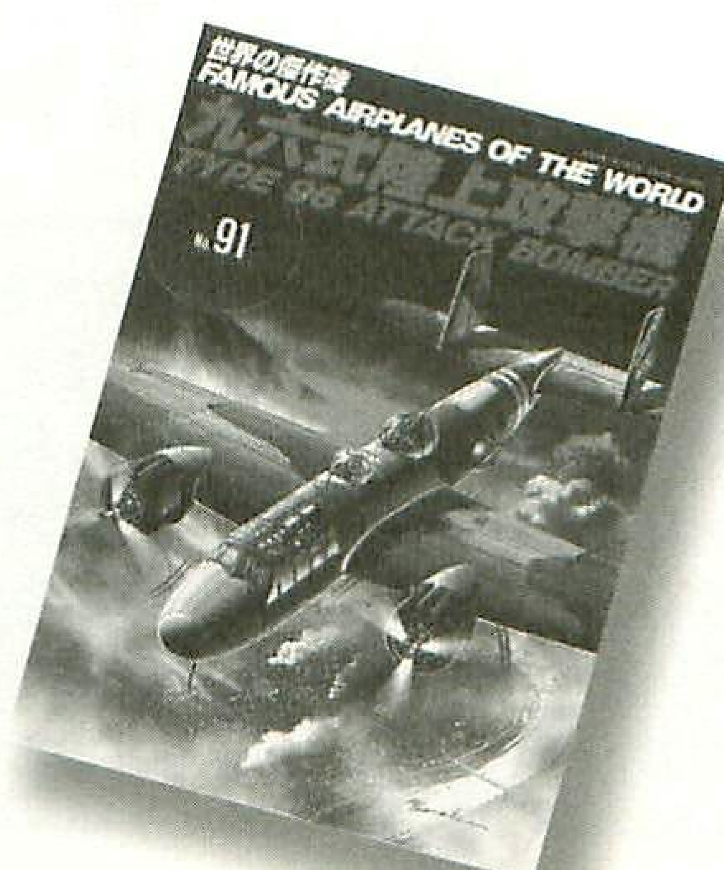
手前味噌といわれるかもしれないが、国内で入手できる飛行機プラモデルをほとんどすべてカタログ化している本は本書しかないので、紹介させていただく。

恒例になっているカタログでは、国内外2316点の飛行機プラモを一挙に紹介。これで見つからなければ諦めてもいいといえるほどのボリュームだ。特集ではソ連機、零戦、F-2など人気機種の実機紹介＆プラモ制作を行っている。

応募作品を192点、またJMC作品を全機紹介するなど、一般モデラー作品誌上展示会の様相も呈しており、飛行機モデラーには必須の一冊。

世界の傑作機 No.91 九六式陸上攻撃機

文林堂 刊
価格829円＋税
B5版（88p）



日本の「戦略重爆」、中攻を解剖

長大な航続距離を持った双発重爆撃機として、日本軍重爆撃機のその後の流れを決定付けた「中攻」こと九六式陸上攻撃機。後継機の一式陸攻に比べれば地味ではあるが、間違いなく日本航空史に名を残す機体である。

日中戦争では戦略爆撃ともいえる渡洋爆撃を行い、マレー沖海戦では戦艦二隻撃沈の大戦果を上げた中攻。しかし大戦後半は新鋭機の行き渡らない部隊で使用され、苦戦はまぬがれ得なかった。本書では中攻の辿った栄光と挫折の生涯を、珍しい写真や豊富な図面で解説している。

第2次大戦 歩兵小火器

並木書房 刊
ジョン・ウィークス 著
床井雅美 編訳
価格1800円＋税
四六版（294p）



戦場の真の主役・歩兵と小火器

いくら軍用機や戦車、火砲などが発達したところで、都市を占領し戦争の勝敗を最後に決めるのは歩兵だ。第二次大戦時、そんな歩兵と運命をともにした小火器を徹底的に紹介しているのが本書である。

欧州戦線で使用されたものを中心としたライフル、マシンガン、サブマシンガンなどの解説を、実戦に参加した著者がエピソードも交えて著述。また、小火器の権威が編訳を行っているので、原著よりも詳しい知識を得ることができる。歩兵が好きな人にとっては望外の喜びだろう。



第42回 リクルート・プリーズ

めざせ自衛隊パイロット

陸上自衛隊の航空機パイロットになるには

航空自衛隊、海上自衛隊のパイロットになるための方法には、航空学生、防衛大学校、一般幹部候補生の3つがあった。では、「航空学生」の制度のない陸上自衛隊のパイロットになるにはどんな方法があるのだろう?

部内選抜者が進む陸自の「陸曹操縦課程」とは?

自衛隊パイロットの募集というと、航空自衛隊、海上自衛隊の文字を目にすることが多い。では、陸自のヘリパイになるにはどんなコースがあるのだろう? そんな疑問をもつ人もいるだろう。

陸上自衛隊では、航空自衛隊や海上自衛隊の「航空学生」に相当するパイロット専門コースは設けていない。防衛大学、一般大学から幹部候補生課程へと進み、さらにパイロットコースを選択する道があるのは空自、海自と同じだが、そのほかは「部内選抜」、すなわち一般隊員の中からパイロット志望者を選抜するシステムを設けているのである。つまり、陸自のパイロットになるコースには、大卒の幹部候補生が進んでいくコースと、この陸曹コースの大きく2種類があるということだ。

部内で選抜された隊員が進むのは「陸曹航空操縦士課程」と呼ばれるパイロット養成コースで、

「部内選抜」➡「英語等の基礎教育(約9カ月/宇都宮分校)」➡「陸曹航空操縦課程/OH-6D(宇都宮分校)」➡「陸曹航空操縦課程/OH-6D(宇都宮分校)」または「陸曹航空操縦課程/UH-1(宇都宮分校)」➡「部隊における練成訓練」➡「必要に応じて実施する機種転換教育」

という流れになっている。

陸上自衛隊のパイロット養成にこうした特別なプロセスがある背景には、陸上自衛隊の場合、主力は陸上部隊であり、航空部隊のパイロットも陸上部隊と密接に連携しながら任務遂行にあたることが要求されるため、パイロットには陸上部隊経験者が多いほうがチームワークを形成しやすいということがある。

では、防大、幹部候補生など大卒者を対象とした募集を目指す以外に、どのような形で陸上自衛隊に入隊することができるのだろう?

自衛官の階級は2士↓1士↓士長↓3曹↓2曹↓1曹↓曹長…という順に上がっていくのだが、「陸曹航空操縦課程」の部隊選抜を受けるのは「曹」クラス。陸自の隊員募集には、2等陸士、曹候補士、一般曹候補学生などのコースがあるが、これら曹クラスを目指せる募集を選ぶのもひとつの方法だ(どの募集を選ぶかは自分の進路希望をよく考えて結論を出そう)。ちなみに一番早く「曹」の最初の階級である「3曹」からスタートできるのは、陸自の「一般曹候補学生」だ(空自、海自にもこの募集はある)。

もちろん、3曹になればすなわち陸自のパイロットになれるわけではない。パイロットになるには、入隊後、部内選抜が行われる時にパイロットを志望し、適性や身体条件など選抜に残る素養を身につけていることが必要になる。長い道のりとなることを覚悟の上で臨みたい。

読者のお手紙から

9月に「2等陸士募集」を受験してから約2カ月、待ちに待っていた合格をもらえました。高校を卒業したら入隊することになりました。しかし、大変なのはこれからです。入隊したらまず教育隊へ行き、6カ月の教育を受けるのですが、この時期がもっとも辛い期間だそうです。ですが、自衛隊に入隊してやりたいことがあります。航空課程に進み、対戦車ヘリコプター(AH-1Sや次期戦闘ヘリであるAH-64D)のパイロットになり、日本の防衛に務めることです。航空機が好きということと、人の役に立ち、やりがいのある仕事をしたいと思っていたので、絶対にこの目標を実現できるようにがんばりたいと思います。　栃木県/中村恭敏さん

おめでとう!祝合格

自衛隊リクルート窓口〈全国の自衛隊地方連絡部〉

札幌	☎011(631)5471	埼玉	☎048(831)6043	三重	☎059(228)4722	香川	☎087(831)0231
函館	☎0138(53)6241	千葉	☎043(251)7151	滋賀	☎077(524)6446	愛媛	☎089(941)8381
旭川	☎0166(51)6060	東京	☎03(3260)0543	京都	☎075(211)3471	高知	☎088(822)6128
帯広	☎0155(23)5882	神奈川	☎045(331)4945	大阪	☎06(6942)0542	福岡	☎092(781)0361
青森	☎017(776)1594	新潟	☎025(229)3232	兵庫	☎078(331)9896	佐賀	☎0952(24)2291
岩手	☎019(623)3236	山梨	☎055(253)1591	奈良	☎0742(23)7001	長崎	☎095(826)8844
宮城	☎022(295)2611	長野	☎026(233)2108	和歌山	☎073(422)5116	大分	☎097(536)6271
秋田	☎018(823)5404	静岡	☎054(261)3151	鳥取	☎0857(23)2251	熊本	☎096(366)1271
山形	☎023(622)0712	富山	☎076(441)3271	島根	☎0852(21)0015	宮崎	☎0985(53)2643
福島	☎024(546)1920	石川	☎076(291)6250	岡山	☎086(226)0361	鹿児島	☎099(253)8920
茨城	☎029(231)3315	福井	☎0776(23)1910	広島	☎082(221)2957	沖縄	☎098(866)5457
栃木	☎028(634)3385	岐阜	☎058(232)3127	山口	☎083(922)2325		
群馬	☎027(221)4471	愛知	☎052(331)6266	徳島	☎088(623)2220		



このページに対する質問、お問い合わせをハガキに書いてお送りください。

パイロットになるための「?」にお答えします。

〒162-8616 神楽坂Kビル
イカロス出版(株)
JWリクルート係

なんでもかんでも、
ちょっといっぷく、
いらっしゃ〜い!!

Café de J（ジェイ）

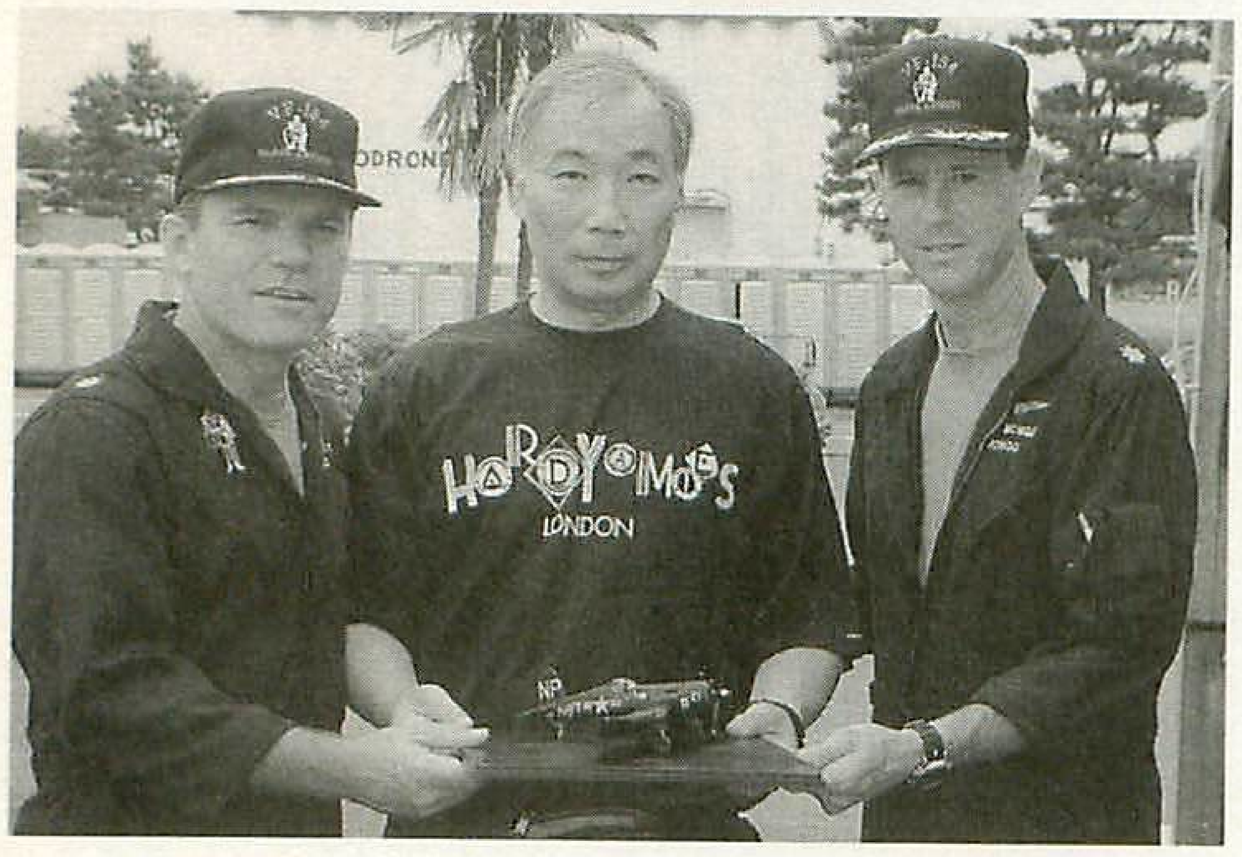
[Café de J]は、Jウイング読者の交流の場として、情報交換の場として、どしどし利用してくださいっ! 読者の声やイラストも受け付けていますので、ご愛用ください。

お寄せいただいたコメントはできるだけ原文のまま掲載いたしますが、一部加筆・修正させていただく場合もございます。また、原稿や写真の返却は致しかねます。あらかじめご了承ください。

投稿は…

郵便の場合
〒162-8616　神楽坂Kビル
イカロス出版
Jウイング「Café de J」係
メールアドレス
JDZ04376@nifty.ne.jp





ブルー隊長とブラックナイツ隊長にプラモ進呈!

私共模型サークル「ききょうや」は下記の通り活動を行いました。

松島基地において松長会長が、ブルーインパルス飛行隊長渡邊2佐に1／48歴代ブルー機（F-86、T-2、T-4）を進呈し、ブルーパイロットの方々との会談や基地見学を行いました。

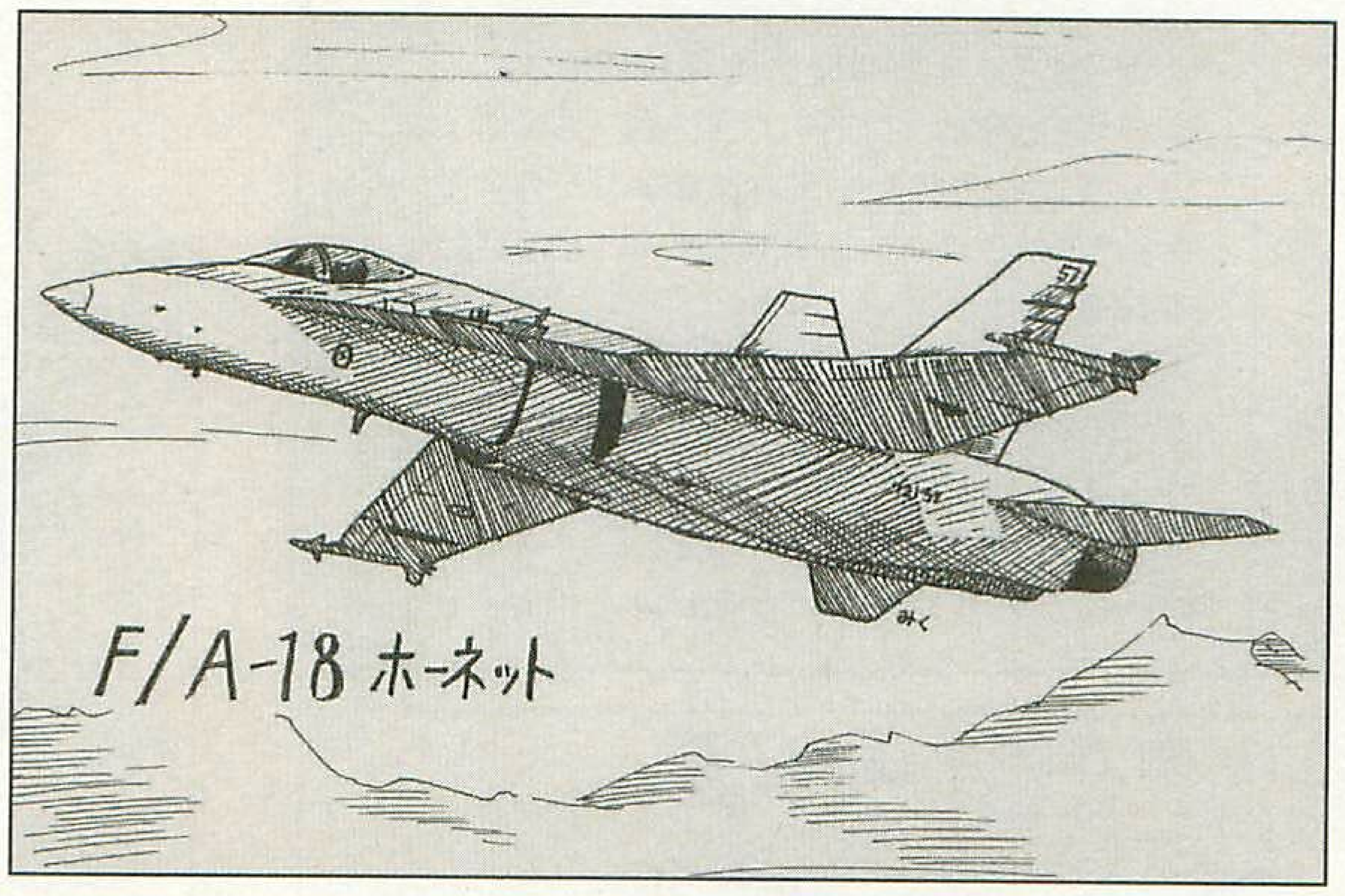
特に渡邊隊長は86セイバーブルーがお気に入りのご様子で、わざわざ応接間での進呈式、そして資料館への保存展示をしていただきました。これからのブルー復活と、さらなる躍進を期待しております。

また、厚木基地においては樋口会員がVF-154"ブラック・ナイツ"飛行隊長ポール・モンガー中佐に1／48コルセアを進呈。特に副長の父親がコルセア乗りということもあって、むしろトムキャットよりも喜んでいただきました。こちらもパイロットの方々が集まり、楽しい親睦会が開かれました。

私達「ききょうや」は、今後とも模型を通じていろんなジャンルへと躍進し、様々な方との交流を深めていきたいと思っています。

大阪府　「気狂家」会長　松永富夫さん

編…実機パイロットの方々に作品を見ていただくなんて、モデラー冥利に尽きますね。これからも皆を喜ばせるようなプラモの制作、頑張ってください!



美久29さん

いろんな軍用機が見たいです!

Jウイングのスタッフの皆さんこんにちわ!いつも楽しく読んでいます。Jウイングも創刊からだいぶたちますが、もっと航空自衛隊や戦闘機以外の特集をやってもらえないでしょうか。

たしかに人気からいえば航空自衛隊や戦闘機ですが、軍用機を運用しているのは空自だけではありません。飛行機も戦闘機だけではありません。空自に限っていえば、毎月特集をやっているようなものです。空自と同じ位、陸自や海自の航空部隊の紹介や特集をやってほしいです。できれば海上自衛隊のヘリ搭載護衛艦と、艦載ヘリとのデッキオペレーションの特集を期待しています。（1月号の空母と艦載機のようなかんじで、無理であればJシップスの方でお願いします）

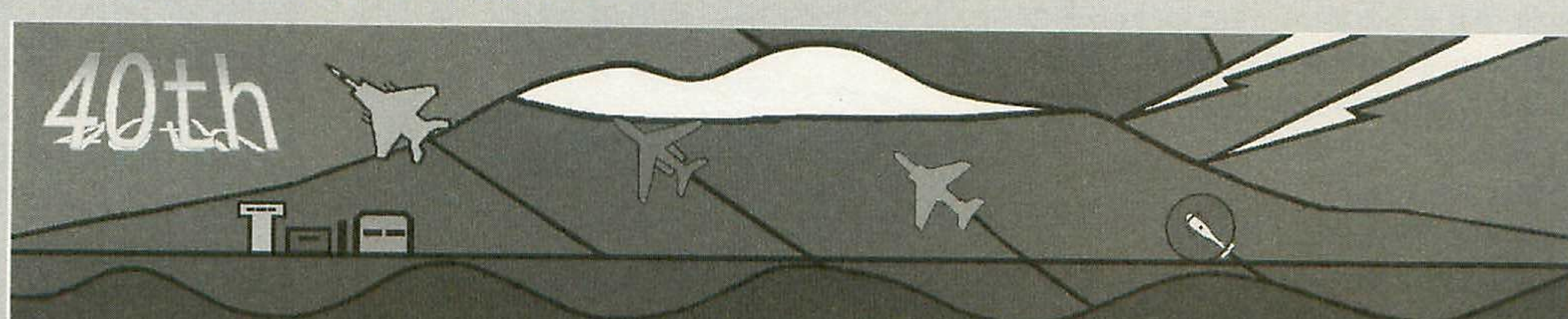
スタッフの皆さん、風邪などひかずにこれからも頑張ってください!

青森県　P.N・Jウイング　ファン一同さん

編…海自のヘリやP-3、陸自のヘリ部隊も地味ですが頼もしいですよね

小松基地開庁40周年記念基地壁画イラスト 優秀賞決定!

当コーナーでも募集した、航空自衛隊小松基地開庁40周年記念壁画の優秀作品が決定しました。
優秀賞は北海道札幌市　武田哲子さん（50）。
受賞作は
●冠雪した白山／冬場の雷　●日本海の荒波　●青い夏空　●小松基地所属航空機
を表現しています。
多くのご応募、ありがとうございました。



銀賞：5名、賞金10万円
銅賞：10名、賞金1万円
佳作：50名、記念品
キヤノン賞：1名、EOS3（ボディ）＋EF28-105mmF3.5-4.5Ⅱ USM（レンズ）
■スナップ部門
金賞：1名、賞金10万円および航空券
銀賞：5名、賞金5万円
銅賞：10名、賞金5千円
佳作：50名、記念品
キヤノン賞：1名、EOS KissⅢ（ボディ）＋EF28-80mmF3.5-5.6V USM（レンズ）
主催：「空の日」・「空の旬間」実行委員会
主管：財団法人日本航空協会
協賛：キヤノン販売株式会社 キヤノンクラブ、日本航空株式会社、全日本空輸株式会社、株式会社日本エアシステム

航空科学博物館からのお知らせ

◎航空機模型展開催

自作の航空機模型（プラモデル・その他）を広く一般の方々から募集し展示します。優秀作品には各種の賞が準備されているほか、応募者全員に参加賞として自作の撮影写真が進呈されます。
募集期間：2002年1月1日（火）～1月31日（木）
展示期間：2002年3月1日（金）～3月31日（日）
部門：ジュニアの部（高校生まで）…
　作品寸法30cm角以内
　シニアの部…1/72スケールまで、
　ジオラマの場合は30cm角以内
展示会場：航空科学博物館2F展示室
問い合わせ　℡ 0479-78-0557
ホームページ
http://www.aeromuseum.or.jp/

所沢航空発祥記念館からのお知らせ

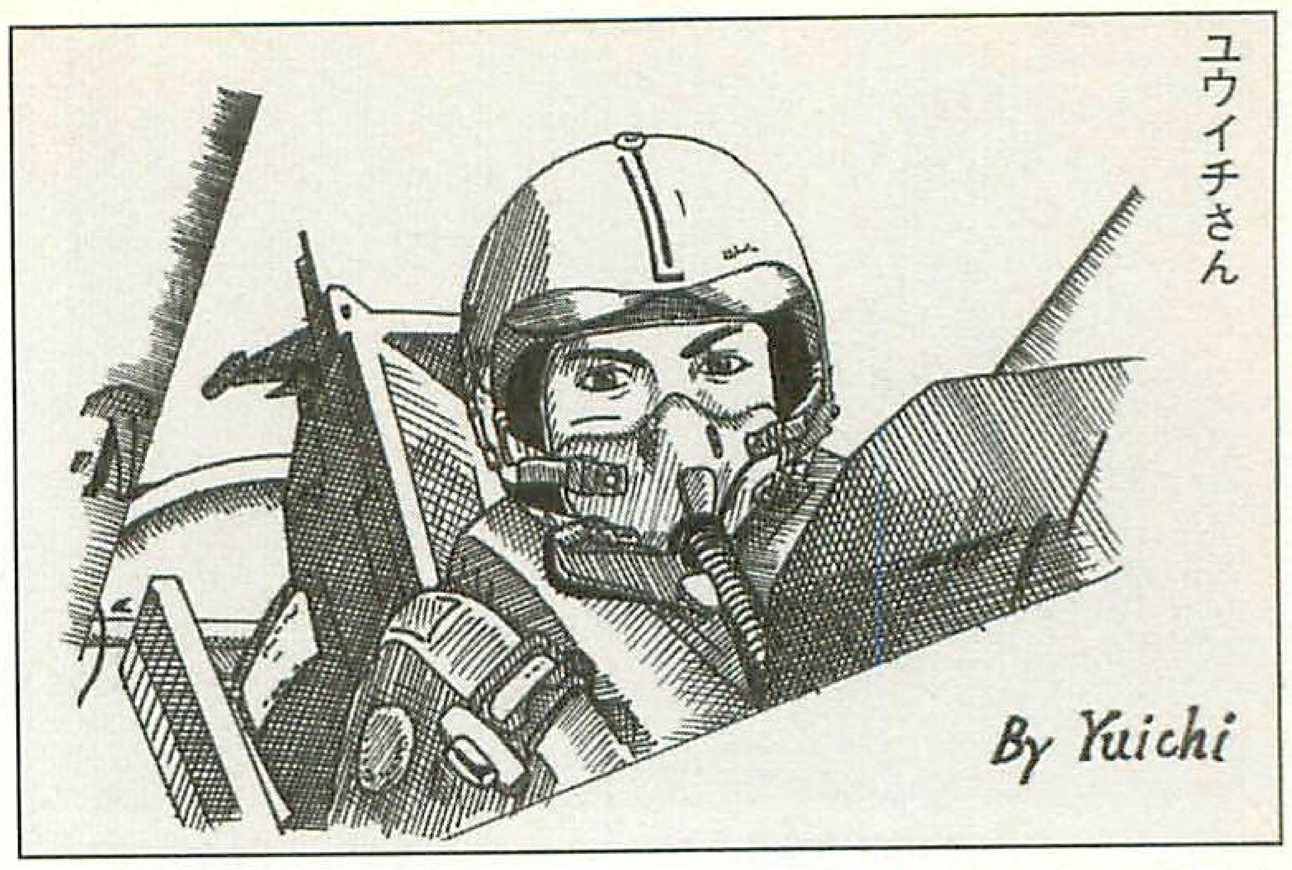
◎公開講座の開催

所沢航空発祥記念館が定期的に開催している公開講座で、一般の人達を対象に航空に関する知識の普及を目的としています。2月の講座内容は以下の通りです。

（1）講座名「日本のジェットエンジン開発の歴史―ネ-20から現在そして未来」
日時：2002年2月2日（土）13時～15時
会場：所沢航空発祥記念館・研修室
内容：日本初のジェットエンジン「ネ-20」から50数年の間に開発されてきたジェットエンジン、そして今後開発されてゆく夢のジェットエンジンまでを分かりやすく解説する
参加定員：60名（応募者多数の場合は抽選）
参加費：無料
応募方法：往復ハガキに講座名、住所、氏名、年齢、電話番号を明記のうえ、1月24日（必着）までに申し込む

（2）講座名「C-46とC-1輸送機のよもやま話」
日時：2002年2月16日（土）13時～15時
会場：所沢航空発祥記念館・研修室
内容：輸送機として活躍したC-46、そしてC-1について機体の特徴や運用方法などを紹介する
参加定員：60名（応募者多数の場合は抽選）
参加費：無料
応募方法：往復ハガキに講座名、住所、氏名、年齢、電話番号を明記のうえ、2月7日（必着）までに申し込む
問い合わせ　℡ 042-996-2225
ホームページ http://tam-web.jsf.or.jp

ユウイチさん



！　読者の皆さんのご要望が強まれば海自、陸自航空の特集もあるかも…？

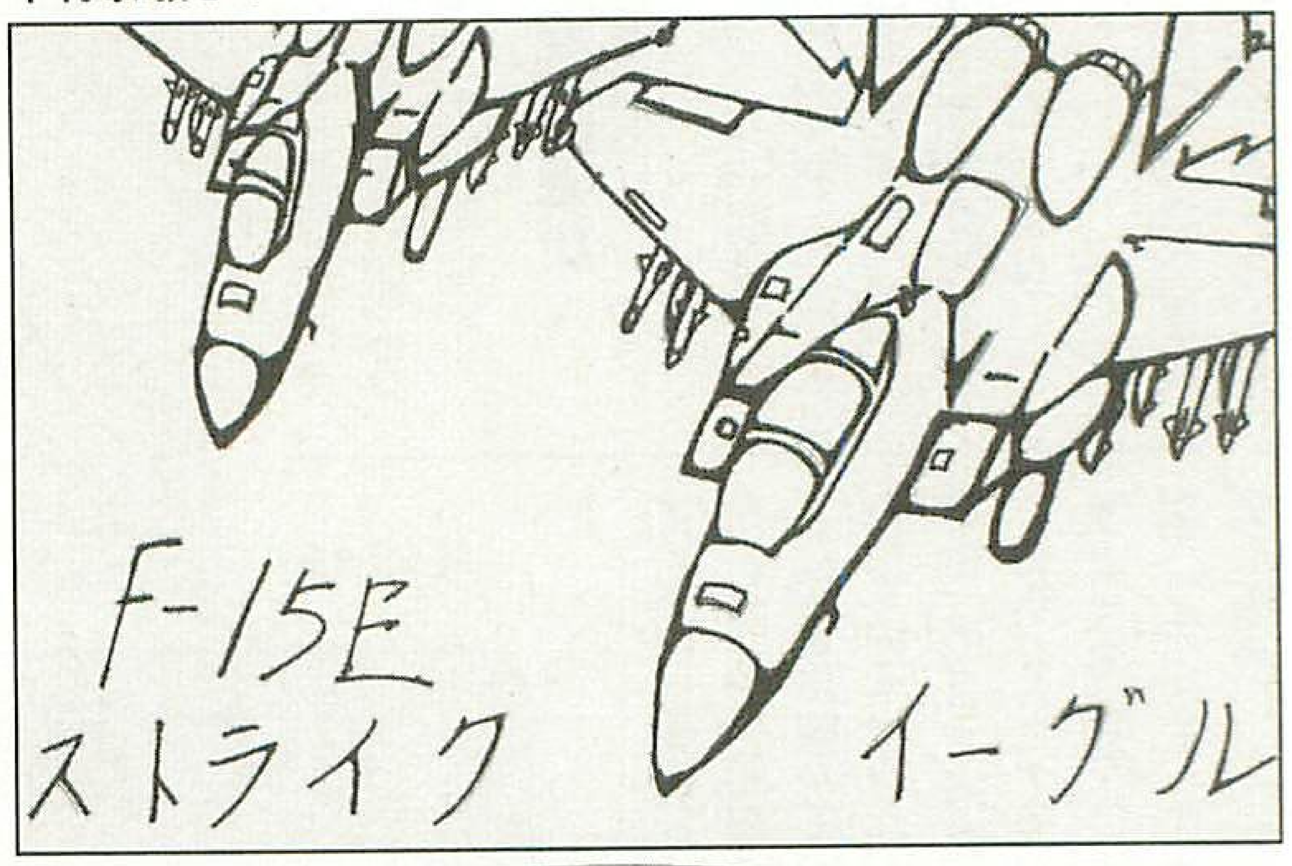
撃墜マークが好きですッ！

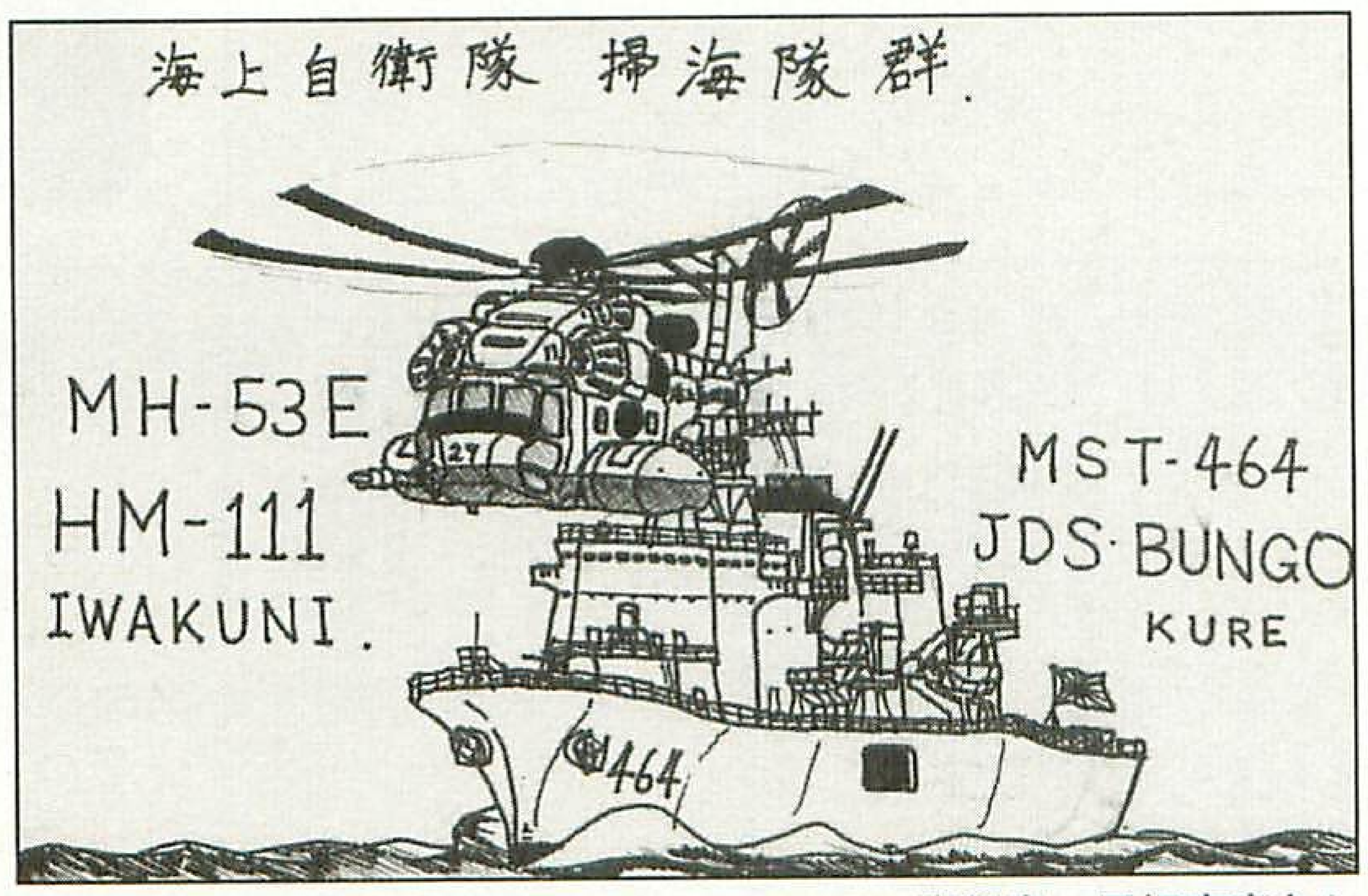
こんにちは。いつもJウイング読んでます！
さて、自分は現用機も好きなんですが、どっちかつーと大戦機が好きっス。何でかって言うと色んな撃墜マークが付いてる機体があるからです。語弊があるかもしれないですけど撃墜マークには「男のロマン」っていうのがあるじゃあないですか。Jウイングじゃ厳しいかも知れないと思いますが、今度撃墜マーク特集とかやってくれないでしょうか？　お願いします！

山形県　P.N.・鴛淵保彦さん

編…たしかに撃墜マークがついている大戦機にはヒロイックなものがありますよね～。ちなみに編の好きなのは何といっても吉田好雄大尉機のB-29撃墜マークですね！

栃木県
中村恭敏さん



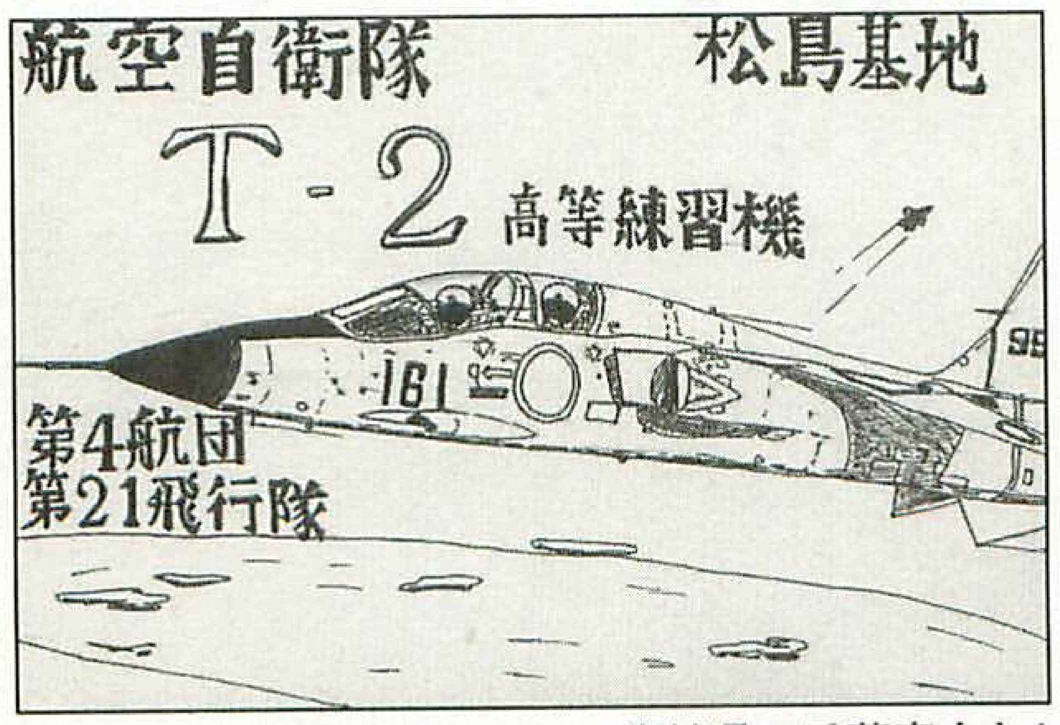


京都府　尾坂直喜さん

For sale & Wanted

●「エアワールド」誌バックナンバー売ります

エアワールド：1984年、1985年、1986年、1988年、1990年、1991年（いずれも全12巻揃い）、1992年（9月号のみ抜け）、1993年（11月号のみ抜け）、1994年～1998年（全揃い）、1999年（9月号のみ抜け）、2000年（全揃い）｛いずれも汚れ、切り抜きなど一切なし｝
●金額：1年分3000円
（抜けがある年度分は1500円）
●連絡は郵便にて
〒243-0813　厚木市妻田東1-10-33
リバーサイド3-201　井川進也



宮城県　千葉真大さん

アナタの力作年賀状を送ってください！

年賀状ギャラリー開催のお知らせ

恒例になった『J読者年賀状ギャラリー』を次号の2002年3月号（1月21日発売）で行います。締め切りの都合上、1月5日までの到着分までとさせていただきます。掲載の際にペンネームをご希望の方は「ペンネーム希望」の旨も併記してください。たくさんのご応募お待ちしています！
みんなのすごい年賀状、待ってますぜ！

エアボーン・インフォメーション

静岡ホビーショー モデラーズクラブ合同作品展のお知らせ

静岡模型教材協同組合では来る平成14年5月の静岡ホビーショーにおいて、毎年恒例となったモデラーズクラブ合同作品展を開催します。

静岡ホビーショー第13回 モデラーズクラブ合同作品展概要

●主催
静岡模型教材協同組合（株式会社青島文化教材社・株式会社ハセガワ・株式会社タミヤ）

●期日
平成14年5月18日（土）・19日（日）（静岡ホビーショー・一般公開日）

●会場
静岡ホビーショー会場（ツインメッセ静岡）

●展示時間
午前9時より午後5時（19日は午後4時）

●作品搬入
5月17日（金）午後6時から午後10時（予定）、18日（土）午前6時30分から午前9時（予定）

●出展作品分野
プラスチックモデルに限らず、模型であればジャンルは問いません。ただし一部の成人向けフィギュアなどの展示はお断りする場合がございます。

●フリーマーケット
今回、会場スペースの関係によりフリーマーケットは開催いたしません。また展示ブースなどでの物品販売もできません。

●交流パーティーの開催
恒例の各クラブ員とメーカー関係者による交流会を今回も18日（土）の展示終了後、17:30～19:00頃の予定で開催いたします。参加費は無料、飲み物と軽いスナックを用意いたします。お気軽にご参加ください。

●参加申し込み
平成14年1月31日（金）までにお願いいたします。但し会場スペースの関係上、参加希望クラブが95クラブを超えた場合、1月31日以前でも申し込みを締め切らさせていただく場合がございます。なお、3名以上のクラブ単位でお申し込みください。

●お申し込み、お問い合わせは
〒422-8610　静岡市恩田原3-7　(株)タミヤ
TEL054-283-0004
メディア情報課　吉岡・平田まで

航空フォトコンテスト 開催のお知らせ

民間航空再開50周年記念 航空フォトコンテスト

平成14年は民間航空再開50周年にあたります。

「空の日」・「空の旬間」実行委員会は、これを記念して航空を題材とした写真コンテストを開催します。航空機とそのドラマを、感じるままに切り取ってご応募下さい。美しい写真、迫力ある写真、そして見る人が思わずほほえむような楽しい写真をお待ちしています。

●テーマ
国内・海外の航空（民間航空、スカイスポーツ、航空機工業等全てを含む）を題材とした作品。

●募集作品
一般部門…航空の魅力を表現した写真
スナップ部門…航空とその周辺の雰囲気を伝えるスナップ写真

●募集期間
平成13年10月1日（月）～平成14年5月31日（金）必着

●送り先
〒105-0004
東京都港区新橋1-18-2
(財)日本航空協会　航空フォトコンテスト係
TEL.03-3502-1206
FAX.03-3503-1375

●審査員
青木勝（写真家・日本航空協会評議員）
松本零士（漫画家）
山康博（航空写真家）

●入賞発表
平成14年6月予定（入賞者には直接、ご連絡いたします。）

●作品展示
平成14年夏より、主要空港ターミナルビルにて、展示の予定。

●作品掲載
「空の日」「空の旬間」ホームページおよび「キヤノンサークル」誌（キヤノン販売株式会社）にて掲載予定。

●賞
■一般部門
金賞：1名、賞金20万円および航空券

飛行機プラモカタログ2002からの訂正です

弊社刊行の「飛行機プラモカタログ2002」文中におきまして、下記の部分に誤りがありました。
75ページ、模型立県静岡…の部分で「年間売上高約2000億円」となっていますが、正しくは「年間売上高約200億円」です。
関係者及び読者の皆様には、大変ご迷惑をおかけしました。この場をお借りしてお詫び申し上げます。

訂正します

Jウイング1月号
●9ページ、「LIMA'01」の記事にクレジットが入っていませんでした。文と写真を提供してくださったのは山本晋介さんです。
●127ページ、「VMB-162 MEDIA HUNTERS」に記載の、「日本の名機 YS-11」の発売メーカーが表記されていませんでした。発売元は「TBS」、販売元は「ポニーキャニオン」です。
読者ならびに関係者の皆さまにご迷惑をおかけいたしましたことを、深くお詫びいたします。

Jウイングの買い方 1,2,3!

本屋さんに行ったら、[Jウイング]が品切れだった!という経験をした人は多いのでは? そんなときはこの方法を試してみて!

1 本屋さんで注文する



本屋さんで[Jウイング]が品切れだったら、店員さんに**「[Jウイング]○月号を取り寄せてください」**とお願いしてください。たいてい1週間ぐらいで取りよせてくれます。もともと[Jウイング]が置いてない本屋さんでも取り寄せてくれます。

2 コレクトサービス(代金引き換え)で購入する



イカロス出版のウェブサイトにアクセス!

http://www.ikaros.jp/

ホームページまたはFAXで注文ができます。商品お届け時に代金を払っていただく方法です。いちどアクセスしてみて!

※代引き手数料800円がかかります。

3 郵便振込・現金書留で購入する

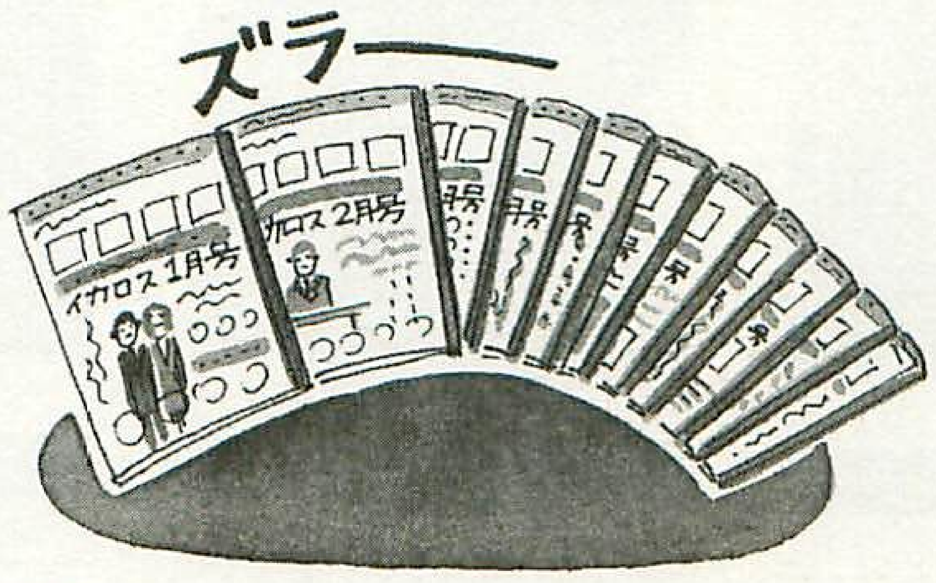


[Jウイング]巻末についている**青い振込用紙**にご注目。振込用紙の表面に必要事項を記入の上、郵便局で振り込みます。または、ご希望の月号を書いたメモを同封して、現金と一緒に現金書留で送ってください。[Jウイング]最新号だけでなく、バックナンバー・その他の書籍も購入できます。

※送料は、バックナンバーのみをご注文の場合は、冊数にかかわらず一回につき100円です。

定期購読もおすすめ!

毎月確実に[Jウイング]をゲットしたいなら定期購読がおすすめ。
年間購読料は1万5000円(税・送料込)。



●お問い合わせ
イカロス出版販売部
TEL03-3267-2766　FAX03-3267-2772
〒162-8616
東京都新宿区神楽坂3-2　神楽坂Kビル

※場所によっては発売日に届かないことがあります。ご了承ください。

4 ショップ「のりもの倶楽部」で購入する

ショップ「のりもの倶楽部」なら確実にバックナンバーがゲットできます。「のりもの倶楽部」は、Jウイングのバックナンバーと、飛行機・ミリタリーをはじめ、趣味・就職ものの関連書籍から航空グッズ、洋書などもすべて揃っています。東京近郊の人だけに限られてしまうけれど、手にとってから買いたいという人にはおすすめ。

[のりもの倶楽部]
営業時間　平日11時～20時(土日祝祭日18時まで)　**木曜定休**

●年末年始　13年12月29日(土)・30日(日)　AM11:00～PM6:00
14年1月　2日(水)～4日(金)　AM11:00～PM6:00
14年1月5日(土)から平常営業

〒162-0825
東京都新宿区神楽坂2-16-1　軽子坂田中ビルB1階
JR飯田橋駅より徒歩2分　TEL03-3267-2724
http://www.ikaros.jp/shop/

Jwings・バックナンバー&定期購読のご案内

JWings Jウイング

毎月21日発売

年間購読料15,000円(送料・税込)

Jウイング1冊1,200円(税込)

(特別定価の号もありますのでご注意ください)

●本のお求め方法

■綴じ込みの青い郵便振替用紙

この振替用紙で、小社発行の本とビデオ、バックナンバー、年間購読(新規・継続)のお申し込みができます。青い郵便振替用紙の通信欄には、ご注文する書名を(バックナンバーは月号を)、金額欄には本の代金と送料の合計金額をご記入の上、切り取って郵便局でお振り込み下さい。入金確認次第、送本致します。

■現金書留

現金書留でもご注文できます。本の代金と送料の合計金額を、現金書留でご送金下さい。その際、住所、氏名、電話番号を忘れずに記入して下さい。ご注文する書名(バックナンバーは月号)と冊数を書いた紙(書式、紙の大きさは問いません)を現金書留に同封して下さい。入金確認次第、送本致します。

※発売日にお手元に届かない場合があります。

※恐縮ですが、いずれの申し込み方法でも、手数料はお客様負担となります。お申し込みの際、予めご了承下さい。

●送料について/Jウイングのバックナンバーは1回のご注文につき100円です。ただし、他の雑誌と組み合わせてお申し込みの場合は、1回のご注文につき300円となります。

●本の金額について/ここに表示している本の金額は消費税5%の税込価格です。

●お申し込み、問い合わせは 〒162-8616 東京都新宿区神楽坂3-2 神楽坂Kビル 郵便振替00100-1-62696 ✆03(3267)2766 イカロス出版(株)販売部

http://www.ikaros.jp/

●バックナンバーのお知らせ●



2001年 2月号

特別定価 1300円

<特集 マニアが撮った20世紀>戦後日本の空を飛んだ軍用機の全て/エアショー・チャイナ2000JSFX-32、X-35初公開!/総演2000/韓国空軍C-130H、CN-235M飛来/復活!がんばれ女性自衛官 他

<新年特別付録>
自衛隊カレンダー2001



3月号

1200円

<特集 マニアが撮った20世紀 自衛隊編>戦後日本の空を飛んだ軍用機の全て・自衛隊編(F-86の時代、F-104マルヨンの時代、F-4・F-15の時代)/世界のアクロバット飛行チーム/2001年飛行隊飛行始め 他

<綴じ込み付録>
航空自衛隊絵はがき



4月号

特別定価 1300円

<特集 戦闘機×誘導爆弾=狙った獲物は逃さない!>ヒストリー、テクノロジー、F-117A&ペイヴウェーⅢの威力、日本の誘導爆弾、誘導爆弾カタログ/ブルーインパルス飛行訓練再開!/さよなら、芦屋のT-1A/空自の2010年大胆予測 他

<別冊付録>
ミリタリー実用データブック



5月号

1200円

<特集 F-4ファントムは不滅!>徳永克彦空撮! Phantoms in The SKY、「戦闘機」ファントム、「攻撃機」ファントム、アメリカ本国以外のファントムⅡ、空自F-4EJ/EJ改の軌跡/オーストラリア・エアショー/エアロ・インディア2001/P-3C海氷観測ルポ/建国50周年記念インド国際観艦式/90式戦車の冬季迷彩 他



6月号

特別定価 1300円

<特集「新世紀」自衛隊>第22飛行隊解散記念行事、第3飛行隊F-1 ラストフライト

<特集 すすめ!我らのF-2!>三沢基地ルポ、ディテールチェック/ブルーインパルス待望のアクロフライト開始! 他

<別冊付録>
航空祭ウォッチングハンドブック



7月号

1200円

<特集 2001戦競前夜>熱気に満ちた飛行隊の戦競直前訓練を追う!、「戦競」を学習する<特集 秘密の翼・ブラック・プロジェクト>/ブルーインパルス4機でのアクロフライトスタート/ロック岩崎インタビュー 他



8月号

1200円

<特集 空飛ぶレーダーサイトAWACSとAEW>E-767空中警戒管制機とは?/空自浜松基地警戒航空隊・三沢基地第601飛行隊ルポ/最新AWACS E-767徹底解剖/E-3セントリーでAWACSを探検<特集「戦競01」>/F-4とF-15空の上の実力/熱血航空祭レポート 他



9月号

特別定価 1300円

<創刊3周年記念大特集 米軍嘉手納基地>第18航空団の全貌/戦闘飛行隊44FS&67FS/空中給油飛行隊909ARS/早期警戒飛行隊961AACS/航空救難中隊33RQS<特集 世界のエアショー&演習レポート> 他

<別冊付録>
ミリタリー実用データブック②



10月号

1200円

<特集「空中給油機」がやってくる!>空中給油機とは?/給油オペレーション/タンカーの歴史/空中給油機カタログ<特集 MiG-21>/ブルーインパルス松島基地訓練ルポ/WINGS2001/ロイヤル・インターナショナル・エア・タトゥー 他

<綴じ込み付録>
2001年戦競パチステ



11月号

1200円

<特集 ブルーインパルス2001>ブルーインパルス復活!松島基地第47回航空祭ルポ/新メンバー紹介/飛行展示課目全紹介/陸自新攻撃ヘリAH-64Dアパッチ・ロングボウ/富士総合火力演習レポート/モスクワ国際航空宇宙ショー/メイプル・フラッグXXXⅣルポ 他



12月号

1200円

<特集 これがアメリカ軍のミリタリーパワーだ!>アメリカ軍航空機・装備品カタログ/米空軍最強の翼F-15ストライクイーグル/特殊部隊とは?/<特集 F-15飛行隊最前線>/自衛隊の航空管制/陸自明野航空際ルポ/対タリバン攻撃詳報 他



2002年 1月号

特別定価 1300円

<特集 空母と艦載機に強くなる!空母キティホークとCVW-5>空母とCVWの関係、完全図解!デッキ・オペレーション、デッキクルーの種類と仕事、CVW-5の歴代CAG機カタログ/JSF速報X-35勝利!他

<別冊付録>
空自空撮カレンダー2002

▼徳永克彦写真集「HAWK/FIVE TEAM」・「イカロス出版の本」専用ご注文書

※イカロス出版の書籍・雑誌は
下記の用紙でご注文下さい。

キ リ ト リ 線

この受領証は、郵便局で機械処理をした場合は郵便振替の払込みの証拠となるものですから大切に保存してください。

ご注意

この払込書は、機械で処理しますので、口座番号及び金額を記入する際は、枠内に丁寧に記入してください。

また、下部の欄(表面及び裏面)を汚したり、本票を折り曲げたりしないでください。

(郵政事業庁)

■徳永克彦写真集「HAWK/FIVE TEAM」

1冊3400円(税込)・送料300円(冊数にかかわらず)

・この用紙のおもて面に必要事項をご記入の上、郵便局で払込み下さい。

■本のご注文方法

「イカロス出版の本　ラインナップ」で紹介した本のなかから、①ご注文する本の書名を通信欄に、②代金と送料の合計金額を金額欄にご記入下さい。払込人住所氏名欄も忘れずにお書き下さい。

※恐縮ですが、払込手数料はお客様負担とさせていただきます。

※払込通知が弊社に到着するまで7～10日位かかります。到着次第送本致しますので、あらかじめご了承下さい。

キ リ ト リ 線

▼徳永克彦写真集「HAWK/FIVE TEAM」・「イカロス出版の本」専用ご注文書

※イカロス出版の書籍・雑誌は下記の用紙でご注文下さい。

キ リ ト リ 線

払 込 取 扱 票

00	東京

口座番号（右詰めにご記入ください）	金額	千	百	十	万	千	百	十	円
00100－1－62696		※							

加入者名	イカロス出版株式会社	料金		特殊取扱	

通信欄

※ ●Jウイング年間購読のお申し込み　年間購読料15,000円（送料・税込）

年　月号より　1．新規　2．継続（前年度から）　会員番号 JW□□□□□□□□-□□

（バックナンバー・書籍等のお申し込み）

誌名

（　年・　月号）

写真集「HAWK/FIVE TEAM」

定価3400円・送料300円

（冊数にかかわらず）

・注文希望します。＿＿冊

※○で囲んで下さい。

払込人住所氏名

（郵便番号　　　）※マンション・アパート名もご記入下さい。

※

氏名

（電話番号　－　－　）

受付局日附印

裏面の注意事項をお読み下さい。（郵政事業庁）（私製承認東第19688号）

各票の※印欄は、払込人において記載してください。

キリトリ線

切り取らないで郵便局にお出しください。

記載事項を訂正した場合は、その箇所に訂正印を押してください。

払込票兼受領証

口座番号	00100－1
右詰めにご記入ください	62696
加入者名	イカロス出版株式会社
金額	千 百 十 万 千 百 十 円 ※
払込人住所氏名	※
料金	（消費税込み）　円
特殊取扱	

受付局日附印

のりもの倶楽部メールオーダー　お申し込み方法

◆お申込みは…

クレジットカード（DC、JCB、VISA、MASTER）払い、**宅急便コレクトサービス**での代引き配送（商品到着時に現金にてお支払い）の場合は、注文書（裏側）に必要事項をご記入の上、FAXにてお申込み下さい。（郵送でも、お申込みいただけます、この場合は必ず封書で、右記の宛先までお送り下さい）

なお、クレジットカードご利用は、5000円以上から（1回払い）とさせていただきますので、ご了承下さい。

現金書留の場合は、注文書・代金を同封の上、右記の宛先までお送り下さい。なお、普通郵便にて現金を送られますと郵便法に違反しますので、絶対におやめ下さい。

郵便振替の場合は、郵便局に設置してある振替用紙の通信欄に注文書と同様の事項をご記入の上、郵便振替口座（00110-2-86519）まで、お申込み下さい。

ご注文は、お電話や書店経由では承っておりませんので、ご注意下さい。

なお、小笠原と伊豆諸島（大島、八丈島は除く）では、宅急便コレクトサービスをご利用いただけませんのでご注意下さい。

＊注文書に書ききれない場合は、注文書のコピーでも結構です。

インターネットからオンラインでご注文できるようになりました。

詳しくは弊社Web Shop

http://www.ikaros.co.jp/shop/

をご覧下さい。なお、オンラインでのご注文はセキュリティの関係で「代引き着払い」方式に限らさせて頂いております。クレジットカードご利用の場合は引き続きFAXにてのご注文をご利用ください。

◆代金・送料は…

商品の価格はすべて消費税込みで表示してあります。また、お申込み最低金額は1000円以上とさせていただきます。送料は1回のご注文につき、特別な場合を除き、何個でも800円（北海道・沖縄は1000円）です。また、宅急便コレクトサービスでの代引配送料は、特別な場合を除き、1回につき1000円（北海道・沖縄は1200円）です。小笠原と伊豆諸島（大島・八丈島を除く）では宅急便コレクトサービスをご利用いただけません。

◆お届けは…

注文書が到着後、速やかに発送させていただきますが、お手元に届くまでに2～3週間程かかります。コレクトサービスの場合は、3週間以内にお届けが出来そうにない商品は、恐縮ですがキャンセルとさせていただきます。現金書留・郵便振替の場合には、注文されたうちのいくつかの商品が在庫切れになった場合は、1回ではお送りできませんので、後日2回目の発送を致します。できるだけそのようなことがないよう努力致しておりますが、メーカーの都合などにより、すぐにはお届けできないような場合には、恐縮ですがご返金（キャンセル）させていただく場合もあります。

◆返品・交換は…

配送中の事故等で商品に破・汚損があった場合や、お申込みと異なる商品が到着した場合は、交換致しますので、商品到着後、必ず1週間以内にご連絡下さい。また、お客様の都合により返品される場合も、商品到着後1週間以内に必ずご連絡下さい。ただし、この場合の返送料は、お客様のご負担となります。なお、書籍・ビデオ・CD・ゲームの返品は不良品以外お受けできませんのでご了承ください。

◆問い合わせは…

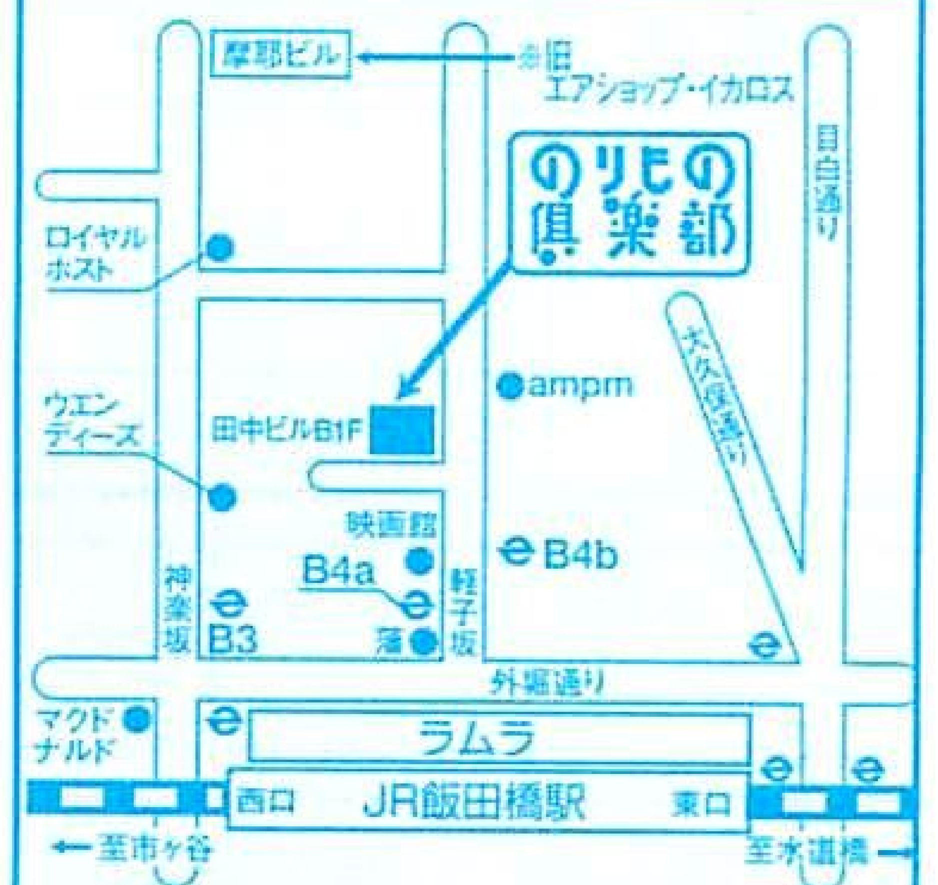
商品についてのお問合わせは、往復葉書または返信用切手を同封した封書にてお願い致します。

◆カタログ有効期限は…

本誌掲載カタログの有効期限は、カタログに記載してあります。ただし在庫のあるものに限りましてはその日以降も販売できる事がありますので、お問い合わせ下さい。

◆なお、ここに掲載された商品は、予告なしに仕様変更や価格変更することがあります。さらに販売予定個数に達した場合、販売を中止することもありますので予めご了承下さい。

のりもの倶楽部 お店のご案内



月～金　（11:00～20:00）
土・日・祝日（11:00～18:00）
毎週木曜日定休

○JR総武線「飯田橋」駅西口改札から徒歩3分
○地下鉄有楽町線・東西線・南北線・大江戸線「飯田橋」駅B4b出口から徒歩1分

通販のお申込先

〒162-8616
東京都新宿区神楽坂3-2
神楽坂Kビル
のりもの倶楽部
TEL　03-3267-2726
10:00～18:00（月～金）
FAX　03-5225-3136
（24h受付）

キリトリ線

キ－リ－ト－リ－線

▲のりもの倶楽部専用ご注文書

※のりもの倶楽部の商品は上記の用紙でご注文下さい。
下記の振込用紙ではご注文できません。

のりもの倶楽部通販専用注文書 （Jwings）

Eメール	

フリガナ お名前		男・女	生年月日 M・T・S・H　年　月　日
ご住所	〒　フリガナ 都道 府県		
TEL	ご自宅	連絡先	お申込日　平成　年　月　日

クレジットカード	○で囲んで下さい	DC　JCB　VISA　MASTER	会員番号		有効期限	年 月

No.	商品番号	商品名	サイズ/色	数量	価格	合計
1						
2						
3						
4						
5						
6						
7						
8						

発送方法		○印でご指定下さい。
送料		通常の発送 1回 800円(税込) 北海道・沖縄は1000円(税込)
		代引発送 1回1,000円(税込) 北海道・沖縄は1200円(税込)

・現金書留の場合は、この注文書を同封してお送り下さい。
・代引発送ご利用の場合はFAXか郵便でお送り下さい。

合計	
送料	
総合計	

キリトリ線

キ－リ－ト－リ－線

▲のりもの倶楽部専用ご注文書

※のりもの倶楽部の商品は上記の用紙でご注文下さい。
下記の振込用紙ではご注文できません。

のりもの倶楽部 当店が厳選したグッズを通販でお届け！

メールオーダーカタログ 2

IN STOCK NOW! 今月のイチオシ

2002・FEBRUARY

カタログ有効期限
平成14年3月31日

ユピテルMVT-7300

商品番号：800-00128YP
税込価格：31,500円

何から何までエアバンダーを念頭に置き、デザイン・設計された新世代レシーバー。これまでのMVTシリーズから受け継いだ高い受信性能と操作性に重点を置き、なおかつ情報化社会のニーズに合わせた設計により誕生したのが、このユピテルMVT-7300だ。
本体サイズも胸ポケットに納まる小型のボディ、だが詰め込まれた機能は超大型。エアバンドに必要な周波数、受信モード、受信ステップは完全フルカバー。受信周波数を選ぶだけで効率的な受信も可能。最大の特徴がVHFとUHFエアバンドの主要周波数のデータがあらかじめ登録されているので、周波数を調べなくとも即受信が開始できる。メモリーチャンネルは1000chを実装。バンク1は横田、バンク2は厚木、バンク3は嘉手納などといった効率的なメモリー内容の管理はもう常識。未知の周波数を探し出すスキャン機能も多彩なモードが搭載されている。タイマー機能も搭載され、より経済的な使い方も可能だ。また、メモリー内容を他のMVT-7300にコピーできるクローン機能もあり、友達のボディにそのままコピー、分担して入力すれば作業も楽チン。そしてサーチで見つけた周波数も最大50chまで自動的にチャンネルメモリー登録できるオートライト機能も搭載。別売りオプションとしてソフトケース、シガープラグコードも発売中。これまでのノウハウをフルに注ぎ込んだレシーバー、現行機種のリプレイスとして、新規導入機種としてどなたにもおすすめできる最新・最強のレシーバーだ。

【MVT-7300スペック】
受信周波数域：531kHz～1320MHz、面倒な設定がいらないプリセット機能(オートモード選択時)、デュープレックス受信機能、盗聴周波数（165ch）サーチ／テレビ音声チャンネル（1～62ch）サーチ、音声反転方式秘話解読機能、タイマー機能、クローン機能、ボディサイズ：60×120×32mm、重量：約310g(付属アンテナ、電池含む）

アルインコDJ-X5

商品番号：800-00095AL
税込価格：31,290円

聞きたい電波は逃さずキャッチ、0.1～2200MHzのワイドバンド受信。コンパクト、そして操作性を重視したハイセンスなデザインで大人気。ビギナーでもESYサーチモードで操作すれば携帯ラジオと同じ感覚で使え、聞きたい周波数を探して聞くことができる。そのESYサーチ機能とは希望の周波数帯に瞬時に移動し、自動で選局を行う優れた機能。メモリーチャンネルも最大1000チャンネル、10のバンクで管理するバンクメモリー機能を搭載。そしてアルインコオリジナルの9chチャンネルスコープは、電波を見ながら選局できる便利な機能だ。スキャンモードも充実していて、ターボ機能によりスキャンスピードもさらにアップ、狙った周波数を逃さない。コンパクトかつ多機能を求めるユーザーの方には最適のレシーバーである。

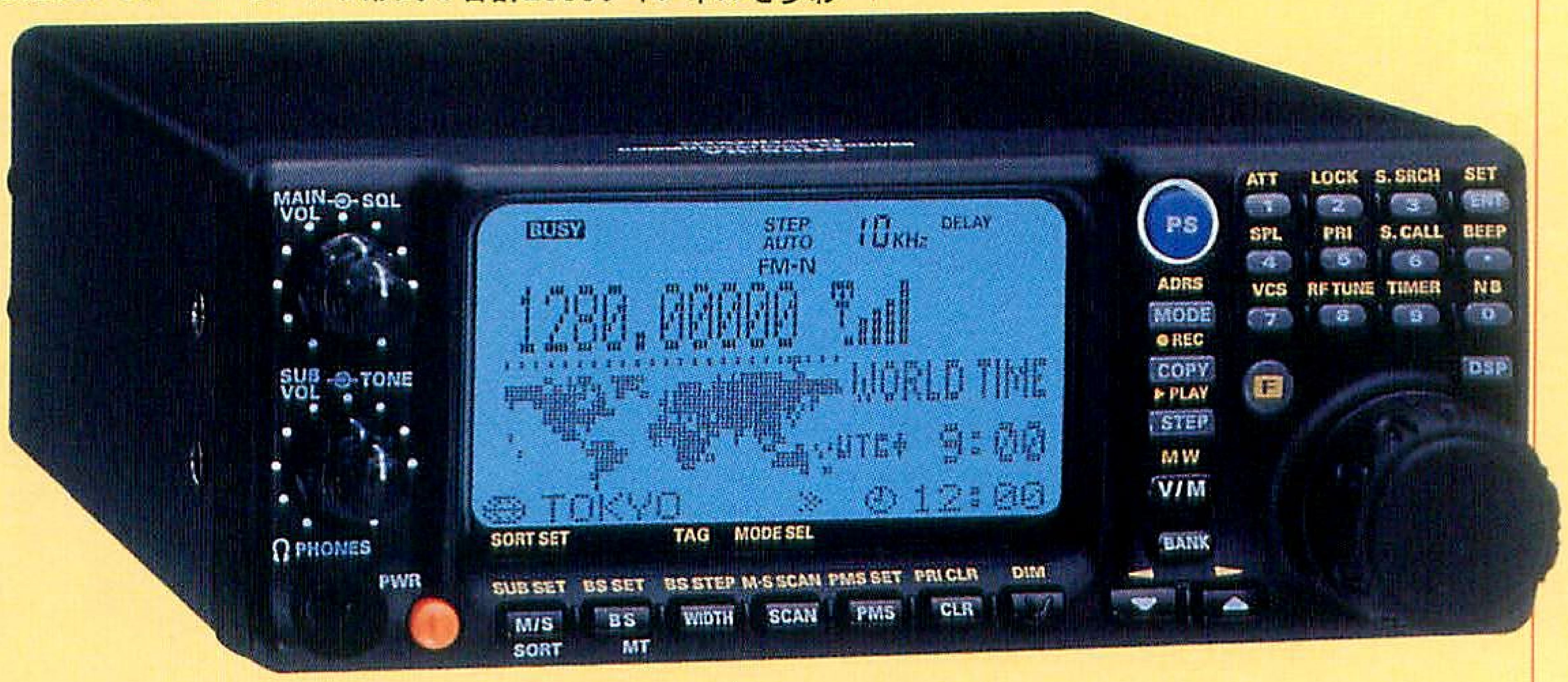
【DJ-X5スペック】
受信周波数域：100kHz～2000MHz、自動選局ESYサーチ機能搭載、9chチャンネルスコープ、ターボスキャン、10バンク1000チャンネルメモリー、本体サイズ：62×116×29mm、重量：約250g（付属アンテナ、電池含む）

VR5000 マルチバンドレシーバー

商品番号：800-00154SD
税込価格：83,000円

エアバンドだけではつまらない！　そこで登場した「遊べる」レシーバー。操作性抜群のプロ仕様通信型オールモードレシーバーに考えられる最新の機能を満載。主な機能としてオートステップ／オートモード機能、イージーオペレーションを追及、ワールドクロック機能など充実した時計／タイマー機能、未知の電波をビジュアルチェック、電波が「見える」リアルタイムバンドスコープ機能は使える。さらにはラジコンチャンネルサーチ機能で、ラジコン競技会にて使用チャンネルのモニター受信機としても使用できる。そしてメモリーも定評あるバンク形式で合計2000チャンネルを多彩かつ効果的に管理する大容量メモリーチャンネルを搭載。スキャン機能も多彩で、RFチューン機能やパスワード付きロック機能、クローン機能などマニアックな便利機能も満載。簡単操作で充実機能、これほどまで完成されたレシーバーがこれまでにあっただろうか？　まさに「買い」の1台である！

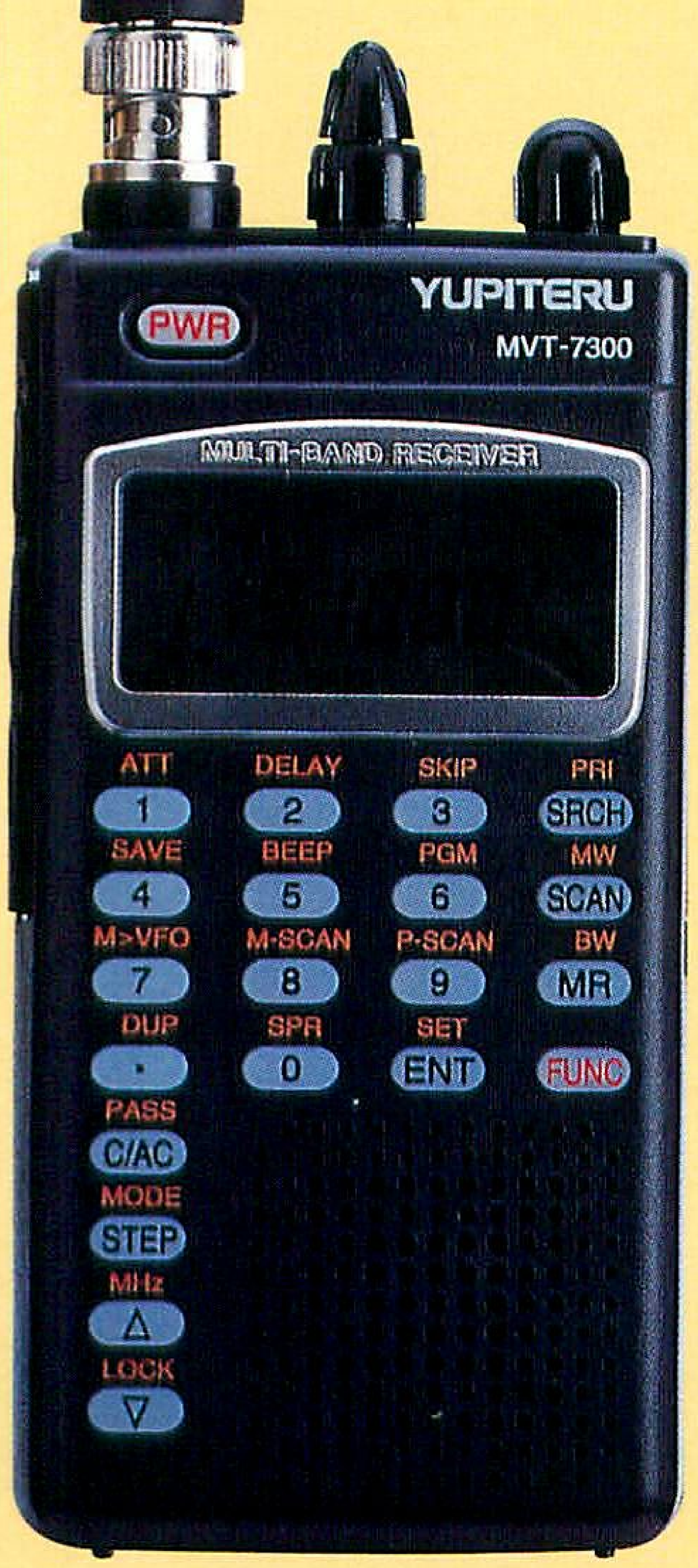
【VR5000スペック】
受信周波数範囲：0.1～2599.99998MHz(一部周波数を除く)、DSP(デジタルシグナルプロセッサ）デジタル混信除去機能（オプション）、ラジコンchサーチ、リアルタイムバンドスコープ、アンテナインピーダンス：50Ω／450Ω、ケースサイズ：180×70×203mm(突起物含まず)、重量：約1.9kg

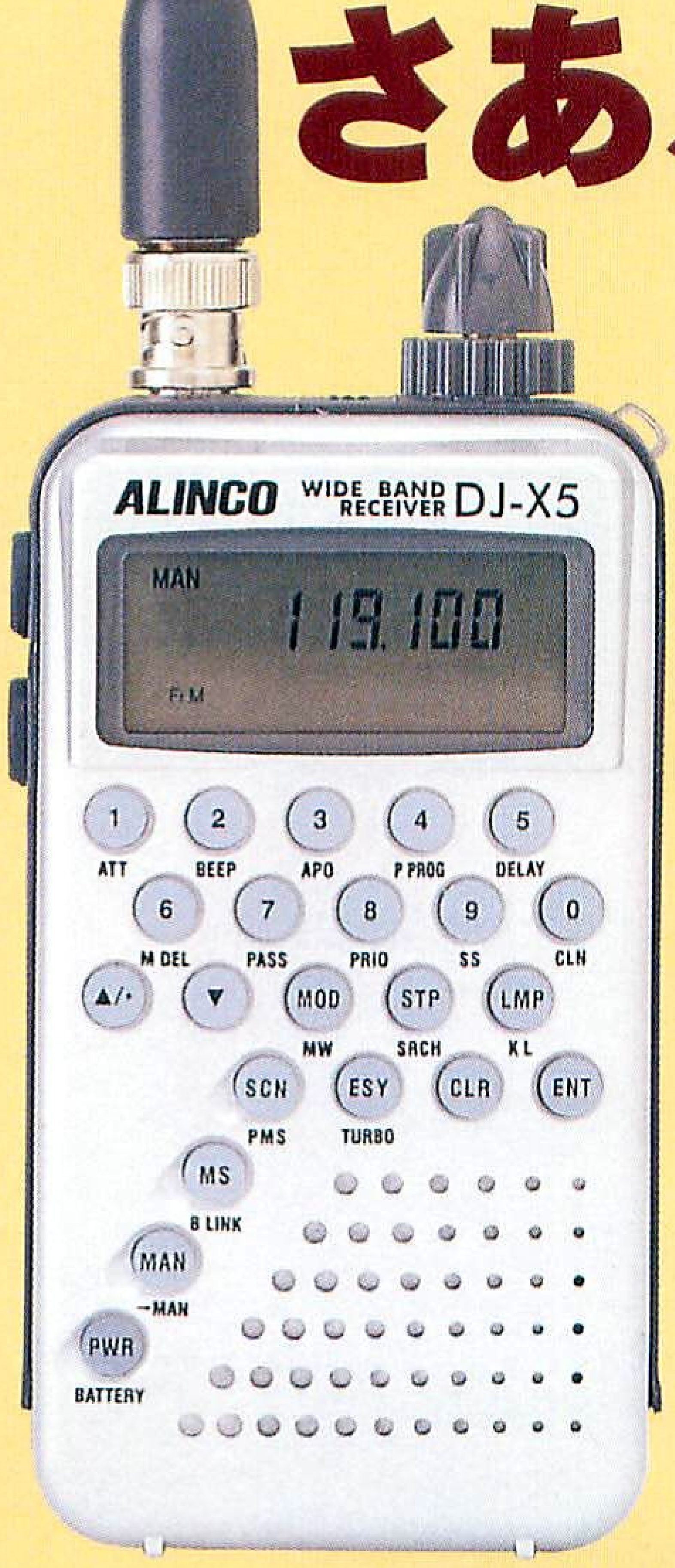


ファイターパイロットの息遣いが聴こえる！
2002年はエアバンド元年だ！

さあ、はじめようABL
エアバンド・リスニング

さまざまな出来事があった2001年。
航空祭もなくなって、われらファンの心は灰色のまま年越しだ。
だからこそ2002年は、新たな心で迎えよう。
そこで提案。エアバンドを聴こうということ。
戦闘機や攻撃ヘリ、民航機まであらゆる交信をキャッチして楽しもう。
時には"スゴイ"通信を傍受できるかもしれないぞ！
まだ未経験のキミ、体験したら病みつきになるぞ！





ホームページでショッピングをお楽しみください！

「のりもの倶楽部」では、インターネットのホームページにて取り扱い商品のすべてを紹介しております。ご自宅でじっくり欲しいものを探してみて下さい。オンラインでのご注文もご利用下さい。（代引き着払い限定です）

http://www.ikaros.co.jp/shop/

また東京ショップ（飯田橋）の店頭でもホームページで紹介している商品を揃えておりますので、ぜひお出かけ下さい。その他、取扱商品の詳細につきましては、TELやFAXにてお問い合わせ下さい。

TEL:03-3267-2726　FAX:03-5225-3136

のりもの倶楽部 年末・年始の営業のご案内

ショップ	12月30日まで…平常通り営業 12月31日～1月1日…休業 1月2日～1月4日…11:00～18:00 1月5日から…平常通り営業
通販部	12月29日～1月6日…休業 1月7日から…平常通り営業

J Wings ABL RECEIVER Selection

狙ったカレンダーにLOCK ON !! ミリタリーカレンダー・スペシャルコレクション 2002

21世紀となって、はや1年。オサマの野郎のおかげで航空祭は水の泡。毎年購入していたカレンダーは、どうすればいいのだろう…。
それなら「のりもの倶楽部」にお・ま・か・せ！　自衛隊から世界の艦船、そしてビンテージ機まで、
ミリタリーカレンダーのラインナップをとくとご覧あれ。きっとお気に入りのカレンダーが見つかるハズだ！



航空自衛隊&米軍人気機種 2002
商品番号：801-00188PC
税込価格：1,575円
航空自衛隊の戦闘機やブルーインパルス、さらに米軍のF-14・F/A-18など迫力あるシーンが魅力のカレンダー。メモ欄付の実用品としてもOK！サイズ：595×415mm／7枚綴り（表紙含む）



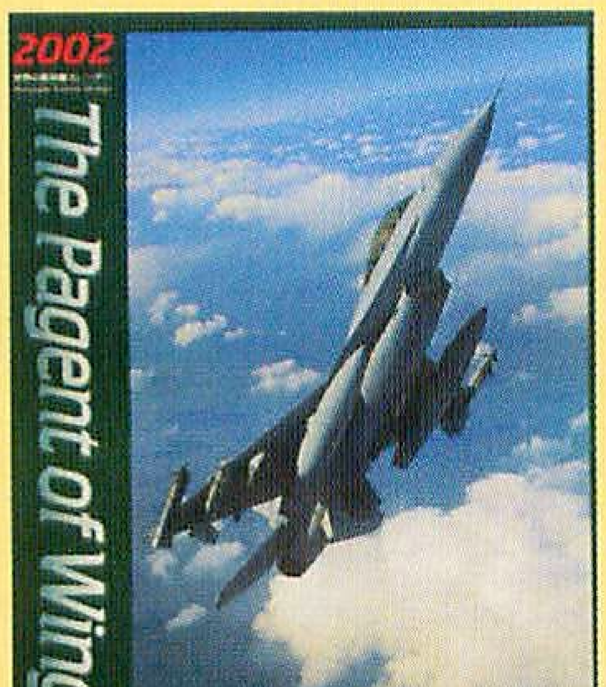
烈島 '02
商品番号：806-00025SJ 税込価格：1,890円
無限軌道から吐き出される土塊。その迫力が伝わってきそうなスーパーショットで綴られる陸自カレンダー。
＊サイズ：420×600mm／13枚綴り（表紙含む）



Super Fighter World '02
商品番号：801-00195SJ　税込価格：4,305円
大画面いっぱいに展開される空自航空機の迫力。。その姿に圧倒されること請け合い。F-15をはじめ、ブルーインパルス、F-2などベストショットが満載！＊サイズ：610×910mm／8枚綴り（表紙含む）

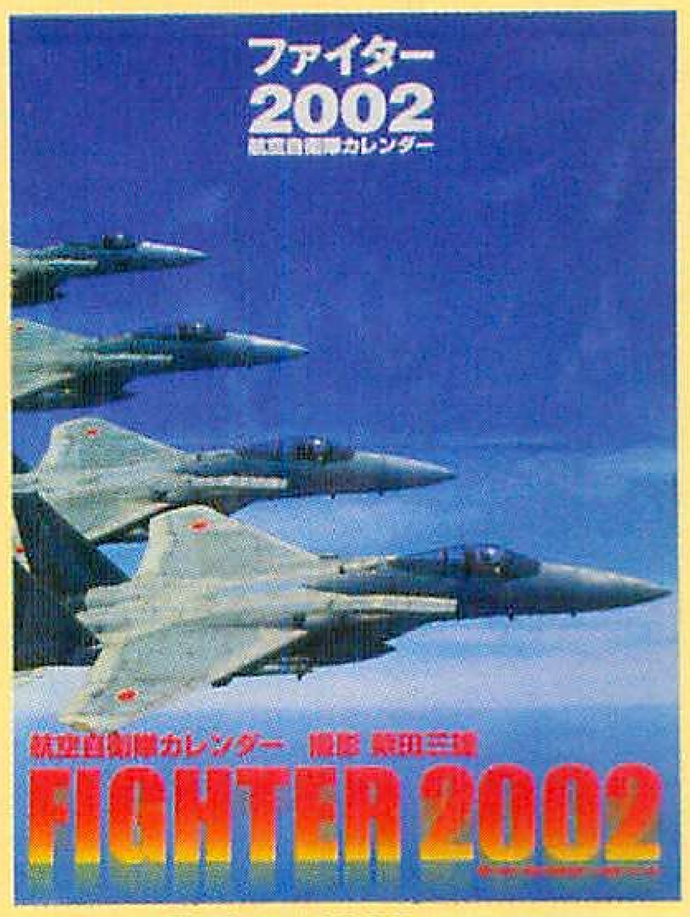


艟艨 2002
商品番号：805-00019SJ
税込価格：4,305円
大型の判形を活かした画面構成は、迫力につきる。護衛艦&航空機の機能美が輝くカレンダー。各ページは破らずに保存が可能な仕組みがうれしい。
＊サイズ：610×910mm／8枚綴り（表紙含む）

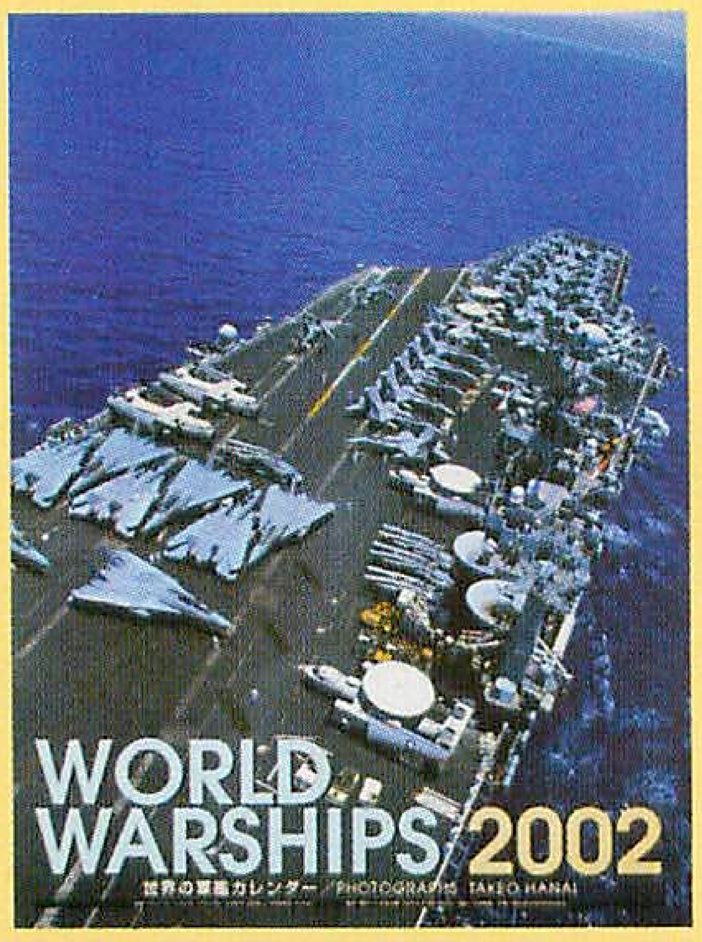




Defender 2002
商品番号：801-00193SJ　税込価格：1,890円
陸上・海上・航空自衛隊の最新装備が吼える。スパルタンな魅力を捉えた写真が見事。＊サイズ：420×600mm／13枚綴り（表紙含む）



Fighter 2002
商品番号：801-00194SJ
税込価格：1,575円
航空自衛隊が誇る装備品の輝く一瞬をとらえたスーパーショットで綴られる、ファン待望のカレンダー。縦位置の判形を活かした魅力のあるカットの連続。
＊サイズ：620×450mm／14枚綴り（表紙含む）



世界の軍艦 2002
商品番号：805-00016TB
税込価格：1,575円
仏海軍ステルス・フリゲート「ラファイエット級」を皮切りに、各国海軍の新鋭艦を網羅。資料的な価値も高いカレンダー。
＊サイズ：600×420mm／13枚綴り（表紙含む）

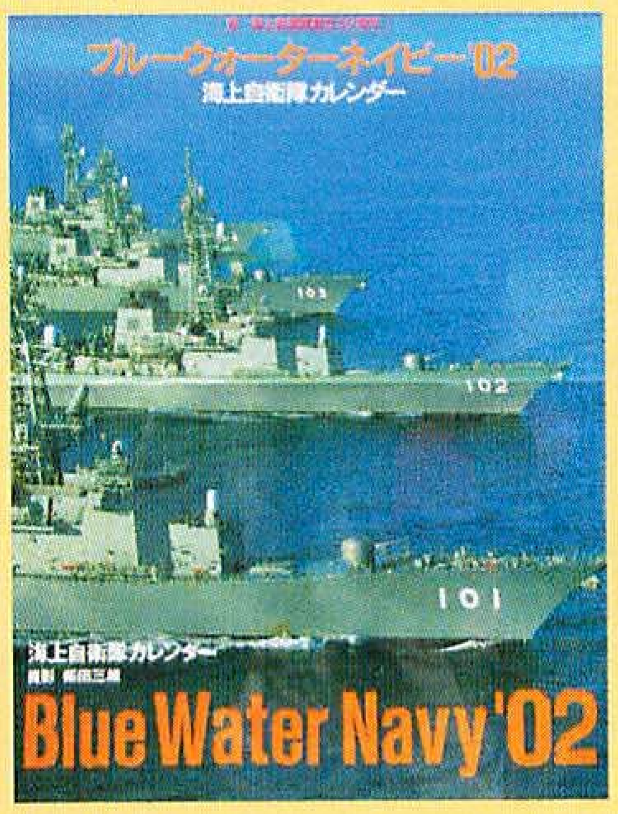
世界の軍用機 2002
商品番号：801-00186TB
税込価格：1,575円
世界各国の誇る軍用機が毎月を飾る。試作機から最新鋭機まで、現用ジェット戦闘機の集大成カレンダー。
＊サイズ：594×420mm／13枚綴り（表紙含む）



群青 '02
商品番号：805-00018SJ
税込価格：1,890円
大海原を悠然と航海する護衛艦。そしてP-3Cをはじめとする航空集団の航空機。海自装備の躍動感あふれるカレンダー。
＊サイズ：420×600mm／13枚綴り（表紙含む）



ブルーインパルス 2002
商品番号：801-00198　税込価格：1,260円
自らがファイターパイロットだった赤塚聡氏のカメラでとらえたブルーインパルス。青空をバックに空撮された美しい写真が飾るカレンダー。ブルーファン必携の1冊。＊サイズ：420×594mm／7枚綴り（表紙含む）



Blue Water Navy '02
商品番号：805-00017SJ
税込価格：1,575円
青い海、青い空をバックにとらえた海上自衛隊最新鋭装備。その魅力が毎月楽しめるファン垂涎のカレンダー。
＊サイズ：620×450mm／14枚綴り（表紙含む）



Impulse 2002
商品番号：801-00192SJ
税込価格：1,890円
ハチロク、T-2そしてT-4の3世代のブルーが一堂に会した歴史的な価値も高いカレンダー。ブルーファンならば保存用と実用の最低2本はゲットしよう。
＊サイズ：420×600mm／13枚綴り（表紙含む）



航空自衛隊戦闘機 2002
商品番号：801-00196　税込価格：1,260円
航空自衛隊の主力機を全て空撮フォトで収録したカレンダー。本誌でもおなじみのカメラマン、赤塚聡氏によるスーパーショットが連続。当店イチオシの逸品。＊サイズ：420x 594mm／7枚綴り（表紙含む）





JASDF 2002
商品番号：801-00183DJ
税込価格：735円
2001年10月から2002年、そして2003年3月分まで、足掛け3年分がセットされている、お買い得な小型卓上カレンダー。写真は航空自衛隊オフィシャル&機種のスペックも記載。プラスチック製スタンドケース付き。
サイズ：約92×90mm／19枚綴り（表紙含む）



蒼空 '02
商品番号：801-00191SJ
税込価格：1,890円
大空のかなたを乱舞する航空自衛隊機。本来の舞台を乱舞する姿を、思いっきり楽しめるショットが満載。
＊サイズ：420×600mm／13枚綴り（表紙含む）

『Nob オリジナル』パッチ・シリーズ



ブルーインパルス
「T-4 ソロ」
商品番号:861-01263KX
税込価格:1,680円
サイズ:直径99mm

『Nob オリジナル』パッチ・シリーズ



ブルーインパルス
「4機編隊」
商品番号:861-01264KX
税込価格:1,680円
サイズ:直径99mm



FLPブルーインパルス
「T-4 ソロ・青」
商品番号:861-01266KX
税込価格:3,675円
サイズ:幅258mm×高160mm



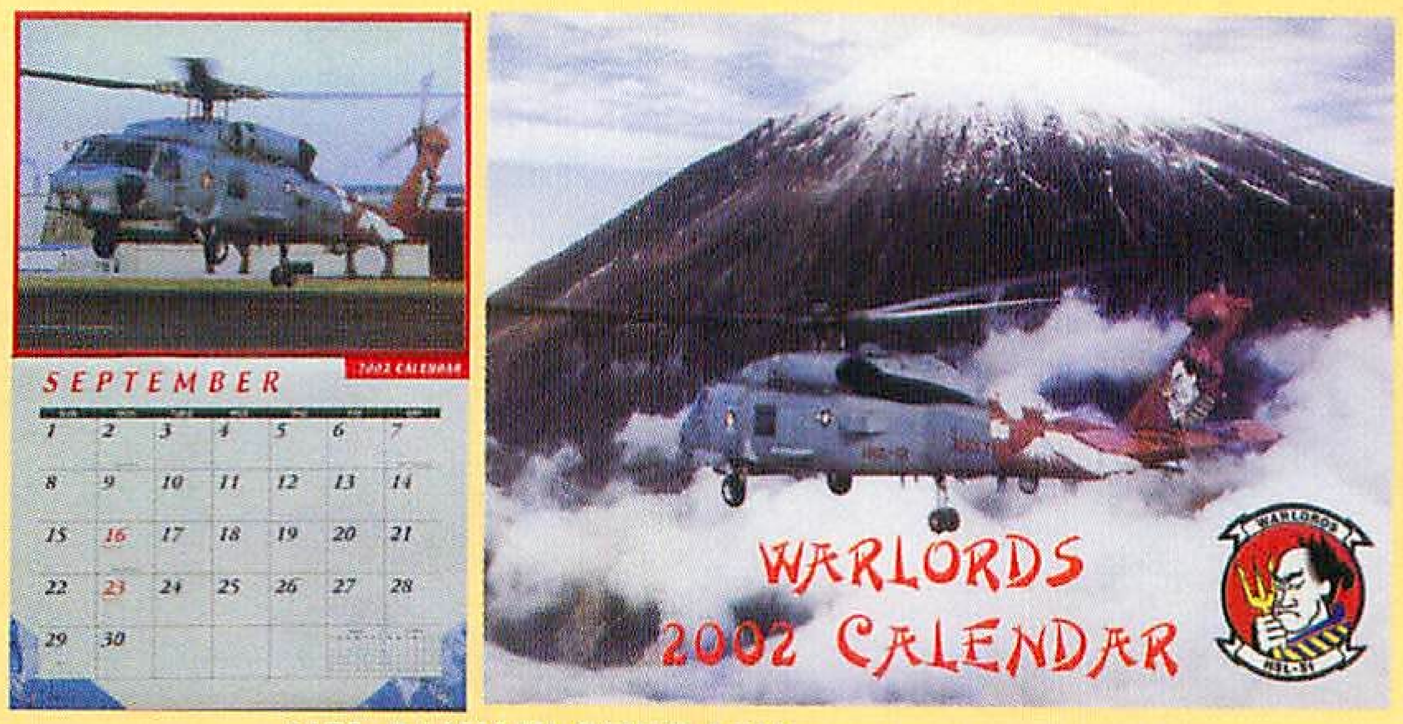
FLP
ブルーインパルス
「T-4 ソロ・金」
商品番号:
861-01265KX
税込価格:3,675円
サイズ:幅258mm×
高160mm

『Nob オリジナル』パッチ・シリーズ



ブルーソフトキャップ

商品番号:861-01296PC(白) 商品番号:861-01295PC(黒)
商品番号:861-01294PC(紺) 商品番号:861-01293PC(青)
税込価格:各1,890円
レジャーのお供やファッションに最適のボウルキャップ。ソフトタイプでかぶりやすい、芯デザインがうれしい帽子。フリーサイズ。



HSL-51 WARLORDS 2002
商品番号:801-00199　税込価格:1,575円
通称「アニキ」で人気のスコードロン、HSL-51ウォーローズ特製のオフィシャルカレンダー。アクションシーンも満載で、貴重なカットの連続。*サイズ:360×510mm/13枚綴り(表紙含む)



航空自衛隊戦闘機 2002　卓上判
商品番号:801-00197
税込価格:840円
赤塚聡カメラマンが撮影した空自機が登場する卓上版カレンダー。毎月1機種、スペックとともに楽しめる。デスクや玄関にどうぞ。ショップおすすめの卓上カレンダー。*サイズ:128×124mm/13枚綴り(表紙含む)





AIR STRIKE 2002
商品番号:801-00200
税込価格:1,575円
米軍の装備する機体の数々を、さまざまなアングルから捉えたカレンダー。ブックスタイルで資料としても一級。*サイズ:360×510mm/13枚綴り(表紙含む)

「躍動」2002
商品番号:806-00026TY
税込価格:1,260円
航空自衛隊が保有する機体が登場。すべての写真に「躍動」が感じられる、ファン向けのカレンダー。
*サイズ:594×420mm/13枚綴り(表紙含む)





IMPORT

FLYING LEGENDS 2002
商品番号:801-00190MB
税込価格:2,625円
フライアブルで現存する大戦機の空撮ショットが楽しめるカレンダー。鮮明な写真は特筆もの。輸入カレンダーのため、休日などが日本とは異なっているので注意。
*サイズ:338×492mm/13枚綴り(表紙含む)

CAUTION
多くのカレンダーは12月以降の発送となります。また予定した販売数量に達したものは販売を終了させて頂く場合もございますので、あらかじめご了承下さい。

"ブルー&キティ" のりもの倶楽部おすすめの「ベストセラーグッズコレクション」



電子書籍/成層圏のお散歩
商品番号:721-00033BW
税込価格:800円
TACネームは「ケイジャン」。空自の元ファイターパイロットによるエッセイ集。空で出くわしたさまざまなエピソードとともに、迫真の写真が楽しめる電子書籍。本誌読者ならば、絶対に楽しめるオススメアイテム。8cmCD-Rが再生できる機器が必要。



自衛隊手帳 2002
商品番号:
876-00011GS
税込価格:
950円
自衛隊施設のアドレスはもちろん、組織図や装備品などのデータが満載。使える略号表やカード収納スペース、ダイヤリー部分も使いやすい見開き1週間分となっている。Jウイング読者には絶対役に立つオススメのダイヤリーだ。シャープペン付き。サイズ:85×130mm。



基地祭限定品

ブルーインパルス ガイドブック 2001
商品番号:801-00201KJ
税込価格:1,470円
2001年の基地祭で発売されたガイドブック。T-4ブルーの生立ちから、演技の解説、各隊員のプロフィールまで、ブルーインパルスの魅力を余すことなく網羅。オールカラー、A4変形判、52ページ。



IMPORT

AIR SUPERIORITY 2002
商品番号:801-00189MB
税込価格:2,100円
世界各国の誇る空軍の新鋭機ばかりを網羅したカレンダー。見事な写真が迫り来る迫力に大満足。輸入カレンダーのため、休日などが日本とは異なっているので注意。
*サイズ:338×492mm/13枚綴り(表紙含む)



USSキティホーク ピンバッチセット
商品番号:861-01285BE
税込価格:4,725円
CVW-5ファンはもとより、広く航空/艦船ファンにもオススメのアイテムが登場。キティの甲板をモチーフとしたベース上に、現在オンボード中である各スコードロンの精密ピンバッチ11個をあしらった『USSキティホーク・ピンバッチセット』。すべてのピンバッジは取り外し可能。お気に入りのスコードロンを取り外し、ブレザーピンやアクセサリーとしても楽しめる。ディスプレイ方法も、専用の台座が付属しているのでデスクやサイドボードの上に飾ったり、壁に吊るしたりと楽しみ方は自由自在。合成木材製ベース。
サイズ:最大長297mm×最大幅88mm×厚9mm

毎年恒例! Jウイング福袋2002



商品番号:801-00202IS
税込価格:5,250円
毎年大人気の「福袋」。今回は21世紀スタンダードバージョンでの登場だ! もちろん中身もアップグレード! ミリタリーグッズはもちろん、パッチにプラモ、ビデオに衣類と価格にして10,000円以上の商品が詰まっているぞ。また、中身の指定や返品・交換は致しかねますので予めご了承ください。なお、数量限定のため販売予定個数に達した時点で終了となります。発送は年明け以降となります。また商品の性格上、他の商品と別発送、送料も別途頂きますので、ご了承のうえ、お申し込み下さい。



ブルーインパルス「メダル」
商品番号:
861-01284BE
税込価格:1,050円
表面はフルカラーで彩色されたブルーのエンブレム、裏面にはT-4のダイヤモンド編隊のレリーフが刻まれた、ブルーフリーク感涙の逸品が登場。ズッシリとした重量感のある金属製で、新たなスタートを切ったブルーインパルスの思い出としても最適のアイテム。
サイズ:直径43×厚3mm。



IMPORT

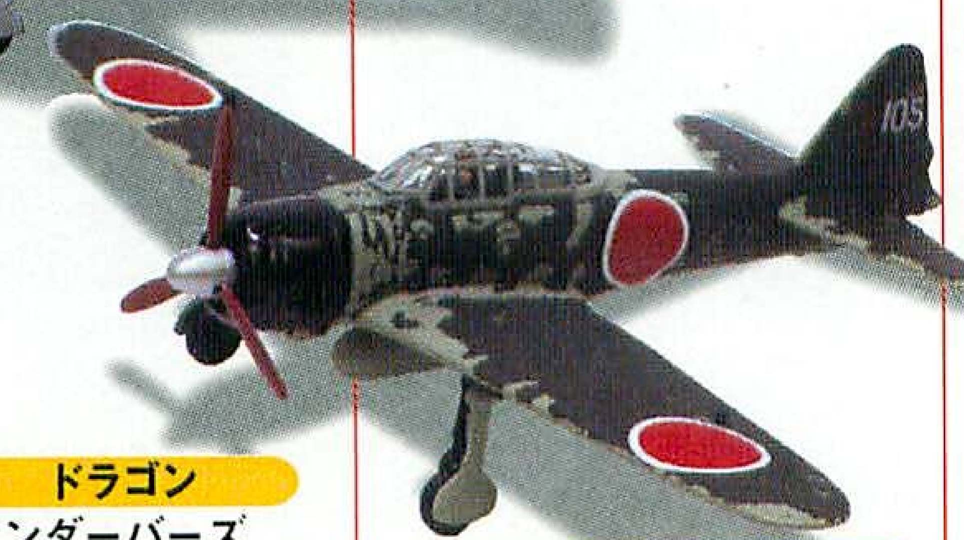
WARBIRDS
商品番号:801-00182PL
税込価格:2,100円
飛行可能で現存する大戦機やオールドタイマーを空撮、時代を忘れさせるショットで綴るカレンダー。輸入カレンダーのため、休日などが日本とは異なっているので注意。*サイズ:381×457mm/14枚綴り(表紙含む)

ファン垂涎の逸品が大集合! ミリタリーコンプリートモデル

ナナニイのファントムにパイロットのフィギュア。おっとRCのタンクに小粋なインテリアまで。う〜ん、どれを買おうか迷いそう。ただし限定品が多いので、早くしないとなくなっちゃうぞ!



コーギー
F-4N ファントムⅡ
「米海軍 VF-111 サンダウナーズ」
商品番号:921-01087KB
税込価格:7,140円
スケール 1:72



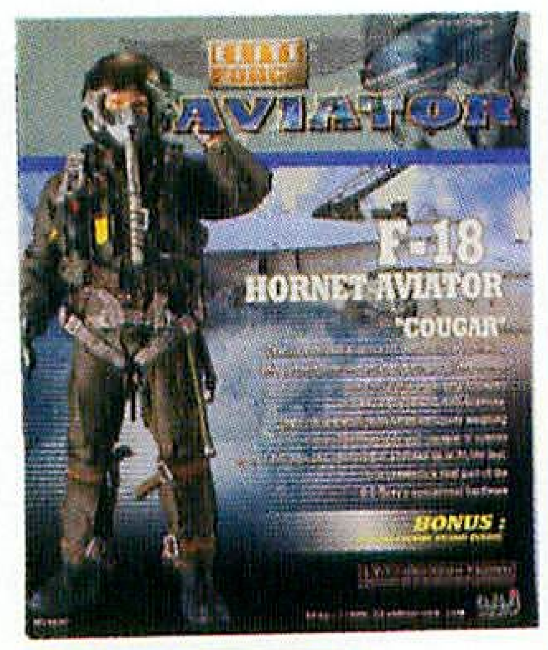
コーギー
零戦22型
商品番号:921-01048KB
税込価格:5,040円
スケール 1:72



ドラゴン
サンダーバーズ隊長「ブライアン・ビショップ」
商品番号:920-00031HA
税込価格:4,872円
スケール 1:6



コーギー
零戦21型
商品番号:921-01049KB
税込価格:5,040円
スケール 1:72



エリートフォース
F/A-18 パイロット
商品番号:911-02660BU
税込価格:7,371円
スケール 1:6



エリートフォース
F-15 パイロット
商品番号:911-02659BU
税込価格:7,371円
スケール 1:6



アーマー
F-4E ファントムⅡ
「USAF ミグキラー」
商品番号:921-01079KK
税込価格:10,080円
スケール 1:48



マルイ
ラジコン・M1A2 エイブラムス
「砂漠迷彩」
商品番号:926-00039BU
税込価格:14,931円
スケール 1:24



アーマー
F-104C スターファイター
「USAF ベトナム迷彩」
商品番号:921-00956KK
税込価格:8,232円
スケール 1:48



アーマー
F-104A スターファイター
「US NAVY NAS CHINA LAKE」
商品番号:921-00958KK
税込価格:8,232円
スケール 1:48



アーマー
スピットファイア Mk.Ⅴ
「RAF 401SQN」
商品番号:921-01009KK
税込価格:6,552円
スケール 1:48



アーマー
スピットファイア Mk.Ⅴ
「335FS 4FG」
商品番号:921-01011KK
税込価格:6,552円
スケール 1:48



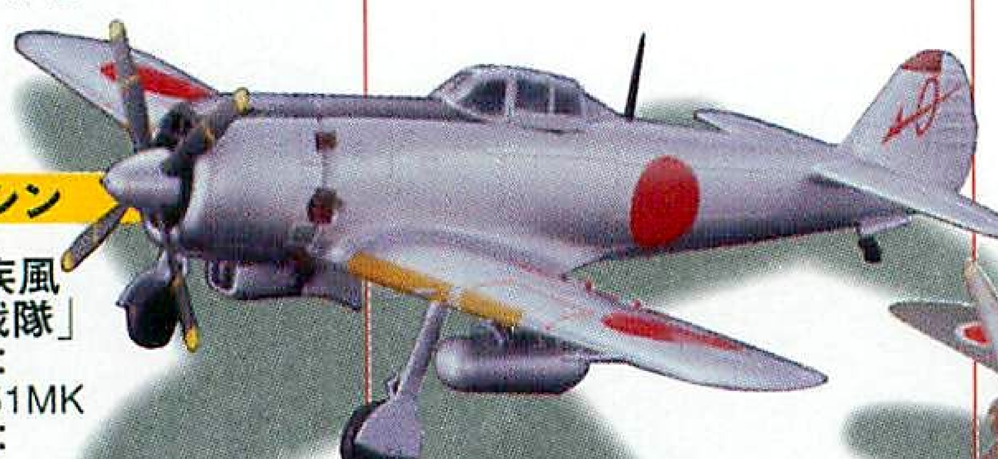
マルシン
零戦52型
「大分海軍航空隊」
商品番号:921-00499MK
税込価格:4,183円
スケール 1:48



マルシン
雷電21型
「竜巻部隊」
商品番号:921-00146MK
税込価格:5,023円
スケール 1:48



マルシン
零戦21型
「赤城搭載機」
商品番号:921-00139MK
税込価格:4,183円
スケール 1:48



マルシン
四式戦 疾風
「第104戦隊」
商品番号:921-00151MK
税込価格:5,863円
スケール 1:48



マルシン
雷電21型
「352海軍航空隊」
商品番号:921-00148MK
税込価格:5,863円
スケール 1:48



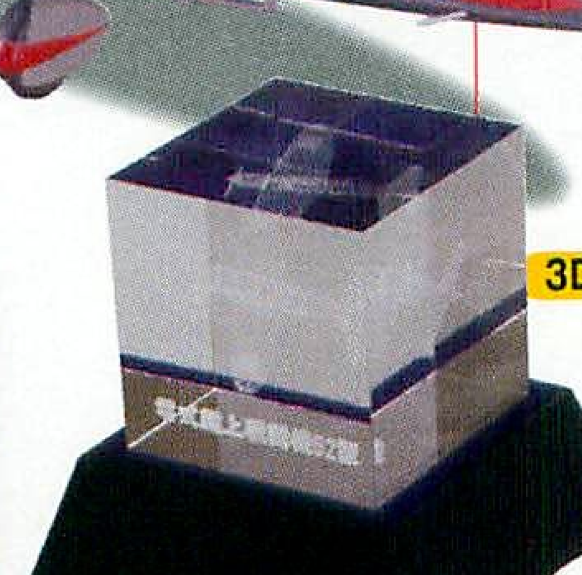
マルシン
九九式艦上爆撃機 22型
「翔鶴飛行隊」
商品番号:921-00803MK
税込価格:7,140円
スケール 1:48



マルシン
一式陸上攻撃機11型
「鹿屋空」
商品番号:921-00532MK
税込価格:25,200円
スケール 1:48



マルシン
九七式一号艦上攻撃機
「空母蒼龍 搭載機」
商品番号:921-00988MK
税込価格:7,140円
スケール 1:48



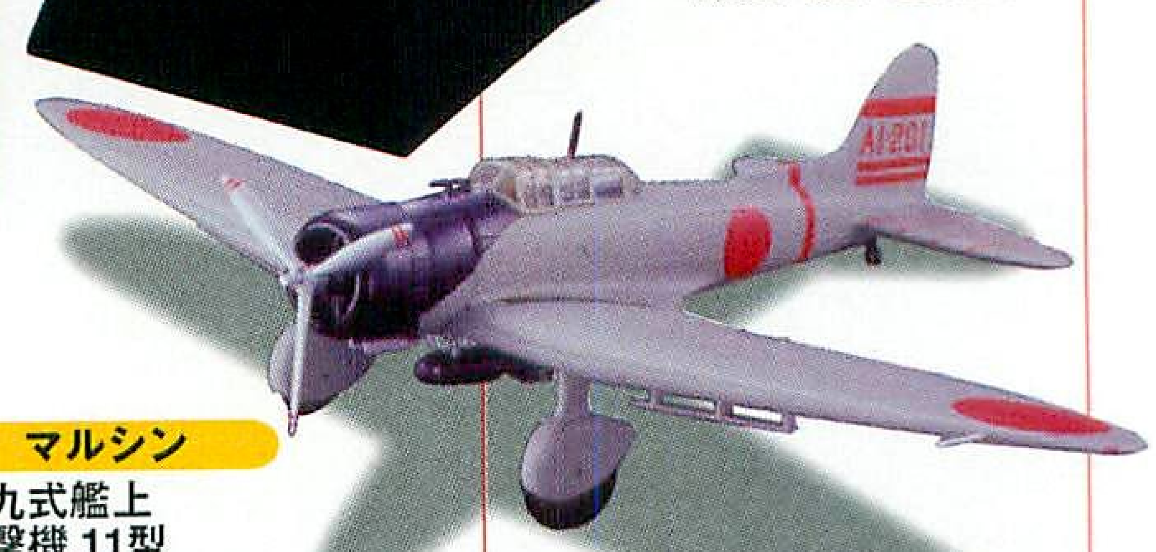
3Dレーザークリスタルアート
零戦
商品番号:821-00001KY
税込価格:10,500円
サイズ:約50×50×50mm



マルシン
九七式三号艦上攻撃機
「空母赤城 飛行機隊」
商品番号:921-01012MK
税込価格:7,140円
スケール 1:48



マルシン
一式陸上攻撃機11型
「705空」
商品番号:921-00531MK
税込価格:23,520円
スケール 1:48



マルシン
九九式艦上爆撃機 11型
「赤城飛行隊」
商品番号:921-00802MK
税込価格:7,140円
スケール 1:48

2002年は航空祭で会いましょう!
ブルー&空自グッズコレクション

楽しみにしていた航空祭も、その大半がキャンセルとなってしまった。2002年こそスケジュール通りで行なってもらいたいもの。ブルーや空自のグッズを眺めて、その日が来るのを待つことにしょう。

アウトドアのお供はこれしかない!

T-2ブルー時代のキャップを忠実に再現。さらにはあご紐も付いてマニアも納得! いままでありそうでなかっただけに、うれしさ満点! すべてフリーサイズ。



キャップ
ブルーインパルス「ロゴ・黒」
商品番号:861-01270KX
税込価格:2,100円



キャップ
ブルーインパルス「ロゴ・ネイビーブルー」
商品番号:861-01269KX
税込価格:2,100円



キャップ
T-4ブルーインパルス「青」
商品番号:861-01267KX
税込価格:2,100円



キャップ
T-4ブルーインパルス「ネイビーブルー」
商品番号:861-01268KX
税込価格:2,100円

キミはもうゲットしたか!? 204SQ"TAC MEET"ステッカー



戦競 '01「4種4枚セット」
商品番号:801-00184TL
税込価格:2,520円
内容:ノーズアート3種&エンブレム シートサイズ:89×108mm(ノーズアート)/110×108mm(エンブレム)



戦競'97
「ミスティック・イーグルⅢ/新谷かおる」
商品番号:801-00170TL
税込価格:1,890円
シートサイズ:170×208mm



戦競'97
「ミスティック・イーグルⅢ/渡辺悟志」
商品番号:801-00166TL
税込価格:1,890円
シートサイズ:170×208mm



戦競'97
「ミスティック・イーグルⅢ/近藤和久②」
商品番号:801-00168TL
税込価格:1,890円
シートサイズ:170×208mm



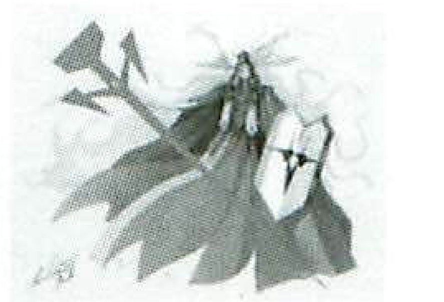
戦競'97
「ミスティック・イーグルⅢ/近藤和久①」
商品番号:801-00167TL
税込価格:1,890円
シートサイズ:170×208mm



戦競'97
「ミスティック・イーグルⅢ/笠原俊夫」
商品番号:801-00169TL
税込価格:1,890円
シートサイズ:170×208mm



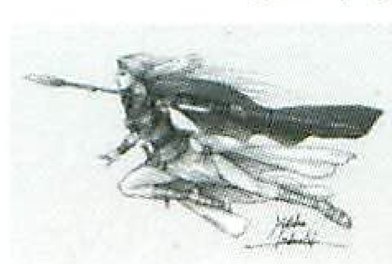
戦競'98
「ミスティック・イーグルⅣ/渡辺悟志」
商品番号:801-00165TL
税込価格:1,890円
シートサイズ:170×208mm



戦競'98
「ミスティック・イーグル/永野 護」
商品番号:801-00160TL
税込価格:1,890円
シートサイズ:170×208mm



戦競'98
「ミスティック・イーグルⅣ/園田健一」
商品番号:801-00161TL
税込価格:1,890円
シートサイズ:170×208mm



戦競'98
「ミスティック・イーグルⅣ/出渕 裕①」
商品番号:801-00163TL
税込価格:1,890円
シートサイズ:170×208mm



戦競'98
「ミスティック・イーグルⅣ/貞本義行」
商品番号:801-00164TL
税込価格:1,890円
シートサイズ:170×208mm



戦競'98
「ミスティック・イーグルⅣ/出渕 裕②」
商品番号:801-00162TL
税込価格:1,890円
シートサイズ:170×208mm

ステッカーまとめてゲットしたい人はコチラをどうぞ

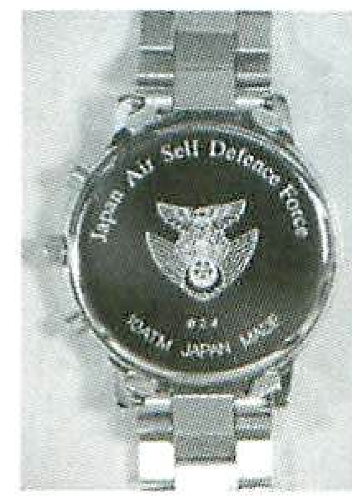
戦競 '97「5種・5枚セット」
商品番号:801-00171TL
税込価格:8,505円
シートサイズ:各170 x 208mm

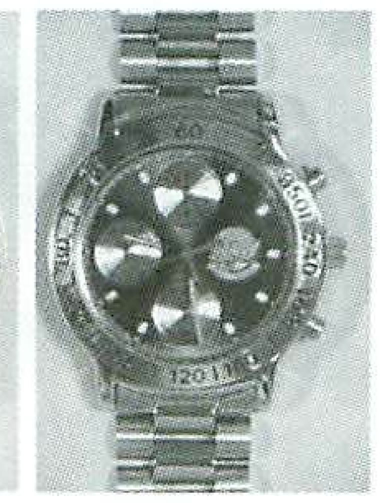
戦競 '98「6種・6枚セット」
商品番号:801-00172TL
税込価格:10,206円
シートサイズ:各170 x 208mm

リストウォッチもブルーで決めろ!

ブルーファンを自認するなら腕時計も「ブルー」で決めたい。そんなフリーク待望のアイテムが入荷! セイコー製アナログクォーツ時計VD55に、ブルーインパルスをモチーフとした限定仕様製品だ。文字盤上にブルーのエンブレム、本体裏面に航空自衛隊徽章が刻まれた、高級感あふれるリストウォッチ。トップクラスの仕上がりなのはいうまでもないだろう。木製化粧箱入り。主なスペックは、1/10秒計測ストップウォッチ機能を備え、文字盤上の1/10秒針計、分針計、秒針計によって正確な計測が可能、スタートからある区間までの途中経過時間であるスプリットタイム計測機能をも搭載している。







ブルーインパルス
クロノグラフ
【セイコー/キャリバーVD55】
商品番号:861-01283BE
税込価格:29,400円
【製品仕様/水晶振動数:32.768Hz/携帯精度:月差±20秒以内(+5℃~+35℃)/作動温度範囲:-5℃~+50℃/使用電池:SR920SW 1個/電子回路:C-MOS-LSI 1個/サイズ:直径35×厚8mm/素材:ステンレススチール】

やっぱり欲しいぜ! ブルーのレプリカ・パッチ

ブルーのメンバーが装着していたパッチのデザインをもとに、販売専用のレプリカとして製作されたパッチ。そのためメンバー装着のオリジナルとは材質や色、デザインも変更されているレプリカパッチ。雰囲気だけを楽しむにはちょうどいいだろう。
ブルーインパルスのオリジナル・パッチを縫製しているメーカーによるレプリカ版。一部故意に相違点を設けている。



ブルーインパルス「クリスマス・大」
商品番号:861-01246KX
税込価格:1,575円
サイズ:縦92mm×横88mm



ブルーインパルス「クリスマス・小」
商品番号:861-01247KX
税込価格:1,260円
サイズ:縦78mm×横74mm



ブルーインパルス「1999ツアー」
商品番号:861-01243KX
税込価格:1,575円
サイズ:直径88mm



ブルーインパルス「1998ツアー・大」
商品番号:861-01241KX
税込価格:1,680円
サイズ:直径95mm



ブルーインパルス「1998ツアー・小」
商品番号:861-01242KX
税込価格:1,575円
サイズ:直径80mm



ブルーインパルス「1997ツアー」
商品番号:861-01240KX
税込価格:1,575円
サイズ:直径92mm



ブルーインパルス「1996ツアー・大」
商品番号:861-01244KX
税込価格:1,575円
サイズ:縦91mm×横88mm



ブルーインパルス「1996ツアー・小」
商品番号:861-01245KX
税込価格:1,470円
サイズ:縦78mm×横75mm

ブルーのビデオでうっぷんを晴らせ!

楽しみにしていたブルーのアクロも、来年以降におあずけだぁ。こうなったらビデオの妙技でへこむ気持ちを奮い立たせよう!



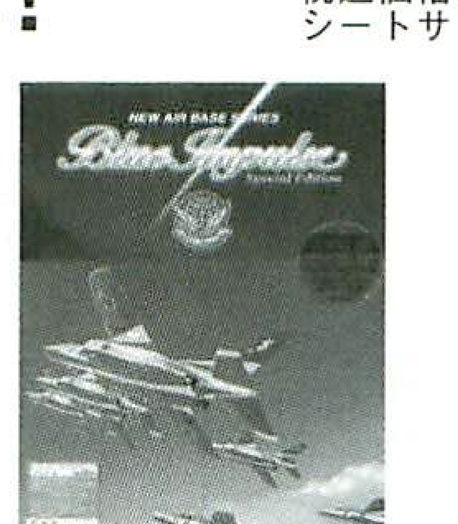
ブルーインパルス「ザ・アクロ」 DVD
商品番号:711-00011PL
税込価格:3,675円
ジェット機によるアクロチームとしては日本で唯一のブルーインパルス。この作品のもっとも特徴的なことは全演技を収めてことである。航空祭では天候によって行なわれる演技が異なる。そこでDVDの特性を括かし、数あるなかから見たい演技をメニューから選べるという、データベース的な利用方法も可能になっている。さらに各演技の飛行パターンのCG図も追加されている。約60分。



DVD
ローリング・イン・ザ・スカイ ブルーインパルス
商品番号:711-00008PL
税込価格:4,725円
T-2時代のブルーインパルスの作品。華麗なるアクロの数々を、チームの本拠地である宮城県松島基地と、主訓練空域である金華山沖で撮影。地上からの映像に加え、コクピット内数ヶ所に取りつけた超小型の特殊カメラと瑞半期の高部座席に搭載した小型カメラを駆使し、空撮映像をふんだんに収録。そして飛行中の計器や操縦桿の微妙な動き、期待の動きに合わせて変化するキャノピー越しの景色や、飛行前のブリーフィングの様子など、あらゆるシチュエーションにおけるブルーインパルスの魅力を完全に網羅している。約51分



DVD
ヒストリー・オブ・ブルーインパルス
商品番号:721-00023BB
税込価格:5,040円
航空自衛隊のエアロバティックチーム「ブルーインパルス」は1995年12月にそれまで使用していた国産練習機T-2からT-4へと機種改変し、組織も第11飛行隊として独立、新しいスタートを切った。このT-4デビューを期に、チーム創設からT-4ブルーのデビュー直後までの歴史を東京オリンピックや万国博覧会、花博などの秘蔵の歴史的映像と当時のパイロットなど関係者へのインタビューを通じて明らかにする。また、これまでに使用してきた機種、F-86F、T-2、T-4による第1区分の演技を全収録。チーム使用機種とその演技の変遷を比較鑑賞できる。約115分。



DVD
ニューエアベース・シリーズ ブルーインパルス
商品番号:721-00024BB
税込価格:7,140円
宮城県の松島基地・第4航空団に所属する第11飛行隊「ブルーインパルス」。航空自衛隊の誇るアクロバット飛行チームのウィンタートレーニングに密着取材、地上からの映像は勿論、オンボードカメラによる空撮や同乗空撮の映像を駆使し、6機の国産練習機T-4によるスリリングなアクロバット飛行を立体的に再現。第一区分の飛行展示を完全収録するのは勿論、ブリーフィングやエアショーの模様、メンバーへのインタビュー等を織り込みながら、ブルーの全てに迫る。完全再開を心待ちにするブルーファン待望の映像集。約102分。

寒いいまこそプラモの季節！

〈特選〉ミリタリープラモ・セレクション

寒い外に出るのは億劫。となれば家でプラモ製作するしかないね！ 今月も、当店オススメの名作・珍作とりまぜ、すべてを特別価格でご提供！ 限定モデルも多数含まれているので、申し込むのは今しかないぞ！



LIMITED

ハセガワ／紫電改
「スケルトンバージョン」
商品番号：911-02656HA
税込価格：3,528円
スケール 1:48



IMPORT

Professional／
ピラタス PC-6/AU-23A ターボポーター
商品番号：911-02651BC
税込価格：7,938円
スケール 1:48／レジンキット



定番

アリイ／AH-64A アパッチ
商品番号：911-02649BU
税込価格：5,481円
スケール 1:35



LIMITED

フジミ／零式小型水偵
「第六艦隊付属偵察隊」
商品番号：911-02639FJ
税込価格：1,418円
スケール 1:72



ドイツレベル／F-86D セイバードッグ
「航空自衛隊デカール」
商品番号：911-02645HA
税込価格：3,864円
スケール 1:48



ハセガワ／AH-64D アパッチ ロングボウ
商品番号：911-02641HA
税込価格：2,520円
スケール 1:48

定番



LIMITED

ハセガワ／
F-104J スターファイター
「戦競スペシャル」
商品番号：911-02521HA
税込価格：2,016円



LIMITED

ハセガワ／C-130H
「JASDF 航空自衛隊」
商品番号：911-01689HA
税込価格：672円
スケール 1:200



フジミ／三菱 T-2
「第22飛行隊 閉隊記念塗装機」
商品番号：911-02642FJ
税込価格：2,646円
スケール 1:48

LIMITED



タミヤ・イタレリ／
ロッキードX-35 JSF
商品番号：911-02646BU
税込価格：851円
スケール 1:72

定番



IMPORT

アカデミー／
F2H-3／-4 バンシー
商品番号：911-02658BU
税込価格：945円
スケール 1:72



LIMITED

ハセガワ／F11F-1 タイガー
「初期型 ブルーエンジェルス」
商品番号：911-02394HA
税込価格：1,344円
スケール 1:72



PAINT

グンゼ／Mr.カラー
「T-4ブルーインパルス カラーセット」
商品番号：941-00064GZ
税込価格：473円
※塗料3本セット



IMPORT

アカデミー／MH-60G ペイブ ホーク
商品番号：911-02643BU
税込価格：4,725円
スケール 1:35



IMPORT

ハセガワ／
A-26C インベーダー
商品番号：911-02395HA
税込価格：3,192円
スケール 1:48



タミヤ／F-4E ファントムⅡ
「米空軍」
商品番号：911-02647BA
税込価格：11,340円
スケール 1:32

定番



IMPORT

レベル・モノグラム／
A-10 サンダーボルトⅡ
商品番号：911-02540HA
税込価格：3,024円
スケール 1:48



IMPORT

モノグラム／
B-52D スーパーフォートレス
商品番号：911-01302HA
税込価格：6,720円
スケール 1:72



アリイ／
AH-64D アパッチ ロングボウ
商品番号：911-02648BU
税込価格：5,481円
スケール 1:35

定番



IMPORT

Octopus／
グラマン
F7F-3N タイガーキャット
商品番号：911-02652BC
税込価格：3,024円
スケール 1:72

アルクラッドⅡ・「吹き付け専用」金属質感表現用塗料

PAINT

金属色をリアルに再現、モデラー待望の塗料が誕生。メッキ状の光沢が得られる「シャインメタリック」、金属の微妙な質感を表現できる「レギュラー」の2種類がある。

ハンドピースでの吹付塗装で最適な濃度にあらかじめ調合されているため、溶剤を加える必要がない。なお、用具の洗浄はラッカー系塗料の溶剤でOK！ 常温で約30分の速乾性。なおかつ特殊シーリングキャップで完全密閉されているので、4～6年間も保存可能。容量は1オンス、1／48中型ジェット戦闘機、1機分程度のボリューム。とにかく一度試してほしい。モデルの存在感がアップすること間違いなし！



品名	商品番号	税込価格
ALD101／アルミニウム	940-02055ZH	1,176円
ALD102／ジュラルミン	940-02056ZH	1,176円
ALD103／ダークアルミニウム	940-02057ZH	1,176円
ALD104／ペイルバーントメタル	940-02058ZH	1,176円
ALD105／ポリッシュドアルミニウム「シャインメタリック」	940-02059ZH	1,176円
ALD106／ホワイトアルミニウム	940-02061ZH	1,176円
ALD107／クロム「シャインメタリック」	940-02060ZH	1,176円
ALD108／ペイルゴールド	940-02062ZH	1,176円
ALD110／カッパー	940-02063ZH	1,176円
ALD111／マグネシウム	940-02064ZH	1,176円
ALD112／スチール	940-02065ZH	1,176円
ALD113／ジェットエグゾースト	940-02066ZH	1,176円

寒い世の中、コタツにあたってビデオに読書!
この冬、オススメのスタイルはいかが?

のりもの倶楽部にどんどん入荷しているミリタリービデオの中から厳選した作品を紹介しよう。どの作品も知られざる軍事組織の一面を垣間見ることのできるディープなものばかり。この冬、ゆっくりコタツにあたりながら鑑賞するのは最高の贅沢だぞ!

グレートジャーニー ブルーインパルス派米全記録 VHS
商品番号：721-00034BB（DVD）
税込価格：5,040円
商品番号：421-00067EM（VHS）
税込価格：5,900円 DVD



『ブルー』史上初の海外遠征を完全密着取材! 国内および米国での事前調整、ネリス空軍基地用プログラムの訓練と検討、木更津飛行場でのT-4の船積み、ノースアイランド海軍基地での陸揚げとネリス空軍基地への移動、米国ゴールデンエアタトゥーでの飛行展示にいたるプロセスを完全収録。約56分。



岐阜基地航空祭 2000 VHS
商品番号：421-00134MG
税込価格：5,040円
「XF-2が飛んだ!」。全国のファンから熱い注目を集めた平成12年度航空自衛隊岐阜基地航空祭のすべてを収録。岐阜名物の異機種編隊飛行はもちろん、OH-1のデモフライトや各種の飛行展示を網羅。そして一番の見どころが日本初のF-2Aによる展示飛行だ。主翼をしならせダイナミックに飛ぶF-2の姿を見事に捉えた作品だ。飛行展示のほか地上展示機も登場する。約68分。

エアベース新田原 DVD VHS
商品番号：721-00021BB（DVD）
税込価格：5,040円
商品番号：421-00063EM（VHS）
税込価格：5,913円



宮崎に移り住んだ筑波のガマ、301SQの姿を追う。迫真のフックランディングは見どころ。また新田原に同居する飛行教導隊「アグレッサー」もしっかり取材。当時は現役だった、第202SQとの息詰まるドッグファイトは必見だ。ファイタータウン新田原の全貌に迫る。約55分。



SUPER JETシリーズ「DVDスペシャルセット」 DVD
商品番号：711-00026PL
税込価格：12,600円
大好評発売中のスーパージェットシリーズ5作品（単品各3,500円）がお買い得BOXセットとなって登場! 内容は、「ブルーインパルス ザ・アクロ（商品番号:711-00011PL）」「F-4ファントム 那覇・新田原・三沢基地（商品番号：711-00015PL）」「F-15イーグル① 千歳・小松基地編（商品番号:711-00012PL）」「F-15イーグル② 新田原・築城基地編（商品番号:711-00013PL）」「F-15イーグル③ 百里・新田原基地編（商品番号:711-00014PL）」。なんと4,900円もお得! これを機会にぜひどうぞ。約300分。



Flying Into A Millennium VHS
商品番号：521-00117AO
税込価格：4,200円
レッドバロンからF-117ステルスに至る戦闘機の歴史を振り返る。1900年から現在までに起こった紛争・戦争における航空機の働きを解説するとともに、迫力ある映像が繰り広げられる。その任務とは裏腹に機能美があふれる軍用機の美しい姿を空撮で捉えているほか、ボーナス映像として1997年にミラマー海軍基地で開催された「ミラマー・ナイトエアショー1997」の模様も収録。英語版。一部モノクロ。約110分。



AIR RESCUE WING 航空自衛隊 航空救難団 VHS
商品番号：721-00036BB（DVD）
税込価格：5,040円
商品番号：421-00056EM（VHS）
税込価格：5,985円
人命救助に命を懸けるプロ集団の活躍を追った作品。救難隊員や非救出者へのインタビュー、救難隊の訓練、ヘリコプター空輸隊の訓練、災害派遣などの実録映像、救難教育隊における航空機整備や航空救難団の歴史などを収録したドキュメンタリータッチの作品。約51分



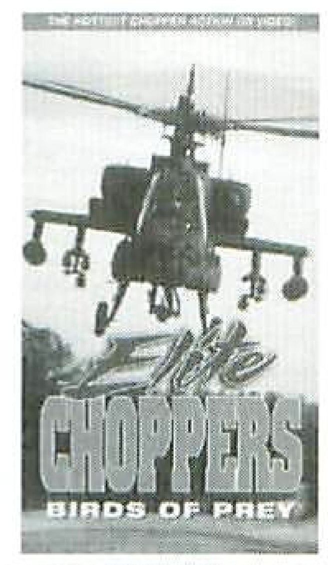
GOLDEN AIR TATTOO 米空軍創設50周年エアショー VHS
商品番号：721-00035BB（DVD）
税込価格：5,040円
商品番号：421-00070EM（VHS）
税込価格：5,900円
1997年4月、ネバダ州ネリス空軍基地で開催された米空軍創設50周年記念エアショーの一部始終を、延べ8台のカメラから捉えた作品。日本をはじめチリ、ブラジルなど勢揃いした6カ国のアクロチームの華麗なる演技や、アメリカ空軍が誇る歴代の戦闘機、輸送機、爆撃機、練習機のフライトディスプレイやスタティックディスプレイを収録。この歴史的なイベントに参加した人はもちろん、参加できなかった人でも楽しめる作品。約95分。

有翼騎兵隊 VHS
商品番号：421-00126NC
税込価格：3,990円



現代の騎兵隊といえば、空挺部隊が挙げられる。馬の代わりに航空機を使い敵地に降下、物量投下された兵器・車両を駆使し敵を攻撃する。米陸軍第82空挺師団を詳細にレポートするとともに、装輪装甲車を紹介。また、もう一つの「空飛ぶ騎兵隊」としてベトナム戦争で登場した戦闘ヘリがある。その発達史と武器システムの映像を通し、地上機動部隊に不可欠となった戦闘ヘリのコクピットをあなたは体験する。1999年作品、字幕スーパー。約52分。

エリートチョッパーズ【2巻組】 VHS
商品番号：521-00020MB
税込価格：5,500円



ヘリコプターは、現代の戦闘地帯での重大な必需品になっている。この驚くべき機械が、世界でどのように活躍しているか、見る者を刺激的な世界に招待する作品。米国からイスラエルへ、イギリスからヨルダンへ、ドイツから台湾へ、ユーティリティおよび攻撃ヘリコプターの系譜は、活気あるアクション満載だ。英語版。約200分。

TEST FLIGHTS BEYOND THE LIMITS【3巻組】 VHS
商品番号：521-00102GV
税込価格：8,000円



NASAドライデン飛行研究センターが進めている飛行テストをテーマにした全3巻のセットで、約50分に分けられた内容で構成される。初めて音速突破に成功したベルX-1などの歴史的な映像や、前進翼のX-29、推力偏向装置を持つX-31、フライ・バイ・ワイヤの研究機に改造されたF-8、STOL研究用のF-15、極超音速用エンジンのテストに用いられたSR-71など、最近の研究用機によるテストで、いま何を追求しているかが語られている。映像的には珍しいシーンがたくさんあるが、やはりおもしろいのはX-31の推力偏向装置を利用した飛行ぶり。映像から従来の戦闘機とはまったく違った動きを実感できる。最新の航空技術に関心を持つ人にはお薦めのビデオだ。約150分。

Wings of Tomorrow 21世紀の翼1【ラプターvsスホーイ】 VHS
商品番号：421-00022AM
税込価格：3,990円



アメリカとロシアが誇る次世代戦闘機「F-22ラプター」と「Su-37」。今まで国家機密とされてきた、21世紀の制空権の獲得をめざす戦闘機の全貌がここに明らかになる。スチール写真では得られなかった迫力あるシーンが、画面狭しと展開する。ほかにユーロファイター2000やX-36など、最新鋭の航空機も多数登場するドキュメンタリー。日本語字幕。約53分。



2001年パリ・エアショー VHS
商品番号：416-00095WC
税込価格：3,990円
ヨーロッパ2大トレードショーのひとつ「パリ国際航空宇宙ショー」。その全貌をビデオでリポート。ドイツの"新"ツェッペリン飛行船「LZ NO7」、パリ初登場のウォーバーズ、P-51、スピットファイア、12年ぶりに登場した巨大輸送機An-225「ムリヤ」。また、ラファール、ミラージュ、グリペン、タイフーンなど欧州系最新戦闘機も総登場! 話題を独占したスホーイSu-30Mk、エアバスA340-600の華麗なデモフライトに加え、ル・ダック010、ウーラガンなど貴重な展示機で埋め尽くされた博物館も収録。約56分。



三沢基地航空祭2001 VHS
商品番号：421-00158MG
税込価格：5,040円
2001年9月9日、晴天のもと三沢航空祭が開催された。量産型では初めてとなるF-2AによるデモフライトF-16デモチームによる迫力のデモ、また、飛行再開後初のフルショーを披露したブルーインパルスの妙技も収録。また、日本最大級の数となる地上展示機も見られ、事実上2001年最後となった空自航空祭のすべてを、とことん楽しめる作品。約75分。

Superplanes【4巻組】 VHS
商品番号：521-00114LG
税込価格：8,400円



現代の主要な戦闘機をそれぞれ約30分で紹介する4巻セット。F-4、F-15、F-117、ハリアー、F-14、F-16、トーネード、F/A-18の8機種が収録されている。それぞれの戦闘機についてはすでに単発もののビデオがかなり出ているが（F-4のビデオはいったい何本ぐらいあるのだろうか?）、これはセットになっているのでお買い得感が強い。内容的には誕生の経緯、特徴、戦歴といったところをカバーしており、実戦あるいは空戦訓練における映像をかなり盛り込んでいるのが特色といえる。空戦訓練のシーンではF-4の凄くきれいなものがある。トーネードのところでは、地形に沿って飛ぶ超低空飛行シーンが迫力十分だが、年配のファンなら開発経緯の前置きに登場するTSR.2の飛行シーンにしびれることだろう。英語版。約240分。

平成13年度 陸上自衛隊 富士総合火力演習 VHS
商品番号：416-00094WC
税込価格：3,990円



実弾を使用する訓練を一般に公開する「総火演」。90式・74式戦車が砂塵を跳ね上げ、AH-1Sが機関砲を撃ちまくる。そのほか155mm自走榴弾砲など、おなじみの装備を初めとして、今回初の一般公開となった96式多目的誘導弾（MPMS）の発射や施設作業車の作業なども収録。陸自ファンならぜひとも押さえておきたい作品だ。約56分。

2001年オシュコシュ・エアショー【2巻組】 VHS
商品番号：416-00096WC
税込価格：6,090円



自家用、古典機、軍用機など、総数1万機がウィットマン空港に大集合! グレッグ・ポー、ショーン・タッカーの華麗なアクロバット! 迫力満点のコルセア、シーフューリ、ムスタングらのエアレース。ビッカーズ・ビミー、ターボDC-3の優雅な飛行は必見だ。ベアキャット、スピットファイア、B-17などウォーバーズが総出演。また、あの"隼"の勇姿も登場! 貴重な展示機の数々、EAA博物館やスリルいっぱいテレサ・ストークスの空中散歩も収録。約112分（2巻組）。

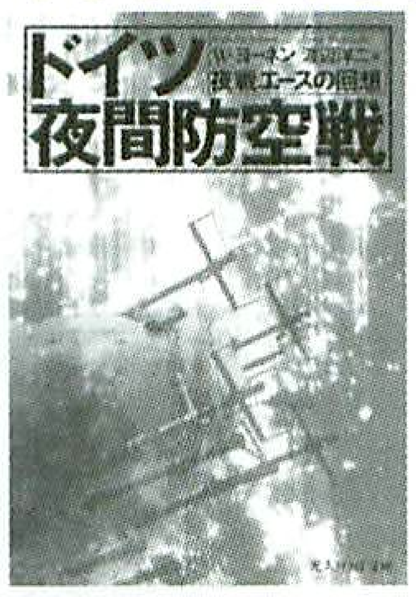
のりもの倶楽部の本棚から

毎回、新刊、定番、取り混ぜてご紹介します。あなたの知らない本、欲しかった本、読んでみたい本がみつかるかも…

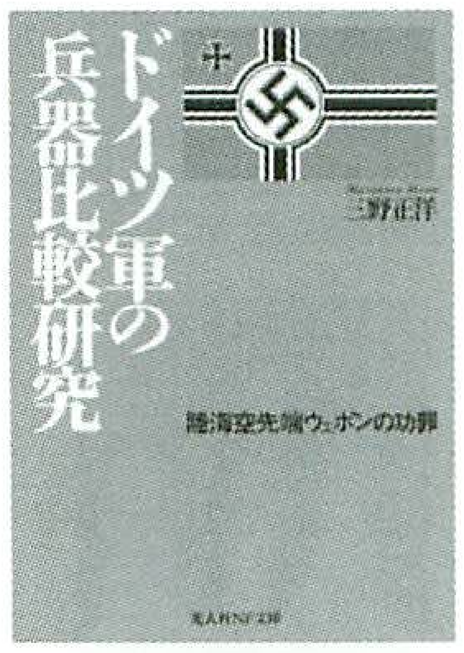
奇想天外ヒコーキ映画
商品番号：111-01511CO
税込価格：1733円



映画を観ていて、ずっと感じていた「リアリー?」という疑問。航空機が主演の正統派ヒコーキ映画はもちろん、「何でこんなヒコーキの使い方をするの？」といった映画まで、映画に登場するヒコーキたちをディープに解説。映画と現実の間における航空機の「ありかた」を徹底解説する1冊。本書に登場する映画は「ライトスタッフ」「エアフォース・ワン」「コン・エアー」「スペースカウボーイ」「紅の豚」「エグゼクティブ・ディシジョン」など23本。航空機ファンの皆様、そして映画ファンの皆様、必読ですぞ！　B6判、294ページ。



ドイツ夜間防空戦
商品番号：111-01509CO
税込価格：700円
著者のヴィルヘルム・ヨーヘンは1921年、ドイツ生まれ。三つの航空団で戦い、弱冠23歳で飛行隊長にまで昇進した若き撃墜王。大戦末期の連合軍4発重爆群に挑むBf110夜戦の戦いの様子を詳細に綴った空戦記。ヨーネンの戦記の特色は何といっても生き生きとした会話の描き方だろう。出撃前の打ち合わせから始まって、帰還までが事細かに、リアルに描かれている。文庫判、276ページ。



ドイツ軍の兵器比較研究
商品番号：117-00116CO
税込価格：720円
高度な技術を駆使した兵器群で瞬く間にヨーロッパを席巻したドイツ軍。ジェット戦闘爆撃機、戦略ミサイルなどのハイテク兵器を他国に先駆けて実用化し、テクノロジーで米ソの屈伏を画策した第三帝国はなぜ敗れたのか。連合軍を震撼させた華やかな武器の背後に潜む問題点を、鋭く解説する第二次大戦史。文庫判、265ページ。



日本陸軍献納機 愛国号
商品番号：131-00670CO
税込価格：2800円
昭和6年満州事変が勃発し、陸軍航空部隊には軍用機増強の為の多くの献金が国民から寄せられた。それを元に購入されたのがユンカースK-37（愛国1号）、ドルニエ・メルクール（愛国2号）だった。本書では献納式、お披露目の飛行など当時の貴重な写真で、愛国号の歴史を辿る。また、愛国号の塗装とカラーマーキングや精密図面集も収録。A4判、116ページ。

新刊コーナー

第二次大戦のドイツ夜間戦闘機エース
商品番号：111-01512CO
税込価格：1890円



第二次世界大戦において、押し寄せる連合軍爆撃機を、レーザー迎撃システムを駆使して迎え撃ったドイツ夜間戦闘機。その連夜の戦いはドイツの終焉まで続けられた。本書では夜間戦闘機戦力の作戦・戦闘技術の用法、多くの優れたクルーの戦績をまとめあげ、元夜戦エースたちの証言を交えながら紹介している。また、夜間戦闘機のカラー塗装図、パイロットの軍装をカラーイラスト、ドイツ夜間戦闘機隊の高位エクスペルテンを収録。日本語版。B5判、95ページ。

Ⅳ号中戦車 1936-1945
商品番号：117-00115CO
税込価格：1365円



世界の有名戦車をイラストと解説、写真で紹介するシリーズ。Ⅳ号戦車は、ドイツ陸軍の主力戦車のⅢ号戦車に対する支援戦車として大戦間に開発され、ポーランド戦からフランス戦まで、機甲兵力の一翼を担い、電撃戦を成功に導いた。本書ではドイツ陸軍戦車を代表する「軍馬」だったⅣ号中戦車の開発と派生型、構造、編成と戦術、そして戦歴までをまとめあげている。日本語版。スケールモデラーの資料としても最適。B5判、49ページ。

和書

今月は「戦闘機に強くなる本」特集！



最強戦闘機伝説！
商品番号：111-01411CO
税込価格：1680円
人は戦うために飛行機を作ったわけではないが、戦争では思いのほか使うことができた。戦闘機の誕生に始まり、第一次世界大戦、プロペラ戦闘機の限界、ジェット戦闘機の登場、超音速の時代、テクノロジーと金の狭間という流れで、戦闘機の進化発展の歴史がよくわかる1冊。著者は航空分野を中心に活躍中のカメラマンで、著書も多い人物。B6判、304ページ。



軍用機マニアの基礎知識
商品番号：151-00288IK
税込価格：1631円
軍用機をワイドに楽しむファンは、5万人を越えており定着した熱狂的なファンが多い。欧米では昔からメジャーなホビーのひとつに数えられるほどになっている。では、どうすれば軍用機マニアの仲間入りができるだろうか。何も知識のない人でも、この本を読めばひとどおりの「つぼ」を知ることができる。軍用機の種類とメーカー、軍用機の運用者とシリアルナンバーの読解法、軍用機の性能と任務、ウォッチングのポイントと写真の撮り方、七つ道具、そしてマナー、基地祭の楽しみ方、情報収集法、航空雑誌の読み方など、ぎっしりとノウハウが詰まっている。B6判、251ページ。

戦闘機がよくわかる本
商品番号：151-00279IK
税込価格：1680円



軍用機の中でも、もっともファンを魅了するのが戦闘機。その戦闘機についていろいろな知識を養うための1冊。航空自衛隊の戦闘機とスクランブル、航空自衛隊が使っている戦闘機とミッションがよくわかる。また現代における世界の戦闘機の最新動向や、ドッグファイト（空中戦）の戦い方、戦闘機を使ったあらゆるミッションも詳しく解説。戦闘機にもっと詳しくなるために、メーカーや開発、運用のしくみや世界の戦闘機・攻撃機カタログ全55機種の現用機のスペックや所属軍まで網羅。B6判、275ページ。

世界の戦闘機シリーズ

世界の戦闘機 NO.1「スピットファイア」
商品番号：133-03352CO
税込価格：998円



デルプラドコレクションに戦闘機シリーズが登場。精巧なダイキャストモデルにスペックカード、ファイルカードがワンセット。モデルは当店でも取り扱っているモデルパワー社の品が入っており、クオリティの高さでは折り紙付き。スペックカードは専用バインダーにまとめて永久保存版の世界の戦闘機データファイルに、ファイルカードにも毎号貴重な写真とデータが収録され、すべて集めれば、20世紀の戦闘機事典になるぞ。外装サイズ：25.5×19×6cm。



世界の戦闘機 NO.3「F-117ステルス」
商品番号：111-01508CO
税込価格：1675円
第3号は湾岸戦争でその威力を発揮した、見えない戦闘機「ロッキードF-117」。通称「ステルス」戦闘機。少数機による編成だが、F-117A部隊によって、アメリカ空軍は攻撃目標の生面線を破壊する無敵の能力を手に入れた。外装サイズ：25.5×19×6cm。



世界の戦闘機 NO.5「F/A-18 ホーネット」
商品番号：131-00668CO
税込価格：1675円
第5号は全天候型、多目的戦闘機として先例のない能力を持つ万能機「F/A-18ホーネット」。今号にはスペック、ファイルカードを保存するための専用バインダーが付録。外装サイズ：27×24×7cm。

世界の戦闘機 NO.6「ミラージュⅢ」
商品番号：111-01513CO
税込価格：1675円
第6巻は「ミラージュⅢ」。優れた上昇能力と高高度飛行能力で、35年間現役であり続けるという大きな成功を収めた長寿の多目的戦闘機だ。付属のモデルは「ミラージュⅢC」。外装サイズ：25.5×19×6cm。





世界の戦闘機 NO.2「零式戦闘機」
商品番号：111-01506CO
税込価格：1675円
第2号は屯説の名機「零式戦闘機」。日本が生んだ大空の覇者「零戦」は、他を圧倒する航続距離で、日本の快進撃の重要な鍵となった。外装サイズ：25.5×19×6cm。

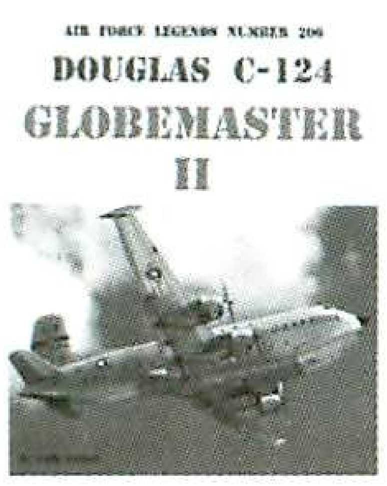


世界の戦闘機 NO.4「ユンカースJu87」
商品番号：111-01510CO
税込価格：1675円
第4号は第二次世界大戦で、その降下音で一般市民を恐怖に陥れた「スツーカ」。ドイツ軍の北欧での電撃作戦の要となったが、1940年の英本土作戦でイギリス戦闘機によって壊滅的な損失を受け、無敵伝説が打ち砕かれた。外装サイズ：25.5×19×6cm。



世界の戦闘機 NO.7「ハリケーンMk.Ⅱ」
商品番号：111-01514CO
税込価格：1675円
第7巻は「ハリケーン」。機関銃2基装着の複葉機の時代にとって代わる、機銃8基装着で単葉翼戦闘機の新しい世代を切り開いた注目の機体となった。外装サイズ：25.5×19×6cm。

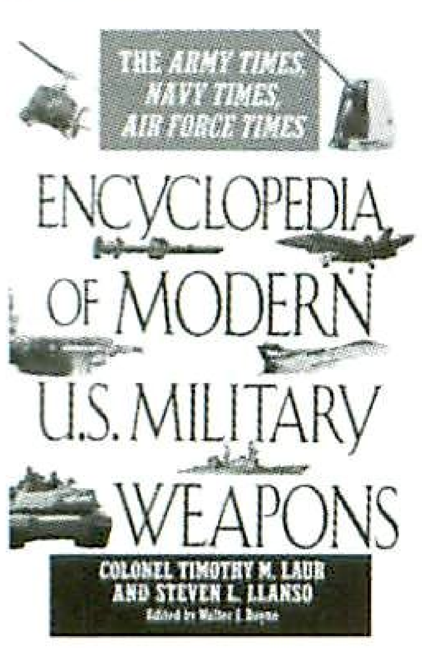
左のマークはイカロス出版発行の本ですので、1冊だけお求めの場合は、送料が割安な弊社直販でお求め下さい。お求め方法の詳細は本誌の【イカロス出版の図書・刊行物ご案内】のページをご覧下さい。他の書籍やグッズと一緒にお求めの場合は、「のりもの倶楽部」までお申し込み下さい。



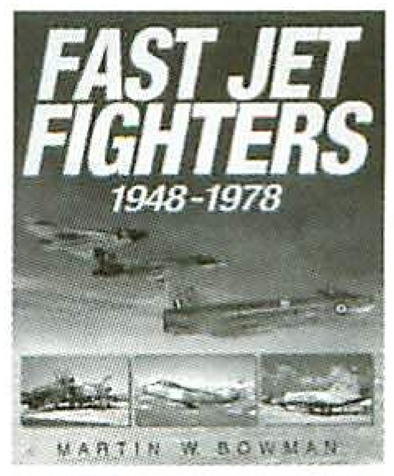
DOUGLAS C-124
GLOBEMASTER Ⅱ
商品番号：221-00025
税込価格：5,723円
レシプロ時代のアメリカ空軍輸送航空部隊の主力として活躍した、巨人輸送機ダグラスC-124グローブマスターのすべてを、その開発からリタイアまで、貴重な素晴らしい写真多数を織り交ぜながら、その魅力を技術面、運用面から解説する写真集。ファン必携の1冊。ソフトカバー、154ページ。21.5×28cm。



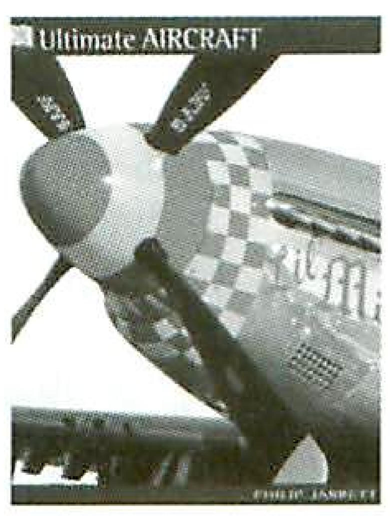
FLYING THE HUMP
IN ORIGINAL WORLD WAR 2 COLOR
商品番号：211-00730
税込価格：5,723円
第2次世界大戦初期、アメリカは孤立した中国を支援するため、ビルマからの航空補給作戦を展開した。これは補給作戦で活躍したカーチスC-46輸送機の、当時のカラー写真を多用して紹介する貴重な作戦記録集。ハードカバー、168ページ。25.3×26.3cm。



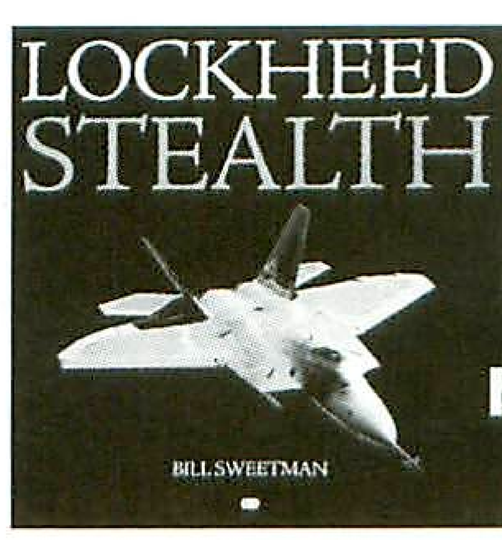
ENCYCLOPEDIA
OF MODERN U.S. MILITARY WEAPONS
商品番号：218-00199
税込価格：3,812円
現代のアメリカ陸、海、空軍、海兵隊、沿岸警備隊が使用している航空機、軍艦、戦車、ミサイル、爆弾、火砲、機雷、地雷など全ての兵器を分かりやすく解説した百科辞典。最新兵器ばかりでなく、ポピュラーで旧式なダグラスC-47輸送機のようなものも余さず網羅しているのが便利。ソフトカバー、496ページ。15.2×22.9cm。



FAST JET FIGHTERS
1948-1978
商品番号：211-01221
税込価格：4,767円
ブードゥー、ライトニング、スターファイター、サンダーチーフなどなど、第2次世界大戦後に登場した超音速ジェット戦闘機の数々を、カラー写真やイラスト、適切な解説で紹介したジェット戦闘機ファン向けのガイドブック。航空史研究家、モデラー、愛好家に魅力の写真満載。ソフトカバー、112ページ、カラー写真136点。21×27cm。



ULTIMATE AIRCRAFT
商品番号：211-01216
税込価格：4,767円
ライト兄弟の航空機からF-117ステルスファイターまで、航空機の発達をそれぞれの時代を代表する機体を紹介しながら解説する、ビジュアル主体の楽しい1冊。巻末には、航空機の開発と飛行機の発達に貢献したパイオニアたちのリストと簡単な解説がまとめられており、用語の解説も載っている。写真、イラスト、ポスターなども満載。ハードカバー、176ページ。23.7×28.7cm。



NEW!

LOCKHEED STEALTH
商品番号：211-01333
税込価格：5,723円
湾岸戦争で見せたF-117ステルス戦闘機の活躍は、航空機による攻撃の質を大きく変化させた。ロッキード・マーチン社が誇る『スカンクワークス』が世に出す機体は、現在では単に性能のみならず、レーダーに捉えられにくいステルス機が主流となっており、最近でも次世代戦闘機F-22ラプター、次世代共通攻撃戦闘機（ジョイント・ストライク・ファイターJSF）がその代表といえる。ロッキード・ステルス機のすべてを、鮮やかなカラー写真満載で紹介する1冊。ハードカバー、168ページ。26×26cm。



NEW!

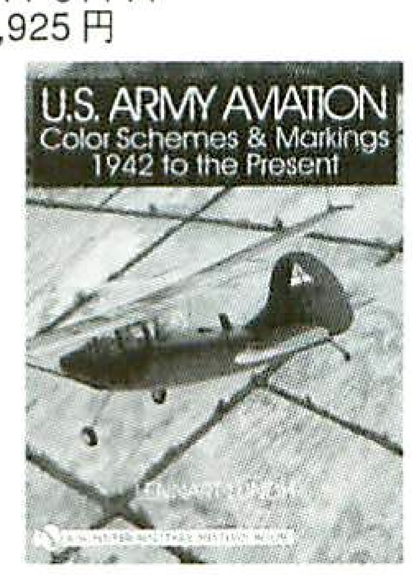
UNITED STATES ARMY AIR FORCES AIRPLANES
商品番号：211-01260
税込価格：1,712円
アメリカ陸軍航空隊が、第2次大戦中に味方航空機の識別用サンプルとして発行した、航空機シルエット・ハンドブックの復刻版。同航空隊が使用した航空機のうち代表的な48機種以上を、四面図と斜め前方からの図を組み合わせて特徴を示し、誰にも容易に識別できるようになっているのはさすがだ。コレクター向けの1冊。ソフトカバー、52ページ。21.6×28cm。

AIR COMMAND
商品番号：211-00006
税込価格：6,678円



米空軍が第2次大戦時に撮影した、貴重なカラー写真を大量に収蔵した貴重な1冊。練習機、戦闘機、爆撃機、輸送機、そしてグランドクルーの活き活きした生活感等々、昨日の出来事と錯覚させる様な仕上がりである。その鮮明さは現存機を再撮影したものとは全く異なる、説得力あふれるものとなっている。ハードカバー、カラー写真257点、176ページ。26×26cm。

U.S. ARMY AVIATION
COLOR SCHEMES & MARKINGS
1942 to the PRESENT
商品番号：211-01144
税込価格：8,925円



地味な存在ながらもアメリカ陸軍が第2次世界大戦以来、今日まで運用してきた連絡機や偵察機、練習機、特殊任務機などを網羅。形式、カラー、マーキングは実にさまざまで、なかなか資料も少ないが、その中にあってこの本は貴重な写真を多数ちりばめながら、実際のカラースキームやマーキングなどを系統的に解説している。モデラーにとっても研究者にとっても有難い参考書。ハードカバー、206ページ。22.3×28.7cm。

STRAIGHT UP
A HISTORY of VERTICAL FLIGHT
商品番号：211-01328
税込価格：5,723円



NEW!

航空機を垂直に離着陸させるためのアイデアを具現化しようと、世界中で発明家や研究者、軍、航空機メーカーや研究機関など、これまでどれほど多くの人とお金が費やされたことだろう。ヘリコプターのVTOL能力と飛行機の快速性能をドッキングさせたい願望は、今も昔も変わりがない。その歴史を、多くの貴重な写真やイラストから解説するVTOL開発史のエンサイクロペディア。ソフトカバー、184ページ。21.6×28cm。



WARBIRD TECH SERIES VOL.31
BOEING F/A-18 HORNET
商品番号：211-01310
税込価格：3,245円
軍用機に関する技術マニュアル、オーバーホール・ハンドブック、フライトクルーの意見などを抜粋した、航空機ファン、モデラー、歴史家向けシリーズの各1冊。ソフトカバー、104ページ、カラー・モノクロ写真125点。21.3×27.6cm。



WARBIRD TECH SERIES VOL.32
GRIFFON-POWERED SPITFIRES
商品番号：211-01311
税込価格：3,245円
軍用機に関する技術マニュアル、オーバーホール・ハンドブック、フライトクルーの意見などを抜粋した、航空機ファン、モデラー、歴史家向けシリーズの各1冊。ソフトカバー、104ページ、カラー・モノクロ写真125点。21.3×27.6cm。



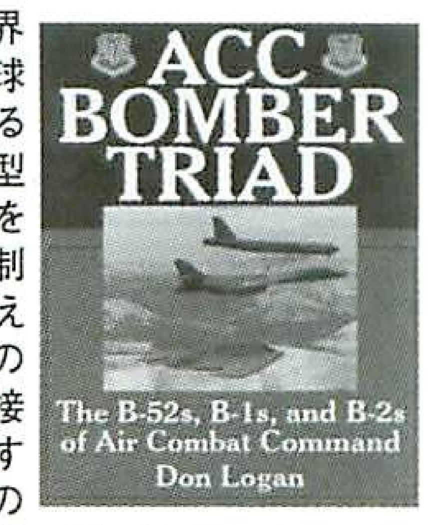
NEW!

MIKOYAN-GUREVICH MIG-15
THE SOVIET UNION'S LONG-LIVED KOREAN WAR FIGHTER
商品番号：211-01295
税込価格：5,723円
朝鮮戦争で出現したソ連のミグ15は、その恐るべき高性能を発揮し、それまで向かうところ敵なしと活躍していた連合軍の戦闘機や爆撃機部隊を震撼させた。この戦闘機の誕生から実用化、テスト、量産、改造、発達、実戦模様にいたるまでの詳細な記録を、これまで公表されたことのない珍しくも貴重な、おびただしい数の写真をまじえながら解説したMiG-15に関する資料の決定版。バリエーションや改造型、ソ連と東欧諸国、その他友好国向けに輸出され、あるいはライセンス生産されたモデルを含めて、その詳細が、シリアルや多数の三面図を用いて紹介されている。ソフトカバー、158ページ。21.6×286cm。

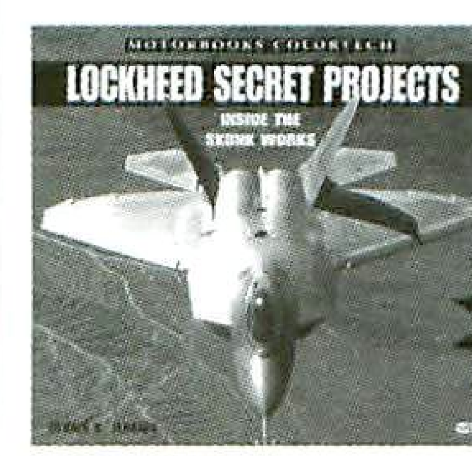
洋書

今月は戦闘機や大型輸送機など、貴重な本を大特集。ビッグ・セールも開催中で、気になる1冊は見つかるかな？

ACC BOMBER TRIAD
The B-52s, B-1s, and B-2s of AIR COMBAT COMMAND
商品番号：211-01100
税込価格：11,456円



米空軍は世界で唯一、地球上のいかなる場所へも大型戦略爆撃機を送りこめる体制と能力を備えている。ソ連の崩壊で、直接対決を想定するような当面の相手はなくなったが、ベテランのB-52、新鋭のB-1、そしてステルス爆撃機のB-2の三羽ガラスは驚異的な破壊力を持っている。米戦略空軍の組織変更により、ACC（航空戦闘軍団）の所属になったこれら爆撃機の全貌を、迫力ある写真とイラスト、詳細な解説で紹介する。ハードカバー、300ページ。22.2×28.6cm。



NEW!

LOCKHEED
SECRET PROJECTS
INSIDE THE SKUNK WORKS
商品番号：211-01317
税込価格：3,812円
ロッキードが誇る秘密プロジェクトチーム「スカンクワークス」。彼らが手がけた、数々の挑戦的な計画について解説した興味が尽きない貴重な1冊。F-22ラプターやF-117はもちろん、ケリー・ジョンソンが心血注いだYF-90やF-104、さらには常識はずれの高性能を実現させたU-2やSR-71、数々の実験機や試験機が写真とともに詳細に解説されている。ソフトカバー、カラー写真100点、モノクロ20点、126ページ。23×21cm。



NEW!

WALK AROUND No.28
F-15 EAGLE
商品番号：211-01323
税込価格：3,045円
ウォークアラウンドは1機種を徹底的にビジュアルリサーチするという、モデラーに好評なシリーズ。今回はF-15イーグルを取り上げ、機体外観全体はもちろん、動翼、降着装置、コクピット、武装に至るまで、外からみえる範囲の所は、全て写真またはイラストで示している。ソフトカバー、モノクロ写真約200点、カラー写真40点、80ページ。28×21cm。

人気過熱！
ミリタリー携帯ストラップ特集

発売開始から大好評のミリタリー携帯ストラップ。マスコット付きや流行のネックピースまでお好きなタイプを選んで使おう。

航空自衛隊
パイロット・ネームタグ
商品番号：861-00391SB
税込価格：1,500円
航空自衛隊のパイロットがフライトスーツやフライトジャケットに付けているのと同じ規格で作られた布製のネームタグ。好きな文字が刺繍できるのでキミだけのオリジナルとなる。刺繍できるのはアルファベットの大文字で12字まで。小文字や数字は不可。特別にオーダーするアイテムなので納期には3カ月以上かかる場合もあります。あらかじめご了承のうえ、お申し込み下さい。





ヘルメットバッグ
商品番号：866-00171YO
税込価格：6,615円
アメリカ軍が採用している航空ヘルメット用バッグ。内部はキルテイングとなっているので、大切なヘルメットを保護してくれる。内側にはポケット2カ所、外側にも大きなフラップ付ポケットがある。素材はナイロン製で、色はグリーンのみ。

航空自衛隊レザータグ
携帯ストラップ
空自の歴代航空機のイラストやスペックが描かれたレザータグの付いたストラップ。オモチャっぽいマスコットとは異なり、重厚な雰囲気あふれるアイテムだ。携帯電話はもちろん、エアバンなどのストラップとしても使えそう。タグサイズ：33×64mm／全長：190mm（ストラップ含む）。
税込価格：各893円



ストラップ／F-86F
商品番号：861-01090PW



ストラップ／T-33A
商品番号：861-01093PW



ストラップ／F-104J
商品番号：861-01088PW



ストラップ／T-4
商品番号：861-01091PW



ストラップ／T-2
商品番号：861-01092PW



ストラップ／F-4EJ改
商品番号：861-01103PW



ストラップ／F-86D
商品番号：861-01089PW



ストラップ／F-15J
商品番号：861-01085PW

在庫僅少



SHOEI航空ヘルメットFHG-5
商品番号：861-00148SE
税込価格：189,000円
ファン待望のショウエイ製航空ヘルメット。このFHG-5は主に警察や消防、海上保安庁で使用されているタイプ。色はホワイトで別売のオプション部品を取り付けることにより、海上自衛隊で使われているFHG－3型とそっくりになる。価格は本体価格でレシーバーは装備されていない。このヘルメットは航空機専用なので、オートバイなどには使用することはできません。ヘルメットサイズには大（頭囲59～61cm）、中（頭囲57～58cm）、小（頭囲56～54cm）があるので頭部にあったサイズが選べる。お買い上げの方にはヘルメットバッグをもれなくプレゼント。なお、完全受注生産のため、通常納期には3～4か月程度必要となりますが、現在、当店が前もって注文した商品がございますので、すぐにお届けすることができます。

自衛隊機携帯ストラップ

人気の携帯ストラップに航空自衛隊の人気機種のミニチュアがついたマニア必携のアイテム。ストラップ部分もセイフティフラッグを模しており、雰囲気もバツグン。ファンの間では大ブレイクしているストラップです。



携帯ストラップ／C-1
商品番号：861-00218DJ
税込価格：735円



携帯ストラップ／F-2
商品番号：861-00216DJ
税込価格：735円



携帯ストラップ／F-15J
商品番号：861-00297DJ
税込価格：735円



携帯ストラップ
T-4ブルーインパルス
商品番号：861-00298DJ
税込価格：735円



携帯ストラップ／RF-4EJ
商品番号：861-00217DJ
税込価格：735円

ワイヤー＆レザーストラップ

新世代感覚の携帯用ストラップ。オシャレなキミにピッタリのアイテムだぞ！
ワイヤーストラップ・サイズ：全長約130mm、ワンポイント・全長約25mm／レザーストラップ・サイズ：全長約145mm、ワンポイント・全長約25mm



<ワイヤーストラップ>
F-15J 航空自衛隊
商品番号：861-01165DJ
税込価格：735円



<ワイヤーストラップ>
ブルーインパルス 3世代
商品番号：861-01159DJ
税込価格：735円



<ワイヤーストラップ>
ブルーインパルス T-4
商品番号：861-01158DJ
税込価格：735円



<ワイヤーストラップ>
ブルーインパルス T-4（平面型）
商品番号：861-01157DJ
税込価格：735円



<レザーストラップ>
F-15J 航空自衛隊
商品番号：861-01154DJ
税込価格：840円



<レザーストラップ>
ブルーインパルス エンブレム
商品番号：861-01150DJ
税込価格：840円



<レザーストラップ>
ブルーインパルス T-4（平面型）
商品番号：861-01149DJ
税込価格：840円



<レザーストラップ>
ブルーインパルス 3世代
商品番号：861-01147DJ
税込価格：840円

T-4ブルー携帯ストラップ

ブルーインパルスファンなら絶対欲しいT-4のミニチュア付き携帯ストラップ。紐の色にピンクとブルーの2種類があるので、好きな方を選ぼう！　マスコットのサイズ：約3cm。



ストラップ／T-4ブルー
商品番号：861-00787KJ（ピンク紐）、861-00786KJ（ブルー紐）
税込価格：各525円

ブルインパイロット携帯ストラップ

オチャメなパイロットのマスコットのついた携帯ストラップ。ブルーインパルスのパイロットタイプで直結タイプと吊り下げタイプの2種類があり、ストラップの色もグリーンとブルーがあるので好きな方を選ぼう。でも誰がモデルかなんて詮索はしないこと！マスコットのサイズ：約3cm。



ストラップ／パイロット
（吊り下げ式）
商品番号：
861-00783KJ（グリーン紐）、
861-00782KJ（ブルー紐）
税込価格：各473円



ストラップ／パイロット（直結式）
商品番号：
861-00785KJ（グリーン紐）、
861-00784KJ（ブルー紐）
税込価格：各473円

お申込み方法の詳細は、とじ込みの注文用紙の裏をご覧下さい。

クレジットカードが使えます！
DC、JCB、VISA、MASTERのカードが使えます。詳細は、とじ込みの注文用紙の裏を御覧下さい。

代引注文ができます！
宅急便コレクトサービス（代引配送）をご利用いただけます。FAXで申し込んでいただき、商品到着時に現金でお支払い下さい。宅急便コレクトサービスの配送料は1回1000円です。
（北海道・沖縄は1200円）

送料は一律800円です
これまで、商品ごとに送料があり、合計の金額がいくら超えても最高2000円というシステムでしたが、北海道・沖縄を除く全国どこからお申込みいただいても一律800円です。（北海道、沖縄は1000円）
ただし、一度にたくさん注文された場合で、そのうちのいくつかの商品の在庫がなくなった場合は、一度にお送りできないので、後日、2回目の発送を致します。できるだけそのようなことがないように細心の注意をはらっておりますが、それでもメーカーの都合などにより注文した商品をお送りできないことがあるかもしれません。その場合は、恐縮ですが、返金させていただきますので御了承下さい。

和書の送料は1冊につき400円です！
和書に限り（洋書は除く）、1冊注文された場合は送料は400円となります。2冊以上ご注文された場合は、800円となり、それ以上も他の商品と同様800円となりますのでご注意下さい。

★★★インターネットでオンライン注文（代引き限定）が出来るようになりました！
詳しくは、のりもの倶楽部WebShop
http://www.ikaros.co.jp/shop/
をご覧下さい。

月刊 **AIRLINE** のイカロス出版主催

全国初の認定講習会

第1回・2回受講生 **100%合格!!**

航空無線通信士 認定養成講習会

プロ・パイロット必携のライセンス

締め切り迫る！ 第3回開講！

イカロスの航空無線通信士認定養成講習会のメリット

第2回受講生のみなさんも全員合格！



本年度から航大入学予定者は学科課程での資格取得ができなくなり、自力で国家資格を取得しなければならなくなりました。また一般の事業用パイロット希望者や無線技術のステップアップを目指す人たちも皆、この資格を取得するには、合格率3割弱という難関試験を突破するしか道はありませんでした。そこで、イカロスでは「航空特殊無線技士認定会」における長年の経験を生かし、今年2月、日本初の「航空無線通信士認定養成講習会」を開催し、大反響をいただきました。経験豊富な講師陣のきめの細かい講義により、受講生全員が「航空無線通信士」の国家資格を取得できたのは、認定講習会だからこその成果です。通信士資格の取得を目指している方、今まで国家試験で苦手科目の克服が難しかった方、ぜひこの機会に認定養成講習会を利用し、最短かつ確実な資格取得を目指してください。

1. 最大の利点は、国家試験を待たずに免許取得ができる点にあります。
2. 試験範囲がこの講座で使用される教材に限定されるので、勉強しやすいのが魅力です。
3. 経験豊富な講師による的確な指導により、独学では決して得られない知識の習得が可能です。
4. 講習会を通して交流の輪が広がり、貴重な経験が出来たと好評です。

受講期間：第3回認定養成講習会
／平成14年 2月4日(月)～ 2月23日(土)（予定）
時　間：10:00～18:00（予定）（講義時間およそ100時間）
受講料：28万8千円（入会金1万5千円＋受講料27万3千円）
（弊社スクール参加者は入会金無料）
（日程および詳細は変更される可能性がありますので、必ずお問合せの上お申し込みください。）



「航空無線通信士第3期生 来たれ!」

（財）日本無線協会　養成課程部 部長　瀧本 誠

イカロス・アカデミーでは、10月に引き続き平成14年2月、第3期生の航空無線通信士認定養成講習会を行ないます。

第1期、2期受講された方は、全員合格（100%）され、航空無線通信士のライセンスを手にされました。このような好結果の要因は、次のことが挙げられるのではないかと考えています。

1. 受講された方々が目的意識を持ち続けられたこと（パイロット・管制官になりたい等）。
2. 定評あるイカロス・アカデミーの航空関連教育内容と、抜群の合格率を維持するための受講生に対するサポート。
3. 経験と知識を有する講師の熱意と受講生との真剣勝負（質疑応答など）の結果。

参考までに、平成13年8月期の航空無線通信士国家試験での合格率は27%（614名中168名）となっています。是非この機会に、あなたも大空への夢に挑戦してみませんか。

詳しくは、電話またはハガキでお問合せください

お問合せ先
イカロス・アカデミー「無線講習」係
e-mailアドレス jukenkouza@ikaros.co.jp

〒162-8616 東京都新宿区神楽坂3-2 神楽坂Kビル
TEL 03-3267-2859　FAX 03-3267-2738
ホームページアドレス http://www.ikaros.co.jp/

業界研究に欠かせない1冊

業界就職シリーズ 2003年度版

希望の企業に就職するための企業研究や採用情報、先輩たちのアドバイスなどを1冊にまとめた完全ガイド。最新の採用事情、企業データ、就職に直結したスクールなど情報満載。

2002年1月下旬　3誌同時発売

全国の書店で開催される「進学・就職フェア」にて販売！

＊フェアを実施しない書店もありますので、詳しくは書店におたずね下さい。

航空業界就職ガイドブック 2003

エアライン・ビジネスに求められるものは？

B5判　定価1600円（税込）

旅行業界就職ガイドブック 2003

業界が求めるのは“新しい才能”

B5判　定価1600円（税込）

鉄道業界就職ガイドブック 2003

鉄道業界が求める人材は？

B5判　定価1600円（税込）

好評発売中

空港で働く仕事ガイド

A5判　定価1890円（税込）

空港で働きたい人に贈る「空港の仕事ガイド」決定版！

「どんな仕事があるの？」から「どうやってなるの？」まで空港の仕事を徹底リサーチ
航空会社・関連企業約120社データ公開

紹介職種

グランドスタッフ・航空管制官・ディスパッチャー・マーシャラー・入国審査官・公務員・貨物関　ほか





外資系企業就職ガイドブック2003

B5判　定価1600円（税込）

**ここで働きたい！
外資系企業のオフィス大公開**

- 外資系の採用方法、徹底分析
- 外資系への就職
  成功の秘訣は“人材のプロを大活用！”ほか

付　録／資格・検定リスト
データ／外資系企業一覧、外資系企業に強い人材派遣および紹介会社

お求めは全国の書店で。ない場合は書店に注文するか、直接弊社まで現金書留、郵便振替にて送料を添えてご送金下さい。送料は冊数に関係なく1回のご注文につき300円です。

郵便振替00100-1-62696　http://www.ikaros.jp/
TEL:03-3267-2766　イカロス出版販売部

イカロス出版の図書・刊行物ご案内

フライトジャケット完全読本
フライトジャケットバイブル



フライトジャケットをめぐる歴史、背景、コラムから着こなし術、メンテナンス、カタログ、ショップリスト、パッチとの関係など、フライトジャケットを愛するすべてのマニアからいまどきの人に捧げる1冊。

A5判　定価1,575円

この1冊でミリタリーの世界が広がる
軍用機知識のABC・改訂版



戦闘機から輸送機まで、発達の歴史、運用、ミッション、オペレーション、軍用航空無線まで、豊富な図解と写真で網羅。巻頭カラーには現代の軍用機を紹介。

B5変型　定価2,345円

パイロットライセンス入門ガイド
ヘリコプター＆軽飛行機操縦士ライセンス入門2001～2002



人気の高い「航空留学」の海外フライトスクール現地レポートを始め、ヘリコプター＆軽飛行機の操縦士ライセンスの種類や取得方法を詳解。海外・国内の全42校のフライトスクールガイド付。

A4変型　定価1,890円

わが国唯一の総合ヘリコプター年鑑
ヘリワールド2002



日本国内のヘリカタログ・オールカラー化で保存性、資料性がよりアップ。消防ヘリなど様々なヘリパイロットの現況などもレポートし、業界、ヘリコプターファン必携の一冊。

AB判　定価3,000円

国内格安旅行を実現
国内旅行を安くする！おトクなきっぷトラベルガイド2001



新幹線、JR各社から私鉄、地域バス、フェリーまで『おトクなきっぷ』のフル活用で国内旅行を徹底的にディスカウント。エリア別、観光＆鉄道名所ガイド付。

神戸寧彦／著

A6判　定価1,600円

現用の戦闘／攻撃／爆撃機集中収録
戦闘機年鑑2001-2002



好評の改訂版。現在世界で活躍している戦闘・攻撃・爆撃機約130機種を固定翼・回転翼に分けて精密解説。前編青木謙知氏が執筆。巻末にはエンジンリスト、搭載ミサイルリストを収録。便利な略語表も掲載。

AB判　定価2,800円

【マニアの王道シリーズ】
戦闘機がよくわかる本



戦闘機のことがもっと知りたい、詳しくなりたい人のためにミッションから運用のしくみまで、戦闘機の基礎知識を完全網羅。

B6判　定価1,680円

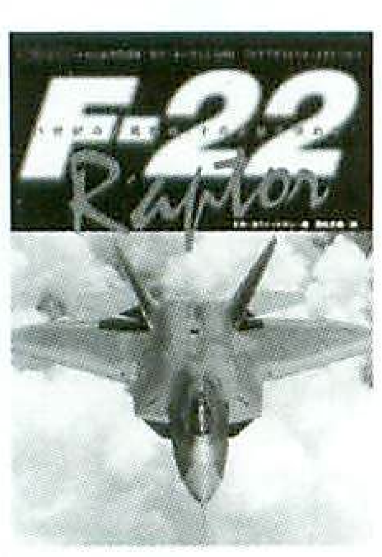
誰もが気になる女性自衛官の真実！
がんばれ女性自衛官



迷彩の天使が誕生するまでの教育過程をはじめ、半年にわたる実習幹部の遠洋航海など、陸・海・空自衛隊で活躍する女性自衛官の魅力を余すところなく伝える1冊。

A4変型　定価2,100円

21世紀の超戦闘機の全貌
F-22 RAPTOR



世界最高峰の軍事ライター、ビル・スウィートマン著。スーパークルーズとは何か？ステルス性に潜む弱点を克服、戦闘シミュレーションの研究、開発秘話まで。

B5判　定価2,800円

【マニアの王道シリーズ】
PCフライトシミュレータの基礎知識



PCフライトシミュレータとはどういうものか、パソコンは何を選んだらよいか、ソフトは何がよいか、上達の秘訣は？などを紹介した本格的入門ガイド。

B6判　定価1,680円

サクセスシリーズ⑥
航空管制官になる本



航空管制官、管制情報官、管制技術官などの仕事をわかりやすく紹介し、航空保安大学校に入学するための資格や試験、学校生活、訓練などまでくわしくガイド。

A5判　定価1,680円

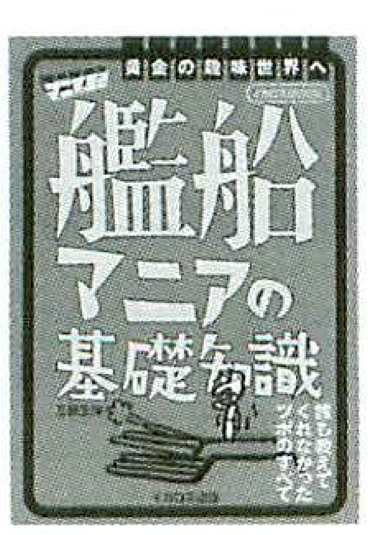
サクセスシリーズ⑰
自衛隊パイロットになる本



戦闘機から哨戒機、ヘリコプターまで、陸海空の自衛隊パイロットになるためのノウハウと仕事内容を徹底ガイド。また、航空機関連の職種まで網羅。

A5判　定価1,680円

【マニアの王道シリーズ】
艦船マニアの基礎知識



海戦と軍艦の発達、第二次世界大戦の艦船兵器、大戦後の海戦と推進機関の進歩、現代の軍艦の艦種、現代の艦載兵器、海上自衛隊の現状と問題点、世界の海軍博物館と展示軍艦−生きている軍艦を見るにはまで。

B6判　定価1,890円

【マニアの王道シリーズ】
戦車マニアの基礎知識



戦車の誕生と発達の歴史、戦車の構造と兵装、戦車の操縦法、機甲部隊の編成、装甲戦闘車両、戦車部隊などガイド。

B6判　定価1,631円

【マニアの王道シリーズ】
軍用機マニアの常識



軍用機飛行の常識、軍の常識、装備の常識ほか軍用機マニアならではの知識が満載。

B6判　定価1,631円

【マニアの王道シリーズ】
軍用機マニアの基礎知識



軍用機の種類、軍用機メーカー、名前の覚え方、軍用機の運用者と部隊・飛行機、シリアルナンバー、性能と任務、軍用飛行場ウォッチングの基礎、その他の楽しみ方まで。

B6判　定価1,631円

好評受付中！　http://www.ikaros.jp/

イカロス出版の図書・刊行物ご案内

ロック岩崎の魅力が凝縮

AIRock BOOK



日本のアクロバット飛行の第一人者、ロック岩崎の活躍をまんがを中心に写真やインタビューで構成。

(直) B5判 定価1,000円

行動派に役立つJウイング印の本

日本で見られる 戦車ガイド



陸上自衛隊の戦闘車両の各型式、戦闘車両ウオッチング・アドバイス、戦闘車両配置マップを完全ガイド。陸上自衛隊の戦闘車両を見分けるためのベーシックデータ集。

A5判 定価1,260円

行動派に役立つJウイング印の本

日本で見られる 艦船ガイド



海上自衛隊、海上保安庁の艦船の各型式、艦船ウオッチング・アドバイス、艦船配属マップを完全ガイド。海上自衛隊の艦艇と海上保安庁の船舶を見分けるためのベーシック・データ集。

A5判 定価1,260円

旅行ファン、鉄道ファン必携

青春18きっぷ パーフェクトガイド 2001-2002



誰が乗っても、どこまで行っても、たったの2300円。日本全国、JR全線がまる一日乗り放題のスーパーチケット「青春18きっぷ」100%活用ガイドの決定版。

B6判 定価1,470円 神戸寧彦／著

民間機を襲った事件の記録と検証

航空テロ



民間航空初期のテロ行為から、ハイジャック、撃墜、強制着陸など、1930年から現在までに旅客機に企てられた航空犯罪を網羅。

デイビッド・ゲロー／著 B5上製本 定価3990円(〒300円)

航空機誕生からグラスコクピットまで網羅

コクピット変遷史



ライト兄弟のフライヤー1号から、現在に至るまでの軍用機、民間機のコクピットの変遷を詳細に紹介した世界でも希少の1冊。

L.F.E.Coombs／著 B5上製本 定価4200円(〒300円)

世界一の記録集

航空ギネスブック 日本語版



航空界のあらゆる分野の世界記録が勢揃い。ギネスブックならではの多くの貴重な写真、歴史的な写真を幅広く収集。

デビッド・マンデイ他 著 B5上製本 定価3,675円(〒300円)

日本で初めての航空事故記録集

航空事故 増改訂版



約300件の世界の重大事故を写真と詳細なレポートで解説。'97年2月発生の航空事故まで収録。

デイビッドゲロー著 B5上製本 定価5,040円(〒300円)

パイロット・管制官受験対策問題集

パイロット・管制官 入試問題集 2001~2002



パイロット・管制官志望者のために採用ソース別受験ガイドと試験の傾向と対策を紹介。最新既出問題の解答&解説および過去既出問題の解答&解説を併記し、受験対策に備える。

B5判 定価4,500円

艦艇をおもしろくする海のバラエティー・マガジン

Jシップス Vol.5 サマースペシャル号



各地方隊の艦艇イベントを大特集。普段は見られない地方隊所属外の艦艇もしっかりキャッチ。艦艇ウオッチングの情報が満載の一冊。とじ込み付録／海上自衛隊ダイレクトリー(A5判)付き。

A4変型 特別定価950円

艦艇をおもしろくする海のバラエティー・マガジン

Jシップス



Vol.3　空母キティホークの艦内施設を誌上初公開。インド国際観艦式の詳細レポートやそこに招かれた護衛艦「あまぎり」を現地取材。

Vol.4　護衛艦「いかづち」潜水艦「まきしお」掃海艇「なおしま」の新造艦特集。フランスの原子力空母「シャルル・ドゴール」の現地レポートも。

A4変型 定価各1,200円

艦艇をおもしろくする海のバラエティー・マガジン

Jシップス



Vol.1　第7艦隊を徹底的にレポート。輸送艦「おおすみ」から横須賀周辺ガイドまで。貴重な創刊号。

Vol.2　艦艇ファン必見「観艦式2000」の大特集。護衛艦「むらさめ」や日本最大の軍港として、歴史が残る呉の徹底ガイド。

A4変型 定価各1,200円

●本の定価は全て税込み、送料は特に表示のない限り、冊数にかかわらず1回のご注文につき300円です。
●本のお求めは全国の書店で。ない場合は書店に注文するか、直接小社まで現金書留、郵便振替にて送料を加えた合計金額をご送金ください。(綴じ込みの青い郵便振替用紙もご利用できます。)ご入金確認次第、商品の発送を致します。
●代引きサービスもございます。(ただし、発送手数料1回につき800円)
ご希望の場合はFAXで「代引きサービス希望」と明記の上、お申し込みください。
FAX番号：03(3267)2772
●いずれの場合も商品名、ご氏名、ご住所、電話番号をご記入ください。
※弊社ショップ「のりもの倶楽部」店頭でもお買い求めできます。
●(直)は直接小社へお申し込みください。

■お申し込み・お問い合わせは
〒162-8616 東京都新宿区神楽坂3-2神楽坂Kビル
☎03(3267)2766　郵便振替／00100-1-62696
イカロス出版販売部

【マニアの王道シリーズ】

飛行機プラモマニアの基礎知識



飛行機模型へのアプローチ、飛行機分類とスケール研究、製作テクニック、ビギナー向け推奨キットの紹介、各種アイテム、プラモ用語解説ほか。

B6判 定価1,680円

【マニアの王道 趣味のカタログシリーズ】

名機250選



ライトフライヤーから、リンドバーグのスピリットオブセントルイス、零戦、ファントム、そしてトリプルセブン、F-2まで、主要名機のすべてを収録。

B6判 定価1,890円

イカロス出版のホームページでインターネット通販、

Jウイング2月号
No.42
2002年2月1日発行

JWings 次号予告

(予告の内容は変更されることもあります)

なお、地方の場合は下記発売日より発売が遅れる場合もあります。

Jウイング3月号は1月21日(月)発売です!

実は…

今月は最初にお詫びです。前号の「次号予告」で告知した**「突撃!航空自衛隊②新田原基地/飛行教導隊」**ですが、一部の取材が延期となり、今月号に間に合わせることができませんでした。ごめんなさいっ!飛行教導隊の特集は、**2月21日発売の4月号でお届けします!**

そして次号はっ!?

まずっ! 三沢のF-2 これが最初の飛行始め!!

1月、自衛隊は新しい年を「訓練始め」でスタートする。航空機部隊は「飛行始め」、陸上部隊は「訓練始め」と、呼び方はさまざまだが、ようするに新年最初の訓練で、これからの1年が始まるのである。部隊によっては編隊飛行して最寄りの神社などに参拝し、今年1年の安全祈願をしたりする。今年はなんと三沢のF-2も初めて登場するっ!次号ではこの「飛行始め」、間に合う限りのレポートをお届けしたいっ!

そして!

今年はパワー全開でお願いするよっ! 2002年ブルーインパルス冬季訓練

今月号の「2001年2大ニュース」でもご紹介したブルーインパルス。今、2002年の展示飛行に向け冬季トレーニングを続けている。そんなブルーの訓練の様子を、航空自衛隊松島基地の氷点下のエプロンからお届けしよう。2001年はテロの影響で航空祭が中止になってしまい、思う存分活躍する姿を見ることのできなかったブルーインパルスだが、2002年こそはブルーの年だ!気合いの入った訓練シーンをたっぷりお届けしよう!

さらに!

21世紀の空で勝つのはだれだ!?F-35、F-2… 次世代を担う世界の最新戦闘機特集

JSFの勝敗も決まり、いよいよ21世紀を担う戦闘機・攻撃機の顔ぶれが揃った。次号は、世界各国でこれから活躍していく最強の戦闘機たちの現況を最新情報と最新画像で紹介しよう。、米国のロッキードF-35の全貌を皮切りに、日本のF-2、米空軍F-22ラプター、米海軍F/A-18E/Fスーパーホーネット、ユーロファイタータイフーン、スウェーデンのJASグリペン、フランスのラファール…久しぶりに世界の最強戦闘機たちが勢揃いするぞっ!

最後に、今月のお願い。

もうすぐ楽しいお正月。お正月といえば、年賀状。年賀状といえばオリジナル・ポストカード!そうです、毎年編集部には読者のみなさんの傑作写真年賀状がたくさん届きます。次号も、そんな力作年賀状を誌上でどーんとご紹介しちゃいます!みなさん、編集部あてにどんどん作品を送ってくださぁ〜い!待ってます!

送り先:〒162-8616 新宿区神楽坂3-2神楽坂Kビル イカロス出版㈱ Jウイング編集部

では次号でまた、お会いしましょう!

編集長
尾崎清子
編集
笛木 聡
浅井太輔
スタッフライター
坪田敦史
特約カメラマン
伊藤久巳
編集協力
田村紀雄
ADコーディネーター
日下部由実
本文デザイン
添田正典(Beach)
藤原未奈子(Beach)
瀬川あずさ(Beach)
岡本健(COLUMBUS)
山田美保子(ワークス山田)
村上千津子
倉島真弓
千野ますみ

発行人
塩谷茂代
発行所
イカロス出版株式会社
〒162-8616
東京都新宿区神楽坂
3-2 神楽坂Kビル
(編集部)
TEL03-3267-2734
FAX03-3266-0639
(広告部)
TEL03-3267-2716
FAX03-3267-2603
(販売部)
TEL03-3267-2766

Ikaros Publications, Ltd.
Kagurazaka KBldg.
Kagurazaka 3-2
Shinjuku-ku Tokyo
162-8616 Japan
TEL03-3267-2734(Editor)
FAX03-3266-0639
E-mail
jwings@netlaputa.ne.jp

特別定価1300円 本体1238円 雑誌15175-02 Printed in Japan

T1115175021305

平成13年12月18日

掲載誌発送について

前略

平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

このたびはお忙しいところ、Ｊウイングにご協力いただき誠にありがとうございました。おかげさまを持ちましてＪウイング2月号が発売の運びとなりました。ご高覧いただければ幸いです。

今回のご協力に感謝いたしますとともに、今後もますますのご支援を賜りますよう、よろしくお願い致します。

草々

イカロス出版（株）Ｊウイング編集部

編集長　尾崎清子

東京都新宿区神楽坂3-2　Ｋビル

Tel：03-3267-2734　Fax:03-3266-0639